



足立区

第54回 足立区政に関する世論調査

2025(令和7)年8月実施

定住性／大震災などの災害への備え／洪水対策／区の情報発信のあり方／
健康／スポーツ・読書／ビューティフル・ウィンドウズ運動／環境・地域活動／
「孤立ゼロプロジェクト」など／「SDGs」・「協働・協創」／区での取り組み

足立区 政策経営部 区政情報課

令和8年3月 発行

はじめに

令和7年8月、区民の皆様3千人を対象に実施した区政に関する世論調査の報告書がまとまりました。調査を通じて寄せられた貴重なご意見は、これからの足立区を創るための大切な道しるべとなります。お忙しい中、ご回答いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

調査の結果、足立区の区政全般について「満足・やや満足」と回答された方が8割を超え、過去最高の評価をいただきました。また、地域の暮らしやすさについても、「暮らしやすい・どちらかといえば暮らしやすい」と回答された方が86.9%と、過去最高を更新しております。こうしたポジティブな変化は、足立区を愛し、日頃から地域活動や環境美化に主体的に関わってくださっている区民の皆様のお力添えが形となったものであり、大変心強く感じます。

一方で、私も含め職員一同、心に留めなければならないのは、「区政満足度」はあくまでも結果であって、数値に一喜一憂しているばかりでは、施策や事業の正しい方向性を見失いかねないということです。自転車マナーの向上や災害に備えた家庭での備蓄など、克服すべき課題も明確になりました。調査結果を丁寧に分析し、区政の土台づくりに大切に活かしてまいります。

区の基本計画の理念である「やりたいことが叶うまち」「区民のウェルビーイングの向上」の実現に向けて、足立区は区民の皆様と共に一歩ずつ着実に前進してまいります。今後とも、区政への変わらぬご理解と引き続きのご協力をお願い申し上げます。

令和8年3月

足立区長 近藤 やよい

目 次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的	3
2 調査の内容	3
3 調査の設計	3
4 調査地域	4
5 調査方法	5
6 回収結果	5
7 報告書の見方	7
8 回答者の構成	10
第2章 調査結果の要約	15
1 定住性	17
2 大震災などの災害への備え	18
3 洪水対策	19
4 区の情報発信のあり方	20
5 健康	21
6 スポーツ・読書	22
7 ビューティフル・ウィンドウズ運動	23
8 環境・地域活動	24
9 「孤立ゼロプロジェクト」など	25
10 「SDGs」・「協働・協創」	27
11 区の取り組み	28
第3章 調査結果の分析	37
1 定住性	39
（1）居住地域の評価	41
（2）地域の暮らしやすさ	68
（3）特に暮らしにくいと感じること	74
（4）定住意向	78
2 大震災などの災害への備え	85
（1）備蓄や防災用具などの用意	87
（2）備蓄や防災用具、買い置きなどの内容	91
（3）備蓄量	96
（4）地域の3種の避難場所とその意味の認知	105
（5）大規模災害時の避難生活場所	114
3 洪水対策	117
（1）「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知	119
（2）河川はん濫時の避難場所	123
（3）河川はん濫時の避難場所を決めていない理由	127
4 区の情報発信のあり方	129

(1) 区の情報の入手手段	131
(2) 必要なときに必要とする区の情報の入手状況	137
(3) 区の情報が得られていない理由	139
5 健康	141
(1) 区のキャッチフレーズの認知状況	143
(2) 野菜から食べ始めることの実践状況	145
(3) 1日の野菜350g以上の摂取	147
(4) 自身の健康状態について	149
(5) 体調や習慣	151
(6) 医療必要時にかかりたいと思う身近な医療機関の有無	154
(7) 健康維持のために実行している、心がけているもの	156
(8) がん検診の受診状況と受けたがん検診の種類	158
(9) かかりつけ歯科医院の有無と治療のほかに受けている内容	160
(10) 感染症予防としての手洗いの実践状況	162
(11) 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況	164
6 スポーツ・読書	167
(1) 日常的に行っている運動・スポーツの有無と実施状況	169
(2) 継続的に実施している運動・スポーツ	171
(3) 運動・スポーツを最も多く行っている場所	175
(4) 運動・スポーツを行うためのきっかけ	178
(5) 過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動	181
(6) 運動・スポーツを支える活動をしなかった理由	182
(7) 読書に関わる行動状況	184
(8) 読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由	187
7 ビューティフル・ウィンドウズ運動	191
(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況	193
(2) 居住地域の治安状況	196
(3) 居住地域の治安が良いと感じる点	201
(4) 居住地域の治安が悪いと感じる点	204
(5) 治安対策として区に力を入れてほしいこと	208
8 環境・地域活動	213
(1) 環境のために心がけていること	215
(2) 環境への影響を考えた日頃からの行動の有無	220
(3) 町会・自治会の加入や活動	222
(4) 町会・自治会に加入していない理由	231
(5) この1年間に参加した活動と、引き続き、または今後参加したい活動	233
(6) 居住地域のごみと資源の収集日の認知状況	239
9 「孤立ゼロプロジェクト」など	241
(1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況	243
(2) 地域包括支援センター、及び業務内容の認知	246
(3) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向	250

(4) 「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況	253
(5) 「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況	256
(6) 仕事と仕事以外の生活の調和	258
(7) 「福祉まるごと相談課」の認知	261
(8) 「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況	263
10 「SDGs」・「協働・協創」	267
(1) SDGsの認知状況	269
(2) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価	271
(3) 家族以外の人や地域と関わる自主的な取り組み・活動意向	273
11 区の取り組み	275
(1) 区に対する気持ち	277
(2) 区に対する気持ち（愛着、誇り、人に勧める）の具体的な内容（自由回答）	308
(3) 区を良いまちにするための行動	320
(4) 区の取り組みで満足している分野	324
(5) 区の取り組みで不満の分野	328
(6) 区の取り組み（分野）に対する評価（【満足割合】－【不満割合】）	331
(7) 区政に対する満足度	347
(8) 今後特に力を入れてほしい取り組み分野	350
(9) 区政への区民意見の反映度	353
(10) 区政についてのご意見、ご要望	357
(11) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度	365
第4章 使用した調査票	367

第 1 章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、区政の各分野について区民の生活実態、意識や意向、意見や要望などを把握し、これを今後の区政運営に反映させることを目的として実施する。

2 調査の内容

今回の調査では11項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 大震災などの災害への備え
- (3) 洪水対策
- (4) 区の情報発信のあり方
- (5) 健康
- (6) スポーツ・読書
- (7) ビューティフル・ウィンドウズ運動
- (8) 環境・地域活動
- (9) 「孤立ゼロプロジェクト」など
- (10) 「SDGs」・「協働・協創」
- (11) 区の取り組み

3 調査の設計

(1) 調査地域	足立区全域
(2) 調査対象	足立区在住の満18歳以上の男女個人
(3) 標本数	3,000サンプル（人）
(4) 調査対象者の抽出	足立区住民基本台帳より単純無作為抽出法
(5) 調査期間	令和7年8月12日（火）～9月5日（金）
(6) 調査機関	（株）サーベイリサーチセンター

4 調査地域

図1 地域区分図

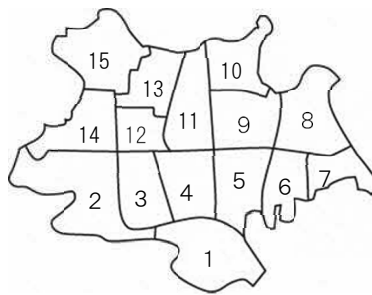


表1 調査地域－町丁目対応表

地域名	地 区 町 丁 目 名
第1地域	千住関屋町、千住曙町、千住東一丁目～二丁目、千住旭町、柳原一丁目～二丁目、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町一丁目～三丁目、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木一丁目～二丁目、千住一丁目～五丁目、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町
第2地域	小台一丁目～二丁目、宮城一丁目～二丁目、新田一丁目～三丁目、鹿浜一丁目、堀之内一丁目～二丁目、椿一丁目、江北一丁目～五丁目、扇二丁目
第3地域	西新井本町一丁目～五丁目、扇一丁目、扇三丁目、興野一丁目～二丁目、本木一丁目～二丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町
第4地域	西新井栄町一丁目～三丁目、関原一丁目～三丁目、梅田一丁目～八丁目、梅島一丁目～三丁目
第5地域	足立一丁目～四丁目、西綾瀬一丁目～四丁目、中央本町一丁目～五丁目、弘道一丁目～二丁目、青井一丁目～六丁目
第6地域	加平一丁目、綾瀬一丁目～七丁目、東綾瀬一丁目～三丁目、谷中一丁目～二丁目
第7地域	東和一丁目～五丁目、中川一丁目～五丁目
第8地域	大谷田一丁目～五丁目、佐野一丁目～二丁目、辰沼一丁目～二丁目、六木一丁目～四丁目、神明一丁目～三丁目、神明南一丁目～二丁目、北加平町、加平二丁目～三丁目、谷中三丁目～五丁目
第9地域	西加平一丁目～二丁目、六町一丁目～四丁目、一ツ家一丁目～四丁目、保塚町、東六月町、平野一丁目～三丁目、保木間一丁目～二丁目、南花畑一丁目～三丁目、東保木間一丁目～二丁目
第10地域	花畑一丁目～八丁目、南花畑四丁目～五丁目、保木間三丁目～五丁目
第11地域	西保木間一丁目～四丁目、竹の塚一丁目～七丁目、六月一丁目～三丁目、島根一丁目～四丁目、栗原一丁目～二丁目
第12地域	西新井一丁目～七丁目、栗原三丁目～四丁目
第13地域	西伊興町、西伊興一丁目～四丁目、伊興一丁目～五丁目、西竹の塚一丁目～二丁目、東伊興一丁目～四丁目、伊興本町一丁目～二丁目
第14地域	谷在家一丁目～三丁目、鹿浜二丁目～八丁目、椿二丁目、江北六丁目～七丁目、加賀一丁目～二丁目、皿沼一丁目～三丁目
第15地域	舎人一丁目～六丁目、入谷一丁目～九丁目、古千谷一丁目～二丁目、古千谷本町一丁目～四丁目、入谷町、舎人町、舎人公園

5 調査方法

- (1) 調査方法 郵送配付、郵送またはインターネットによる回答
(依頼状、お礼状ともに1回)
- (2) 調査票 第4章の調査票を使用

6 回収結果

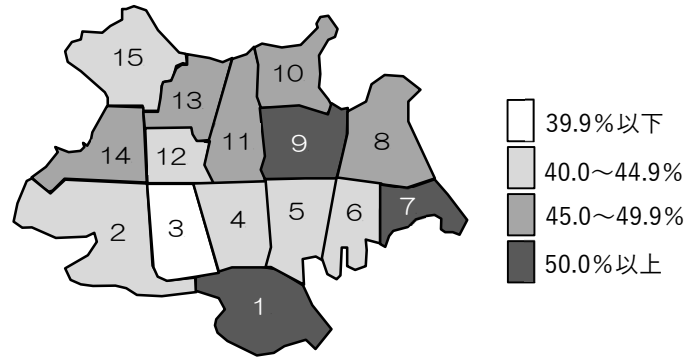
- (1) 標本数 3,000人
- (2) 有効回収数 1,375票 有効回収率 45.8%
○回答方法別
 (郵送 918票 構成比 66.8%)
 (オンライン 457票 構成比 33.2%)
- (3) 回収不能数 1,625票 回収不能率 54.2%
- (4) 地域別回収結果

表2 地域別回収結果

地域名	18歳以上人口	構成比	標本数	有効回収数	有効回収率
区 全 体	613,018人	100.0%	3,000人	1,375票	45.8%
第 1 地 域	69,660	11.4	339	170	50.1
第 2 地 域	43,038	7.0	211	91	43.1
第 3 地 域	36,879	6.0	181	71	39.2
第 4 地 域	52,760	8.6	259	113	43.6
第 5 地 域	54,967	9.0	269	120	44.6
第 6 地 域	41,325	6.7	203	91	44.8
第 7 地 域	29,552	4.8	145	80	55.2
第 8 地 域	48,592	7.9	238	107	45.0
第 9 地 域	42,769	7.0	210	105	50.0
第10地域	27,807	4.5	136	62	45.6
第11地域	49,700	8.1	244	112	45.9
第12地域	25,271	4.1	123	53	43.1
第13地域	30,352	5.0	149	67	45.0
第14地域	32,291	5.3	158	74	46.8
第15地域	28,055	4.6	135	58	43.0

(18歳以上人口は令和7年7月4日現在)

図2 地域別有効回収率分布図



第1章 調査の概要

(5) 性別・年代別回収結果

表3 性別・年代別回収結果

年代	標本数 (男性)	有効回収数	有効回収率	標本数 (女性)	有効回収数	有効回収率
計	1,492人	602票	40.3%	1,508人	764票	50.7%
18～29歳	239	39	16.3	261	74	28.4
30 代	217	56	25.8	191	91	47.6
40 代	268	94	35.1	187	95	50.8
50 代	277	135	48.7	267	142	53.2
60 代	207	102	49.3	190	127	66.8
70歳以上	284	176	62.0	412	235	57.0

(注) 表中に触れていない有効回収数として、性別を「答えたくない」と回答した方が9人いる。

7 報告書の見方

- (1) 回答の比率(%)はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入した。そのため、百分比の合計が100%に満たない、または上回ることがある。
- (2) 問1の〈居住地域の評価〉における【そう思う(計)】のように、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」等の2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用しているため、グラフ又は数値表に表記された単純集計値(一選択肢の値)の合計とは異なる場合がある。
- (3) 複数回答の設問は、各選択肢を1つだけでなく、2つ以上選択するため、各選択肢の合計数字が100%を超える場合がある。
- (4) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (5) 集計は、単純集計、フェイスシートとのクロス集計、設問間クロス集計の3種類を行った。
- (6) 性・年代別などのクロス分析の場合、分析軸の「その他」、「無回答」を掲載していないため、調査回答者全員の人数より少なくなることがある。
- (7) クロス集計において、回答対象者の属性毎のサンプル数が30を下回る場合は、誤差が大きくなるため、原則的に参考値としての掲載としている。
- (8) 標本誤差

標本誤差とは、今回のように全体(母集団)の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあるが、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、誤差を数学的に計算することが可能である。

今回の調査の回答結果から、母集団(足立区在住の満18歳以上の男女)全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の〈算出式〉と〈早見表〉を示した。

標本誤差および〈早見表〉は、以下のように使用する。

例えば、問3の「あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか」という質問に対して、「ずっと住み続けたい」と答えた人は、1,375人のうち38.6%であった。

回答者数が1,375人、回答の比率が40%前後のときの標本誤差は、〈早見表〉では±2.64%であるから、「ずっと住み続けたい」と考えている人は、足立区在住の満18歳以上の男女全体(母集団)の36.0%から41.2%であると推定できる。

〈標本誤差算出式〉

$$b = 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b = 標本誤差

N = 母集団数(足立区の18歳以上人口)

n = 比率算出の基数(回答者数)

P = 回答の比率(0 ≤ P ≤ 1)

〈 早見表 〉

回答の比率 (P) 基 数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,375	±1.62%	±2.16%	±2.47%	±2.64%	±2.70%
1,200	±1.73%	±2.31%	±2.65%	±2.83%	±2.89%
1,100	±1.81%	±2.41%	±2.76%	±2.95%	±3.02%
1,000	±1.90%	±2.53%	±2.90%	±3.10%	±3.16%
800	±2.12%	±2.83%	±3.24%	±3.46%	±3.54%
600	±2.45%	±3.27%	±3.74%	±4.00%	±4.08%
400	±3.00%	±4.00%	±4.58%	±4.90%	±5.00%
200	±4.24%	±5.66%	±6.48%	±6.93%	±7.07%
100	±6.00%	±8.00%	±9.17%	±9.80%	±10.00%

〈 早見表 - 性・年代別 〉

回答の比率 (P) 基 数(n)		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
全 体	1,375	±1.62%	±2.16%	±2.47%	±2.64%	±2.70%
男性（計）	602	±2.45%	±3.26%	±3.74%	±3.99%	±4.08%
18～29歳	39	±9.61%	±12.81%	±14.68%	±15.69%	±16.01%
30 代	56	±8.02%	±10.69%	±12.25%	±13.09%	±13.36%
40 代	94	±6.19%	±8.25%	±9.45%	±10.11%	±10.31%
50 代	135	±5.16%	±6.89%	±7.89%	±8.43%	±8.61%
60 代	102	±5.94%	±7.92%	±9.07%	±9.70%	±9.90%
70歳以上	176	±4.52%	±6.03%	±6.91%	±7.39%	±7.54%
女性（計）	764	±2.17%	±2.89%	±3.32%	±3.54%	±3.62%
18～29歳	74	±6.97%	±9.30%	±10.65%	±11.39%	±11.62%
30 代	91	±6.29%	±8.39%	±9.61%	±10.27%	±10.48%
40 代	95	±6.16%	±8.21%	±9.40%	±10.05%	±10.26%
50 代	142	±5.04%	±6.71%	±7.69%	±8.22%	±8.39%
60 代	127	±5.32%	±7.10%	±8.13%	±8.69%	±8.87%
70歳以上	235	±3.91%	±5.22%	±5.98%	±6.39%	±6.52%

(注1) Nはnより非常に大きく、 $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。

(注2) 「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げて「性」(計)の数とは一致しない。

(9) 分類した項目の定義

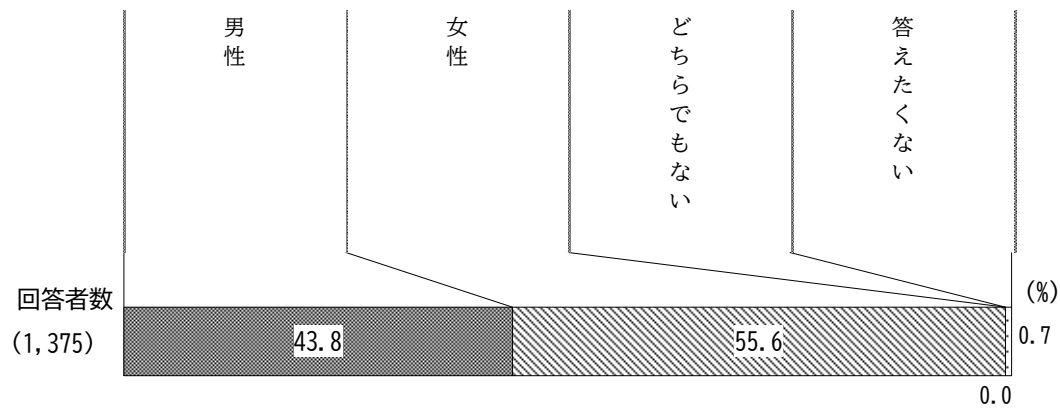
質問に対して、分類（表側）に使用した項目は以下のとおりである。

- ① 地 域 別 …… (15カテゴリー)
- ② 性 別 …… (2カテゴリー) ※性別の「どちらでもない」が2サンプル、
「答えたくない」が7サンプルのみだったので表側からは割
愛した
- ③ 性 ・ 年 代 別 …… (12カテゴリー)
- ④ ライフステージ別 …… (7カテゴリー)
 - ・ 独身期 40歳未満の独身者
 - ・ 家族形成期 40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で
一番上の子どもが小学校入学前の人
 - ・ 家族成長前期 本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人
(家族成長小学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが小学生の人
(家族成長中学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが中学生の人
 - ・ 家族成長後期 本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
 - ・ 家族成熟期 本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
 - ・ 高齢期 本人が65歳以上の人
(一人暮らし高齢者) 本人が65歳以上で一人暮らしの人
(夫婦二人暮らし高齢者) 本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人
(その他の高齢者) 本人が65歳以上で一人暮らし、夫婦二人暮らし以外の人
 - ・ その他の壮年期 本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子ども
いない夫婦
(壮年独身者) 本人が40歳～64歳で独身
(壮年夫婦のみ者) 本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
- ⑤ エリアデザイン別① …… (7カテゴリー)
 - ⑤-1 エリアデザイン地域内外別② (2カテゴリー)
- ⑥ 住居形態別 …… (8カテゴリー)
- ⑦ 職業別 …… (8カテゴリー)
- ⑧ 就労（就学）場所別 …… (6カテゴリー)
- ⑨ 居住年数別 …… (6カテゴリー)

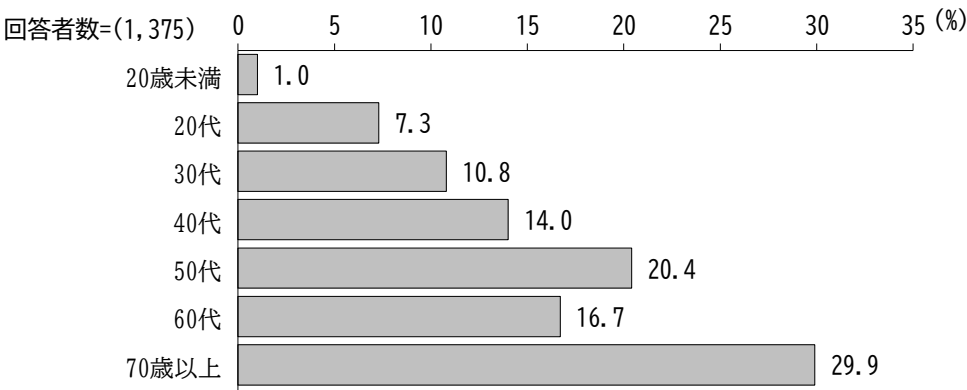
※ 本文中、表側に使用した項目の回答者数が30名未満の場合は、誤差が大きくなるため、
参考値としての掲載にとどめ、分析コメントでは言及していないことがある。

8 回答者の構成

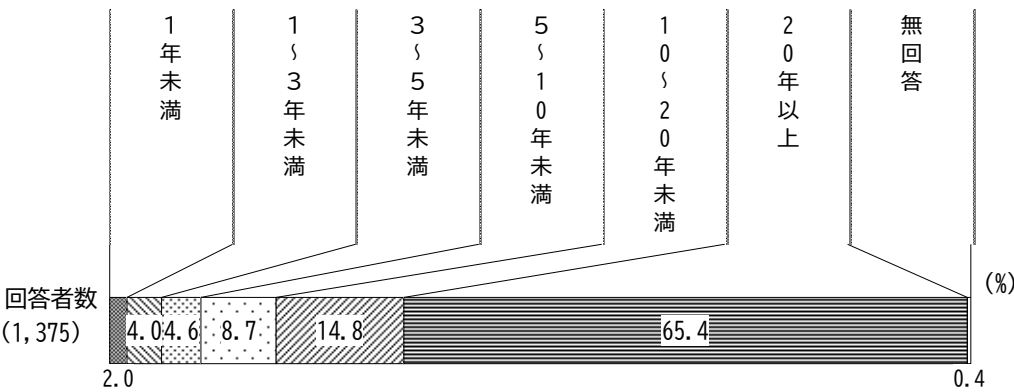
F1 性別



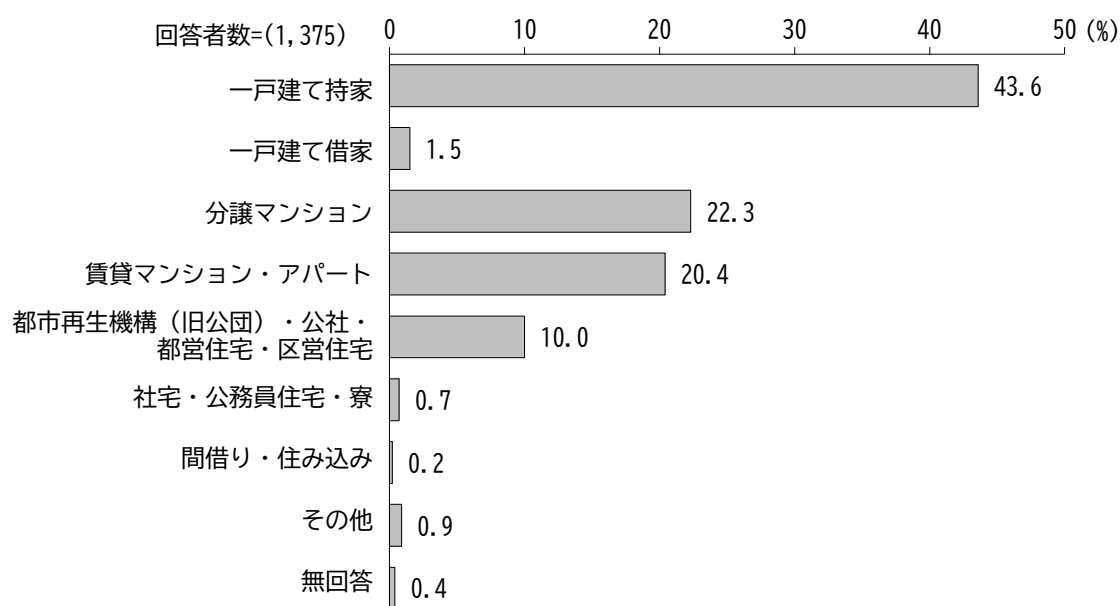
F2 年齢



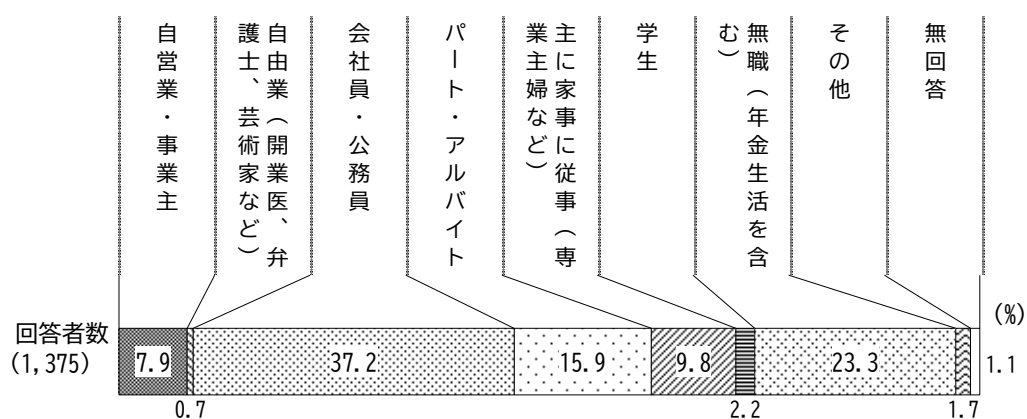
F3 居住年数



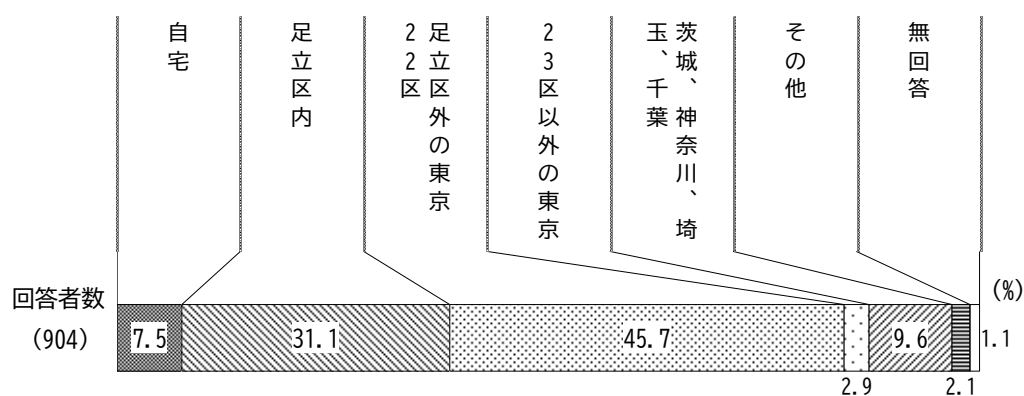
F 4 住居形態



F 5 職業

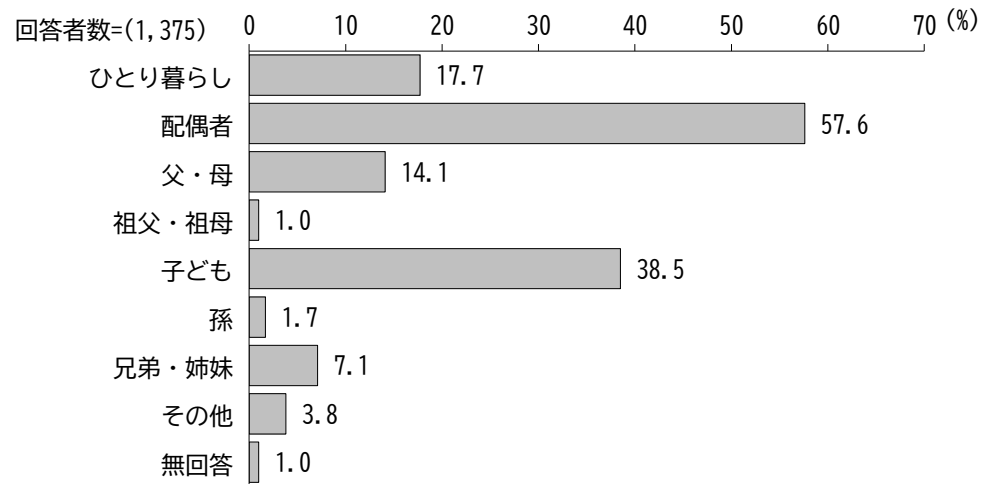


F 5-1 就労、就学場所【就労者、就学者ベース】

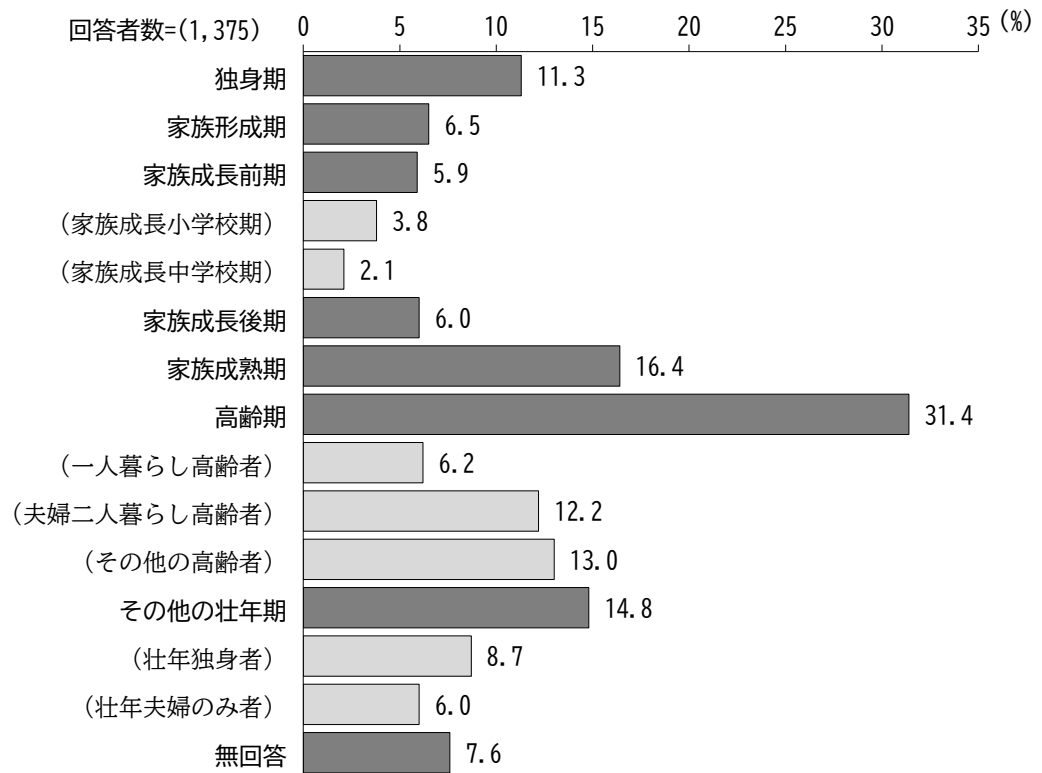


第1章 調査の概要

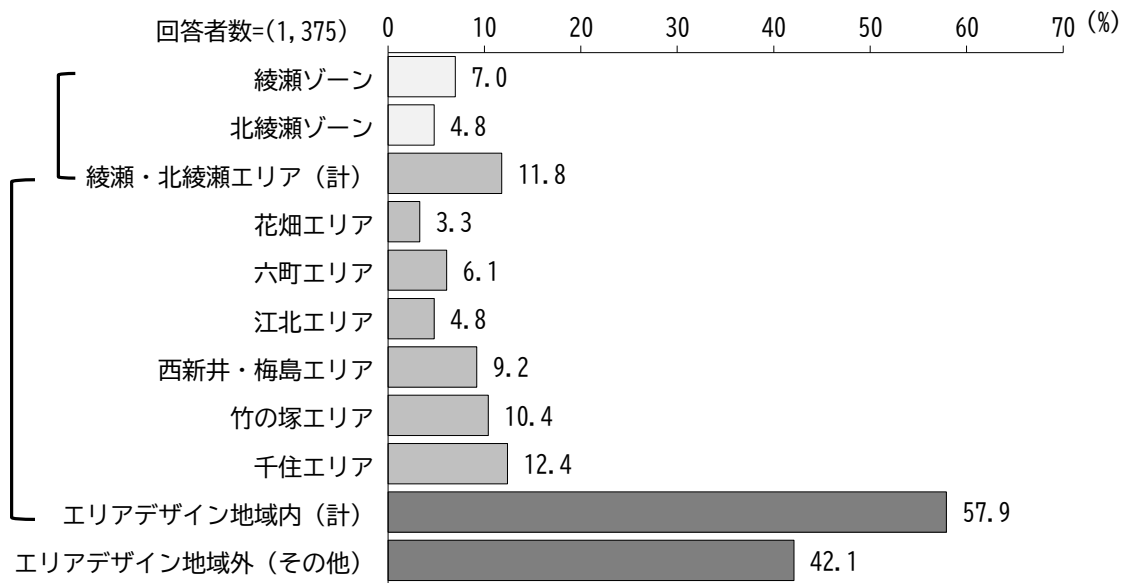
F 6 同居家族（複数回答）



F 7 ライフステージ



F8 エリアデザイン



第2章 調査結果の要約

1 定住性

(1) 〈普段の買い物が便利である〉が約8割、〈落書きが減少したと感じる〉が7割台半ば

- ア 居住地域の評価については、全18項目のうち〈普段の買い物が便利である〉〈落書きが減少したと感じる〉〈通勤や通学などの交通の便が良い〉〈快適で安全なまちである〉〈まちなかの花や緑が多い〉の上位5項目で肯定的評価（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が6割以上となった。
- イ 〈自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる〉は、否定的評価（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）が唯一6割を超えている。
- ウ 前回調査と比較すると、17項目中15項目で肯定的評価が増加しており、〈地域の人々が、日常生活で高齢者や障がいのある方などに配慮している〉〈地域の施設（建物や道路など）は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている〉〈子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている〉〈男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている〉〈「障がい者」「子ども」「女性」「インターネットによる人権侵害」について、偏見や差別がない〉の5項目で4ポイント以上の増加となっている。
- エ 肯定的評価が約8割と最も高い〈普段の買い物が便利である〉を地域別にみると、第4地域、第7地域、第12地域、第15地域、第6地域で8割台後半と高い一方、第2地域が唯一5割台と低くなっている。

(2) 【暮らしやすい】は本設問を開始した平成13年以降で前回に続いて最高値を更新

- ア 【暮らしやすい】（「暮らしやすい」＋「どちらかといえば暮らしやすい」）は86.9%で最高値を更新し、【暮らしにくい】（「暮らしにくい」＋「どちらかといえば暮らしにくい」）は11.3%と最も低い割合となった。
- イ 【暮らしやすい】を地域別にみると、第12地域で9割台半ばと最も高くなっている。
- ウ 【暮らしにくい】を地域別にみると、第2地域と第14地域で2割台と高くなっている。
- エ 【暮らしにくい】と回答した人に、その理由を聞いた結果、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」が4割台半ば超と6年連続で最も高くなっており、次いで「交通の便が悪いこと」、「買い物がしにくいこと」、「治安が良くないこと」などとなっている。

(3) 定住意向がある人は、8割台半ばで前回調査をさらに上回り、5年連続で最高値を更新

- ア 【定住意向】（「ずっと住み続けたい」＋「当分は住み続けたい」）は、令和3年度調査で初めて8割台となって以降増加を続けている。
- イ 【定住意向】を地域別にみると、第1地域で9割強と最も高く、次いで第5地域、第10地域、第12地域が8割台後半で続いている。

(4) 定住性全体について

- ア 〈普段の買い物が便利〉〈交通の便が良い〉〈快適で安全なまち〉などの利便性や快適性と、〈落書きが減少した〉〈まちなかの花や緑が多い〉〈ごみの減少〉〈景観・街並みが良好〉など美化意識の向上など多くの項目で肯定的にとらえられ、区全体としての暮らしやすさの高評価や定住意向の向上につながっていくものと考え。
- イ 〈交通の便が良い〉については、割合が最も高い第1地域（91.8%）と最も低い第8地域（47.7%）の差が40ポイント以上あり、地域差が大きい項目である。
- ウ 必要と考えられる今後の取り組み
 〈自転車利用者の交通マナー〉（6割強）と〈文化芸術に親しめるまち〉（約5割）は【そう思わない】の否定的評価が高く、【そう思う】－【そう思わない】のポイント差が18項目中2項目のみのマイナス項目であることから、取り組みのさらなる強化が求められる。

2 大震災などの災害への備え

(1) 【備蓄・買い置きあり】は前回調査から3.5ポイント減少するも7割台半ば近く

ア 食料の備蓄や防災用具の買い置きなどについては、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が44.6%で最も高く、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が28.0%となっており、これらを合わせた【備蓄・買い置きあり】は72.6%となっている。一方、「特に用意していない」は23.3%であった。

イ 災害に備えての準備状況を経年で見ると、【備蓄・買い置きあり】は前回調査時から3.5ポイントの減少となっているものの、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は前回に続いて3割近くを保っている。

(2) 備蓄や防災用具の買い置きなどの内容では、「水」が9割台半ば近く、「食料」が8割台半ば超

ア 備蓄や防災用具の買い置きなどの内容では、「水」が9割台半ば近く、「食料」が9割近く、「あかり」が7割台半ば近くで上位3備蓄品となっている。それに続くのが、「簡易トイレ」と「電池・予備バッテリー」が5割台後半、「医薬品」「情報収集手段（携帯ラジオなど）」が4割台後半となっている。

イ 前回調査と比較すると、「情報収集手段（携帯ラジオなど）」(+3.1pt)が最も増加している。

ウ 水と食料の備蓄量について、国の「最低3日分、できれば1週間分」という目標に照らすと、「3日以上1週間分未満」と「1週間分以上」を合わせた【3日以上以上の備蓄あり】で「水」は約5割、「食料」は4割台半ばとなっている。なお、前回調査で備蓄量が大幅に増加した「簡易トイレ」についてはさらに増加して4割台半ば近くとなっている。

(3) 最も高い認知は【避難場所】の<場所>で3割台半ば、最も低い認知は【第一次避難所】の<意味>で1割台半ば超

ア 前回調査との比較では、3種の避難場所すべてで<場所>と<意味>の認知（「知っている」の割合）が同じ割合、または微減となっている。認知の低さと浸透度が進んでいないことは、避難行動の流れに大きく影響するため、【3種の避難場所】の<場所>と<意味>の認知を上げるための周知の強化と、周知方法の工夫が必要である。

イ 地域的に見た特徴的なこととして、第15地域が前回調査で3種の避難場所の<場所>と<意味>の認知が下位から上位へ大幅に上昇したが、今回はさらに上昇し、<場所>では3種とも第1位で、<意味>では「避難場所」と「第一次避難所」の2種が第1位となっており、地域区民への周知がさらに進んだことが伺える。

(4) 大規模災害時の避難生活場所は「避難所」が5割超と漸増傾向

大規模災害時の避難生活場所は「避難所」(51.8%)が5割強と最も高く、次いで、「別居している家族や親戚の家」(24.1%)であった。前回調査との比較では特に大きな違いは見られないものの「避難所」の割合が漸増傾向となっている。

3 洪水対策

(1) 「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」を【見たことがある】は9割強

ア『足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ』について、「見たが、内容までは覚えていない」が39.3%で最も高く、次いで「見て、自宅の浸水深を確認した」(30.7%)、「見て、内容は確認した」(21.2%)となり、これらを合わせた【見たことがある】は9割強を占めた。

イ 【見たことがある】では地域別に大きな違いは見られないものの、より認知内容の高い「見て、自宅の浸水深を確認した」では、荒川に面している第1～3地域が4割前後と高く、区の中央北部に位置する第9～11地域は2割台前半から2割台半ばと低くなっている。

(2) 河川はん濫時の避難場所を事前に決めている人は9割台半ば

ア 河川がはん濫する恐れがある場合の避難場所は、「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」が5割台半ばを占めており、次いで、「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所」が2割半ば近くとなっており、【決めている】(94.1%)は9割台半ばとなっている。一方、「決めていない」は4.0%となっている。

イ 地域別に見ると、「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」は、第11地域、第12地域、第7地域で6割台と高く、「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所」は、第9地域、第6地域、第8地域が2割台半ば超で高くなっている。一方、「決めていない」は、第13地域が7.5%と他の地域に比べて最も高くなっている。

(3) 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由は「避難する場所がわからないから」が3割

避難場所を事前に決めていない理由は、「避難する場所がわからないから」が3割で最も高く、次いで「その他」は2割台半ば、「近くに避難できる場所がないから」と「河川のはん濫は起こらないと思っているから」が1割台半ばとなっている。

4 区の情報発信のあり方

(1) 区の情報の入手手段として、「あだち広報」が7割超、「トキメキ」が3割台半ば

ア 区に関する情報の入手手段としては、「あだち広報」が7割超で、依然として他の媒体に比べて高くなっており、これに次ぐ「トキメキ」(35.9%)、「町会・自治会の掲示板・回覧板」(25.7%)、「区のホームページ」(24.4%) などとの間には大きな差がある。

イ 「あだち広報」「トキメキ」「町会・自治会の掲示板・回覧板」などの紙媒体は、年代が上がるほど割合が高くなり、「区のホームページ」「Aメール」などのICTを活用した媒体は壮年期で割合が高くなっている。

(2) 必要なときに必要とする区の情報は【得られている】が7割超

ア 区の情報が「必要なときに得られているか」を聞いたところ、【得られている】(「十分に得られている」+「ある程度得られている」)が7割超、一方、【得られていない】(「得られないことが多い」+「まったく得られない」)は1割台半ばとなっており、この5年間は、【得られている】が漸減傾向となっている。

イ 性・年代別に見ると、【得られている】は女性の50～60代で8割前後と高く、逆に男女とも18～29歳で5割台前半と低くなっている。また、18～29歳の男女は「区の情報に関心がない」(男性：17.9%、女性：14.9%)で他の性・年代層に比べて特に高くなっている。

(3) 区の情報が得られていない理由は「情報の探し方がわからない」が3割台半ば超

必要なときに必要とする区の情報が【得られていない】と答えた理由としては、「情報の探し方がわからない」が37.2%と最も高く、「情報が探しにくい」(28.0%)と合わせると6割台半ばを占めており、この割合が過去5年間で増加傾向にあることから、情報の探しやすさについて、なお一層の工夫が必要である。

5 健康

(1) 区のキャッチフレーズを【知っている】は4割台半ばで前年から下降

- ア 区のキャッチフレーズである『あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～』について、「内容まで知っている」が11.9%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」(32.7%)を合わせた【知っている】は44.6%となり、「知らない(初めて聞いた)」(53.0%)を8.4ポイント下回っている。
- イ 区のキャッチフレーズの認知度を経年でみると、【知っている】は平成30年調査の3割台半ば以降は前回調査の5割近くまで増加を続けていたが、今回は3.7ポイントの減少となった。
- ウ 区のキャッチフレーズの認知度を性別でみると、【知っている】は女性(52.5%)の方が男性(34.7%)より17.8ポイントと大きく上回っており、男性への周知が課題となっている。
- エ 性・年代別でみると、【知っている】は女性の40代が63.2%で最も高く、逆に男性の60代で24.5%と最も低く、女性の40代に比べて40ポイント近く低くなっており、性・年代層による差が大きくなっている。

(2) 野菜から「食べている」人は6割台半ばで調査年度によって増減を繰り返している

- ア 糖尿病の予防には、“食事の最初に野菜をよくかんで食べることが効果的である”と言われていたことに対し、「(野菜から)食べている」人は6割台半ば、「食べていない」人は2割台半ばとなっている。
- イ 「(野菜から)食べている」人の割合は、前回調査から3.6ポイント減少している。
- ウ 性・年代別でみると、「(野菜から)食べている」は、女性は6割台半ばから7割台半ばと年代による大きな差はないが、男性では40代以下で約7割から8割と高いものの、50代以上では5割台と低くなっており、男性の高年齢層への周知、働きかけが課題となっている。

(3) 1日の野菜350g以上の摂取は【できている】が4割台半ばで、【できていない】(5割)を下回る

- ア 野菜の摂取量については、“1日350g以上”が目標とされており、実際に【できている】(「できている」+「だいたいできている」)は4割台半ばとなっている。
- イ 性・年代別でみると、【(野菜の1日350g以上の摂取が)できている】は女性(49.0%)の方が男性(37.0%)より12.0ポイント高く、女性の40代以上で5割台と高く、逆に男性の18～29歳、40代、60代以上と女性の30代以下で3割台と低くなっている。

(4) 自分は【健康である】と自認している人は6割台半ば

- ア 自身の健康状態への認識は、「健康な方だと思う」が6割を占めており、「非常に健康だと思う」を合わせた【健康である】は、6割台半ばとなっている。一方、【健康ではない】(「あまり健康ではない」+「健康ではない」)と感じている人は、3割強となっている。
- イ 【健康である】を性別で見ると、女性の方が男性より5.9ポイント高く、性・年代別に見ると、女性の18～29歳と40～50代で7割台と高く、逆に男性の60代で5割台と最も低くなっている。

(5) 医療が必要なときにかかりたいと思える医療機関が身近にある人は、7割台半ば超

- ア 医療が必要なときにかかりたいと思える医療機関が身近に「ある」は77.9%となっている。
- イ 性別にみると、「ない」は男性(22.3%)の方が女性(17.1%)より5.2ポイント高く、性・年代別にみると男性の30代で4割強と最も高く、女性の70歳以上で6.4%と最も低くなっている。

6 スポーツ・読書

(1) 【運動している】は6割、「30分以上の運動を週2回以上」は2割台半ば

ア 日常的な運動・スポーツの実施状況をみると、「30分以上の運動を週2回以上」が2割台半ばで、以下「年に数回（時間は問わない）」までを含めた【運動している】は6割となり、前回調査から微増となっている。

イ 性別で見ると、「30分以上の運動を週2回以上」は男性の方が女性より5.5ポイント高く、性・年代別に見ると、男性の40代が3割強で最も高く、女性の30～40代が1割台と低くなっている。

(2) 継続的に実施している運動・スポーツは「ウォーキング」が5割弱で突出

ア 【運動している】と回答した人が、継続的に実施している運動・スポーツは、「ウォーキング」が約5割で最も高く、これに「筋力トレーニング」が2割強、「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」が2割で続いている。

イ 継続的に実施している運動・スポーツを性・年代別にみると、「ウォーキング」は女性の18～29歳と男性の70歳以上で6割台と高く、「筋力トレーニング」は男性の18～29歳で4割台と最も高く、「健康体操」は女性の方が男性より17.8ポイント高くなっている。

(3) 運動していない人が運動・スポーツを行うためのきっかけは、「身近な場所で運動・スポーツができる」が3割台半ば近く、次いで「手頃な価格で施設を利用できる」が約3割

ア 運動・スポーツを行いたいと思うきっかけとなるのは、「身近な場所で運動・スポーツができる」（3割台半ば）、「手頃な価格で施設を利用できる」（約3割）、「レベルを気にせず参加できる機会がある」（2割近く）が上位3項目となっている。

イ 前回調査と比べると、順位に変動はないものの、「一緒に運動・スポーツできる仲間と出会える」が4.4ポイント減少している。

(4) 最近1か月間に読書に関わる行動があった人は8割強

ア 最近1か月間の読書に関わる行動状況は、【読書に関わる行動あり】が81.6%で前回調査から大きな違いはなかった。

イ 読書に関わる行動の内容では、「本を読む」（44.6%）、「新聞を読む」（39.6%）、「雑誌を読む」（32.1%）、「書店・古書店に行く」（30.8%）、「漫画を読む」（29.4%）の順位であった。

ウ 前回調査との比較では、「新聞を読む」が3.5ポイントの減少となっている。

エ 性・年代別に見ると、「新聞を読む」は年代が上がるほど割合も上がり、「漫画を読む」と「本などの通販サイトをみる」は年代が上がるほど割合が下がる傾向が伺える。また、「書店・古書店に行く」は女性の40代以下で5割前後と高くなっている。

7 ビューティフル・ウィンドウズ運動

- (1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を【知っている】(4割)が「知らない(初めて聞いた)」(5割台半ば)を下回る

ア 足立区独自の犯罪抑止運動である『ビューティフル・ウィンドウズ運動』については、【知っている】(「知っていて、活動を実践している」+「知っているが、特に何も行っていない」+「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」)が40.9%となっている。

イ 前回調査と比較すると、【知っている】は5.8ポイント減少しており、本調査を開始した平成26年度以降で最低の割合となった。

ウ 性別にみると、【知っている】は女性の方が男性より8.1ポイント高く、性・年代別にみると、女性の40～50代で5割台半ばと高く、男性の60代で2割台半ばと最も低くなっている。

- (2) 居住地域の治安状況が【良い】は6割台半ばで変わらず

ア 居住地域の治安状況については、【良い】(「良い」+「どちらかといえば良い」)が6割台半ばで前回調査からの違いはなかった。

イ 治安状況が【良い】について地域別にみると、第12地域、第15地域、第1地域で7割台と高くなっている。一方、第13地域と第10地域で5割前後と低く、地域差がみられる。

ウ 治安が【良い】と評価した理由としては、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が5割台半ばで最も高く、次いで「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」が3割台半ばで続き、「テレビや新聞などで、お住まいの地域における犯罪発生のニュースが少ないから」が前回から5ポイント増加して2割台半ばで第3位となった。

エ 治安が【悪い】と感じる理由としては、「自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから」が4割近くで最も高く、以下「歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから」が3割台半ば、「治安が悪いイメージがあるから」が2割台半ばとなっている。この上位3項目はいずれも、前々回と前回調査で新設された項目であり、単純に経年比較はできない。

- (3) 治安対策として区に特に力を入れてほしいことは、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」が5割台半ば近く

ア 治安対策として足立区に力を入れてほしいことは、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」が5割台半ば近くで最も高く、次いで、「街路灯など安全に配慮した道路、公園の整備」が4割台半ば超、「安全・安心パトロールカー(青パト車)による防犯パトロール」が3割強となっている。

イ 治安対策として足立区に力を入れてほしいことを地域別にみると、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」は第2地域と第12地域で6割と高く、「街路灯など安全に配慮した道路、公園の整備」は第6地域で約6割、「安全・安心パトロールカー(青パト車)による防犯パトロール」は第2地域で4割台半ば近くと最も高くなっている。

8 環境・地域活動

- (1) 環境のために心がけていることは「ごみと資源の分別」が8割台半ば、次いで「不要なレジ袋を断る」が7割台半ば超

環境のために心がけていることでは、「ごみと資源の分別を実行している」が8割台半ばで今回も最も高くなっている。次いで「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(77.8%)、「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」(55.1%)、「外食時に食べられる分だけ注文する」(54.0%)、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(50.6%)までが上位5位となっており、前回調査と順位、割合とも大きな違いはない。

- (2) 環境への影響を考えた行動は【行動している】が7割台半ば

ア 環境への影響を考えた日頃からの行動については、「行動している」が28.9%で、「行動することが時々ある」(44.1%)を合わせた【行動している】は3.9ポイント増加し7割台半ばとなった。

イ 環境への影響を考えた行動を性・年代別でみると、【行動している】は女性の40代で8割台半ばと特に高く、逆に男性の30代、70歳以上と女性の70歳以上で6割台と低くなっている。

- (3) 町会・自治会の加入状況は、「加入している」が5割半ば近く、「活動に参加した」が約4割

ア 町会・自治会への加入は、「はい(加入している)」が52.3%で「いいえ(加入していない)」(44.9%)を7.4ポイント上回り、町会・自治会への活動参加は「いいえ(活動したことがない)」が53.5%で「はい(参加したことがある)」(39.3%)を14.2ポイント上回っている。

イ 地域別に町会・自治会への加入状況をみると、第1地域と第12地域が6割台で高く、逆に第6地域が唯一3割台と低くなっている。町会・自治会活動への参加経験をみると、第10地域と第3地域が5割台で高く、逆に第4地域が2割台で最も低くなっている。

ウ 性・年代別に町会・自治会への加入状況をみると、女性の60代以上で7割前後と高く、逆に男女とも30代以下で2割台と低くなっている。町会・自治会活動への参加経験をみると、女性の60代以上で5割台と高く、逆に男性の30代と女性の30代以下で1割台と低くなっている。

- (4) 町会・自治会に加入していない理由は「加入する必要性を感じないから」が3割台半ば

ア 町会・自治会に加入していない理由は「加入する必要性を感じないから」が3割台半ばで最も高く、「誘われないから」「加入の方法がわからないから」「人間関係がわずらわしいから」がそれぞれ1割から1割強。

イ 前回調査(令和5年度調査)との比較では、「加入する必要性を感じないから」が6.6ポイント増加し、「人間関係がわずらわしいから」が4.5ポイントの減少となっている。

ウ 性・年代別にみると、「加入する必要性を感じないから」は女性の50代(48.3%)が最も高く、「誘われないから」は男性の40代(18.0%)、「加入の方法がわからないから」は男性の18~29歳(22.6%)、「人間関係がわずらわしいから」は男性の60代(19.0%)がそれぞれ最も高くなっている。

- (5) 居住地域のごみと資源の収集日の認知は【知っている】が9割台半ば

居住地域のごみと資源の収集日の認知状況は、「知っている」が8割超で、「なんとなく知っている」(11.9%)を合わせた【知っている】では93.5%を占めている。

9 「孤立ゼロプロジェクト」など

- (1) 「孤立ゼロプロジェクト」を【知っている】は3割台半ば、「知らない」が6割台半ば
 ア「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況は、【知っている】（「知っていて、内容も概ね理解している」(10.0%) + 「聞いたことはあるが、内容はわからない」(23.2%)）が33.2%となり、前回調査時の最高値をさらに更新した。
 イ【知っている】を地域別でみると、第2地域、第3地域、第12地域で約4割と高い一方、第9地域で2割台前半と最も低くなっており、地域差がかなり大きくなっている。
 ウ「知らない(初めて聞いた)」を性・年代別でみると、男女とも年代が下がるほど割合が高くなり、男女とも30代で8割から8割台半ばと高くなっている。
- (2) 「地域包括支援センター（ホウカツ）」について、【業務内容を知っている】は5割超
 ア 地域包括支援センター（ホウカツ）の認知状況は、【業務内容を知っている】は5割強と前回調査から微増となっているものの、「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」は27.6%と前回調査時から約3ポイント減少している。
 イ 業務内容別の認知は、「高齢者の健康や介護の相談」が4割台半ばで最も高く、次いで「介護保険サービスの相談」（3割台半ば）、「高齢者宅への訪問調査」（2割台半ば超）、「介護予防教室や地域の居場所等の紹介」（2割台半ば）などと前回調査時と割合、順位とも大きな違いはない。
 ウ【業務内容を知っている】を地域別でみると、第8地域で6割台半ばと最も高く、第9地域と第13地域で4割超と低く、20ポイント以上の違いがある。
 エ【業務内容を知っている】を性別でみると、女性の方が男性より16.6ポイント高く、性・年代別でみると、おおむね年代が上がるほど割合も高くなり、女性の60代で8割と最も高く、逆に男性の30代以下と女性の18～29歳で2割前後と低く、年代差が大きくなっている。
- (3) 高齢者の孤立防止や見守り活動に【協力したい】は2割台半ば
 ア 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向は、【協力したい】は長らく1割台に低迷していたが、前回調査時に2割台となり、今回調査でさらに上昇した。
 イ 性・年代別でみると、【協力したい】は女性の60代以上で3割台と高く、男性の60代と女性の30代で1割台半ばと低くなっている。
- (4) 「フレイル」を予防する活動を「知っていて、活動を実践している」4.3ポイント増加し約2割
 ア「フレイル」にならないために「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」のそれぞれが大切なことの認知状況については、「知っていて、活動を実践している」が19.9%で前回調査時から4.3ポイント増加となった。
 イ【知っている】を性別にみると、女性の方が男性より14.1ポイント高く、性・年代別にみると、女性の60代以上で7割台半ば超と高くなっているのに対し、男性の50代以下と女性の30代以下では4割台以下と低く、これらの年代層に向けての幅広い周知が必要である。
- (5) 就業者における仕事と仕事以外の生活の調和が「取れている」は4.7ポイント増加し5割台半ば
 ア 就業者における仕事と仕事以外の生活の調和について、前回調査と比較して、「取れている」は4.7ポイント増加し、「取れていない」が4.1ポイント減少し、ワークライフバランスが進んでいることが分かる。
 イ「取れている」を性別でみると、女性（60.0%）の方が、男性（52.7%）より7.3ポイント高く、性・年代別にみると、18～29歳（男性：46.9%・女性：64.5%）で男女差が最も大きくなっている。

第2章 調査結果の要約

(6)「福祉まるごと相談課」を「知らない(初めて聞いた)」は8割台半ば超

ア「福祉まるごと相談課」について、「知っている(聞いたことがある)」は10.7%で「知らない(初めて聞いた)」は87.0%となっている。

イ「知っている(聞いたことがある)」を地域別でみると、第10地域(16.1%)、第3地域(15.5%)、第15地域(15.5%)、第5地域(15.0%)で1割台半ばとなっているが、第9地域で4.8%と最も低く、第7地域と第13地域でもそれぞれ7.5%と低くなっており、地域別で差が大きくなっている。

10 「SDGs」・「協働・協創」

(1) SDGsの認知状況は、【知っている】が前回から3.3ポイント増加し8割

ア「SDGs」について「内容まで知っている」の35.4%と「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」の45.0%を合わせた【知っている】は80.4%となり、前回から3.3ポイント増加した。

イ 性別でみると、【知っている】は男性の方が女性より2.8ポイント高くなっている。また、性・年代別でみると、【知っている】は、男性の40代で94.7%と最も高く、逆に男女とも70歳以上で6割前後と低くなっている。

(2) 区役所・区民・団体の協働や協創が進んでいるかについては【そう思う】が3割台半ば超、【そう思わない】が2割強

ア 協働や協創による事業が進んでいると感じるかについては、「そう思う」(5.6%)と「どちらかといえばそう思う」(31.9%)を合わせた【そう思う】は3割台半ば超となり、前回調査時から8.7ポイントの増加となった。

イ【そう思う】は性差は特にないが、性・年代別でみると、【そう思う】は、女性の40代で4割台後半と最も高く、逆に女性の30代以下と男性の50代で3割台前半と低くなっている。

ウ 一方で、「わからない」が男女ともに4割近くと高いことから、「孤立ゼロプロジェクト」(【知っている】33.2%)、「ビューティフル・ウインドウズ運動」(【知っている】40.9%)、「あだちベジタバライフ～そうだ、野菜を食べよう～」(【知っている】44.6%)などの区独自の取り組みの認知の低さに依るものであり、これらの取り組みの全体的な周知がより必要と考える。

(3) 地域と関わる自主的な取り組み・活動意向は「思う、または実施している」が7.0%、「誰かの活動の協力はしたいと思う、または協力している」が34.0%

家族以外の人や地域と関わる自主的な取り組み・活動意向について、「思う、または実施している」が7.0%、「誰かの活動の協力はしたいと思う、または協力している」が34.0%で、「思わない」が55.0%と過半数を占めている。

11 区を取り組み

(1) 「足立区を良いまちにする活動をする人に共感」が7割台半ば近く、「足立区に愛着」が7割超

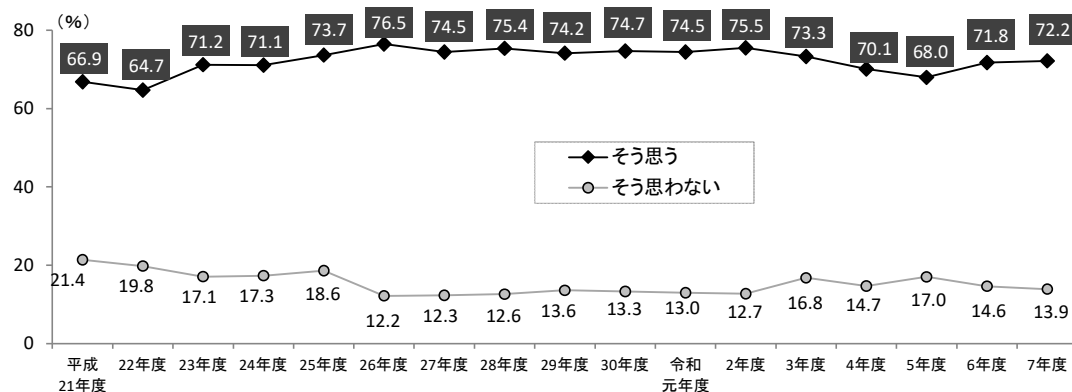
ア 平成21年度調査から今回の令和7年度調査まで17年にわたって経年で聴取している〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉の3項目について、今回の結果を【そう思う】(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)の比率でみると、〈足立区に愛着をもっている〉は72.2%、〈足立区に誇りをもっている〉は44.7%、〈足立区を人に勧めたい〉は47.1%となっている。

イ 経年でみると、【そう思う】は3項目とも増加しており、増加幅が大きいのは〈足立区を人に勧めたい〉で2.7ポイントとなっている。

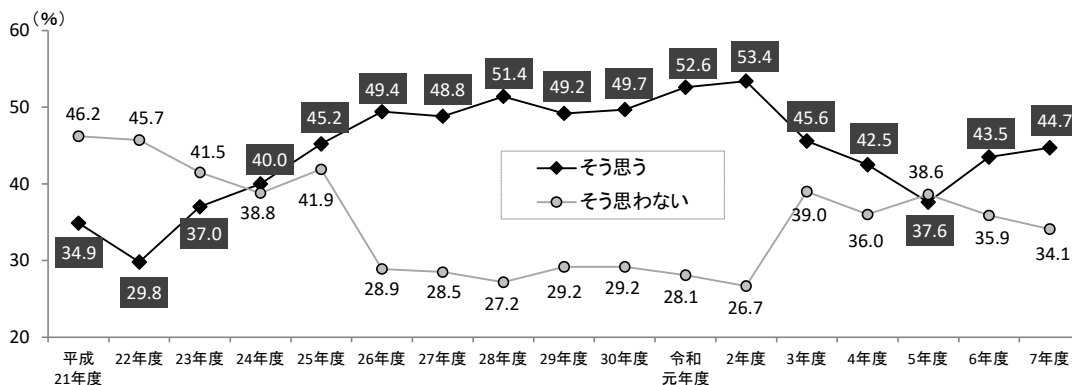
ウ また、〈足立区に誇りをもっている〉と〈足立区を人に勧めたい〉については【そう思う】と【そう思わない】の割合の値が同様に推移しており正の相関がうかがえる。

エ 居住年数別でみると、【そう思う】は〈足立区に愛着をもっている〉と〈足立区に誇りをもっている〉は居住年数が長くなるほど割合が高くなる正の相関がみられるが〈足立区を人に勧めたい〉については、どの居住年数別でも4割台と差がない。

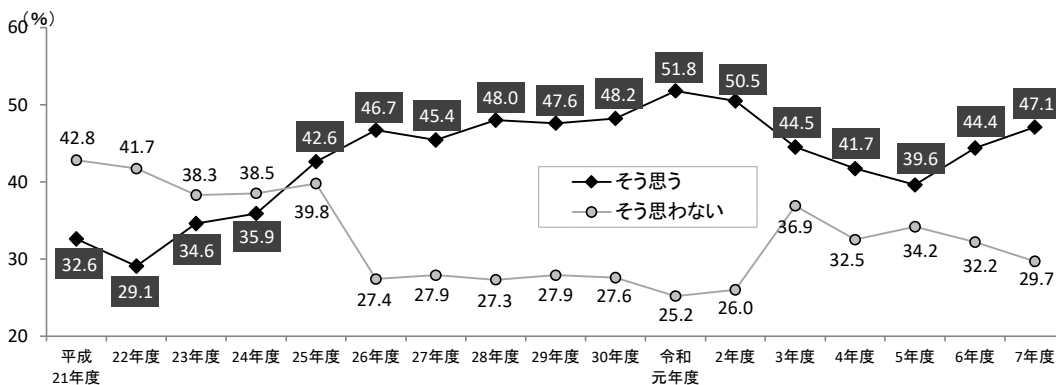
「足立区に愛着をもっている」



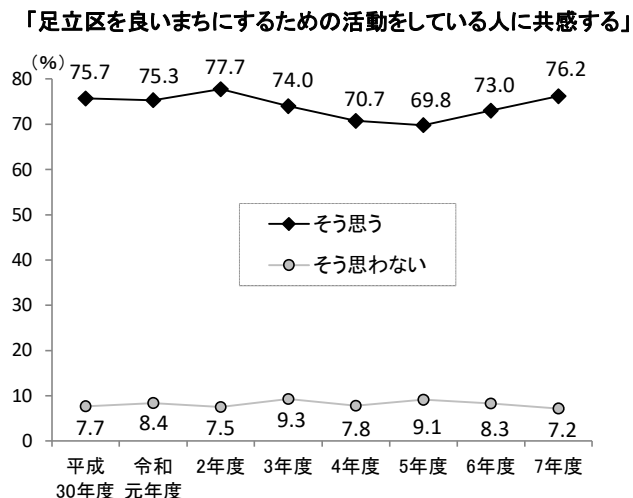
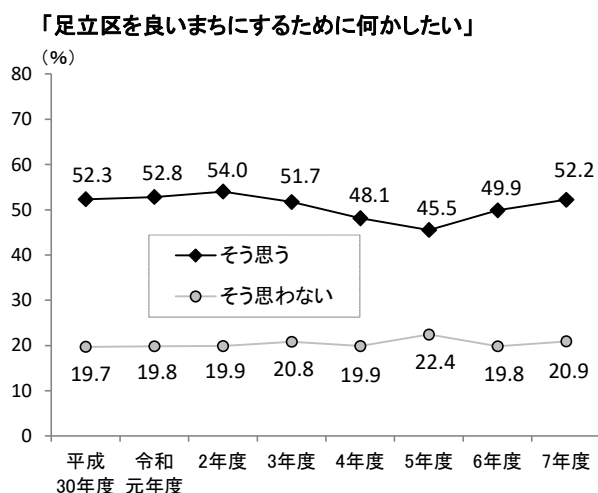
「足立区に誇りをもっている」



「足立区を人に勧めたい」



オ 平成30年度調査から新たに聴取項目に加えた〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉と〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉の2項目について、【そう思う】をみると、それぞれ52.2%、76.2%と、前記の3項目同様に割合が増加となっている。



(2) 区を良いまちにするための行動については、【行動しなかった】が6割弱で、【行動した】の3割強を大きく上回る

ア この1年間の行動については「行動しなかった」が40.1%と最も高く、「どちらかといえば行動していない」(18.4%)を合わせた【行動しなかった】は58.5%となっている。

イ「行動した」は11.6%に留まり、「どちらかといえば行動した」(19.6%)を合わせた【行動した】は31.1%となっている。

ウ 前回調査と比べると、【行動しなかった】は2.8ポイントの減少となっている。

エ 区を良いまちにするための行動を区政満足度別にみると、満足度が高まるにつれて【行動した】の割合は増加し、『区政満足度』で〈不満〉と回答した層では【行動した】は14.3%に留まったが、『区政満足度』で〈満足〉と回答した層では【行動した】は42.2%となっている。

(3) 区の取り組みで満足している分野は、「情報提供」が4割台半ばで最上位、次いで「自然・緑化対策」が3割台半ば

ア 21分野の区の取り組みで、満足・やや満足と感じている分野について、数を制限しないで選んでいただいた。その結果、「情報提供」が43.1%と最も高く、次いで、「自然・緑化対策」(35.6%)、「保健衛生対策」(27.7%)、「職員の接客態度」(21.7%)、「高齢者支援」(21.1%)となっており、前回調査との上位5位の比較では、「職員の接客態度」と「高齢者支援」が入れ替わった。

イ 区の取り組みで満足している分野について、性別でみたときに、男性の方が女性より高いのは9分野、女性の方が男性より高いのは12分野と分野数では大きな違いはなかったが、性差で3ポイント以上ある分野は、女性の方が高いのが4分野に対し、男性の方が高い分野は1分野のみであった。

a 女性の方が男性より3ポイント以上高い分野

「保健衛生対策」(+10.6pt)、「子育て支援」(+5.7pt)、「情報提供」(+5.5pt)、「治安対策」(+3.3pt)

b 男性の方が女性より3ポイント以上高い分野

「職員の接客態度」(+3.3pt)

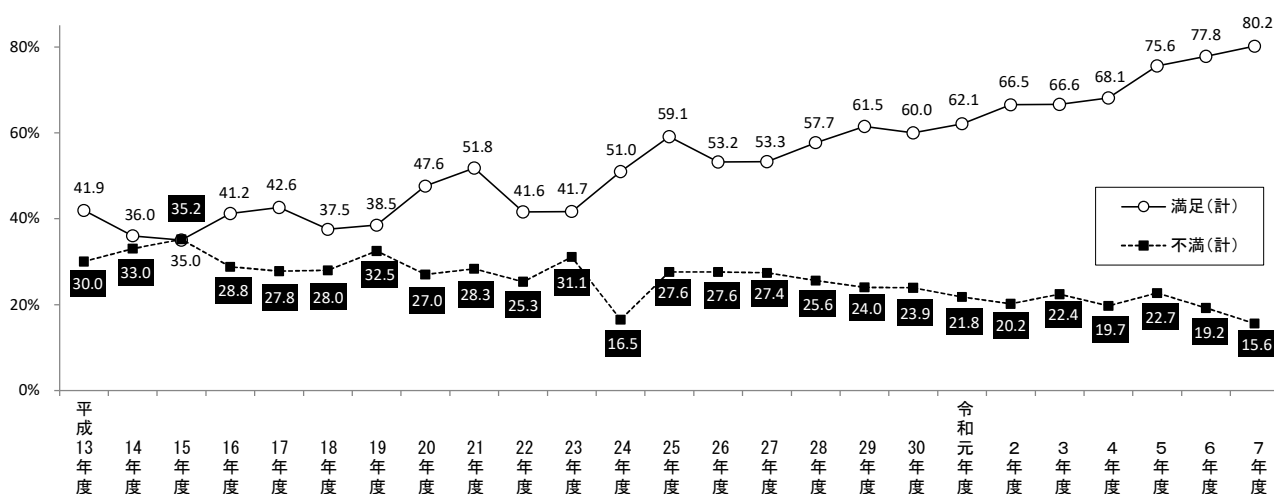
(4) 区での取り組みで不満な分野は、「交通対策」が2割強で最上位、次いで「都市開発」が1割台半ば近く

ア 21分野の区での取り組みで、不満・やや不満と感じている分野について、数を制限しないで選んでいただいた。その結果、「交通対策」が21.1%と最も高く、次いで、「都市開発」(12.2%)、「住環境対策」(11.7%)、「自然・緑化対策」(10.5%) などとなっている。

イ 区での取り組みで不満な分野について、性別でみると、区での取り組みで満足している分野に比べ、男女の差が小さく、男性の方が女性より高い割合となった項目は21分野中19分野であったが、3ポイント以上高い分野は「ICT活用」(+3.9pt) のみであった。

(5) 区政全体について【満足】は8割となり、平成25年度※の設問開始以降の最高値を更新

ア 区政全体について、「やや満足」が65.7%と最も高く、「満足」(14.5%) を合わせた【満足】は80.2%となり、本設問を開始した平成25年度以降で初めて8割台となった。



※ 平成24年度までは「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」「わからない」の5選択肢であったが、平成25年度以降は「わからない」の選択肢を除外した4選択肢となっており、単純に比較はできないが参考として掲載している。

イ 地域別でみると、【満足】は第12地域で92.5%と特に高く、次いで、第15地域(86.2%)、第3地域(84.5%) などとなっている。一方、【不満】は第14地域で25.7%と最も高く、次いで、第10地域(19.4%)、第9地域(19.0%) などとなっている。

ウ 性・年代別にみると、【満足】は、男性の30代が85.7%と最も高く、次いで、男性の18~29歳(84.6%)、女性の50代(83.1%)が続いている。一方、【不満】は女性の40代で21.1%と最も高く、次いで女性の30代(19.8%)となっている。

(6) 今後特に力を入れてほしい分野は、「交通対策」が3割半ばで最上位、次いで「防災対策」が3割半ばで続く

ア 21分野の区取り組みのうち、今後特に力を入れてほしい分野について、数を制限しないで選んでいただいた。その結果「交通対策」が36.8%と最も高く、次いで「防災対策」(33.2%)、「高齢者支援」(31.3%)、「都市開発」(28.2%)、「自然・緑化対策」(24.5%)などとなっている。

イ 地域別でみると、第6地域は「都市開発」「子育て支援」「学校教育対策」「産業振興」「男女共同参画推進」の5分野で最も高い割合となっている。また、第2地域で「保健衛生対策」と「資源環境対策」、第12地域で「高齢者支援」と「治安対策」、第13地域で「防災対策」と「自然・緑化対策」、第14地域で「交通対策」と「職員の接客態度」、第15地域で「障がい者支援」と「地域人材育成支援」の各2項目が最も高い割合となっている。

ウ 性別でみたときに、21項目中12項目で男性の方が女性より割合が高くなっている。

a 男性の方が女性より3ポイント以上高い取り組み

「ICT活用」(+4.5pt)、「地域活動支援」(+4.1pt)、「産業振興」(+3.5pt)、「自然・緑化対策」(+3.0pt)

b 女性の方が男性より3ポイント以上高い取り組み

「子育て支援」(+3.7pt)、「保健衛生対策」(+3.2pt)

エ 年代別にみて区全体より5ポイント以上高くなっている取り組み

a 40代は、21項目中最多の7分野で区全体より5ポイント以上高くなっており、特に「自然・緑化対策」と「学校教育対策」で8ポイント以上高くなっている。

b 60代では、4分野で区全体より5ポイント以上高くなっており、特に「高齢者支援」と「障がい者支援」の2分野で8ポイント以上高くなっている。

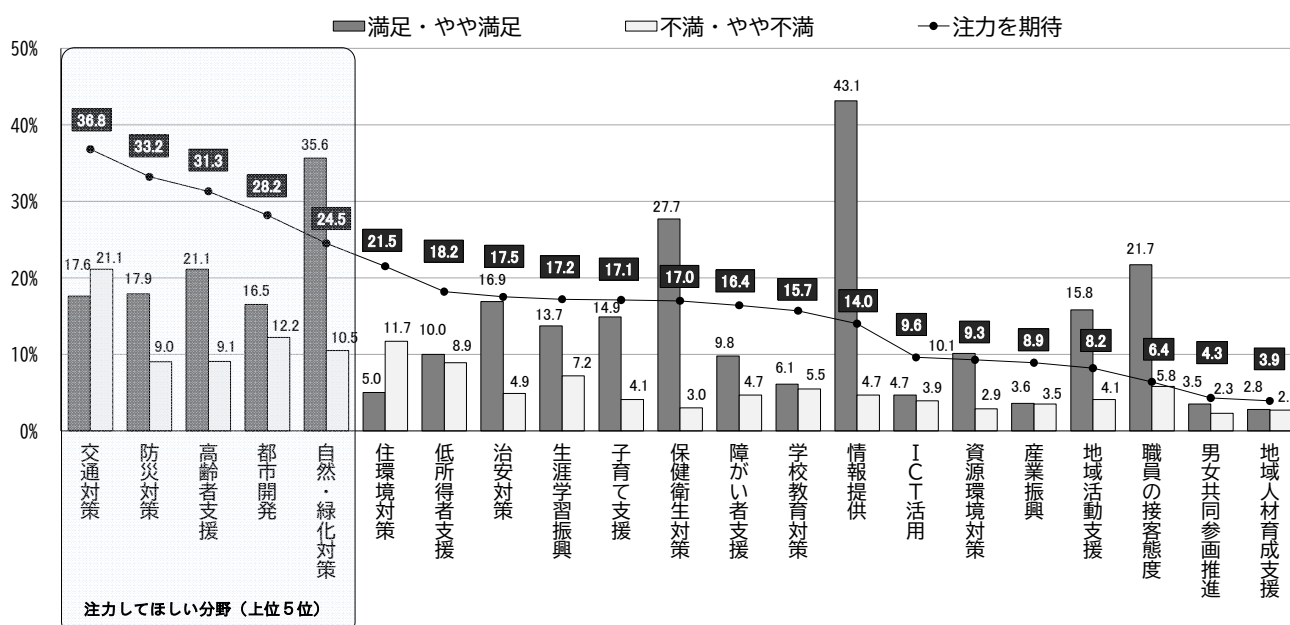
(7) 「満足評価」「不満評価」「注力を期待」の状況から見えてくる課題となる取り組み

ア 各取り組みに対する、「満足評価」「不満評価」「注力を期待」の状況をみると、下記の取り組みが課題となっている。

a 「注力を期待」が大きく、「満足評価」より「不満評価」の方が大きいのは、〈交通対策〉

b 「注力を期待」が大きく、「満足評価」の方が大きいものの「不満評価」と大きな差がないのは、〈都市開発〉

c 「注力を期待」は中位だが、「満足評価」より「不満評価」の方が大きいのは、〈住環境対策〉

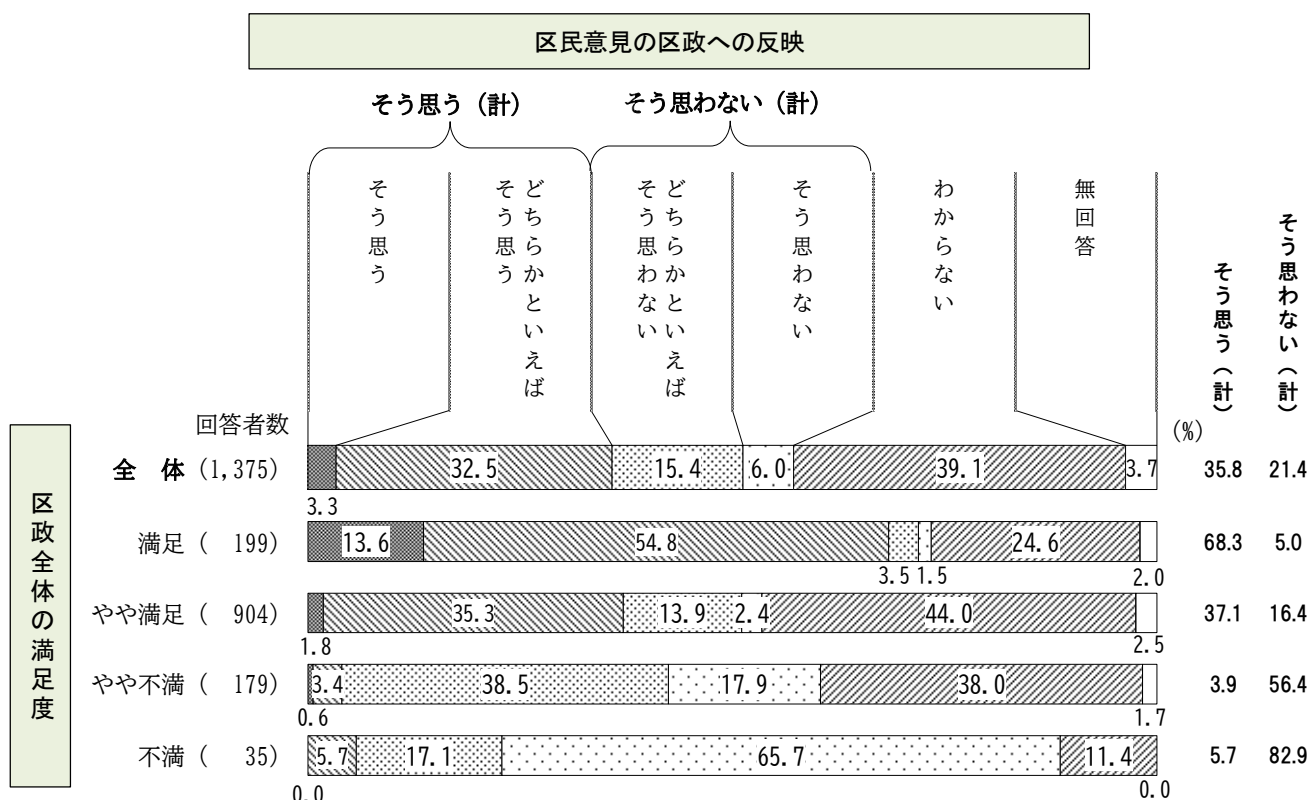


(8) 区政への区民意見の反映について、【そう思う】は2ポイント増加し3割台半ば、【そう思わない】は約3ポイント減少し2割強、「わからない」は変わらず約4割

ア 区政に区民の意見が反映されていると感じているか聞いたところ、「そう思う」(3.3%)と「どちらかといえばそう思う」(32.5%)を合わせた【そう思う】は35.8%となり、「どちらかといえばそう思わない」(15.4%)と「そう思わない」(6.0%)を合わせた【そう思わない】(21.4%)を14.4ポイント上回っている。

イ 前回調査と比較してみると、【そう思う】は微増となっているものの、前々回調査から6ポイント増加している。

ウ 区政満足度別でみると、【そう思う】は、区政への満足度が増すほど割合が高くなり、区政に満足している層では7割近くと高くなっている。



区に対する気持ち 経年比較／性・年代別

1 足立区に愛着を持っている

全体	平成 29年	30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
	74.2	74.7	74.5	75.5	73.3	70.1	68.0	71.8	72.2

(%)

男性	平成 29年	30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
全体	76.1	76.1	75.1	77.5	73.9	71.2	67.7	72.7	75.2
18～19歳	—	—	—	—	68.1	55.2	59.3	71.2	64.1
20代	68.4	74.6	72.5	62.7					
30代	74.5	65.1	69.5	80.0	56.8	58.2	53.0	75.8	75.0
40代	75.7	77.5	71.7	79.3	74.4	68.3	68.4	76.4	80.9
50代	82.9	76.0	81.6	79.7	78.7	71.8	71.8	66.4	81.5
60代	69.3	81.4	76.9	77.5	78.6	78.4	66.0	76.7	73.5
70歳以上	81.6	76.9	74.5	77.9	76.3	78.1	73.0	72.4	71.0

女性	平成 29年	30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
全体	73.6	73.6	73.9	74.3	73.2	69.2	68.4	71.3	70.3
18～19歳	—	—	—	—	67.5	54.3	59.4	65.4	63.5
20代	72.5	64.9	59.1	66.3					
30代	66.9	74.5	73.7	75.0	72.7	62.3	59.3	65.0	68.1
40代	73.5	71.0	72.0	74.7	71.9	72.0	66.9	74.6	71.6
50代	74.0	74.7	79.2	73.2	74.7	72.3	69.7	76.8	76.8
60代	77.3	72.0	80.0	76.1	70.8	68.5	75.0	69.6	68.5
70歳以上	74.6	78.1	73.2	76.6	76.9	73.7	72.9	71.2	69.8

2 足立区に誇りをもっている

全体	平成 29年	30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
	49.2	49.7	52.6	53.4	45.6	42.5	37.6	43.5	44.7

(%)

男性	平成 29年	30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
全体	51.5	52.7	55.6	56.8	48.9	43.6	38.8	44.7	47.3
18～19歳	—	—	—	—	43.1	23.9	25.4	32.7	35.9
20代	36.8	50.8	40.6	45.8					
30代	42.9	31.4	42.7	52.9	30.9	34.3	22.7	36.4	44.6
40代	54.9	51.2	52.5	50.7	41.4	40.0	28.9	43.8	41.5
50代	57.7	51.9	60.5	54.4	48.2	36.3	37.3	39.5	47.4
60代	46.0	54.3	58.7	62.0	53.4	45.9	44.7	46.5	41.2
70歳以上	59.9	62.3	62.8	64.2	61.1	58.7	53.0	53.3	57.4

女性	平成 29年	30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
全体	47.7	47.5	50.1	50.9	43.1	41.6	36.9	43.1	43.1
18～19歳	—	—	—	—	28.9	31.4	22.8	38.3	39.2
20代	34.8	33.8	40.9	45.7					
30代	34.7	41.8	43.2	43.8	29.3	22.8	27.4	31.3	24.2
40代	47.1	36.6	43.9	50.0	39.5	32.2	37.9	47.5	40.0
50代	41.6	48.8	51.0	48.0	47.3	41.3	41.1	43.7	44.4
60代	58.2	44.8	54.2	47.2	35.4	42.5	34.2	40.0	49.6
70歳以上	55.5	63.9	57.3	61.1	56.0	57.0	44.7	47.7	48.5

3 足立区を人に勧めたい

全体	平成 29年	30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
	47.6	48.2	51.8	50.5	44.5	41.7	39.6	44.4	47.1

(%)

男性	平成 29年	30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
全体	49.6	52.6	54.2	54.8	47.9	43.5	39.8	46.5	49.0
18～19歳	—	—	—	—	40.3	34.3	32.2	53.8	46.2
20代	42.1	59.3	46.4	42.4					
30代	49.0	47.7	62.2	68.6	34.6	46.3	40.9	51.5	51.8
40代	56.9	51.9	55.0	52.7	51.1	45.8	38.6	44.9	57.4
50代	52.0	53.5	57.8	51.3	51.1	39.5	40.8	46.2	51.9
60代	38.0	50.4	49.6	54.3	48.9	39.6	40.4	40.7	41.2
70歳以上	55.3	53.8	53.2	58.3	51.6	48.8	41.6	46.2	46.6

女性	平成 29年	30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
全体	46.5	44.7	49.8	47.7	41.5	40.2	39.6	42.9	45.8
18～19歳	—	—	—	—	38.6	40.0	32.7	51.9	48.6
20代	43.5	36.4	43.9	46.7					
30代	42.4	48.2	53.4	50.9	48.5	36.8	45.1	47.5	42.9
40代	47.6	37.2	52.2	52.4	37.1	38.1	41.9	52.5	49.5
50代	42.2	47.5	55.0	43.0	46.0	37.4	47.4	45.7	52.1
60代	53.2	44.8	49.2	38.7	36.9	38.6	36.7	36.0	48.0
70歳以上	47.3	49.8	45.1	52.3	42.1	45.4	34.9	35.4	39.6

第2章 調査結果の要約

4 足立区を良いまちにするために何かしたい

全体	平成 30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
	52.3	52.8	54.0	51.7	48.1	45.5	49.9	52.2

(%)

男性	平成 30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
全体	53.5	54.1	56.4	52.2	48.1	46.8	52.5	54.2
18～19歳	—	—	—	45.8	40.3	39.0	59.6	56.4
20代	45.8	39.1	44.1					
30代	52.3	56.1	57.1	44.4	47.8	43.9	62.1	55.4
40代	60.5	57.5	54.0	57.1	55.8	49.1	66.3	55.3
50代	57.4	58.8	57.0	56.7	50.0	49.3	53.8	61.5
60代	46.5	47.9	58.1	58.0	45.0	47.9	43.0	46.1
70歳以上	53.8	56.9	59.8	47.9	46.8	46.5	44.7	51.7

女性	平成 30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
全体	51.9	51.8	52.2	51.9	48.1	44.9	48.1	50.8
18～19歳	—	—	—	54.2	41.4	42.6	45.7	51.4
20代	41.6	39.4	41.3					
30代	54.5	51.7	58.0	58.6	43.9	48.7	51.3	41.8
40代	52.5	63.7	58.4	53.9	48.3	50.8	61.9	65.3
50代	52.5	60.4	53.6	58.7	58.1	49.7	57.0	51.4
60代	59.4	45.8	49.3	53.8	55.9	45.8	44.0	57.5
70歳以上	48.5	45.1	49.8	42.9	41.8	37.6	37.9	44.3

5 足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

全体	平成 30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
	75.7	75.3	77.7	74.0	70.7	69.8	73.0	76.2

(%)

男性	平成 30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
全体	75.1	75.0	77.5	71.8	70.7	69.2	71.8	77.1
18～19歳	—	—	—	66.7	59.7	62.7	67.3	69.2
20代	64.4	59.4	67.8					
30代	76.7	79.3	82.9	61.7	68.7	57.6	74.2	71.4
40代	76.7	80.0	75.3	78.9	77.5	71.9	78.7	83.0
50代	78.3	80.3	77.2	72.3	73.4	77.5	74.8	81.5
60代	75.2	72.7	76.7	80.2	69.4	67.0	62.8	74.5
70歳以上	74.5	72.9	80.9	66.8	70.1	68.6	71.4	75.6

女性	平成 30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
全体	76.4	75.6	77.8	76.4	70.9	70.3	74.2	75.7
18～19歳	—	—	—	72.3	68.6	66.3	71.6	68.9
20代	61.0	66.7	66.3					
30代	79.1	71.2	81.3	80.8	67.5	72.6	71.3	69.2
40代	80.3	80.3	84.3	80.2	66.1	76.6	82.2	87.4
50代	79.0	83.2	77.7	82.0	81.3	76.0	78.8	78.2
60代	82.5	75.0	81.7	75.4	78.0	72.5	76.0	81.1
70歳以上	71.7	72.8	74.1	70.7	65.3	63.1	68.3	71.1

区政の満足度と正の相関がみられる／暮らしやすさ／定住意向／情報の入手／治安

※各割合(%)は全体(1,375)に対する割合となっています。

1 「区政に満足している層」は<暮らしやすい>と感じている

		＜区政満足度＞					
		満足	やや満足	やや不満	不満	無回答	
＜暮らしやすさ＞		14. 5	65. 7	13. 0	2. 5	4. 2	(%)
暮らしやすい		9. 9	17. 5	0. 7	0. 1	1. 1	
どちらかといえば暮らしやすい		3. 6	42. 5	7. 9	1. 1	2. 5	
どちらかといえば暮らしにくい		0. 7	4. 6	3. 3	0. 8	0. 2	
暮らしにくい		0. 0	0. 3	0. 7	0. 6	0. 1	
《暮らしやすい・計》		73. 5		9. 8			

2 「区政に満足している層」は<住み続けたい>と考えている

		＜区政満足度＞					
		満足	やや満足	やや不満	不満	無回答	
＜定住意向＞		14. 5	65. 7	13. 0	2. 5	4. 2	(%)
ずっと住み続けたい		9. 8	24. 5	2. 0	0. 1	2. 1	
当分は住み続けたい		3. 9	33. 5	6. 1	0. 7	1. 5	
区外に転出したい		0. 2	2. 3	1. 5	0. 9	0. 1	
わからない		0. 4	4. 9	3. 2	0. 7	0. 3	
《住み続けたい・計》		71. 7		8. 9			

3 「区政に満足している層」は<区の情報が得られている>

		＜区政満足度＞					
		満足	やや満足	やや不満	不満	無回答	
＜区の情報の入手状況＞		14.5	65.7	13.0	2.5	4.2	(%)
十分に得られている		2.5	2.3	0.2	0.1	0.1	
ある程度得られている		10.0	46.8	6.8	0.9	2.3	
得られないことが多い		1.0	7.6	2.8	0.4	0.8	
まったく得られない		0.1	1.0	0.6	0.5	0.1	
必要と思ったことがない		0.5	5.0	1.5	0.2	0.2	
区の情報に関心がない		0.1	1.6	1.1	0.2	0.1	
《情報が得られている・計》		61.6		8.0			

4 「区政に満足している層」は<地域の治安が良い>と感じている

		＜区政満足度＞				
		満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
＜地域の治安状況＞		14.5	65.7	13.0	2.5	4.2
良い		4.2	6.3	0.3	0.1	0.1
どちらかといえば良い		7.6	39.5	3.9	0.6	1.4
どちらかといえば悪い		1.2	12.9	5.2	0.7	1.1
悪い		0.1	1.1	1.0	0.8	0.1
わからない		0.4	4.7	2.3	0.3	0.8
《地域の治安が良い・計》		57.6		4.9		

第3章 調査結果の分析

1 定 住 性

-
- (1) 居住地域の評価
 - (2) 地域の暮らしやすさ
 - (3) 特に暮らしにくいと感じること
 - (4) 定住意向
-

1 定住性

(1) 居住地域の評価

問1 あなたは、お住まいの地域について、どのように感じていますか

(○はそれぞれ1つずつ)。

■〈普段の買い物が便利である〉が約8割、〈落書きが減少したと感じる〉が7割台半ば

ア 単純集計・経年比較／居住地域の評価

(ア) 住んでいる地域について感じていることについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の高い順でみると、以下のとおりである。

- ① 〈普段の買い物が便利である〉(79.4%)
- ② 〈落書きが減少したと感じる〉(73.2%)
- ③ 〈通勤や通学などの交通の便が良い〉(72.4%)
- ④ 〈快適で安全なまちである〉(63.6%)

(イ) 「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【そう思わない】の高い順でみると、以下のとおりである。

- ① 〈自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる〉(62.3%)
- ② 〈文化芸術に親しめるまちである〉(49.0%)
- ③ 〈景観・街並みが良好である〉(36.7%)

(ウ) 前回調査と比較可能な15項目について、【そう思う】の増減を見ると、15項目のうち13項目で増加しており、増加幅が大きい上位5項目は以下のとおりである。なお、減少している項目は〈ごみがなく地域がきれいになったと感じる〉(-3.0ポイント)、〈国籍、文化などが異なる人々がともに暮らしやすいまちである〉(-0.3ポイント)の2項目となっている。

- ① 〈地域の人々が、日常生活で高齢者や障がいのある方などに配慮している〉(6.6ポイント)
- ② 〈地域の施設(建物や道路など)は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている〉(5.4ポイント)
- ③ 〈子育て環境(保育所、学童クラブなど)が整っている〉(4.9ポイント)
- ④ 〈男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている〉(4.3ポイント)
- ⑤ 〈「障がい者」「子ども」「女性」「インターネットによる人権侵害」について、偏見や差別がない〉(4.1ポイント)

第3章 調査結果の分析〈定住性〉

図1-1-1-① 経年比較／居住地域の評価

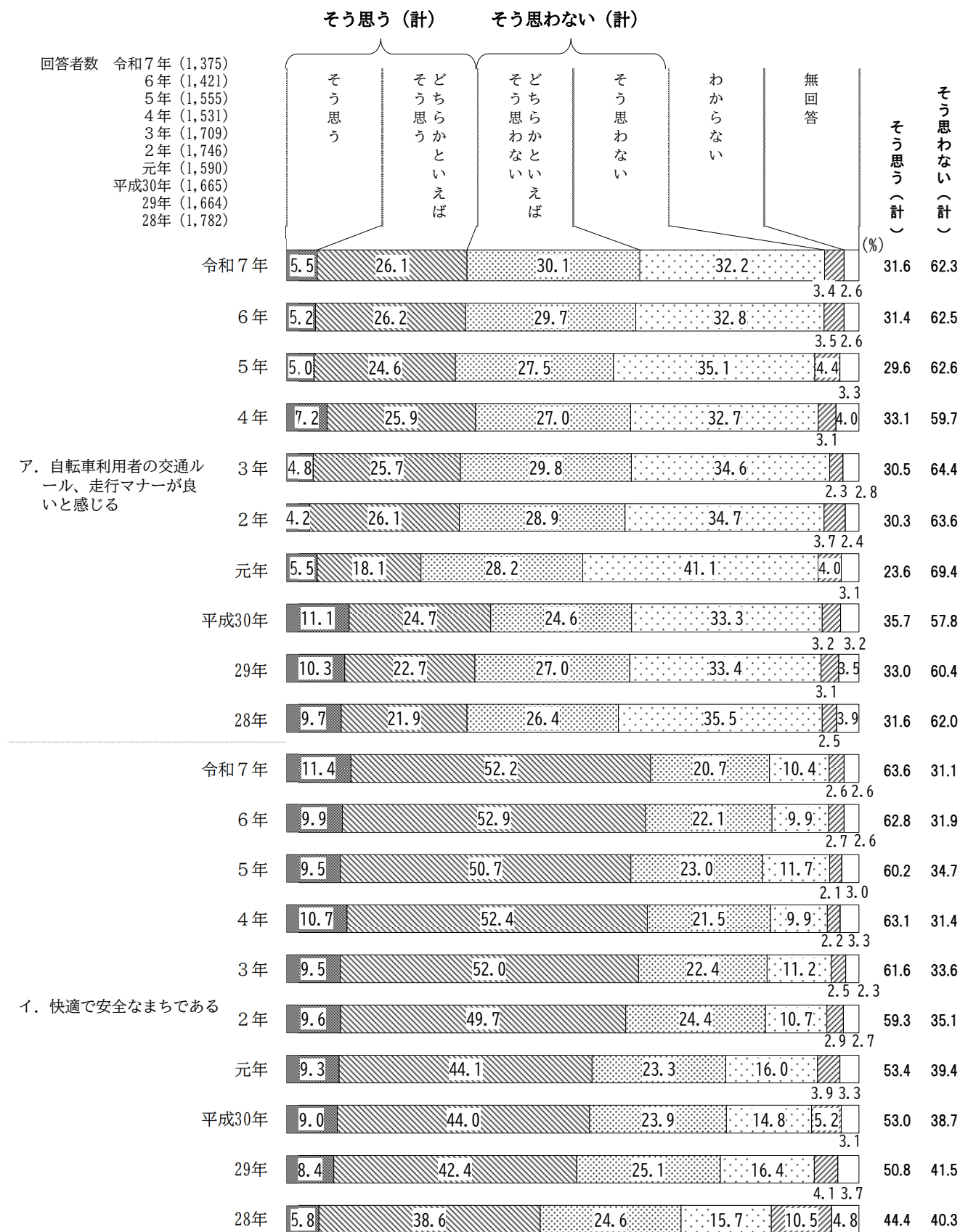


図1-1-1-② 経年比較／居住地域の評価

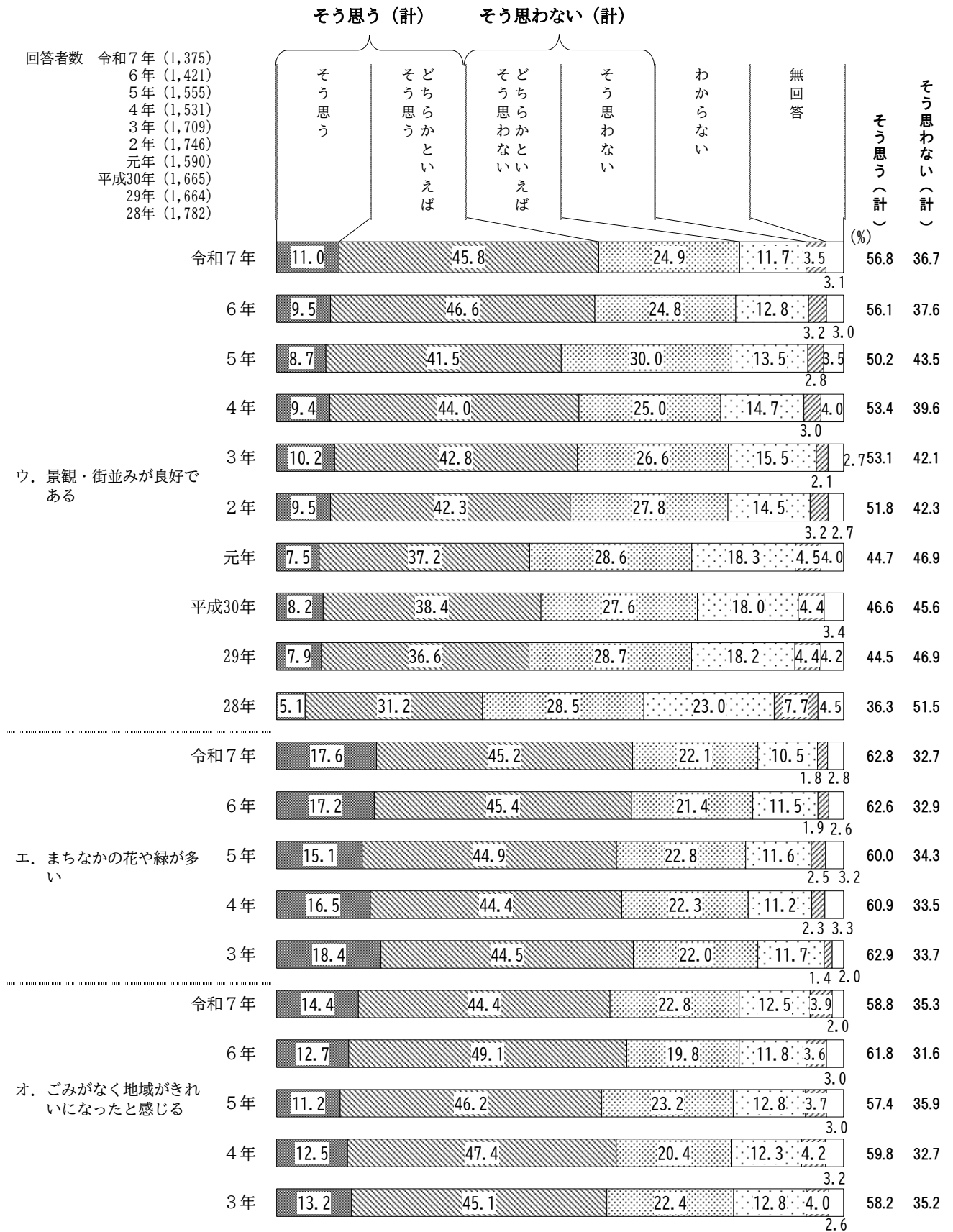


図1-1-1-③ 経年比較／居住地域の評価

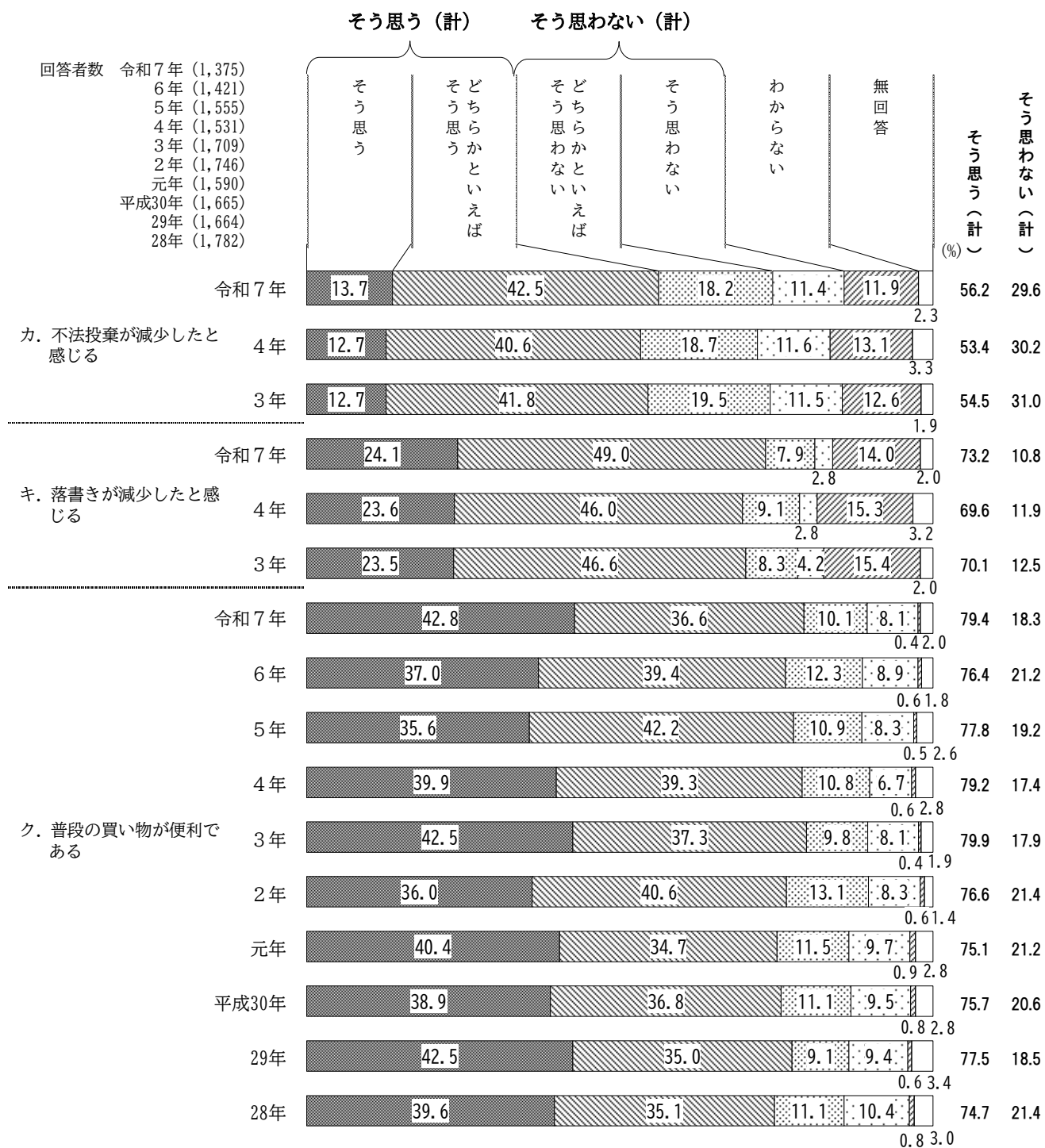


図1-1-1-④ 経年比較／居住地の評価

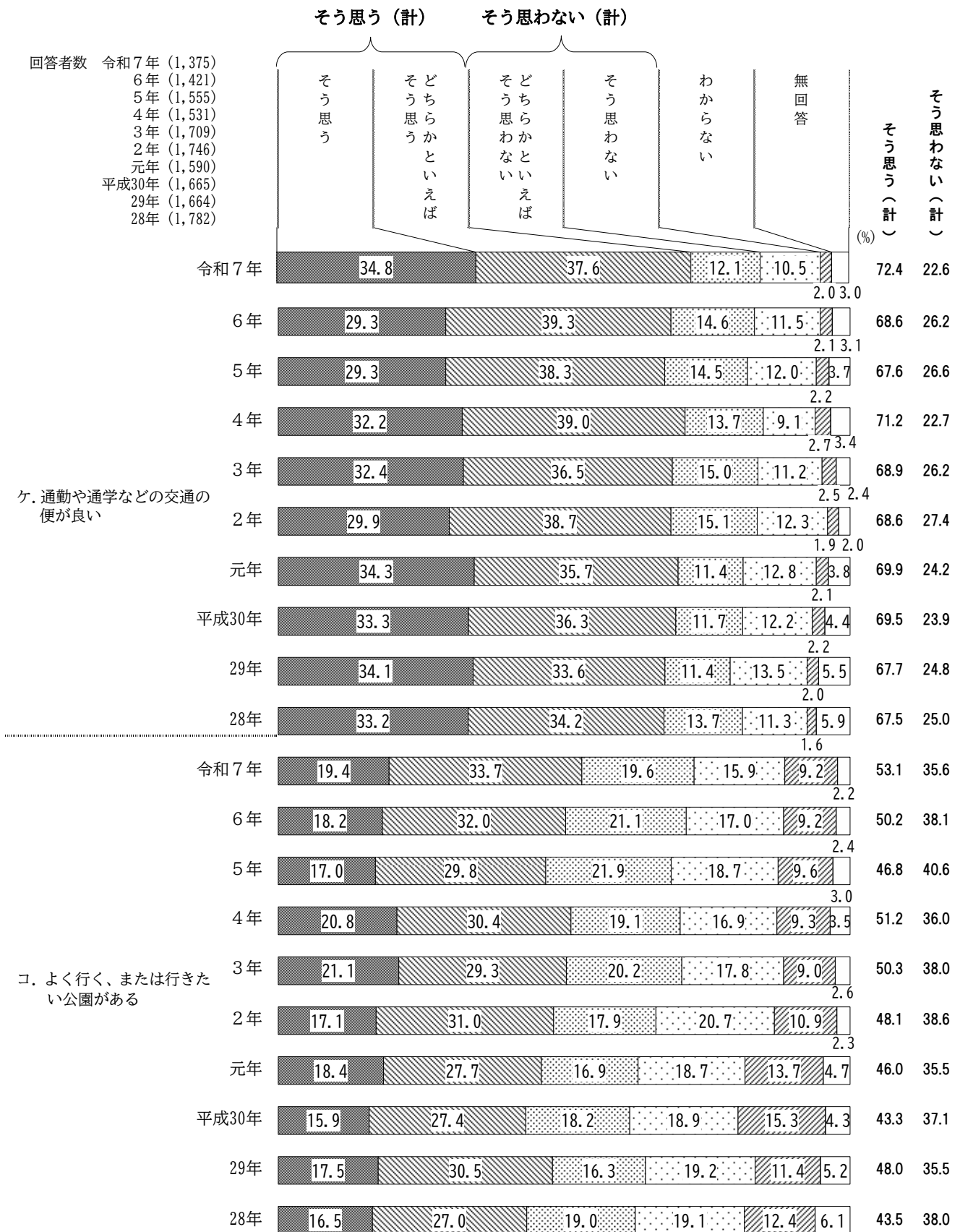


図1-1-1-⑤ 経年比較／居住地域の評価

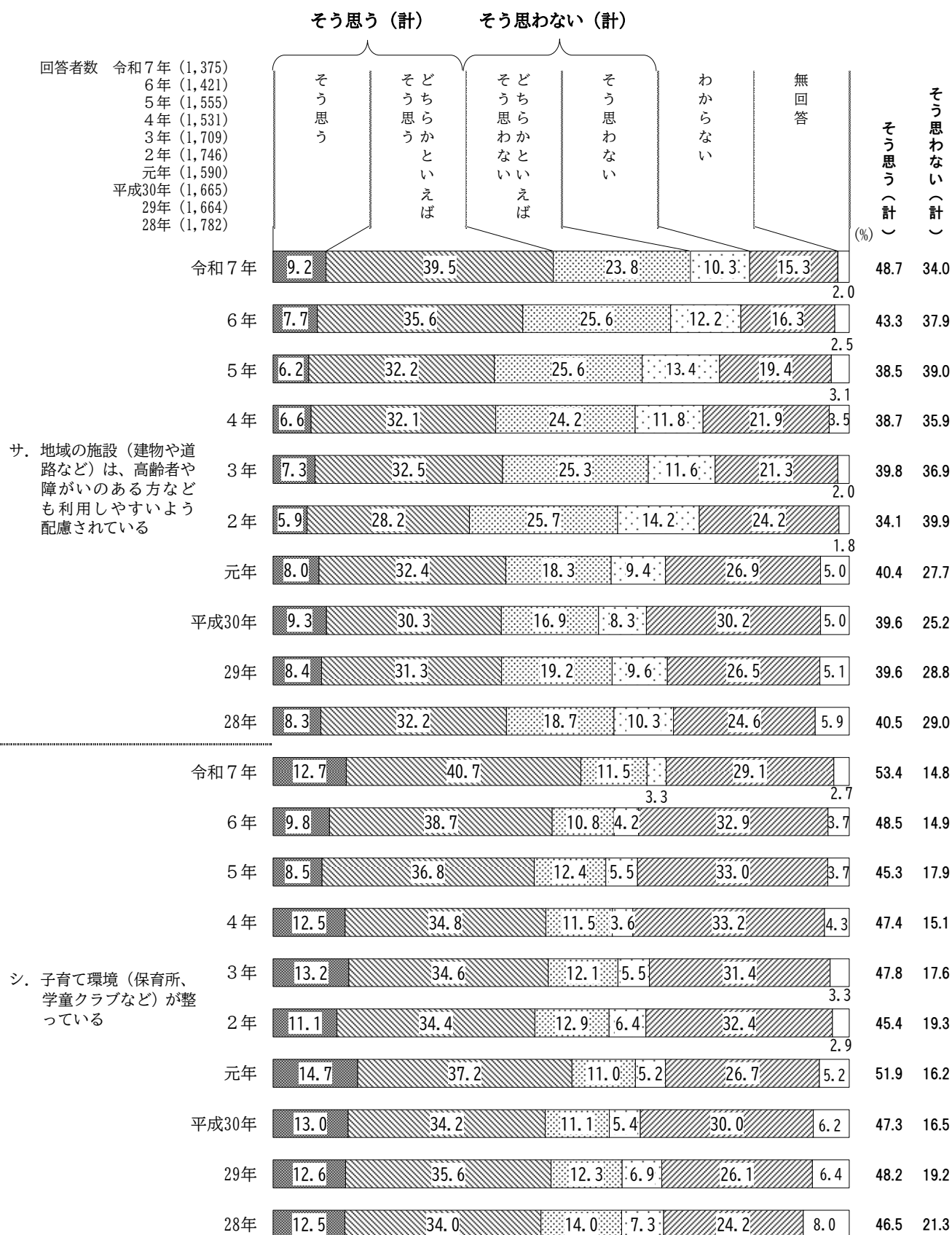


図1-1-1-⑥ 経年比較／居住地域の評価

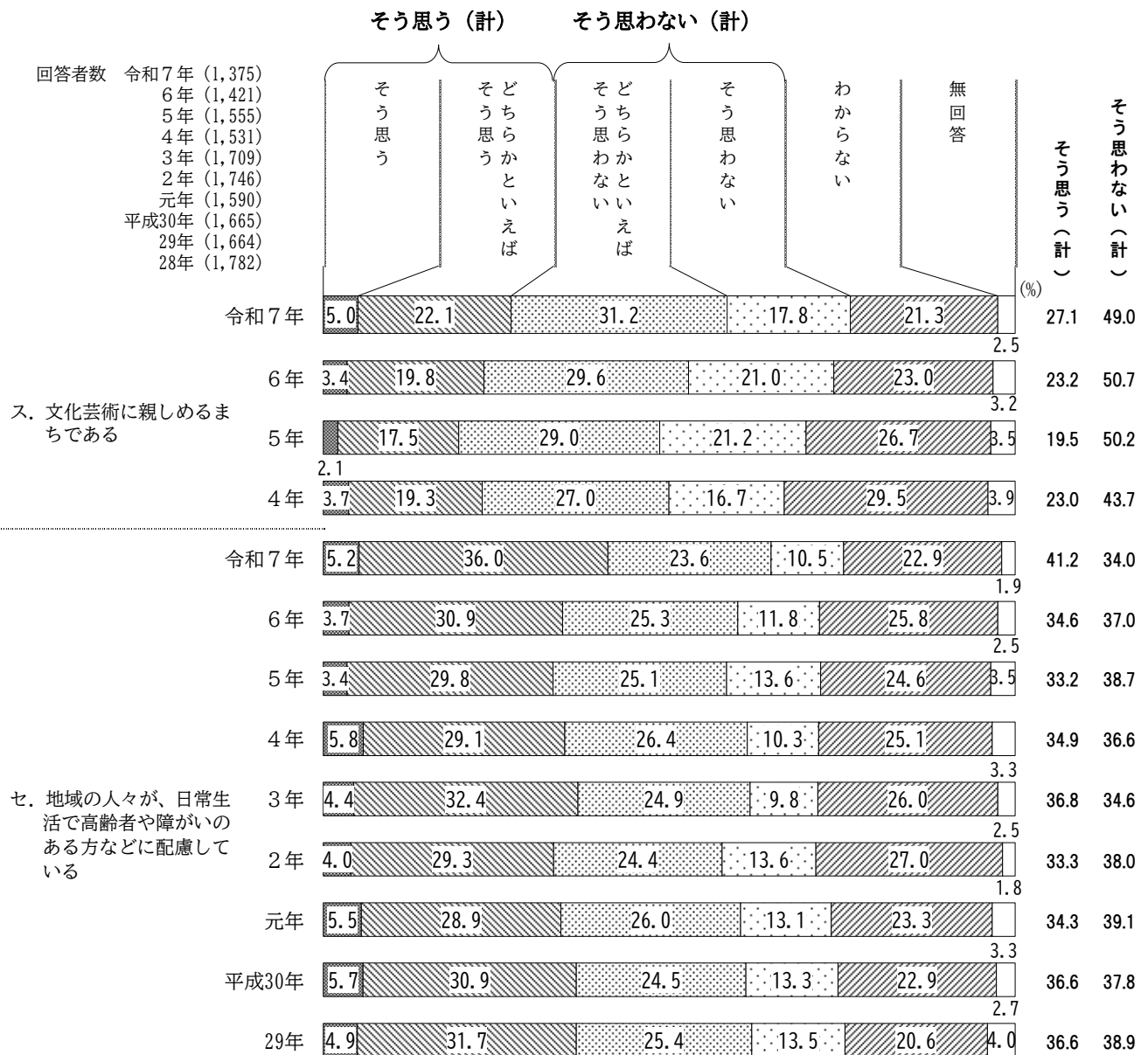


図1-1-1-⑦ 経年比較／居住地域の評価

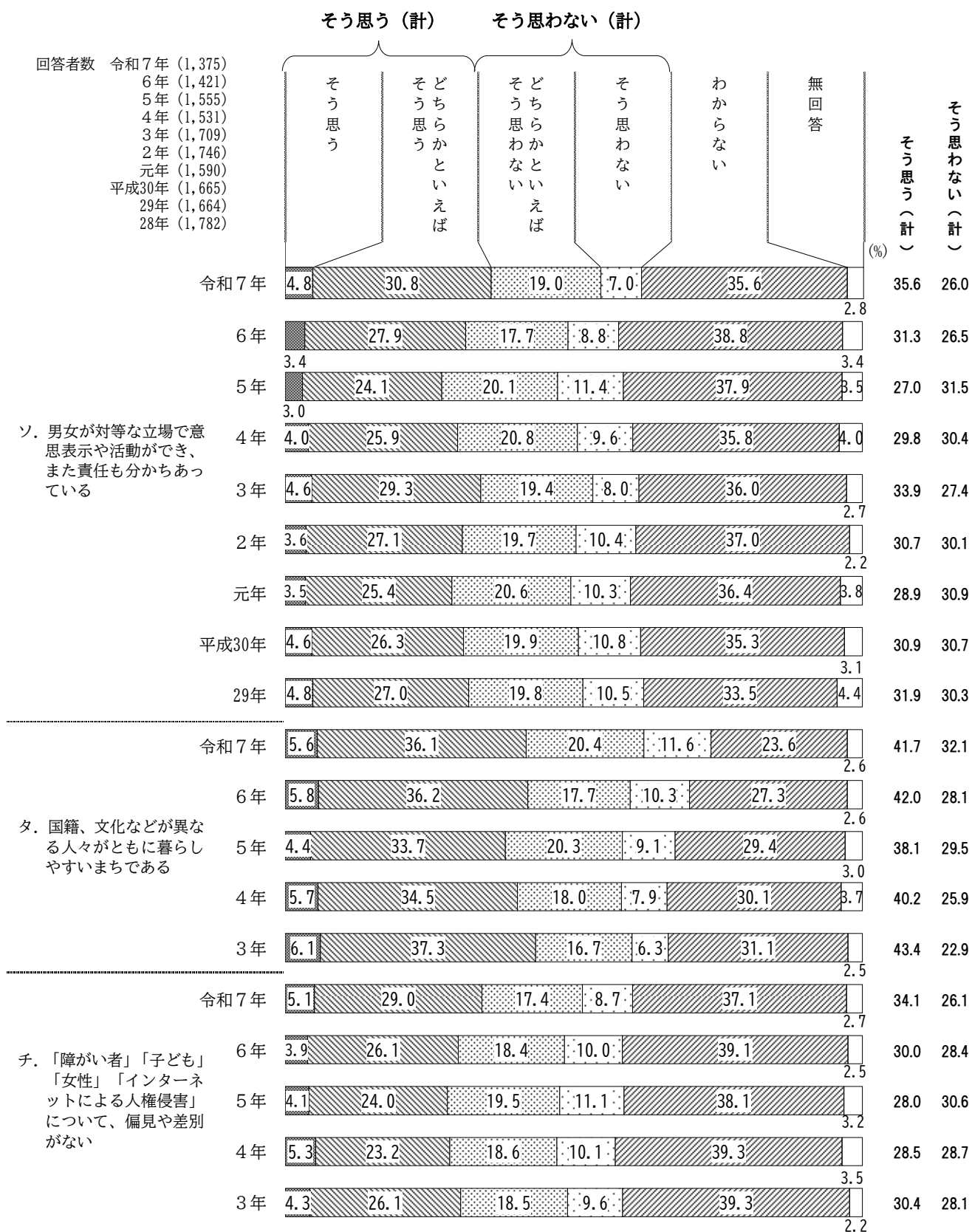
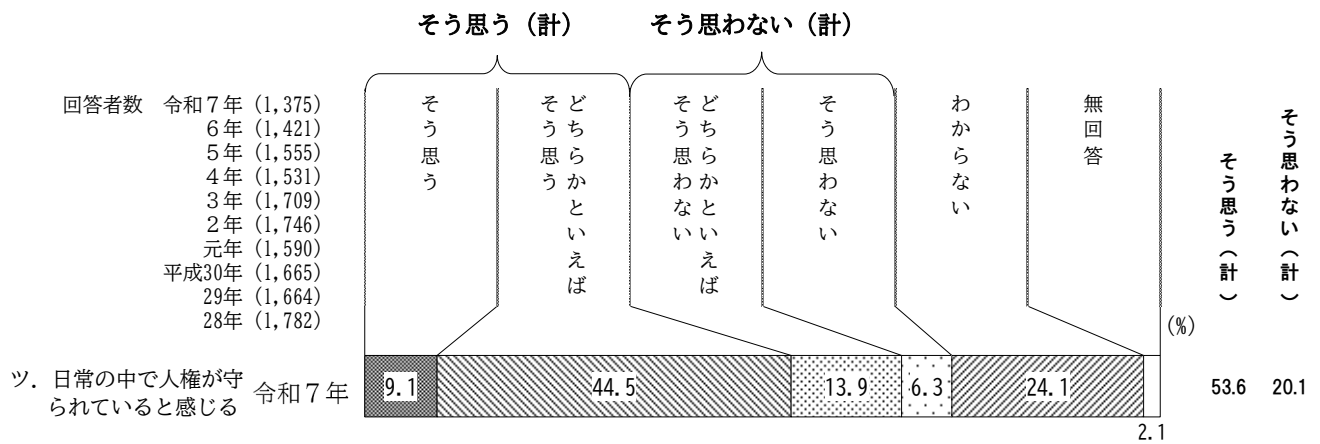


図1-1-1-⑧ 単純集計／居住地域の評価



- ※ アは、令和元年度「自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている」から表現をかえた。
- ※ イは、平成28年度「快適で安全なまちづくりが進められている」から表現をかえた。
- ※ ウは、平成28年度「景観・街並みが魅力的になってきている」から表現をかえた。
- ※ カは、令和3年度から聴取しているが、令和5、6年度では聴取していない。
- ※ キは、令和3年度から聴取しているが、令和5、6年度では聴取していない。
- ※ サは、令和2年度「地域の施設」の部分で「地域の施設（建物や道路など）」に表現をかえた。
- ※ チは、令和7年度に「人権課題である「障がい者」「子ども」「女性」「インターネットによる人権侵害」について、偏見や差別がない」から「「障がい者」「子ども」「女性」「インターネットによる人権侵害」について、偏見や差別がない」に表現をかえた。

イ クロス集計・地域別／居住地域の評価／

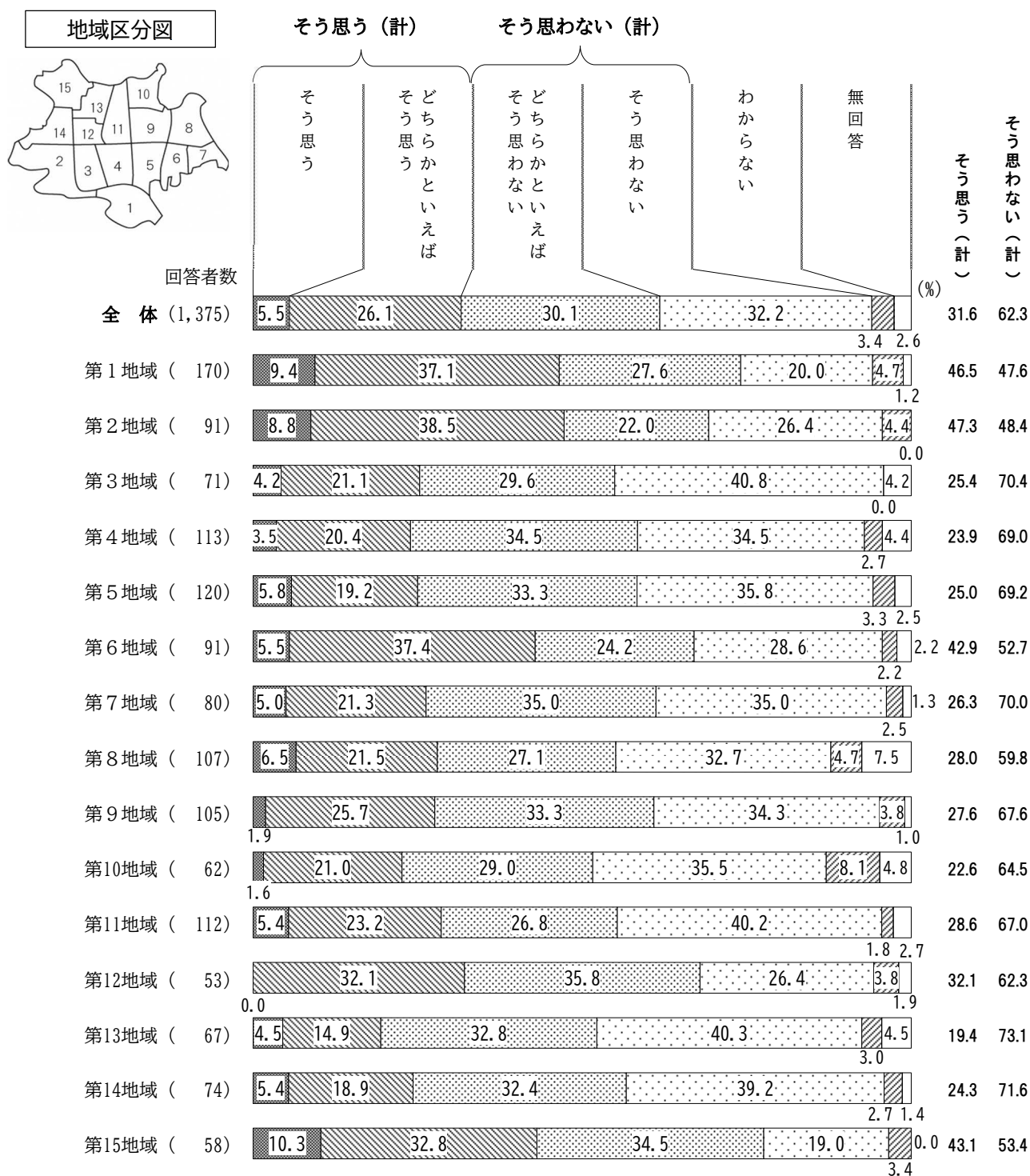
自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる

次に、各項目について、地域別でみた。

〈自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる〉について、【そう思う】は第2地域で47.3%と最も高く、次いで第1地域が46.5%となっている。一方、【そう思わない】は第13地域で73.1%と最も高く、次いで第14地域が71.6%となっている。

図1-1-2-① 地域別／居住地域の評価

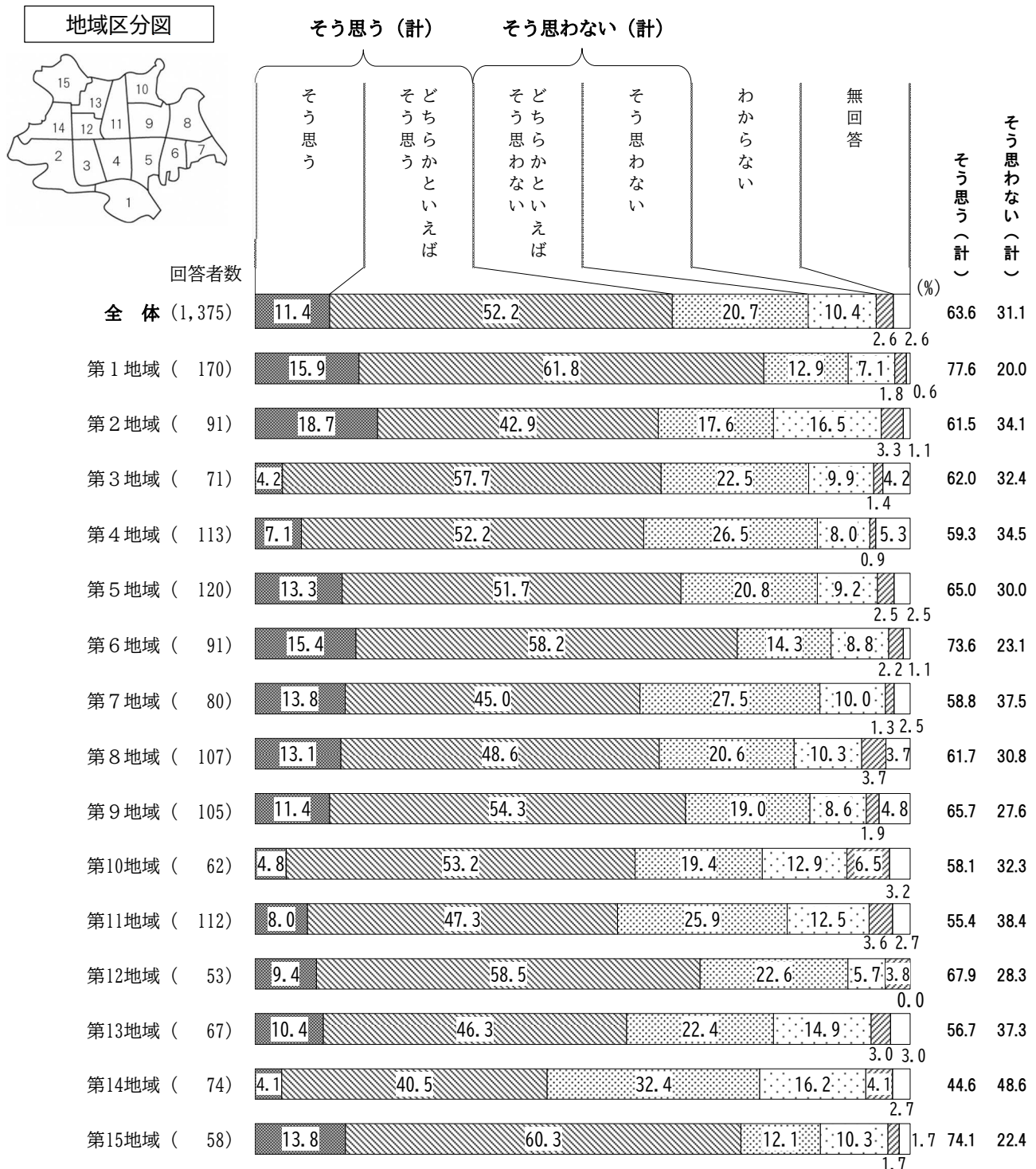
／自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる



ウ クロス集計・地域別／居住地域の評価／快適で安全なまちである

〈快適で安全なまちである〉について、【そう思う】は第1地域で77.6%と最も高く、次いで第15地域が74.1%となっている。一方、【そう思わない】は第14地域で48.6%と最も高く、次いで第11地域が38.4%となっている。

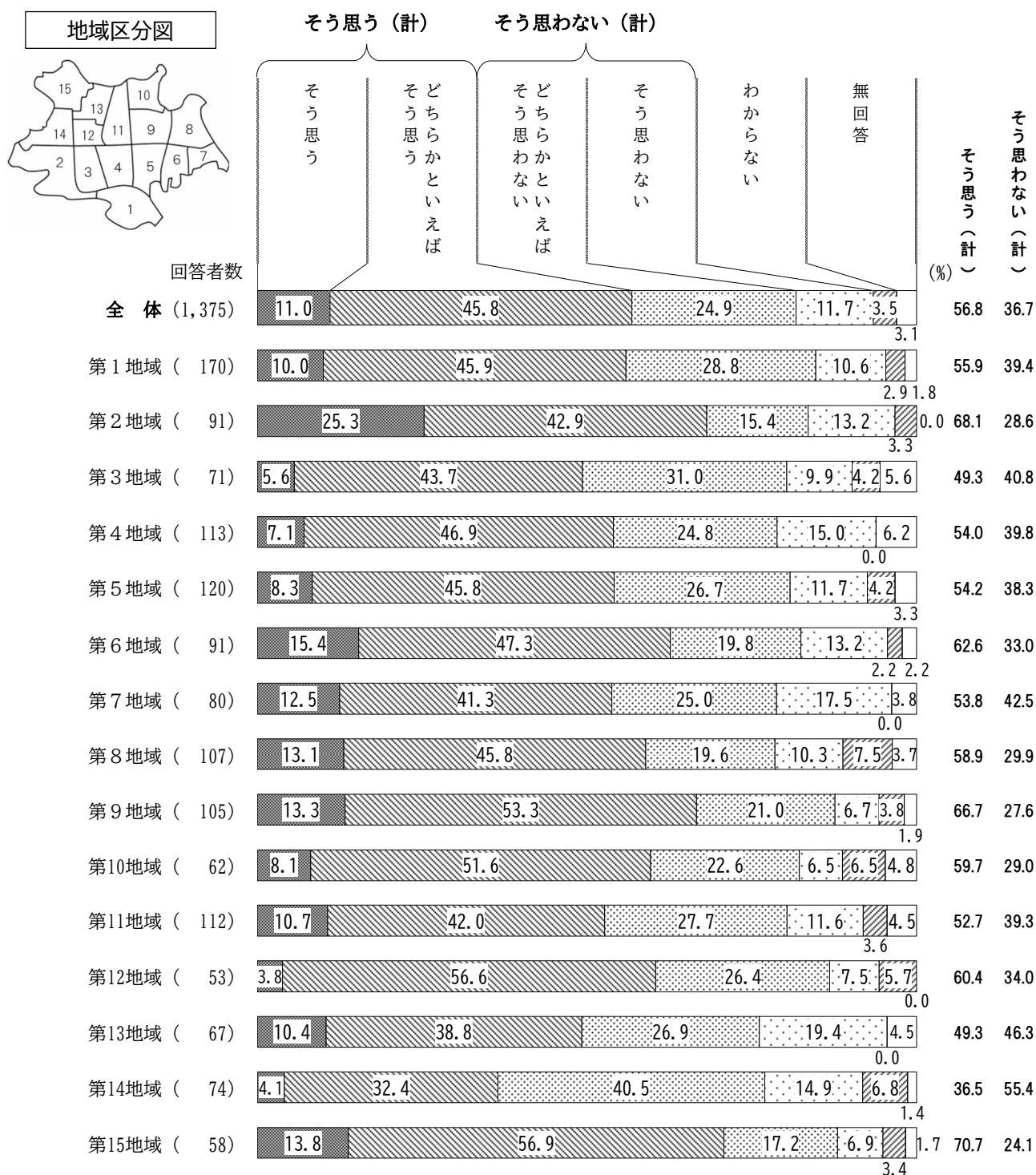
図1-1-2-② 地域別／居住地域の評価／快適で安全なまちである



エ クロス集計・地域別／居住地域の評価／景観・街並みが良好である

〈景観・街並みが良好である〉について、【そう思う】は第15地域で70.7%と最も高く、次いで第2地域が68.1%となっている。一方、【そう思わない】は第14地域で55.4%と最も高く、次いで第13地域が46.3%となっている。

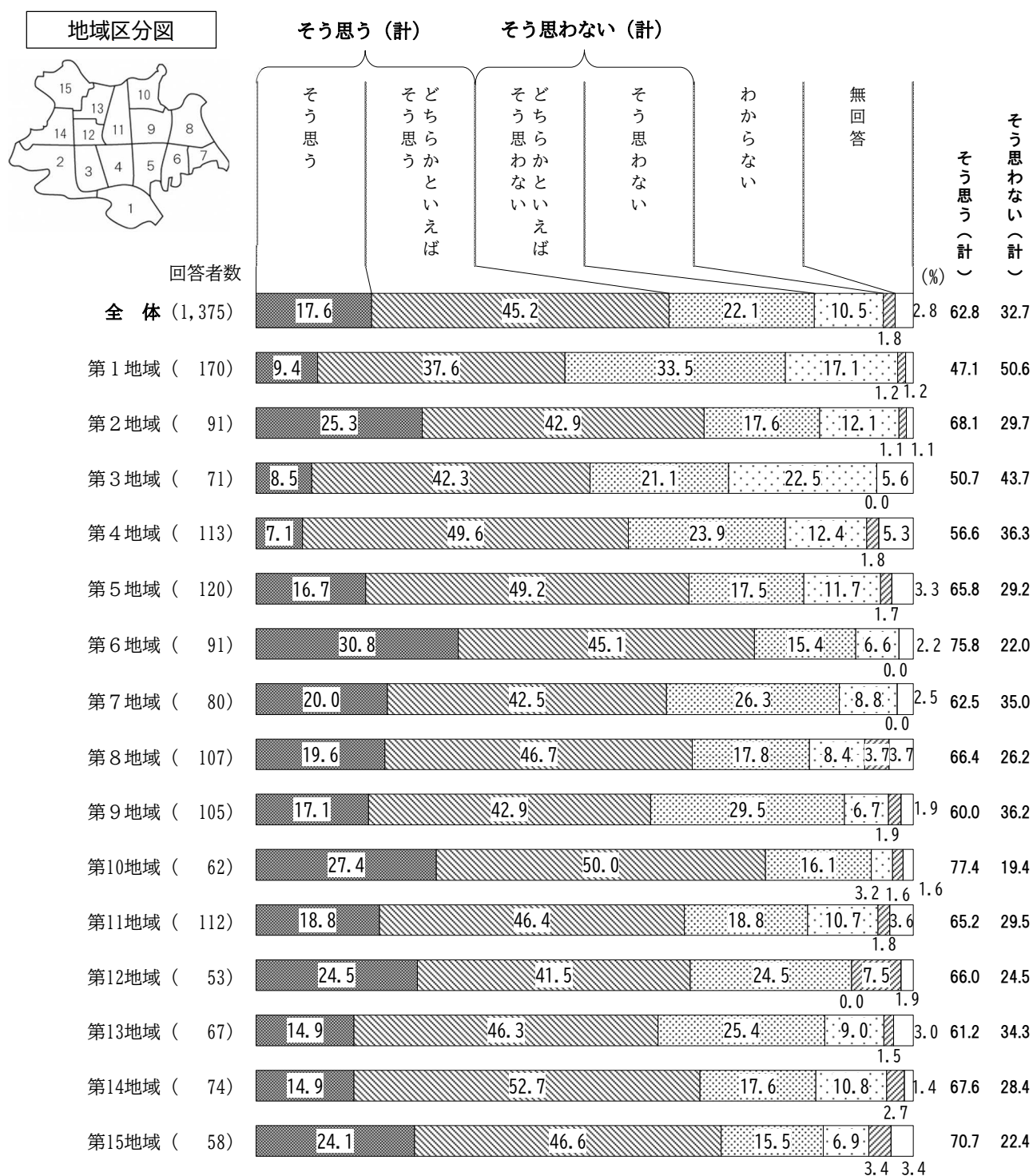
図1-1-2-③ 地域別／居住地域の評価／景観・街並みが良好である



オ クロス集計・地域別／居住地域の評価／まちなかの花や緑が多い

〈まちなかの花や緑が多い〉について、【そう思う】は第10地域が77.4%で最も高く、次いで第6地域が75.8%となっている。一方、【そう思わない】は第1地域で50.6%と最も高く、次いで第3地域が43.7%となっている。

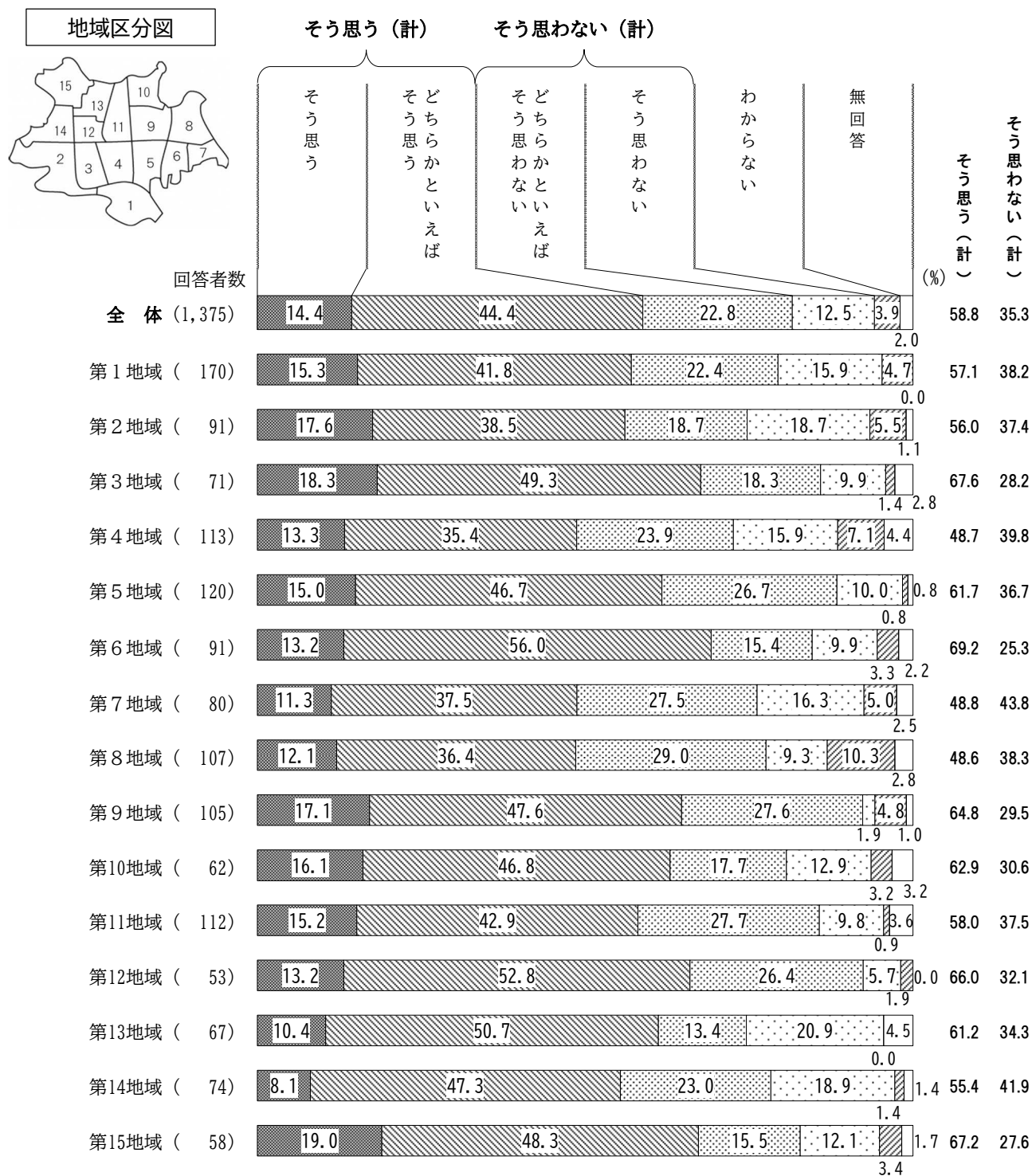
図1-1-2-④ 地域別／居住地域の評価／まちなかの花や緑が多い



カ クロス集計・地域別／居住地域の評価／ごみがなく地域がきれいになったと感じる

〈ごみがなく地域がきれいになったと感じる〉について、【そう思う】は第6地域が69.2%と最も高く、次いで第3地域が67.6%となっている。一方、【そう思わない】は第7地域で43.8%と最も高く、次いで第14地域が41.9%となっている。

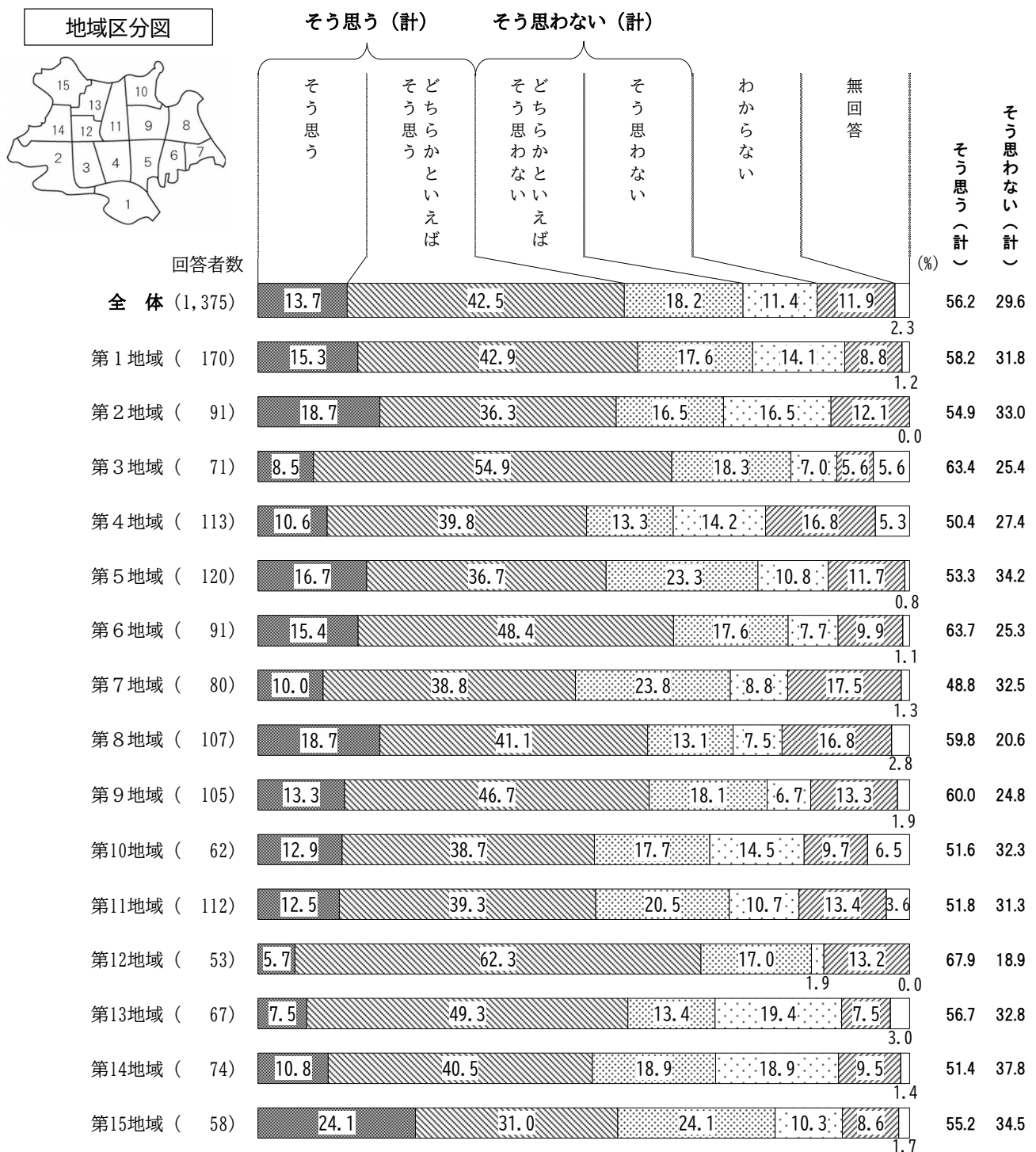
図1-1-2-⑤ 地域別／居住地域の評価／ごみがなく地域がきれいになったと感じる



キ クロス集計・地域別／居住地域の評価／不法投棄が減少したと感じる

〈不法投棄が減少したと感じる〉について、【そう思う】は第12地域で67.9%と最も高く、次いで第6地域が63.7%となっている。一方、【そう思わない】は第14地域で37.8%と最も高く、次いで第15地域が34.5%となっている。

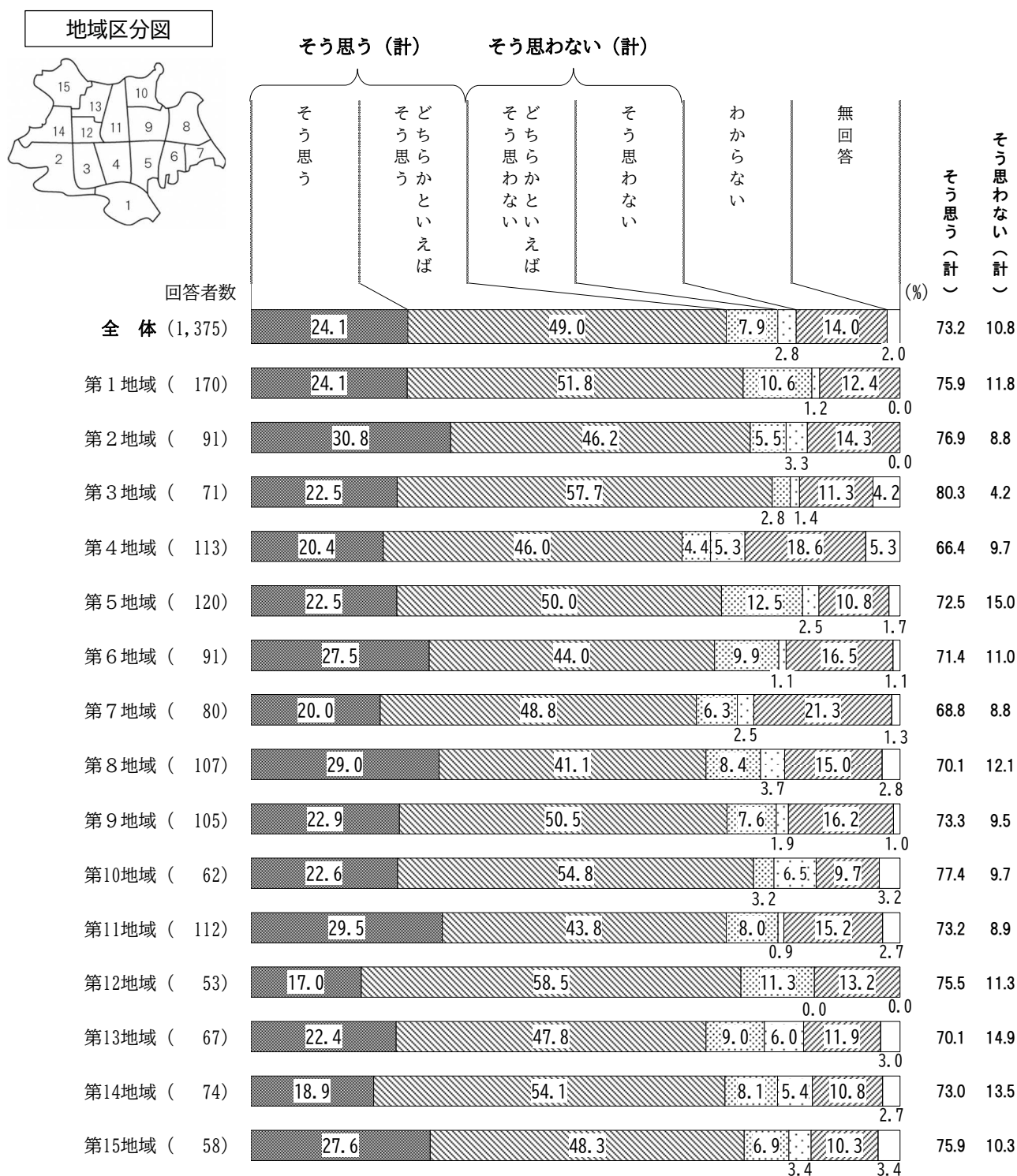
図1-1-2-⑥ 地域別／居住地域の評価／不法投棄が減少したと感じる



ク クロス集計・地域別／居住地域の評価／落書きが減少したと感じる

〈落書きが減少したと感じる〉について、【そう思う】は第3地域で80.3%と最も高く、次いで第10地域が77.4%となっている。一方、【そう思わない】は第5地域で15.0%と最も高く、次いで第13地域が14.9%となっている。

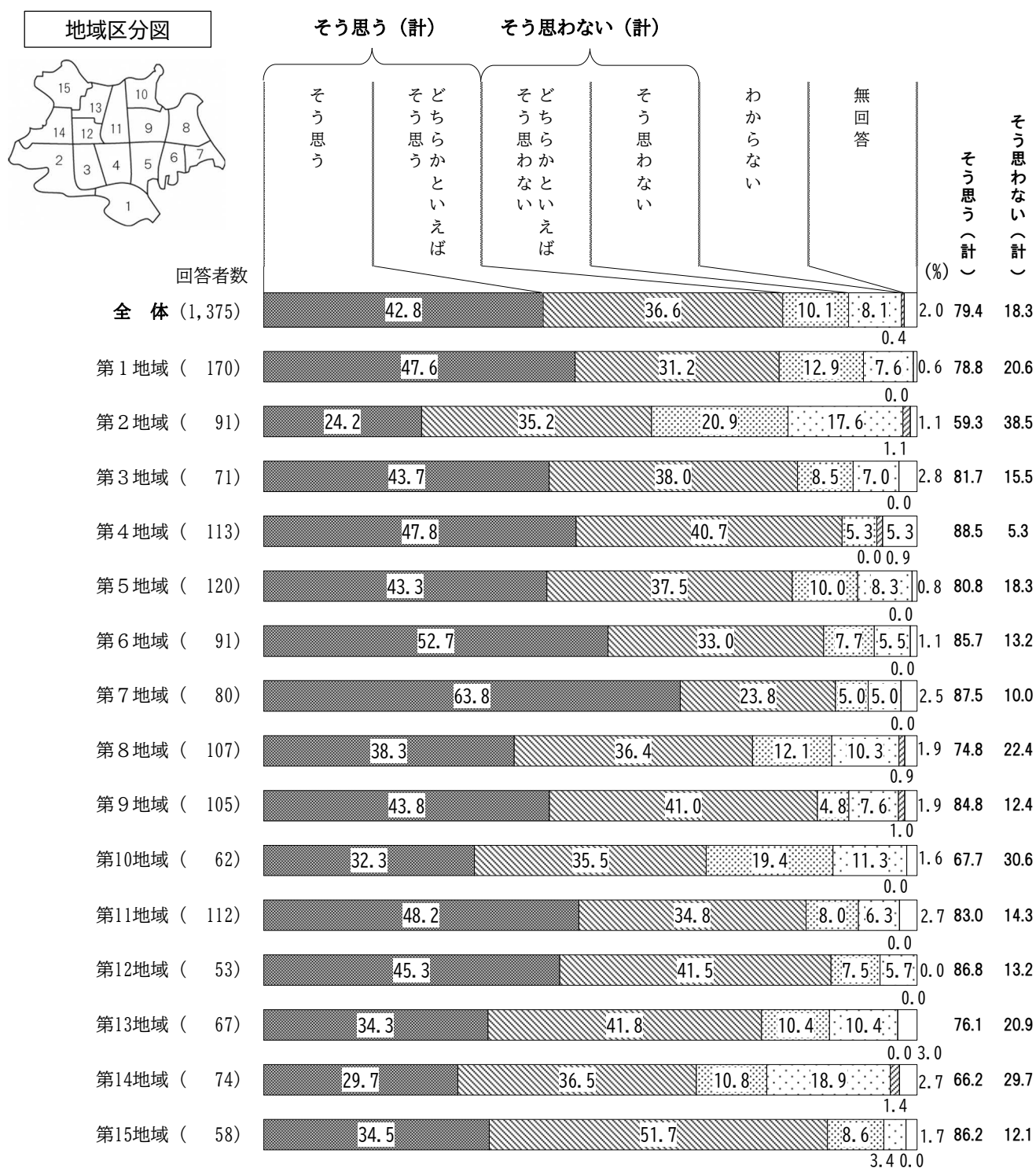
図1-1-2-⑦ 地域別／居住地域の評価／落書きが減少したと感じる



ケ クロス集計・地域別／居住地域の評価／普段の買い物が便利である

〈普段の買い物が便利である〉について、【そう思う】は第4地域が88.5%で最も高く、次いで第7地域で87.5%となっている。一方、【そう思わない】は第2地域が38.5%で最も高く、次いで第10地域が30.6%となっている。

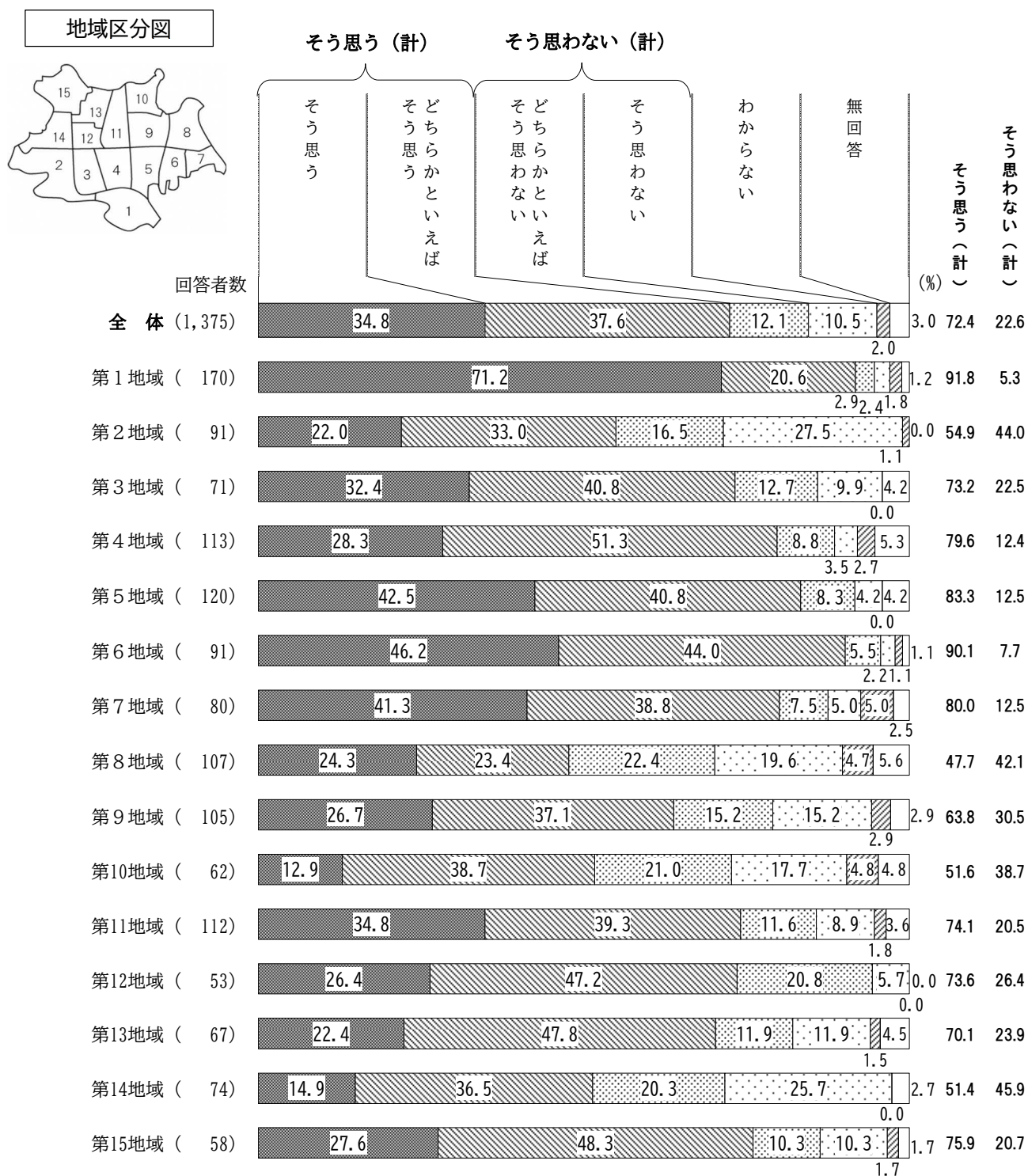
図1-1-2-⑧ 地域別／居住地域の評価／普段の買い物が便利である



コ クロス集計・地域別／居住地域の評価／通勤や通学などの交通の便が良い

〈通勤や通学などの交通の便が良い〉について、【そう思う】は第1地域が91.8%と最も高く、次いで第6地域が90.1%となっている。一方、【そう思わない】は第14地域で45.9%と最も高く、次いで第2地域が44.0%となっている。

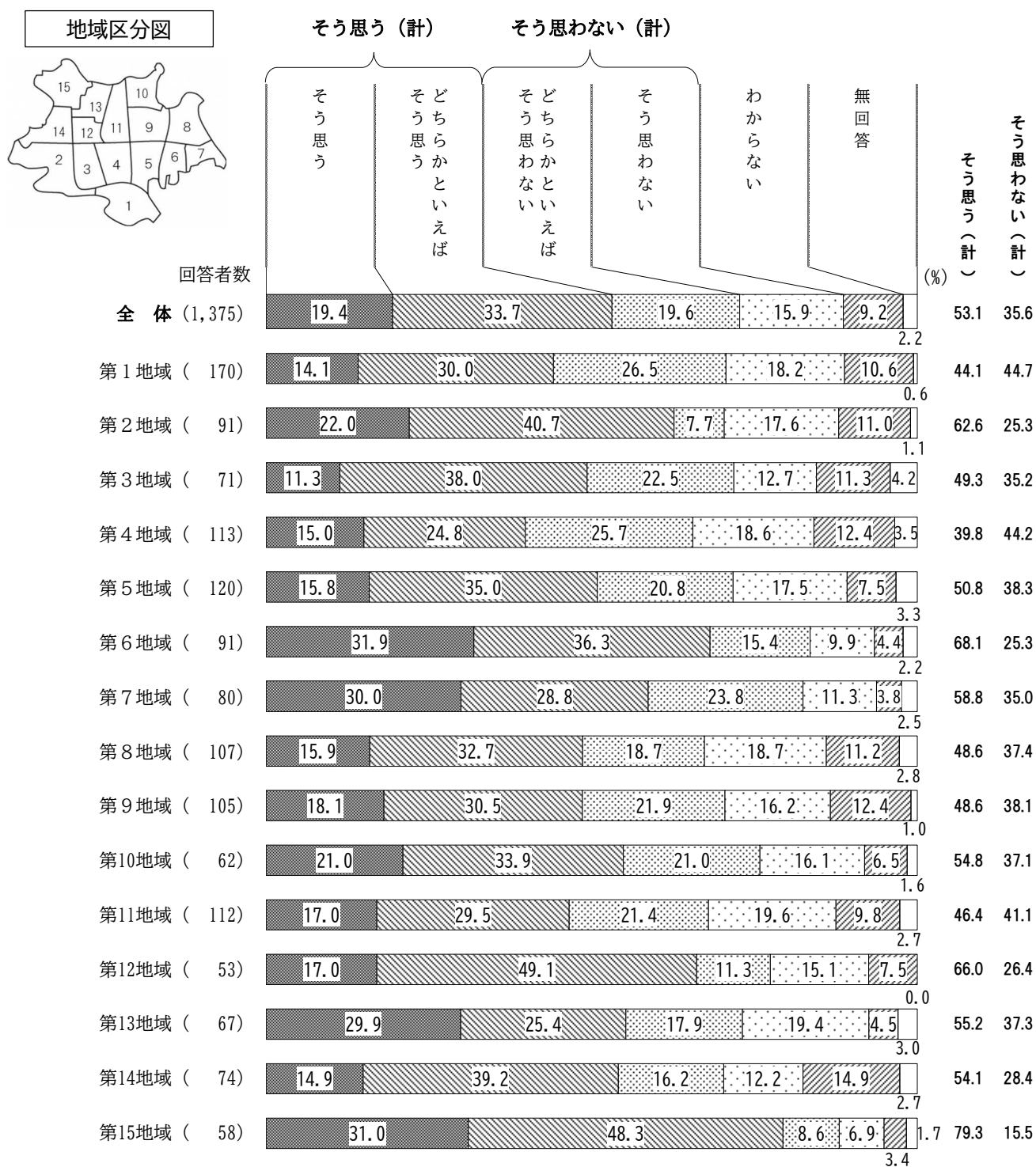
図1-1-2-⑨ 地域別／居住地域の評価／通勤や通学などの交通の便が良い



サ クロス集計・地域別／居住地域の評価／よく行く、または行きたい公園がある

〈よく行く、または行きたい公園がある〉について、【そう思う】は第15地域で79.3%と他の地域に比べて特に高く、次いで第6地域で68.1%となっている。一方、【そう思わない】は第1地域が44.7%と最も高く、次いで第4地域で44.2%となっている。

図1-1-2-⑩ 地域別／居住地域の評価／よく行く、または行きたい公園がある



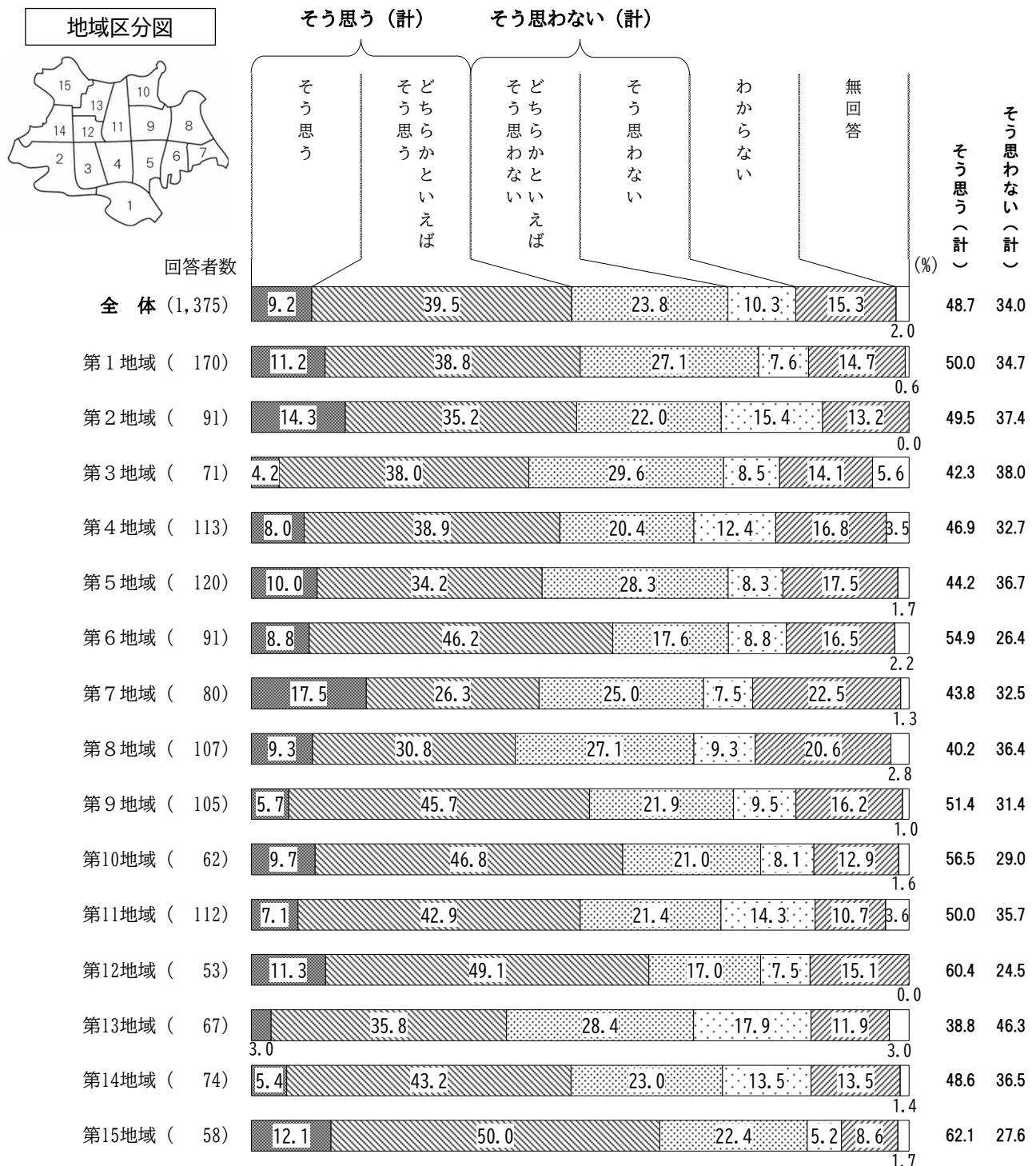
第3章 調査結果の分析〈定住性〉

シ クロス集計・地域別／居住地域の評価／地域の施設（建物や道路など）は、

高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている

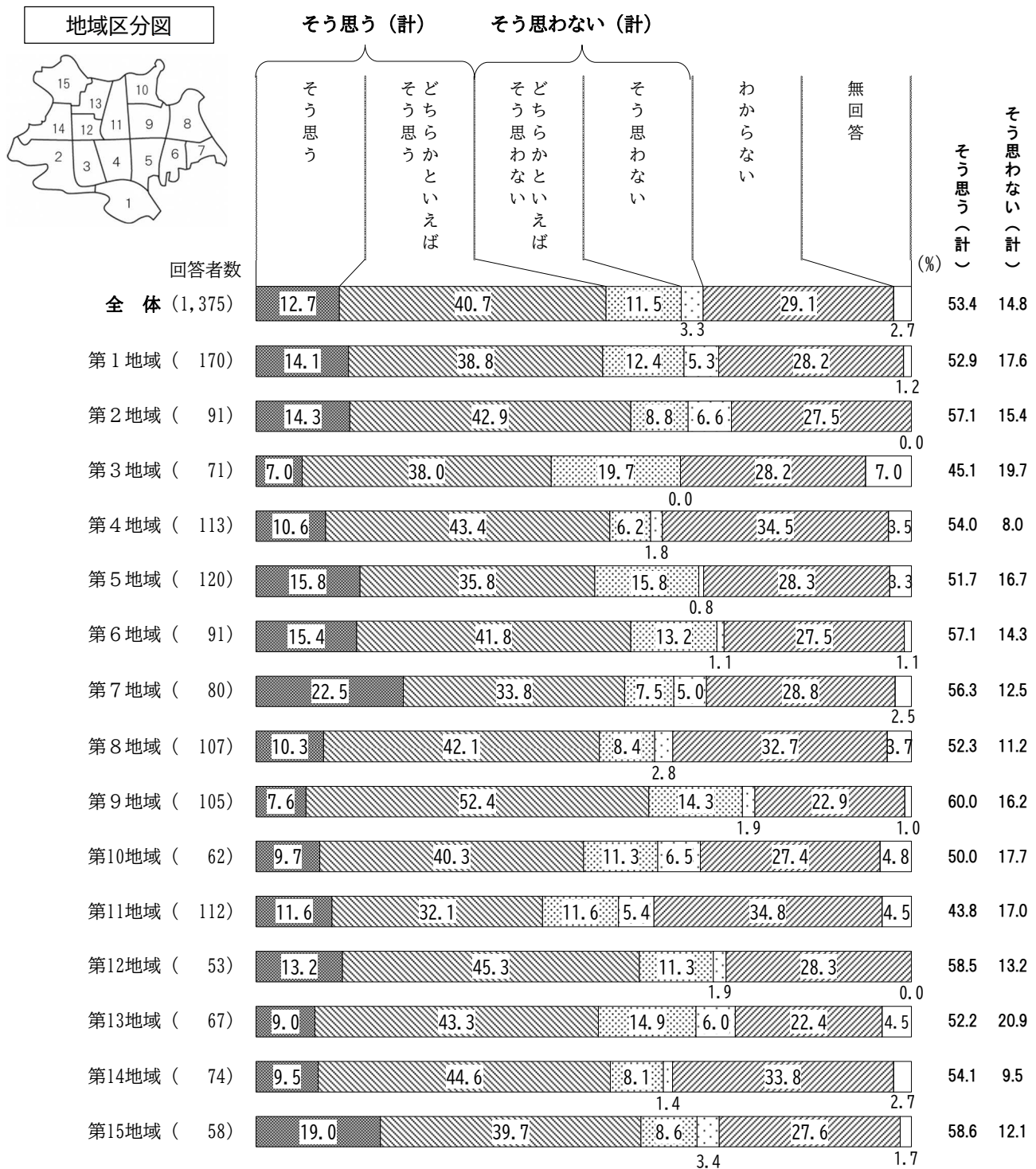
〈居住地域の評価／地域の施設（建物や道路など）は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている〉について、【そう思う】は第15地域で62.1%と最も高く、次いで第12地域が60.4%となっている。一方、【そう思わない】は第13地域で46.3%と最も高く、次いで第3地域が38.0%となっている。

図1-1-2-⑪ 地域別／居住地域の評価／地域の施設（建物や道路など）は、
高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている



ス クロス集計・地域別／居住地域の評価／子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている
 〈子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている〉について、【そう思う】は第9地域で60.0%と最も高く、次いで第15地域で58.6%となっている。一方、【そう思わない】は第13地域で20.9%と最も高く、次いで第3地域が19.7%となっている。

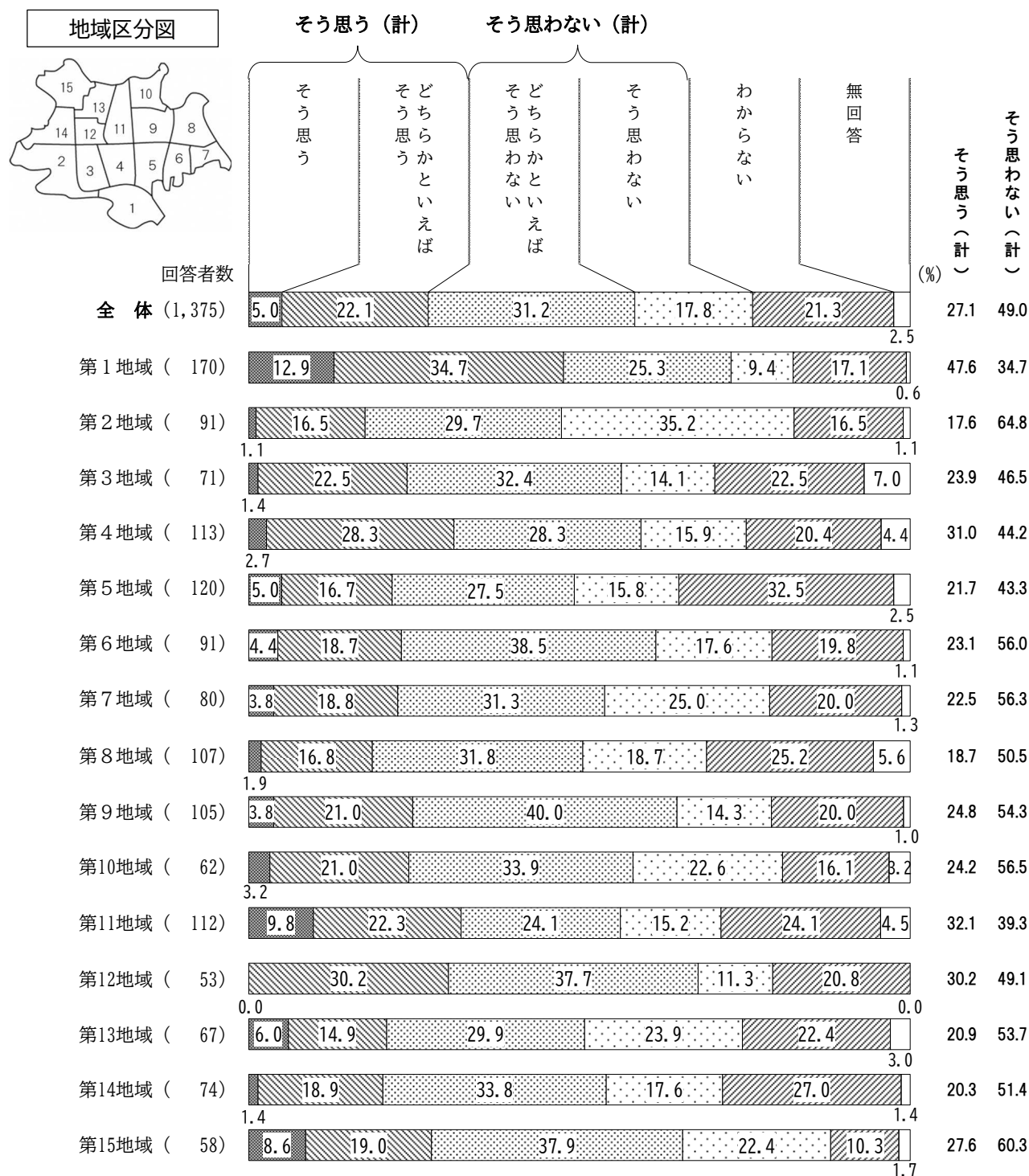
図1-1-2-⑫ 地域別／居住地域の評価／子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている



セ クロス集計・地域別／居住地域の評価／文化芸術に親しめるまちである

〈文化芸術に親しめるまちである〉について、【そう思う】は第1地域で47.6%と他の地域に比べて特に高く、次いで第11地域が32.1%となっている。一方、【そう思わない】は第2地域で64.8%と最も高く、次いで第15地域が60.3%となっている。

図1-1-2-⑬ 地域別／居住地域の評価／文化芸術に親しめるまちである



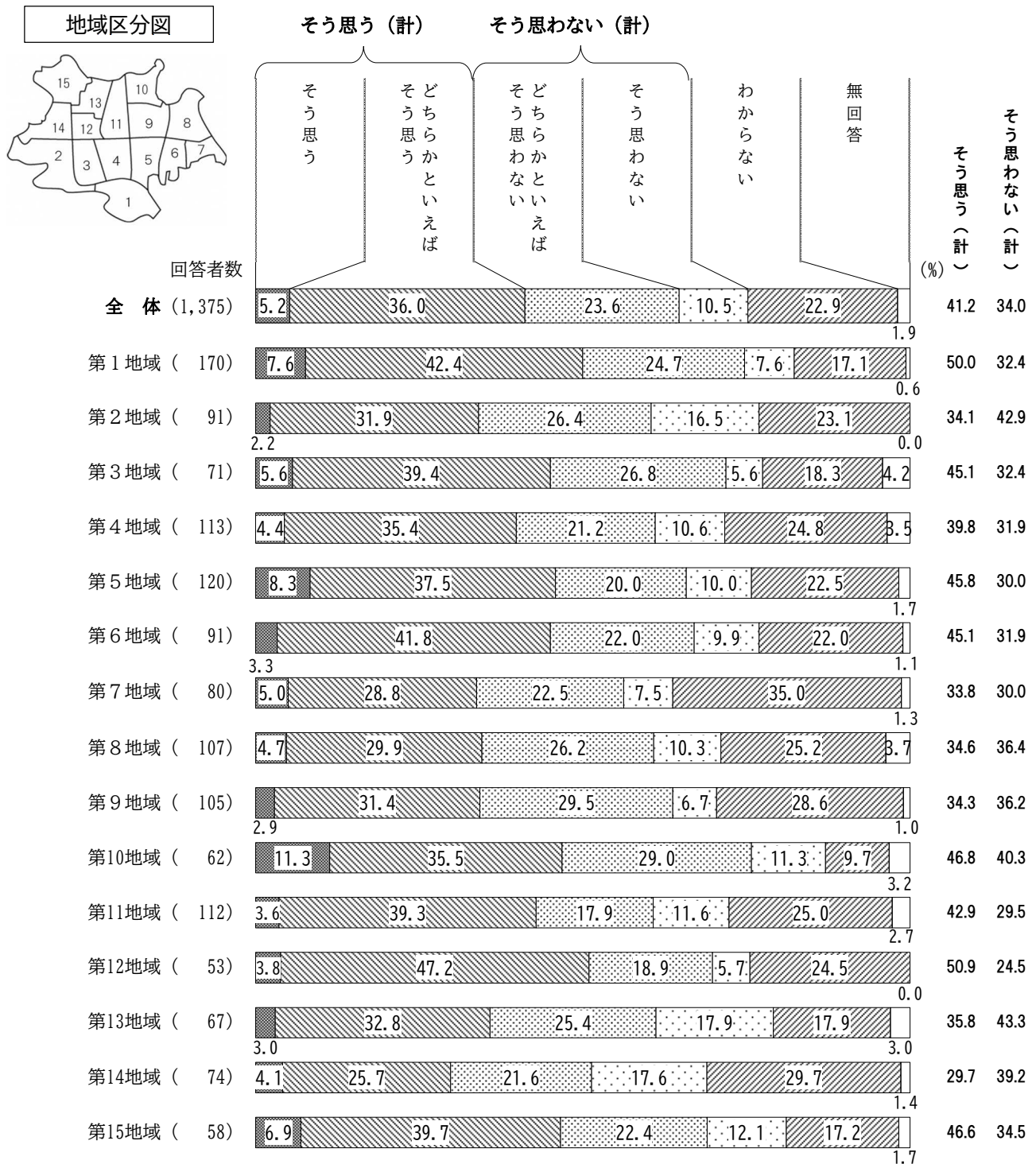
ソ クロス集計・地域別／居住地域の評価／

地域の人々が、日常生活で高齢者や障がいのある方などに配慮している

〈地域の人々が、日常生活で高齢者や障がいのある方などに配慮している〉について、【そう思う】は第12地域で50.9%と最も高く、次いで第1地域が50.0%となっている。一方、【そう思わない】は第13地域で43.3%と最も高く、次いで第2地域が42.9%となっている。

図1-1-2-⑭ 地域別／居住地域の評価

／地域の人々が、日常生活で高齢者や障がいのある方などに配慮している



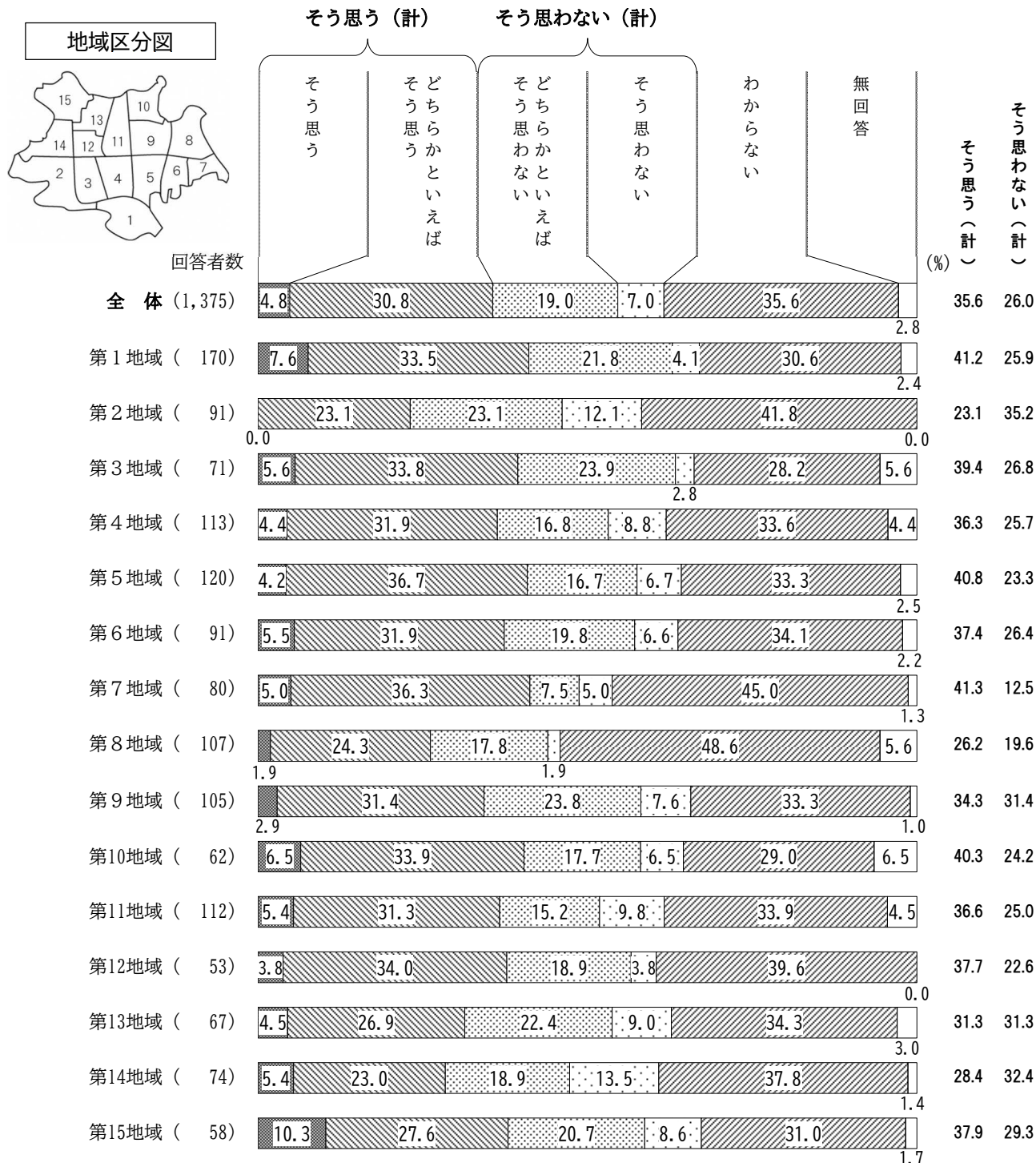
タ クロス集計・地域別／居住地域の評価

／男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている

〈男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている〉について、【そう思う】は第7地域で41.3%と最も高く、僅差で第1地域が41.2%となっている。一方、【そう思わない】は第2地域で35.2%と最も高く、次いで第14地域が32.4%となっている。

図1-1-2-⑮ 地域別／居住地域の評価

／男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている



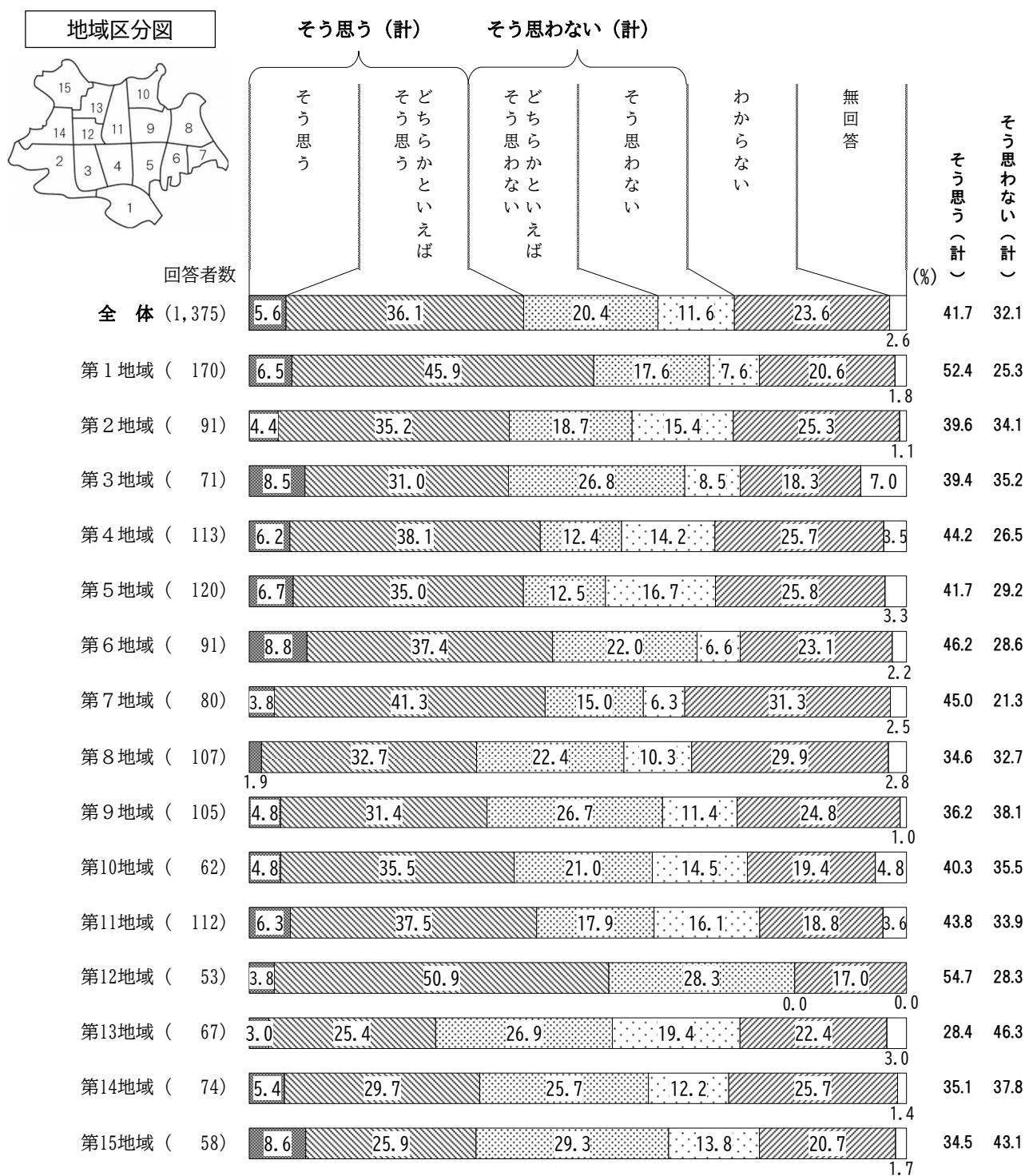
チ クロス集計・地域別／居住地域の評価

／国籍、文化などが異なる人々がともに暮らしやすいまちである

〈国籍、文化などが異なる人々がともに暮らしやすいまちである〉について、【そう思う】は第12地域で54.7%と最も高く、次いで第1地域が52.4%となっている。一方、【そう思わない】は第13地域で46.3%と最も高く、次いで第15地域が43.1%となっている。

図1-1-2-⑯ 地域別／居住地域の評価

／国籍、文化などが異なる人々がともに暮らしやすいまちである



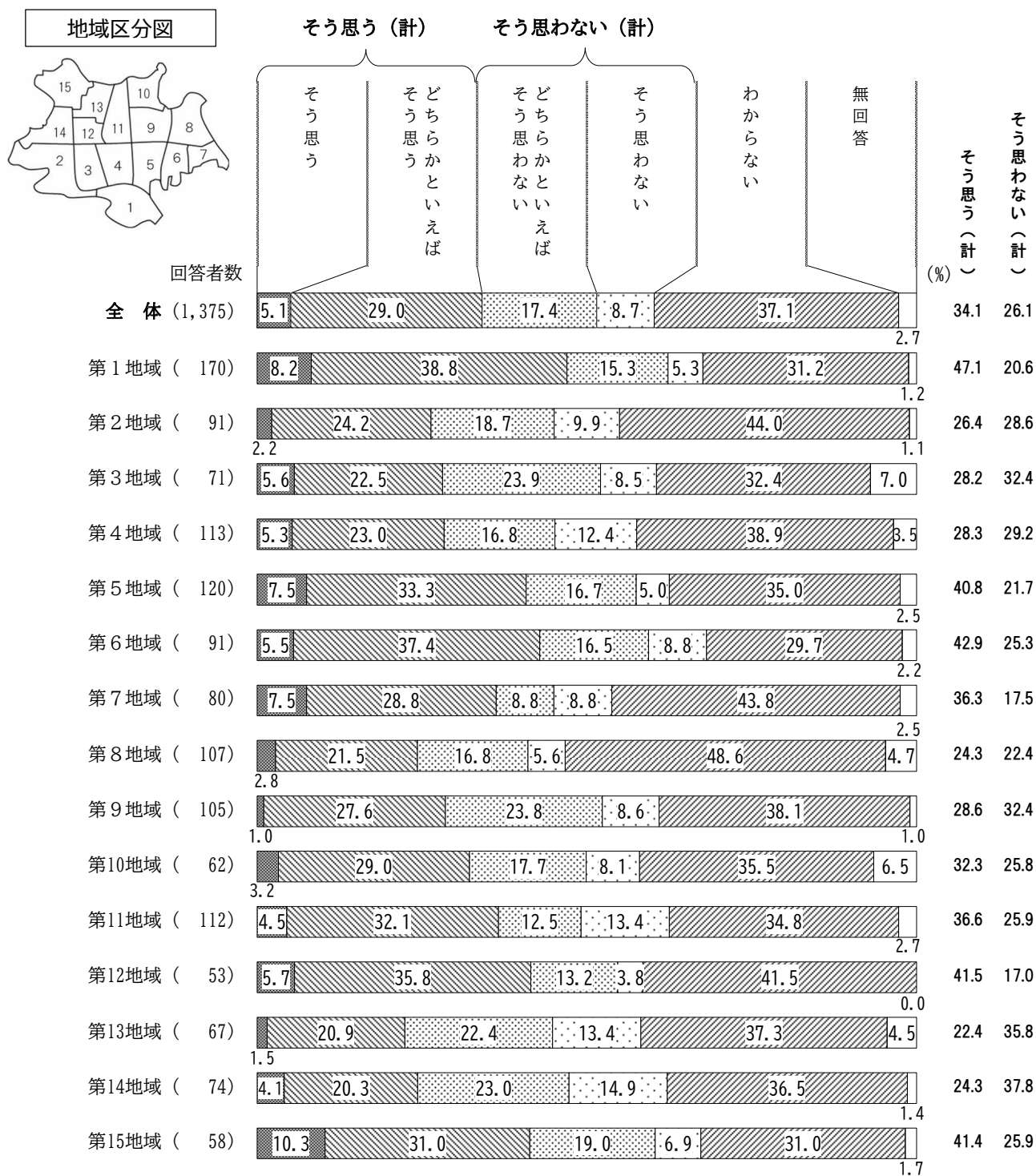
ツ クロス集計・地域別／居住地域の評価／「障がい者」「子ども」「女性」

「インターネットによる人権侵害」について、偏見や差別がない

〈「障がい者」「子ども」「女性」「インターネットによる人権侵害」について、偏見や差別がない〉について、【そう思う】は第1地域で47.1%と最も高く、次いで第6地域が42.9%となっている。一方、【そう思わない】は第14地域で37.8%と最も高く、次いで第13地域が35.8%となっている。

図1-1-2-⑰ 地域別／居住地域の評価／「障がい者」「子ども」「女性」

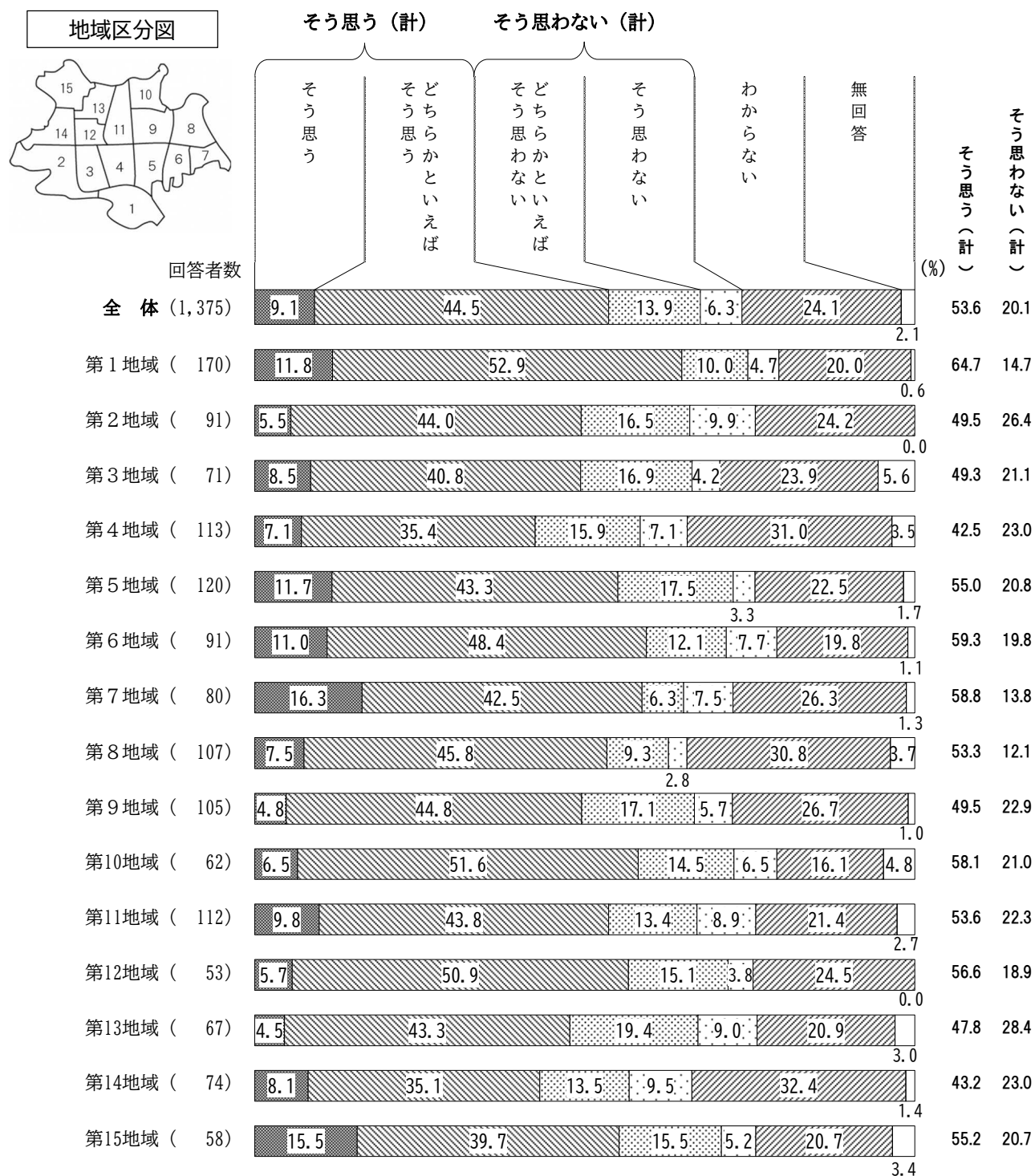
「インターネットによる人権侵害」について、偏見や差別がない



テ クロス集計・地域別／居住地域の評価／日常の中で人権が守られていると感じる

〈日常の中で人権が守られていると感じる〉について、【そう思う】は第1地域で64.7%と最も高く、次いで第6地域が59.3%となっている。一方、【そう思わない】は第13地域で28.4%と最も高く、次いで第2地域が26.4%となっている。

図1-1-2-⑱ 地域別／居住地域の評価／日常の中で人権が守られていると感じる



(2) 地域の暮らしやすさ

問2 問1を踏まえてお聞きします。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じていますか（○は1つだけ）。

■【暮らしやすい】は本設問を開始した以降で最も高い割合となり、【暮らしにくい】も同様に最も低い割合となった

ア 単純集計・経年比較／地域の暮らしやすさ

(ア) 地域の暮らしやすさについて、「暮らしやすい」は29.2%で、「どちらかといえば暮らしやすい」(57.7%)を合わせた【暮らしやすい】は8割台半ばを占めている。

(イ) 「暮らしにくい」は1.7%で、「どちらかといえば暮らしにくい」(9.6%)を合わせた【暮らしにくい】は1割超となっている。

(ウ) 【暮らしやすい】を経年で見ると、前回調査(86.2%)から0.7ポイント増加し、本設問を開始した平成13年以降で最も高い割合となった。

(エ) 【暮らしにくい】を経年で見ると、前回調査(12.2%)から0.9ポイント減少し、本設問を開始した平成13年度調査以降で最も低い割合となった。

図1-2-1-① 経年比較／地域の暮らしやすさ

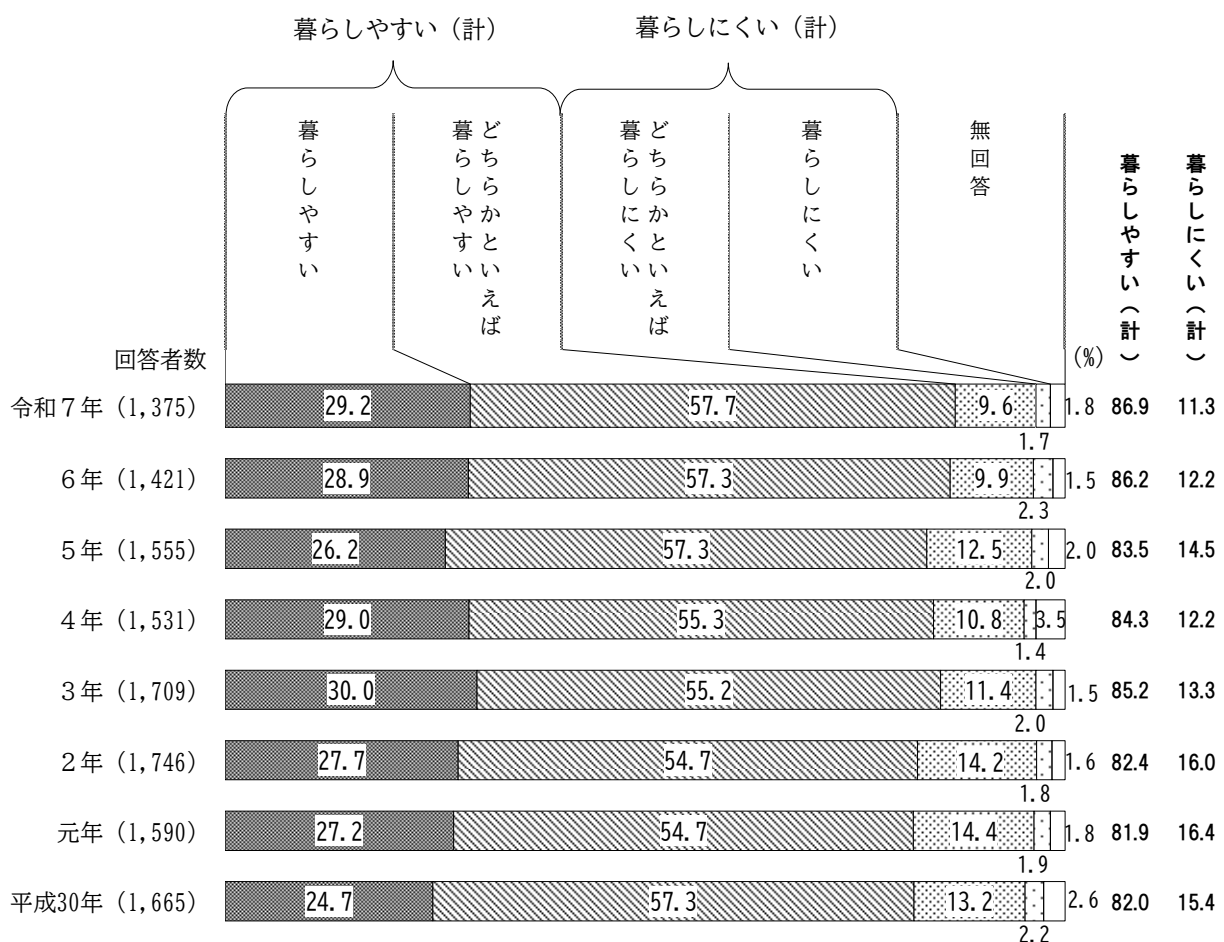
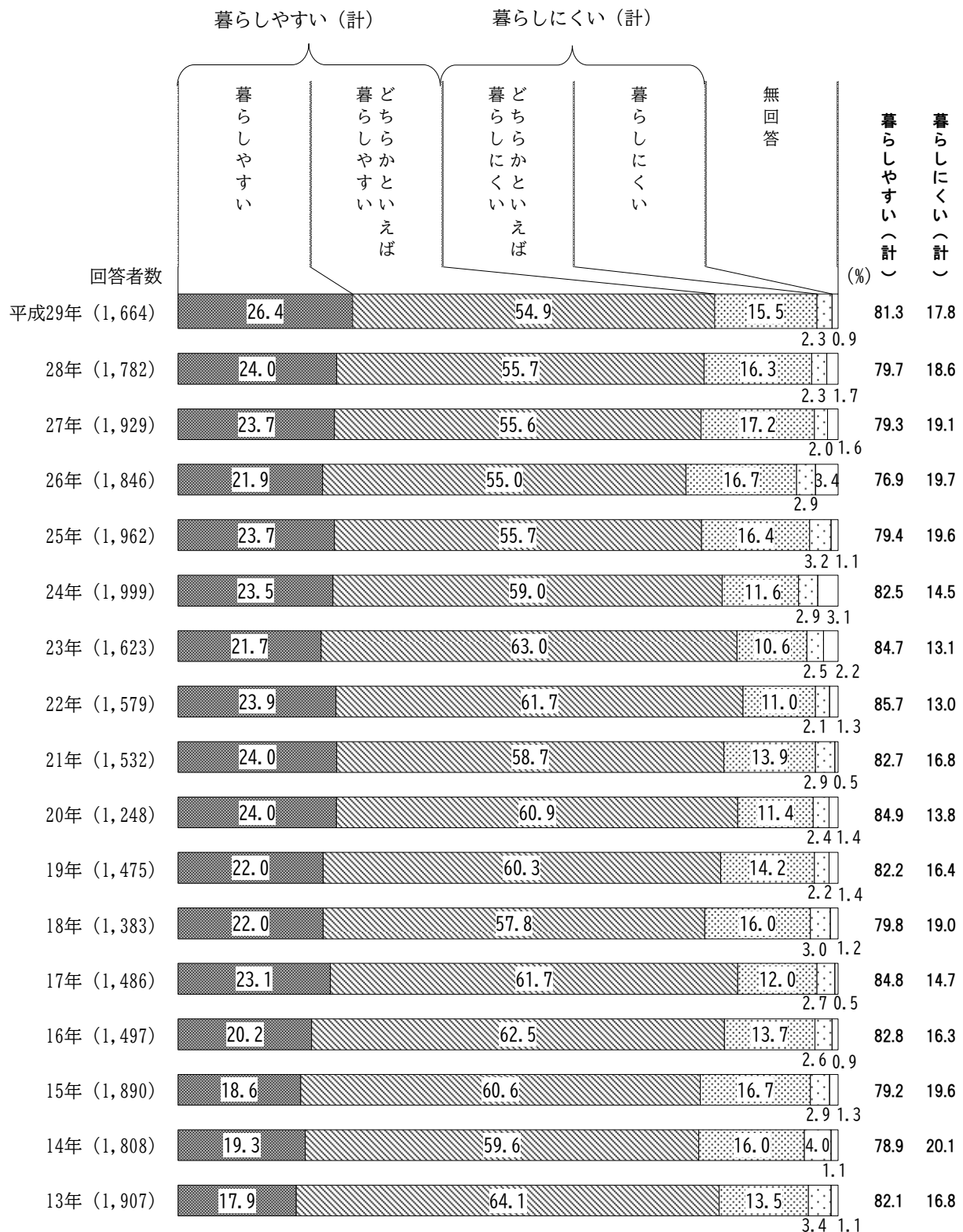


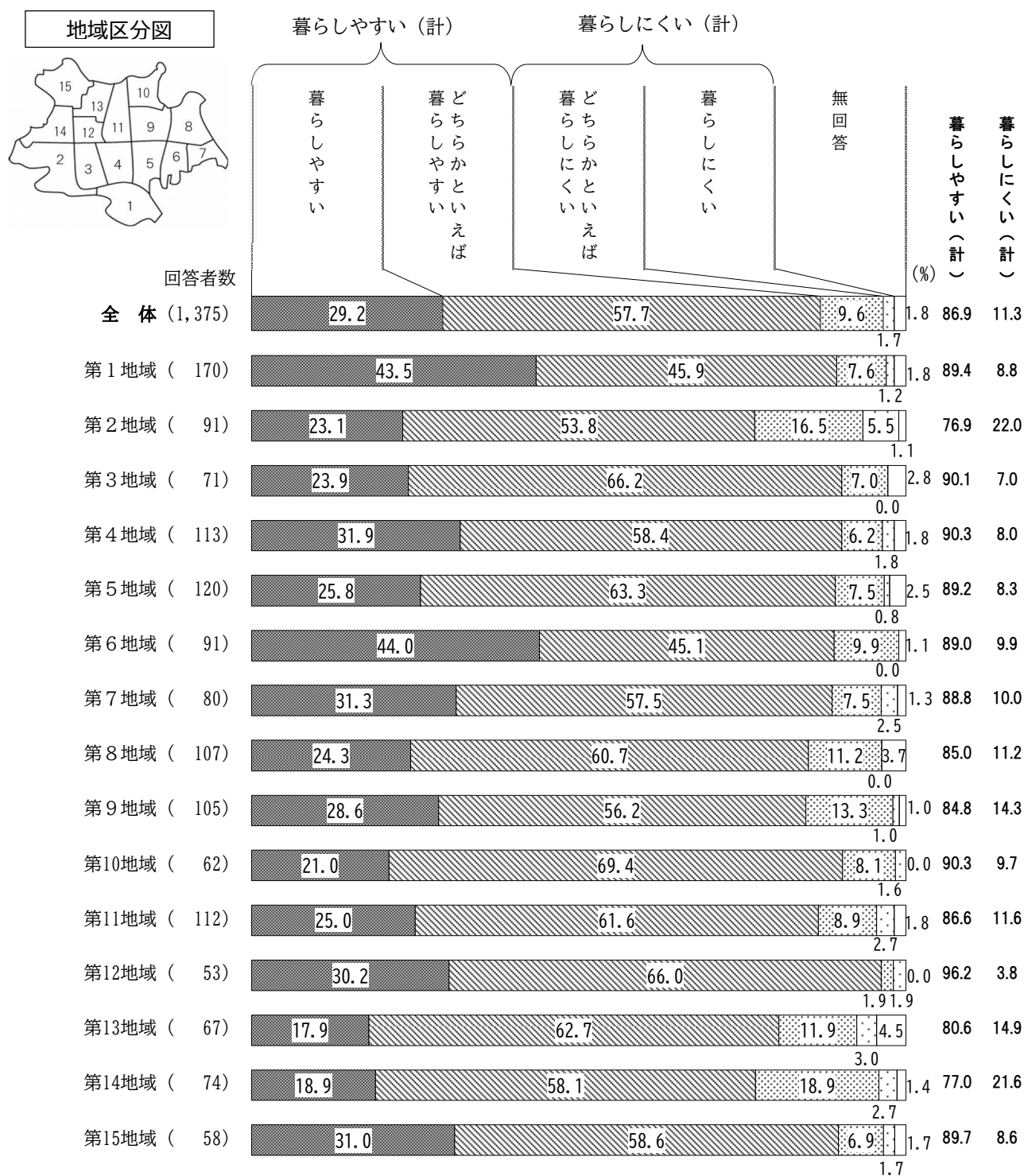
図1-2-1-② 経年比較／地域の暮らしやすさ



イ クロス集計・地域別／地域の暮らしやすさ

地域別でみると、【暮らしやすい】は第12地域で96.2%と他の地域に比べて特に高く、次いで第4地域と第10地域がともに90.3%となっている。一方、【暮らしにくい】は第2地域が22.0%で最も高く、次いで第14地域（21.6%）が続いており、この2地域が2割台となっている。

図1-2-2 地域別／地域の暮らしやすさ

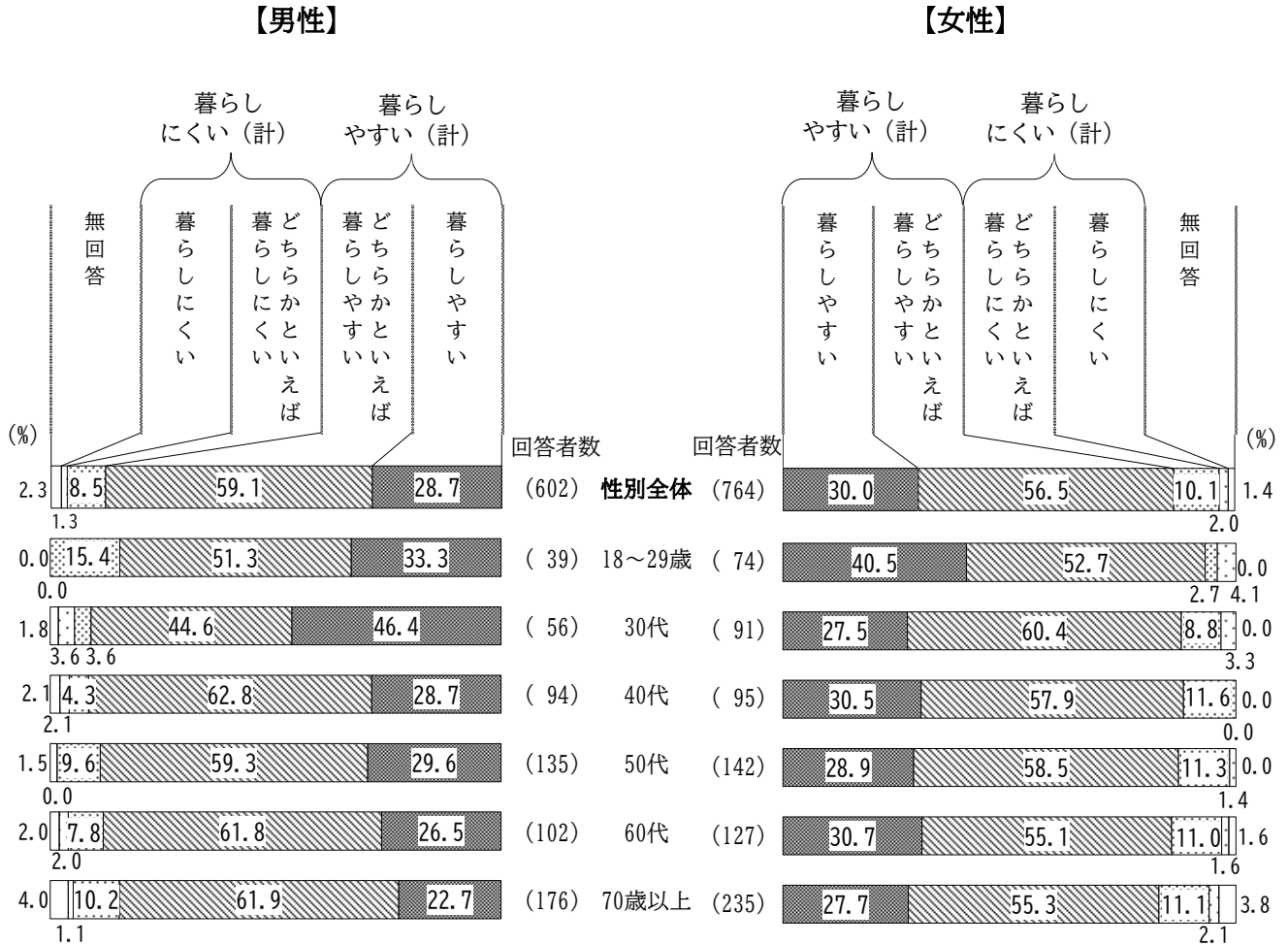


ウ クロス集計・性別・性・年代別／地域の暮らしやすさ

(ア) 性別でみると【暮らしやすい】は、男性（87.9%）と女性（86.5%）で特に大きな違いは見られない。

(イ) 性・年代別でみると、【暮らしやすい】は女性の18～29歳（93.2%）と男性の30代（91.1%）、40代（91.5%）で9割台と高くなっている。一方、【暮らしにくい】は男性の18～29歳（15.4%）と女性の70歳以上（13.2%）で1割台半ばと高くなっている。

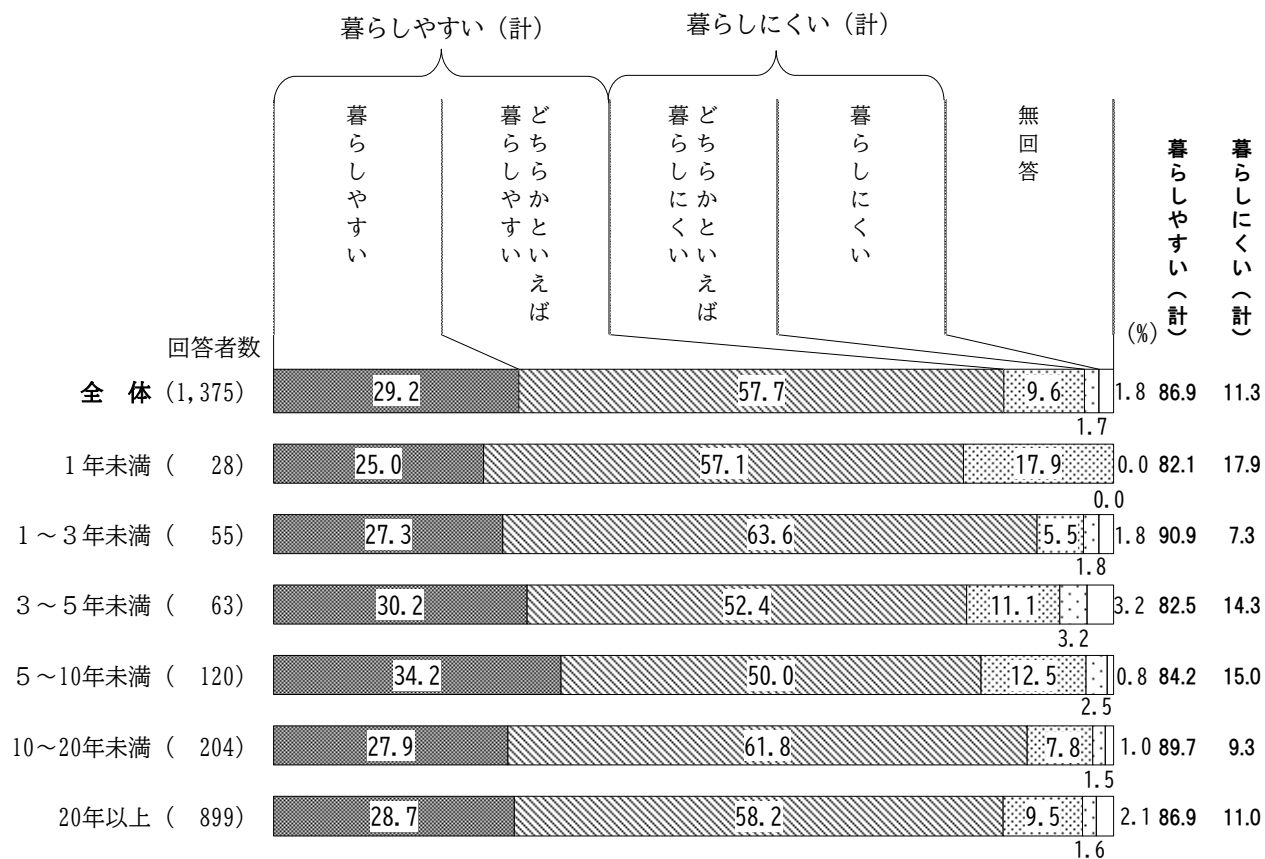
図1－2－3 性別・性・年代別／地域の暮らしやすさ



エ クロス集計・居住年数別／地域の暮らしやすさ

居住年数別でみると、【暮らしやすい】は1～3年未満で90.9%と最も高く、次いで10～20年未満が89.7%となっている。一方、【暮らしにくい】は1年未満が17.9%で最も高く、次い
5～10年未満が15.0%となっている。

図1－2－4 居住年数別／地域の暮らしやすさ

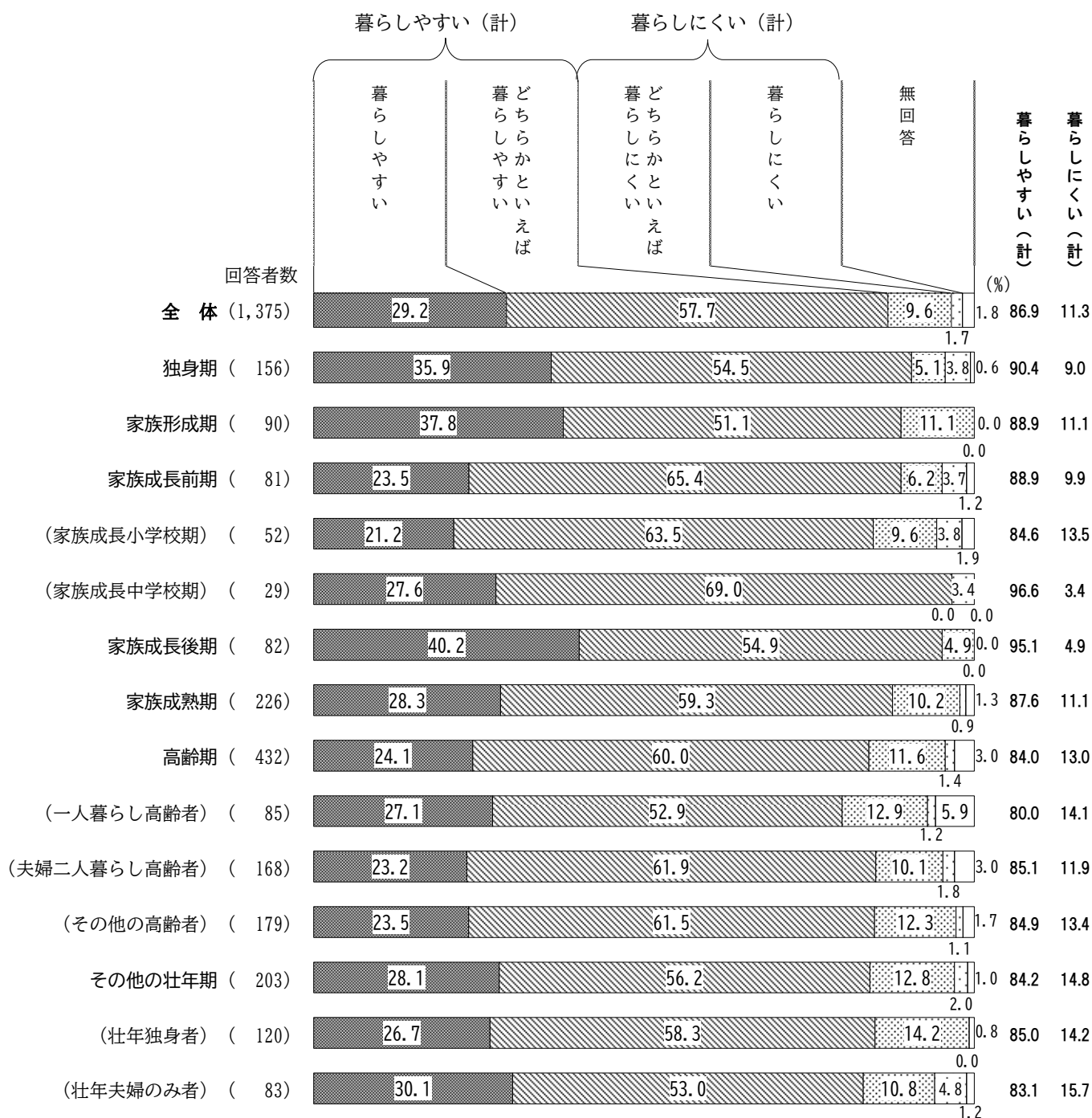


オ クロス集計・ライフステージ別／地域の暮らしやすさ

ライフステージ別でみると、【暮らしやすい】は〈家族成長後期〉で95.1%と最も高く、次いで〈独身期〉(90.4%)となっており、【暮らしにくい】は〈その他の壮年期〉で14.8%と最も高くなっている。

詳細区分でみると【暮らしやすい】は〈(家族成長中学校期)〉で96.6%と最も高く、【暮らしにくい】は〈(壮年夫婦のみ者)〉で15.7%と最も高くなっている。

図1-2-5 ライフステージ別／地域の暮らしやすさ



(3) 特に暮らしにくいと感じること

問2で「3 どちらかといえば暮らしにくい」または「4 暮らしにくい」とお答えの方に
問2-1 特に暮らしにくいと感じることは何ですか（〇は3つまで）。

■ “マナーやルールへの意識の低さ” が4割台半ばと6年連続で最も高い

ア 単純集計・経年比較／特に暮らしにくいと感じること

(ア)【暮らしにくい】という人に、その理由を聞いたところ、高い順に以下のとおりとなっている。

- ①「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」(47.7%)
- ②「交通の便が悪いこと」(45.2%)
- ③「買い物がしにくいこと」(38.1%)
- ④「治安が良くないこと」(31.0%)

(イ) 前回調査に比べて増加している項目は、主に以下のとおりとなっている。

- ①「交通の便が悪いこと」(+6.7ポイント)
- ②「行政のサービスが良くないこと」(+4.5ポイント)

(ウ) 前回調査に比べて減少している項目は、主に以下のとおりとなっている。

- ①「公共施設や介護・医療施設が不十分なこと」(-7.2ポイント)
- ②「教育環境が整っていないこと」(-3.9ポイント)

図1-3-1-① 経年比較／特に暮らしにくいと感じること

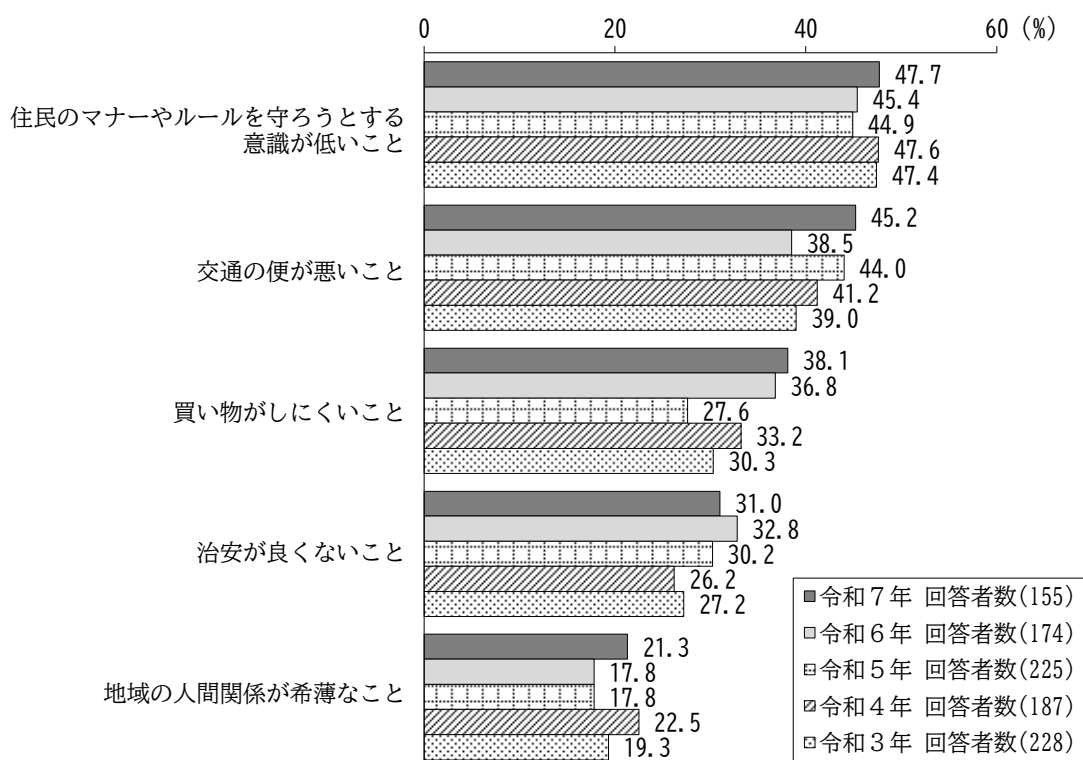
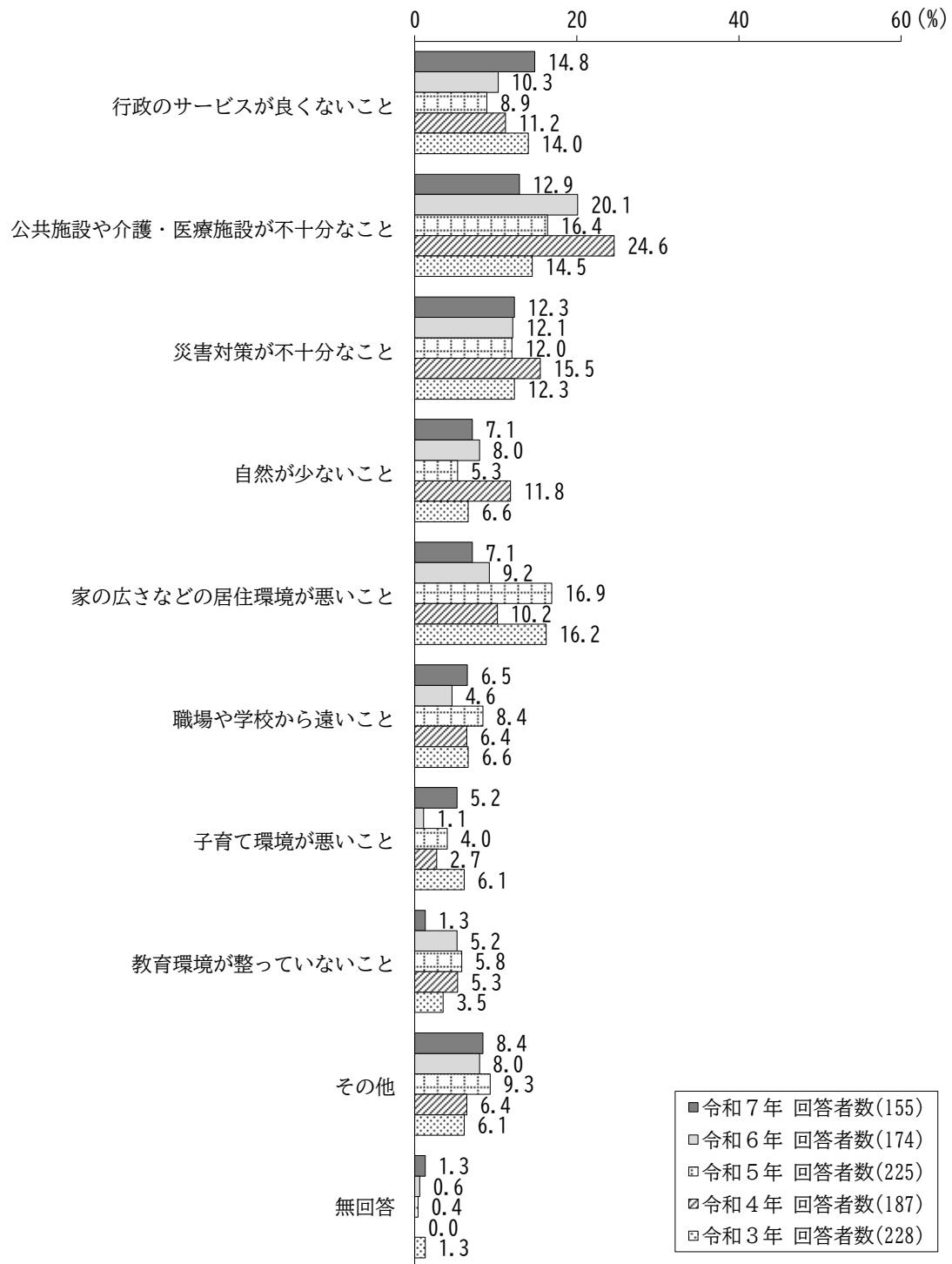


図1-3-1-② 経年比較／特に暮らしにくいと感じること



イ クロス集計・地域別／特に暮らしにくいと感じること（上位8項目）

地域別でみると、すべての地域の回答者数が30未満となっていることから参考値にとどめる必要があるが、回答者数が10以上の地域に限ってしてみると、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」は第5地域と第13地域（各70.0%）、「交通の便が悪いこと」は第8地域（83.3%）、「買い物がしにくいこと」は第2地域（65.0%）で最も高くなっている。

図1-3-2 地域別／特に暮らしにくいと感じること／上位8項目



ウ クロス集計・性別・性・年代別／特に暮らしにくいと感じること（上位8項目）

（ア）性別でみると、8項目中4項目で性差が2ポイント未満となっている。

a 男性の方が女性より2ポイント以上高くなっている項目

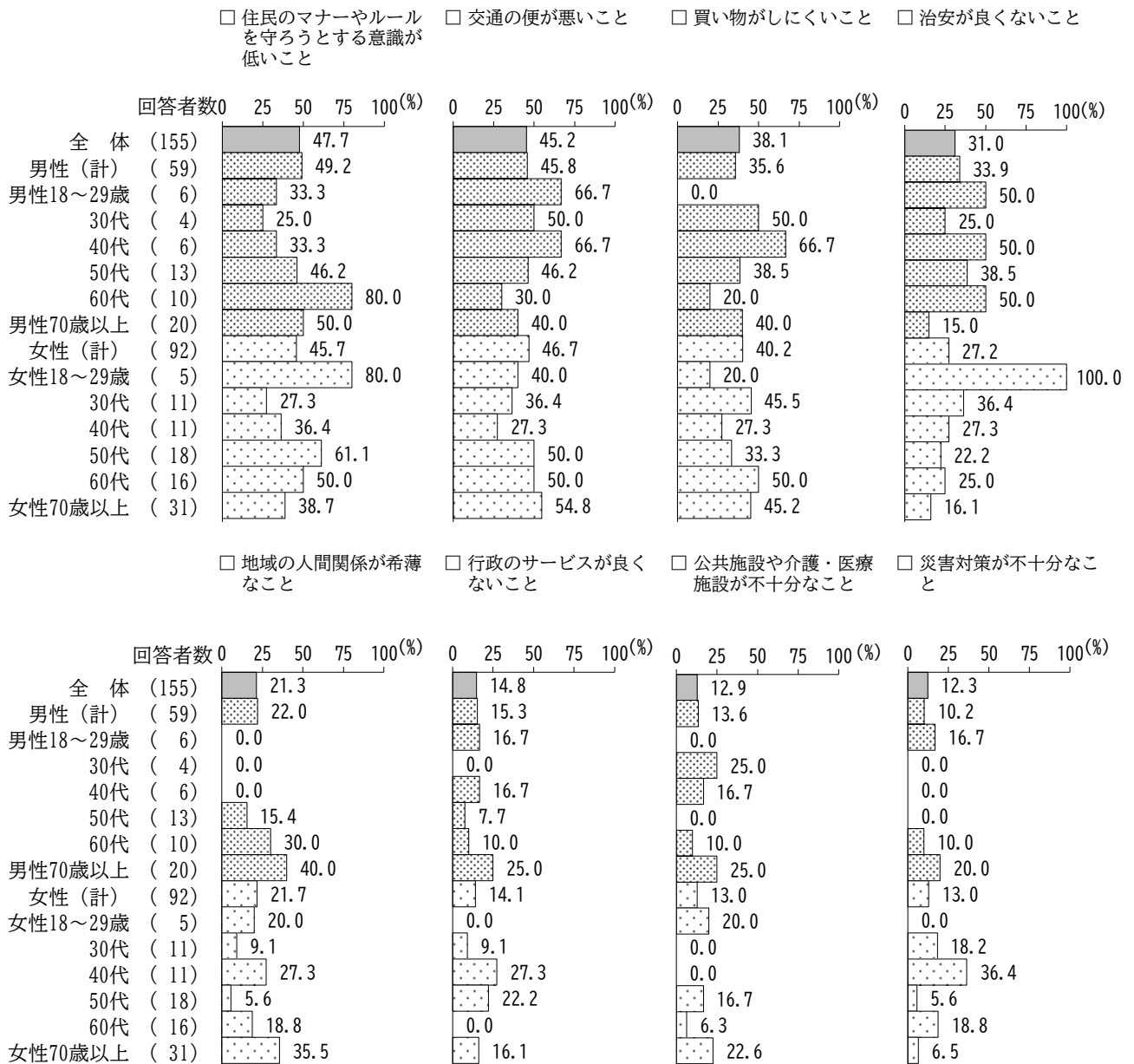
- ・「治安が良くないこと」（+6.7ポイント）
- ・「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」（+3.5ポイント）

b 女性の方が男性より2ポイント以上高くなっている項目

- ・「買い物がしにくいこと」（+4.6ポイント）
- ・「災害対策が不十分なこと」（+2.8ポイント）

（イ）性・年代別でみると、多くの性・年代層の回答者数が30未満となっていることから参考値にとどめる必要があるが、回答者数が10以上の性・年代層に限ってしてみると、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」は男性の60代で8割と高く、「交通の便が悪いこと」は女性の70歳以上で5割半ばと高くなっている。

図1-3-3 性別・性・年代別／特に暮らしにくいと感じること／上位8項目



(4) 定住意向

問3 あなたは、足立区に今後も住みたいと思いますか（○は1つだけ）。

■【定住意向】は8割台半ばで前回調査をさらに上回り、5年連続で最高値を更新

ア 単純集計・経年比較／定住意向

(ア) 足立区への定住意向をみると、「ずっと住みたい」は38.6%で、「当分は住みたい」(45.7%)を合わせた【定住意向】は84.3%となっている。一方、「区外に転出したい」は1割未満となっている。

(イ) 前回調査と比較すると、【定住意向】は前回調査に比べて1.8ポイント増加し、5年連続で最高値を更新している。

図1-4-1-① 経年比較／定住意向

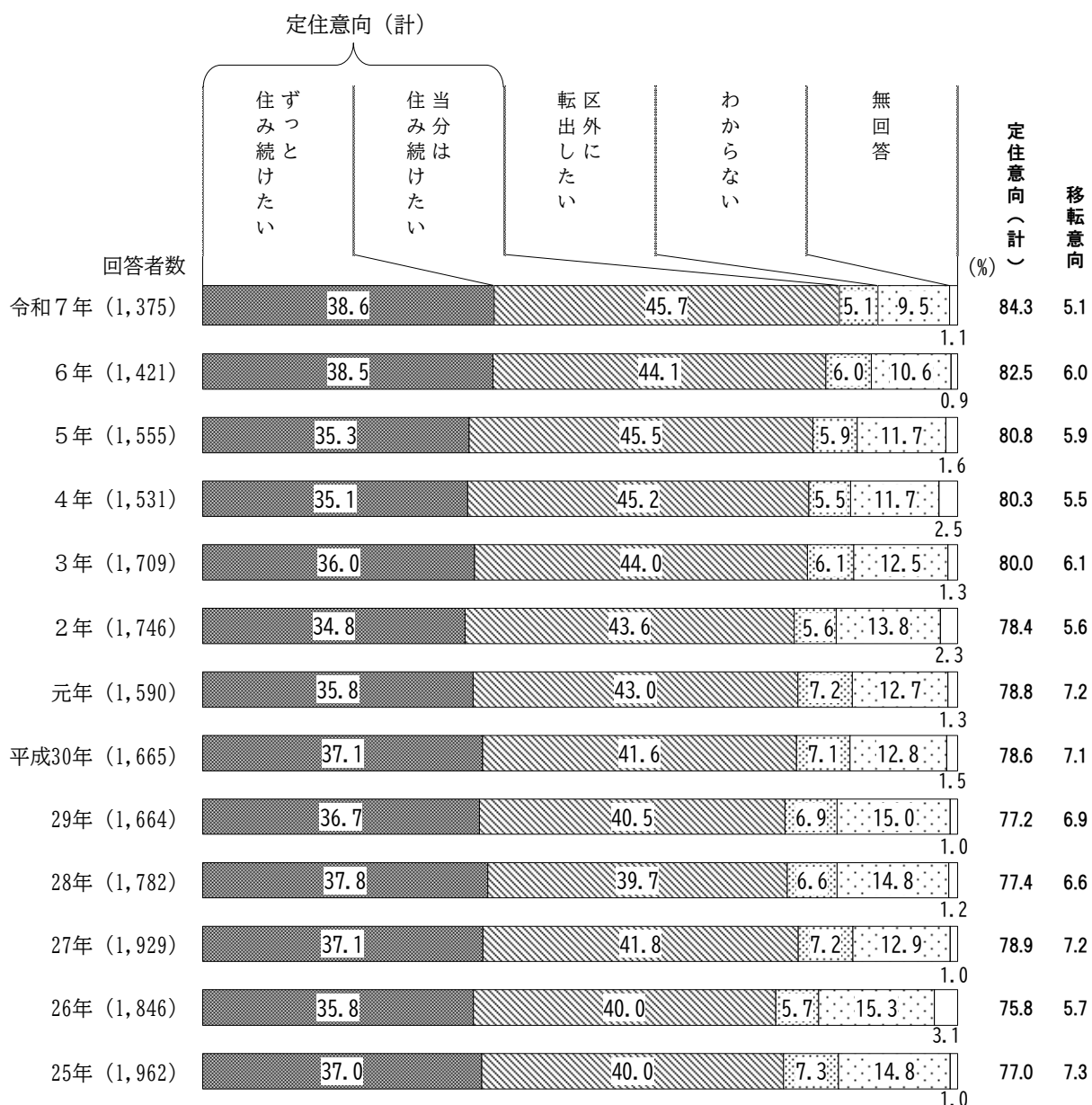
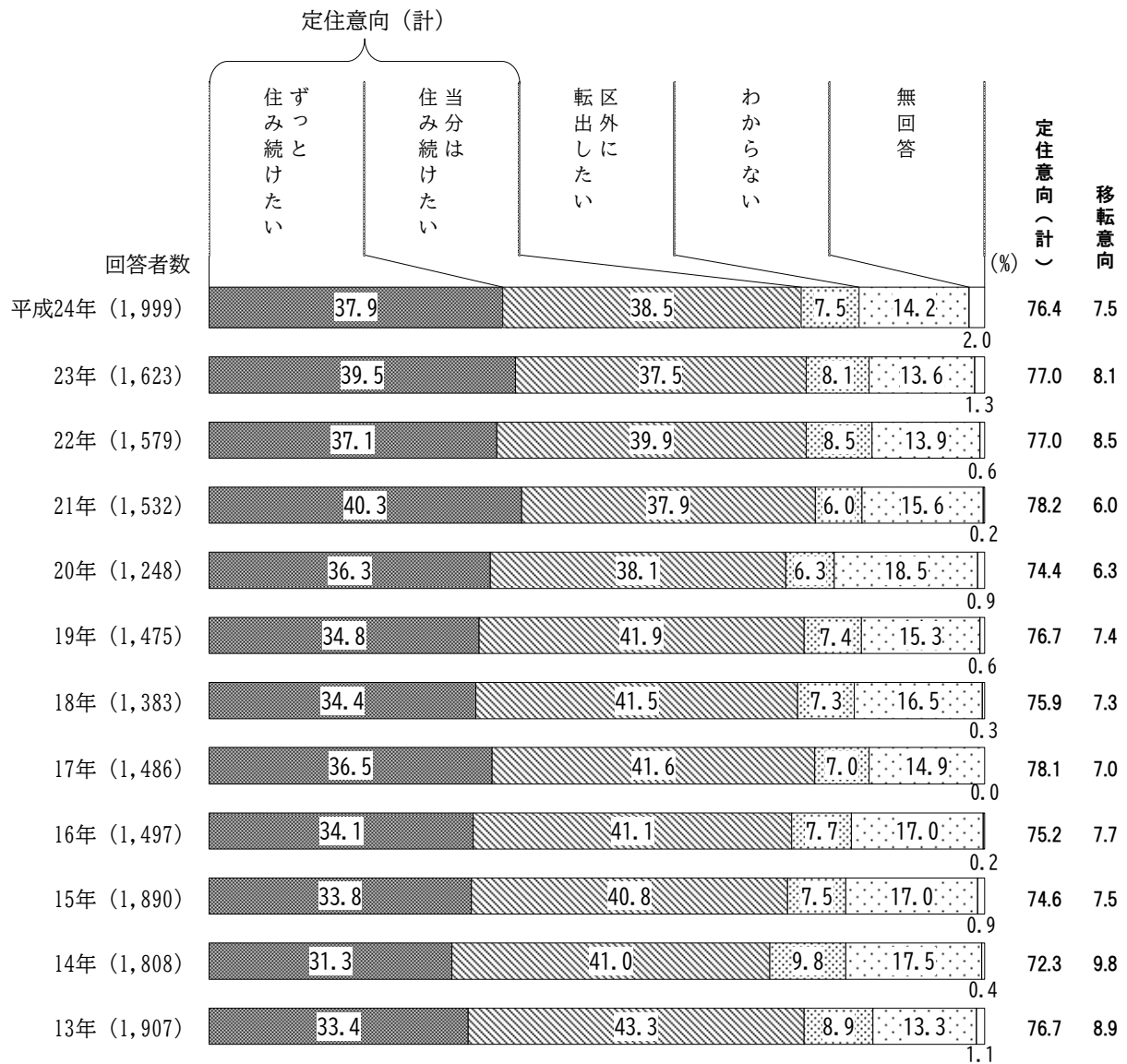


図1-4-1-② 経年比較／定住意向

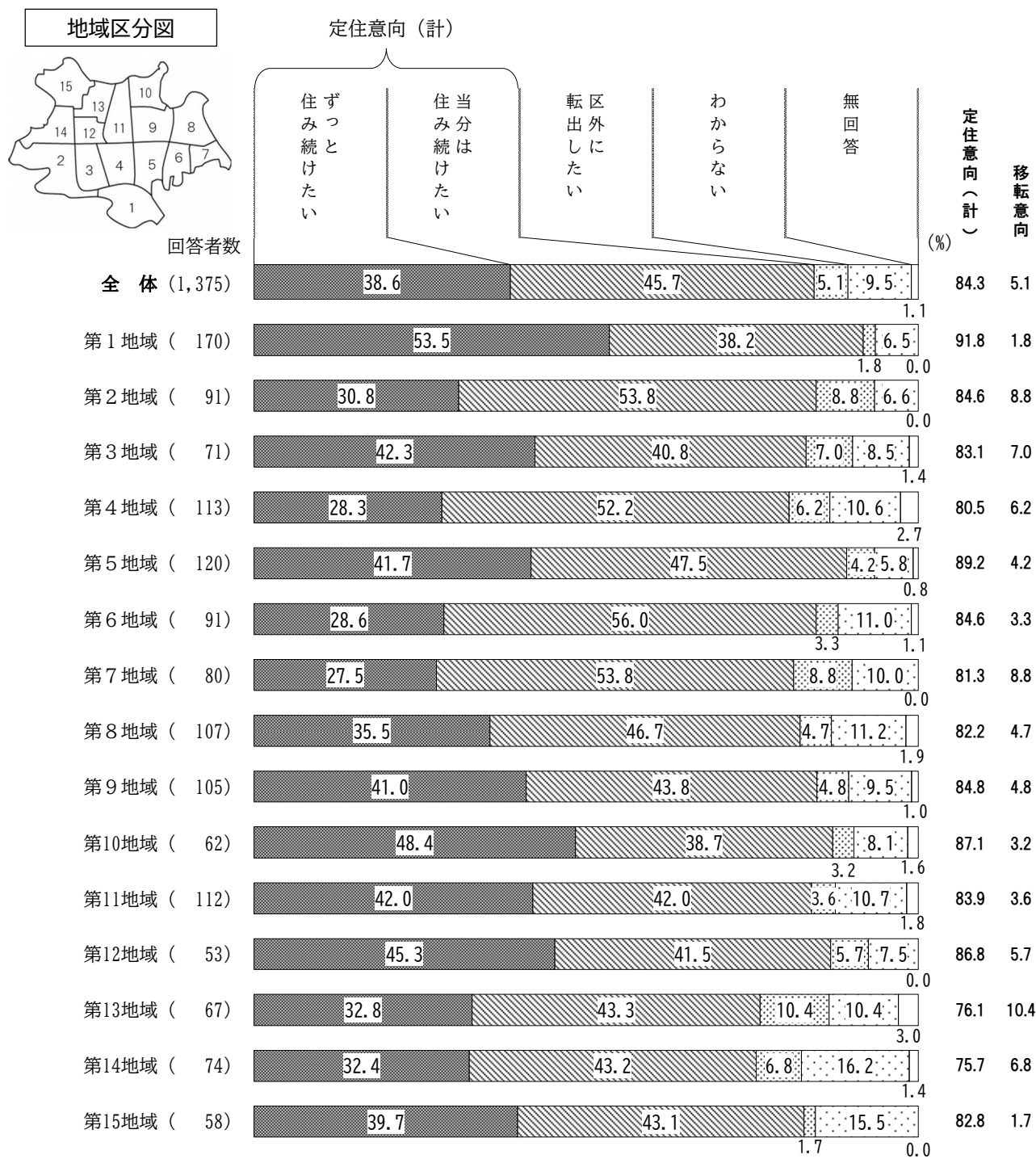


第3章 調査結果の分析〈定住性〉

イ クロス集計・地域別／定住意向

地域別でみると、【定住意向】は第1地域で91.8%と最も高く、次いで第5地域（89.2%）と続いている。一方、「区外に転出したい」という【移転意向】は第13地域で10.4%と最も高く、次いで第2地域と第7地域でともに8.8%となっている。

図1-4-2 地域別／定住意向

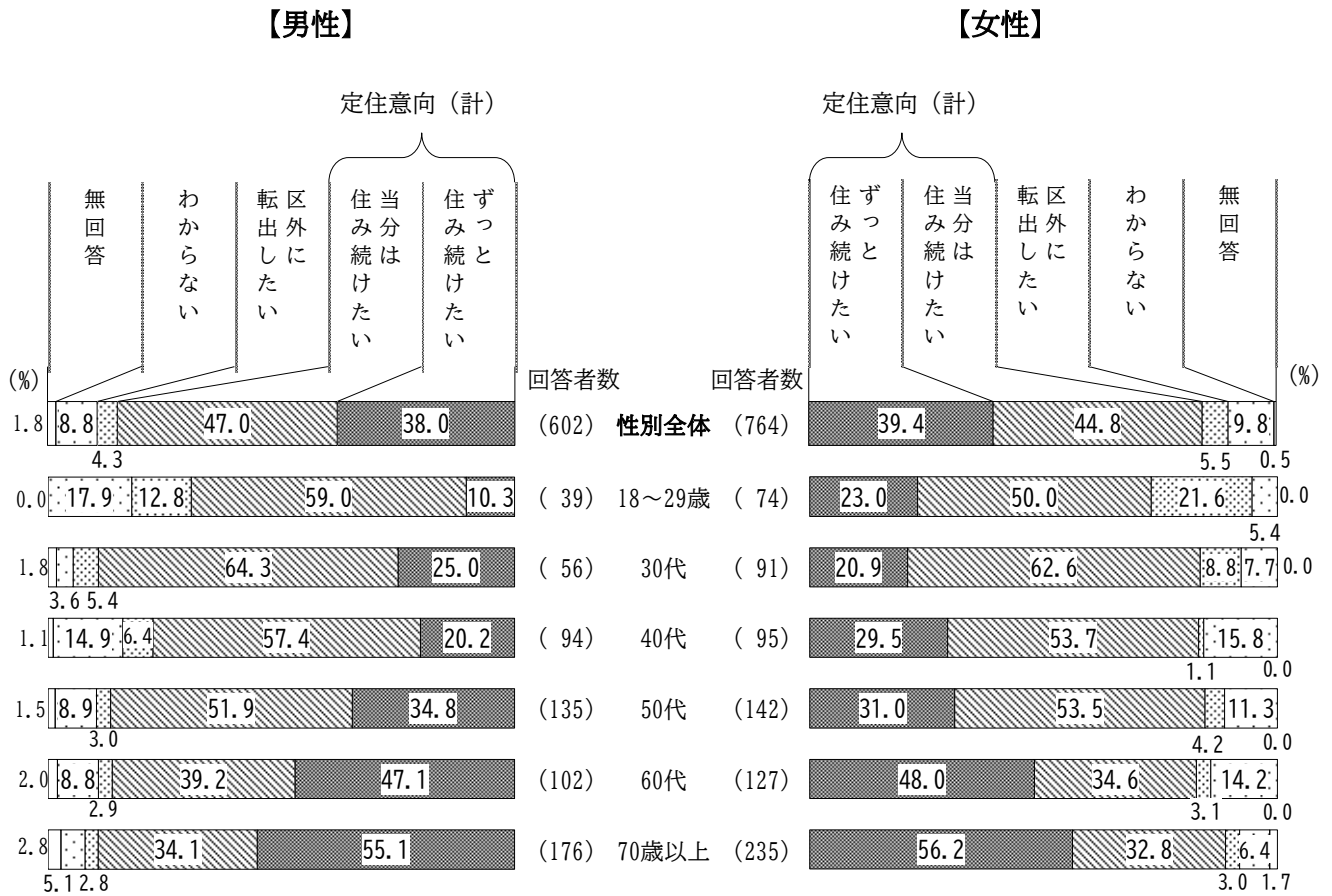


ウ クロス集計・性別・性・年代別／定住意向

(ア) 性別でみると、【定住意向】は、男性（85.0%）と女性（84.2%）で大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別でみると、【定住意向】は、男性の30代と70歳以上が約9割と高く、女性の70歳以上（88.9%）も9割弱と高くなっている。一方、「区外に転出したい」という【移転意向】は男女ともに18～29歳（男性12.8%、女性21.6%）が他の性・年代層に比べて高くなっている。

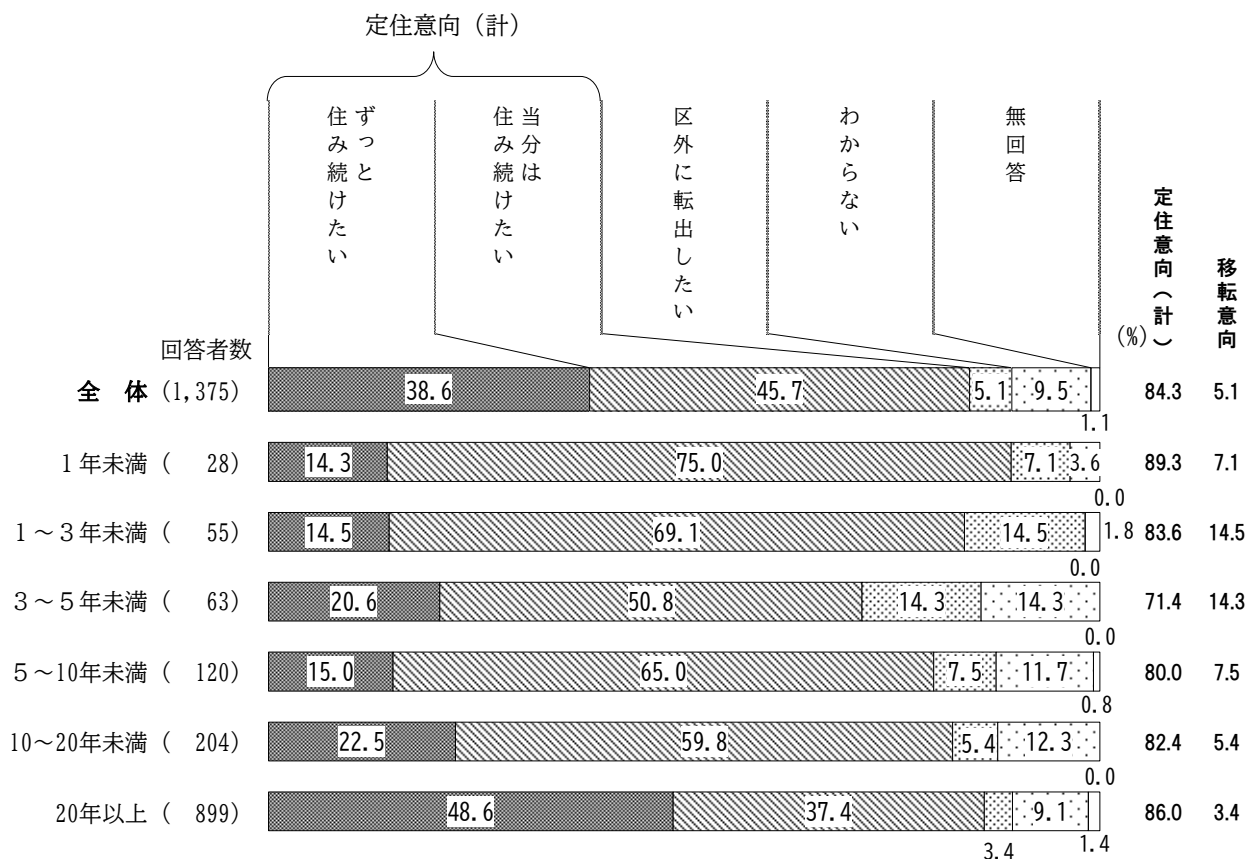
図1－4－3 性別・性・年代別／定住意向



エ クロス集計・居住年数別／定住意向

居住年数別でみると、【定住意向】は20年以上で86.0%と最も高く、次いで1～3年未満（83.6%）となっている。一方、「区外に転出したい」という【移転意向】は、1～3年未満で14.5%、3～5年未満で14.3%と1割台半ばと高くなっている。

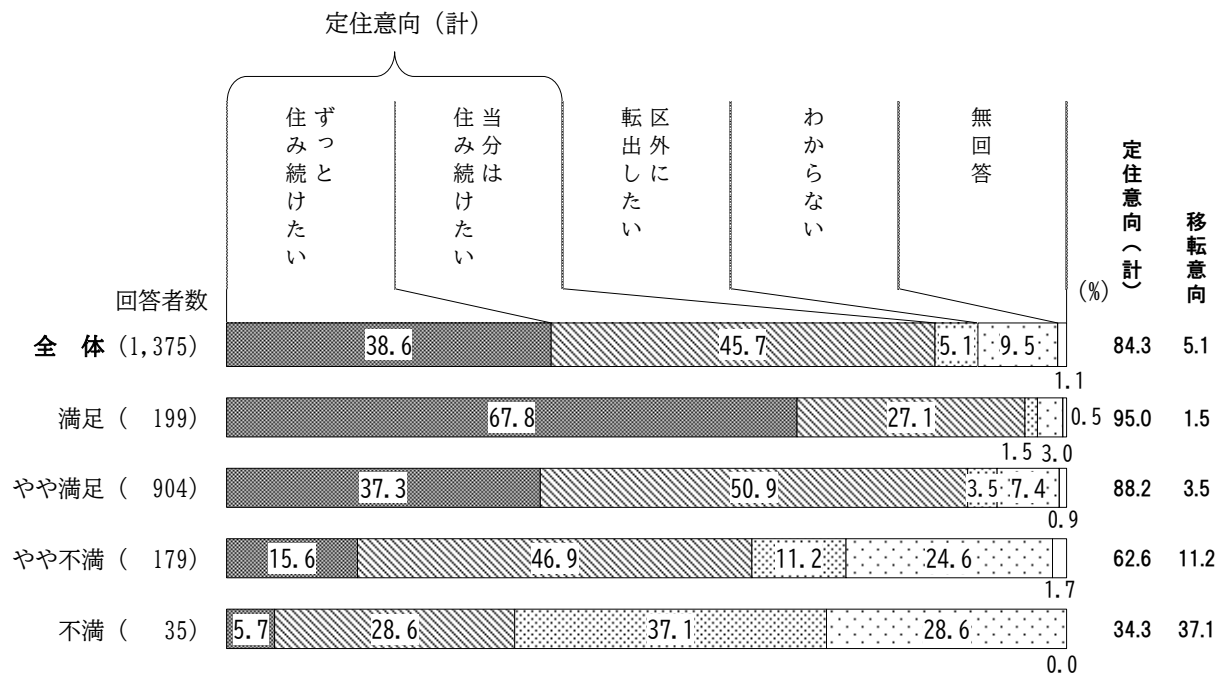
図1－4－4 居住年数別／定住意向



オ クロス集計・区政満足度別／定住意向

区政満足度別にみると、【定住意向】は満足が95.0%と最も高く、やや満足も88.2%と高くなっている。また、やや不満で62.6%となり、不満では34.3%まで低くなっており、区政への満足度と定住意向には正の相関がみられる。

図1-4-5 区政満足度別／定住意向

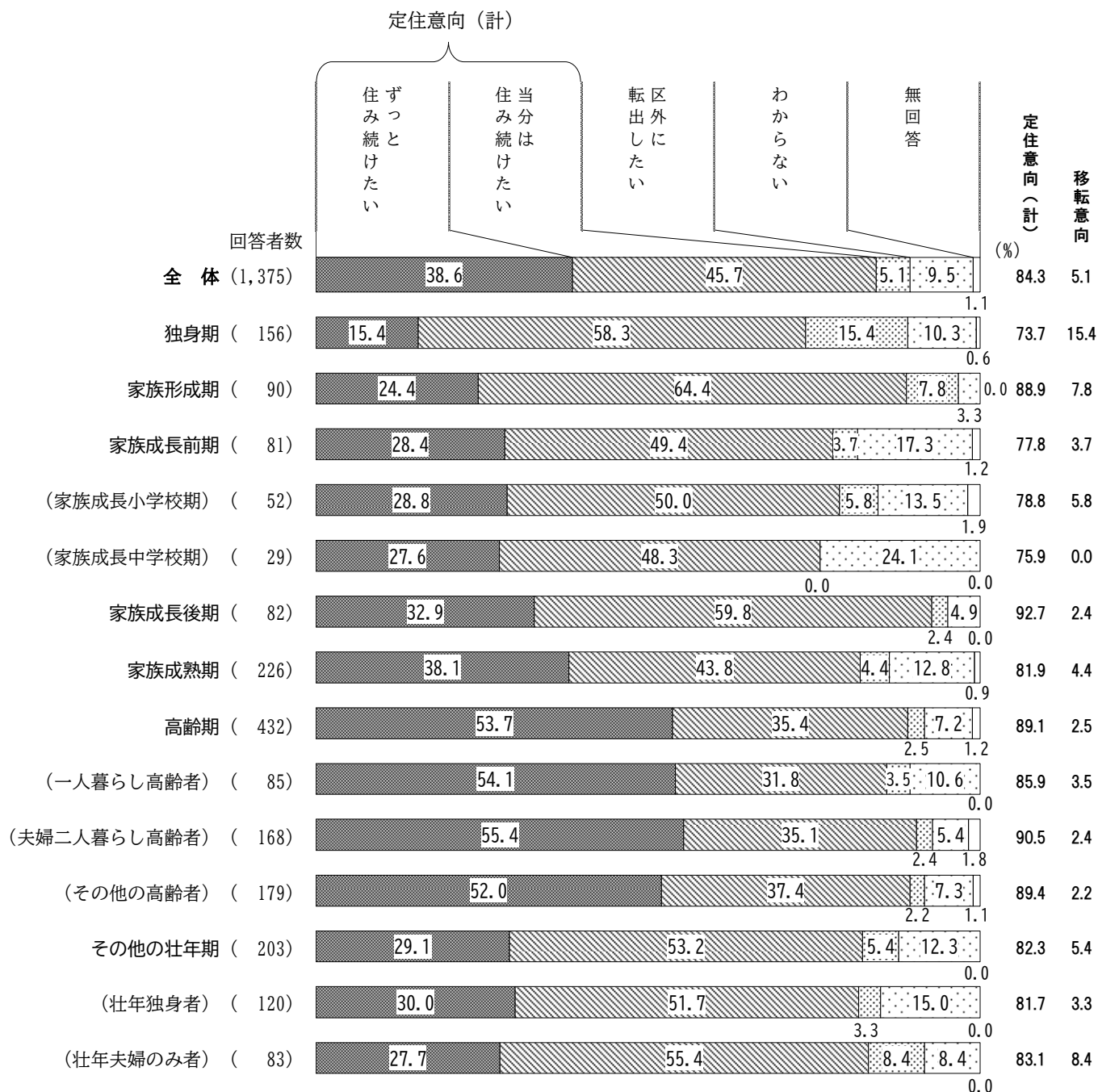


カ クロス集計・ライフステージ別／定住意向

ライフステージ別でみると、【定住意向】は〈家族成長後期〉が92.7%で最も高く、次いで、〈高齢期〉が89.1%となっている。一方、〈独身期〉で73.7%と最も低くなっている。

また、【定住意向】を詳細区分でみると、〈(夫婦二人暮らし高齢者)〉が90.5%で最も高く、次いで〈(その他の高齢者)〉が89.4%となっている。

図1-4-6 ライフステージ別／定住意向



2 大震災などの災害への備え

-
- (1) 備蓄や防災用具などの用意
 - (2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
 - (3) 備蓄量
 - (4) 地域の3種の避難場所とその意味の認知
 - (5) 大規模災害時の避難生活場所
-

2 大震災などの災害への備え

(1) 備蓄や防災用具などの用意

問4 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（○は1つだけ）。

■【備蓄・買い置きあり】は前回調査から3.5ポイント減少するも7割台半ば近く

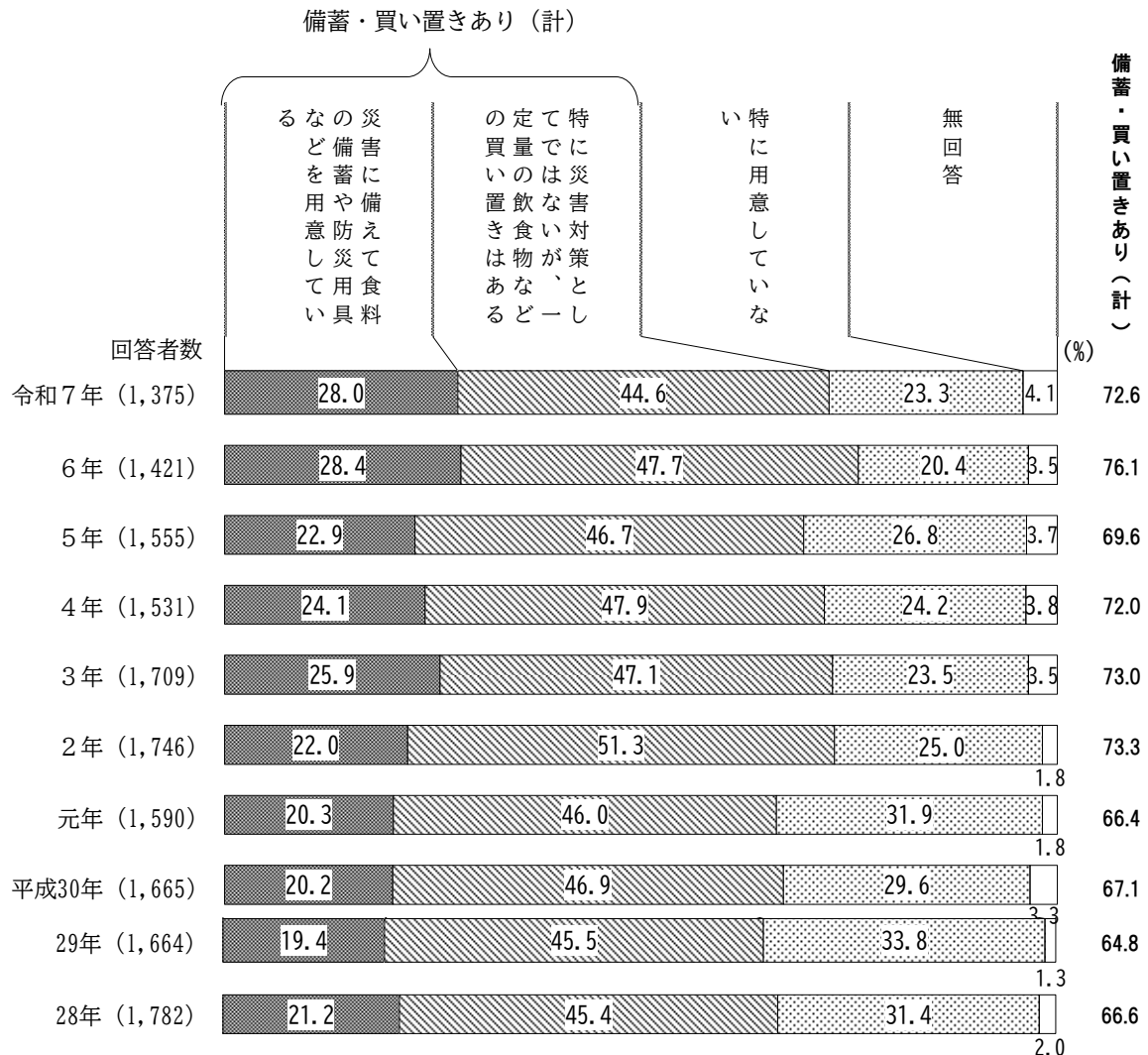
ア 単純集計・経年比較／備蓄や防災用具などの用意

（ア）災害に備えての準備状況については、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が44.6%で最も高く、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が28.0%となっている。これらを合わせた【備蓄・買い置きあり】は72.6%となっている。

（イ）災害に備えて「特に用意していない」は23.3%となっている。

（ウ）前回調査と比較すると、【備蓄・買い置きあり】は前回調査（76.1%）から3.5ポイント減少しており、「特に用意していない」は前回調査（20.4%）から2.9ポイント増加している。

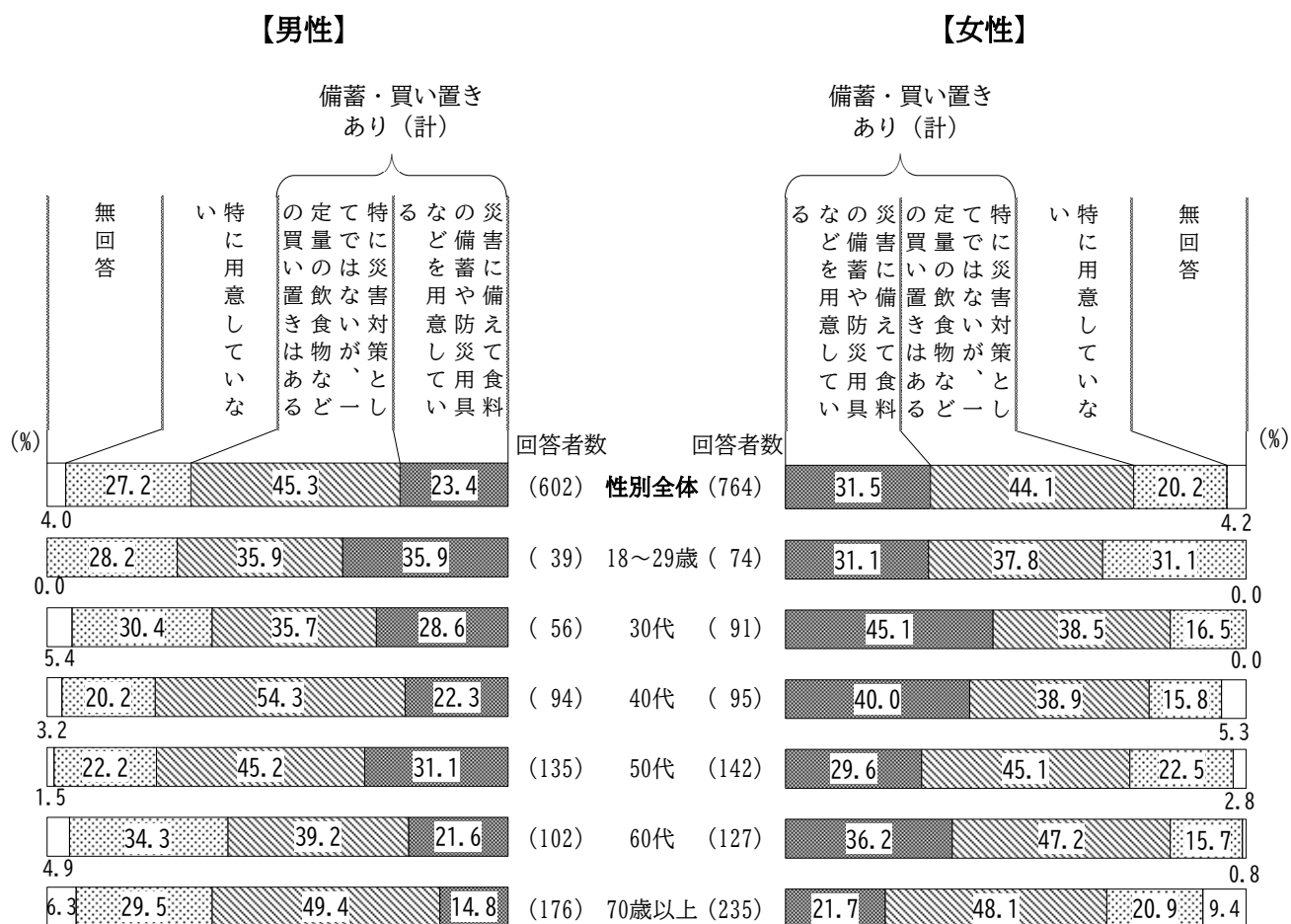
図2-1-1-① 経年比較／備蓄や防災用具などの用意



イ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意

- (ア) 性別でみると、【備蓄・買い置きあり】は女性（75.7%）の方が男性（68.8%）より6.9ポイント高くなっている。
- (イ) 性・年代別でみると、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は、女性の30代（45.1%）、40代（40.0%）で4割台と高くなっている。また【備蓄・買い置きあり】は、女性の30代と60代がともに83.5%で最も高くなっている。
- (ウ) 「特に用意していない」を性・年代別でみると、男性の60代（34.3%）と30代（30.4%）、女性の18～29歳（31.1%）で3割台と高くなっている。

図2-1-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意

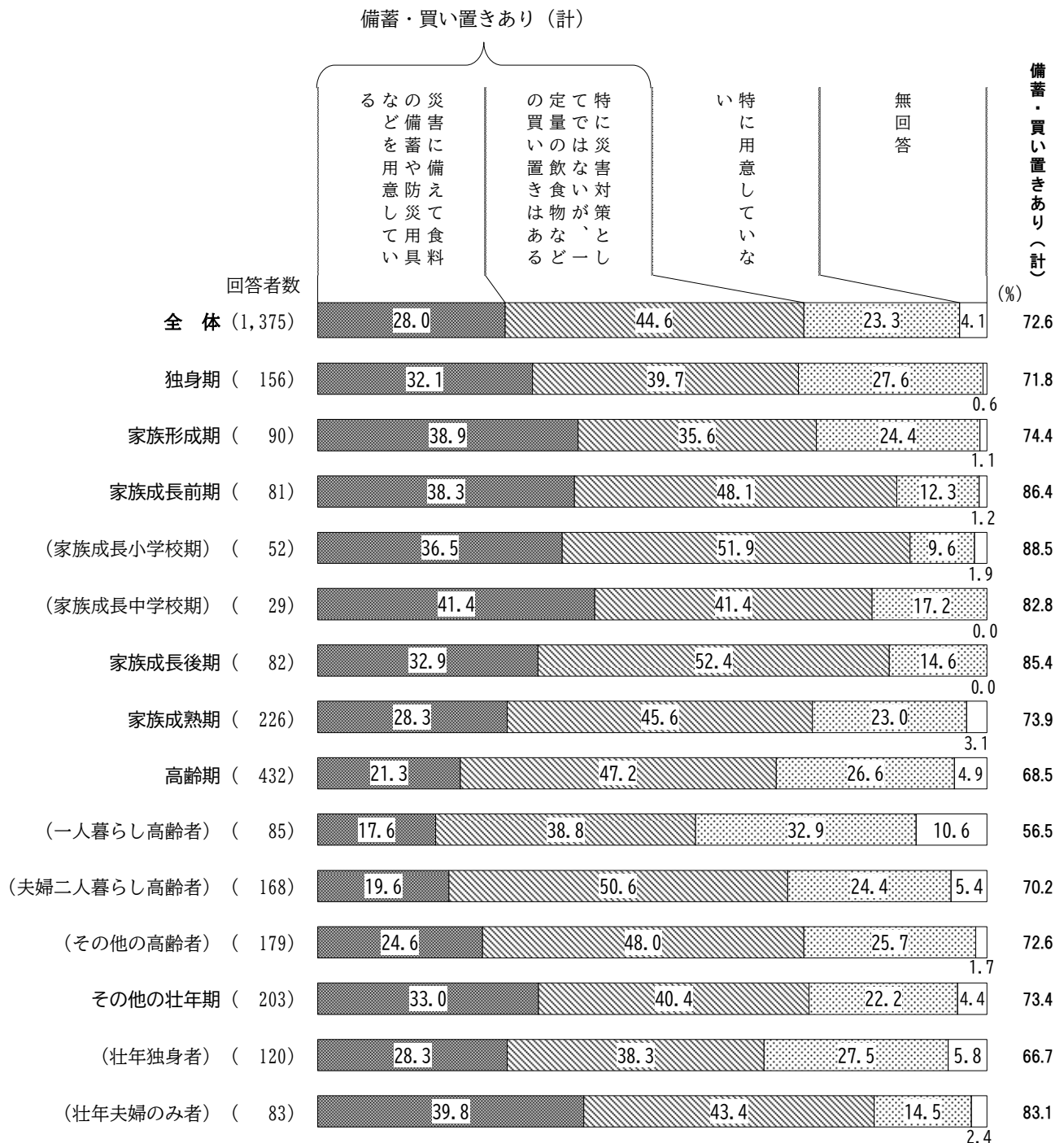


ウ クロス集計・ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意

ライフステージ別でみると、【備蓄・買い置きあり】は〈家族成長前期〉が86.4%で最も高く、次いで〈家族成長後期〉(85.4%)となっており、〈高齢期〉が68.5%で最も低くなっている。

詳細区分でみると、〈(家族成長小学校期)〉が88.5%で最も高く、〈(一人暮らし高齢者)〉が56.5%で最も低くなっている。

図2-1-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意



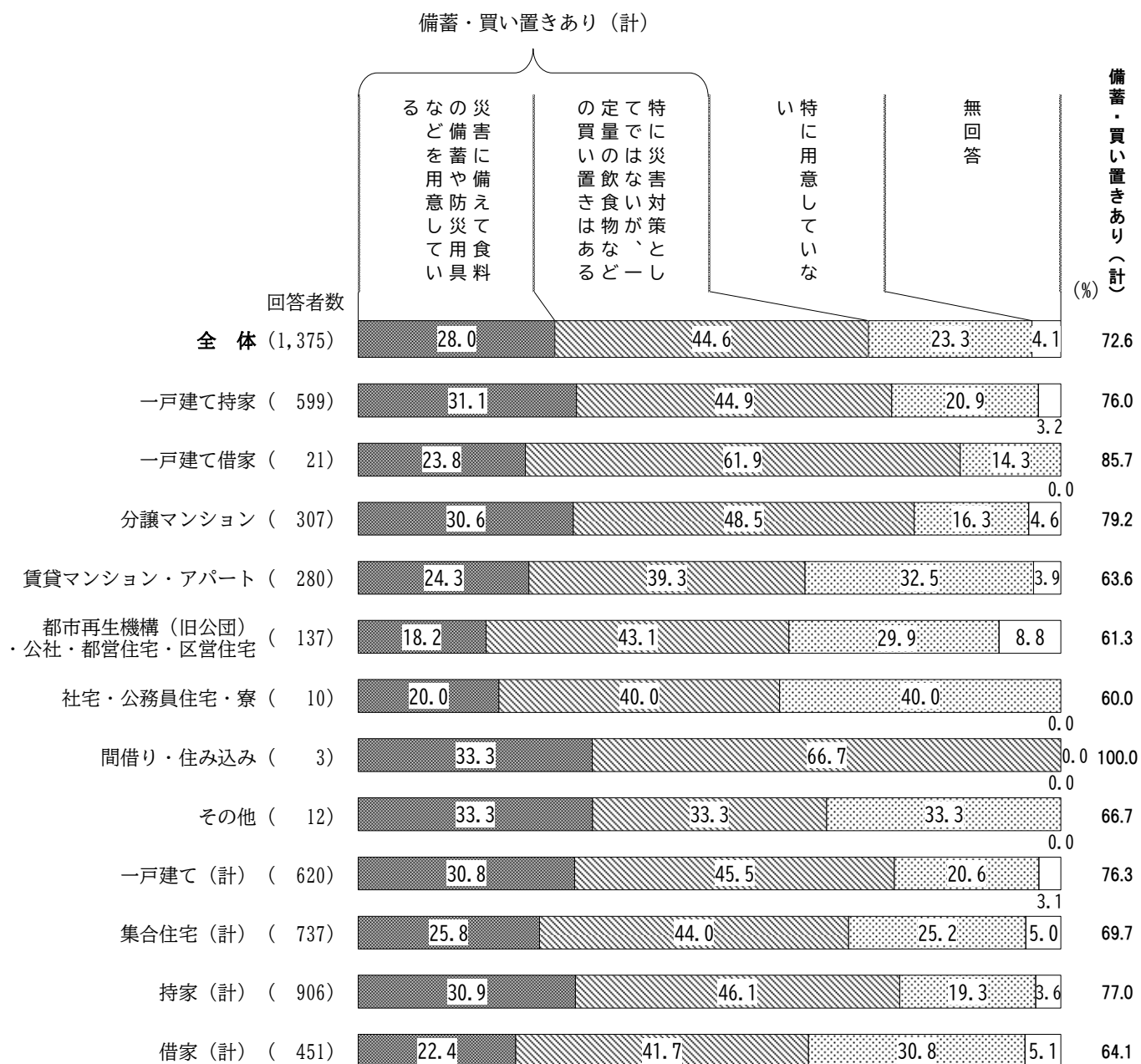
エ クロス集計・住居形態別／備蓄や防災用具などの用意

(ア) 住居形態別でみると、【備蓄・買い置きあり】は〈分譲マンション〉が79.2%で最も高く、次いで〈一戸建て持家〉(76.0%)となっている。一方、「特に用意していない」は〈賃貸マンション・アパート〉が32.5%で最も高くなっている。

(イ) 住宅の戸建て集合別では、〈一戸建て(計)〉(76.3%)の方が〈集合住宅(計)〉(69.7%)より6.6ポイント高くなっている。

(ウ) 住宅の所有形態別では、〈持家(計)〉(77.0%)の方が〈借家(計)〉(64.1%)より12.9ポイント高くなっている。

図2-1-4 住居形態別／備蓄や防災用具などの用意



※「一戸建て借家」「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」については、回答数が少ないため参考値。

(2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

問4で「1 災害に備えて～」または「2 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に

問4-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください

(○はあてはまるものすべて)。

■ 1位「水」(9割台半ば近く)、2位「食料」(8割台半ば超)、3位「あかり」(7割台半ば近く)で前回調査と順位に変更なし

ア 単純集計・経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

(ア)【備蓄・買い置きあり】の内容は、高い順に主に以下のとおりとなっている。

- ①「水」(92.4%)
- ②「食料(缶詰、アルファーマ、インスタント食品など)」(87.5%)
- ③「あかり(ろうそく、懐中電灯など)」(72.2%)
- ④「簡易トイレ」(58.5%)
- ⑤「電池・予備バッテリー」(56.2%)

(イ) 令和3年度調査以降、「水」「食料(缶詰、アルファーマ、インスタント食品など)」「あかり(ろうそく、懐中電灯など)」の上位3項目の順位に変更はない。

(ウ) 前回調査と比較すると、「情報収集手段(携帯ラジオなど)」(44.4%→47.5%)が3.1ポイント増加している。

図2-2-1-① 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

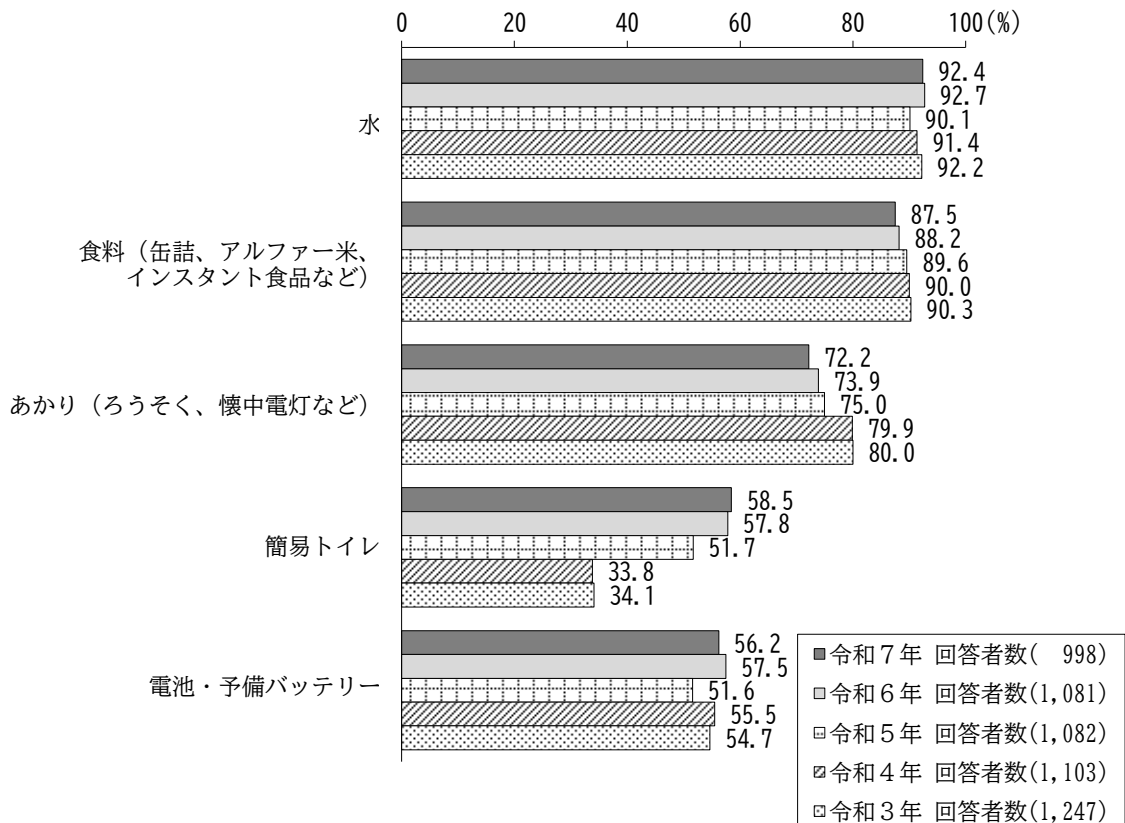


図2-2-1-② 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

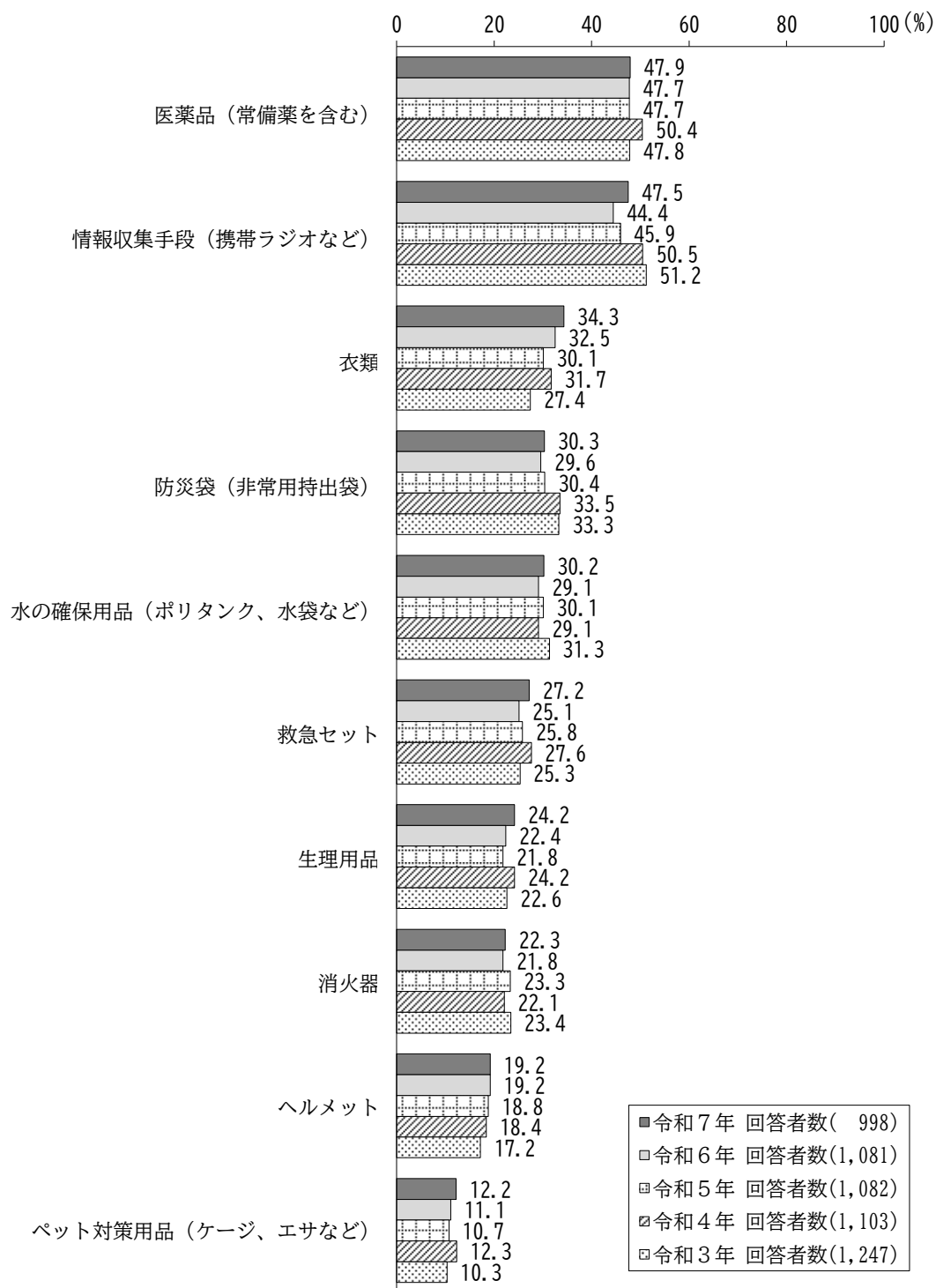
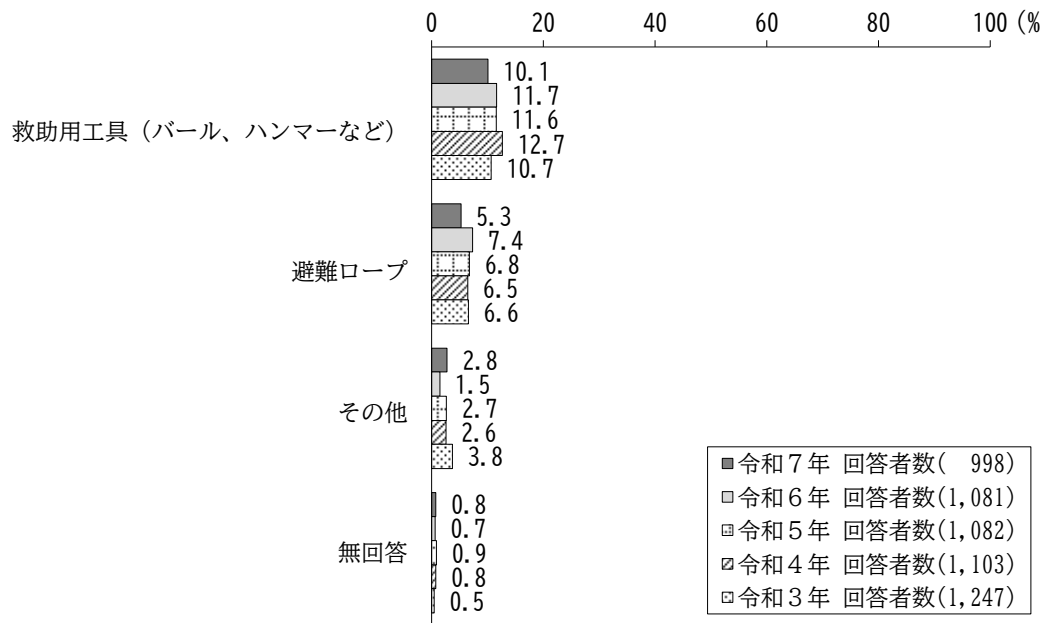


図2-2-1-③ 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容



イ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容（上位8項目）

（ア）性別にみたときに、男女で3ポイント以上差がある取り組み

a 男性の方が女性より3ポイント以上高い項目

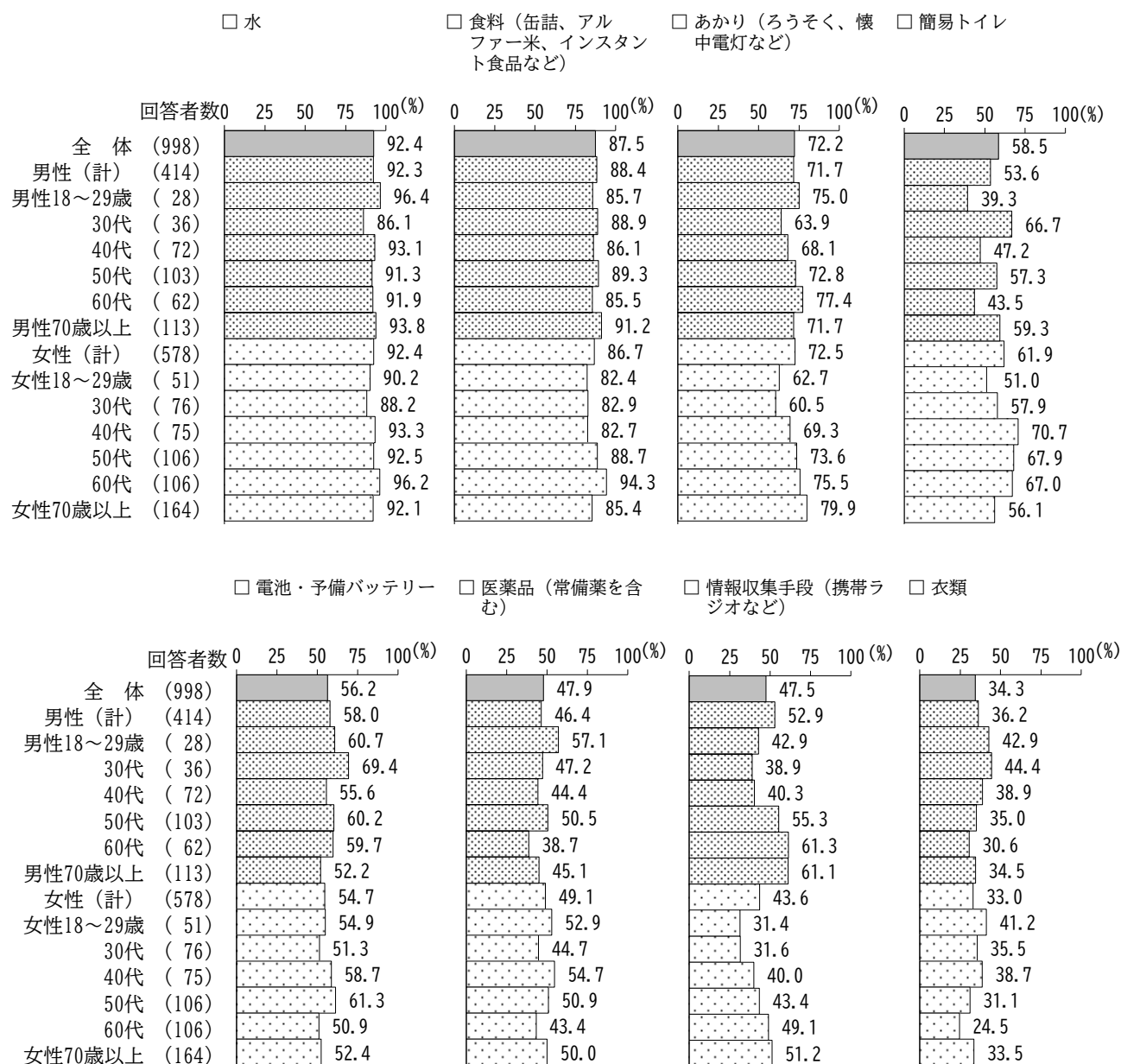
- ・「情報収集手段（携帯ラジオなど）」（+9.3ポイント）
- ・「電池・予備バッテリー」（+3.3ポイント）
- ・「衣類」（+3.2ポイント）

b 女性の方が男性より3ポイント以上高い項目

- ・「簡易トイレ」（+8.3ポイント）

（イ）性・年代別でみると、「水」は男性の18～29歳（96.4%）、「食料（缶詰、アルファーマ、インスタント食品など）」は女性の60代（94.3%）、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」は女性の70歳以上（79.9%）で最も高くなっている。また、「簡易トイレ」は女性の40代（70.7%）が最も高く、男性の18～29歳（39.3%）で最も低く、その差は30ポイント以上開いている。

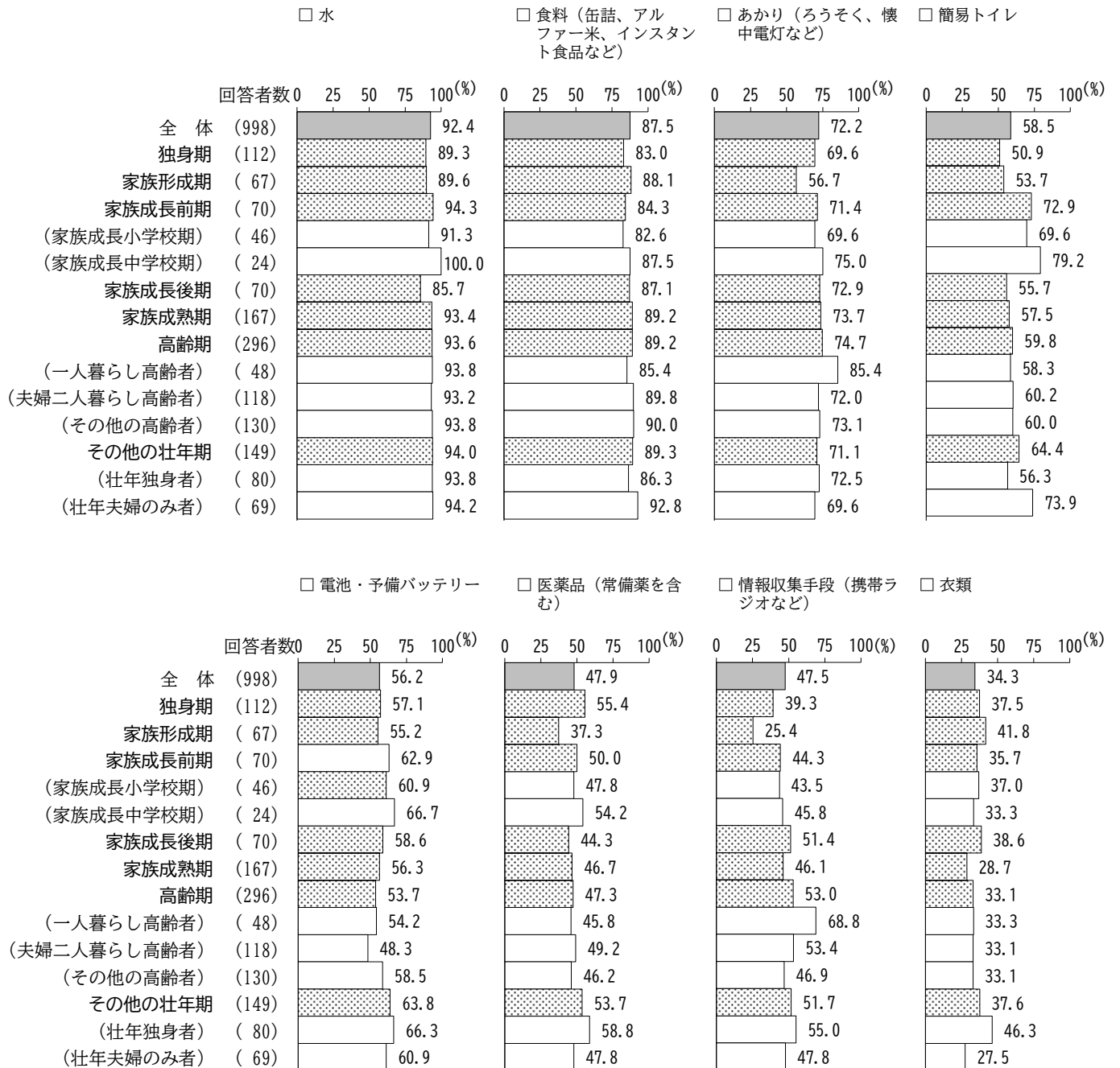
図2-2-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



ウ クロス集計・ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容（上位8項目）

ライフステージ別にみると、詳細区分を除いたところでは、「水」は〈家族成長前期〉（94.3%）、「食料（缶詰、アルファーマイ、インスタント食品など）」は〈その他の壮年期〉（89.3%）、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」は〈高齢期〉（74.7%）、「簡易トイレ」は〈家族成長前期〉（72.9%）でそれぞれ最も高くなっている。

図2-2-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



(3) 備蓄量

問4-1で「1 水」、「2 食料」または「3 簡易トイレ」とお答えの方に

問4-1-1 あなたのご家庭では、「水」、「食料」、「簡易トイレ」の備蓄の量はどれくらいありますか。いずれかの備蓄がない場合は、その項目についての回答は不要です（〇はそれぞれ1つつつ）。

※ 水は大人1人1日3リットル、簡易トイレは1人1日5回分で計算。水、食料は日常の買い置きなどを含みます。

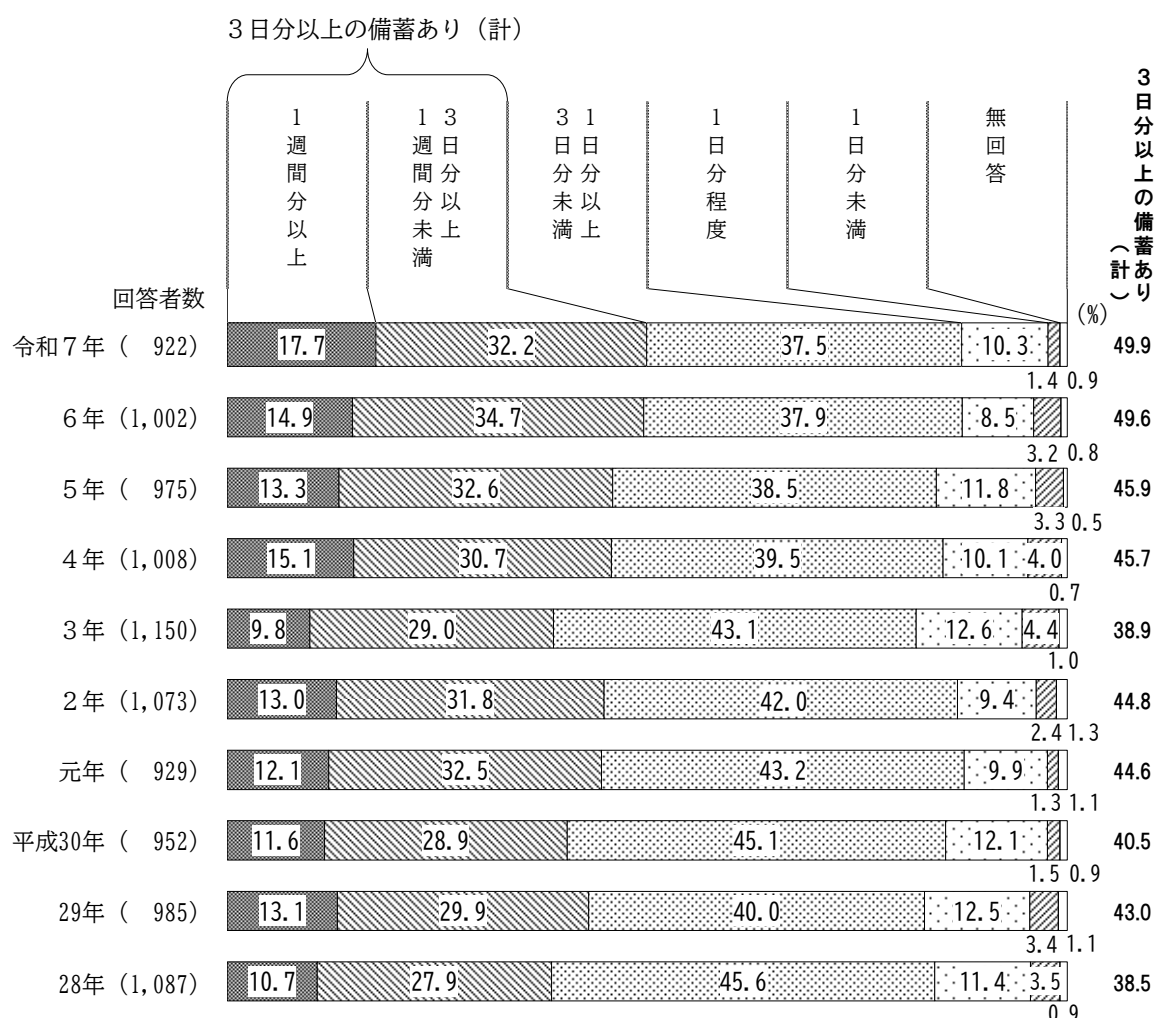
■【3日分以上の備蓄あり】は「水」が約5割、「食料」が4割台半ば、「簡易トイレ」が4割超

ア 単純集計・経年比較／備蓄量／水

(ア)「水」の備蓄量については「1日分以上3日分未満」が37.5%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」(32.2%)となっている。また、「3日分以上1週間分未満」と「1週間分以上」(17.7%)を合わせた【3日分以上の備蓄あり】は49.9%となっている。

(イ) 前回調査と比較すると、【3日分以上の備蓄あり】は微増しており、過去10年間で最も高い割合となっている。

図2-3-1-① 経年比較／備蓄量／水

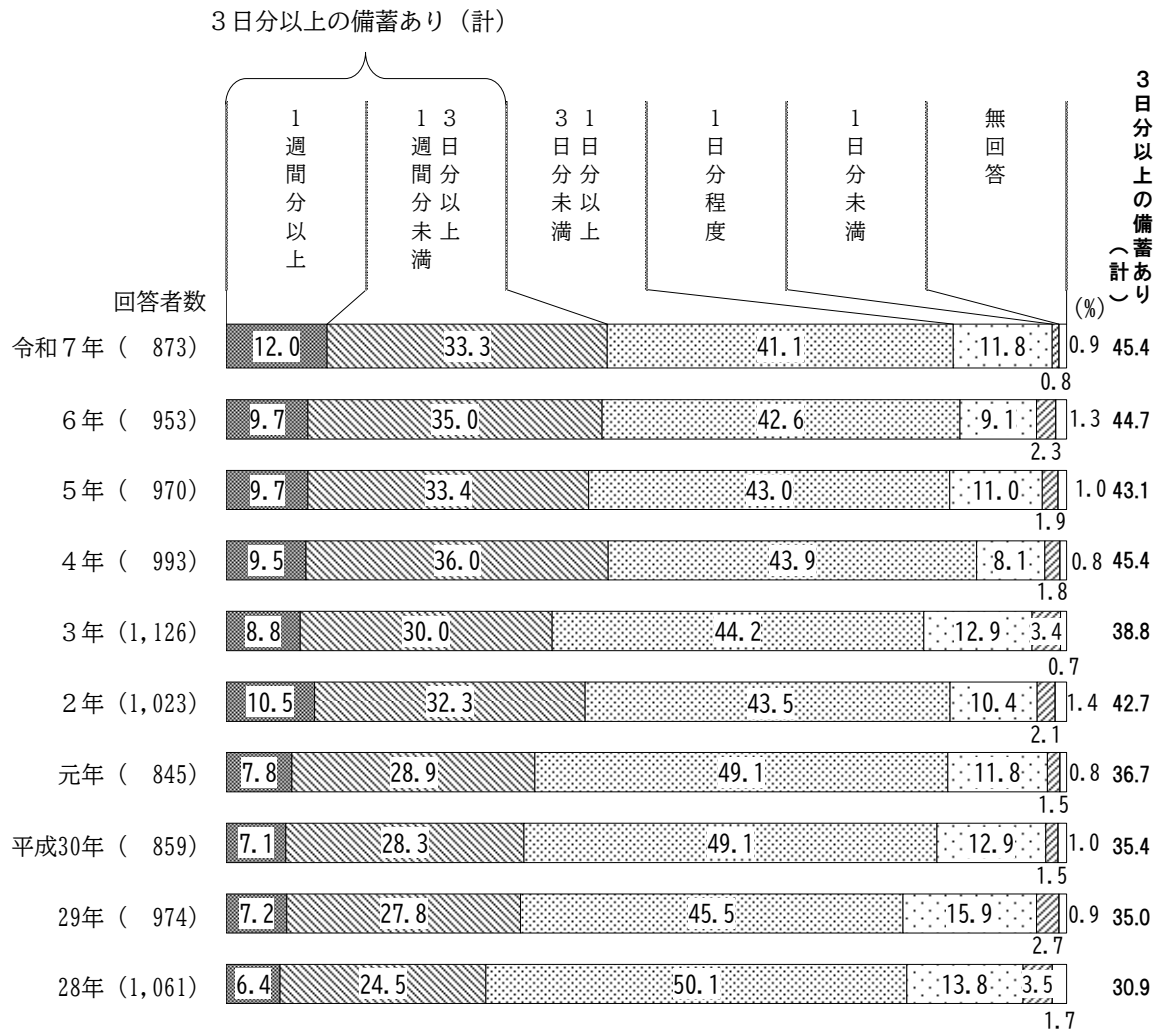


イ 単純集計・経年比較／備蓄量／食料

(ア)「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」の備蓄量については、「1日分以上3日分未満」が41.1%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」（33.3%）となっている。また、「3日分以上1週間分未満」と「1週間分以上」（12.0%）を合わせた【3日分以上の備蓄あり】は45.4%となっている。

(イ)前回調査と比較すると、【3日分以上の備蓄あり】は微増しており、令和4年度調査(45.4%)と並んで最も高い割合となった。

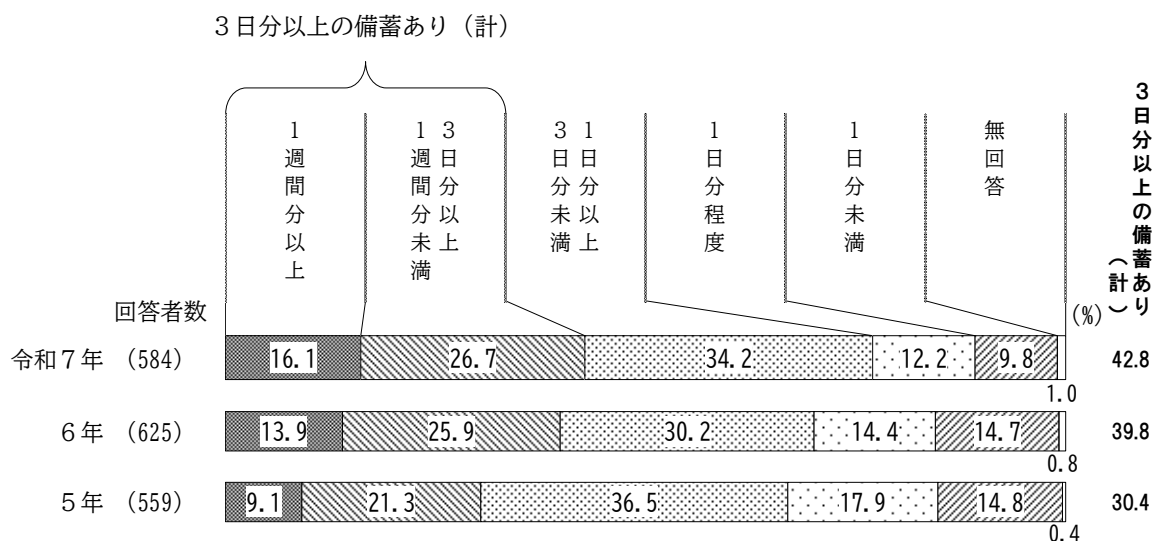
図2-3-1-② 経年比較／備蓄量／食料



ウ 単純集計・経年比較／備蓄量／簡易トイレ

- (ア)「簡易トイレ」の備蓄量については、「1日分以上3日分未満」が34.2%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」(26.7%)となっている。また、「3日分以上1週間分未満」と「1週間分以上」(16.1%)を合わせた【3日分以上の備蓄あり】は42.8%となっている。
- (イ) 前回調査と比較すると、【3日分以上の備蓄あり】(前回39.8%)は3.0ポイントの増加となっている。

図2-3-1-③ 経年比較／備蓄量／簡易トイレ

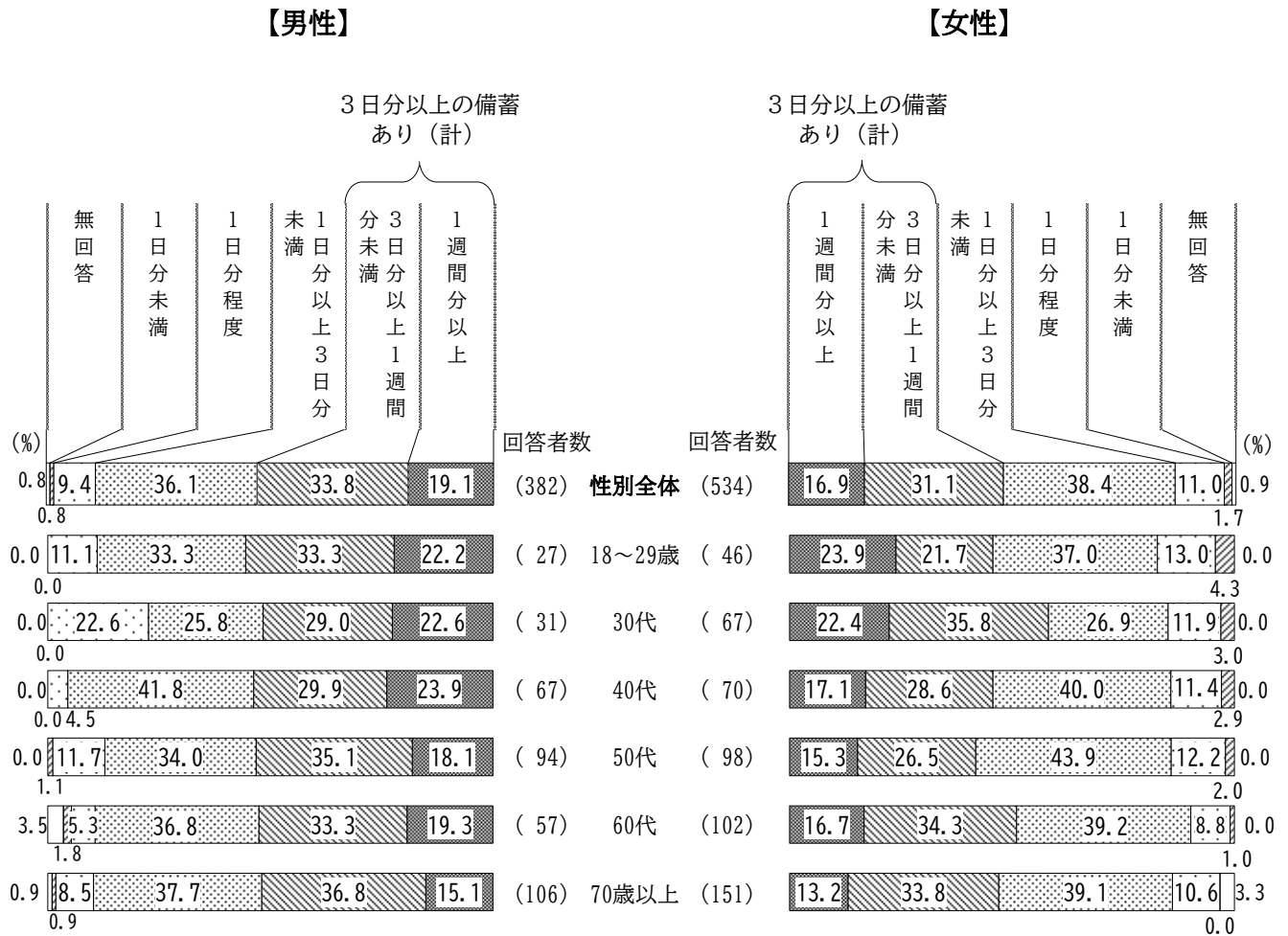


エ クロス集計・性別・性・年代別／備蓄量／水

(ア)「水」の備蓄量を性別でみると、【3日分以上の備蓄あり】は男性（52.9%）の方が女性（47.9%）より5.0ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で【3日分以上の備蓄あり】をみると、女性の30代が58.2%で最も高く、次いで男性の18～29歳（55.6%）となっている。逆に、女性の50代（41.8%）が最も低くなっている。また、「1日分未満」は女性の18～29歳が4.3%で最も高くなっている。

図2-3-2-① 性別・性・年代別／備蓄量／水

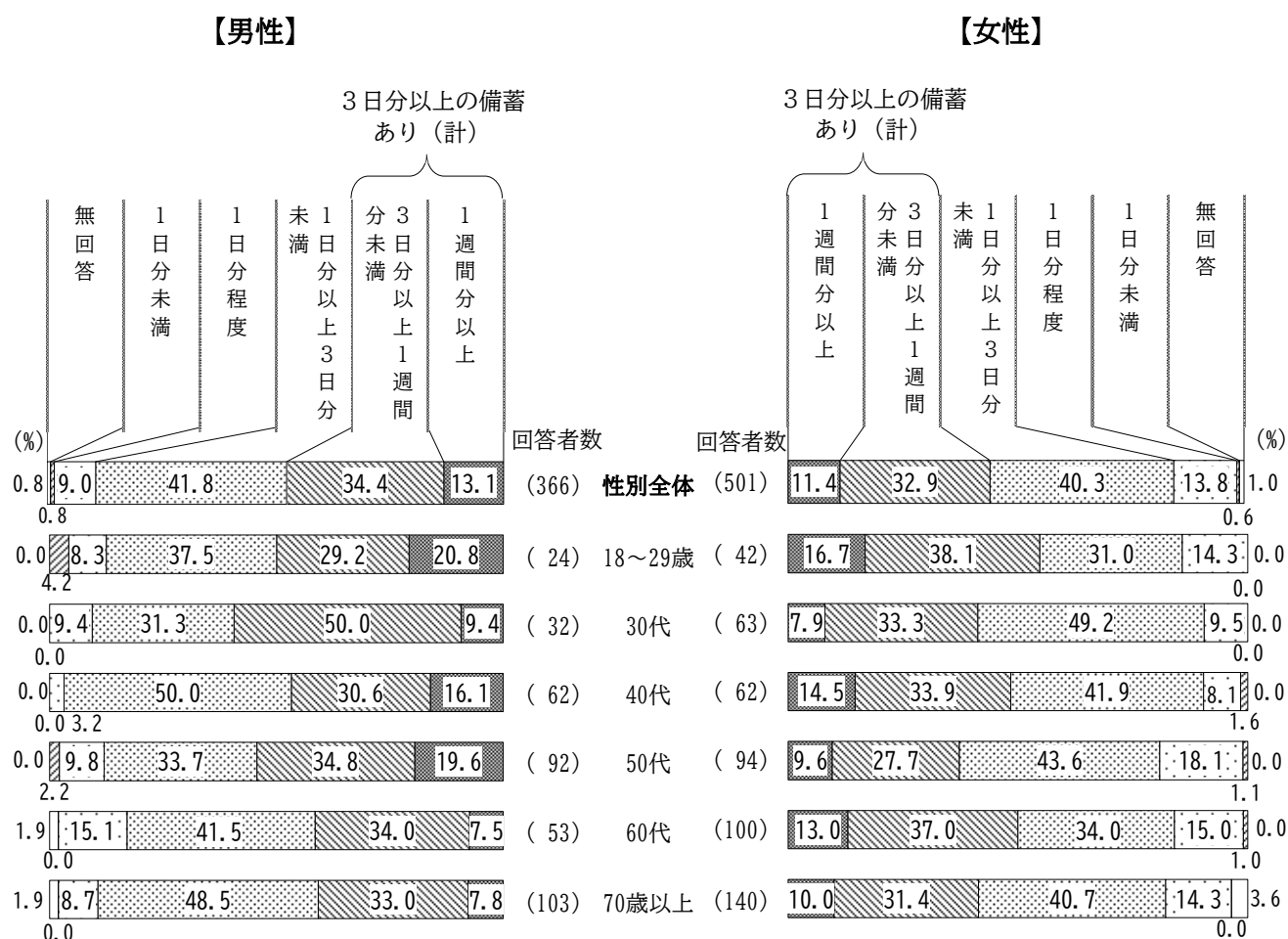


オ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄量／食料

(ア)「食料」の備蓄量を性別でみると、【3日分以上の備蓄あり】は男性（47.5%）の方が女性（44.3%）より3.2ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で【3日分以上の備蓄あり】をみると、男性の30代が59.4%で最も高く、次いで女性の18～29歳（54.8%）、男性の50代（54.3%）が5割台半ばで続いている。逆に、女性の50代が37.2%と最も低くなっている。また、「1日分未満」は男性の18～29歳が4.2%で最も高くなっている。

図2-3-2-② 性別、性・年代別／備蓄量／食料

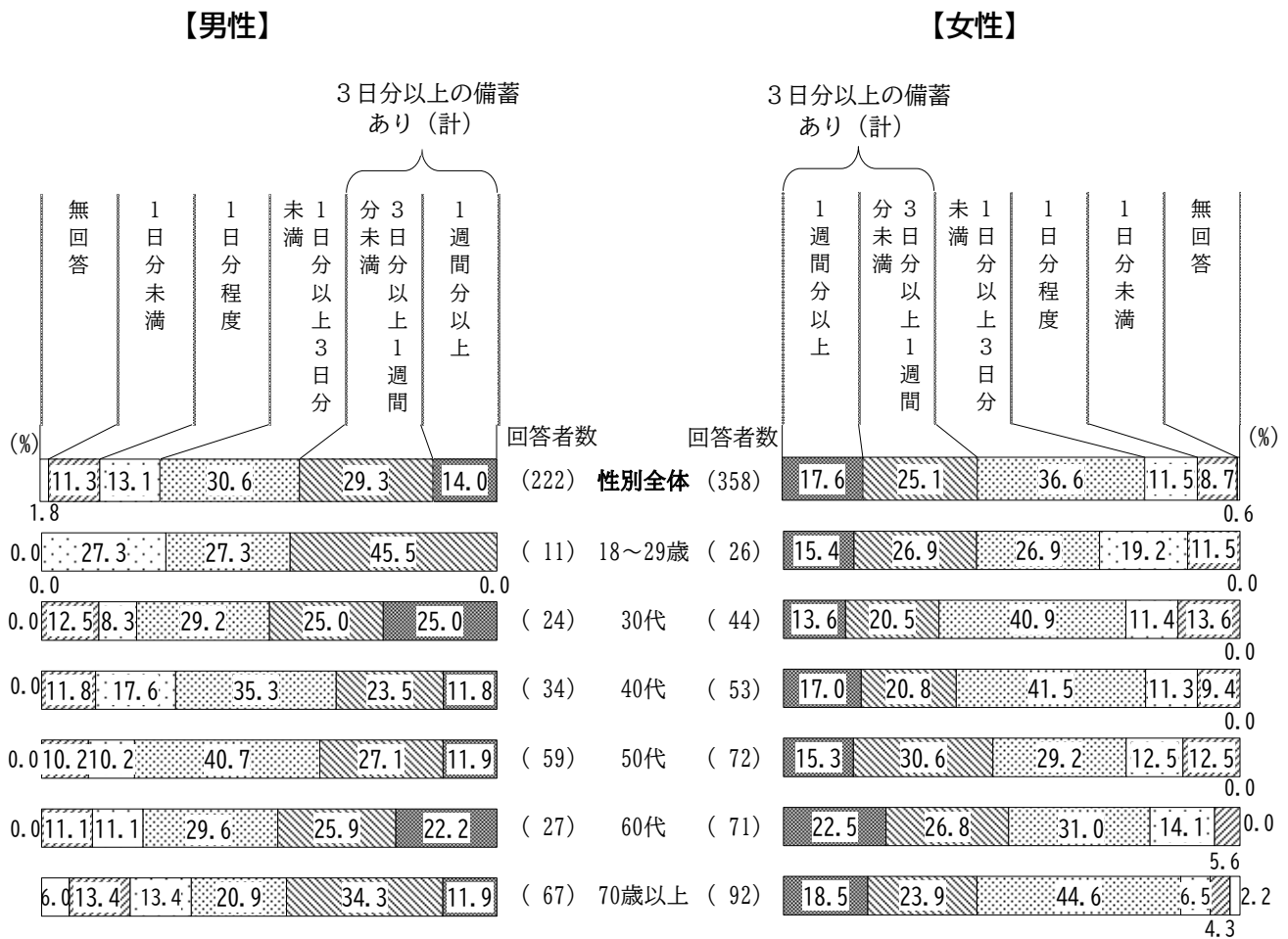


カ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄量／簡易トイレ

(ア)「簡易トイレ」の備蓄量を性別でみると、【3日分以上の備蓄あり】は男性（43.2%）と女性（42.7%）では大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別で【3日分以上の備蓄あり】をみると、男性の30代は50.0%で最も高く、次いで女性の60代（49.3%）となっている。逆に、女性の30代（34.1%）と男性の40代（35.3%）が3割台半ばで低くなっている。また、「1日分未満」は女性の30代が13.6%で最も高くなっている。

図2-3-2-③ 性別、性・年代別／備蓄量／簡易トイレ

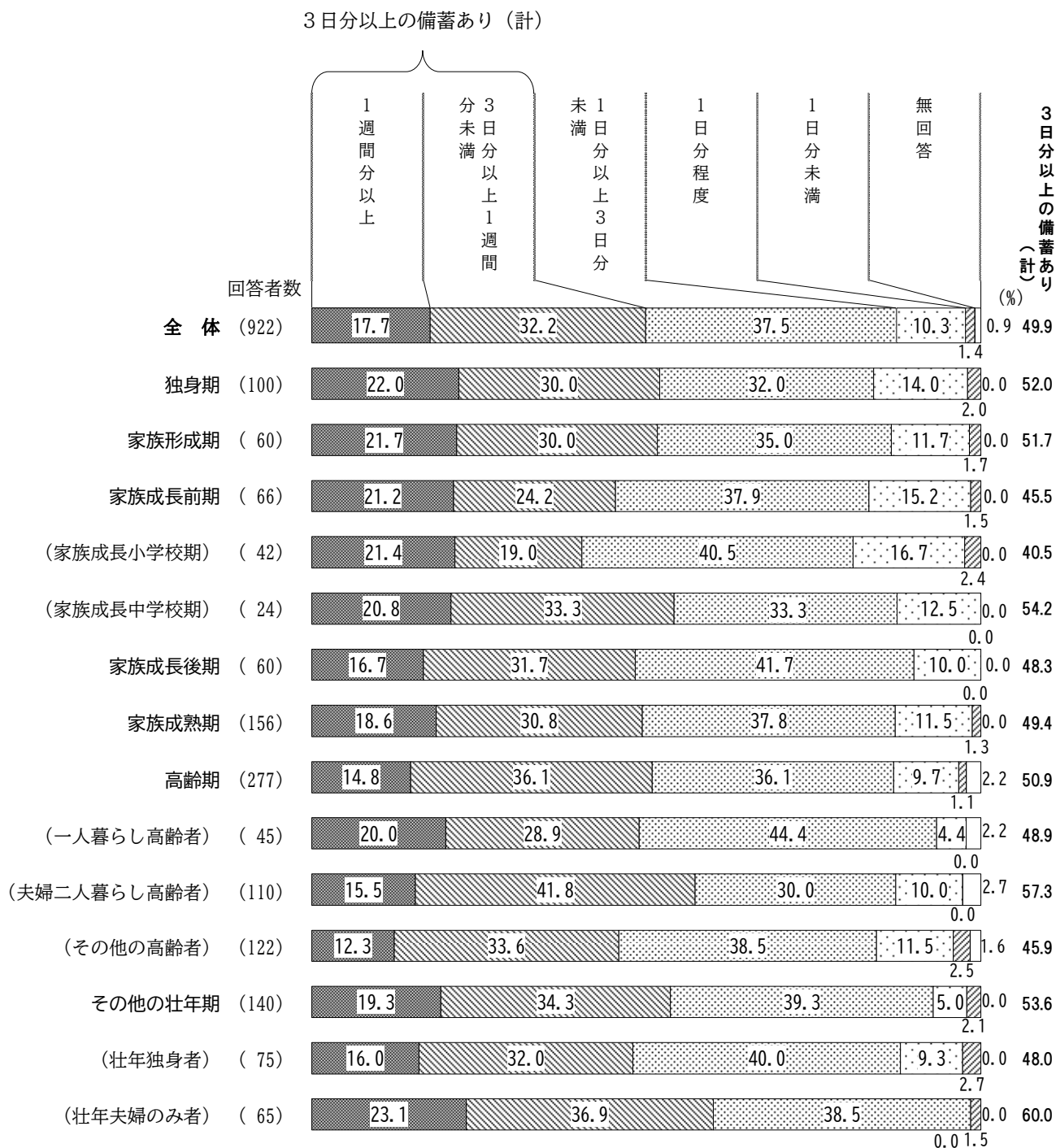


キ クロス集計・ライフステージ別／備蓄量／水

「水」の備蓄量をライフステージ別でみると、【3日分以上の備蓄あり】は〈その他の壮年期〉が53.5%で最も高く、〈家族成長前期〉が45.5%で最も低くなっている。

詳細区分でみると、〈(壮年夫婦のみ者)〉が60.0%で最も高くなっている。逆に〈(家族成長小学校期)〉が40.5%で最も低くなっている。

図2-3-3-① ライフステージ別／備蓄量／水

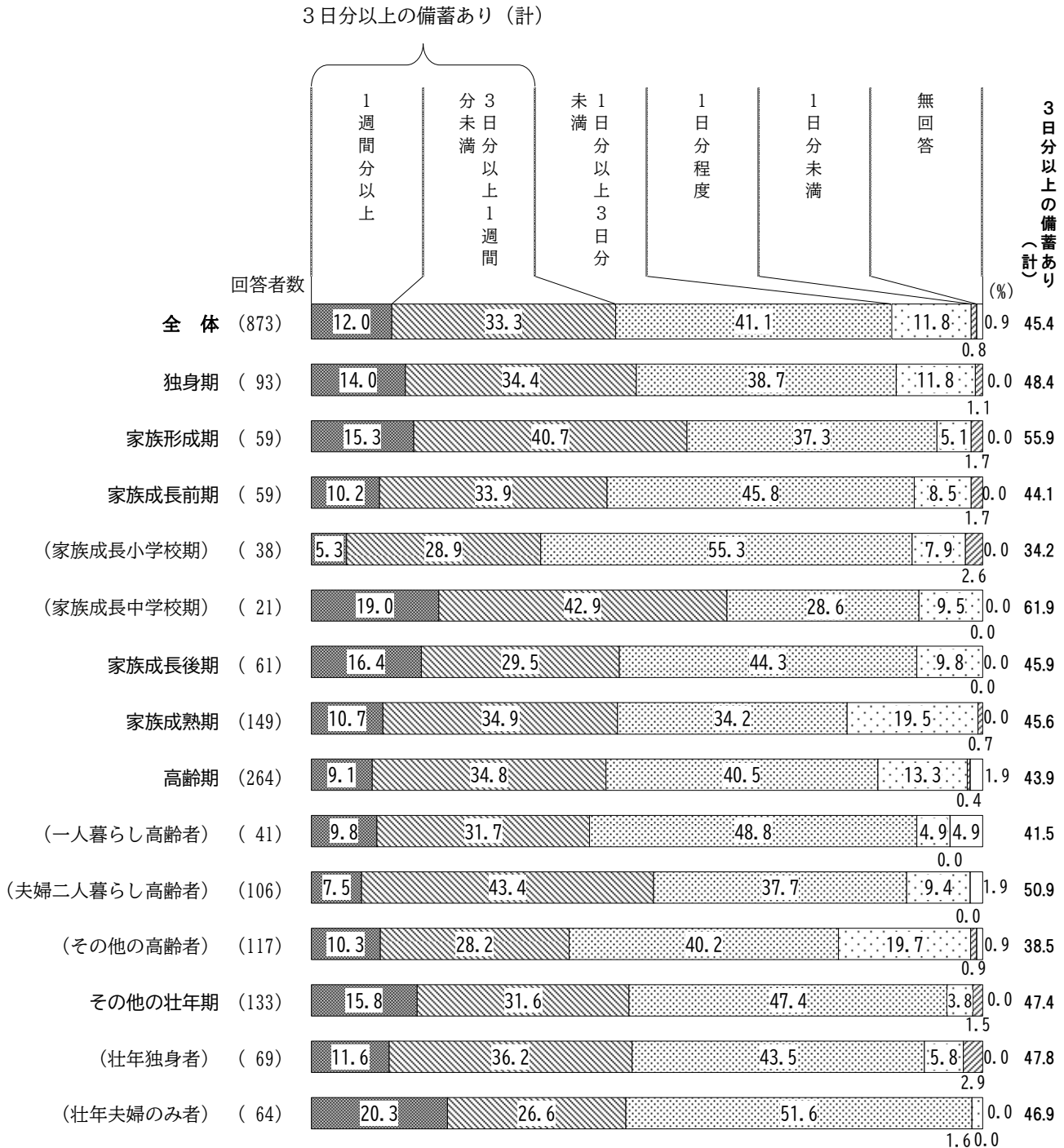


ク クロス集計・ライフステージ別／備蓄量／食料

「食料」の備蓄量をライフステージ別でみると、【3日分以上の備蓄あり】は〈家族形成期〉が55.9%で最も高く、〈高齢期〉が43.9%で最も低くなっている。

詳細区分でみると、回答数が少ないものの〈(家族成長中学校期)〉(61.9%)で6割台と最も高く、〈(家族成長小学校期)〉(34.2%)が3割台半ばと最も低くなっている。

図2-3-3-② ライフステージ別／備蓄量／食料

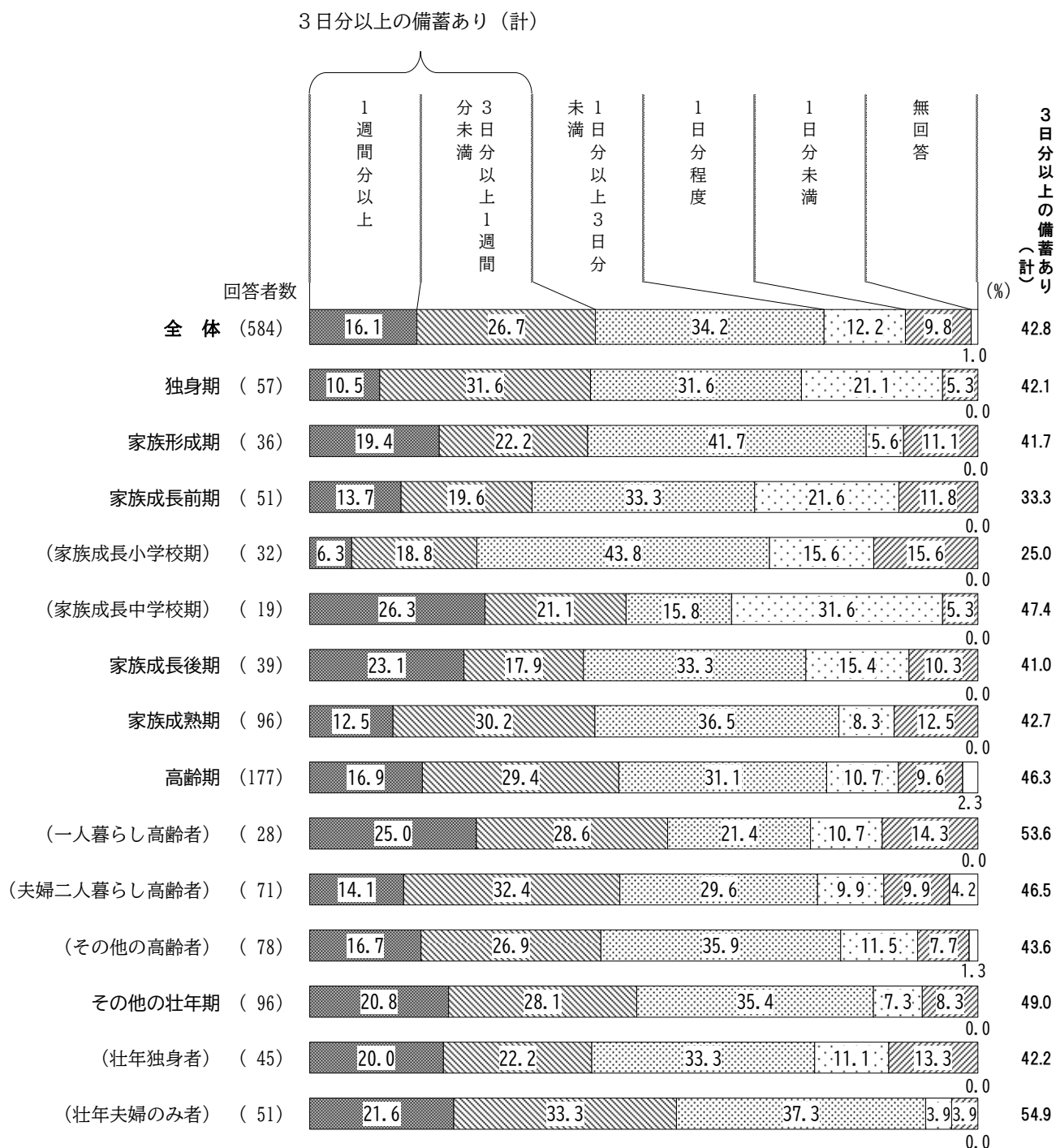


ケ クロス集計・ライフステージ別／備蓄量／簡易トイレ

「簡易トイレ」の備蓄量をライフステージ別でみると、【3日分以上の備蓄あり】は〈その他の壮年期〉が49.0%で最も高く、〈家族成長前期〉が33.3%で最も低くなっている。

詳細区分でみると、〈(壮年夫婦のみ者)〉(54.9%)で5割台半ばと最も高く、〈(家族成長小学校期)〉(25.0%)で2割台半ばと最も低くなっている。

図2-3-3-③ ライフステージ別／備蓄量／簡易トイレ



(4) 地域の3種の避難場所とその意味の認知

問5 大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、以下のア～ウのあなたの地域の避難場所とその意味を知っていますか（○はそれぞれ1つずつ）。

■「知っている」は【避難場所】の〈場所〉が最高（36.7%）、【第一次避難所】の〈意味〉が最低（17.3%）

ア【一時集合場所】^{いっときしゅうごうばしょ}とは、大地震など、災害が発生した場合に、避難場所（区内に32カ所）や避難所（区内の小・中学校や福祉施設）に集団で避難するために、町会・自治会単位で一時的に集まる場所です。

イ【避難場所】とは、大地震などで延焼火災が発生した場合、大火から身を守るために避難する場所です。

ウ【第一次避難所】とは、自宅が倒壊・焼失等で生活が出来ない場合、生活する場所です。第一次避難所は、区立の小中学校、都立高校などが指定されており、災害発生時には、避難所近隣の町会・自治会を中心とした避難所運営本部により開設されます。

ア 単純集計・経年比較／地域の3種の避難場所とその意味の認知

- （ア）地域の3種の避難場所の場所を「知っている」の割合は、「イ 避難場所」が36.7%で最も高く、「ア 一時集合場所」（35.2%）、「ウ 第一次避難所」（24.3%）の順となっている。
- （イ）地域の3種の避難場所の意味を「知っている」の割合も、「イ 避難場所」が25.7%で最も高く、「ア 一時集合場所」（22.5%）、「ウ 第一次避難所」（17.3%）の順となっている。
- （ウ）いずれの項目も「意味」より「場所」の認知割合が高くなっており、その差が大きい順に、「ア 一時集合場所」（12.7ポイント）、「イ 避難場所」（11.0ポイント）、「ウ 第一次避難所」（7.0ポイント）となっている。
- （エ）前回調査と比較すると、〈場所〉〈意味〉の大半で「知っている」の割合が微減しているものの、割合としては特に大きな違いではない。

図2-4-1-① 経年比較／地域の3種の避難場所とその意味の認知

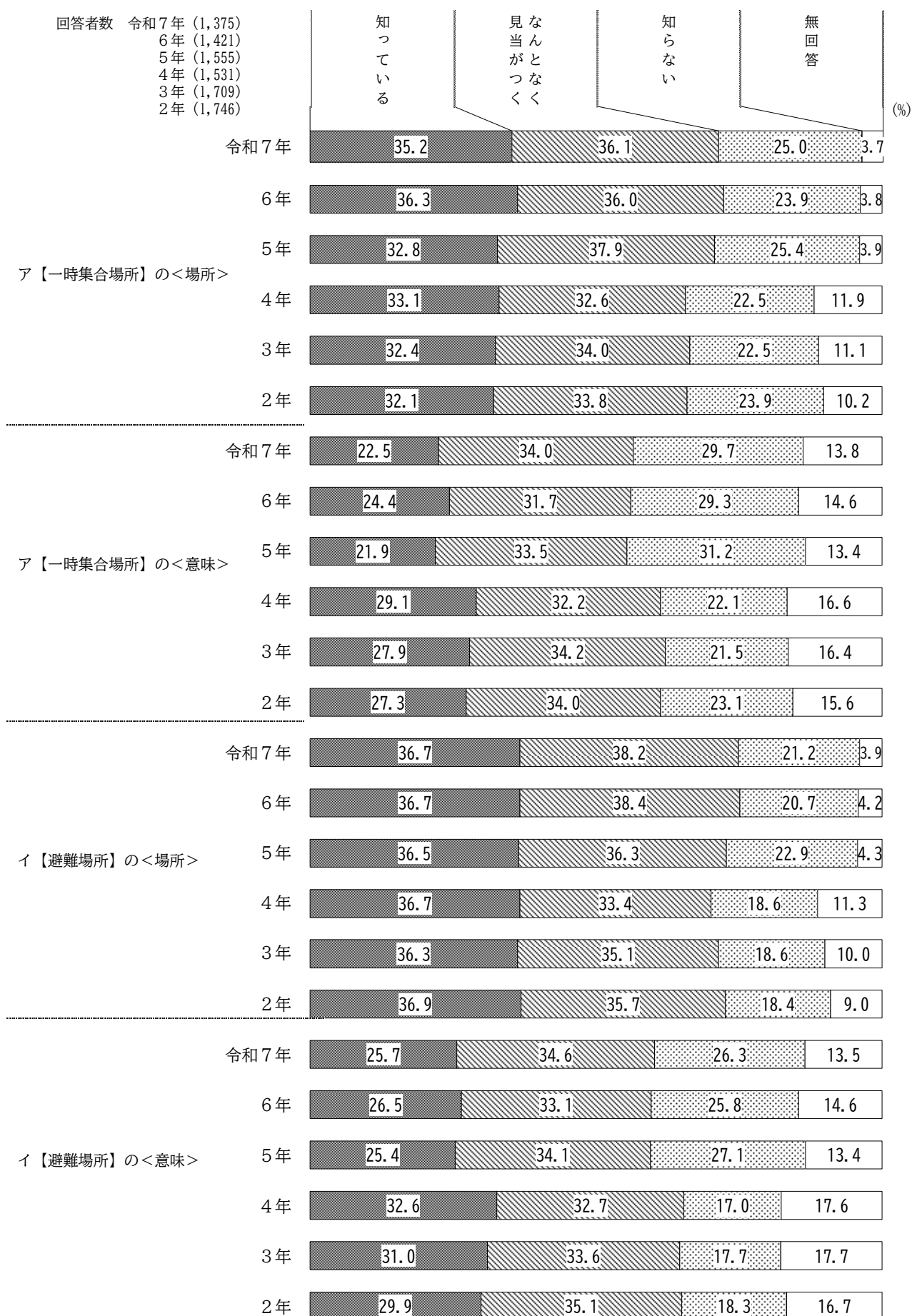
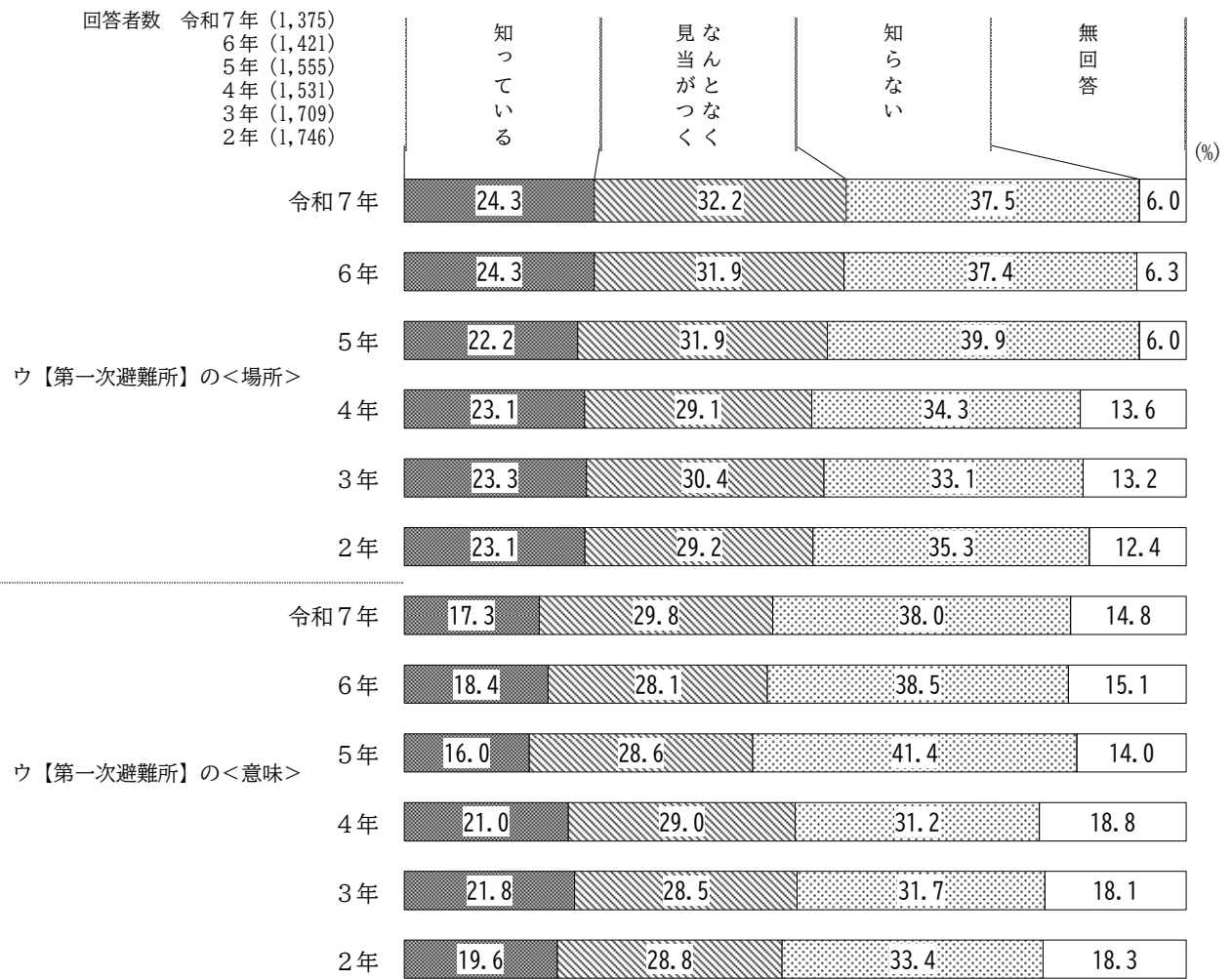


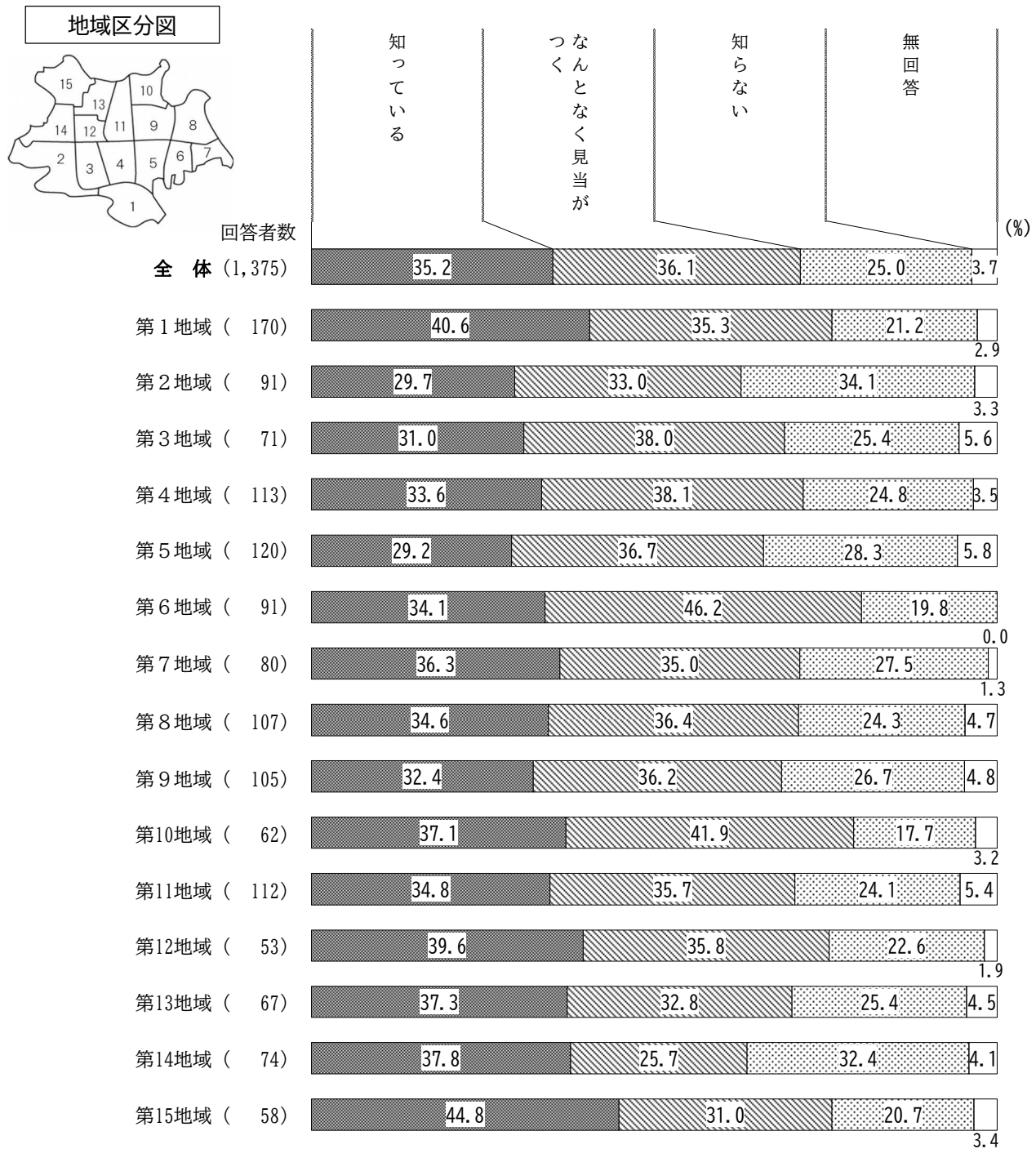
図2-4-1-② 経年比較／地域の3種の避難場所とその意味の認知



イ クロス集計・地域別／「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知

「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第15地域が44.8%で最も高く、次いで、第1地域（40.6%）となっている。一方、第5地域が29.2%で最も低く、次いで第2地域（29.7%）となっている。

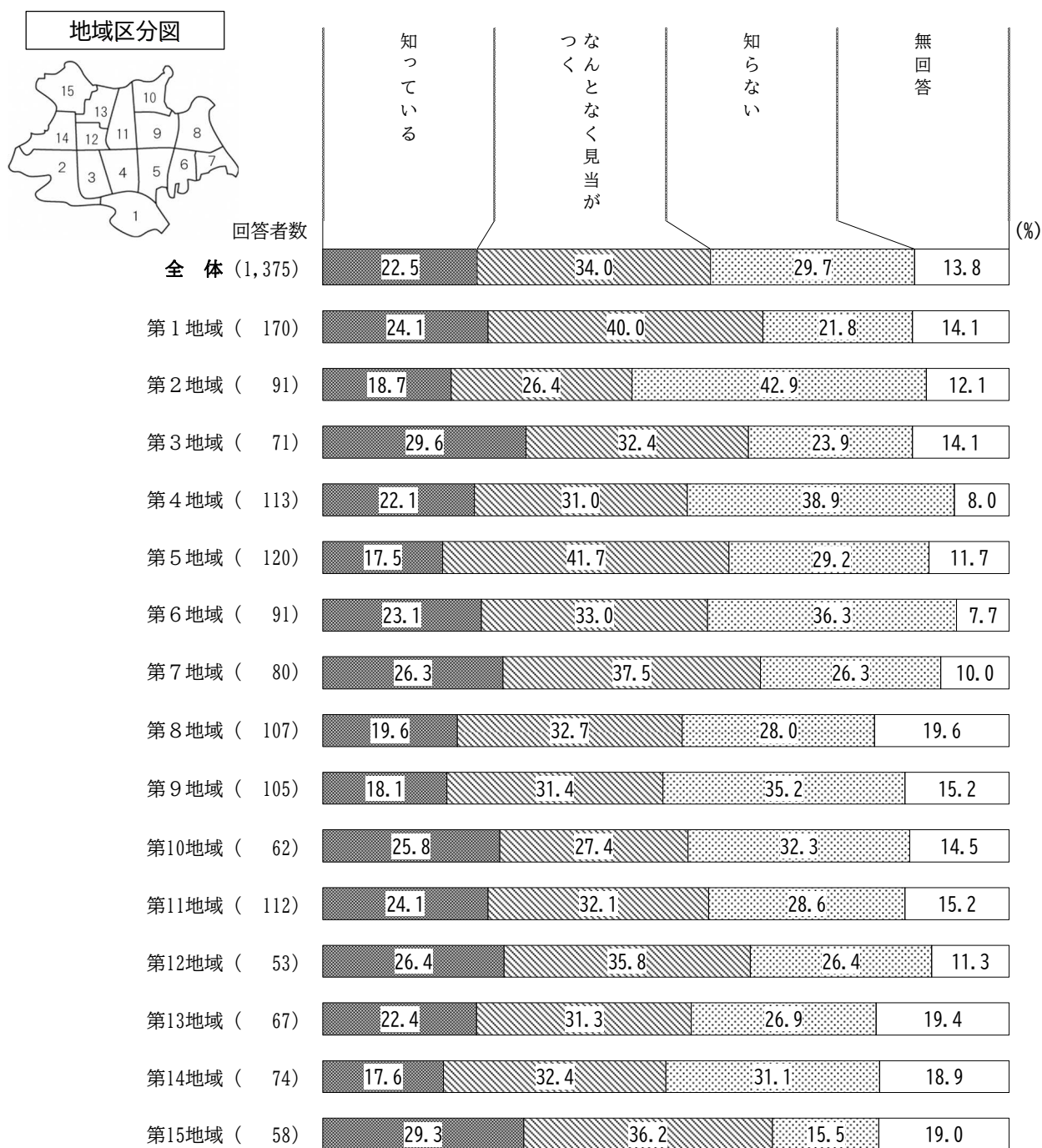
図2-4-2-① 地域別／「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知



ウ クロス集計・地域別／「ア【一時集合場所】の＜意味＞」の認知

「ア【一時集合場所】の＜意味＞」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第3地域が29.6%で最も高く、次いで第15地域（29.3%）となっている。一方、第5地域が17.5%で最も低く、次いで第14地域（17.6%）となっている。

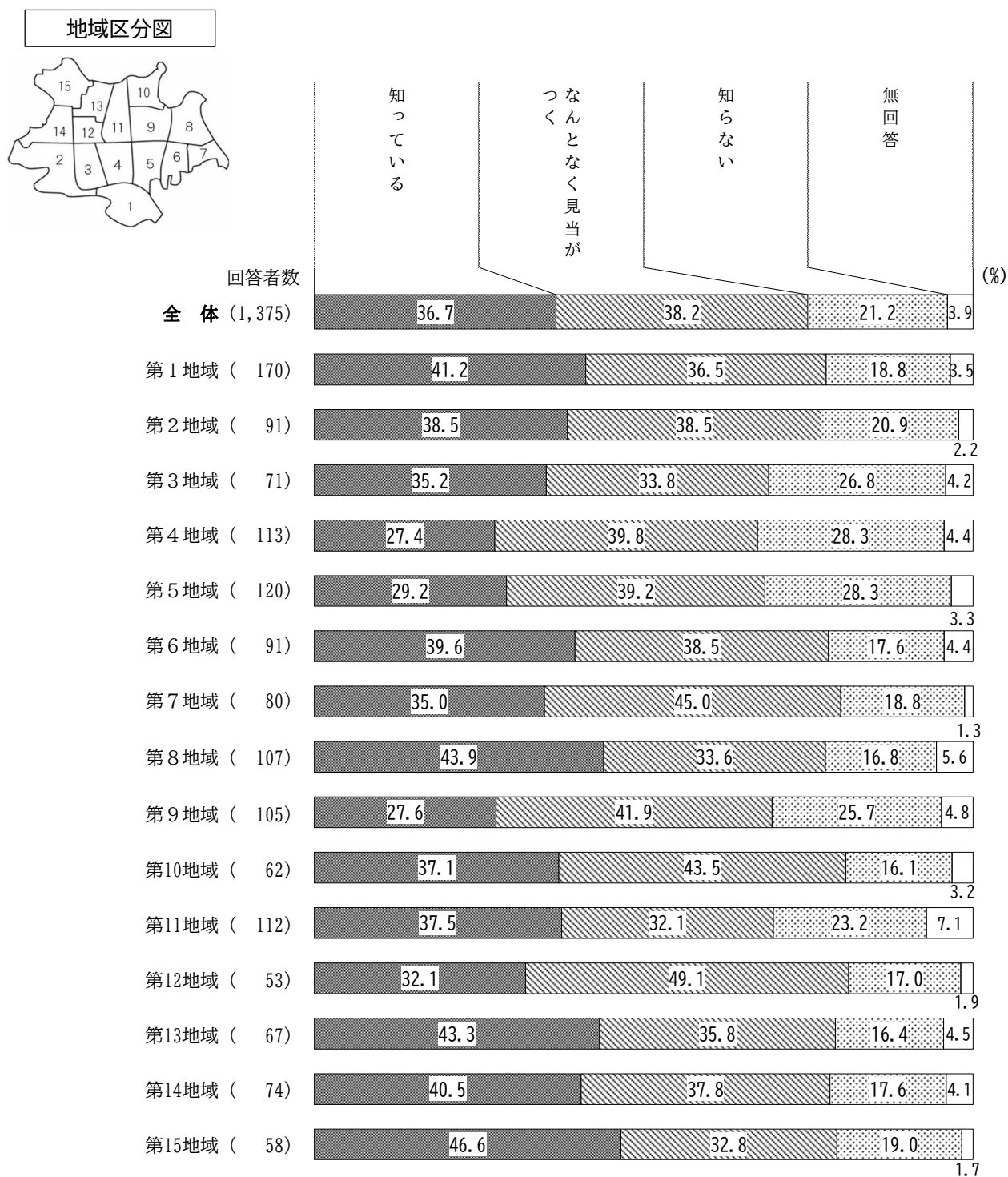
図2-4-2-② 地域別／「ア【一時集合場所】の＜意味＞」の認知



エ クロス集計・地域別／「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知

「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第15地域が46.6%で最も高く、次いで第8地域（43.9%）となっている。一方、第4地域が27.4%で最も低く、次いで第9地域（27.6%）となっている。

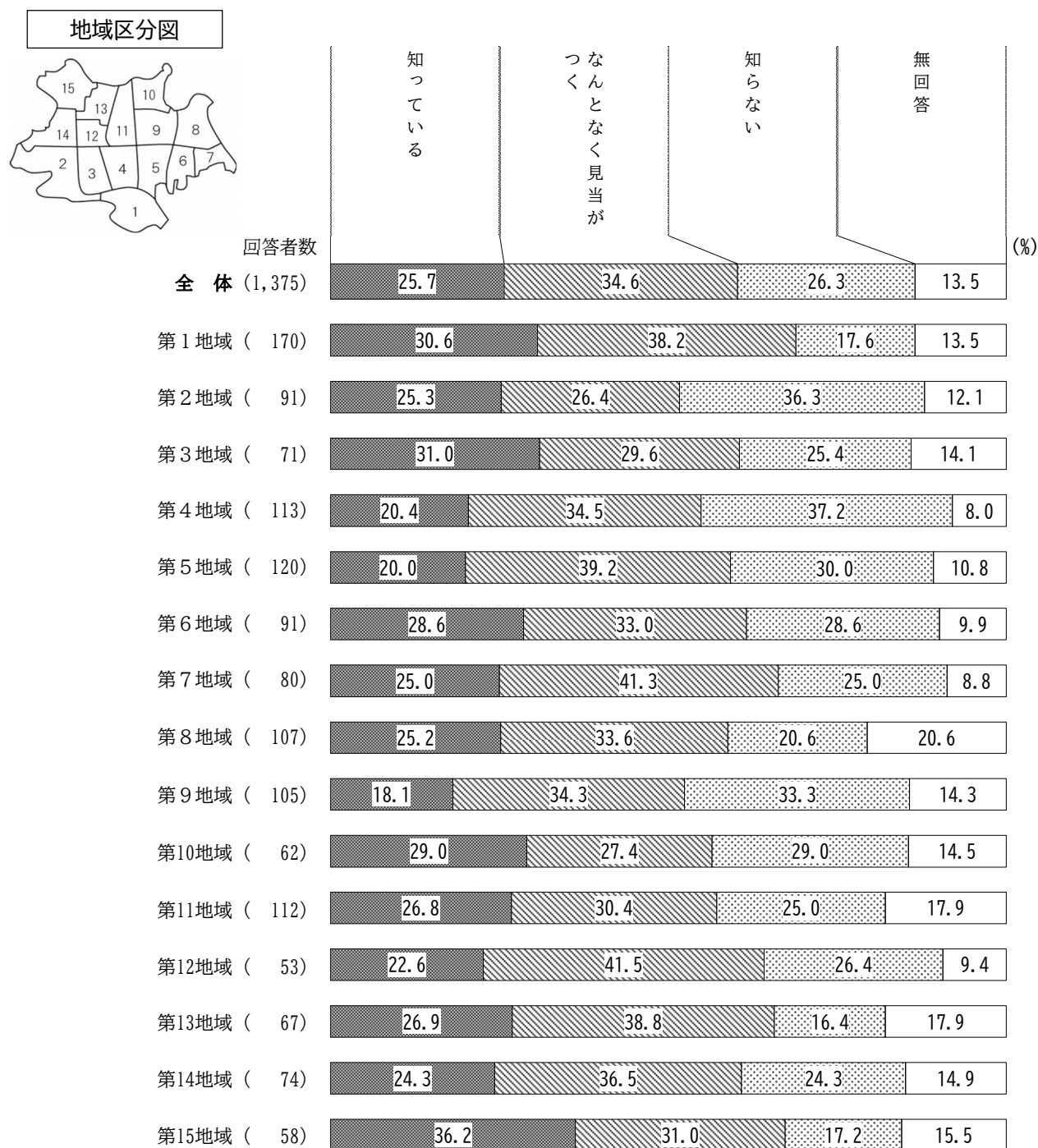
図2-4-2-③ 地域別／「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知



オ クロス集計・地域別／「イ【避難場所】の＜意味＞」の認知

「イ【避難場所】の＜意味＞」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第15地域が36.2%で最も高く、次いで第3地域（31.0%）となっている。一方、第9地域が18.1%で最も低く、次いで第5地域（20.0%）となっている。

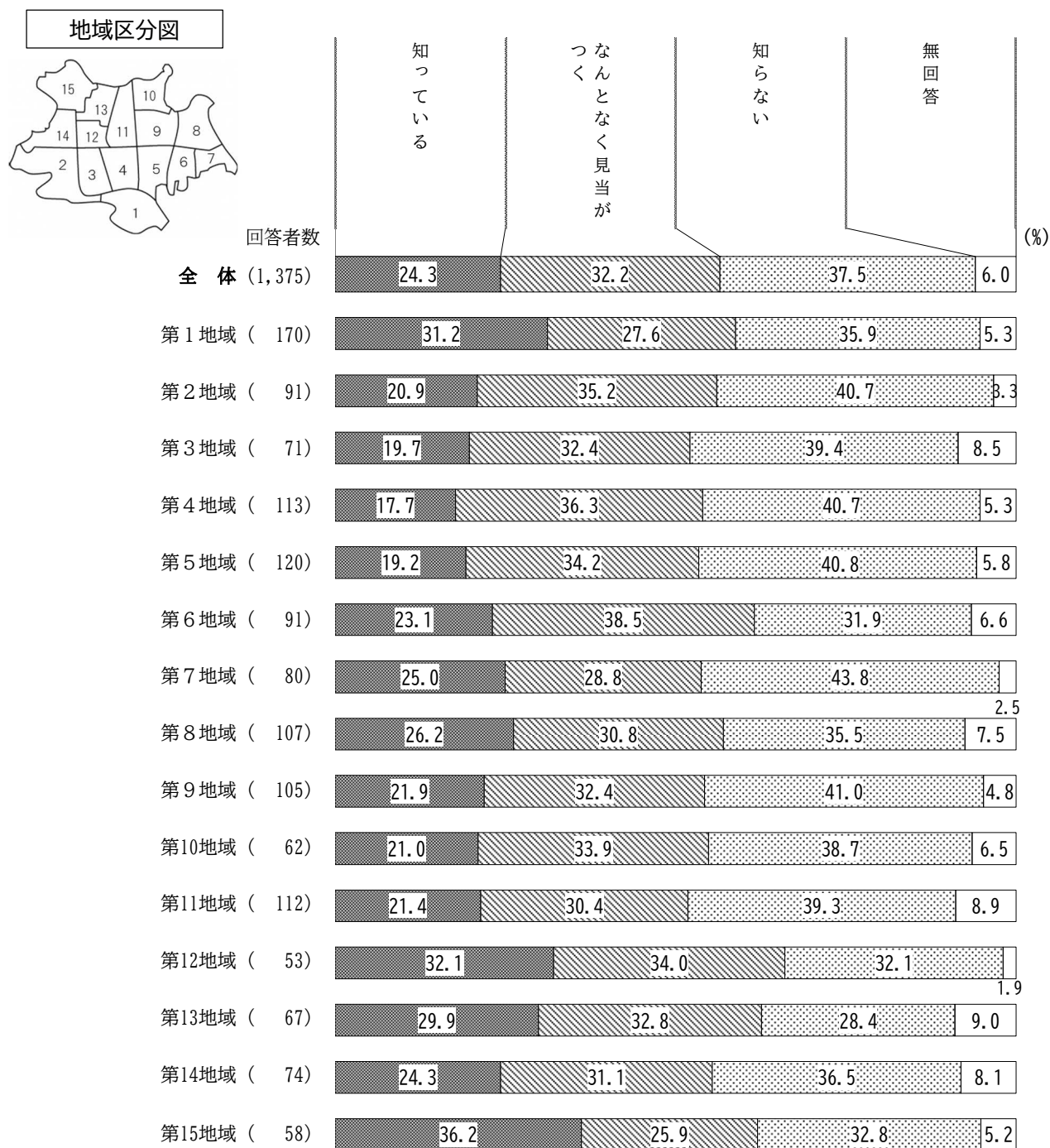
図2-4-2-④ 地域別／「イ【避難場所】の＜意味＞」の認知



カ クロス集計・地域別／「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知

「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第15地域が36.2%と最も高く、次いで第12地域（32.1%）となっている。一方、第4地域が17.7%で最も低く、次いで第5地域（19.2%）となっている。

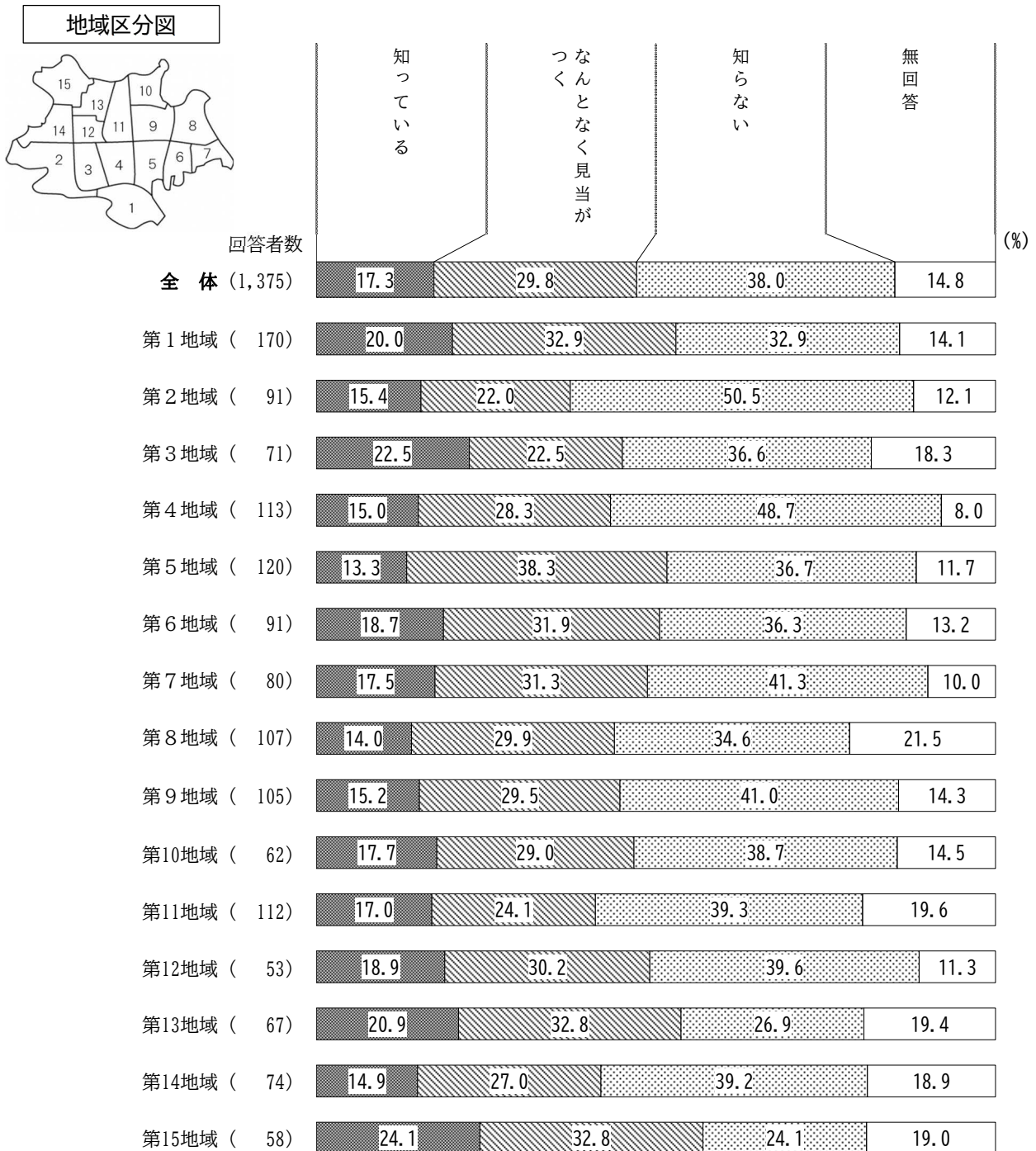
図2-4-2-⑤ 地域別／「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知



キ クロス集計・地域別／「ウ【第一次避難所】の＜意味＞」の認知

「ウ【第一次避難所】の＜意味＞」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第15地域が24.1%で最も高く、次いで第3地域（22.5%）となっている。一方、第5地域が13.3%で最も低く、次いで第8地域（14.0%）となっている。

図2-4-2-⑥ 地域別／「ウ【第一次避難所】の＜意味＞」の認知



(5) 大規模災害時の避難生活場所

問6 大規模な災害が発生し家屋の倒壊などにより自宅で生活できない場合、どこで生活しようと考えていますか（○は1つだけ）。

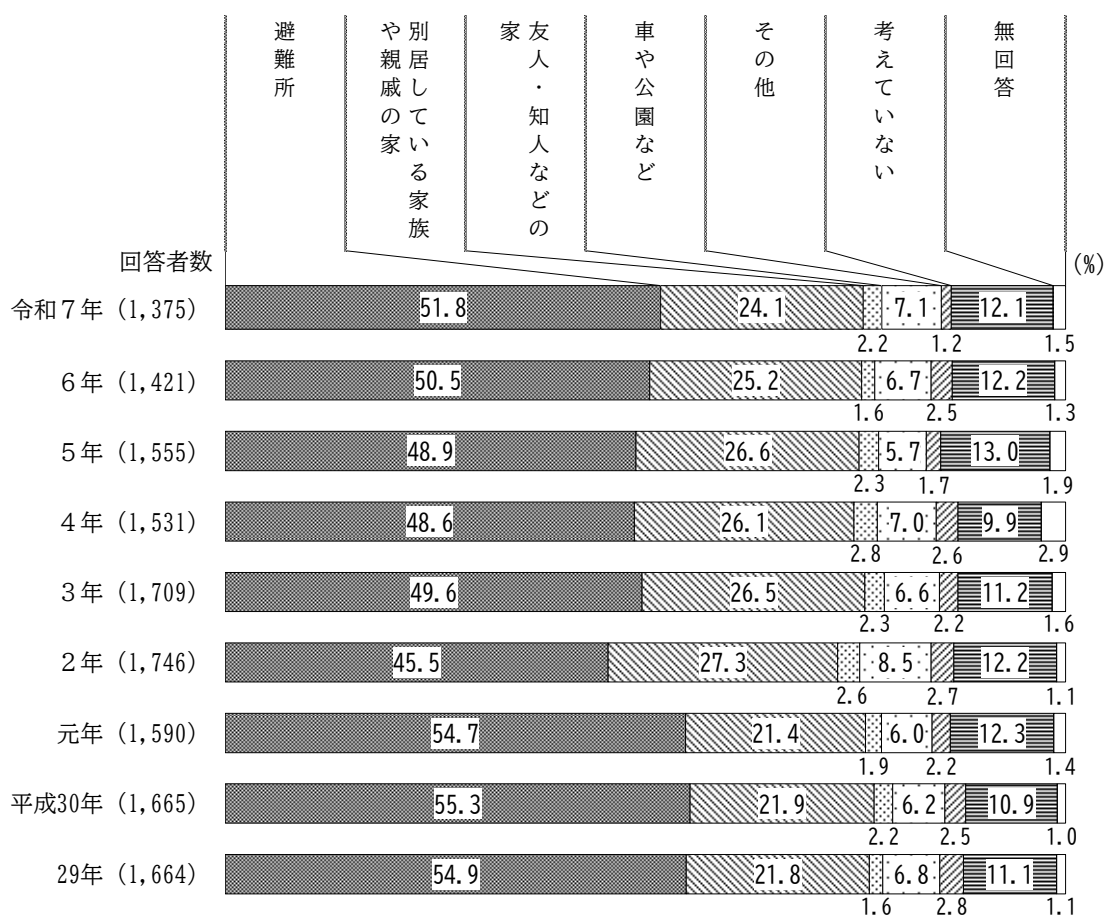
■「避難所」が5割超で最も高く、前年との大きな違いはないものの、この4年間では漸増傾向となっている

ア 単純集計・経年比較／大規模災害時の避難生活場所

(ア) 大規模災害時に避難生活を送る場所としては、「避難所」が51.8%で最も高く、次いで「別居している家族や親戚の家」(24.1%)となっている。

(イ) 前回調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。

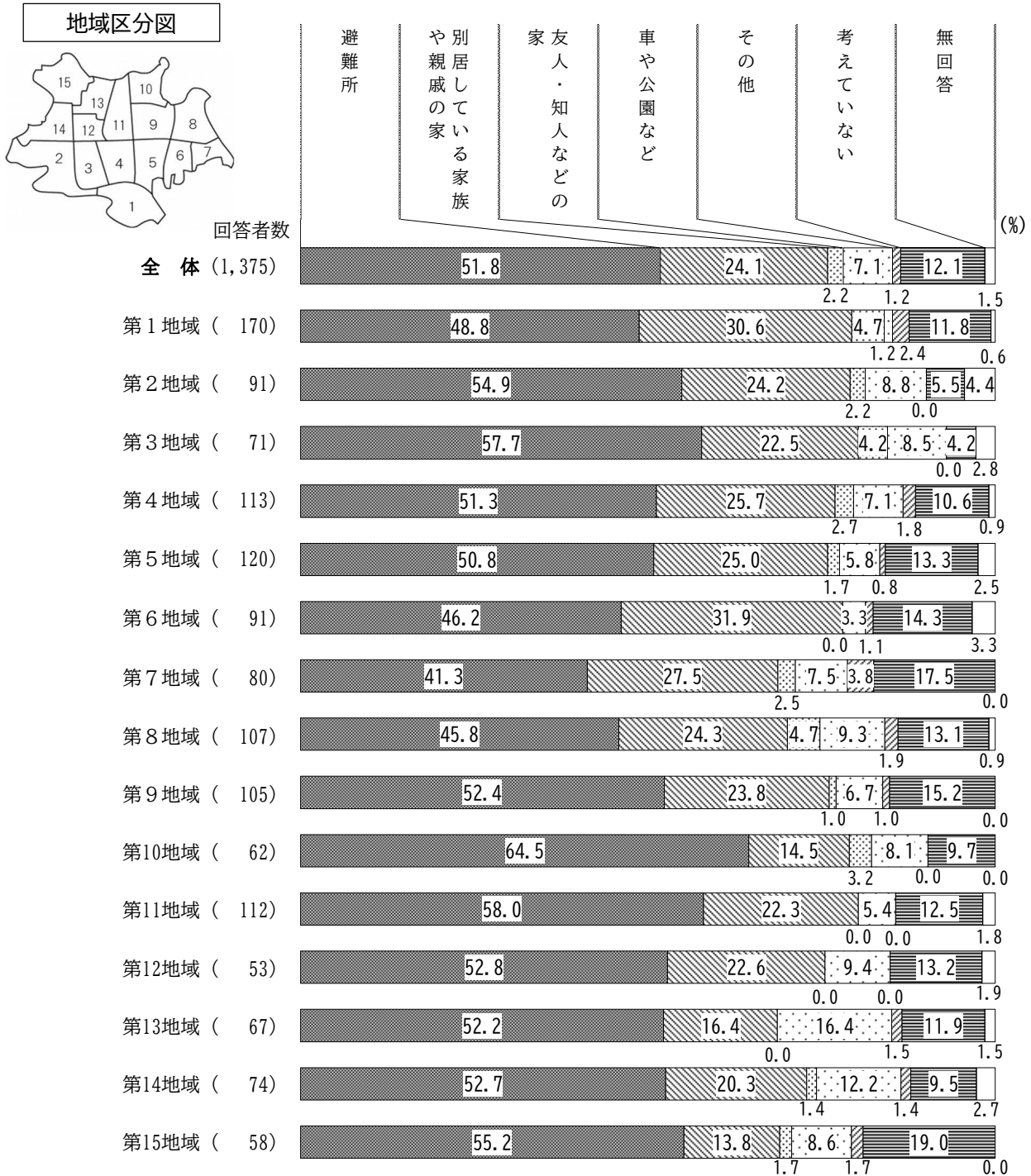
図2-5-1 経年比較／大規模災害時の避難生活場所



イ クロス集計・地域別／大規模災害時の避難生活場所

地域別でみると、「避難所」は第10地域（64.5%）が6割台半ばと特に高く、次いで第11地域（58.0%）となっている。「別居している家族や親戚の家」は第6地域（31.9%）、「車や公園など」は第13地域（16.4%）で最も高くなっている。一方、「考えていない」は第15地域（19.0%）で最も高く、第3地域（4.2%）で最も低くなっている。

図2-5-2 地域別／大規模災害時の避難生活場所



3 洪水対策

-
- (1) 「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知
 - (2) 河川はん濫時の避難場所
 - (3) 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由
-

(1)「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知

問7 あなたは、足立区が発行（区のホームページにも掲載）している「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」を見たことがありますか（○は1つだけ）。

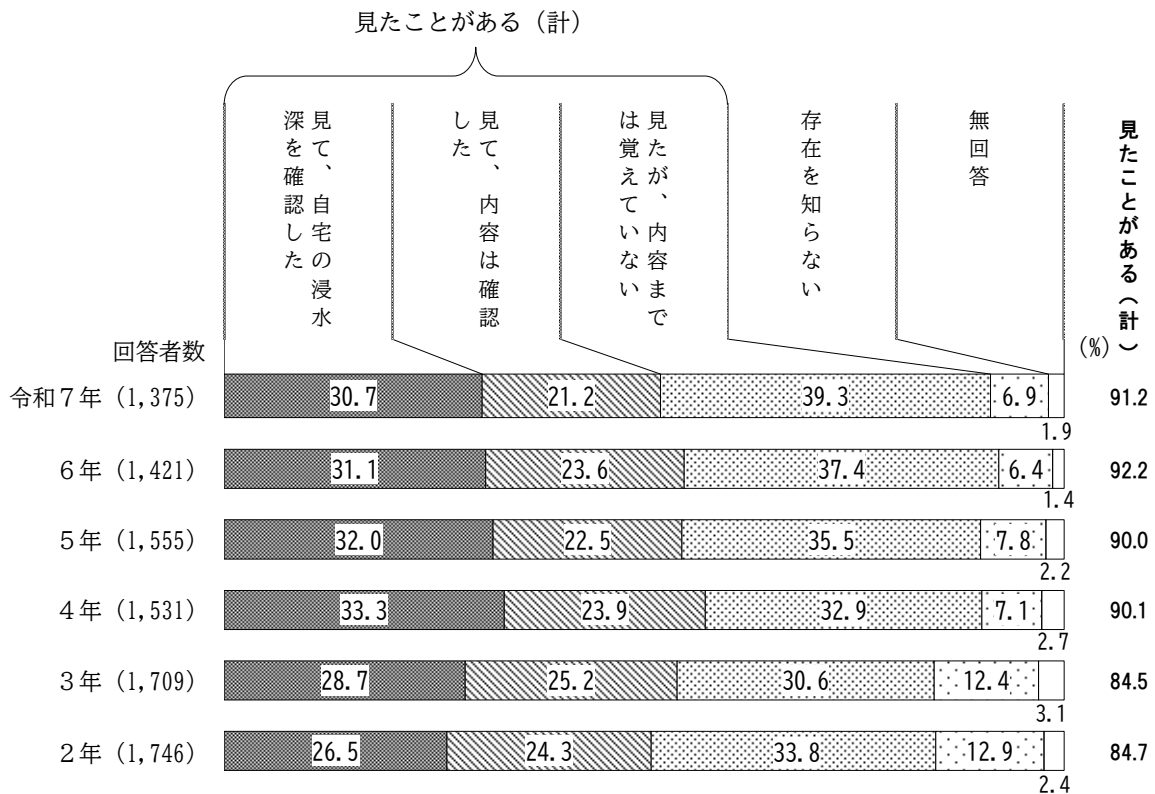
■【見たことがある】は9割強で前回調査と大きな違いはない

ア 単純集計・経年比較／「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知

（ア）『足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ』について、「見たが、内容までは覚えていない」が39.3%で最も高く、次いで「見て、自宅の浸水深を確認した」（30.7%）、「見て、内容は確認した」（21.2%）となり、これらを合わせた【見たことがある】は9割強を占めている。

（イ）前回調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。

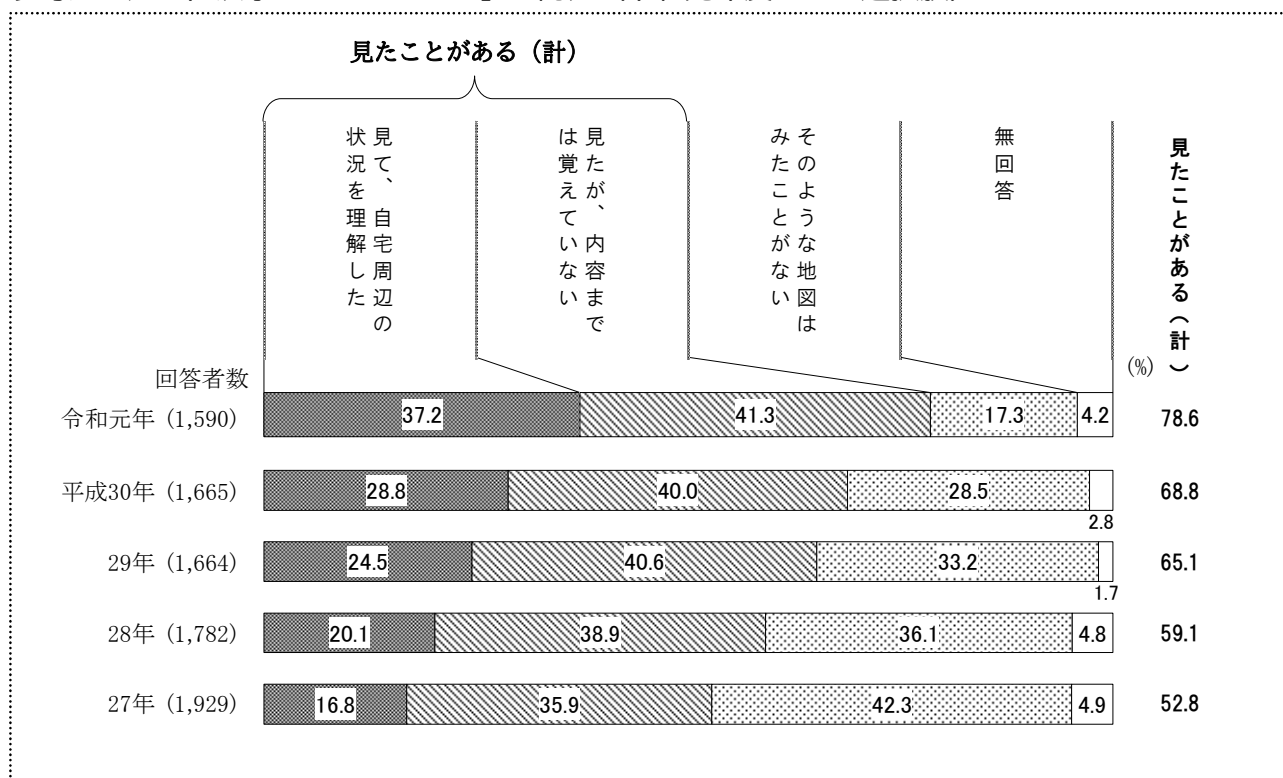
図3-1-1 経年比較／「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知



※ 令和3年度までの『足立区洪水ハザードマップ』は、令和4年度から、『足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ』に名称が変更となった。

※ 「存在を知らない」は令和4年度までは「そのような地図はみたことがない」。

参考／「足立区洪水ハザードマップ」の認知（令和元年度までの選択肢）



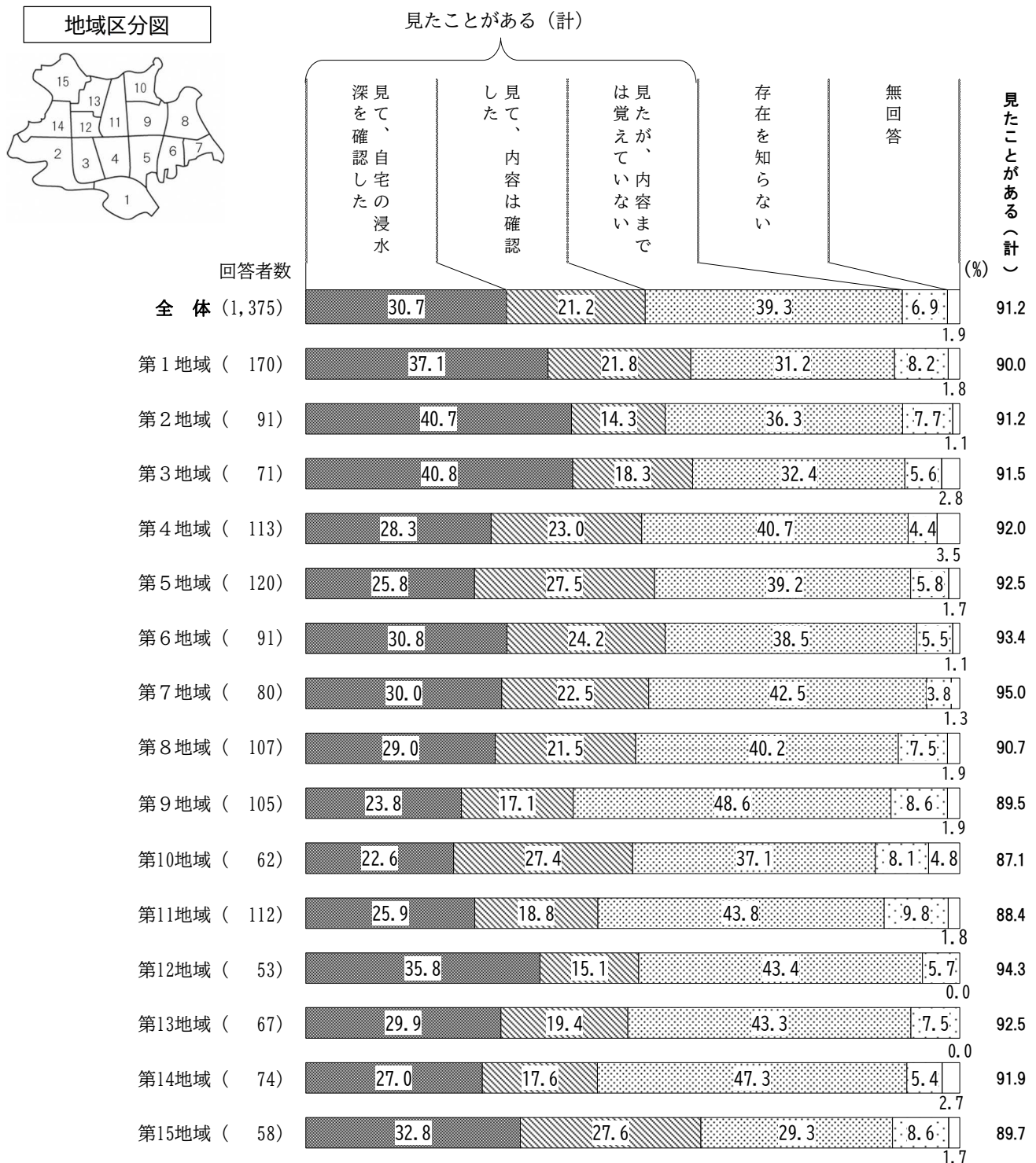
※ 令和2年度から、令和元年度までの「見て、自宅周辺の状況を理解した」が、「見て、自宅の浸水深を確認した」と「見て、内容は確認した」に2分割された。

※「見て、自宅周辺の状況を理解した」は、平成27年度は「見たことがあって、自宅周辺の状況を理解した」。

イ クロス集計・地域別／「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知

地域別でみると、「見て、自宅の浸水深を確認した」は第3地域で40.8%と最も高く、僅差で第2地域（40.7%）が続いている。逆に、第10地域で22.6%と最も低くなっている。また、【見たことがある】でみると、第7地域で95.0%と最も高く、次いで第12地域が94.3%が続いている。逆に、第10地域が87.1%で最も低くなっている。

図3-1-2 地域別／「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知

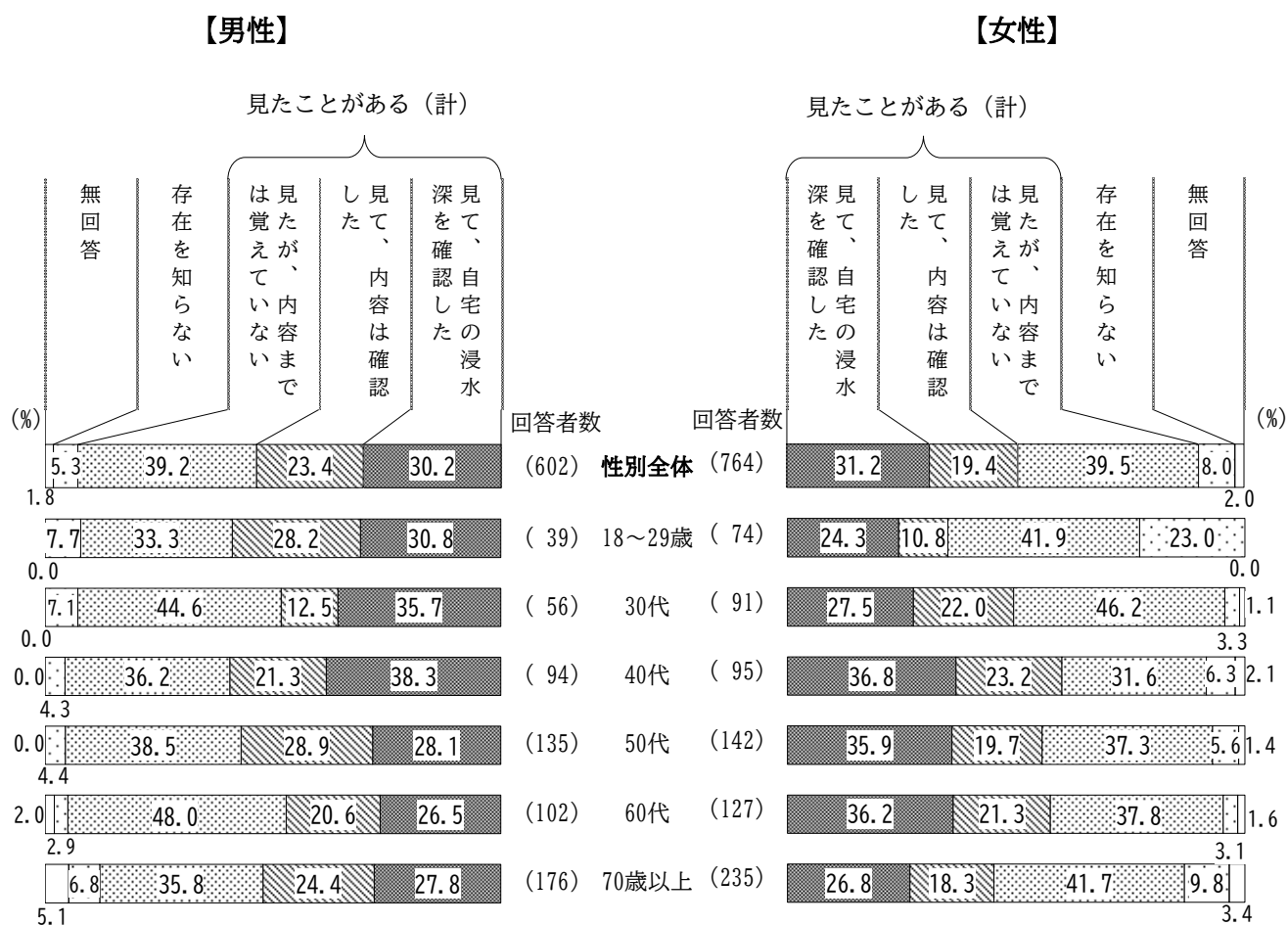


ウ クロス集計・性別、性・年代別／「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知

(ア) 性別では特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別でみると、「見て、自宅の浸水深を確認した」は男性の30～40代と女性の40～60代で3割台後半と高く、女性の18～29歳で24.3%と最も低くなっている。【見たことがある】でみると、男性の40～60代と女性の30代、60代で9割台後半と高く、女性の18～29歳で77.0%と最も低くなっている。

図3-1-3 性別、性・年代別／「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知



(2) 河川はん濫時の避難場所

問8 河川がはん濫する恐れがある場合、あなたはどこに避難しますか（○は1つだけ）。

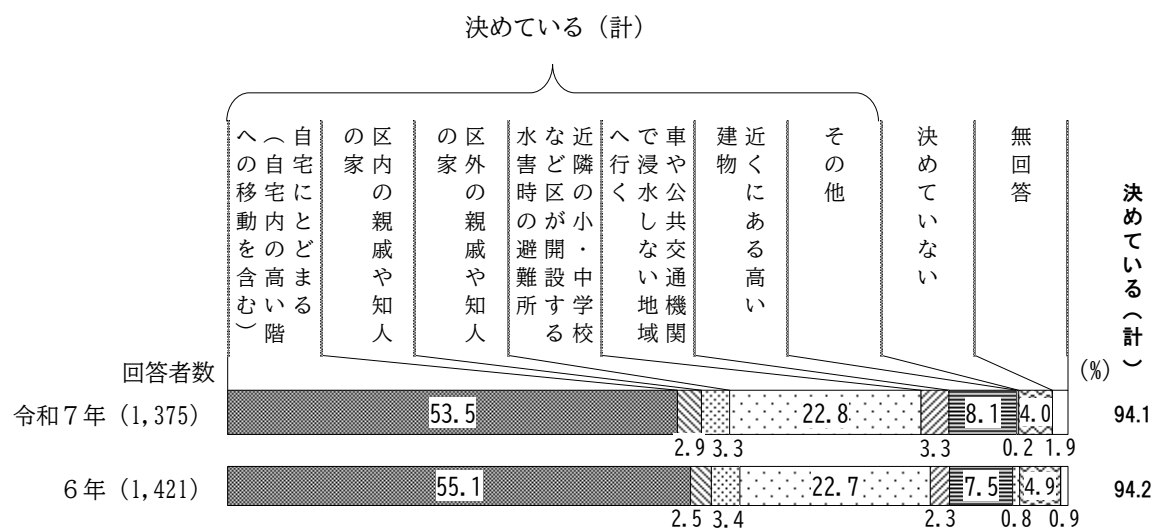
■「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」が9割台半ば

ア 単純集計・前回調査比較／河川はん濫時の避難場所

（ア）河川はん濫の恐れがある場合の避難場所は、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」が94.1%を占めており、「決めていない」は4.0%となっている。

（イ）前回調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

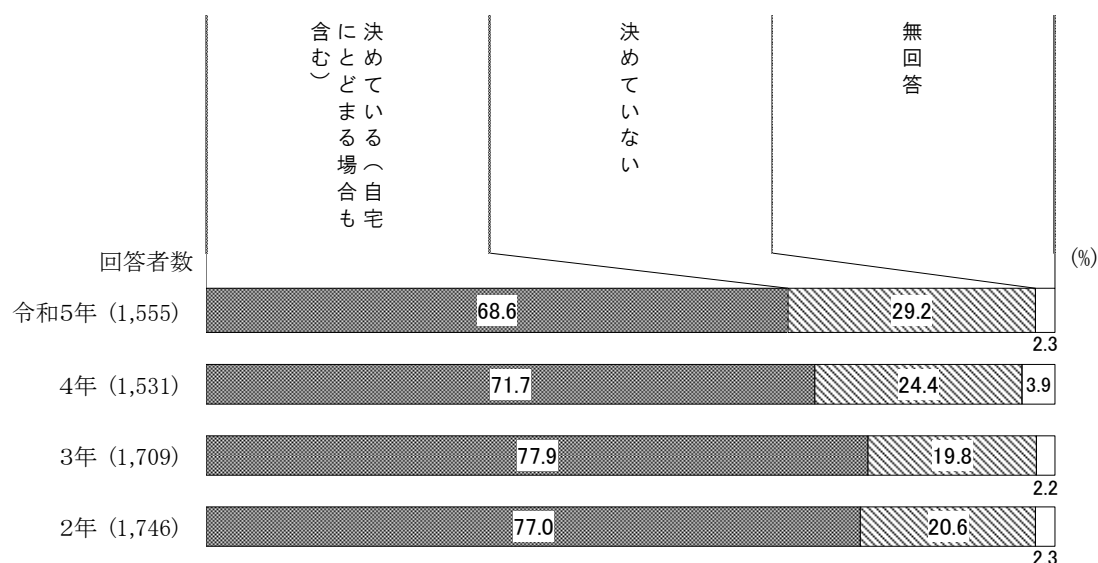
図3-2-1 前回調査比較／河川はん濫時の避難場所



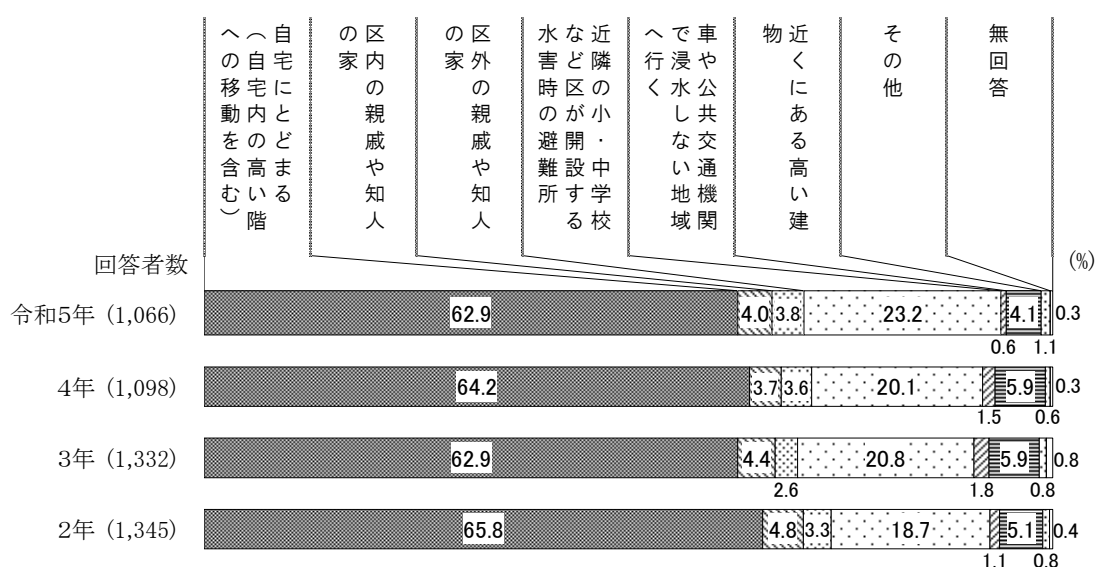
参考／河川はん濫時の避難場所の事前決定状況と決めている場合避難場所

問 あなたは、河川が氾濫する恐れがある場合、避難する場所を事前に決めていますか。

(○は1つだけ)



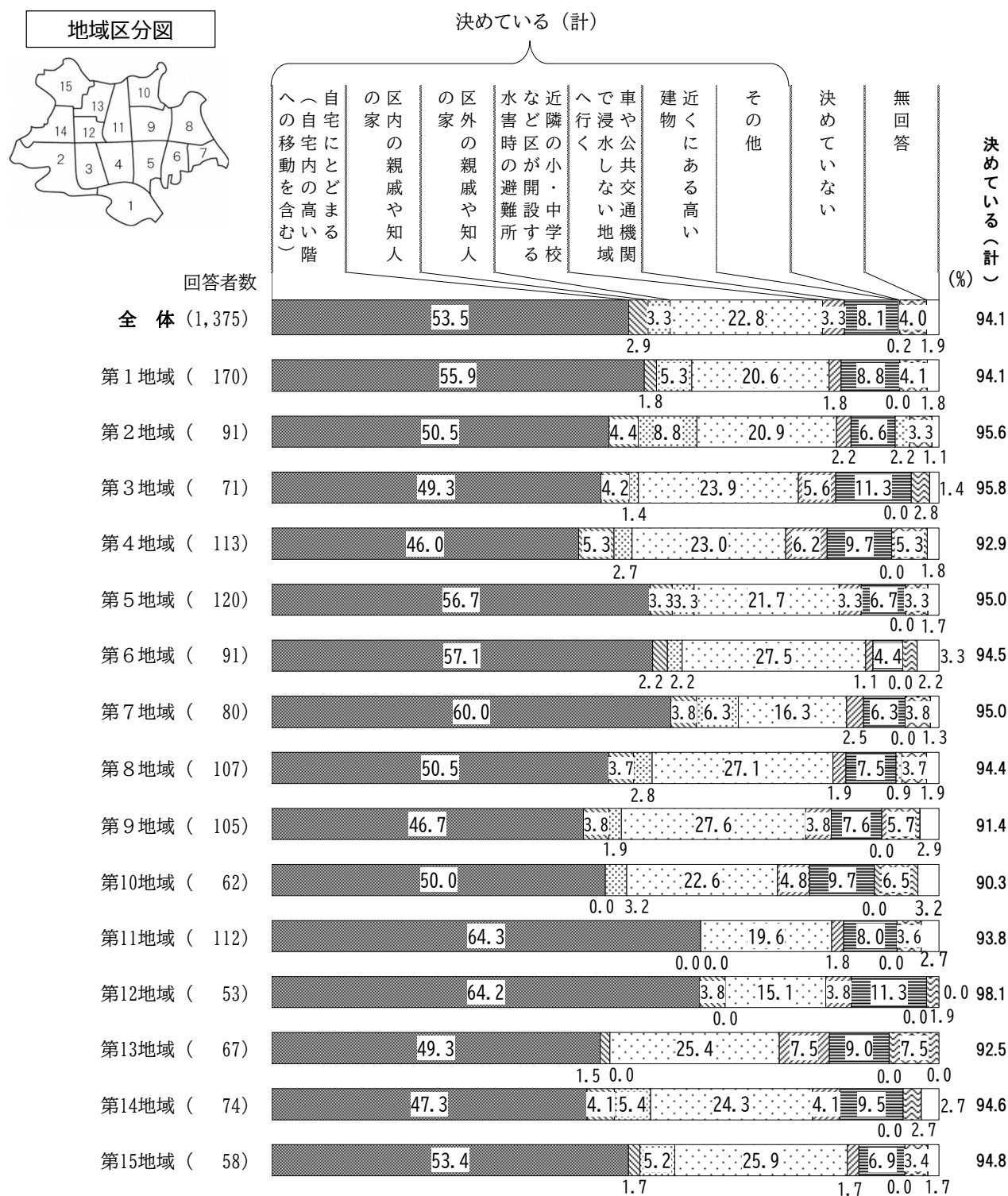
問 あなたが、避難する場所はどこですか。(○は1つだけ)



イ クロス集計・地域別／河川はん濫時の避難場所

地域別にみると、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」は第12地域が98.1%と最も高く、次いで第3地域が95.8%となっている。一方、第10地域が90.3%と最も低く、次いで、第9地域が91.4%となっている。

図3-2-2 地域別／河川はん濫時の避難場所



(イ) 性・年代別にみると、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」は男性の50代が97.8%と最も高く、次いで男性の30代（96.4%）となっている。逆に男女とも70歳以上で91.5%と最も低くなっている。

【男性】

【女性】

決めている (計)



(3) 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由

問8で「8 決めていない」とお答えの方に

問8-1 避難する場所を決めていない理由は何ですか（〇は1つだけ）。

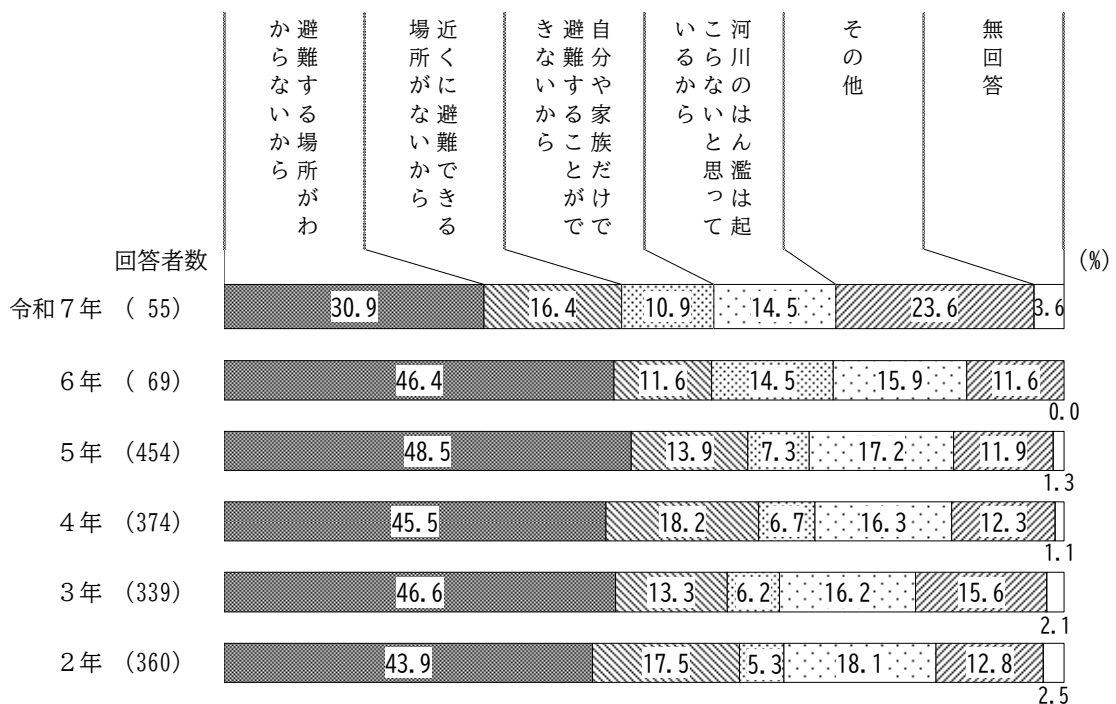
■「避難する場所がわからないから」が3割

ア 単純集計・経年比較／河川はん濫時の避難場所を決めていない理由

(ア) 河川はん濫の恐れがある場合に避難する場所を事前に「決めていない」と回答した人に、決めていない理由を聞いた結果、「避難する場所がわからないから」が30.9%と最も高く、次いで「その他」(23.6%)、「近くに避難できる場所がないから」(16.4%) などとなっている。

(イ) 前回調査との比較については、「避難する場所がわからないから」が約15ポイント減少し、「その他」が12ポイント増加している。「その他」の内容をみると、「その時の状況による」、「ペットを受け入れてもらえるところ」等の理由が挙げられている。

図3-3-1 経年比較／河川はん濫時の避難場所を決めていない理由



※令和5年度までは、先ず避難場所の決定状況を聞き、次の質問で「決めている」と答えた方には避難場所を聞き、「決めていない」と答えた方には決めていない理由を聞いているので、令和5年度までと、令和6年度の結果は単純には比較できないため、上記の図は参考までに図示したものである。

4 区の情報発信のあり方

-
- (1) 区情報の入手手段
 - (2) 必要なときに必要とする区情報の入手状況
 - (3) 区情報が得られていない理由
-

(1) 区情報の入手手段

問9 あなたは、足立区に関する情報をどのような手段で入手していますか

(○はあてはまるものすべて)。

■「あだち広報」が7割超で最も高く、次いで「トキメキ」が3割台半ば

ア 単純集計・経年比較／区情報の入手手段

(ア) 足立区に関する情報の入手媒体の上位は以下のとおりとなっている。

- ①「あだち広報」(71.7%)
- ②「トキメキ」(35.9%)
- ③「町会・自治会の掲示板・回覧板」(25.7%)
- ④「区のホームページ」(24.4%)
- ⑤「A-メール」(15.9%)

(イ) 前回調査と比較すると、上位5項目では「区のホームページ」(-1.6ポイント)と「町会・自治会の掲示板・回覧板」(+2.2ポイント)が入れ替わっているものの、3ポイント以上増減した項目はみられない。

図4-1-1-① 経年比較／区情報の入手手段

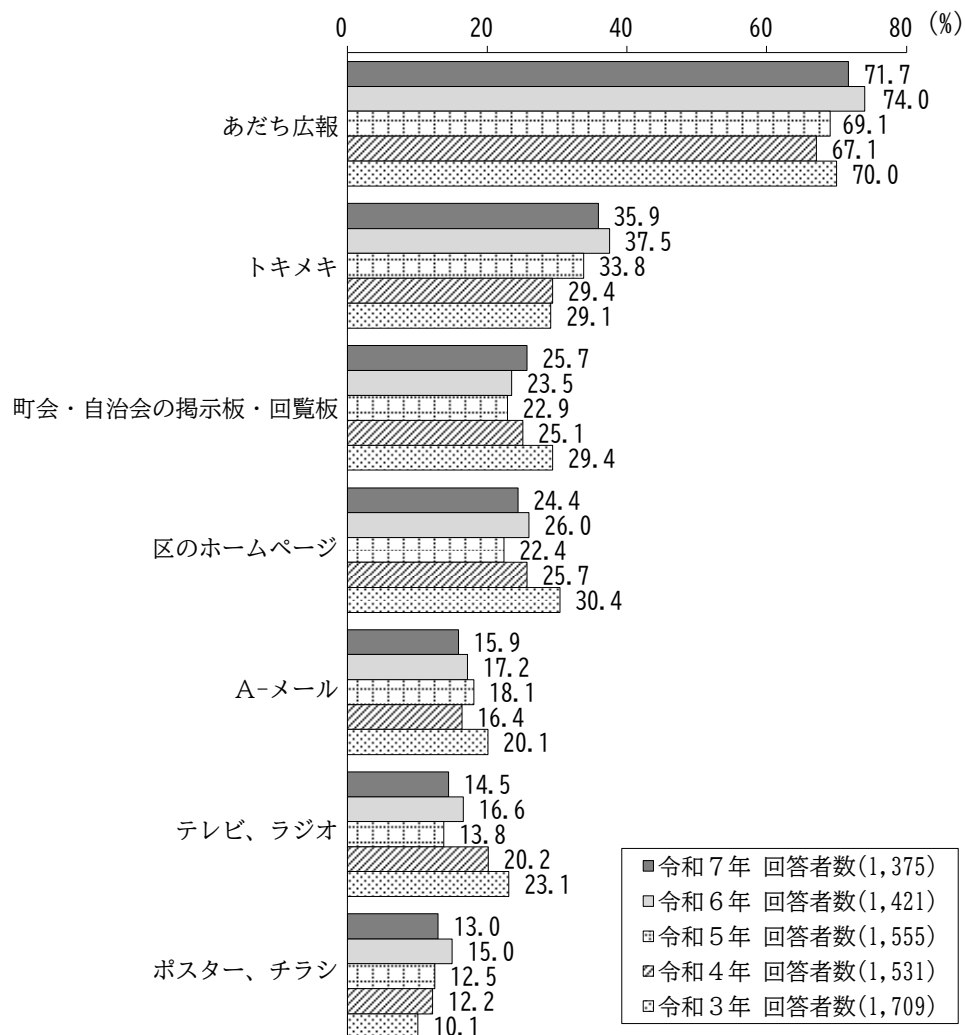


図4-1-1-② 経年比較／区情報の入手手段

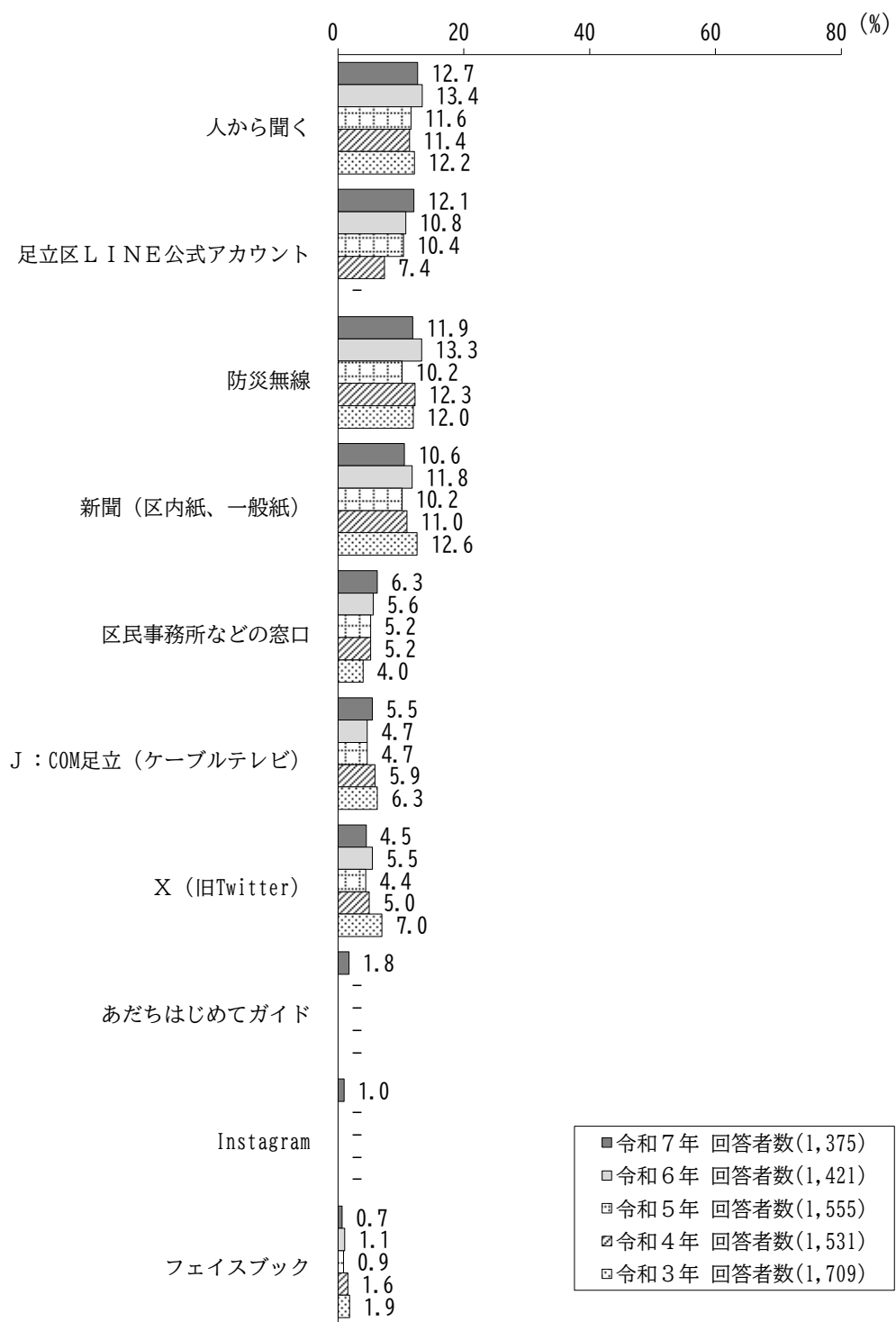
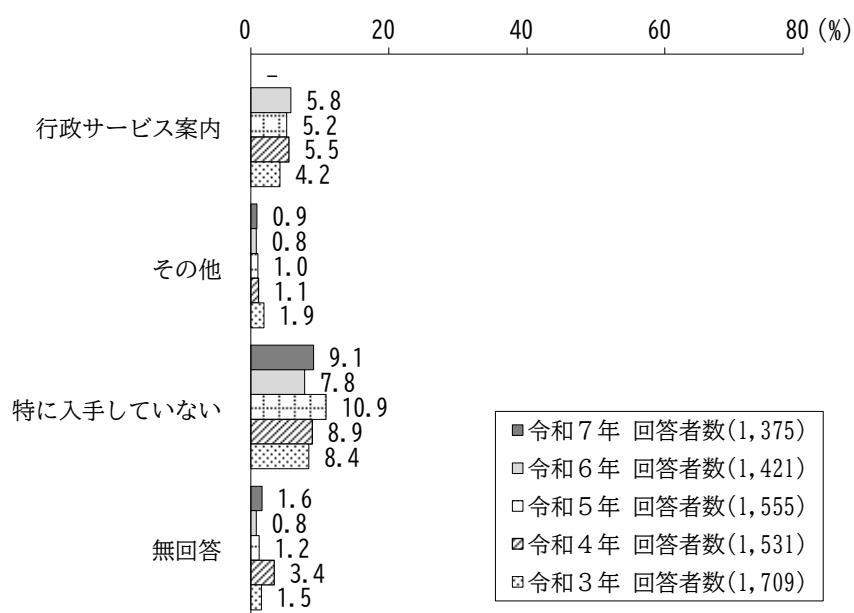


図4-1-1-③ 経年比較／区情報の入手手段

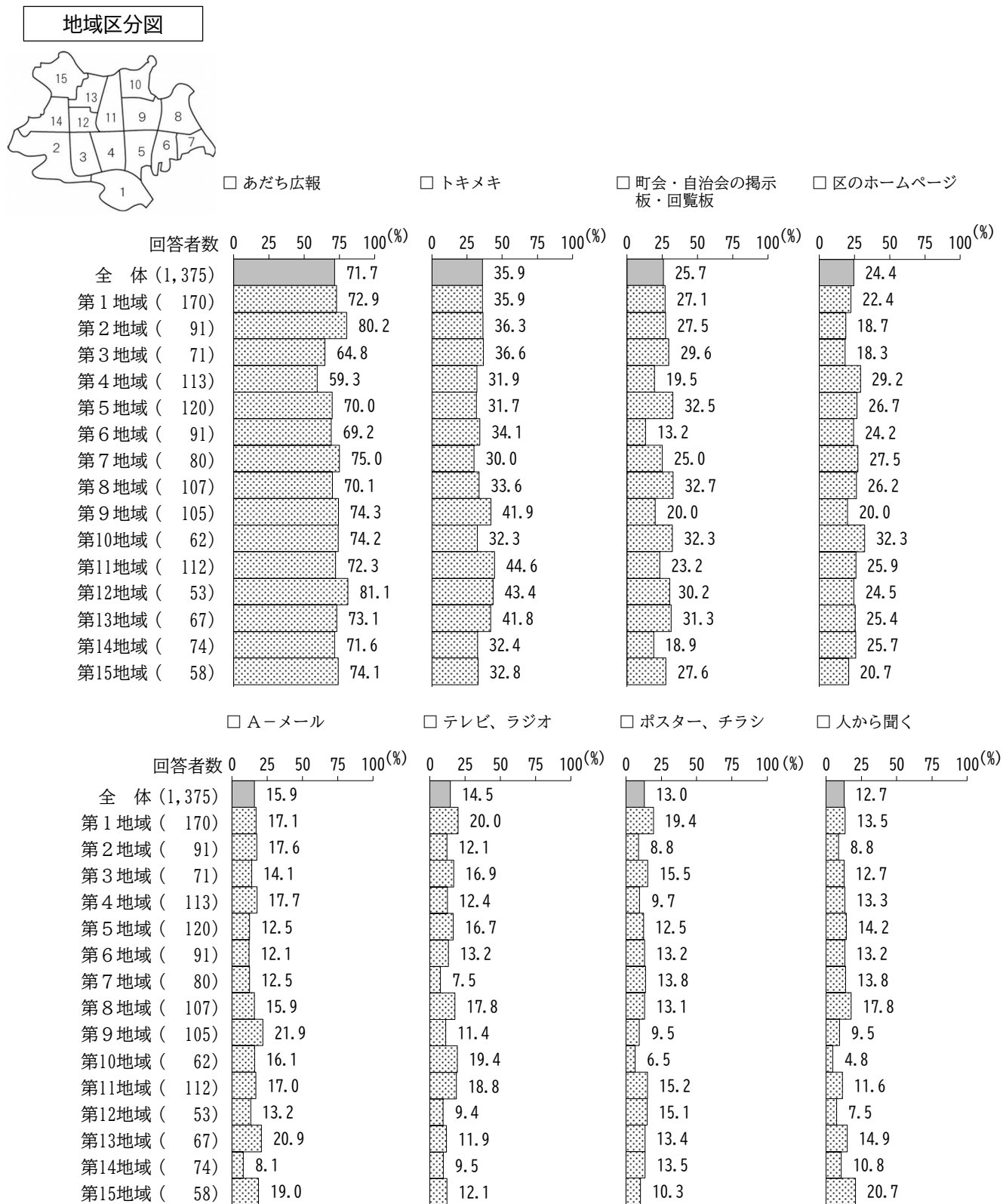


※「足立区LINE公式アカウント」は、令和4年度新設。
 ※「行政サービス案内」は、令和7年度では聴取していない。

イ クロス集計・地域別／区の情報入手手段（上位8項目）

地域別でみると、「あだち広報」は第2地域と第12地域で8割台と高く、「トキメキ」は第11地域と第12地域で4割台半ば、「町会・自治会の掲示板・回覧板」は第5地域、第8地域、第10地域で3割台半ば近く、「区のホームページ」は第10地域で3割台とそれぞれ高くなっている。

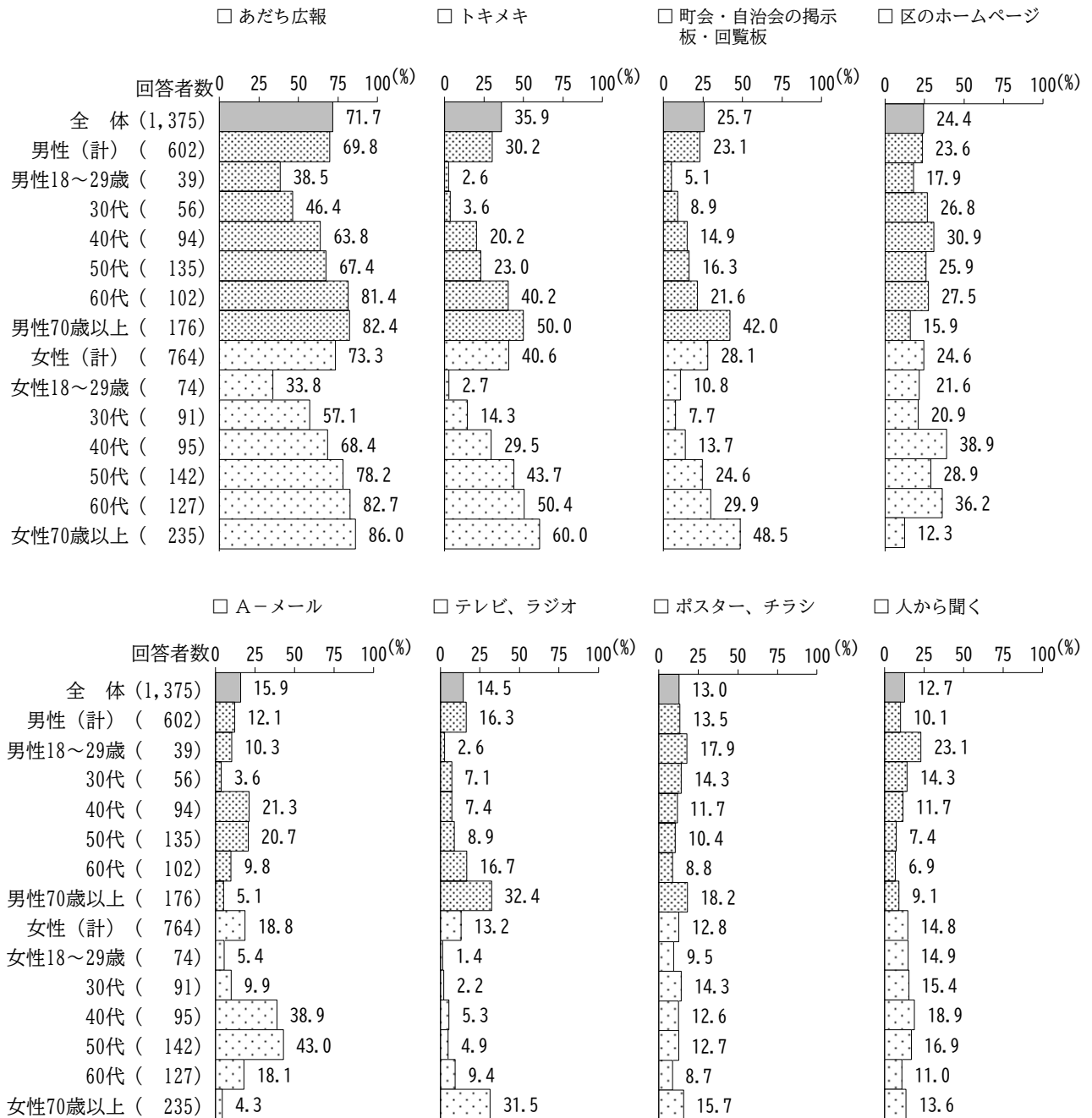
図4-1-2 地域別／区の情報入手手段／上位8項目



ウ クロス集計・性別・性・年代別／区情報の入手手段（上位8項目）

- （ア）性別でみると、多くの項目で女性の方が高く、特に「トキメキ」（+10.4ポイント）、「A-メール」（+6.7ポイント）、「町会・自治会の掲示板・回覧板」（+5.0ポイント）、「人から聞く」（+4.7ポイント）でそれぞれ女性の方が男性より4ポイント以上高くなっている。
- （イ）性・年代別でみると、「あだち広報」、「トキメキ」、「町会・自治会の掲示板・回覧板」などの紙媒体は男女とも年代が上がるほど割合も高い傾向がみられ、「区のホームページ」、「A-メール」などの電子媒体は40～50代の中間年代層で高くなっている。

図4-1-3 性別・性・年代別／区情報の入手手段／上位8項目

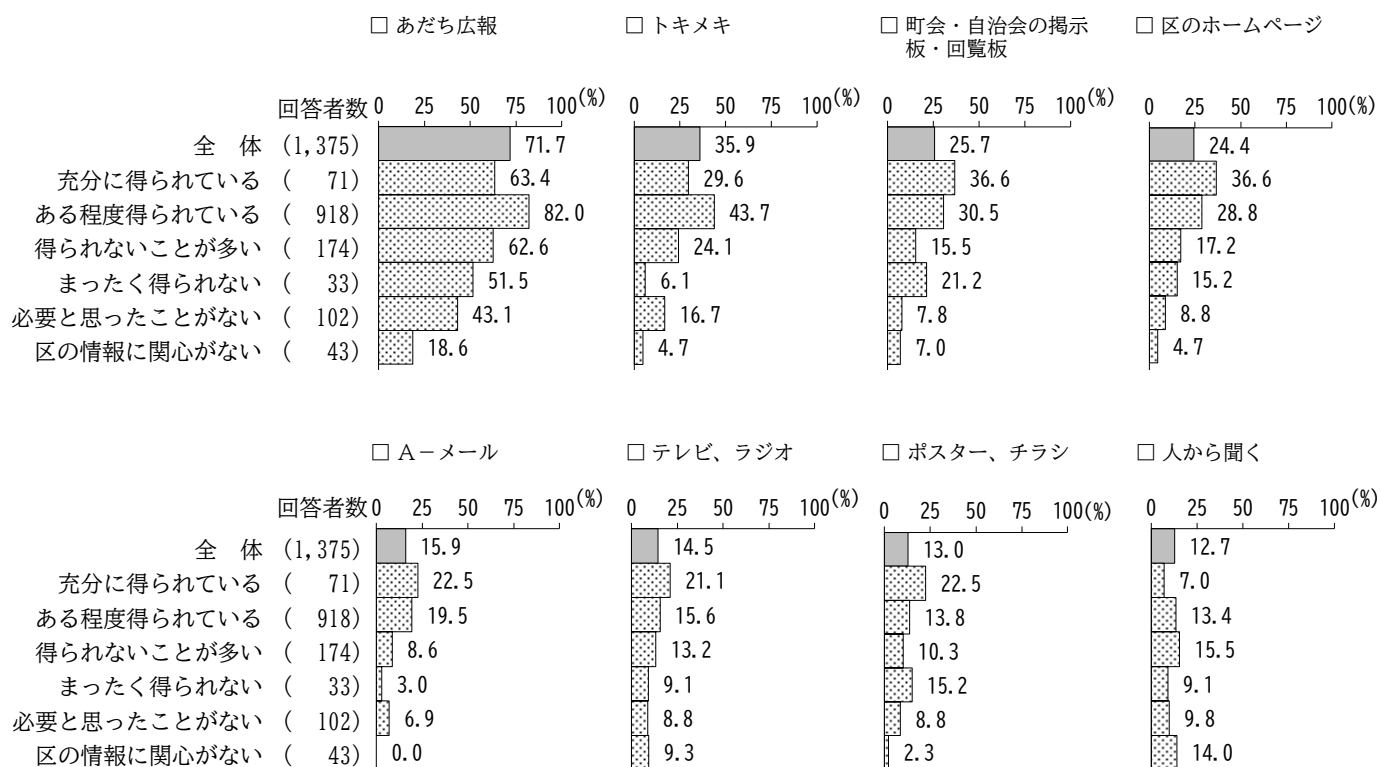


エ クロス集計・必要なときに必要とする区の情報入手状況別／区の情報入手手段

(上位8項目)

必要なときに必要とする区の情報入手状況別にみると、「あだち広報」は〈ある程度得られている〉が8割台と高くなっているが、〈得られないことが多い〉(62.6%)と〈まったく得られない〉(51.5%)でも5割以上となっている。「トキメキ」では、〈ある程度得られている〉が43.7%と他の層に比べて特に高く、〈まったく得られない〉が6.1%と他の層に比べて特に低くなっている。

図4-1-4 必要なときに必要とする区の情報入手状況別／区の情報入手手段／上位8項目



(2) 必要なときに必要とする区の情報入手状況

問10 あなたは、必要なときに必要とする区の情報を得られていますか（○は1つだけ）。

■ 必要なときに【得られている】は7割超、【得られていない】は1割台半ば

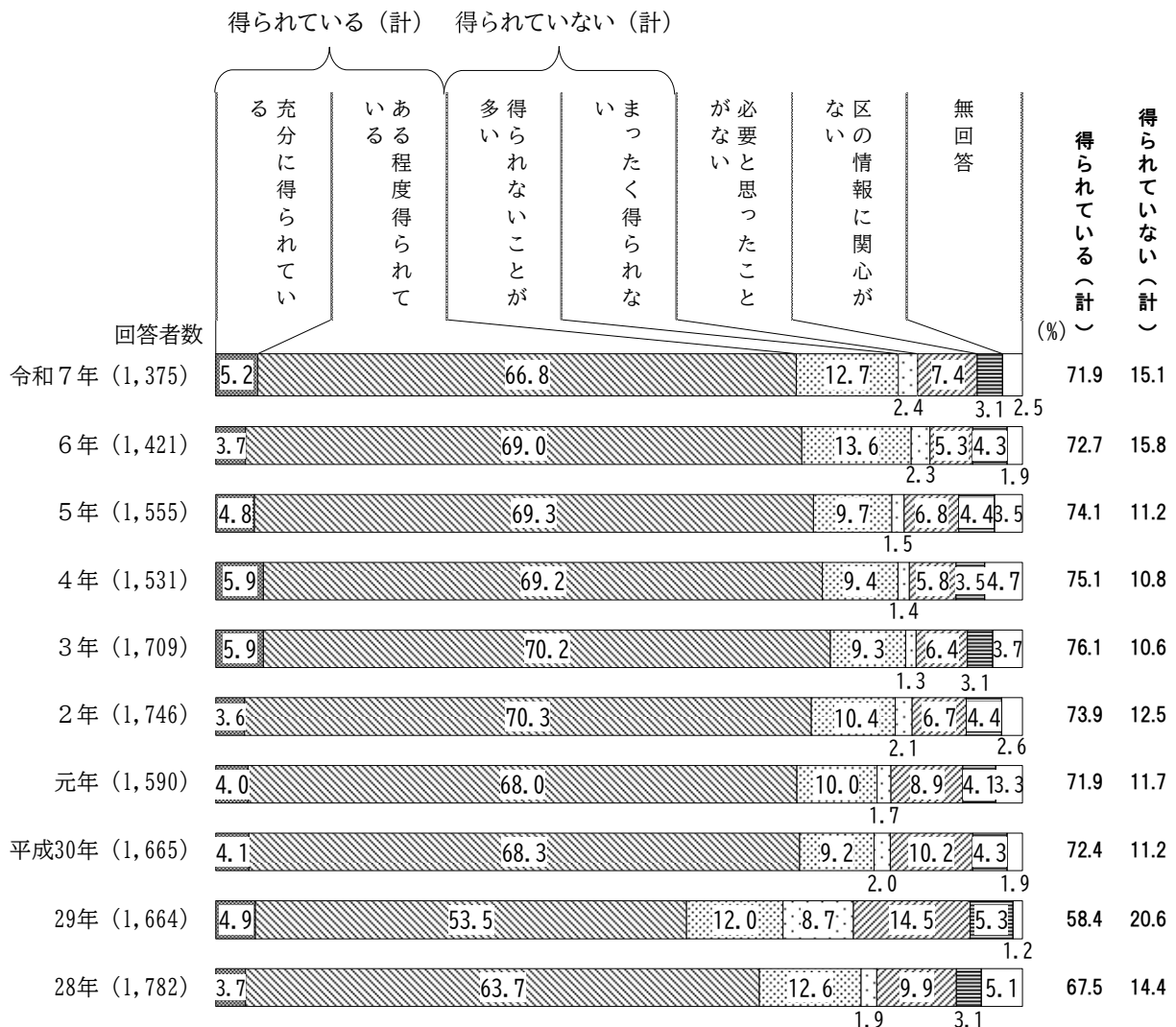
ア 単純集計・経年比較／必要なときに必要とする区の情報入手状況

（ア）必要なときに必要とする情報を得られているかについては、「十分に得られている」が5.2%で、これに「ある程度得られている」の66.8%を合わせた【得られている】は71.9%となっている。

（イ）必要なときに必要とする情報が「得られないことが多い」は12.7%、「まったく得られない」は2.4%で、これらを合わせた【得られていない】は15.1%となっている。

（ウ）前回調査と比較すると、特に大きな違いは見られないが、【得られている】が漸減傾向となっている。

図4-2-1 経年比較／必要なときに必要とする区の情報入手状況



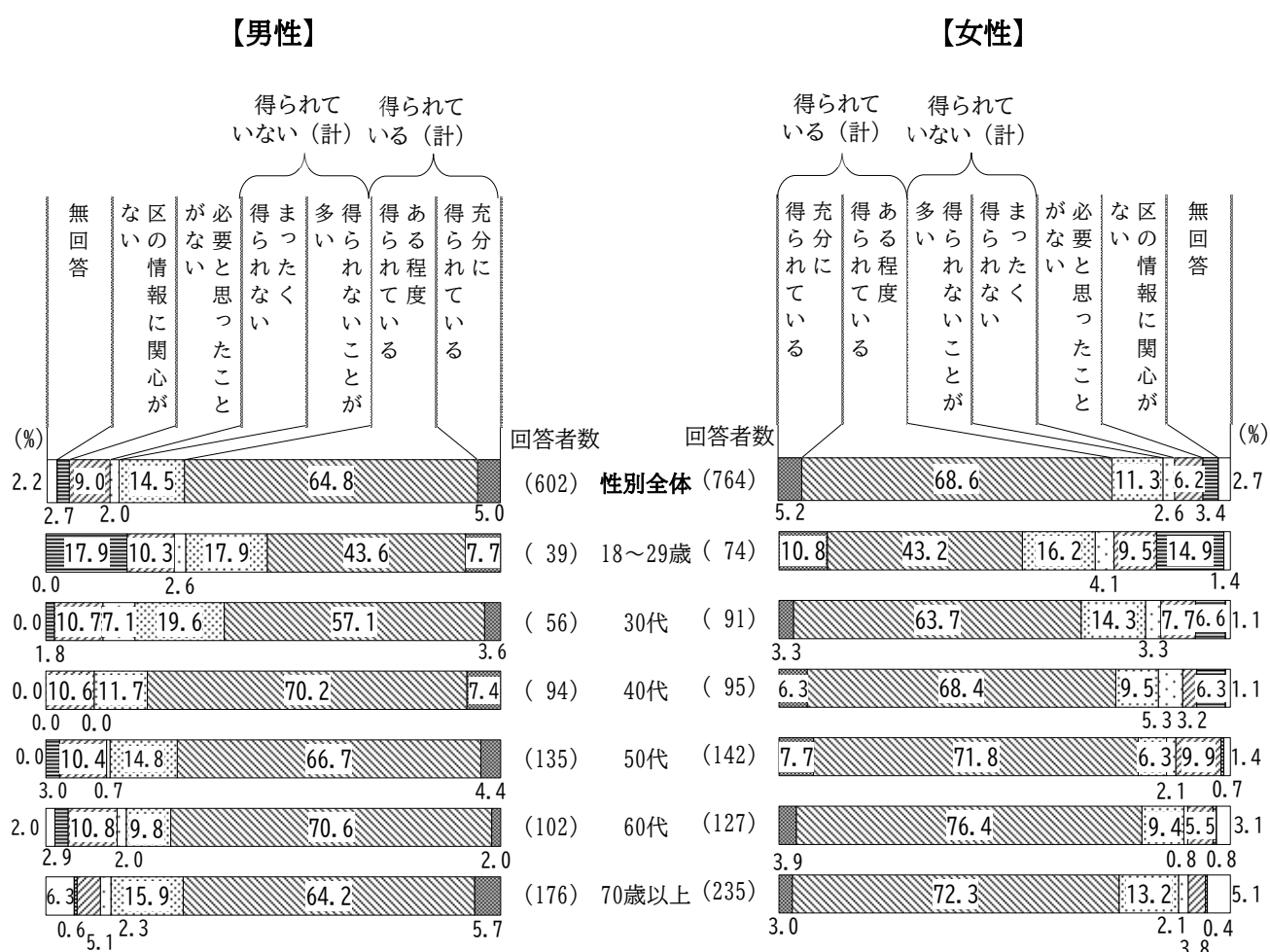
※ 平成29年度については、本設問の前の問である〈区の情報入手手段〉を聴取していないため、他の年度と単純比較できないことから、平成29年度の数値は分析外としている。

イ クロス集計・性別・性・年代別／必要なときに必要とする区の情報入手状況

(ア) 性別でみると、【得られている】は女性（73.8%）の方が男性（69.8%）より4.0ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【得られている】は、女性の50～60代で8割前後と高く、逆に男女とも18～29歳で5割台と低くなっている。一方、【得られていない】は、男性の30代で26.8%と最も高くなっている。

図4-2-2 性別・性・年代別／必要なときに必要とする区の情報入手状況



(3) 区の情報 that 得られていない理由

問10で「3 得られないことが多い」または「4 まったく得られない」とお答えの方に
問10-1 主にどのような理由からですか（○は1つだけ）。

■「情報の探し方がわからない」が3割台半ば超、「情報が探しにくい」が3割弱

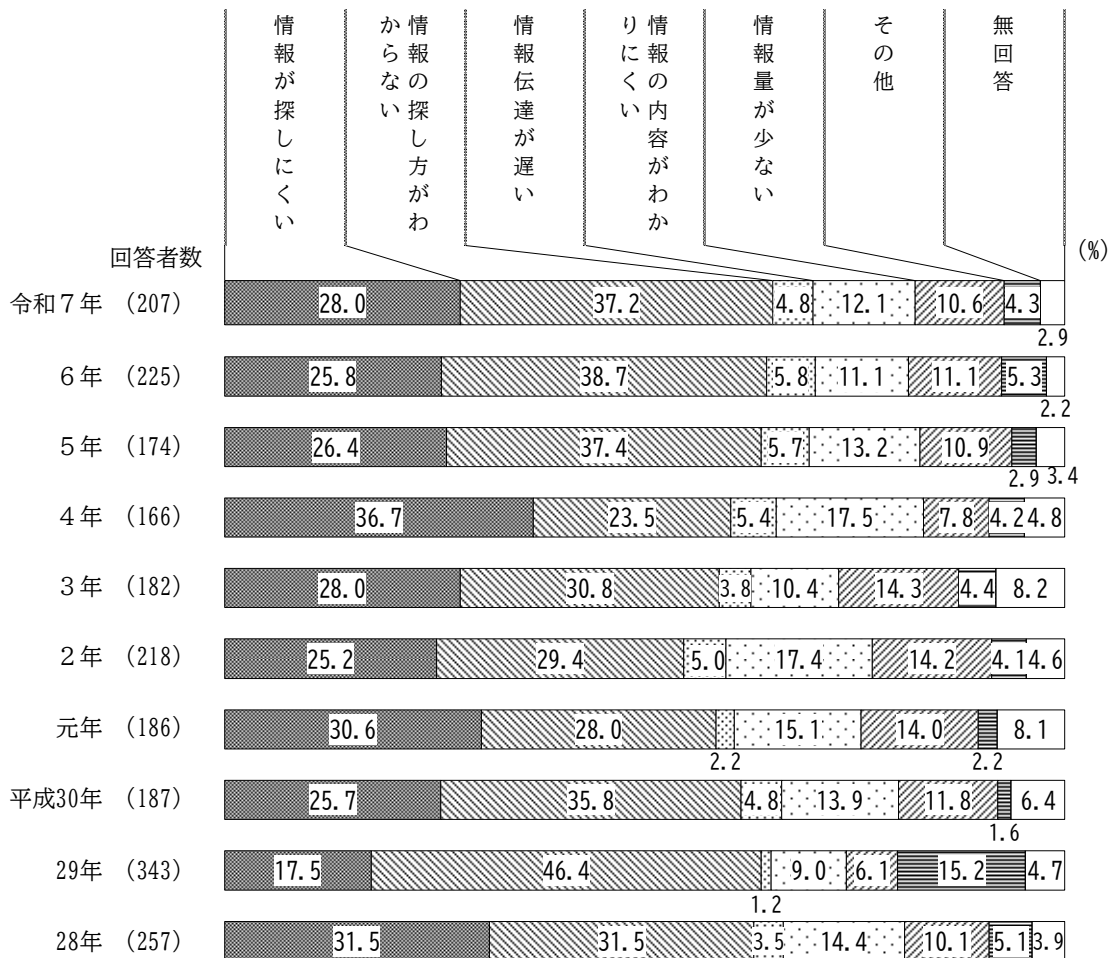
ア 単純集計・経年比較／区の情報 that 得られていない理由

(ア) 区の情報 that 【得られていない】という人にその主な理由を聴いたところ、割合が高い順に以下のとおりとなっている。

- ①「情報の探し方がわからない」(37.2%)
- ②「情報が探しにくい」(28.0%)
- ③「情報の内容 that わかりにくい」(12.1%)

(イ) 前回調査との比較では、特に大きな違いは見られない。

図4-3-1 経年比較／区の情報 that 得られていない理由

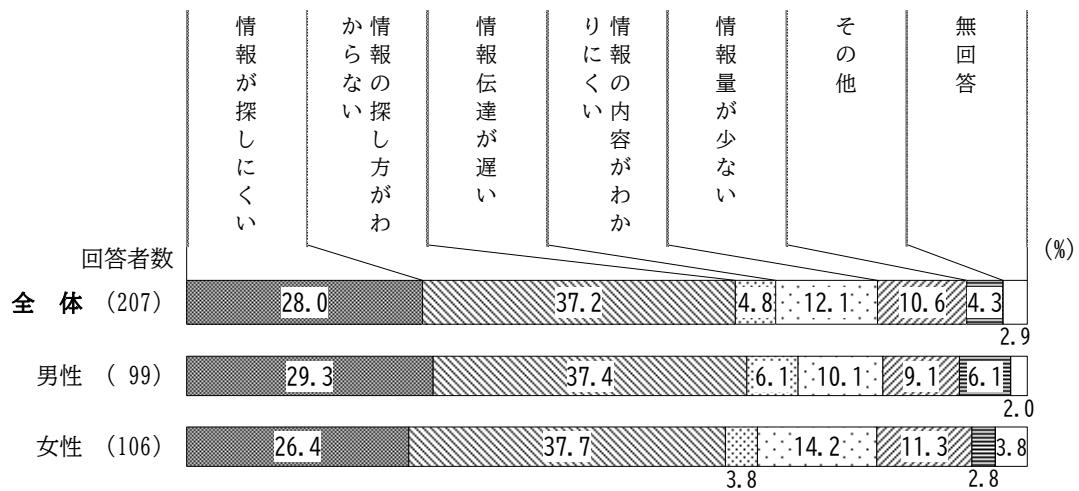


第3章 調査結果の分析〈区の情報発信のあり方〉

イ クロス集計・性別／区の情報没有得到理由

性別でみると、「情報が探しにくい」は男性（29.3％）の方が女性（26.4％）より2.9ポイント高く、逆に「情報の内容が分かりにくい」は女性（14.2％）の方が男性（10.1％）より4.1ポイント高くなっている。

図4－3－2 性別／区の情報没有得到理由



5 健康

-
- (1) 区のキャッチフレーズの認知状況
 - (2) 野菜から食べ始めることの実践状況
 - (3) 1日の野菜350g以上の摂取
 - (4) 自身の健康状態について
 - (5) 体調や習慣
 - (6) 医療必要時にかかりたいと思う身近な医療機関の有無
 - (7) 健康維持のために実行している、心がけているもの
 - (8) がん検診の受診状況と受けたがん検診の種類
 - (9) かかりつけ歯科医院の有無と治療のほかに受けている内容
 - (10) 感染症予防としての手洗いの実践状況
 - (11) 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況
-

(1) 区のキャッチフレーズの認知状況

問11 あなたは、「あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～（※）」を知っていますか（○は1つだけ）。

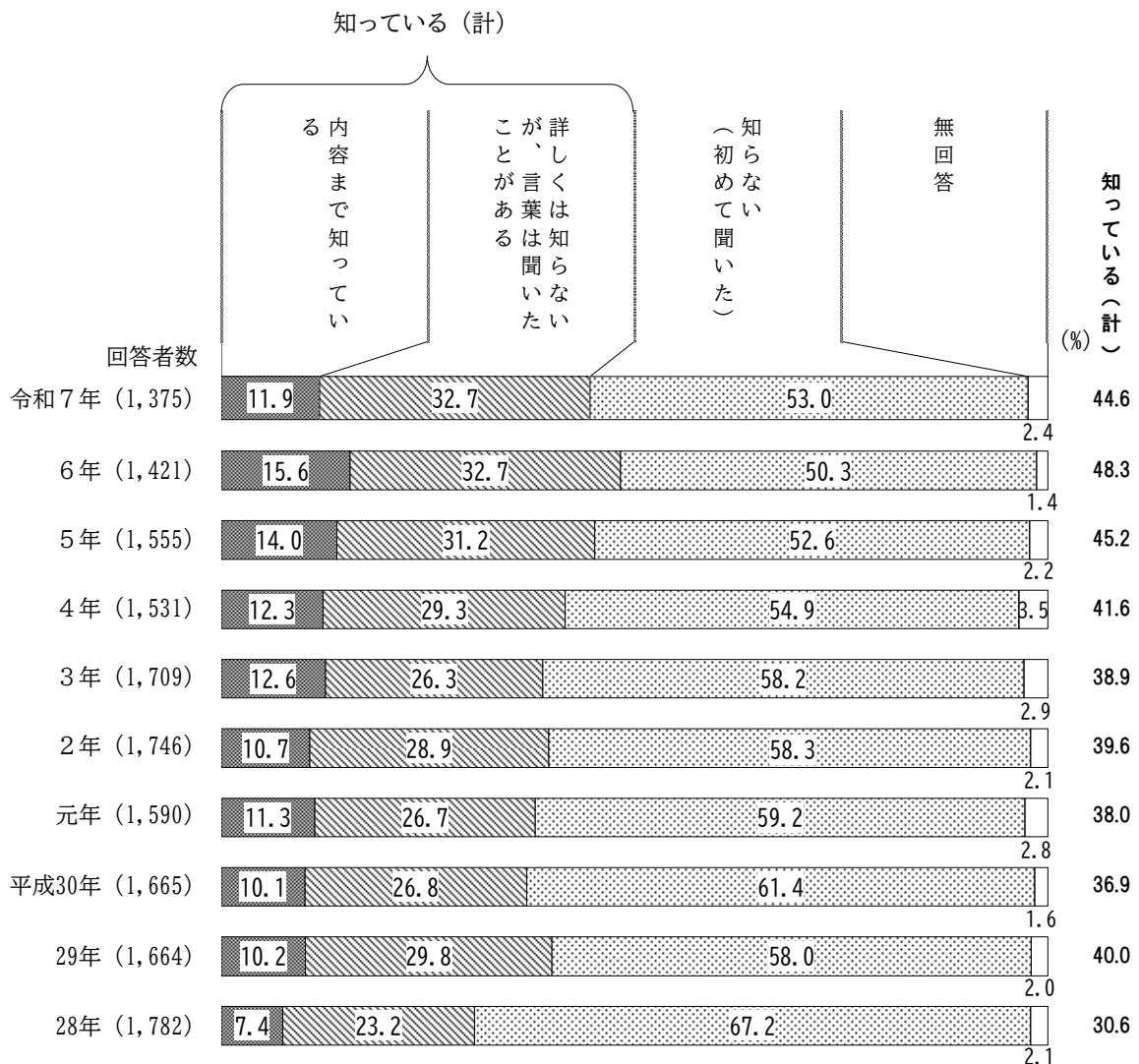
※ 糖尿病予防や糖尿病の悪化防止のために「野菜から食べる」「野菜をよくかんで食べる」ことを推進する足立区のキャッチフレーズです。

■【知っている】は4割台半ばで前年から下降

ア 単純集計・経年比較／区のキャッチフレーズの認知状況

- (ア) 区のキャッチフレーズ『あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～』について、「内容まで知っている」は11.9%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」(32.7%)を合わせた【知っている】は44.6%となっている。
- (イ) 区のキャッチフレーズを「知らない（初めて聞いた）」は53.0%となっている。
- (ウ) 前回調査と比較すると、【知っている】は3.7ポイント減少となった。

図5-1-1 経年比較／区のキャッチフレーズの認知状況

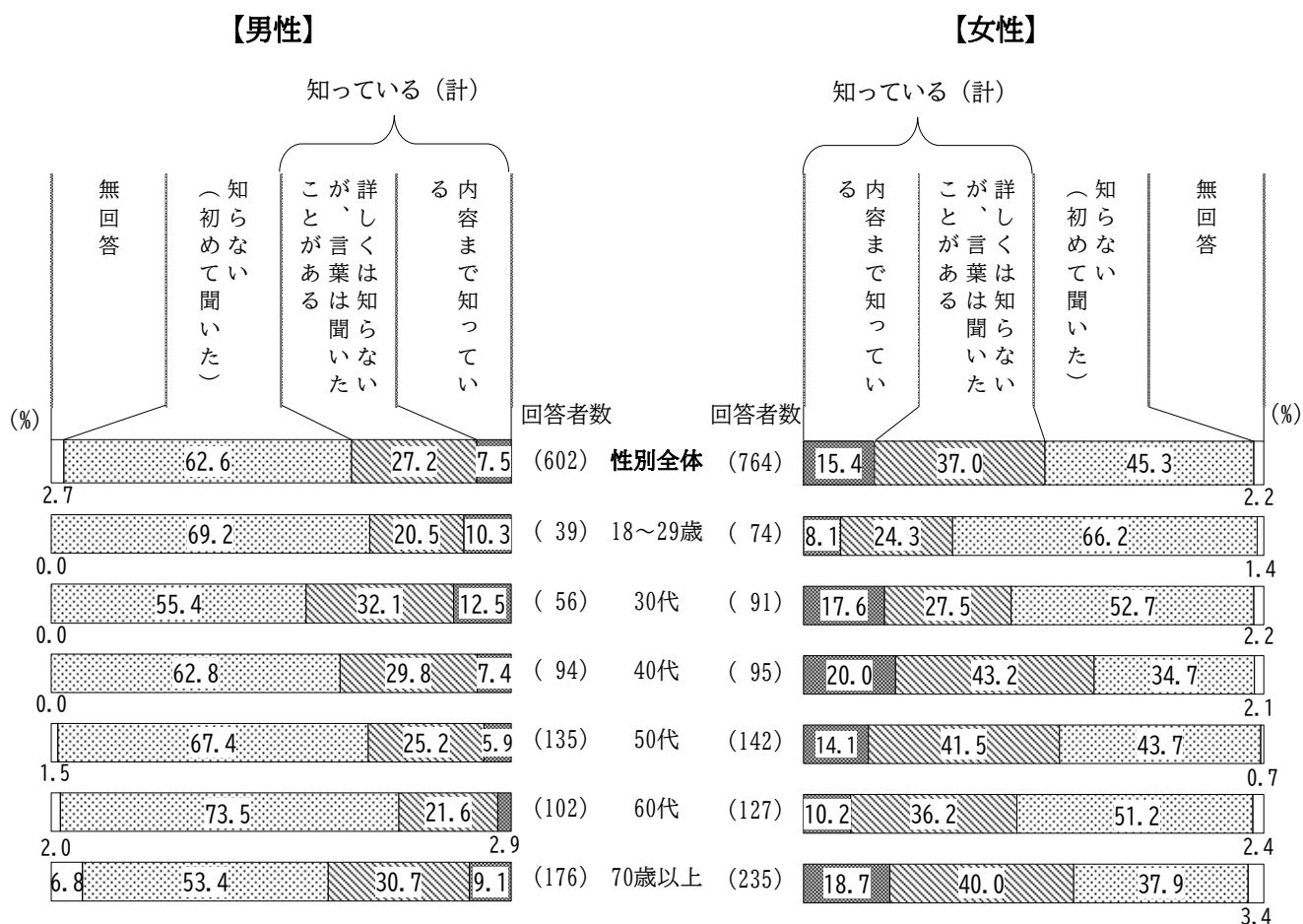


イ クロス集計・性別、性・年代別／区のキャッチフレーズの認知状況

(ア) 性別でみると、【知っている】は女性（52.5%）の方が男性（34.7%）より17.8ポイント大きく上回っている。

(イ) 性・年代別でみると、【知っている】は女性の40代で63.2%と最も高く、50代と70歳以上でも5割台と高くなっている。一方、男性の60代で24.5%と最も低く、男性の18～29歳、50代、女性の18～29歳で3割台前半と低くなっている。

図5－1－2 性別、性・年代別／区のキャッチフレーズの認知状況



(2) 野菜から食べ始めることの実践状況

問12 あなたは、食事の際、野菜から食べていますか（○は1つだけ）。

※ 糖尿病が進行して起こる様々な合併症は、食後に血糖値が急上昇し、血管を傷つけることが主な原因となります。このような血糖値の急上昇を抑えるためには、食事の最初に食物せんいを多く含む野菜類をよくかんで食べることが効果的です。

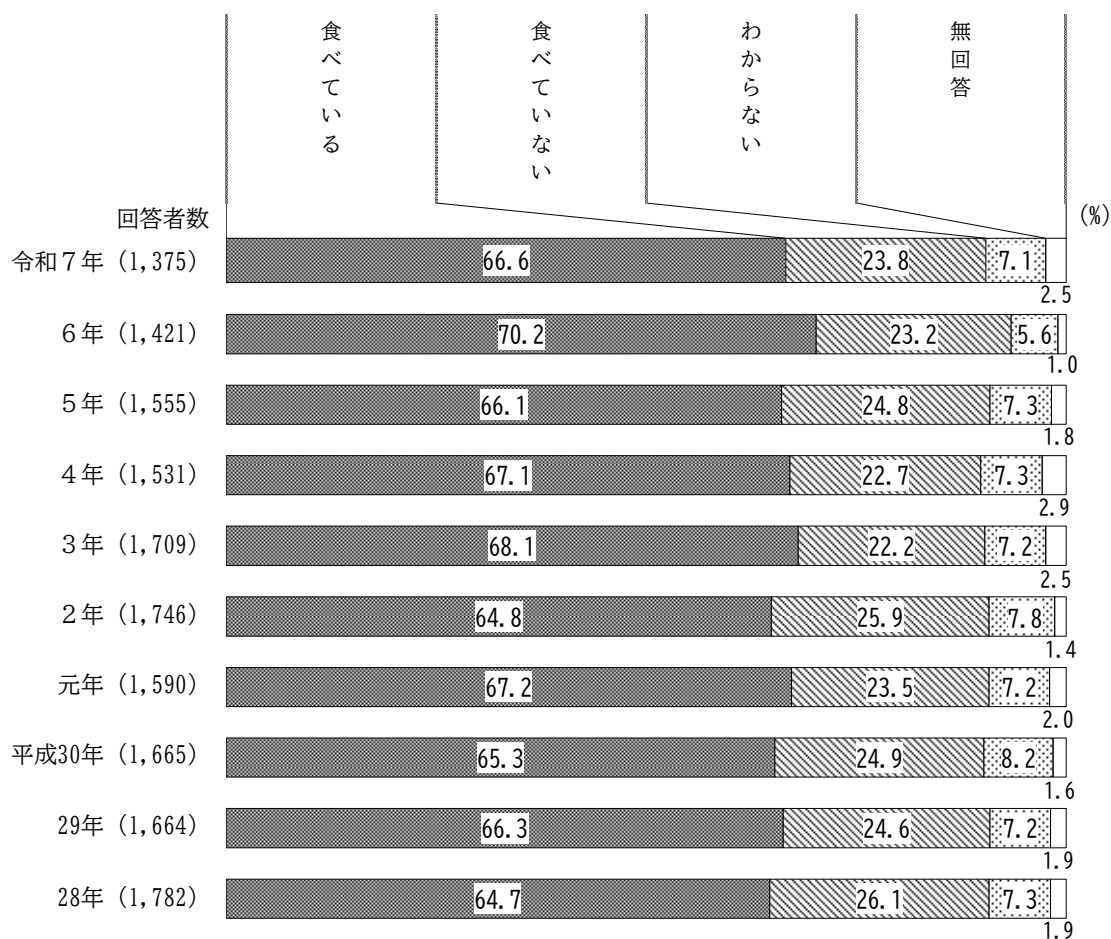
■野菜から「食べている」は6割台半ば

ア 単純集計・経年比較／野菜から食べ始めることの実践状況

（ア）野菜から「食べている」は66.6%で、「食べていない」は23.8%となっている。

（イ）前回調査と比較すると、「食べている」は3.6ポイントの減少となった。

図5-2-1 経年比較／野菜から食べ始めることの実践状況

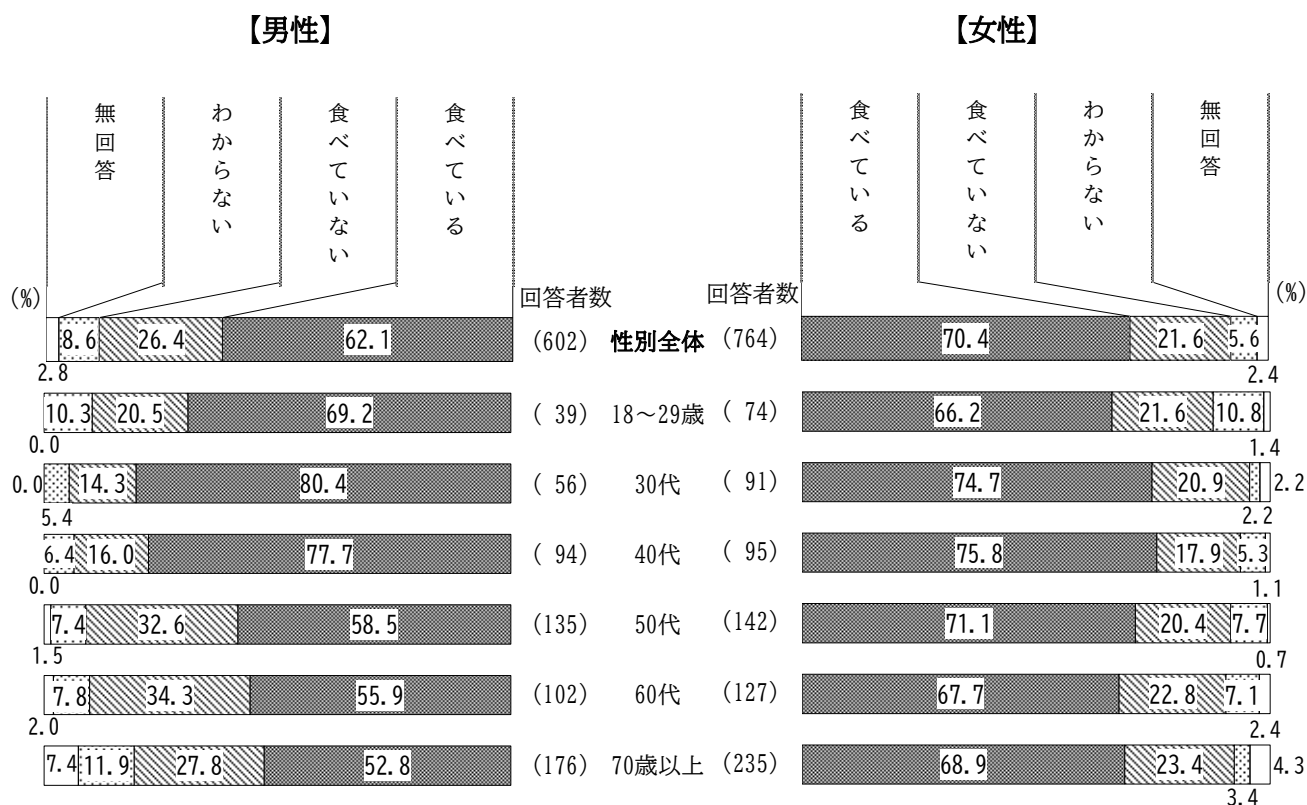


イ クロス集計・性別、性・年代別／野菜から食べ始めることの実践状況

(ア) 性別でみると、「食べている」は女性（70.4%）の方が男性（62.1%）より8.3ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、「食べている」は、男性の30代で80.4%と最も高く、男女とも30代と40代で7割台半ば以上と高くなっている。一方、男性の50代以上で5割台と低くなっている。

図5-2-2 性別、性・年代別／野菜から食べ始めることの実践状況



(3) 1日の野菜350g以上の摂取

問13 1日の野菜摂取量の目標は350g以上（調理前の生の状態で）です。あなたは、毎日350g以上の野菜が摂取できていますか（○は1つだけ）。

※ 野菜350gとは、1例をあげると、レタス1枚、きゅうり1本、プチトマト2個、にんじん1/2本、たまねぎ1/2個の合計に相当する量です。

■【できている】が4割台半ばで、【できていない】の5割を下回っている

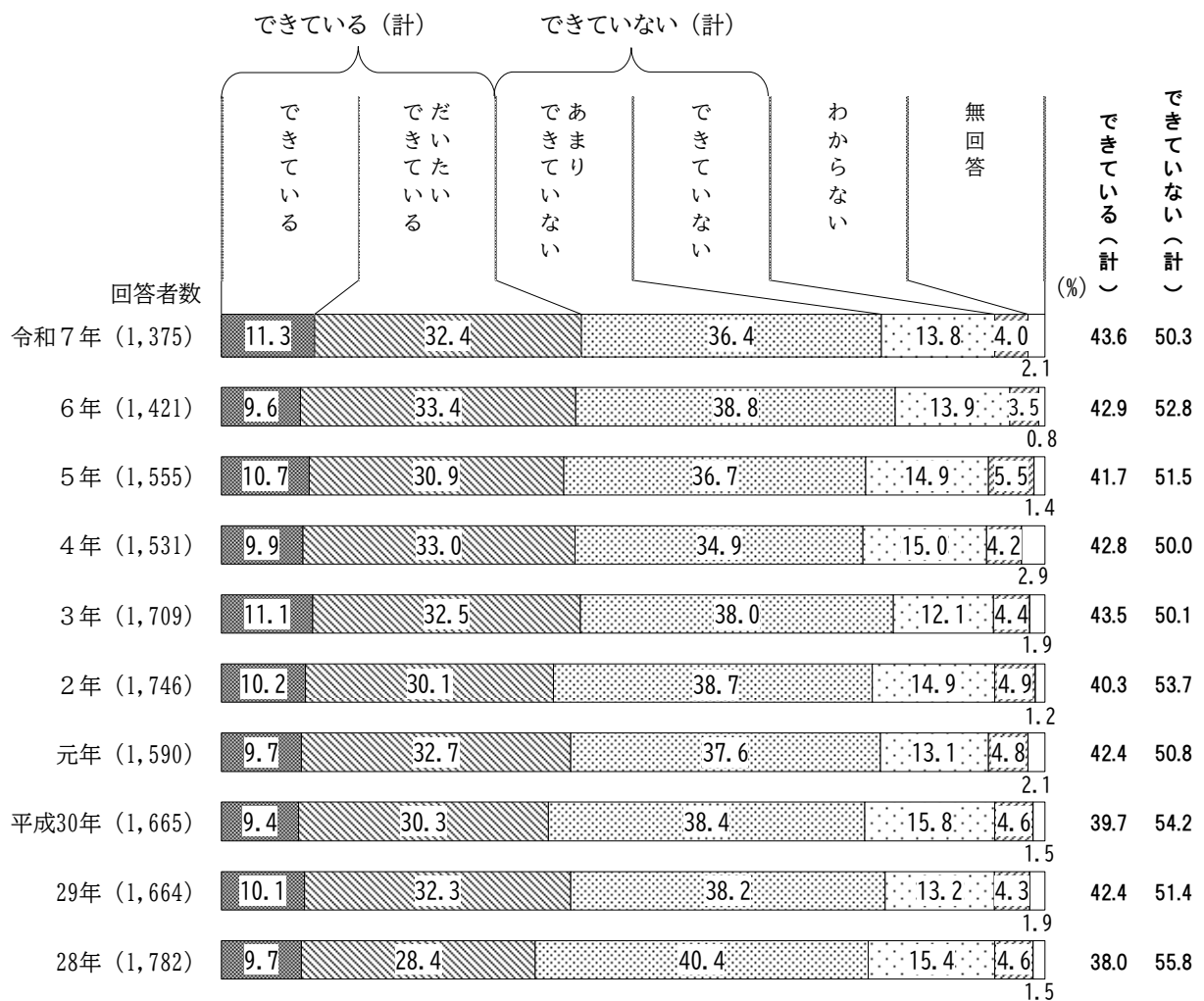
ア 単純集計・経年比較／1日の野菜350g以上の摂取

（ア）毎日350g以上の野菜の摂取については、「できている」が11.3%で、これに「だいたいできている」（32.4%）を合わせた【できている】は43.6%となっている。

（イ）野菜の摂取を「あまりできていない」（36.4%）と「できていない」（13.8%）を合わせた【できていない】は50.3%となっている。

（ウ）前回調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。

図5-3-1 経年比較／1日の野菜350g以上の摂取

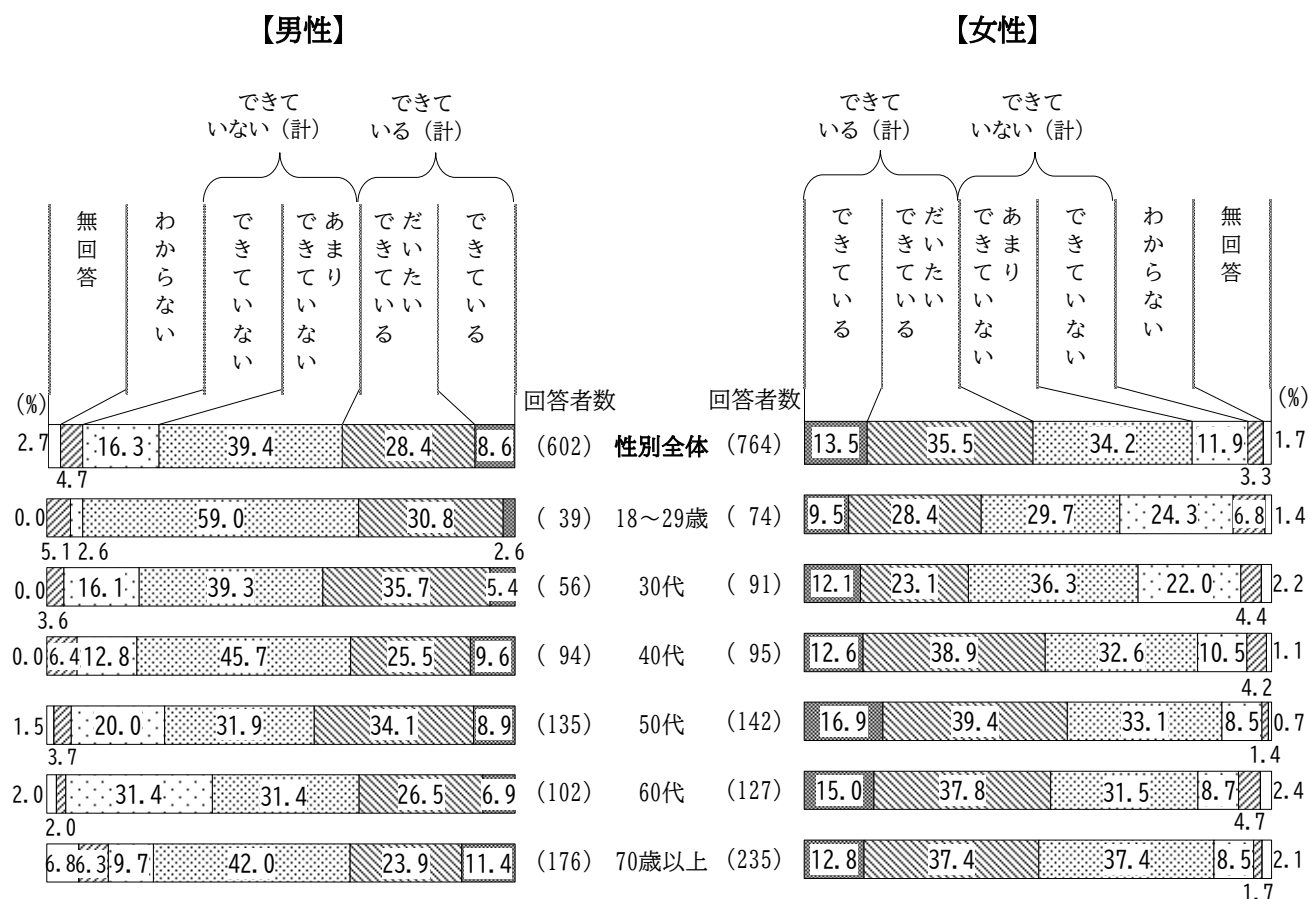


イ クロス集計・性別、性・年代別／1日の野菜350g以上の摂取

(ア) 性別でみると、【できている】は、女性（49.0%）の方が男性（37.0%）より12.0ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【できている】は女性の40代以上で5割台と高く、50代で56.3%と最も高くなっている。一方、男性の18～29歳と60代がともに33.3%と最も低くなっている。

図5-3-2 性別、性・年代別／1日野菜350g以上の摂取



(4) 自身の健康状態について

問14 あなたは普段、ご自分のことを健康だと感じていますか（○は1つだけ）。

■自分は【健康である】と自認している人は6割台半ば

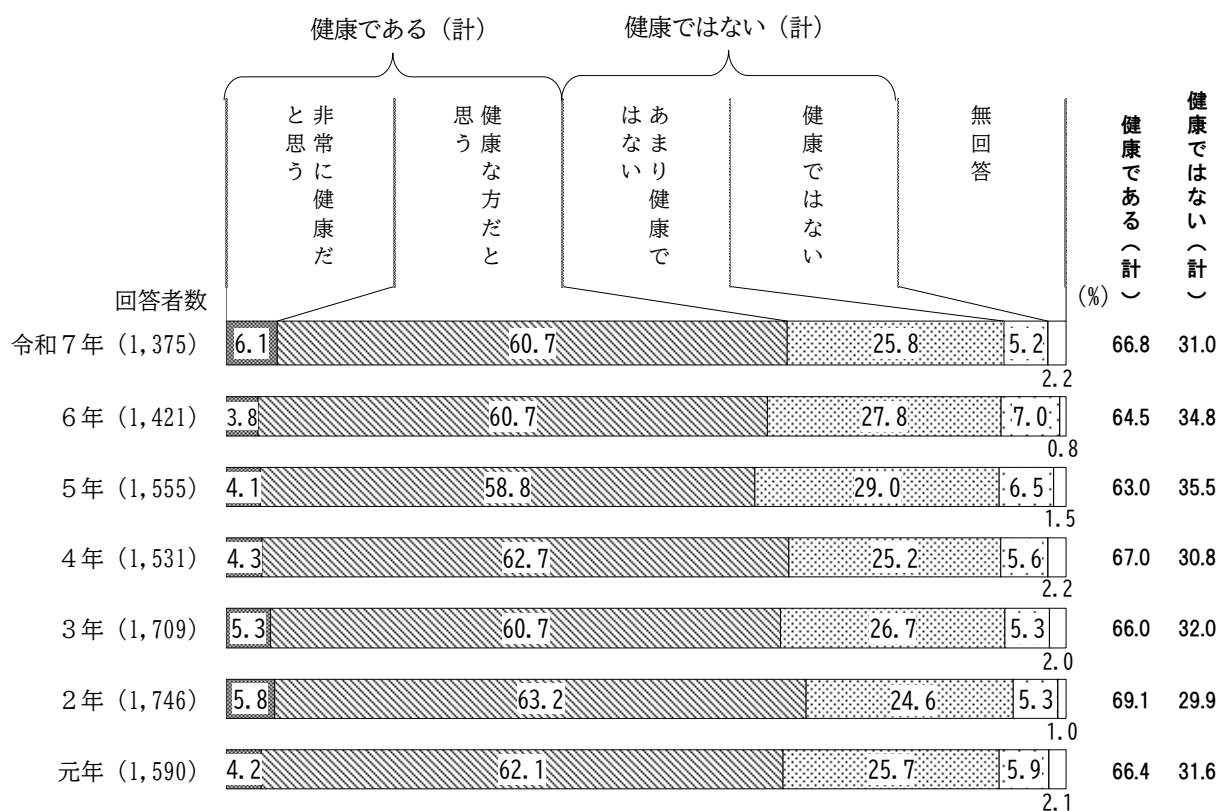
ア 単純集計・経年比較／自身の健康状態について

（ア）自身の健康状態については、「健康な方だと思う」が60.7%を占めており、これに「非常に健康だと思う」（6.1%）を合わせた【健康である】が66.8%となっている。

（イ）自身の健康状態は「あまり健康ではない」（25.8%）と「健康ではない」（5.2%）を合わせた【健康ではない】は31.0%となっている。

（ウ）前回調査との比較では、【健康ではない】が3.8ポイント減少している。

図5-4-1 経年比較／自身の健康状態について

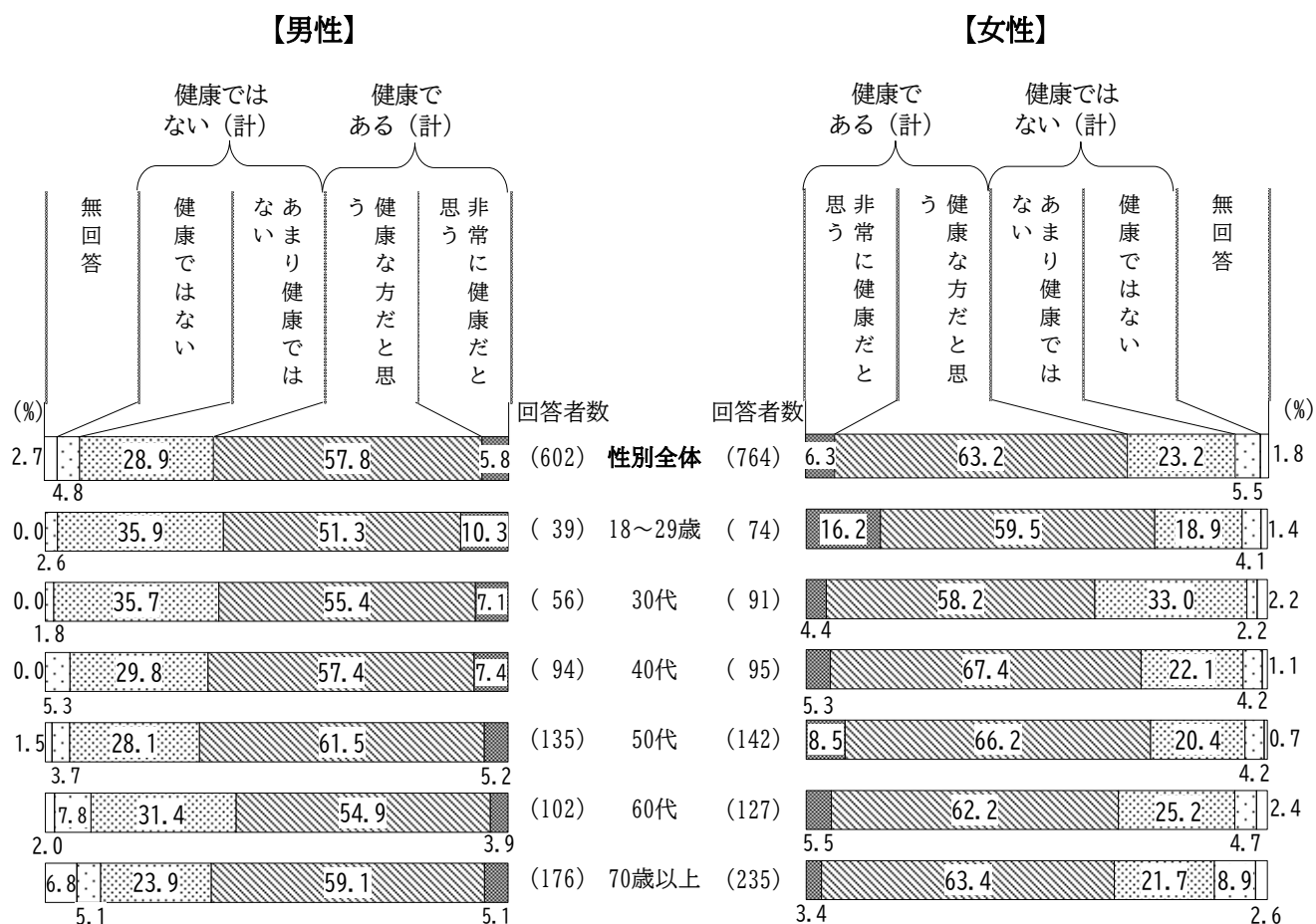


イ クロス集計・性別、性・年代別／自身の健康状態について

(ア) 性別でみると、【健康である】は、女性（69.5%）の方が男性（63.6%）より5.9ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【健康である】は、女性の18～29歳で75.7%と最も高く、女性の40代と50代でも7割台と高くなっている。逆に、男性の60代（58.8%）で5割台と最も低くなっている。

図5-4-2 性別、性・年代別／自身の健康状態について



(5) 体調や習慣

問15 あなたの体調や習慣について、あてはまるものをお答えください

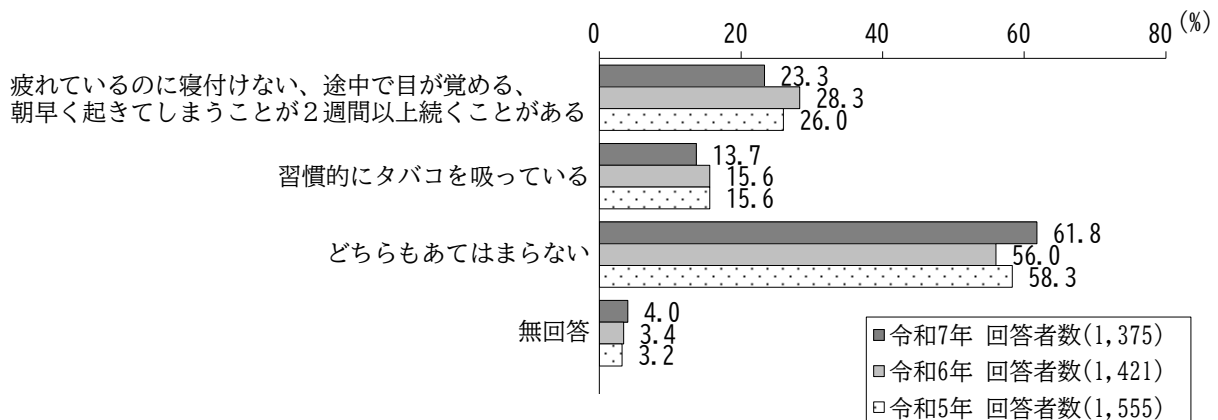
(○はあてはまるものすべて)。

- 「疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある」が2割台半ば、「習慣的にタバコを吸っている」が1割台半ば、「どちらもあてはまらない」が6割超

ア 単純集計・経年比較／体調や習慣

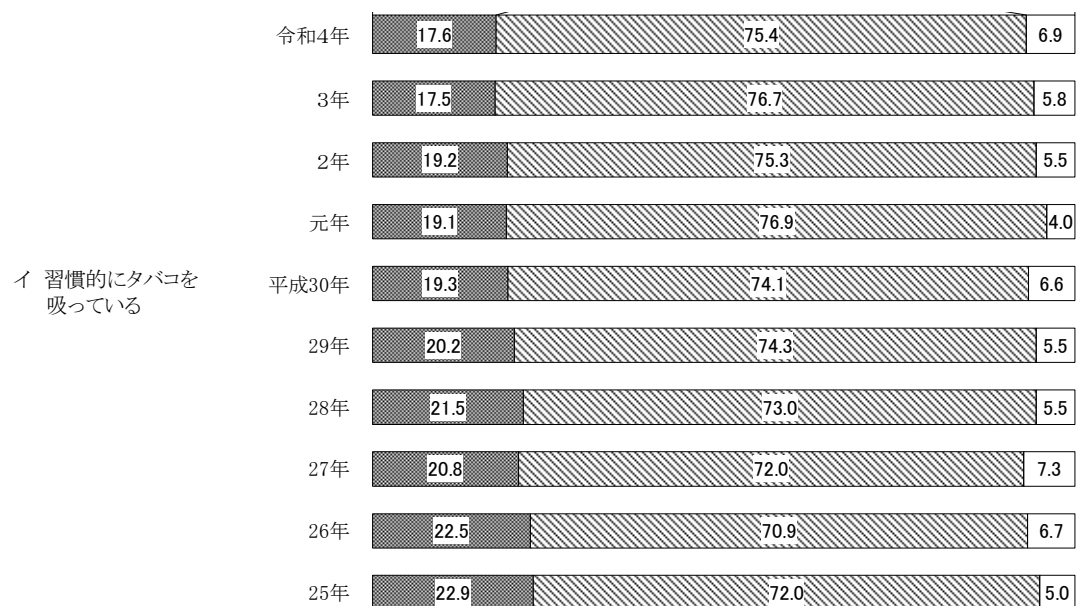
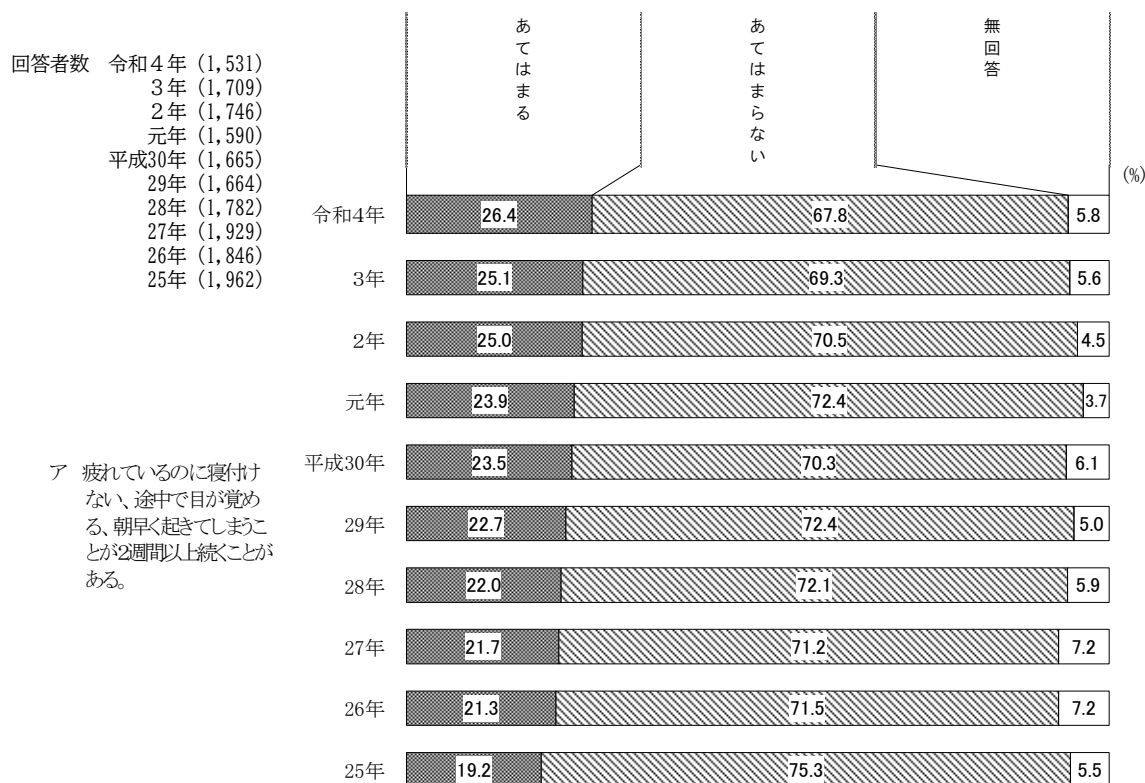
- (ア) 体調（睡眠度合い）と習慣（喫煙習慣）についてあてはまるかウかがったところ、「疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある」が23.3%、「習慣的にタバコを吸っている」が13.7%で、「どちらもあてはまらない」が61.8%となっている。
- (イ) 前回調査との比較では、「疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある」が5.0ポイント減少し、「どちらもあてはまらない」が5.8ポイントの増加となっている。

図5-5-1 経年比較／体調や習慣



参考／体調や習慣

問 あなたの体調や習慣、身近な医療機関についてお答えください（〇はそれぞれ1つずつ）。

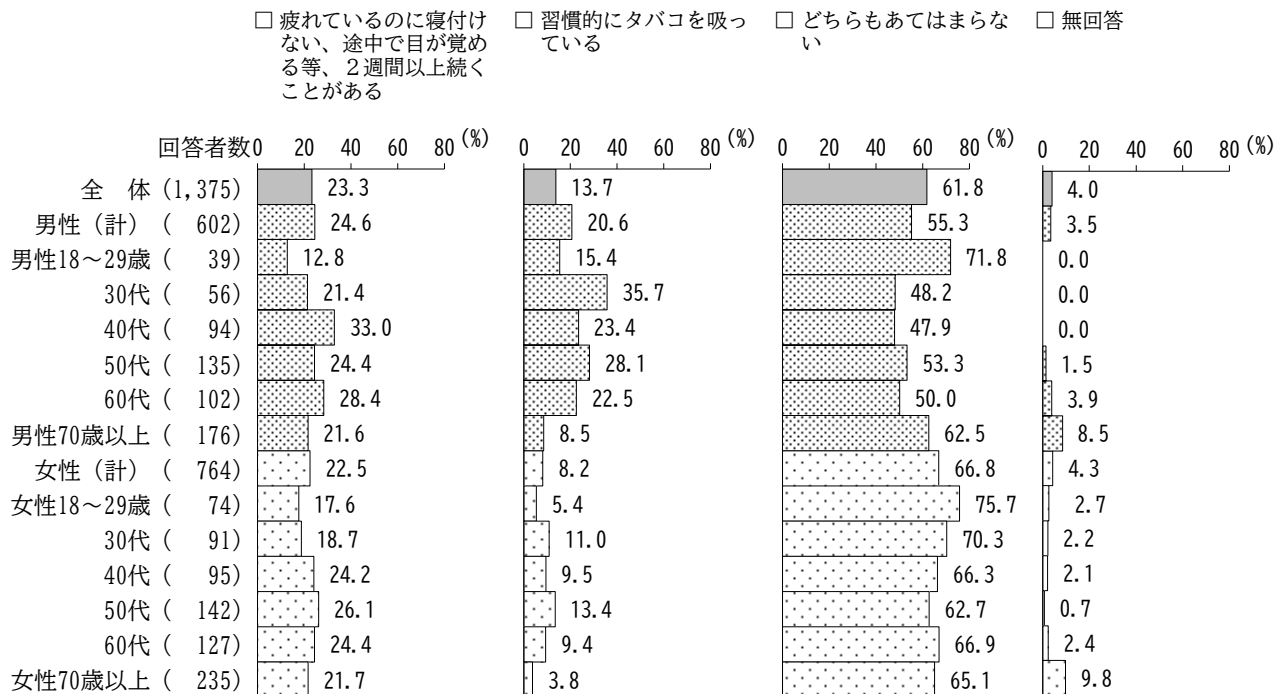


※ 令和4年度までは、体調（睡眠度合い）と習慣（喫煙習慣）の状況を個別に聴いていたが、令和5年度から、「どちらもあてはまらない」の割合を把握するため、1つの質問（複数回答）にまとめたため、単純に割合を比較することはできない。

イ クロス集計・性別、性・年代別／体調や習慣

- (ア) 性別でみると、「習慣的にタバコを吸っている」は男性（20.6%）の方が女性（8.2%）より12.4ポイント高く、「どちらもあてはまらない」は女性（66.8%）の方が男性（55.3%）より11.5ポイント高くなっている。
- (イ) 性・年代別でみると、「疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある」は、男性の40代で33.0%と最も高く、「習慣的にタバコを吸っている」は男性の30代で35.7%と最も高くなっている。
- (ウ) 「どちらもあてはまらない」は女性の18～29歳で75.7%と最も高く、次いで男性の18～29歳（71.8%）となっている。逆に男性の40代で47.9%と最も低くなっている。

図5-5-2 性別、性・年代別／体調や習慣



(6) 医療必要時にかかりたいと思う身近な医療機関の有無

問16 医療が必要なときに、あなたがかかりたいと思う医療機関は身近にありますか

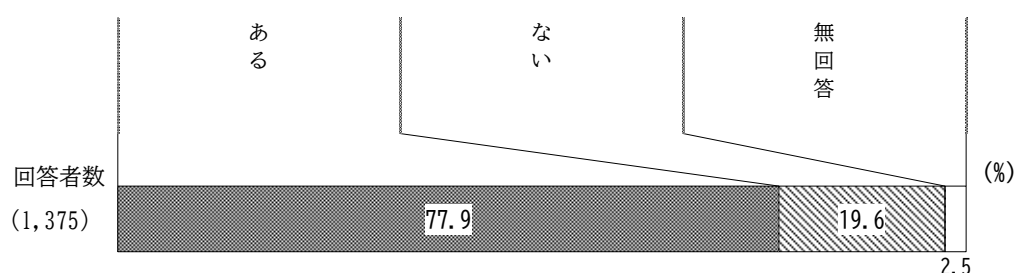
(○は1つだけ)。

■「ある」が7割台半ば超、「ない」が約2割

ア 単純集計／医療必要時にかかりたいと思う身近な医療機関の有無

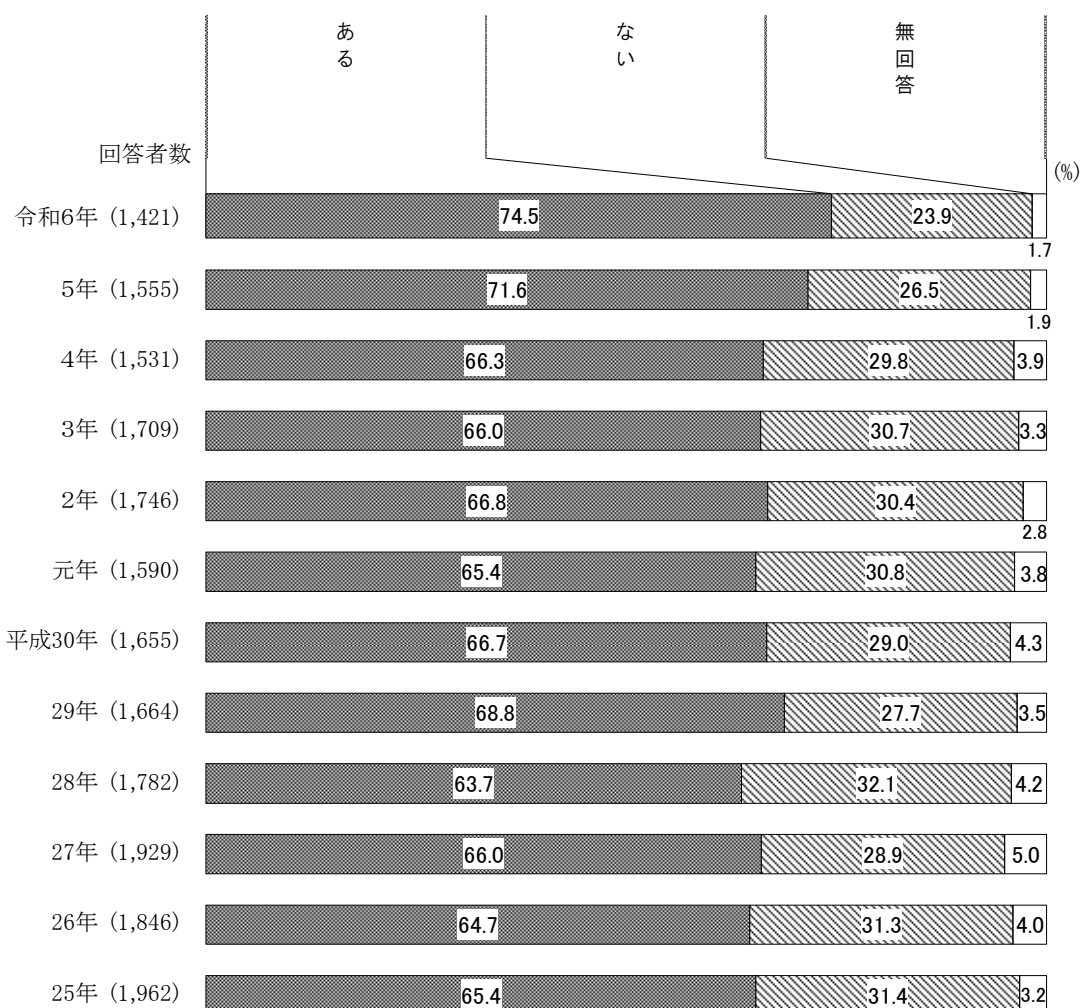
(ア)「ある」が77.9%で、「ない」が19.6%となっている。

図5-6-1 医療必要時にかかりたいと思う身近な医療機関の有無



参考／安心して受診できる医療機関の有無

問 あなたが安心して受診できる医療機関は身近にありますか (○は1つだけ)

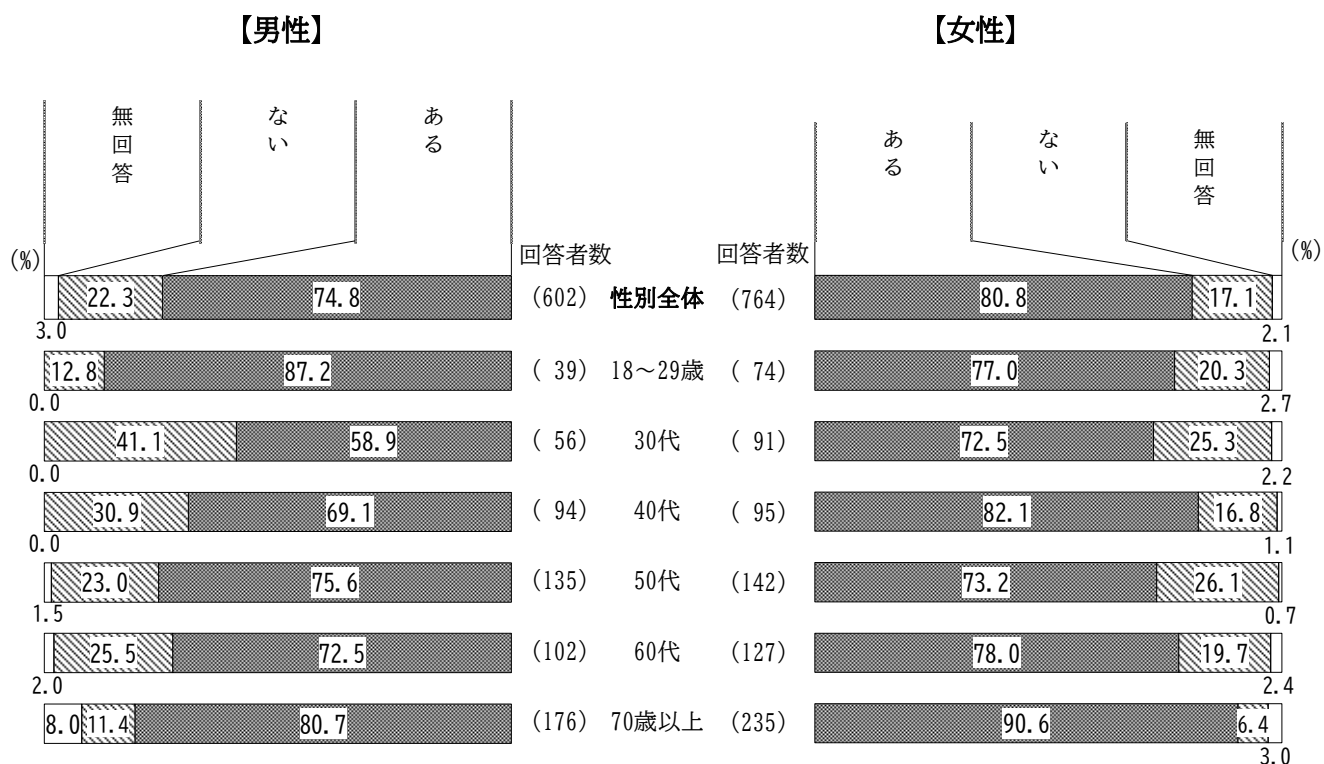


イ クロス集計・性別、性・年代別／医療必要時にかかりたいと思う身近な医療機関の有無

(ア) 性別にみると、「ある」は女性（80.8%）の方が男性（74.8%）より6.0ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、「ある」は、女性の70歳以上で9割と最も高く、次いで、男性の18～29歳で8割半ば超となっている。逆に、男性の30代が58.9%と最も低くなっている。

図5-6-2 性別、性・年代別／医療必要時にかかりたいと思う身近な医療機関の有無



(7) 健康維持のために実行している、心がけているもの

問17 あなた自身が健康維持のために実行している、または心がけているものをお答えください
(○はあてはまるものすべて)。

■「毎年健康診断を受けている」が7割弱、「毎日朝ごはんを食べている」が6割台半ば

ア 単純集計・経年比較／健康維持のために実行している、心がけているもの

(ア) 健康維持のために心がけていることについて、上位は以下のとおりとなっている。

- ①「毎年健康診断を受けている」(68.1%)
- ②「毎日朝ごはんを食べている」(63.2%)
- ③「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べている」(40.7%)
- ④「毎食、野菜料理(サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具たくさん味噌汁など)を食べるようにしている」(39.0%)
- ⑤「日ごろ、健康のために適度な運動(スポーツを含む)をするか身体を動かしている」(38.7%)

(イ) 前回調査との比較では、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べている」の文言が若干変更になってはいるが7.3ポイント増加している。

図5-7-1-① 経年比較／健康維持のために実行している、心がけているもの

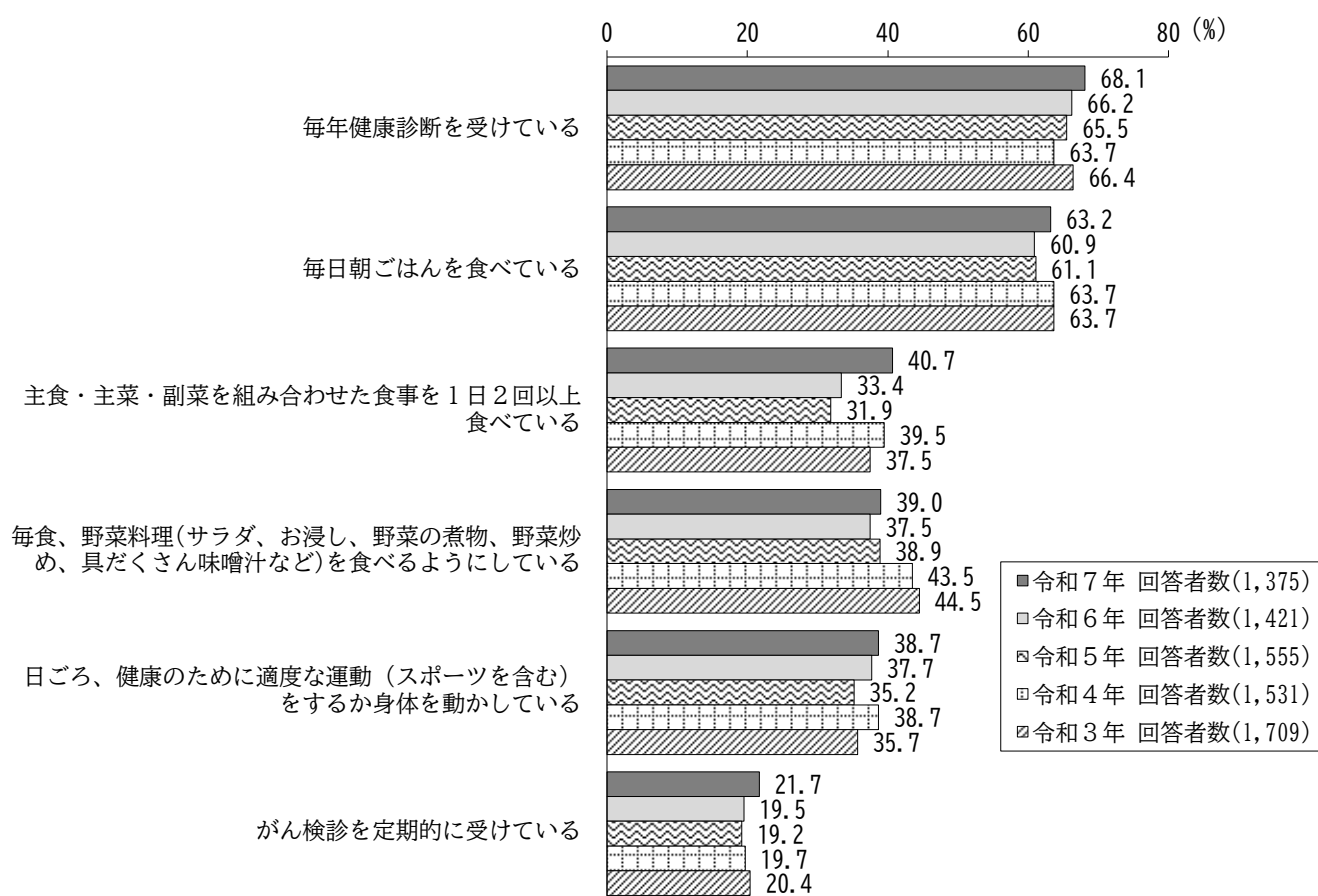
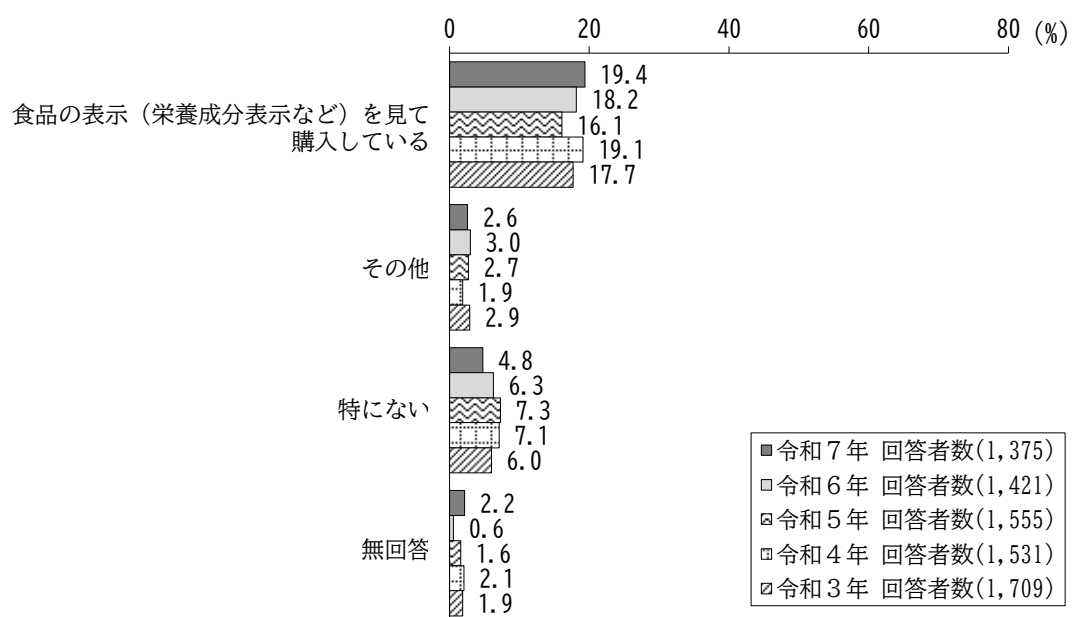


図5-7-1-② 経年比較／健康維持のために実行している、心がけているもの



※「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べている」は、令和6年度までは「主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている」であったが、令和7年度で文言を変更。

(8) がん検診の受診状況と受けたがん検診の種類

問18 あなたがこの一年間で受けたがん検診は以下のどれですか（○はあてはまるものすべて）。

- 【がん検診を受けた】（44.6％）は「がん検診は受けていない」（47.0％）を下回っている
- 受けたがん検診は、「大腸がん検診」、「胃がん検診」、「子宮頸がん検診」の順

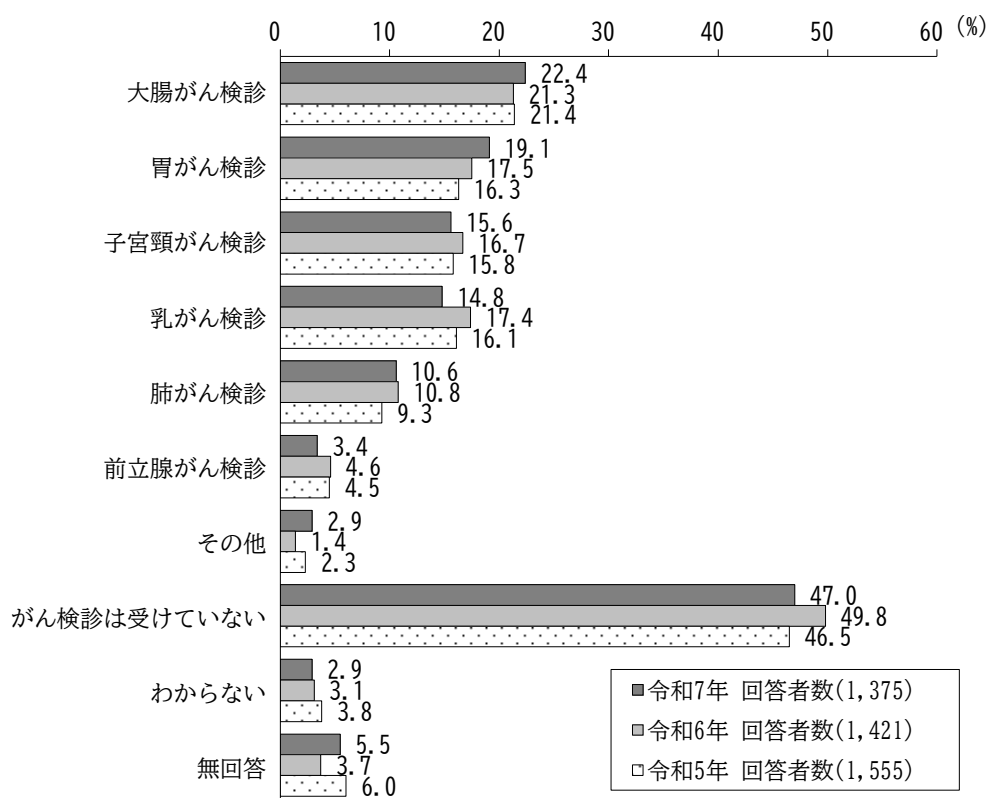
ア 単純集計・経年比較／がん検診の受診状況と受けたがん検診の種類

（ア）この一年間に【がん検診を受けた】は44.6％で、「がん検診は受けていない」（47.0％）をわずかに下回っている。

（イ）受けたがん検診の種類は以下のとおりとなっている。

- ①「大腸がん検診」（22.4％）
- ②「胃がん検診」（19.1％）
- ③「子宮頸がん検診」（15.6％）
- ④「乳がん検診」（14.8％）

図5－8－1 経年比較／がん検診の受診状況と受けたがん検診の種類



※【がん検診を受けた】＝100％－「がん検診は受けていない」－「わからない」－「無回答」

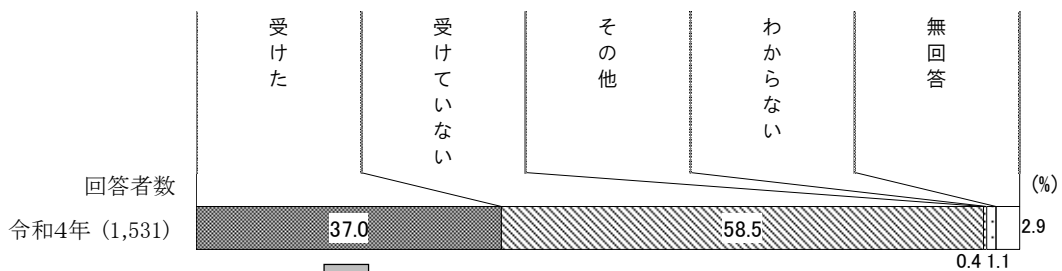
＜参考＞足立区が区民対象に行っているがん検診

検査項目	受診対象（年度末年齢）	自己負担金	備考
胃がんハイリスク検診	40歳から74歳の間に1回のみ受診可	1,000円	
胃がん内視鏡検診	50歳以上 ※前年度未受診者	2,000円	
肺がん検診	40歳以上毎年度受診可 (かく痰検査は50歳以上で喫煙指数600以上)	胸部X線：800円 かく痰検査：300円	
大腸がん検診	40歳以上毎年度受診可	300円	
子宮頸がん検診	20歳以上の女性 ※前年度未受診者	500円	一部年齢の方に無料クーポン券送付
乳がん検診	40歳以上の女性 ※前年度未受診者	500円	
前立腺がん検診	60歳から64歳の男性 ※該当年度の間は毎年度受診可	800円	

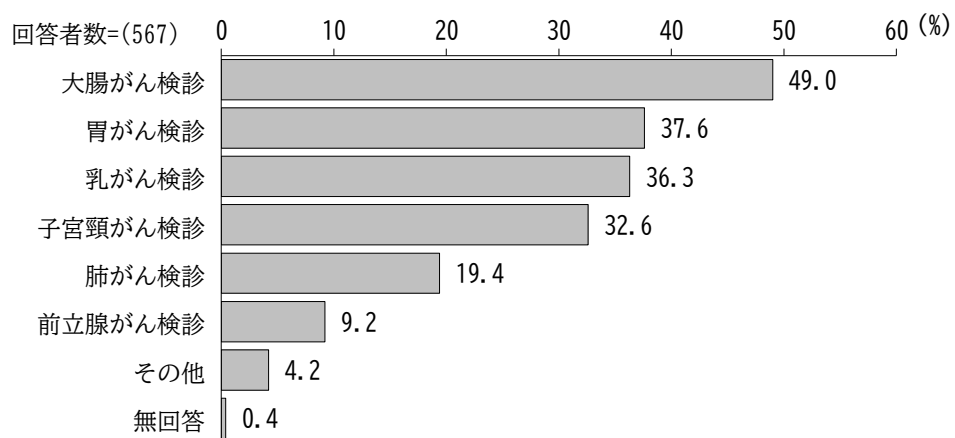
※ がん検診は足立区が行っている「区の検診」以外に、職場で行う「職場の検診」、医療機関で行う人間ドックなどの「個人的な検診」などがあり、また上記表のとおり検査項目によって受診対象が異なることを考慮する必要がある。

参考／がん検診の受診有無→受けたがん検診の種類

問 あなたは、この一年間で、何らかのがん検診を受けましたか（○は1つだけ）。



問 あなたが受けたがん検診は以下のどれですか（○はあてはまるものすべて）。



※ 令和4年度では、最初に、がん検診の受診有無を質問し、「受けた」と回答された方に対して受けたがん検診の種類をたずねた。従って単純に割合を比較することはできない。

(9) かかりつけ歯科医院の有無と治療のほかに受けている内容

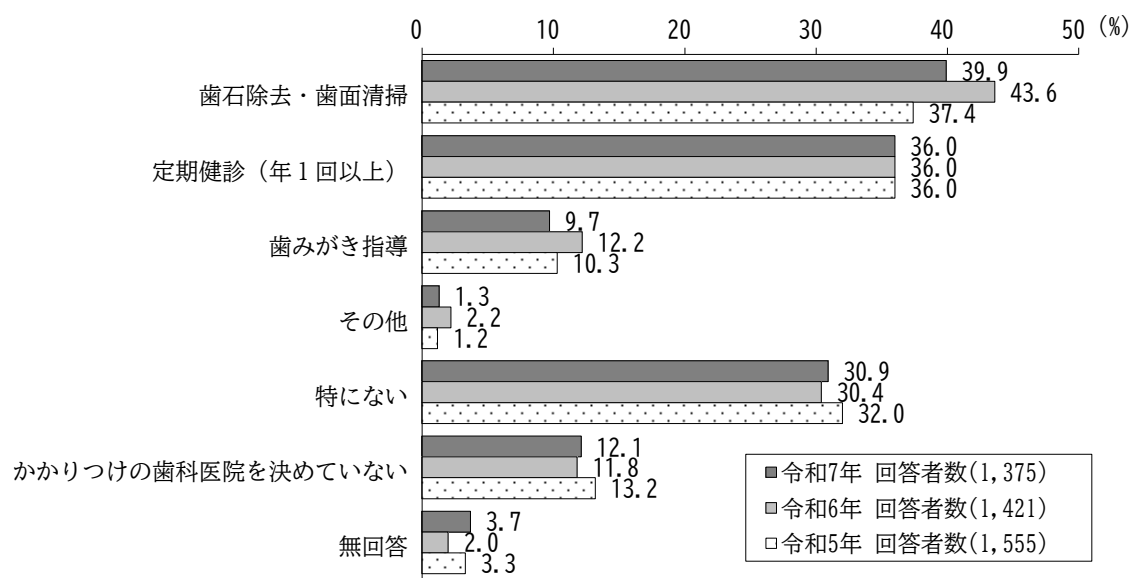
問19 あなたは、かかりつけの歯科医院で、むし歯・歯周病の治療や入れ歯の作製・修理などのほかに受けているものはありますか（○はあてはまるものすべて）。

- 【かかりつけ歯科医院を決めている】は8割台半ば、「かかりつけ歯科医院を決めていない」は1割台半ば近く
- 治療のほかに受けている内容は「歯石除去・歯面清掃」が39.9%、「定期健診（年1回以上）」が36.0%

ア 単純集計・経年比較／かかりつけ歯科医院の有無と治療のほかに受けている内容

- (ア) 【かかりつけ歯科医院を決めている】は84.2%を占めており、「かかりつけの歯科医院を決めていない」は12.1%となっている。
- (イ) かかりつけ歯科医院で治療や入れ歯の作成・修理などのほかに受けているものは、「歯石除去・歯面清掃」が39.9%、「定期健診（年1回以上）」が36.0%となっている。一方、「特にない」は30.9%となっている。
- (ウ) 前回調査と比較すると、「歯石除去・歯面清掃」が前回調査（43.6%）から3.7ポイント減少している。

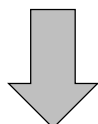
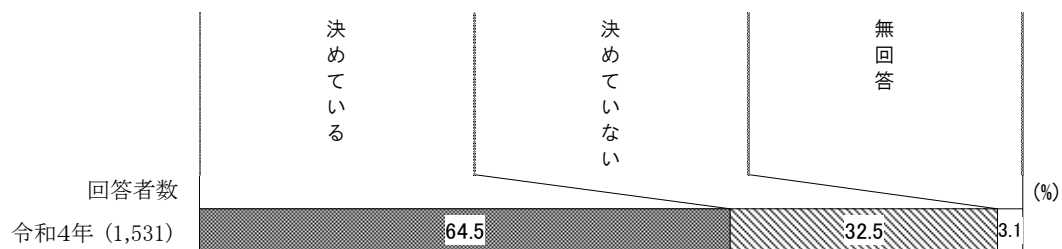
図5-9-1 経年比較／かかりつけ歯科医院の有無と治療のほかに受けている内容



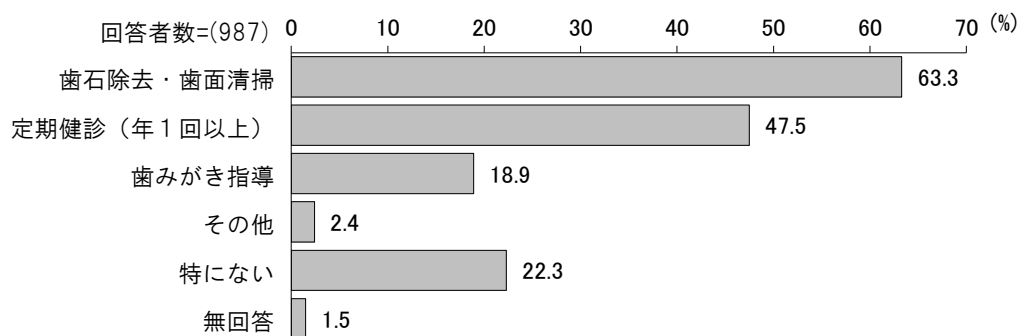
※【かかりつけ歯科医院を決めている】＝100%－「かかりつけの歯科医院を決めていない」－「無回答」

参考／かかりつけ歯科医院の有無→受けている治療や指導

問 あなたは、かかりつけ歯科医院を決めていますか（○は1つだけ）。



問 その歯科医院では、むし歯・歯周病の治療や入れ歯の作成・修理などのほかに受けているのはありますか（○はあてはまるものすべて）。



※ 令和4年度では、最初に、かかりつけ歯科医院の有無を質問し、「決めている」と回答された方に対して、治療や入れ歯修理など以外の定期健診や指導などをたずねた。従って単純に割合を比較することはできない。

(10) 感染症予防としての手洗いの実践状況

問20 あなたは、帰宅時に感染症予防として手洗いを実践していますか（○は1つだけ）。

■「毎日（毎回）行っている」人が約8割となっているものの、漸減傾向

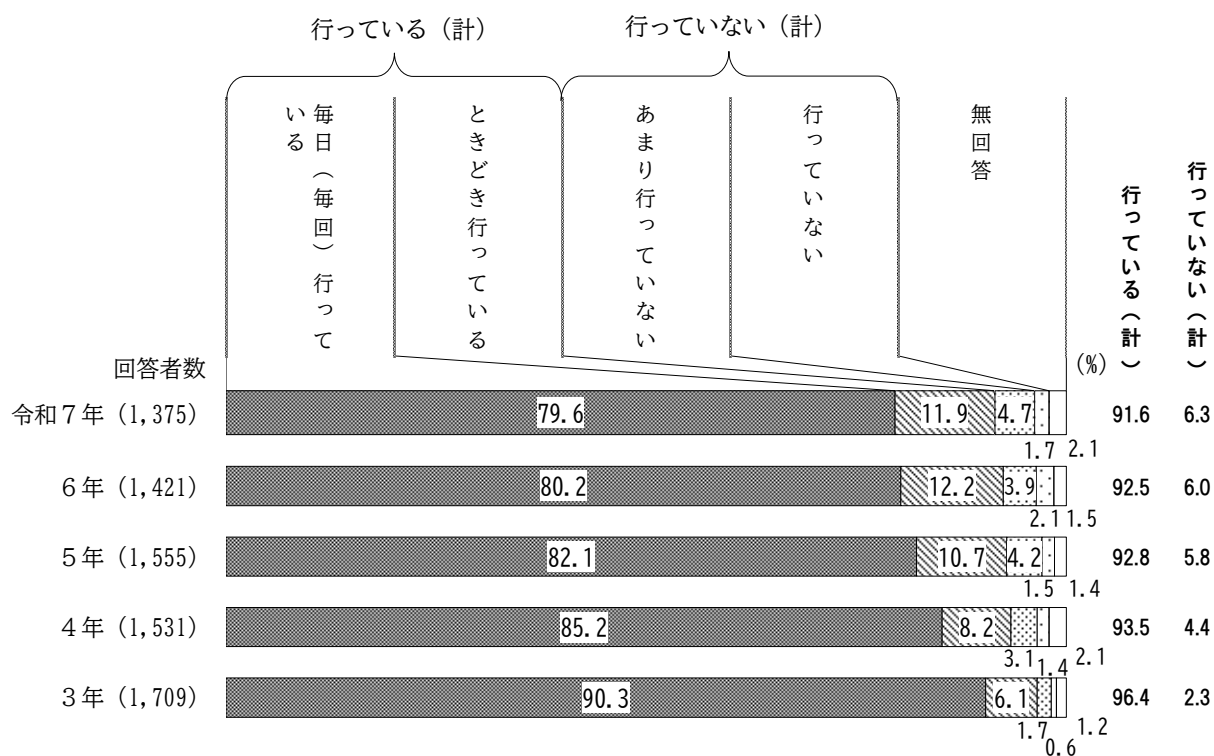
ア 単純集計・経年比較／感染症予防としての手洗いの実践状況

（ア）帰宅時における感染症予防としての手洗いの実践状況は、「毎日（毎回）行っている」が79.6%を占めており、これに「ときどき行っている」(11.9%)を合わせた【行っている】(91.6%)は9割超となっている。

（イ）帰宅時における手洗いを「あまり行っていない」(4.7%)と「行っていない」(1.7%)を合わせた【行っていない】(6.3%)は僅かとなっている。

（ウ）前回調査と比較すると、「毎日（毎回）行っている」は特に大きな違いはないものの、調査開始以降は漸減している。

図5-10-1 経年比較／感染症予防としての手洗いの実践状況

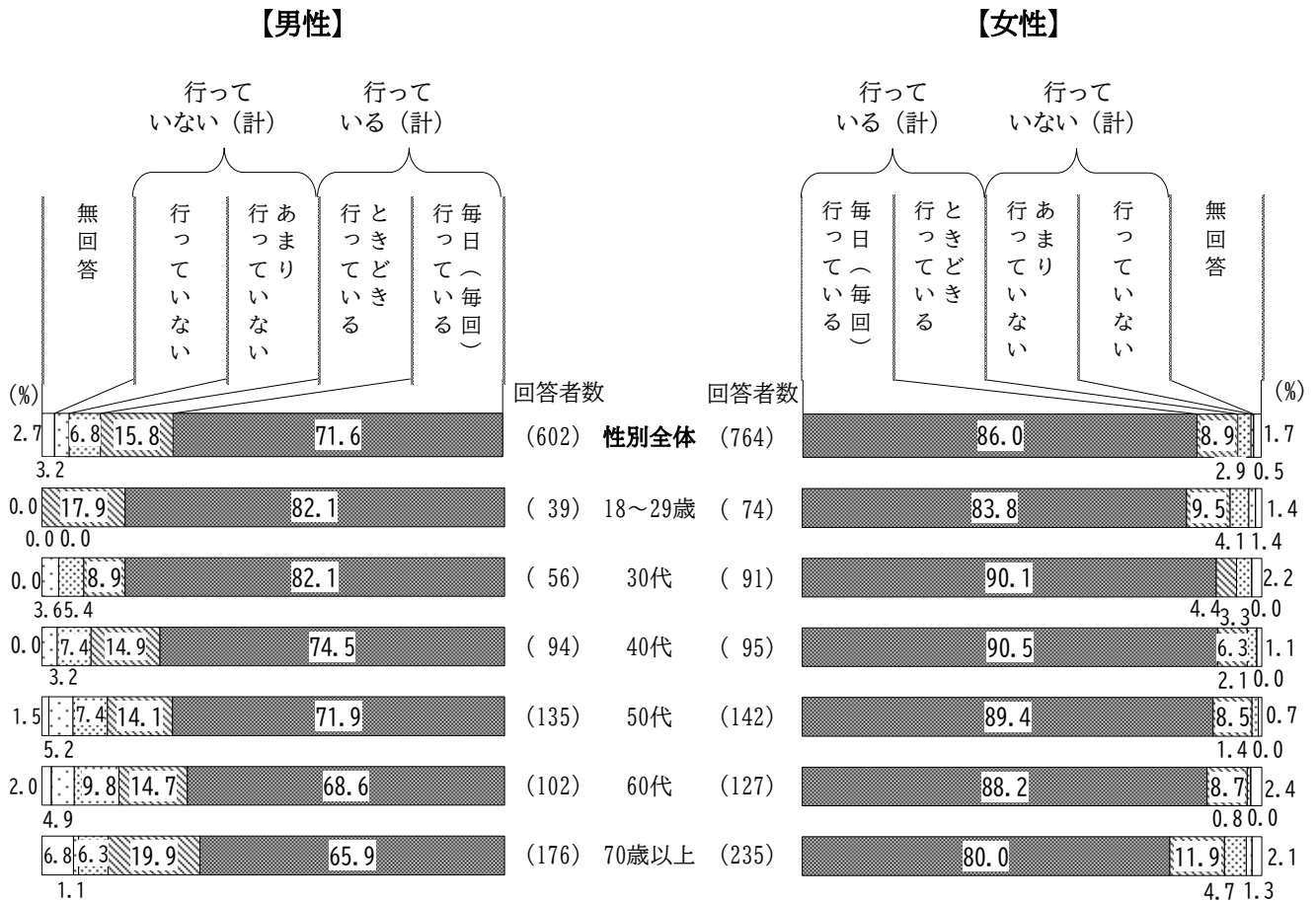


イ クロス集計・性別、性・年代別／感染症予防としての手洗いの実践状況

(ア) 性別にみると、【行っている】は女性（94.9%）の方が男性（87.4%）より7.5ポイント高く、「毎日（毎回）行っている」でみると、女性（86.0%）の方が男性（71.6%）より14.4ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、【行っている】は、男性の18～29歳で100.0%と最も高く、女性の40～60代が9割台後半で続いている。逆に男性の40代以上で8割台と低くなっている。

図5-10-2 性別、性・年代別／感染症予防としての手洗いの実践状況



(11)「ゲートキーパー」という言葉の認知状況

問21 あなたは、「ゲートキーパー（※）」という言葉を知っていますか（○は1つだけ）。

※「ゲートキーパー」とは、自殺のサインに気づき、適切な相談機関へつなぐ「いのちの門番」のことです。

■【知っている】は1割台半ばで、「知らない（初めて聞いた）」が8割超

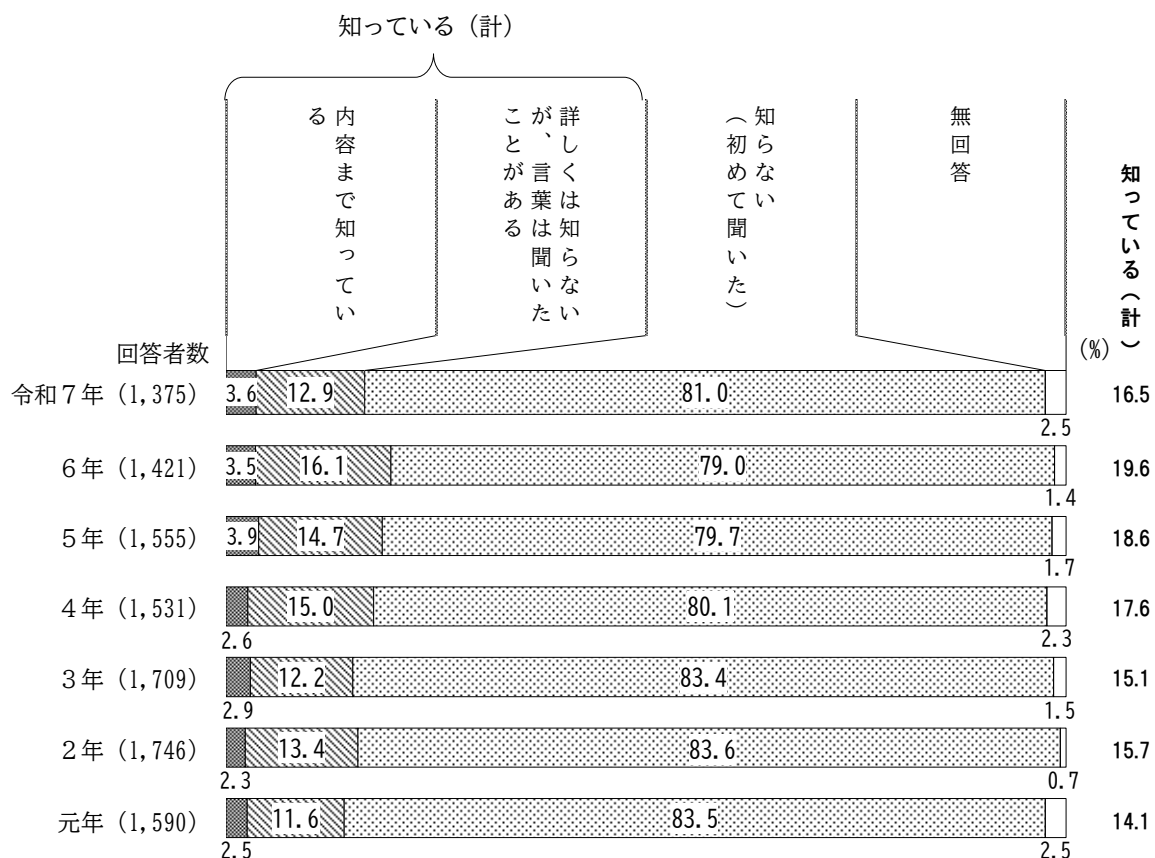
ア 単純集計・経年比較／「ゲートキーパー」という言葉の認知状況

（ア）「ゲートキーパー」という言葉の認知は、「知らない（初めて聞いた）」が8割超を占めている。

（イ）「ゲートキーパー」という言葉を「内容まで知っている」（3.6%）は僅かで、「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」（12.9%）を合わせた【知っている】は16.5%となっている。

（ウ）前回調査と比較すると、【知っている】は設問を開始した令和元年からおおむね漸増傾向となっていたが、3.1ポイントの減少となった。

図5-11-1 経年比較／「ゲートキーパー」という言葉の認知状況

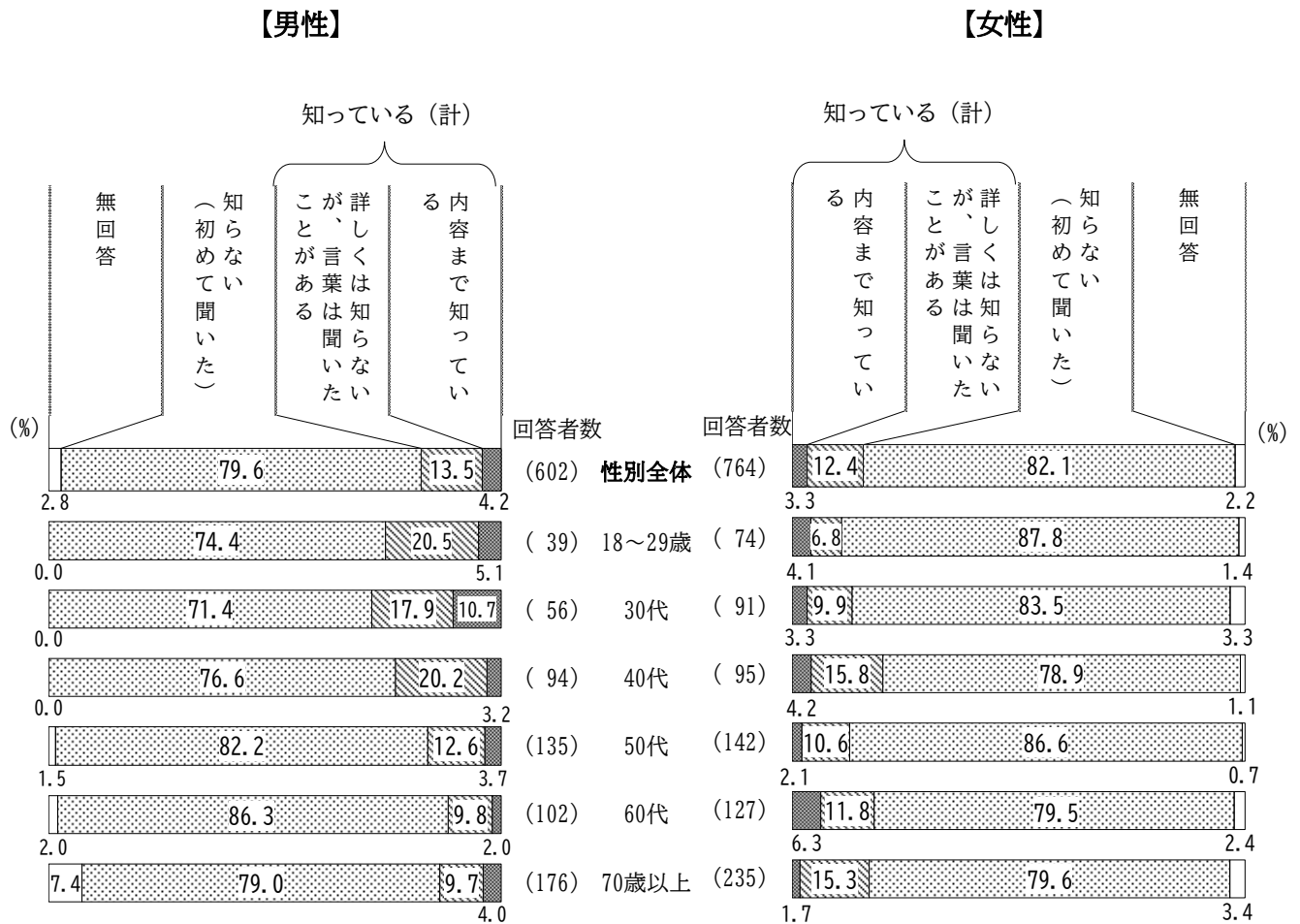


イ クロス集計・性別、性・年代別／「ゲートキーパー」という言葉の認知状況

(ア) 性別でみると、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別にみると、【知っている】は、男性の30代で28.6%と最も高く、次いで男性の18～29歳（25.6%）となっている。一方、女性の18～29歳で10.8%と最も低くなっている。

図5-11-2 性別、性・年代別／「ゲートキーパー」という言葉の認知状況



6 スポーツ・読書

-
- (1) 日常的に行っている運動・スポーツの有無と実施状況
 - (2) 継続的に実施している運動・スポーツ
 - (3) 運動・スポーツを最も多く行っている場所
 - (4) 運動・スポーツを行うためのきっかけ
 - (5) 過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動
 - (6) 運動・スポーツを支える活動をしなかった理由
 - (7) 読書に関わる行動状況
 - (8) 読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由
-

(1) 日常的に行っている運動・スポーツの有無と実施状況

問22 あなたは日常的に、どの程度運動・スポーツを行っていますか（○は1つだけ）。

※ ルールにもとづいて勝敗や記録を競うスポーツだけでなく、健康づくりのためのウォーキングや気分転換に行う軽い体操、自然に親しむハイキング、介護予防のためのトレーニングなど、目的をもった身体活動の全てを含みます。

■【運動している】は6割で、「30分以上の運動を週2回以上」は2割台半ば

ア 単純集計・経年比較／日常的に行っている運動・スポーツの有無と実施状況

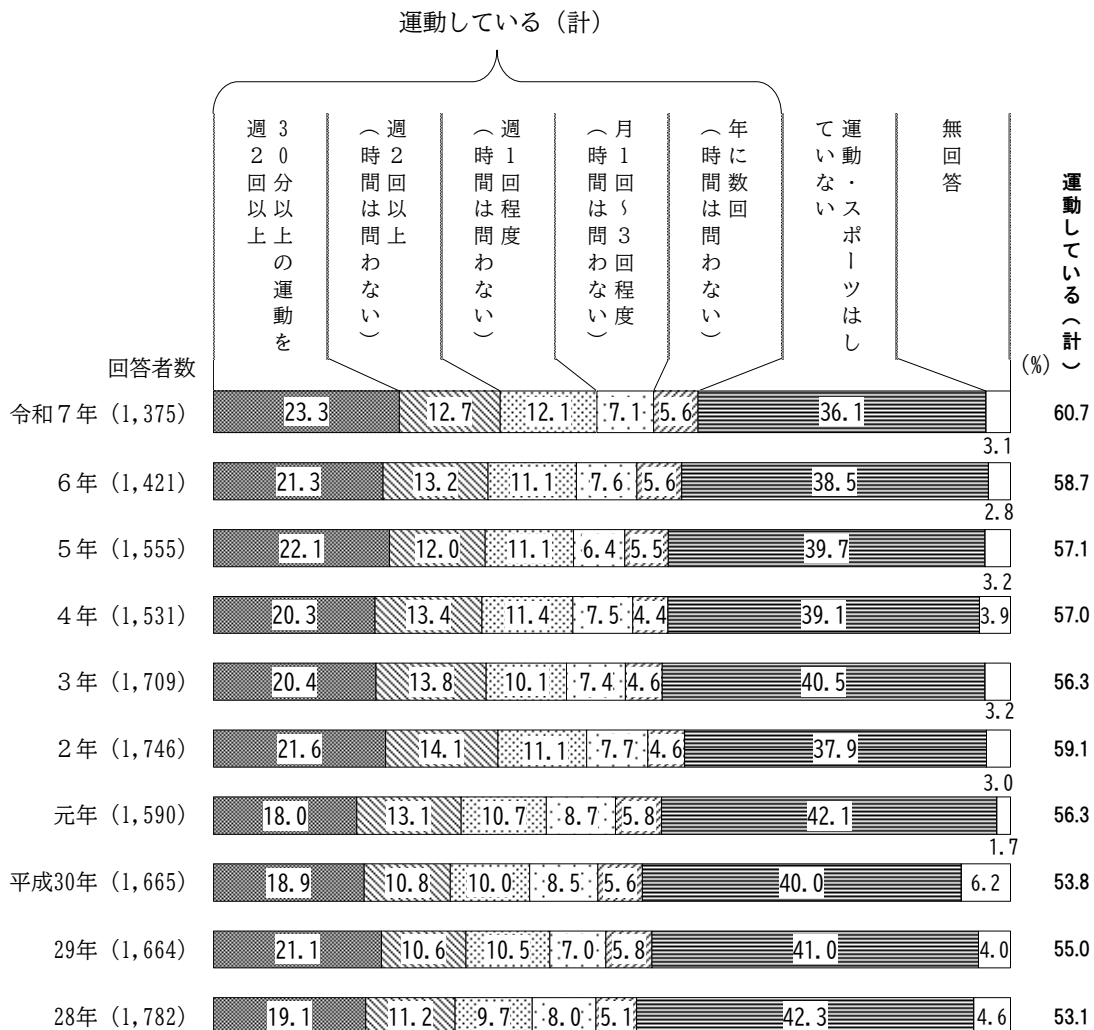
(ア) 運動・スポーツの実践頻度別の割合は、頻度の高い順に以下のとおりとなっている。

- ①「30分以上の運動を週2回以上」(23.3%)
- ②「週2回以上（時間は問わない）」(12.7%)
- ③「週1回程度（時間は問わない）」(12.1%)
- ④「月1回～3回程度（時間は問わない）」(7.1%)
- ⑤「年に数回（時間は問わない）」(5.6%)

(イ) 上記5項目を合わせた【運動している】は60.7%となっており、「運動・スポーツはしていない」は36.1%となっている。

(ウ) 前回調査と比較すると、特に大きな違いは見られない。

図6-1-1 経年比較／日常的に行っている運動・スポーツの有無と実施状況

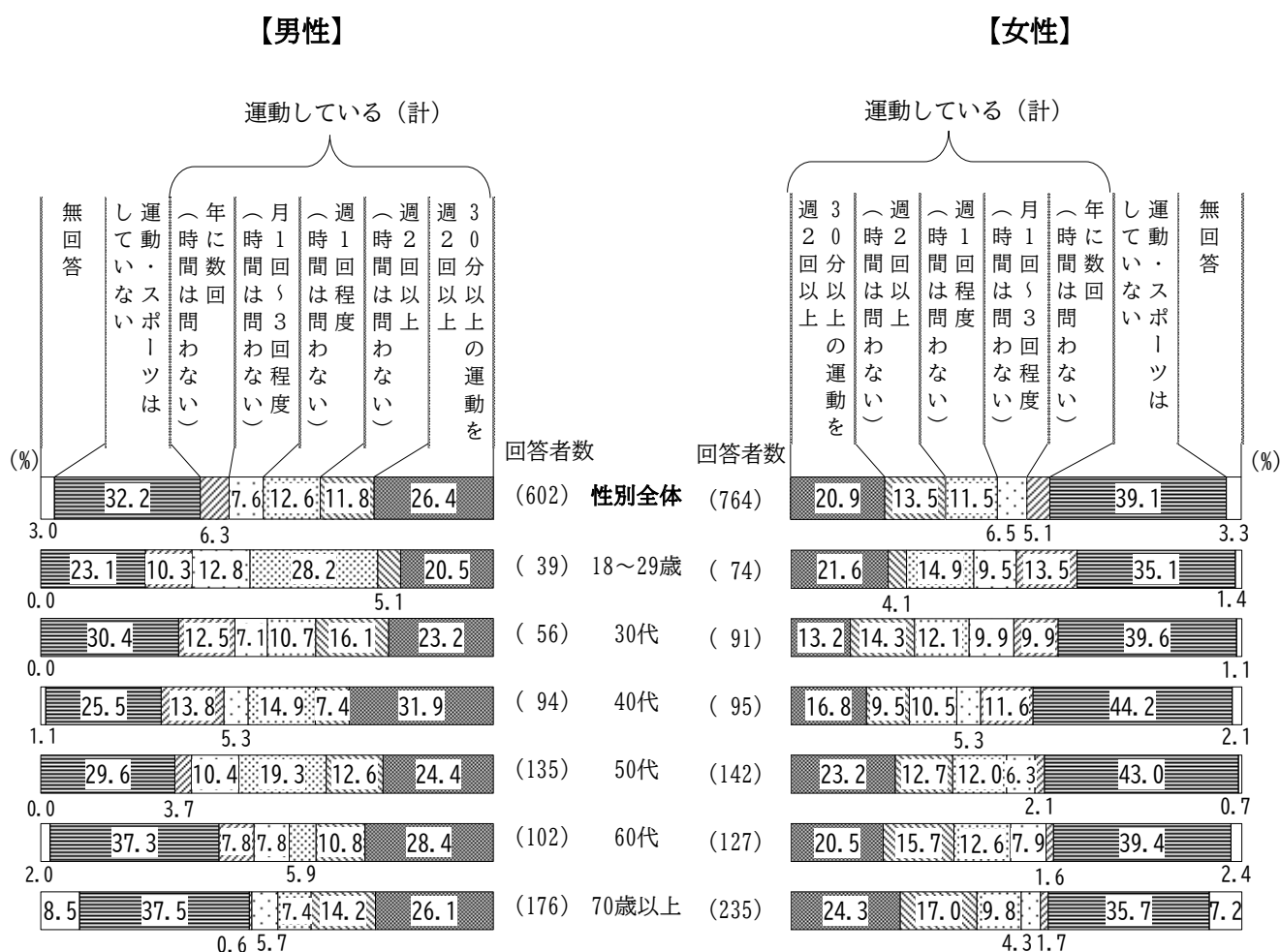


イ クロス集計・性別、性・年代別／日常的に行っている運動・スポーツの有無と実施状況

(ア) 性別でみると、「30分以上の運動を週2回以上」は男性（26.4%）の方が女性（20.9%）より5.5ポイント高く、【運動している】でみても男性（64.8%）の方が女性（57.6%）より7.2ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【運動している】は男性の18～29歳で76.9%と最も高く、次いで、男性の40代が73.4%で続いている。逆に女性の40代（53.7%）と男性の70歳以上（54.0%）が5割台前半と低くなっている。

図6-1-2 性別、性・年代別／日常的に行っている運動・スポーツの有無と実施状況



(2) 継続的に実施している運動・スポーツ

問22で1～5のいずれかをお答えの方に

問22-1 あなたが最近、継続的にやっている運動・スポーツは何ですか

(○はあてはまるものすべて)。

■「ウォーキング」が約5割で突出し、「筋力トレーニング」が2割超で続く

ア 単純集計・経年比較／継続的に実施している運動・スポーツ

(ア) 何らかの運動・スポーツを行っている人にその内容を聞いたところ、上位は以下のとおりとなっている。

- ①「ウォーキング」(49.5%)
- ②「筋力トレーニング」(21.2%)
- ③「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」(20.2%)
- ④「ラジオ体操」(11.3%)

(イ) 前回調査と比較すると、特に大きな違いは見られない。

図6-2-1-① 経年比較／継続的に実施している運動・スポーツ

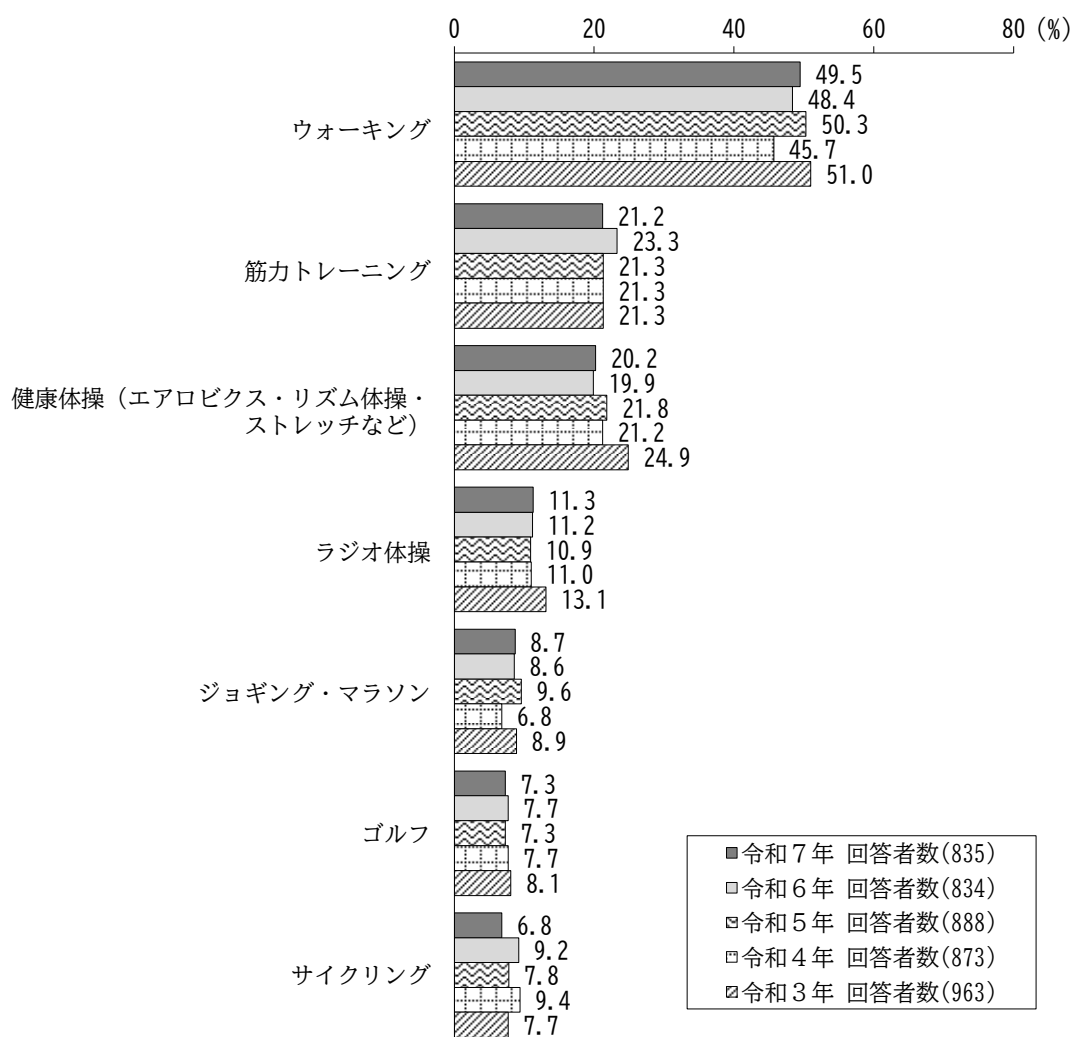


図6-2-1-② 経年比較／継続的に実施している運動・スポーツ

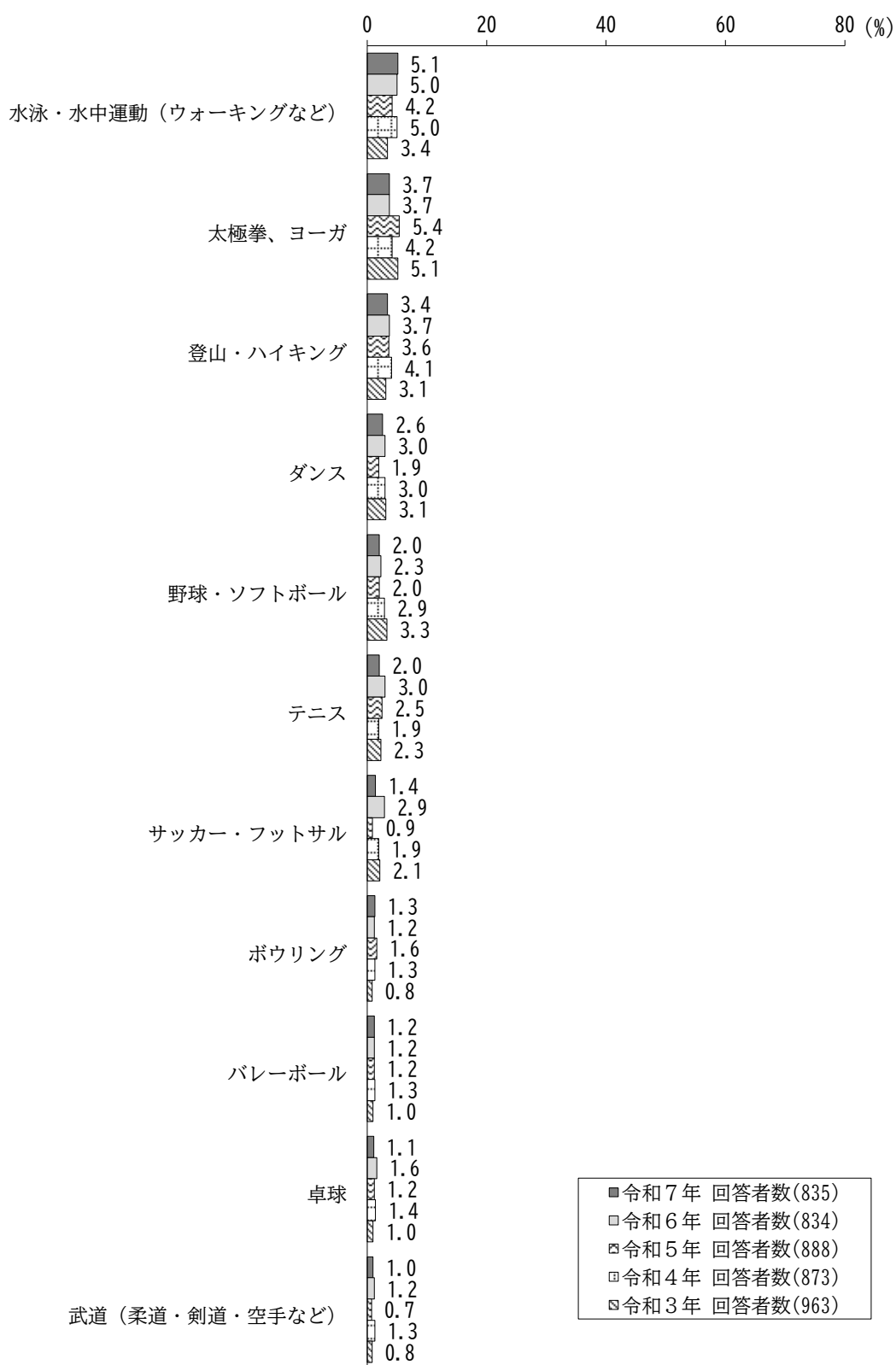
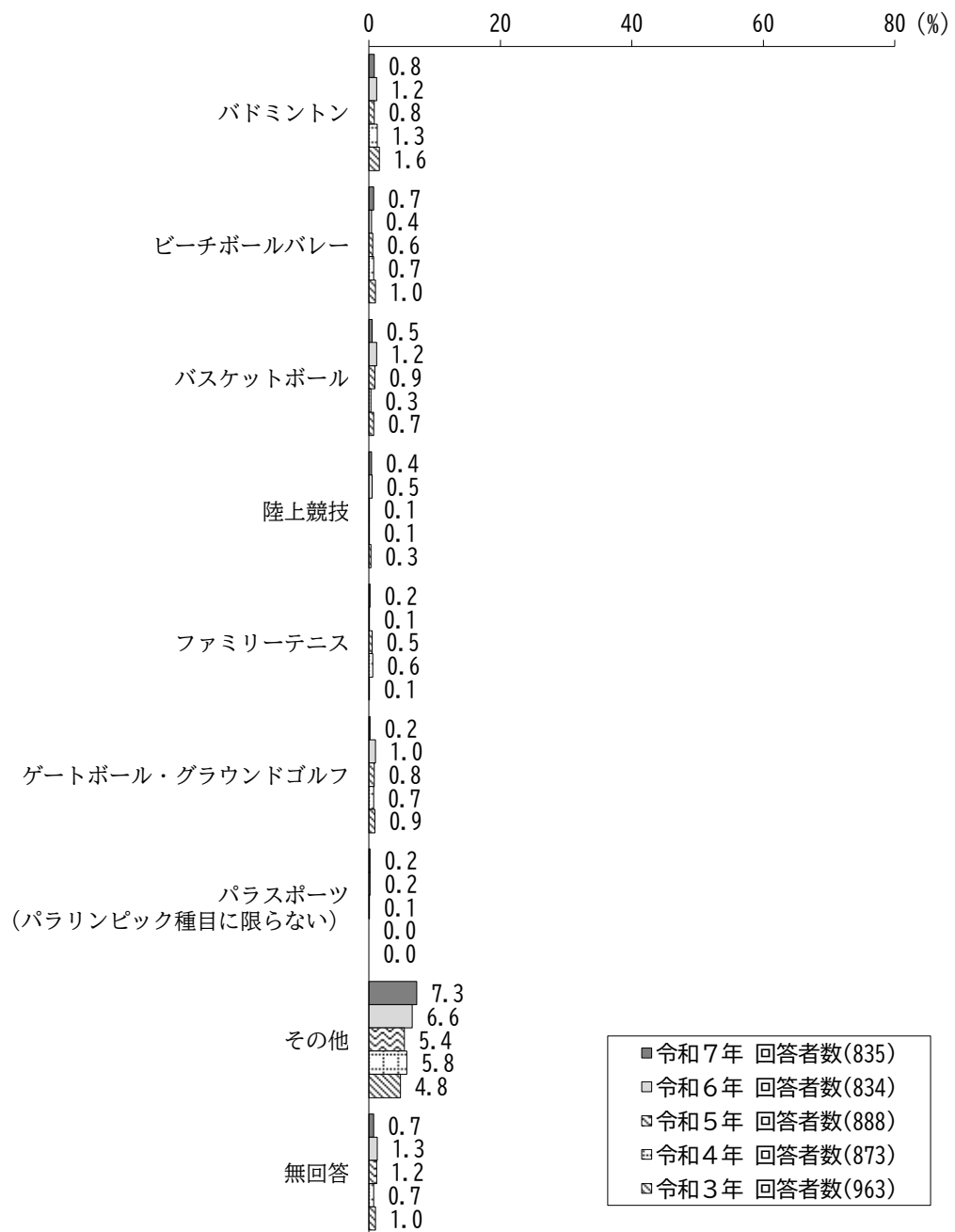


図6-2-1-③ 経年比較／継続的に実施している運動・スポーツ



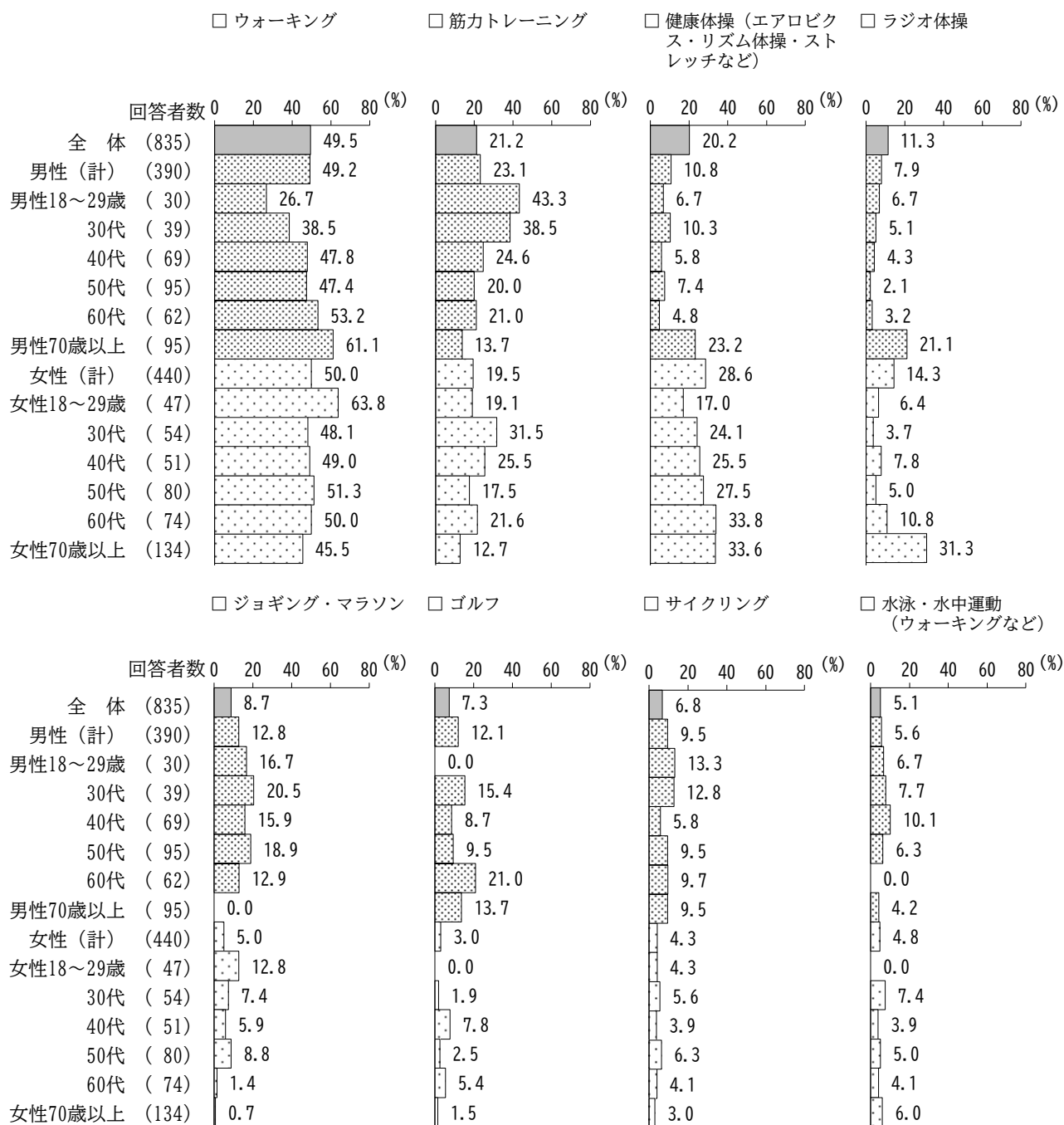
イ クロス集計・性別、性・年代別／継続的に実施している運動・スポーツ（上位8項目）

（ア）性別でみると、上位8項目のうち5項目で男性の方が高く、特に「ゴルフ」（+9.1ポイント）、「ジョギング・マラソン」（+7.8ポイント）、「サイクリング」（+5.2ポイント）で5ポイント以上高くなっている。

（イ）女性の方が男性より5ポイント以上高いのは、「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」（+17.8ポイント）、「ラジオ体操」（+6.4ポイント）となっている。

（ウ）性・年代別でみると、「ウォーキング」は女性の18～29歳と男性の70歳以上で6割台と高く、「筋力トレーニング」は男性の18～29歳で4割台と高くなっている。また、「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」は女性の60代以上で3割台、「ラジオ体操」は女性の70歳以上で3割台と最も高くなっている。

図6-2-2 性別、性・年代別／継続的に実施している運動・スポーツ／上位8項目



(3) 運動・スポーツを最も多く行っている場所

同様に、問22で1～5のいずれかをお答えの方に

問22-2 あなたは、どこで運動・スポーツを行うことが最も多いですか（○は1つだけ）。

■「自宅周辺」が4割台半ば近く、次いで「自宅」が1割台半ば

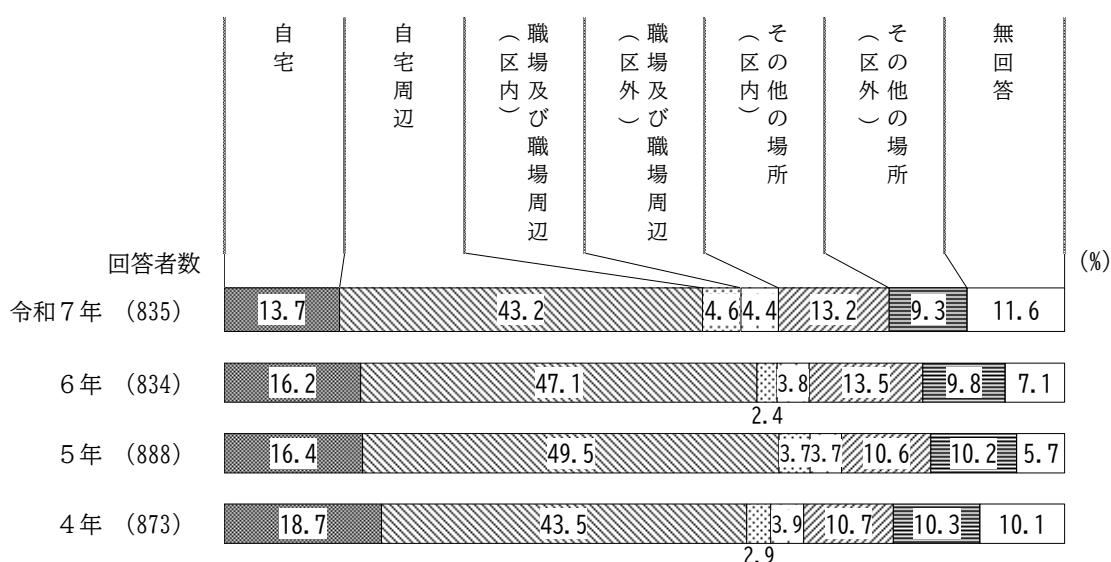
ア 単純集計・経年比較／運動・スポーツを最も多く行っている場所

(ア) 運動・スポーツの実施場所について、上位は以下のとおりとなっている。

- ①「自宅周辺」(43.2%)
- ②「自宅」(13.7%)
- ③「その他の場所（区内）」(13.2%)
- ④「その他の場所（区外）」(9.3%)

(イ) 前回調査と比較すると、「自宅周辺」が3.9ポイント減少している。

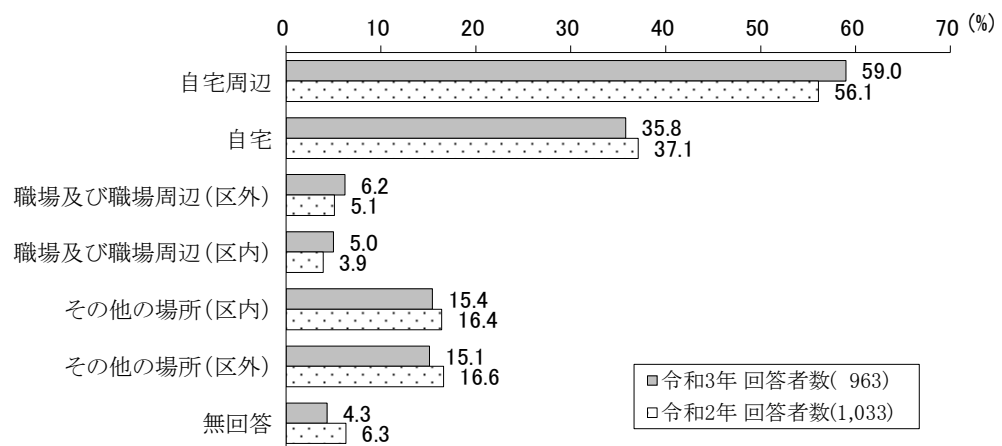
図6-3-1 経年比較／運動・スポーツを最も多く行っている場所



第3章 調査結果の分析〈スポーツ・読書〉

参考／（令和2・3年は複数回答）運動・スポーツを行っている場所

問 あなたは、運動・スポーツをどこで行っていますか（○はあてはまるものすべて）。

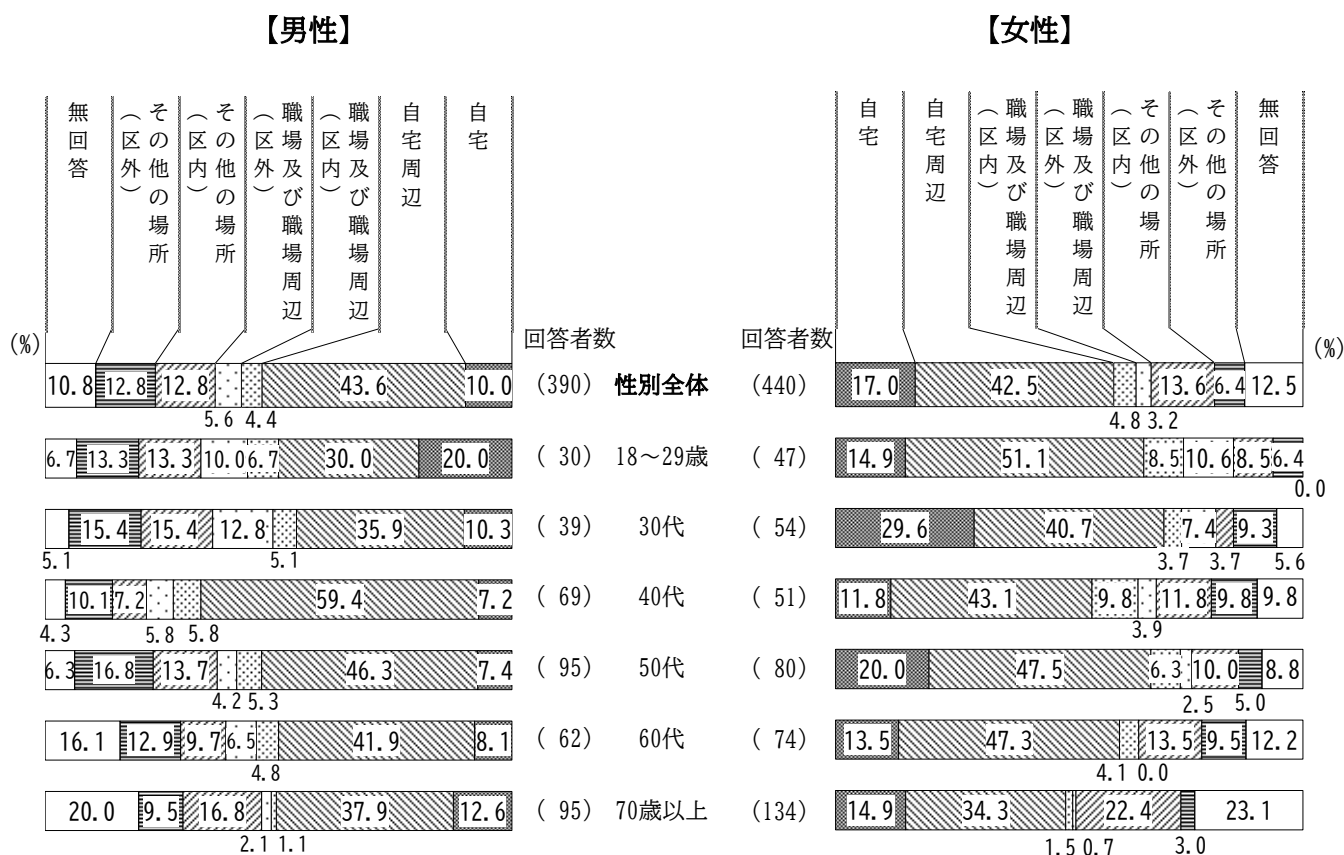


イ クロス集計・性別、性・年代別／運動・スポーツを最も多く行っている場所

(ア) 性別でみると、「自宅」は女性（17.0%）の方が男性（10.0%）より7.0ポイント高く、「その他の場所（区外）」では男性（12.8%）の方が女性（6.4%）より6.4ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、「自宅周辺」は男性の40代が59.4%と最も高く、次いで女性の18～29歳（51.1%）が5割台で続いている。「自宅」は女性の30代が29.6%と最も高く、次いで男性の18～29歳と女性の50代がともに20.0%で続いている。

図6-3-2 性別、性・年代別／運動・スポーツを最も多く行っている場所



(4) 運動・スポーツを行うためのきっかけ

問22で「6 運動・スポーツはしていない」とお答えの方に

問22-3 あなたは、どのようなきっかけがあれば、運動・スポーツを行いたいと思いますか

(○はあてはまるものすべて)。

■「身近な場所で運動・スポーツができる」が3割台半ば、次いで「手頃な価格で施設を利用できる」が約3割

ア 単純集計・経年比較／運動・スポーツを行うためのきっかけ

(ア) 日常的に「運動・スポーツはしていない」と回答した人に、どのようなきっかけがあれば、運動・スポーツを行いたいと思うか聴いた結果、上位は以下のとおりとなっている。

- ①「身近な場所で運動・スポーツができる」(34.6%)
- ②「手頃な価格で施設を利用できる」(29.8%)
- ③「レベルを気にせず参加できる機会がある」(18.9%)
- ④「一緒に運動・スポーツできる仲間と出会える」(13.5%)

(イ)「どのようなきっかけがあっても運動・スポーツを行う気はない」は13.5%となっている。

(ウ) 前回調査と比較すると、「一緒に運動・スポーツできる仲間と出会える」が4.4ポイント減少している。

図6-4-1-① 経年比較／運動・スポーツを行うためのきっかけ

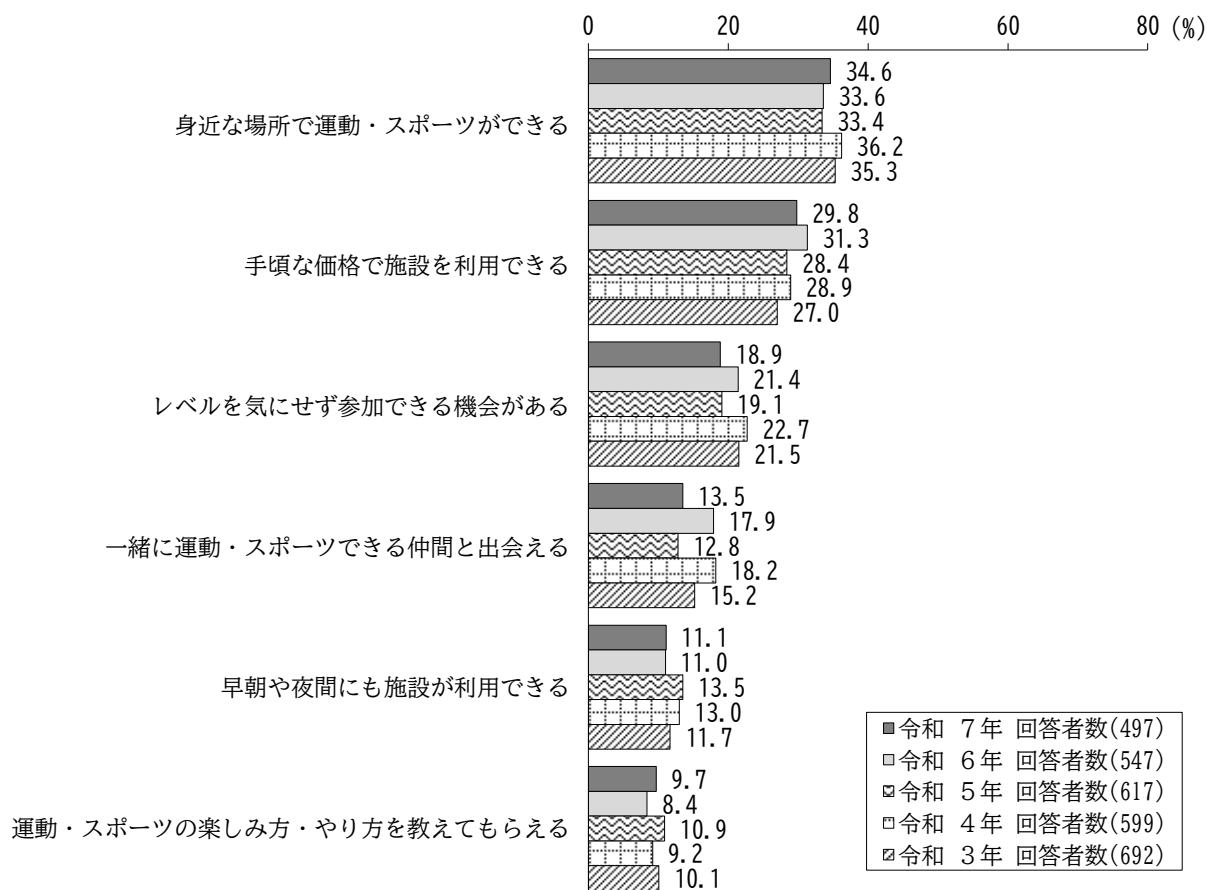
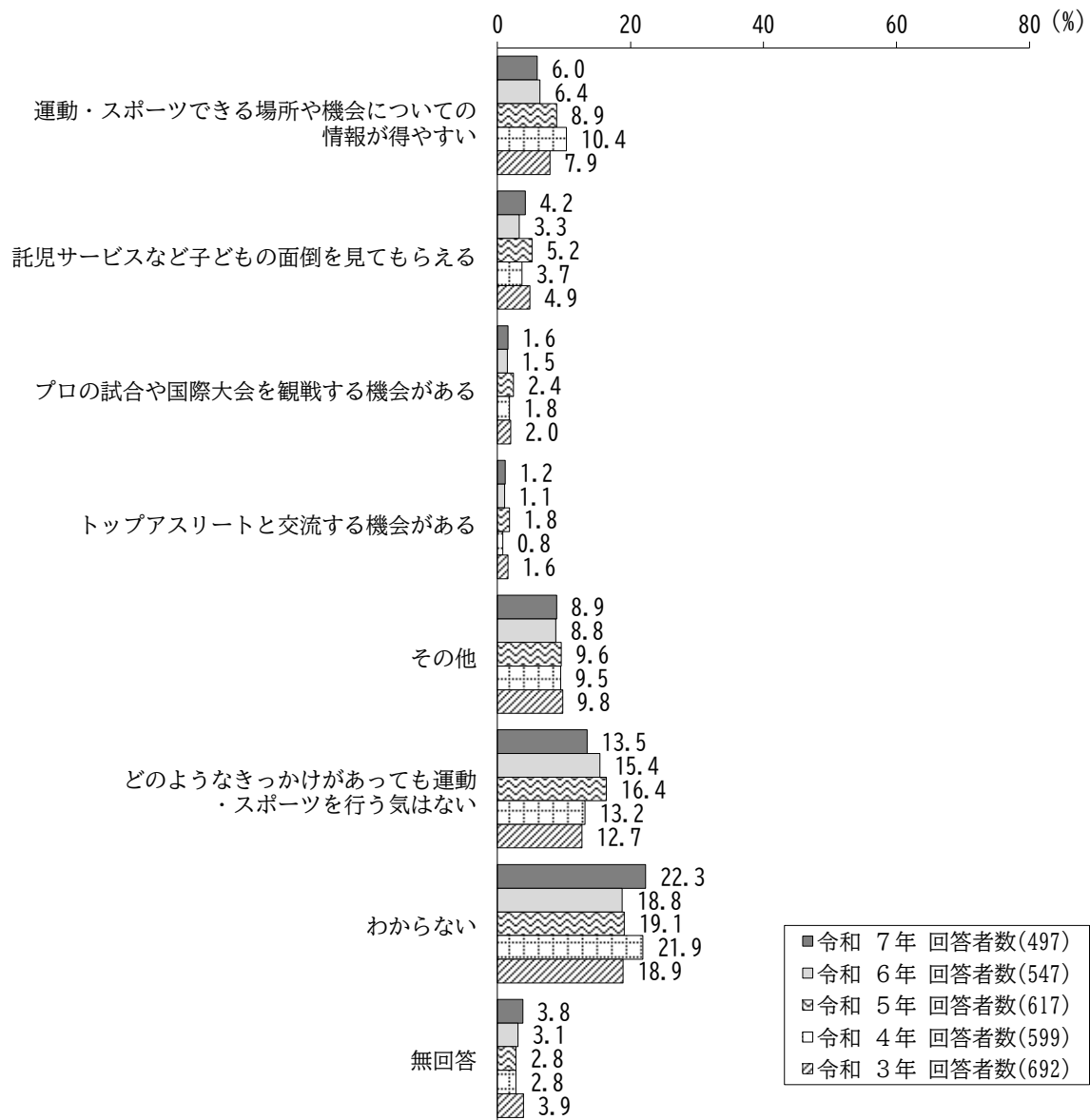


図6-4-1-② 経年比較／運動・スポーツを行うためのきっかけ

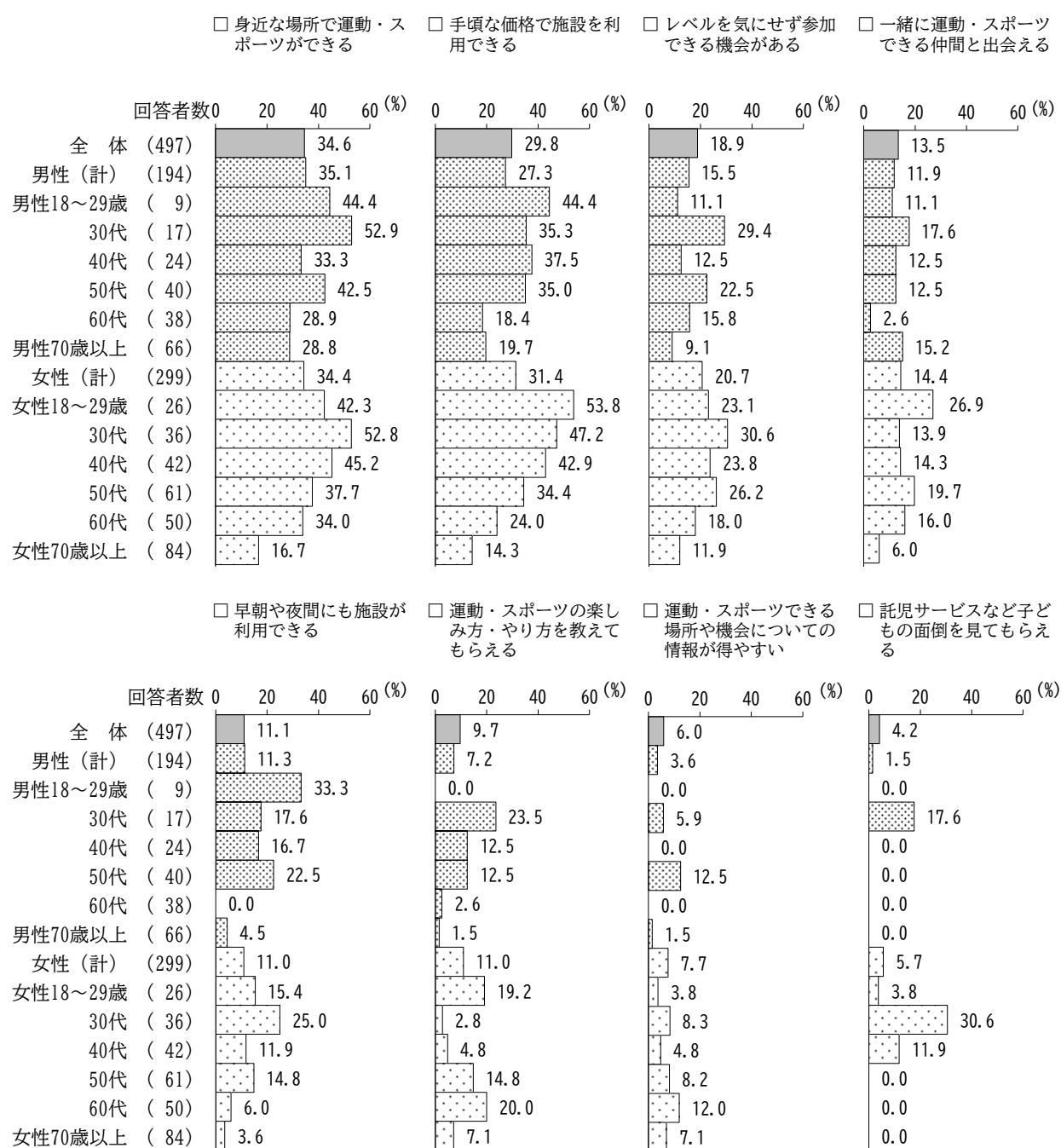


イ クロス集計・性別、性・年代別／運動・スポーツを行うためのきっかけ（上位8項目）

（ア）性別でみると、上位8項目中6項目で女性の方が高く、特に「レベルを気にせず参加できる機会がある」（+5.2ポイント）、「託児サービスなど子どもの面倒を見てもらえる」（+4.2ポイント）、「手頃な価格で施設を利用できる」と「運動・スポーツできる場所や機会についての情報が得やすい」（各+4.1ポイント）の4項目で男性より4ポイント以上高くなっている。

（イ）性・年代別でみると、「身近な場所で運動・スポーツができる」は男女とも30代（男性52.9%、女性52.8%）で5割台と高く、「手頃な価格で施設を利用できる」は女性の18～29歳（53.8%）で5割台と高くなっている。また、「レベルを気にせず参加できる機会がある」は男女とも30代（男性29.4%、女性30.6%）で3割前後と他の性・年齢層に比べて高くなっている。

図6-4-2 性別、性・年代別／運動・スポーツを行うためのきっかけ／上位8項目



(5) 過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動

問23 次の活動のうち、過去1年間にあなたが関わった運動・スポーツを支える活動はありますか（〇はあてはまるものすべて）。

■「活動しなかった」が74.0%、「活動したかったが、する機会がなかった」が6.8%

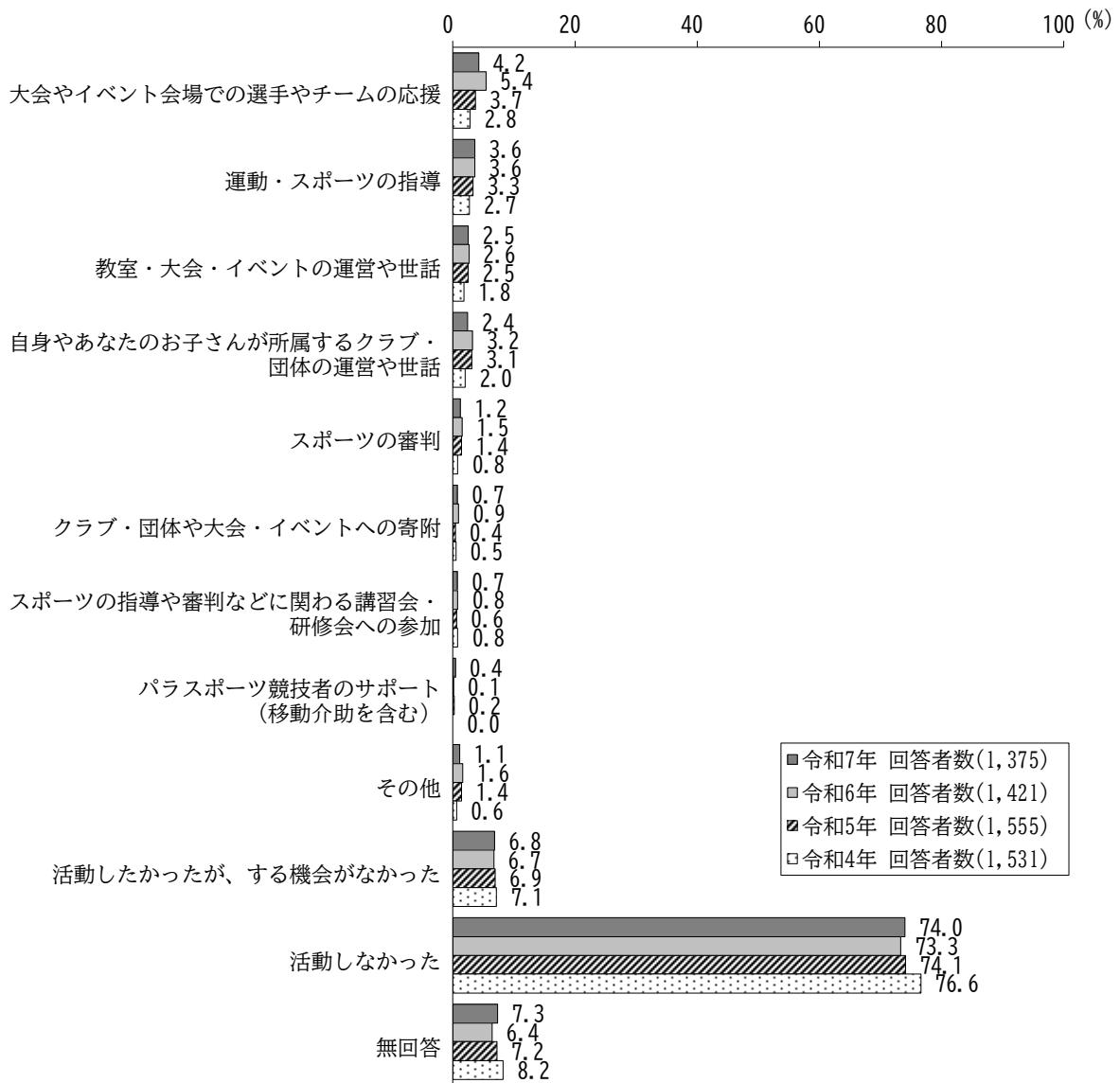
ア 単純集計・経年比較／過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動

（ア）過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動については、「活動しなかった」（74.0%）が7割台半ばとなり、「活動したかったが、する機会がなかった」が6.8%、【何らかの支える活動をした】は11.9%となっている。

（イ）具体的な活動としては、「大会やイベント会場での選手やチームの応援」（4.2%）、「運動・スポーツの指導」（3.6%）、「教室・大会・イベントの運営や世話」（2.5%）などであった。

（ウ）前回調査と比較すると、特に大きな違いは見られない。

図6-5-1 経年比較／過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動



※【何らかの支える活動をした】＝100%－「活動したかったが、する機会がなかった」－「活動しなかった」－「無回答」

(6) 運動・スポーツを支える活動をしなかった理由

問23で「10 活動したかったが～」または「11 活動しなかった」とお答えの方に

問23-1 あなたが運動・スポーツを支える活動をしなかった理由は何ですか

(○はあてはまるものすべて)。

■「仲間や一緒に参加する人がいないから」が18.9%、「年をとったから」が17.6%

ア 単純集計・経年比較／運動・スポーツを支える活動をしなかった理由

(ア) 過去1年間に運動・スポーツを支える活動をしなかった理由の上位としては、以下のとおりとなっている。

- ①「仲間や一緒に参加する人がいないから」(18.9%)
- ②「年をとったから」(17.6%)
- ③「面倒くさいから」(15.9%)
- ④「お金に余裕がないから」(12.9%)

(イ) 活動をしなかったことについて、「特に理由はない」が31.3%となっている。

(ウ) 前回調査と比較すると、上位項目の順位に変化はなく、割合でも特に大きな違いは見られない。

図6-6-1-① 経年比較／運動・スポーツを支える活動をしなかった理由

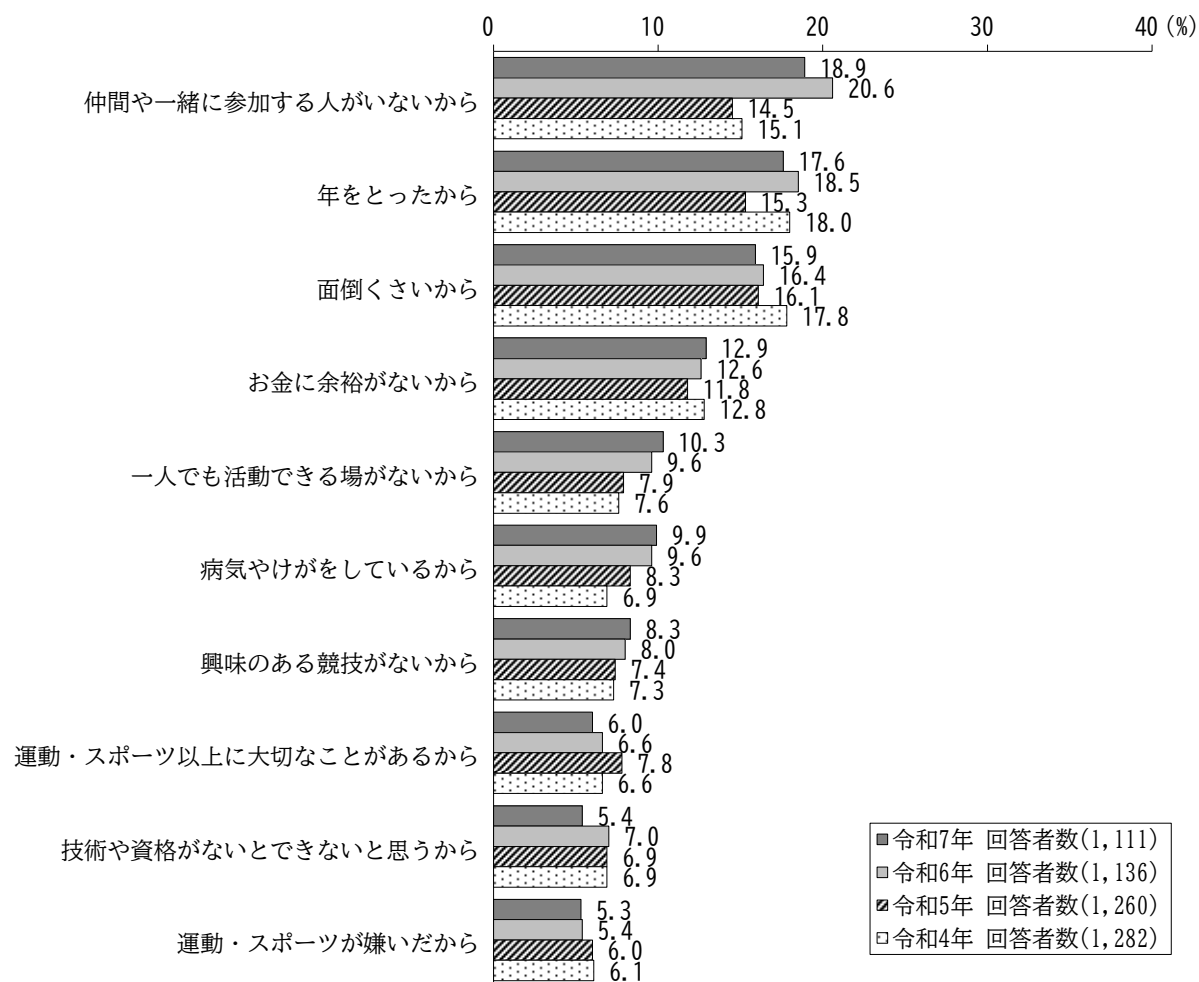
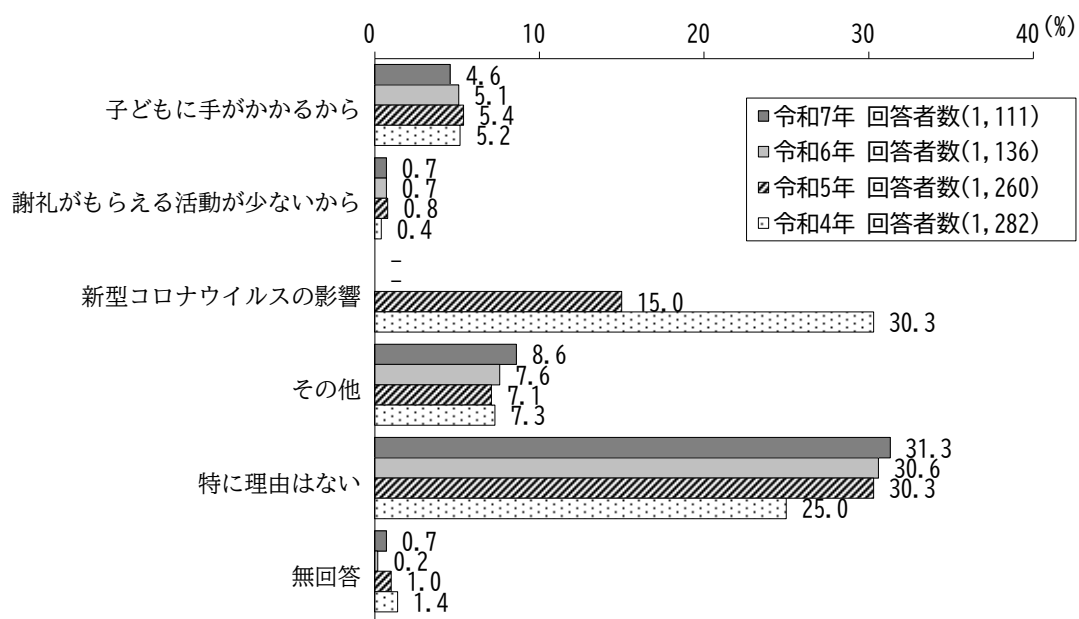


図6-6-1-② 経年比較／運動・スポーツを支える活動をしなかった理由



※「新型コロナウイルスの影響」は前回調査以降除外したが、前々回調査までの割合が大きかったため、参考までに掲載している。

(7) 読書に関わる行動状況

問24 あなたは、最近1か月間において、次のことをしたことはありますか。あなたの行動にあてはまるものを選んでください（○はあてはまるものすべて）。

※ ここでいう「本」「漫画」「雑誌」には、スマートフォンやパソコンなどで読む電子書籍も含まれます。いずれも最後まで読み切っていないてもかまいません。

※ 「新聞」には、電子版、オンライン上の新聞記事を読むことも含まれます。

※ ただし、学校の課題図書、授業で読んだ本や教科書は含みません。

■ 「本を読む」「新聞を読む」「雑誌を読む」の上位3項目の順位に変化なし

ア 単純集計・経年比較／読書に関わる行動状況

(ア) 最近1か月間の読書に関わる行動で、【読書に関わる行動あり】は81.6%となっている。

(イ) 読書に関わる行動の内容の上位は、以下のとおりとなっている。

- ① 「本を読む」(44.6%)
- ② 「新聞を読む」(39.6%)
- ③ 「雑誌を読む」(32.1%)
- ④ 「書店・古書店に行く」(30.8%)
- ⑤ 「漫画を読む」(29.4%)

(ウ) 読書に関わる行動を「したかったが、できなかった」(1.6%)と「いずれもしなかった」(14.0%)を合わせた【読書に関わる行動なし】は15.6%となっている。

(エ) 前回調査と比較すると、「書店・古書店に行く」が3.4ポイント増加し、「新聞を読む」が3.5ポイントの減少となっている。

図6-7-1-① 経年比較／読書に関わる行動状況

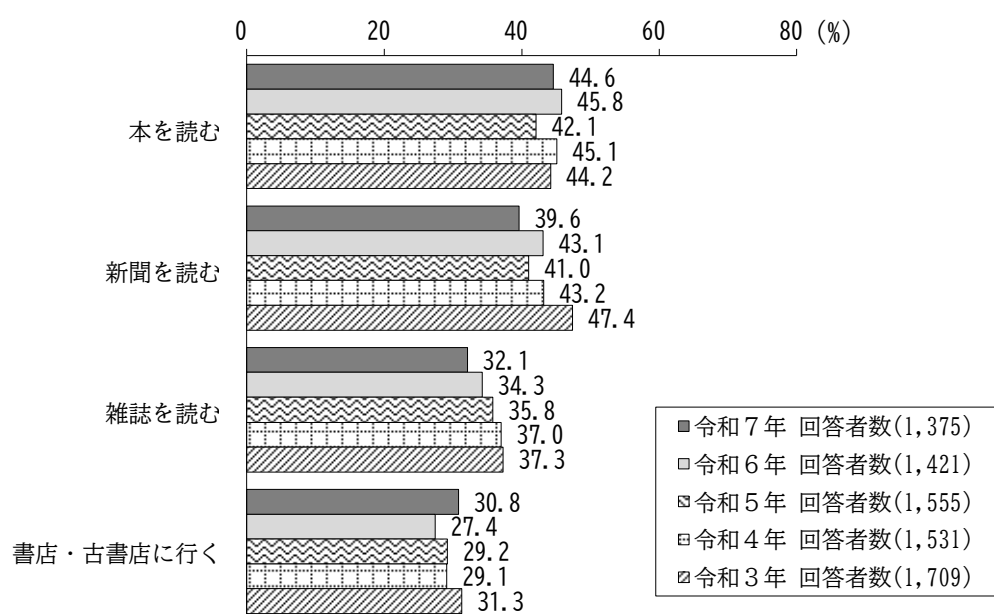


図6-7-1-② 経年比較／読書に関わる行動状況

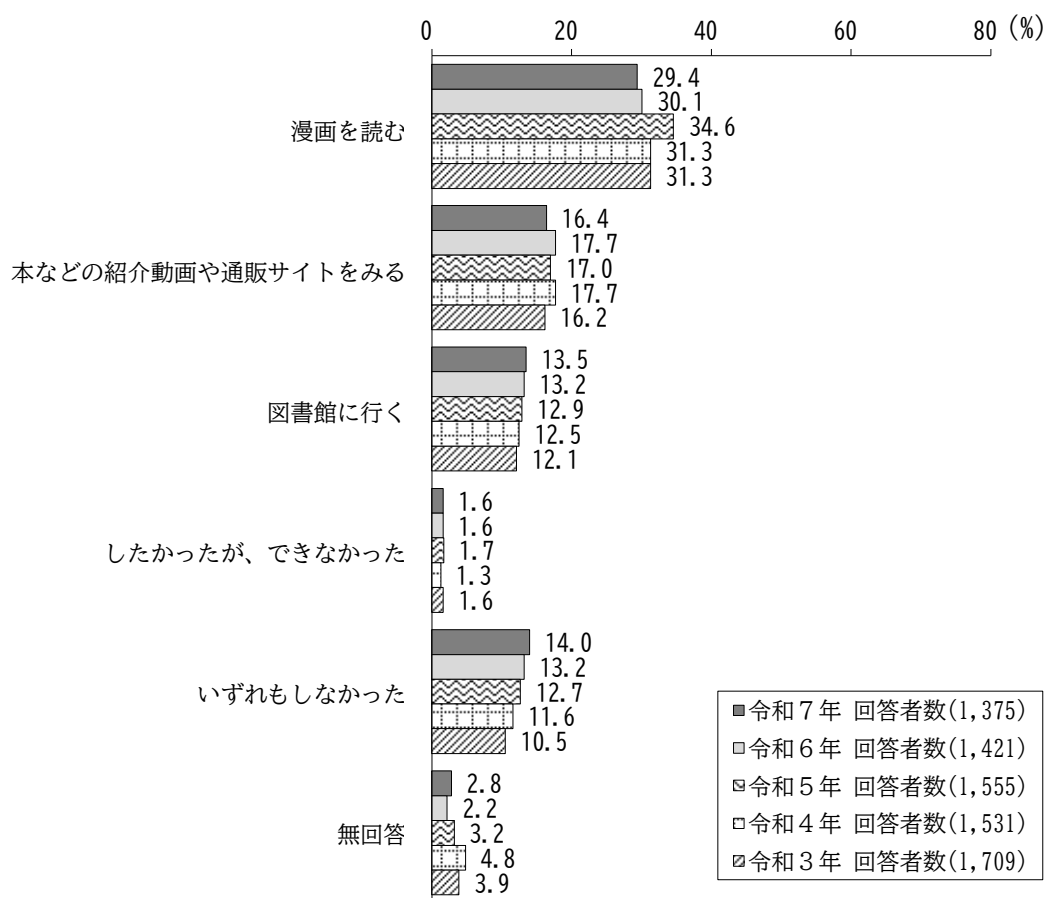
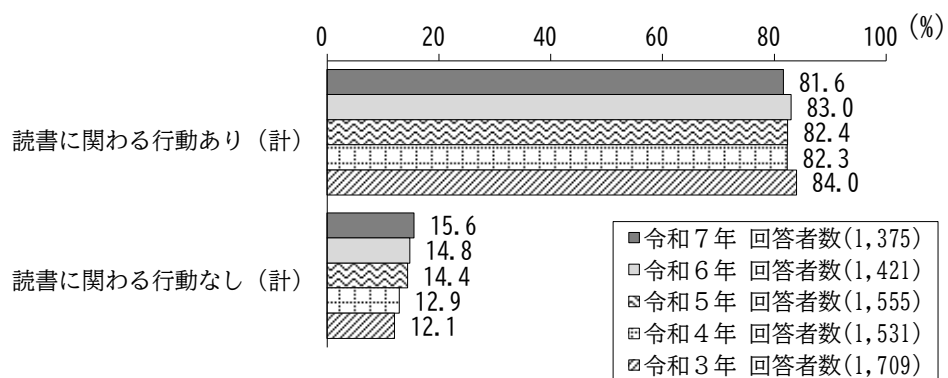


図6-7-1-③ 経年比較／読書に関わる行動状況



※【読書に関わる行動なし】＝「したかったが、できなかった」＋「いずれもしなかった」

※【読書に関わる行動あり】＝100%－【読書に関わる行動なし】－無回答

※「本などの紹介動画や通販サイトをみる」は令和6年度までは「本などの通販サイトをみる」。

イ クロス集計・性別、性・年代別／読書に関わる行動状況（上位6項目＋【行動あり】＋【行動なし】）

（ア）性別でみると【読書に関わる行動あり】は女性（82.4%）の方が男性（80.4%）より2.0ポイント高くなっている。

a 男性の方が女性よりも4ポイント以上高い項目

（a）「新聞を読む」（＋7.6ポイント）

（b）「漫画を読む」（＋7.1ポイント）

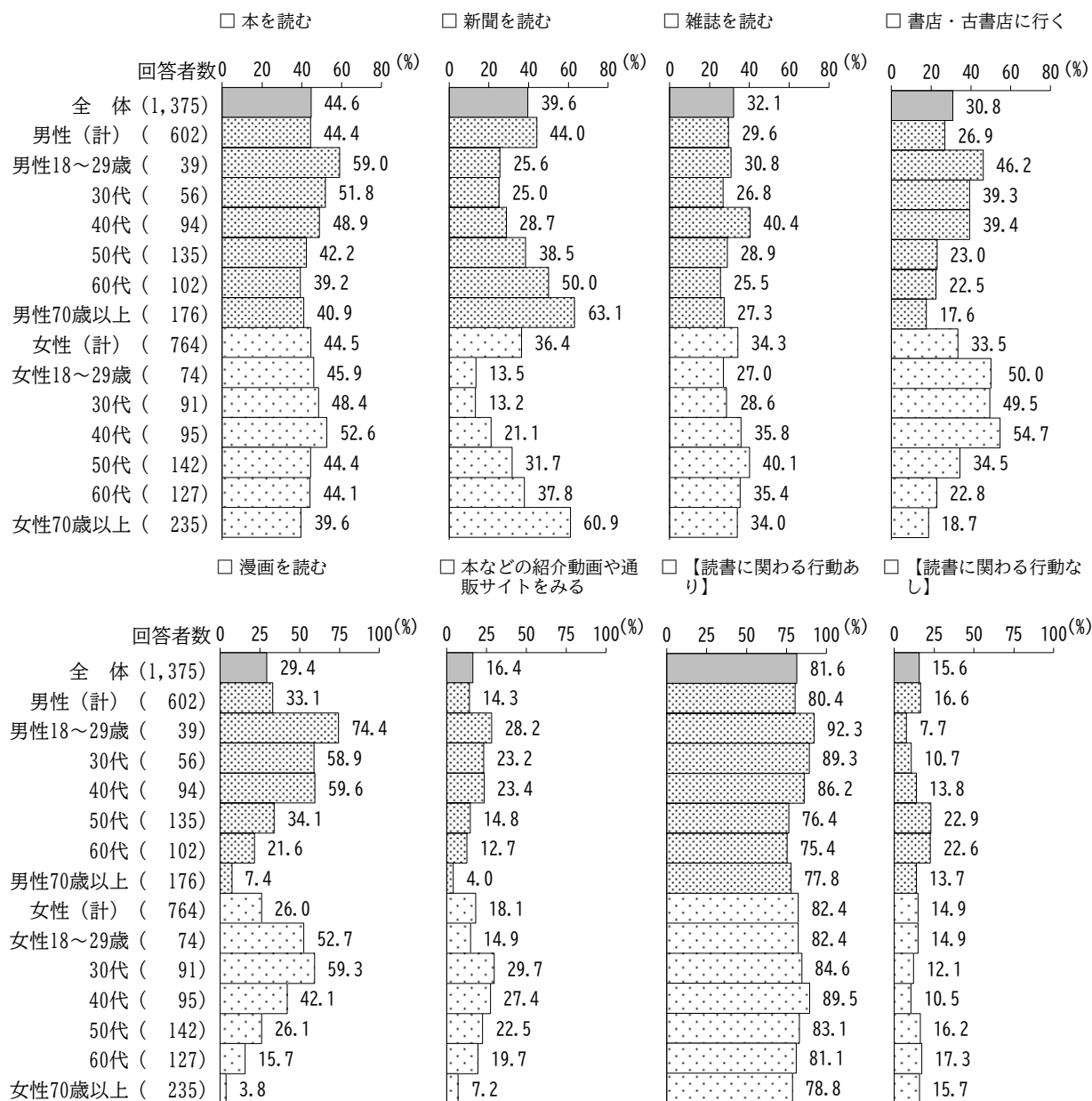
b 女性の方が男性よりも4ポイント以上高い項目

（a）「書店・古書店に行く」（＋6.6ポイント）

（b）「雑誌を読む」（＋4.7ポイント）

（イ）性・年代別にみると、「本を読む」は男性の18～30代と女性の40代で5割台と高く、「新聞を読む」は男女とも年代が上がるほどおおむね割合が高くなり、男女とも70歳以上で6割台と高くなっている。逆に、「漫画を読む」は年代が若いほど割合が高くなっている。

図6-7-2 性別、性・年代別／読書に関わる行動状況／上位6項目＋【行動あり】＋【行動なし】



(8) 読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由

問24で「8 1～7のことをしたかったが、できなかった」または「9 1～7のことはいずれもしなかった」とお答えの方に

問24-1 あなたが「できなかった」または「しなかった」理由はなんですか

(○はあてはまるものすべて)。

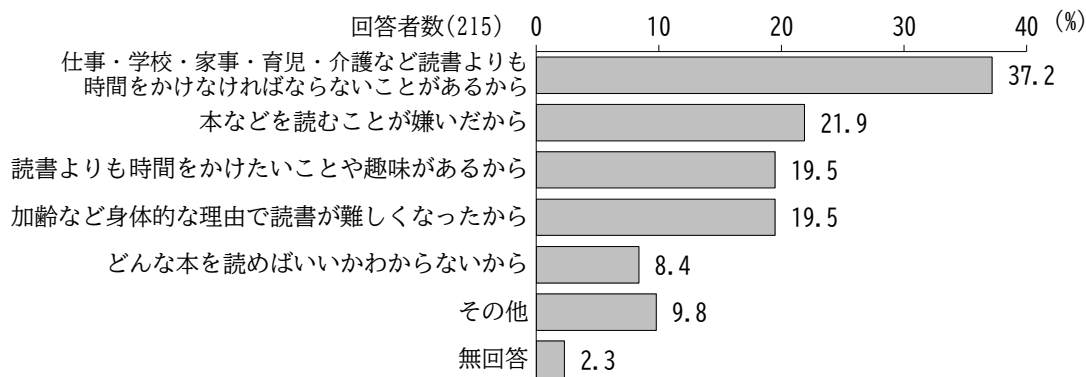
■「仕事・学校・家事・育児・介護など読書よりも時間をかけなければならないことがあるから」が37.2%

ア 単純集計／読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由

(ア) 最近1か月間に読書に関わる行動が「できなかった」または「しなかった」理由の上位は、以下のとおりとなっている。

- ①「仕事・学校・家事・育児・介護など読書よりも時間をかけなければならないことがあるから」(37.2%)
- ②「本などを読むことが嫌いだから」(21.9%)
- ③「読書よりも時間をかけたいことや趣味があるから」「加齢など身体的な理由で読書が難しくなったから」(各19.5%)

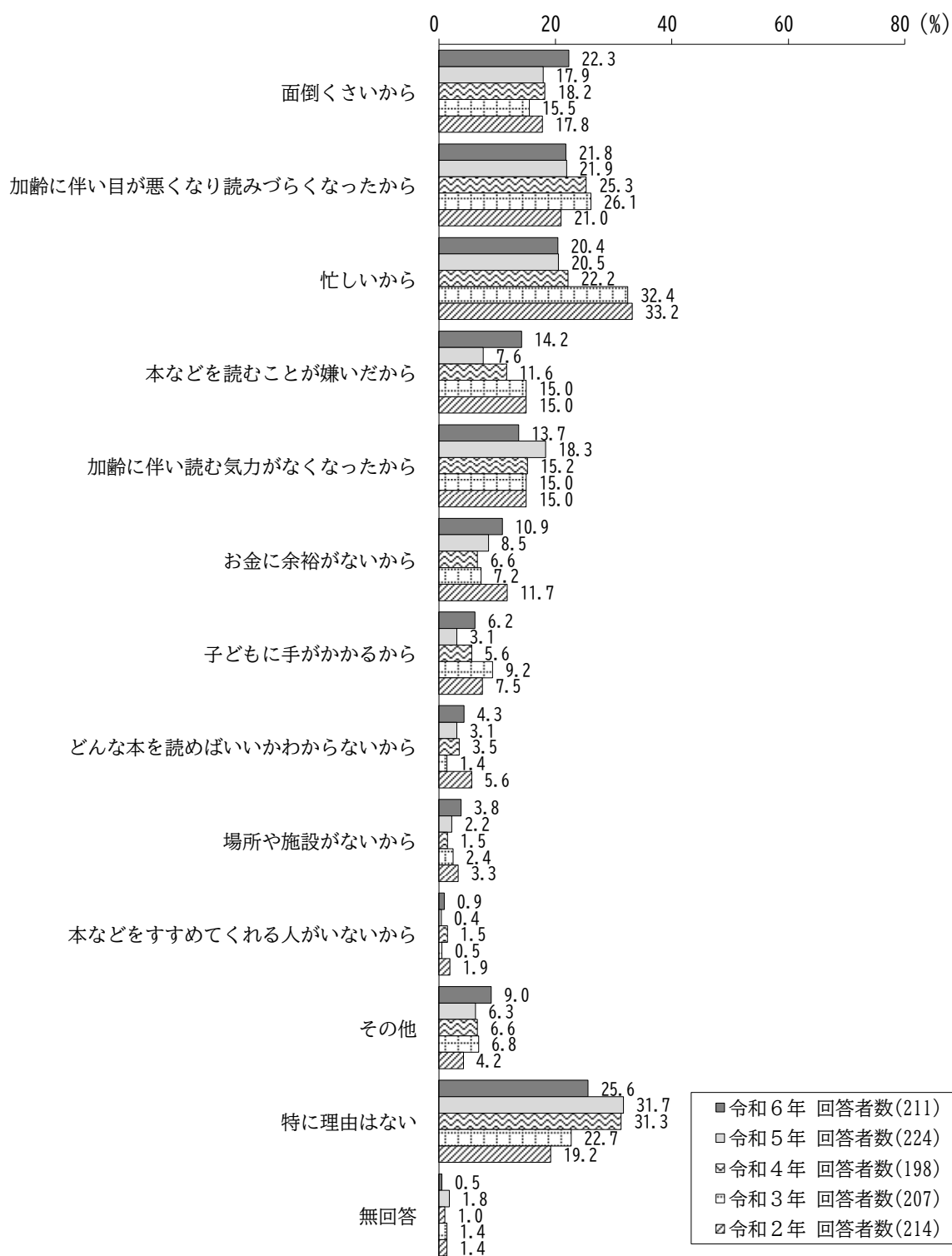
図6-8-1 読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由



参考／読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由（令和6年度までの選択肢）

問 読書に関わる行動が「できなかった」または「しなかった」理由はなんですか。

（○はあてはまるものすべて）



イ クロス集計・性別、性・年代別／読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由

(ア) 性別でみると理由のはっきりしている5項目のうち「どんな本を読めばいいかわからないから」以外の4項目で性差がはっきりしている。

a 男性の方が女性より5ポイント以上高い項目

(a) 「読書よりも時間をかけたいことや趣味があるから」(+8.2ポイント)

(b) 「本などを読むことが嫌いだから」(+7.6ポイント)

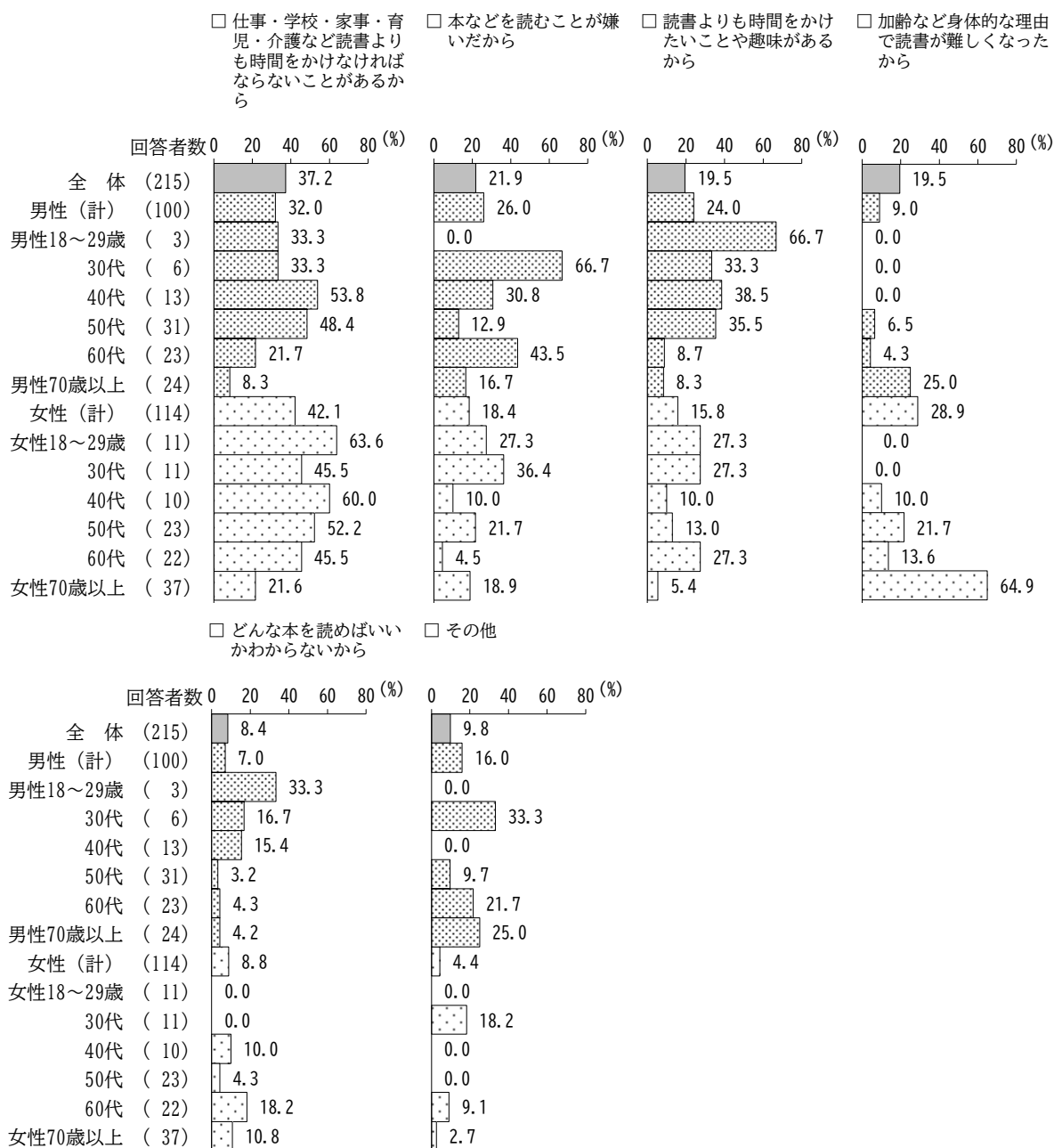
b 女性の方が男性より5ポイント以上高い項目

(a) 「加齢など身体的な理由で読書が難しくなったから」(+19.9ポイント)

(b) 「仕事・学校・家事・育児・介護など読書よりも時間をかけなければならないことがあるから」(+10.1ポイント)

(イ) 性・年代別にみると、多くの項目で目立った違いがあるものの、大半の性・年代層でサンプル数が少ないことから、あくまで参考値としての掲載にとどめ、コメントは割愛する。

図6-8-2 性別、性・年代別／読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由



7 ビューティフル・ウィンドウズ運動

-
- (1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況
 - (2) 居住地域の治安状況
 - (3) 居住地域の治安が良いと感じる点
 - (4) 居住地域の治安が悪いと感じる点
 - (5) 治安対策として区に力を入れてほしいこと
-

(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

問25 あなたは、足立区が取り組んでいる「ビューティフル・ウィンドウズ運動(※)」という取り組みを知っていますか(○は1つだけ)。

※「ビューティフル・ウィンドウズ運動」とは、「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようという足立区独自の運動です。区は、警視庁や区民のみなさんと協働して、まちの美化活動や防犯パトロールなどの取り組みを推進し、犯罪のない住みよいまちの実現をめざしています。

■【知っている】が4割、「知らない(初めて聞いた)」が5割台半ば

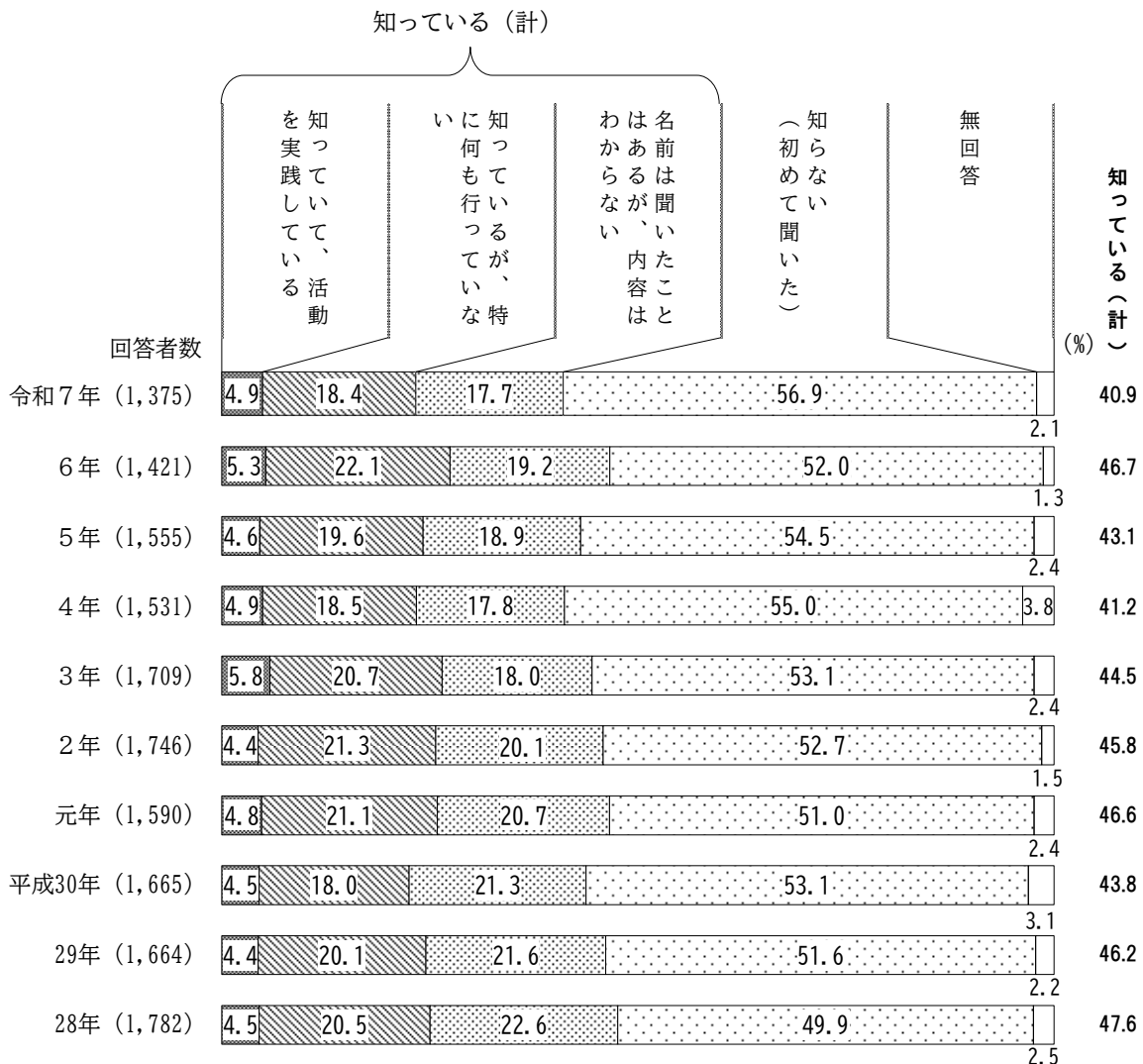
ア 単純集計・経年比較／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

(ア)「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、「知っていて、活動を実践している」は4.9%で、これに「知っているが、特に何も行ってない」(18.4%)と「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」(17.7%)を合わせた【知っている】は40.9%となっている。

(イ)「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、「知らない(初めて聞いた)」は56.9%となっている。

(ウ) 前回調査と比較すると、【知っている】は5.8ポイント減少している。

図7-1-1-① 経年比較／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

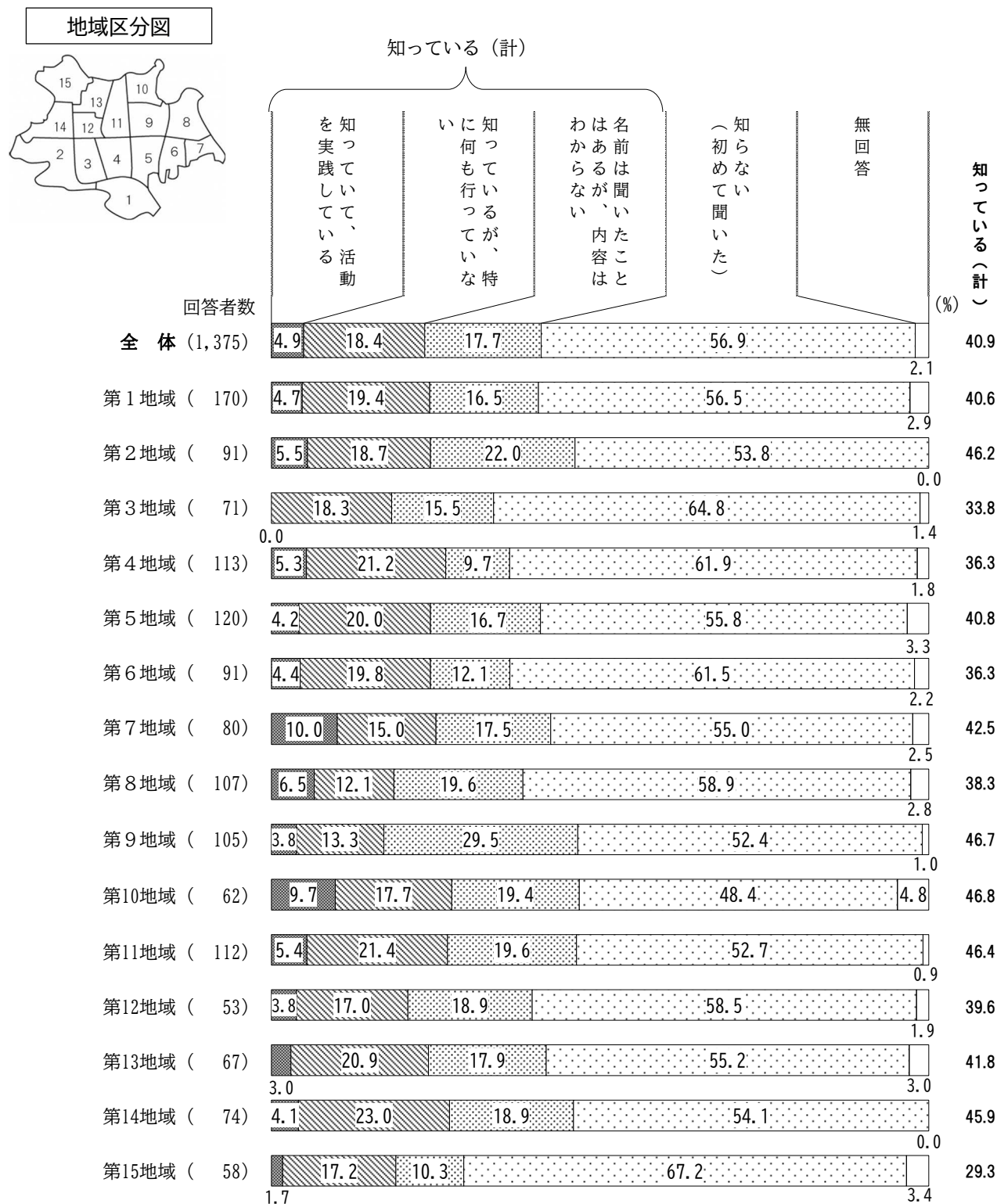


第3章 調査結果の分析〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

イ クロス集計・地域別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

地域別でみると、【知っている】は、第10地域で46.8%と最も高く、僅差で、第9地域(46.7%)、第11地域(46.4%)などとなっている。一方、第15地域で29.3%と最も低くなっている。

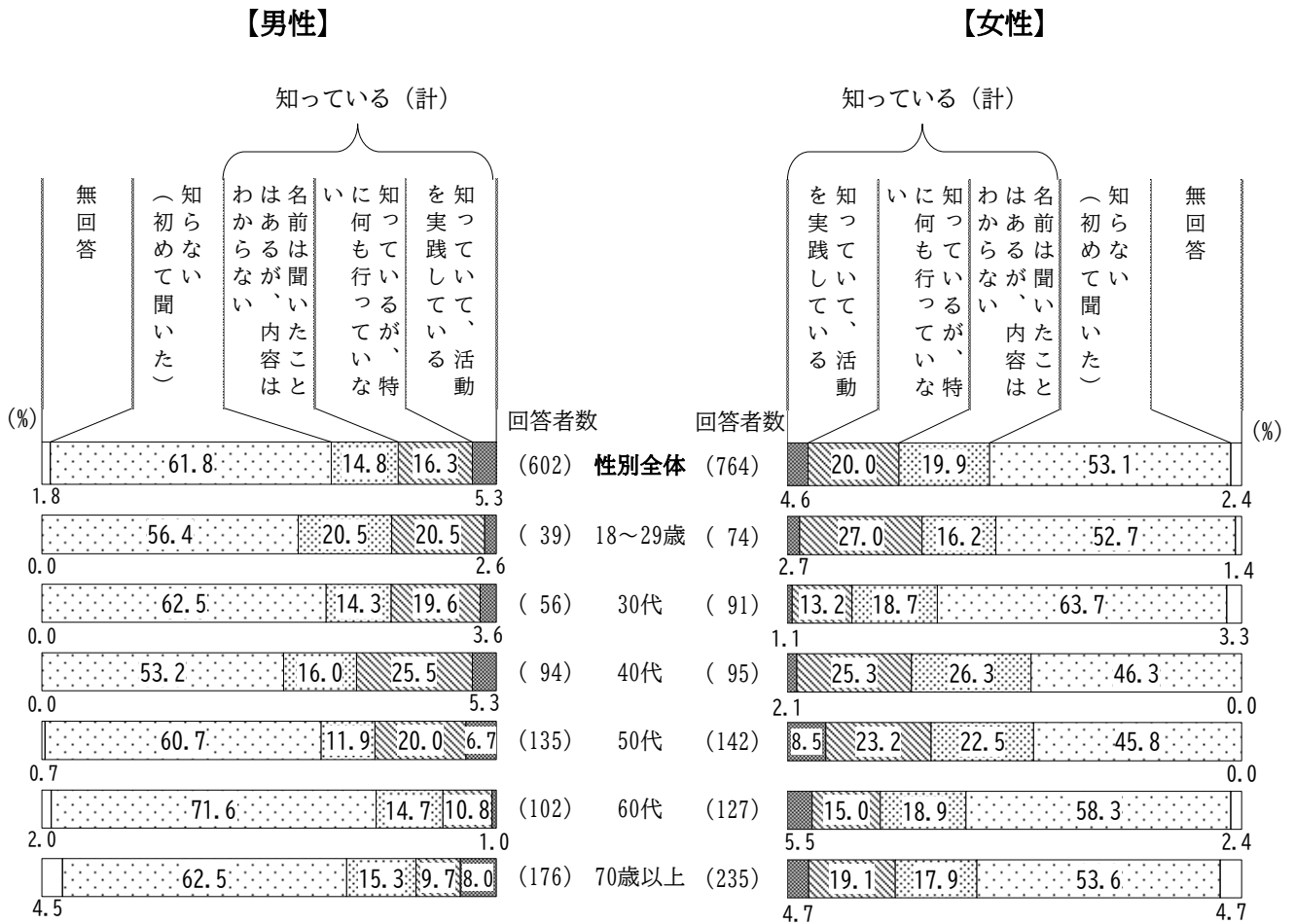
図7-1-2 地域別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況



ウ クロス集計・性別、性・年代別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

- (ア) 性別でみると、【知っている】は女性（44.5%）の方が男性（36.4%）より8.1ポイント高くなっている。
- (イ) 性・年代別でみると、【知っている】は女性の50代で54.2%と最も高く、次いで、女性の40代が53.7%で続いている。逆に、男性の60代が26.5%で最も低くなっている。

図7-1-3 性別、性・年代別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況



(2) 居住地域の治安状況

問26 あなたは、お住まいの地域の治安（※）について、どのように感じていますか

（○は1つだけ）。

※ 犯罪が少なく、世の中の秩序が保たれている状態のことです。

■【良い】は6割台半ばで変わらず

ア 単純集計・経年比較／居住地域の治安状況

（ア）住んでいる地域の治安について、「良い」が11.1%で、これに「どちらかといえば良い」（52.9%）を合わせた【良い】は64.0%となっている。

（イ）住んでいる地域の治安について、「どちらかといえば悪い」（21.1%）と「悪い」（3.1%）を合わせた【悪い】は24.2%となっている。

（ウ）前回調査と比較すると、特に大きな違いは見られない。

図7-2-1-① 経年比較／居住地域の治安状況

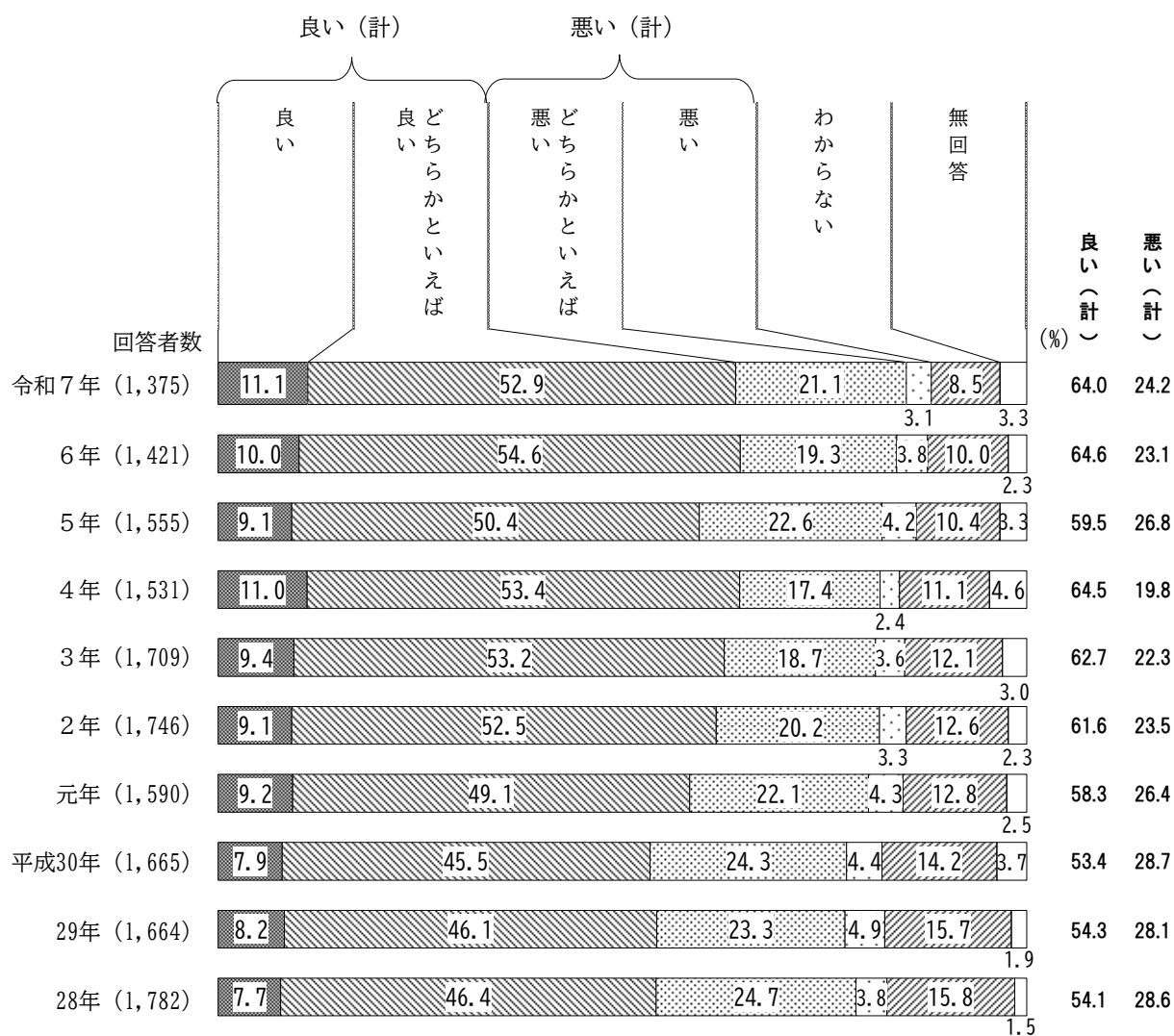
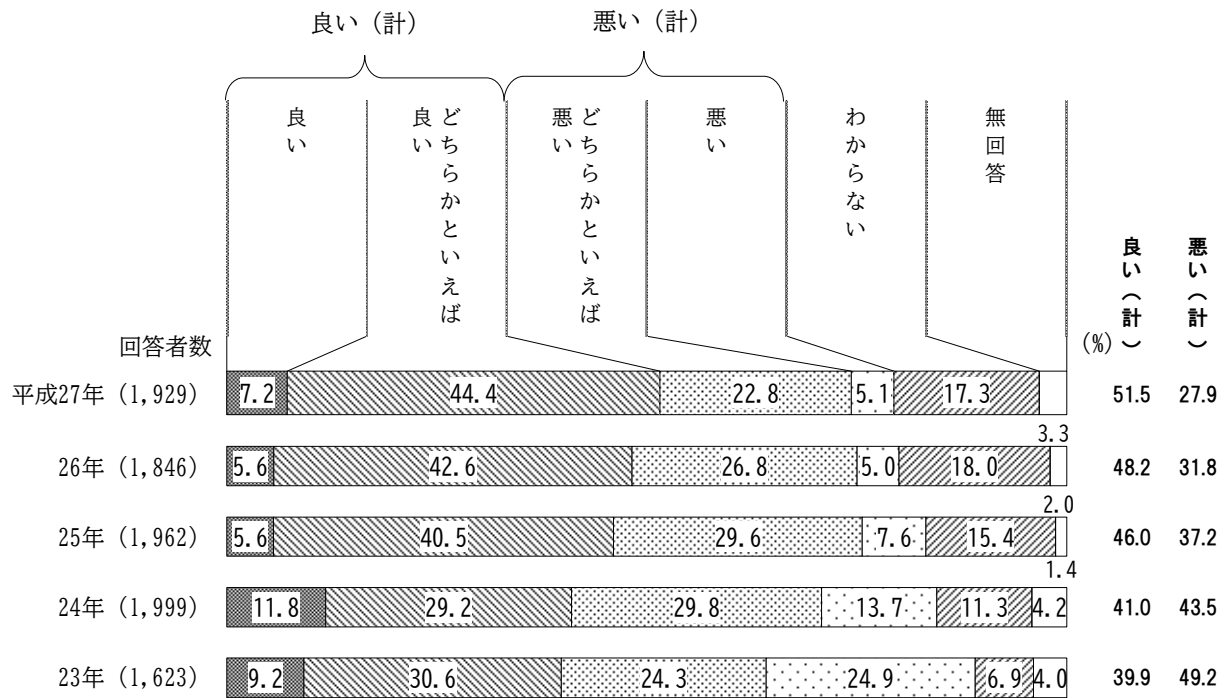


図7-2-1-② 経年比較／居住地域の治安状況



イ クロス集計・地域別／居住地域の治安状況

地域別でみると、【良い】は第12地域で77.4%と最も高く、次いで第15地域（75.9%）が続いている。一方、【悪い】は第10地域で35.5%と最も高く、次いで第13地域（34.3%）となっている。

図7-2-2 地域別／居住地域の治安状況

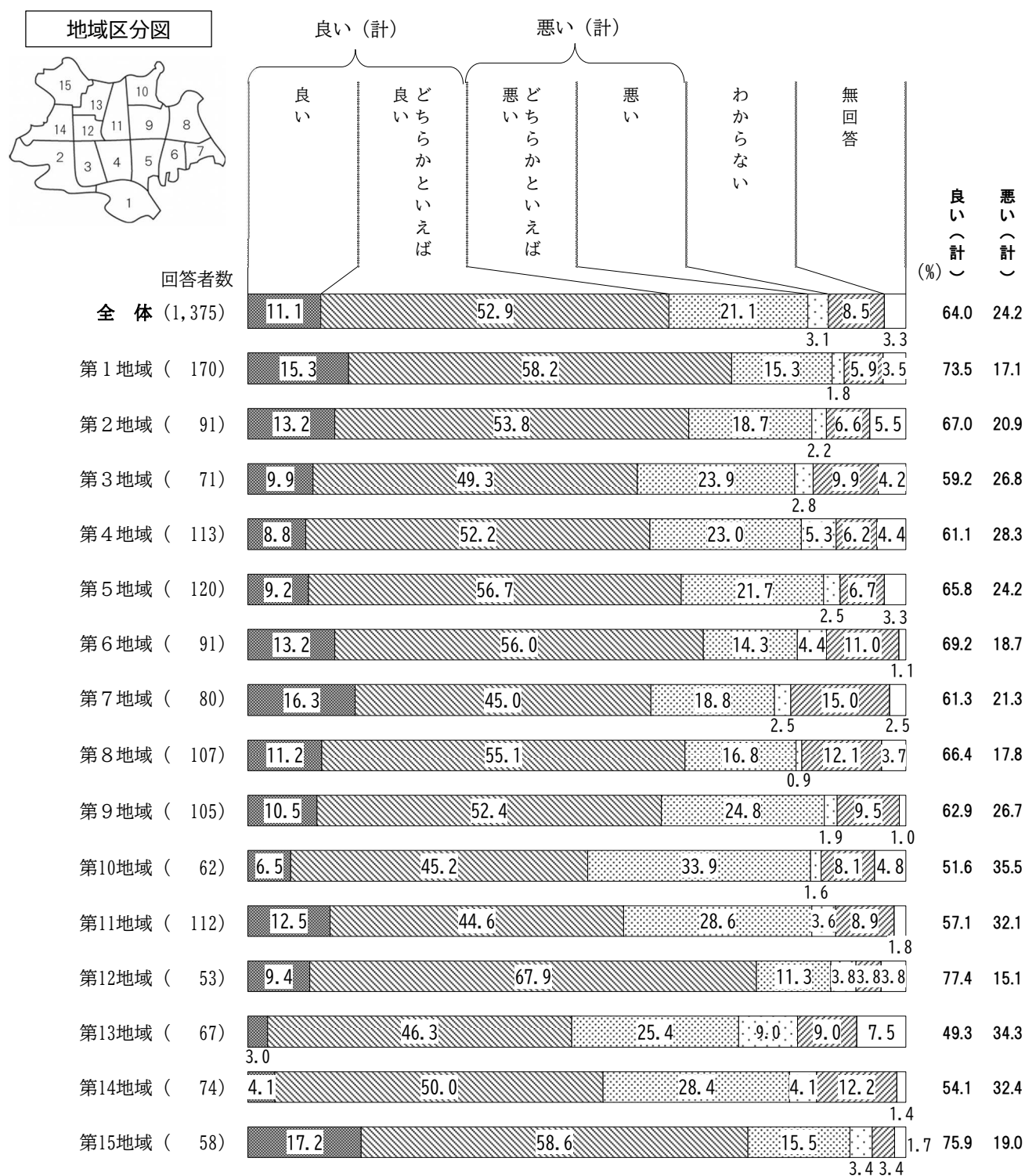
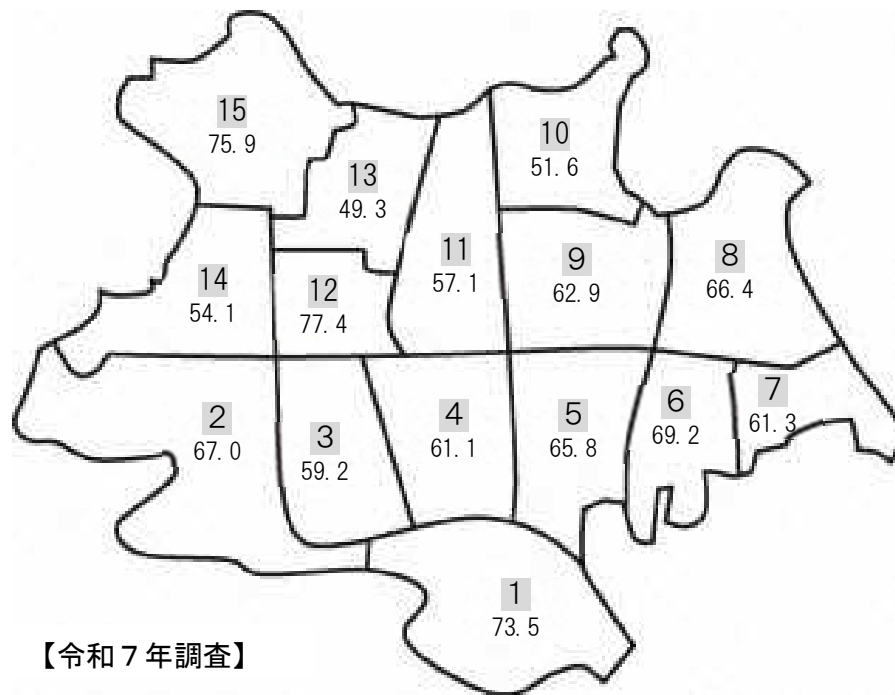
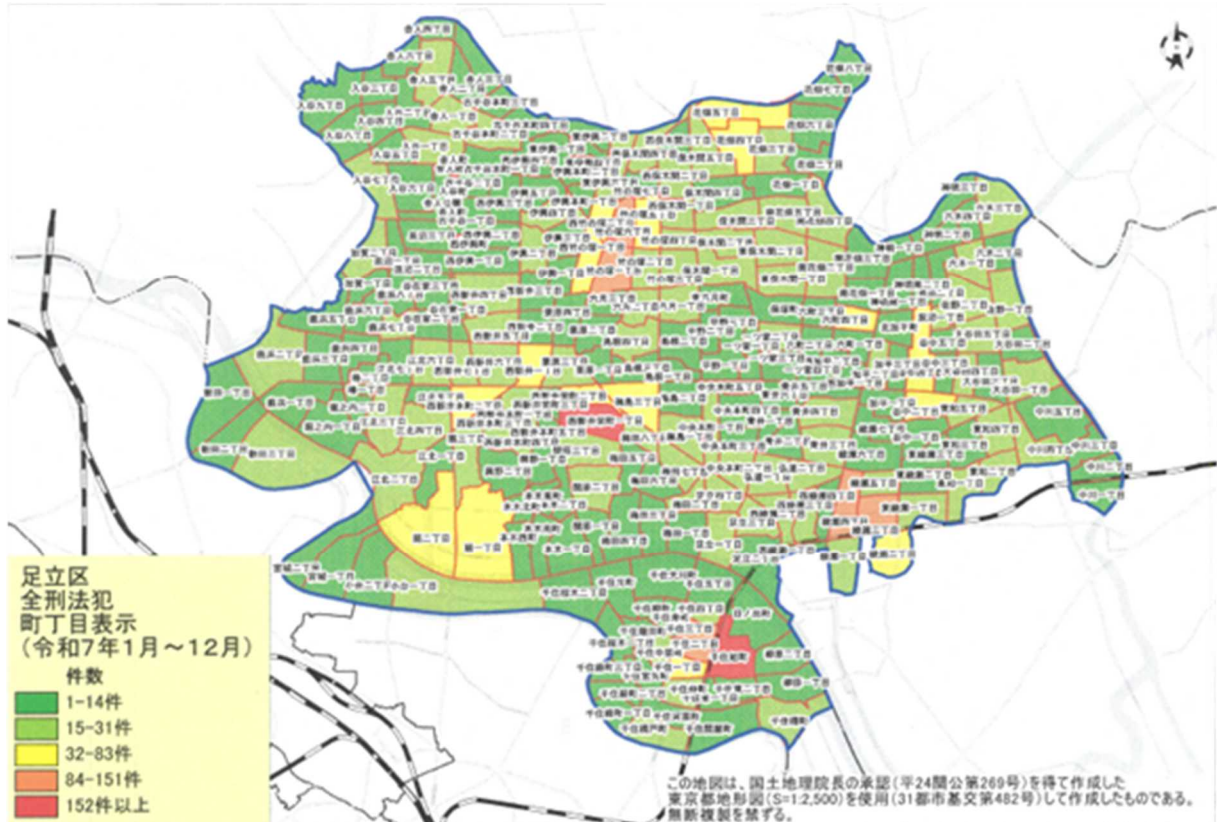


図7-2-3 地域区分図／居住地域の治安状況
(上段：地域番号、下段：治安が【良い】と答えた回答者の割合%)



【参考資料】区内全刑法犯認知件数（令和7年1月～12月）



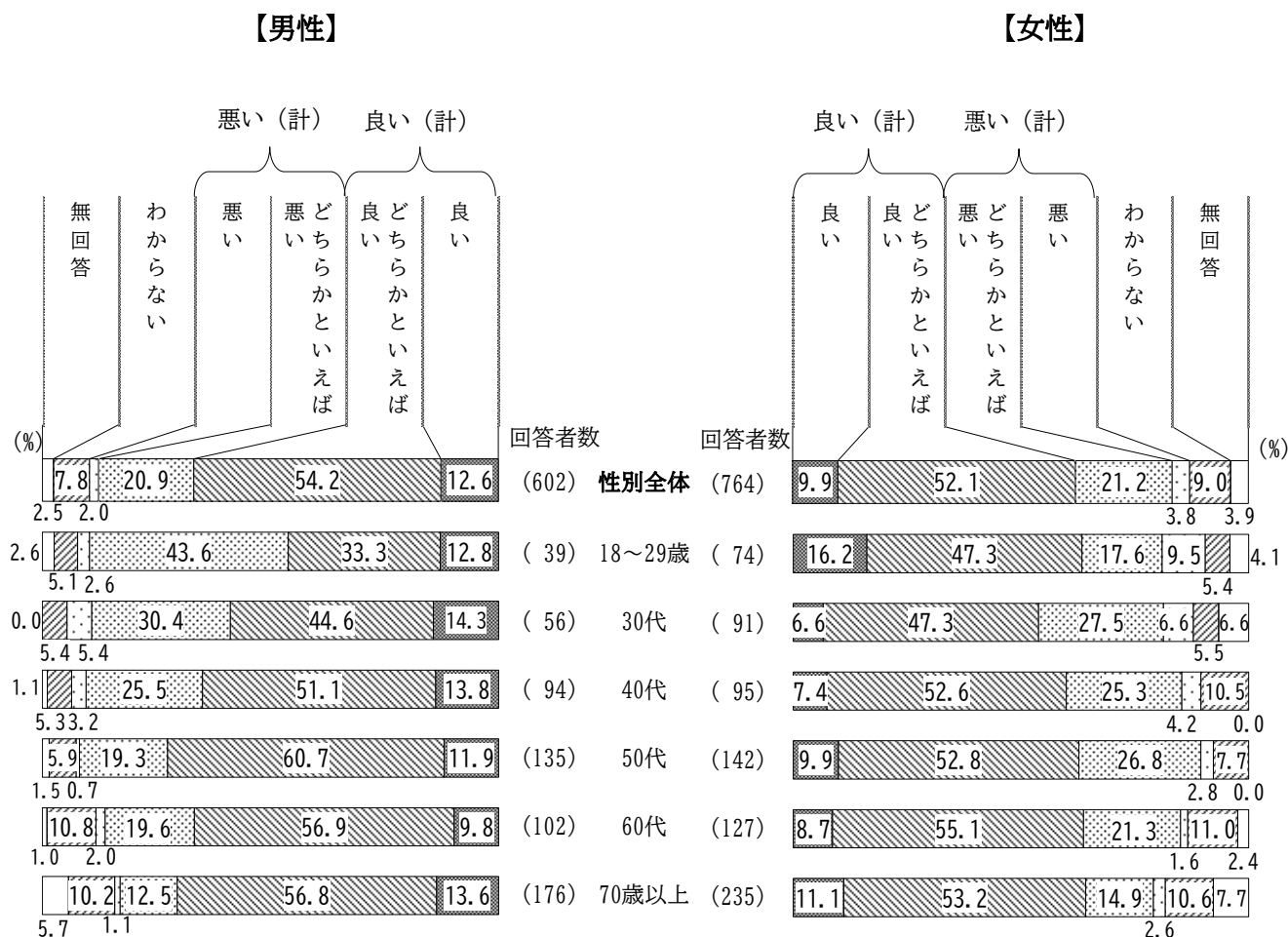
第3章 調査結果の分析〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

ウ クロス集計・性別、性・年代別／居住地域の治安状況

(ア) 性別でみると、【良い】は男性（66.8%）の方が女性（62.0%）より4.8ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【良い】は、男性の50代で72.6%と最も高く、次いで男性の70歳以上（70.5%）が7割となっている。逆に男性の18～29歳で46.2%と最も低くなっている。

図7-2-4 性別、性・年代別／居住地域の治安状況



(3) 居住地域の治安が良いと感じる点

問26で「1 良い」または「2 どちらかといえば良い」とお答えの方に

問26-1 どのような点で治安が良いと感じますか（〇は2つまで）。

■「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が5割台半ば

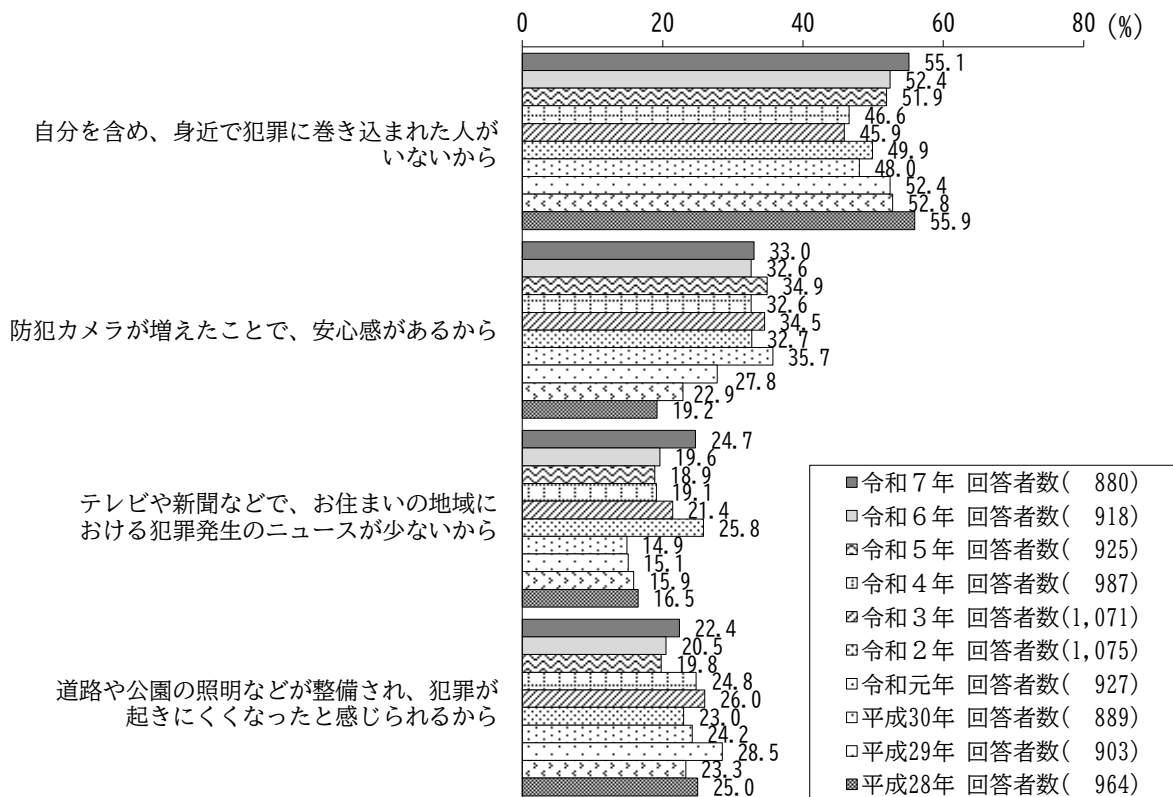
ア 単純集計・経年比較／居住地域の治安が良いと感じる点

(ア) 居住地域の治安を【良い】と評価した人の理由の上位は、以下のとおりとなっている。

- ①「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」（55.1%）
- ②「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」（33.0%）
- ③「テレビや新聞などで、お住まいの地域における犯罪発生ニュースが少ないから」（24.7%）
- ④「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくくなったと感じられるから」（22.4%）

(イ) 前回調査と比較すると、「テレビや新聞などで、お住まいの地域における犯罪発生ニュースが少ないから」が5.1ポイント増加し第5位から第3位となった。

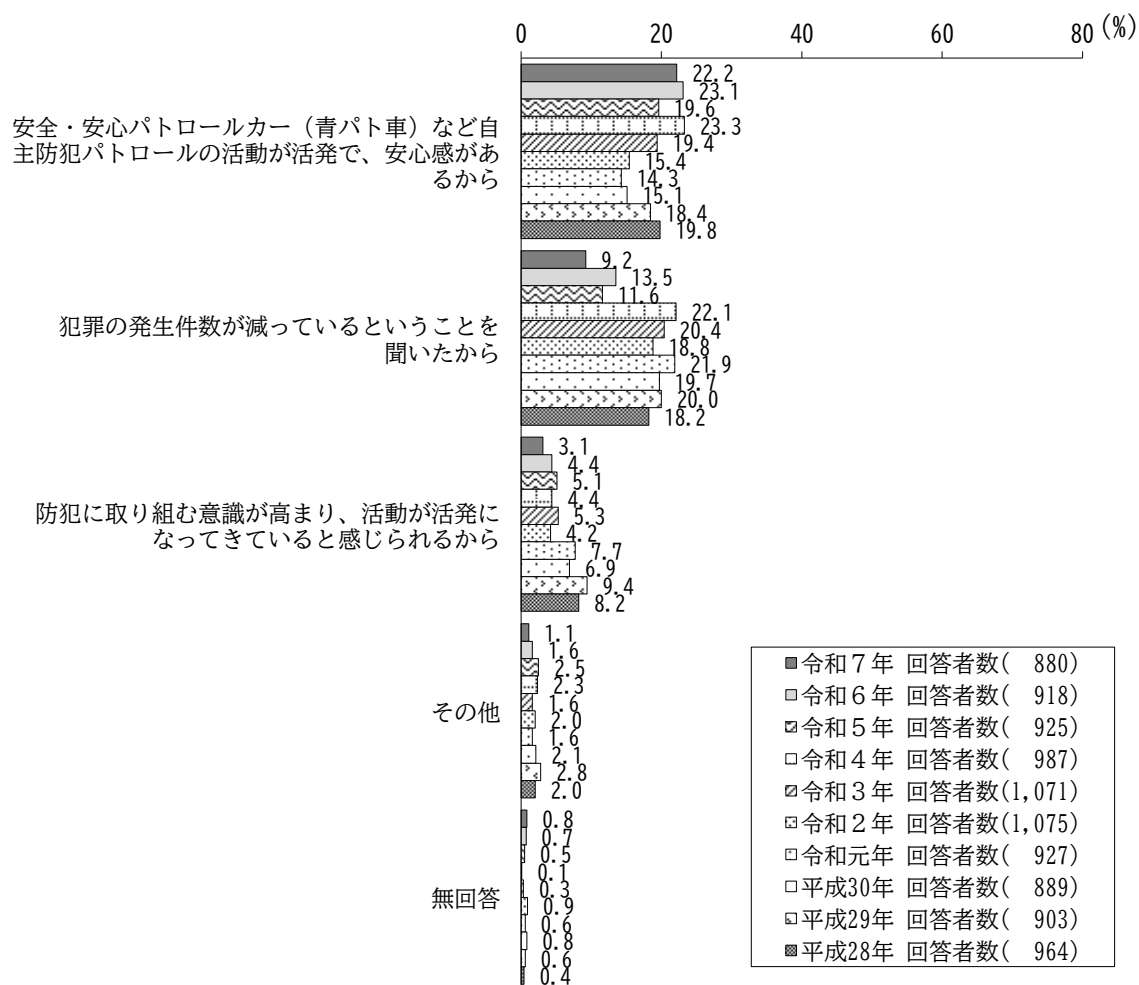
図7-3-1-① 経年比較／居住地域の治安が良いと感じる点



※「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくくなったと感じられるから」は、令和元年度までは「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくいと感じられるから」。

※「防犯に取り組む意識が高まり、活動が活発になってきていると感じられるから」は、令和元年度までは「防犯に取り組む意識、活動が活性化してきていると感じられるから」。

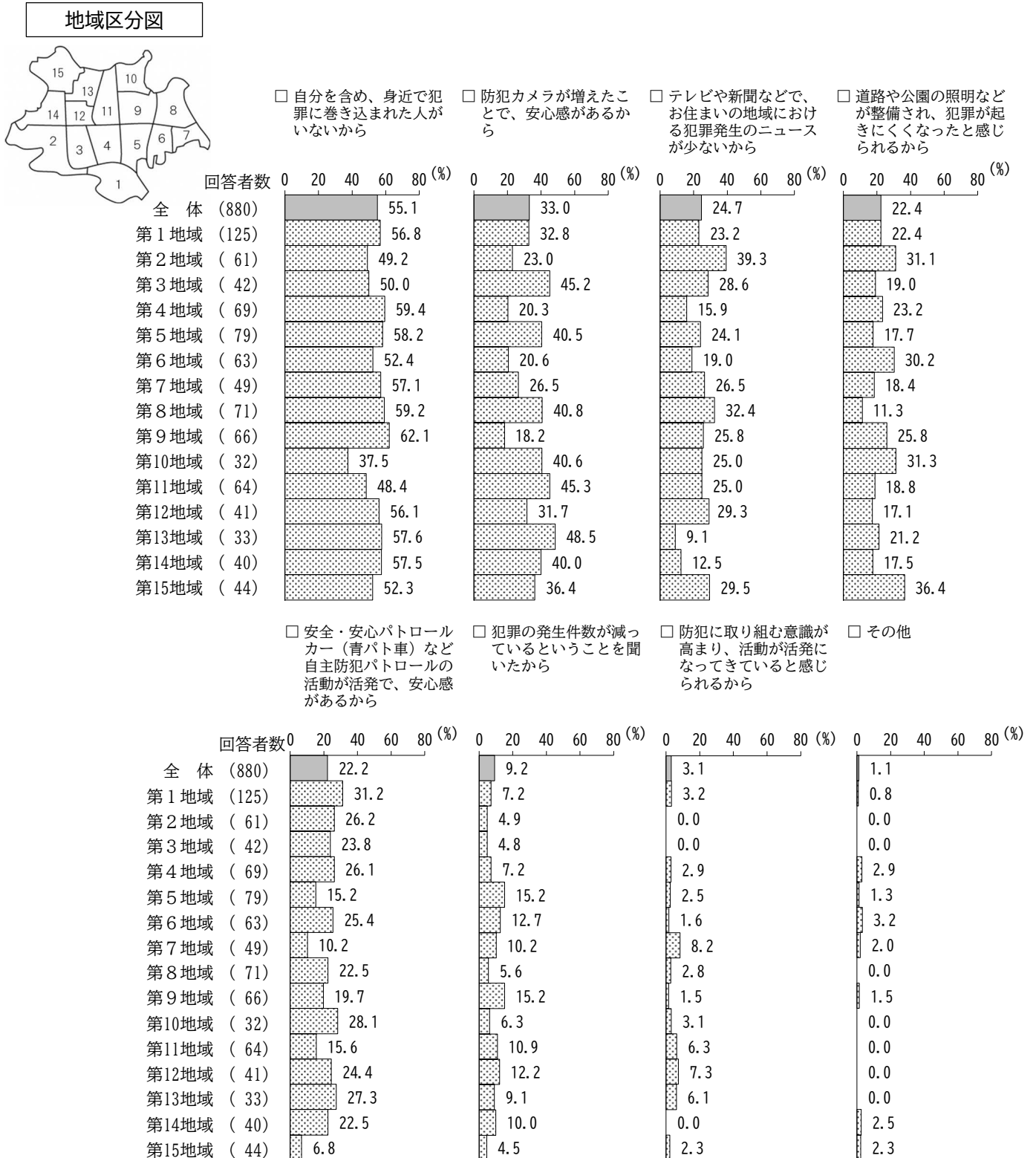
図7-3-1-② 経年比較／居住地域の治安が良いと感じる点



イ クロス集計・地域別／居住地域の治安が良いと感じる点

地域別でみると、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」は第9地域で62.1%と最も高く、第4地域と第8地域が約6割で続いている。「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」は第13地域（48.5%）で最も高く、「テレビや新聞などで、お住いの地域における犯罪発生ニュースが少ないから」は第2地域（39.3%）で最も高くなっている。また、「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくくなったと感じられるから」は第15地域（36.4%）で3割台半ばと高くなっている。

図7-3-2 地域別／居住地域の治安が良いと感じる点



(4) 居住地域の治安が悪いと感じる点

問26で「3 どちらかといえば悪い」または「4 悪い」とお答えの方に

問26-2 どのような点で治安が悪いと感じますか（〇は2つまで）。

- 「自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから」が4割弱で1位、
「歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから」が3割台半ばで2位

ア 単純集計・経年比較／居住地域の治安が悪いと感じる点

(ア) 居住地域の治安が【悪い】と評価した人の理由の上位は以下のとおりとなっている。

- ①「自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから」(38.1%)
- ②「歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから」(33.0%)
- ③「治安が悪いイメージがあるから」(26.4%)

(イ) 前回調査と比較すると、「街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから」4.1ポイント増加し、逆に、「治安が悪いイメージがあるから」が4.7ポイント、「深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから」が3.2ポイントそれぞれ減少した。

図7-4-1-① 経年比較／居住地域の治安が悪いと感じる点

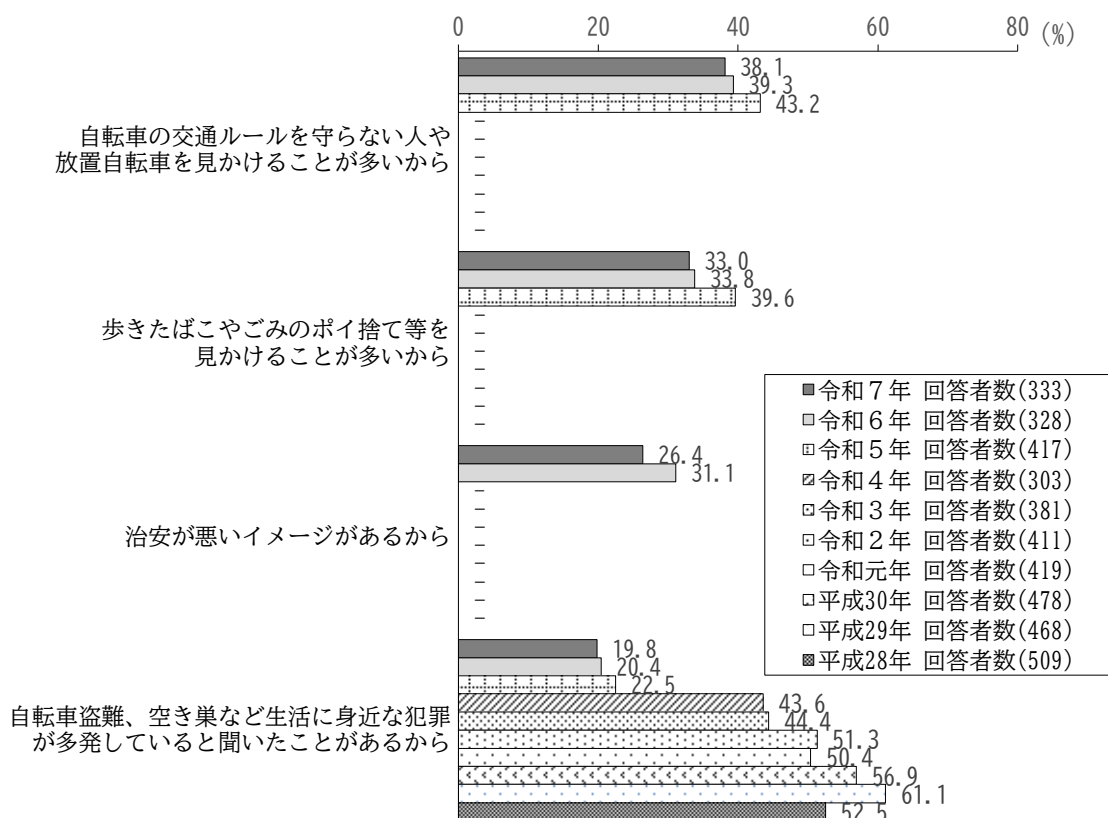
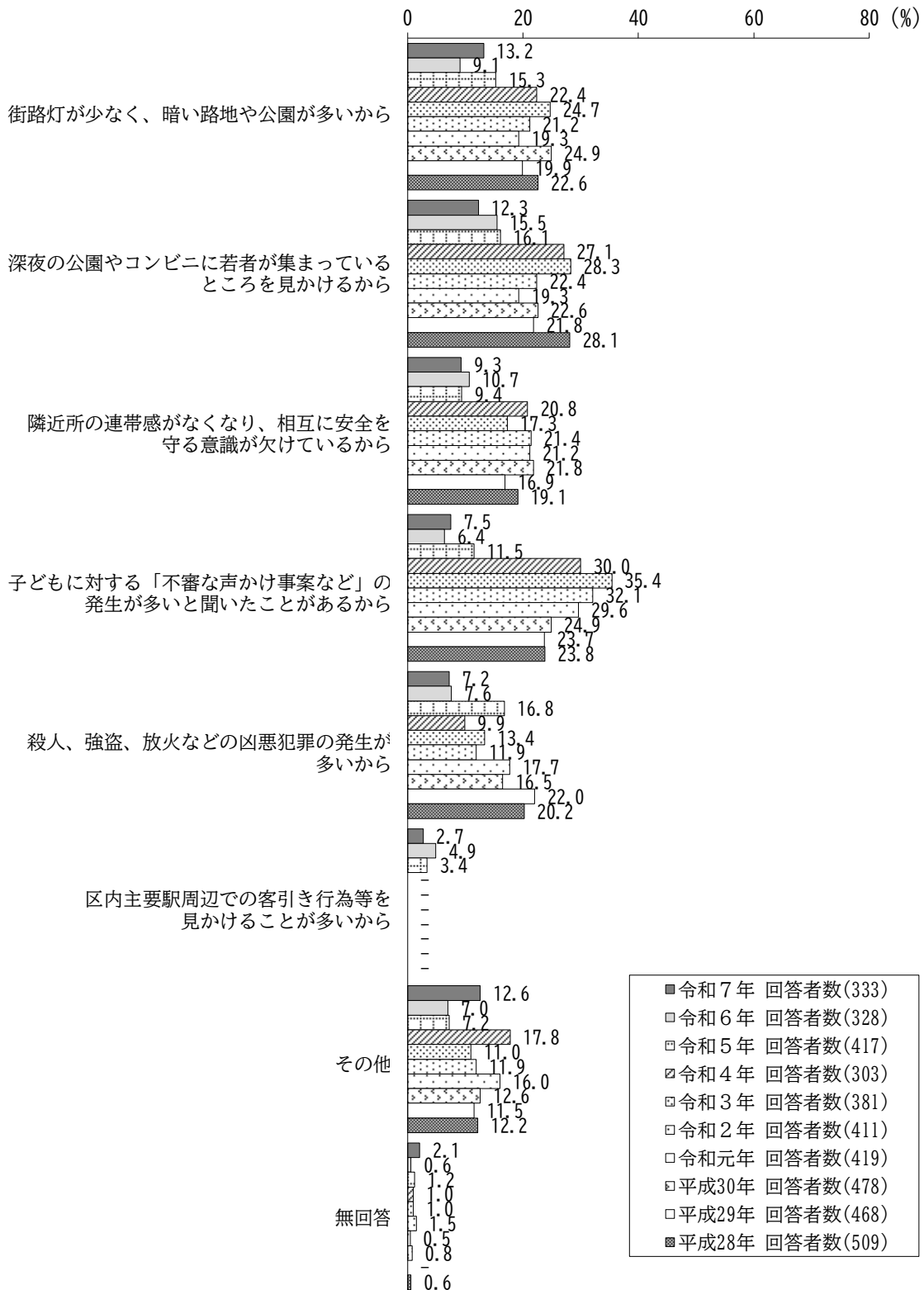


図7-4-1-② 経年比較／居住地域の治安が悪いと感じる点



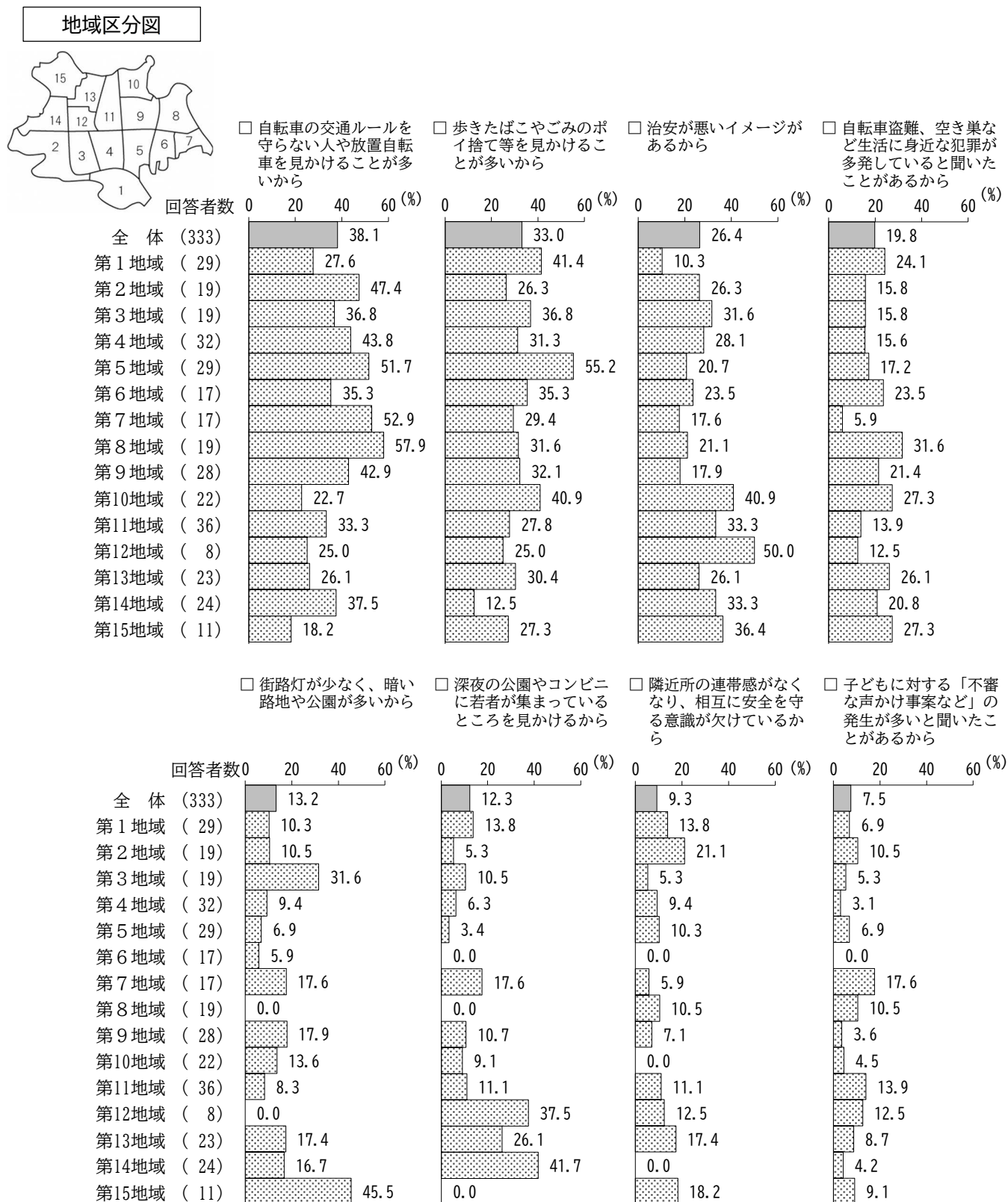
※「自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから」、「歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから」、「区内主要駅周辺での客引き行為等を見かけることが多いから」は、令和5年度からの新設項目。

※「治安が悪いイメージがあるから」は、前回調査からの新設項目。

イ クロス集計・地域別／居住地域の治安が悪いと感じる点

地域別でみると、大半の地域で回答者数が少ないことから、参考値としてみる必要があるが、「自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから」は第8地域、第7地域、第5地域、「歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから」は第5地域、「治安が悪いイメージがあるから」は第12地域でそれぞれ5割以上と高くなっている。

図7-4-2 地域別／居住地域の治安が悪いと感じる点／上位8項目



ウ クロス集計・性別、性・年代別／居住地域の治安が悪いと感じる点

(ア) 居住地域の治安が悪いと感じる上位8項目について性別でみると、男女の差が3ポイント以上のものは5項目であった。

a 男性の方が女性よりも3ポイント以上高い項目

(a) 「深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから」

(+5.3ポイント)

(b) 「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」

(+3.4ポイント)

b 女性の方が男性よりも3ポイント以上高い項目

(c) 「隣近所の連帯感がなくなり、相互に安全を守る意識が欠けているから」

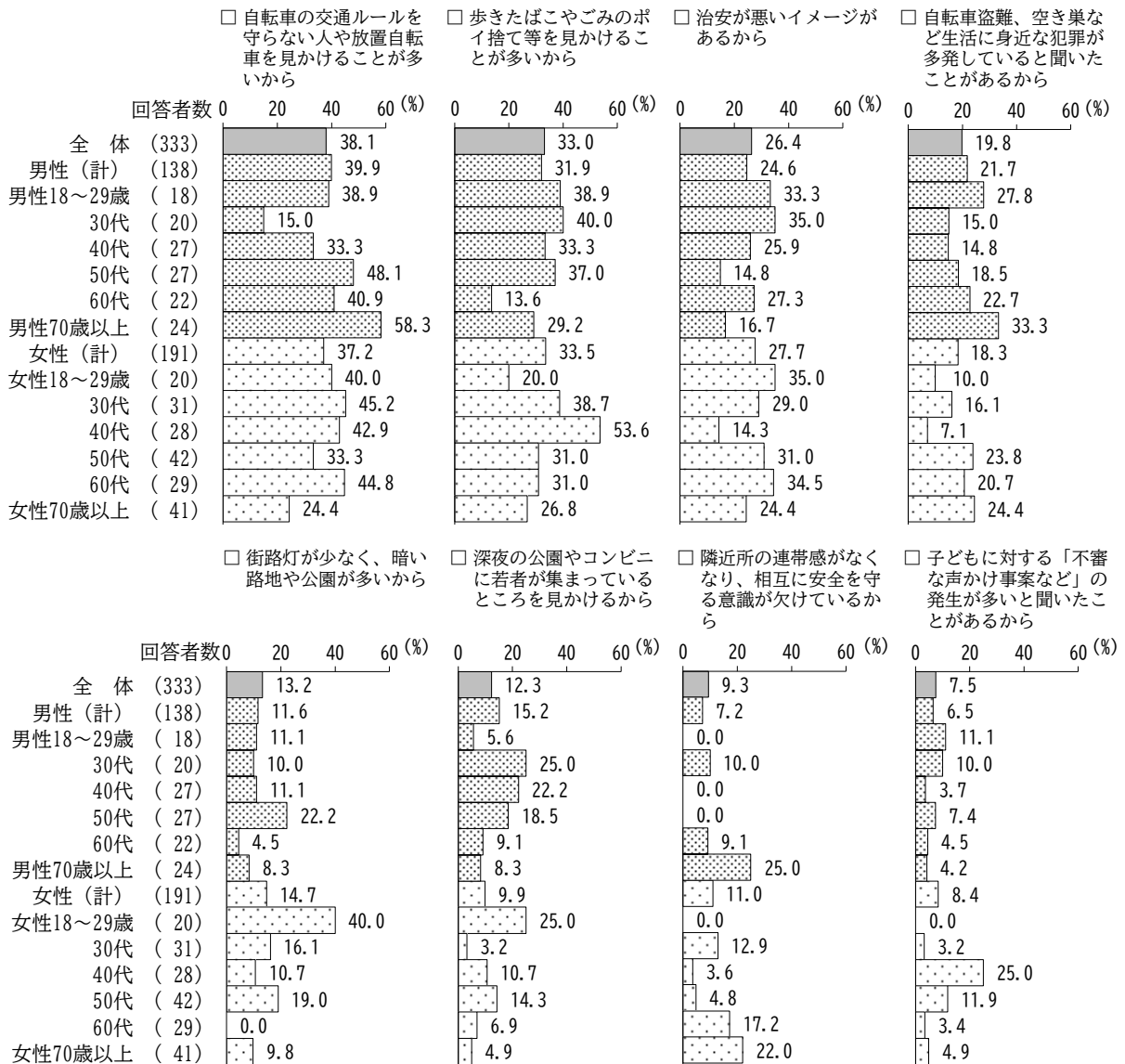
(+3.8ポイント)

(d) 「治安が悪いイメージがあるから」「街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから」

(+3.1ポイント)

(イ) 性・年代別でみると、多くの性・年代層で回答者数が少ないことから参考値としてみる必要があるが、「自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから」は男性の70歳以上、「歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから」は女性の70歳以上でそれぞれ5割以上と高くなっている。

図7-4-3 性別、性・年代別／居住地域の治安が悪いと感じる点／上位8項目



(5) 治安対策として区に力を入れてほしいこと

問27 あなたが、治安対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか
(〇は2つまで)。

■「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」が5割半ば近く、「街路灯など安全に配慮した道路・公園の整備」が4割台半ば超

ア 単純集計・経年比較／治安対策として区に力を入れてほしいこと

(ア) 治安対策として足立区に力を入れてほしいことの上位は、以下のとおりとなっている。

- ①「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」(52.1%)
- ②「街路灯など安全に配慮した道路、公園の整備」(47.3%)
- ③「安全・安心パトロールカー(青パト車)による防犯パトロール」(31.0%)

(イ) 前回調査と比較すると、特に大きな違いは見られない。

図7-5-1-① 経年比較／治安対策として区に力を入れてほしいこと

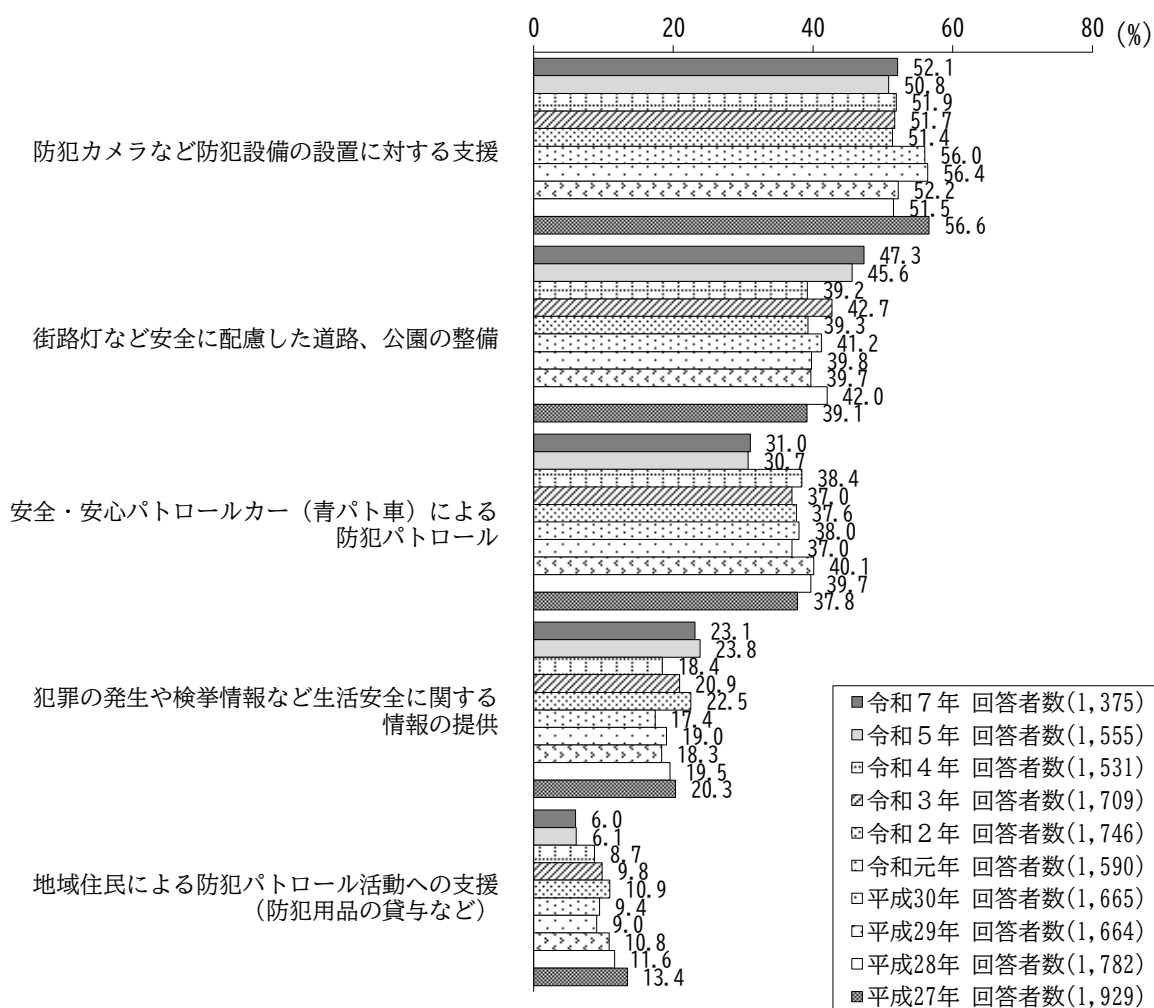
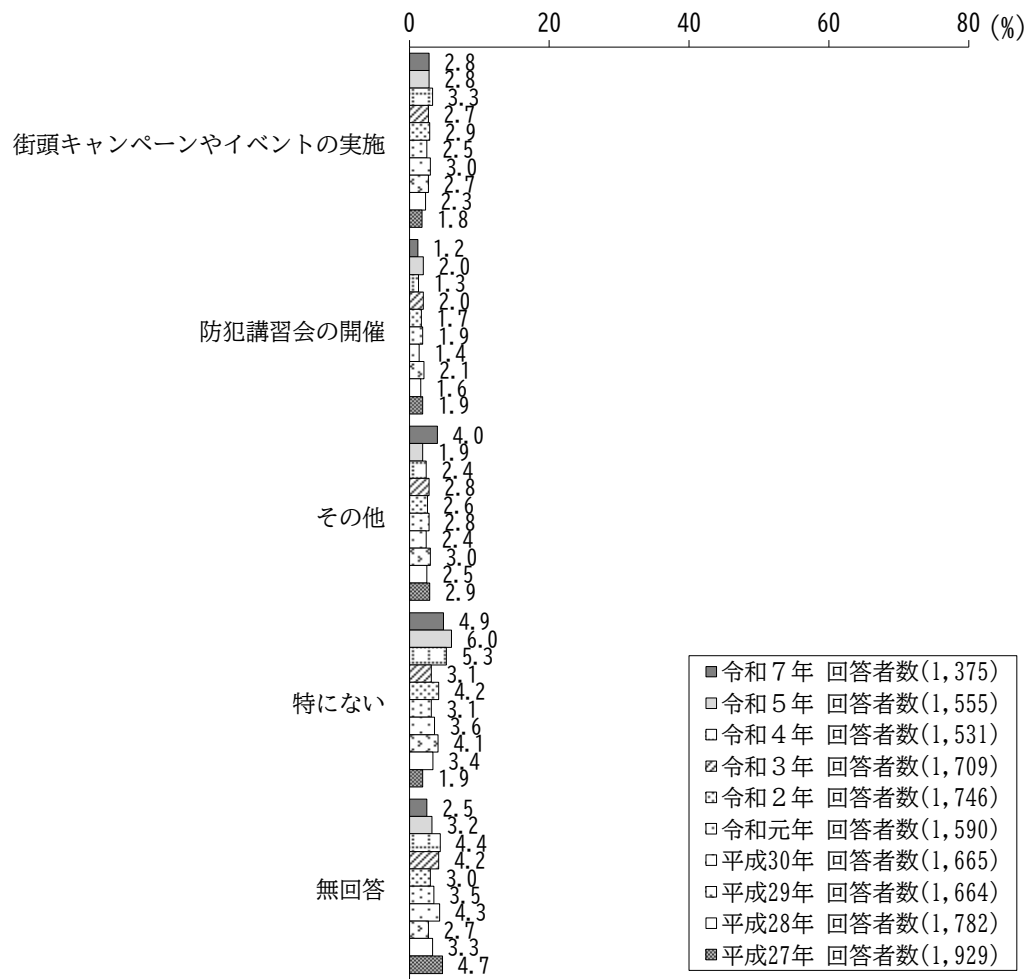


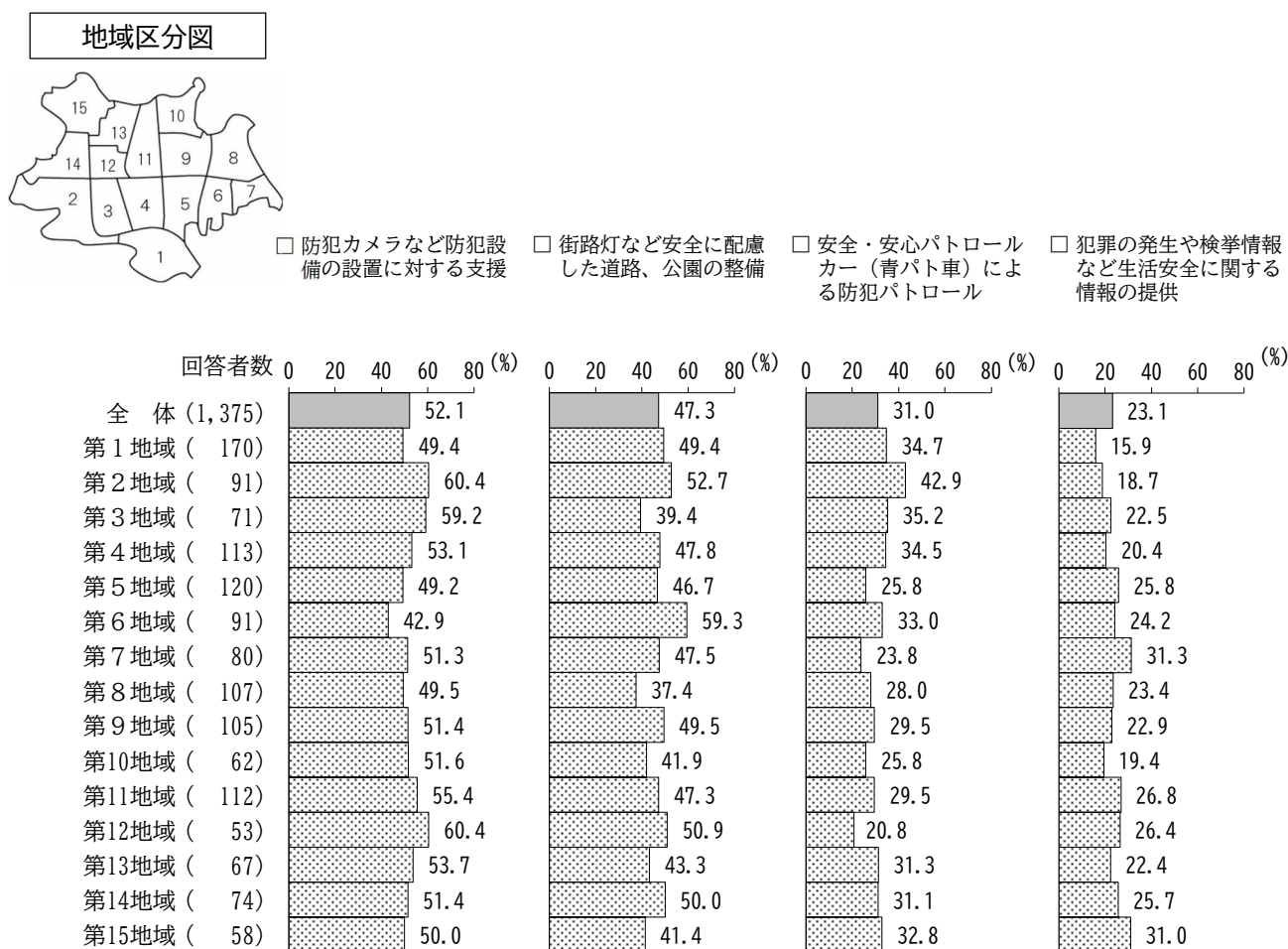
図7-5-1-② 経年比較／治安対策として区に力を入れてほしいこと



イ クロス集計・地域別／治安対策として区に力を入れてほしいこと（上位4項目）

地域別でみると、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」は第2地域と第12地域でそれぞれ60.4%と最も高く、次いで、第3地域（59.2%）となっている。「街路灯など安全に配慮した道路、公園の整備」は第6地域で約6割と高くなっている。また、「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」は第2地域（42.9%）、「犯罪の発生や検挙情報など生活安全に関する情報の提供」は第7地域（31.3%）と第15地域（31.0%）でそれぞれ高くなっている。

図7-5-2 地域別／治安対策として区に力を入れてほしいこと／上位4項目



ウ クロス集計・性別、性・年代別／治安対策として区に力を入れてほしいこと（上位4項目）

（ア）治安対策として区に力を入れてほしいこと上位4項目について性別でみると、4項目中3項目で女性の方が男性よりも高くなっている。

a 性別でみると女性の方が男性よりも高い項目

（a）「街路灯など安全に配慮した道路、公園の整備」（+9.6ポイント）

（b）「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」（+6.7ポイント）

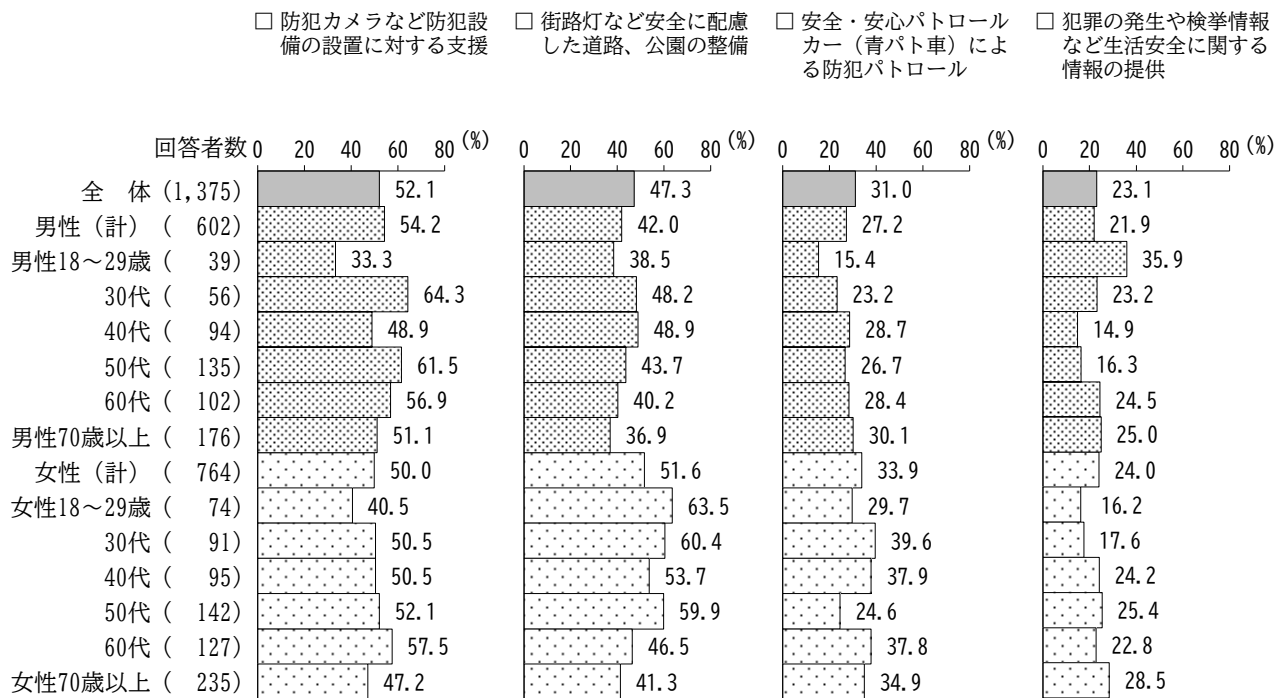
（c）「犯罪の発生や検挙情報など生活安全に関する情報の提供」（+2.1ポイント）

b 性別でみると男性の方が女性よりも高い項目

（a）「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」（+4.2ポイント）

（イ）性・年代別でみると、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」は男性の30代と50代で約6割台と高く、「街路灯など安全に配慮した道路、公園の整備」は女性の18～29歳と30代で6割台と高くなっている。また、「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」は女性の30～40代と60代で3割台後半と高くなっている。

図7-5-3 性別、性・年代別／治安対策として区に力を入れてほしいこと／上位4項目



8 環境・地域活動

-
- (1) 環境のために心がけていること
 - (2) 環境への影響を考えた日頃からの行動の有無
 - (3) 町会・自治会の加入や活動
 - (4) 町会・自治会に加入していない理由
 - (5) この1年間に参加した活動と、引き続き、または今後参加したい活動
 - (6) 居住地域のごみと資源の収集日の認知状況
-

(1) 環境のために心がけていること

問28 あなたが、環境のために心がけていることは何ですか（○はあてはまるものすべて）。

※ 雑紙（ざつがみ）…家庭から排出される古紙のうち、新聞、雑誌、段ボール、紙パックのいずれの区分にも入らないもの（パンフレット、コピー用紙、お菓子の包装紙など）

■「ごみと資源の分別を実行している」が8割台半ば、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」が7割台半ば超

ア 単純集計・経年比較／環境のために心がけていること

（ア）環境のために心がけていることの上位をみると、以下のとおりとなっている。

- ①「ごみと資源の分別を実行している」（85.2%）
- ②「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」（77.8%）
- ③「雑紙（※）を燃やすごみではなく、資源として出している」（55.1%）
- ④「外食時に食べられる分だけ注文する」（54.0%）
- ⑤「節電や節水など省エネルギーを心がけている」（50.6%）

（イ）前回調査と比較すると、「ごみと資源の分別を実行している」が3.8ポイント減少しているものの、他の項目では特に大きな違いは見られない。

図8-1-1-① 経年比較／環境のために心がけていること

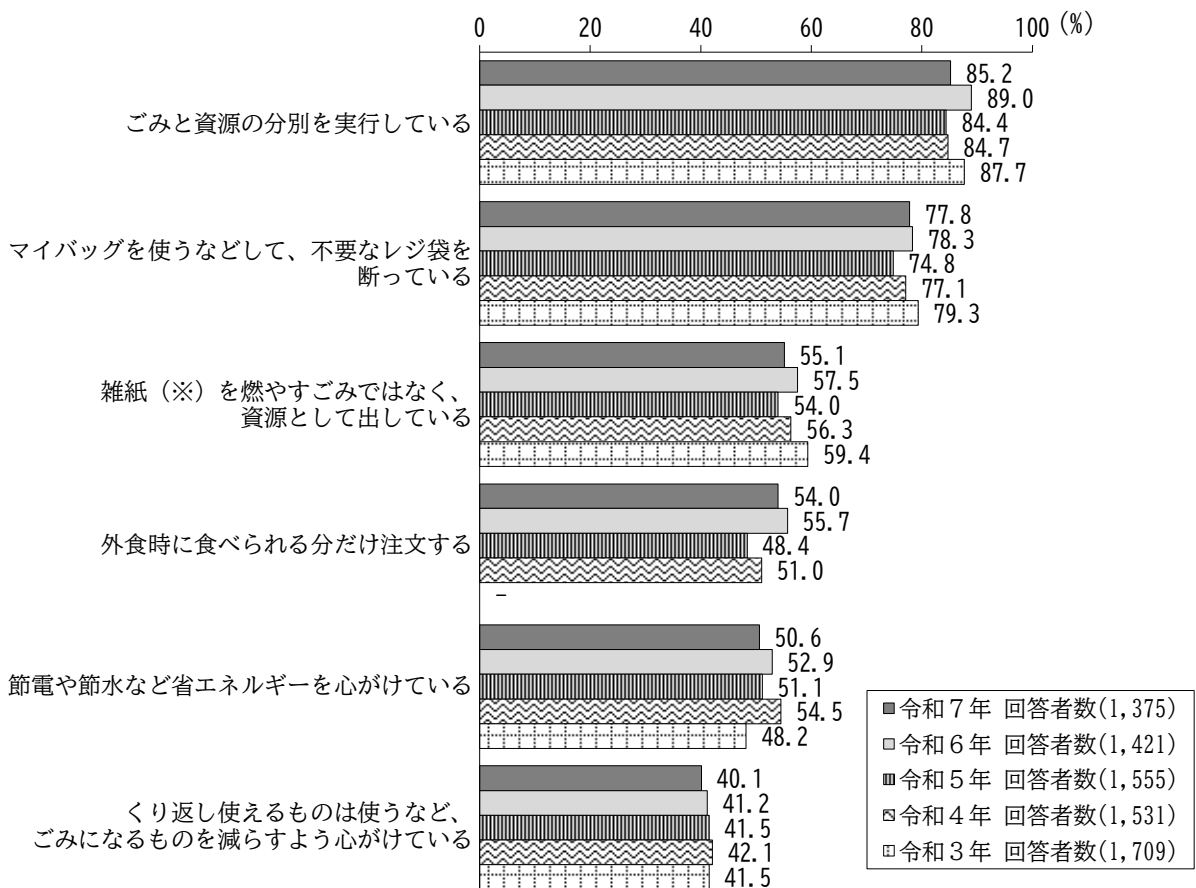
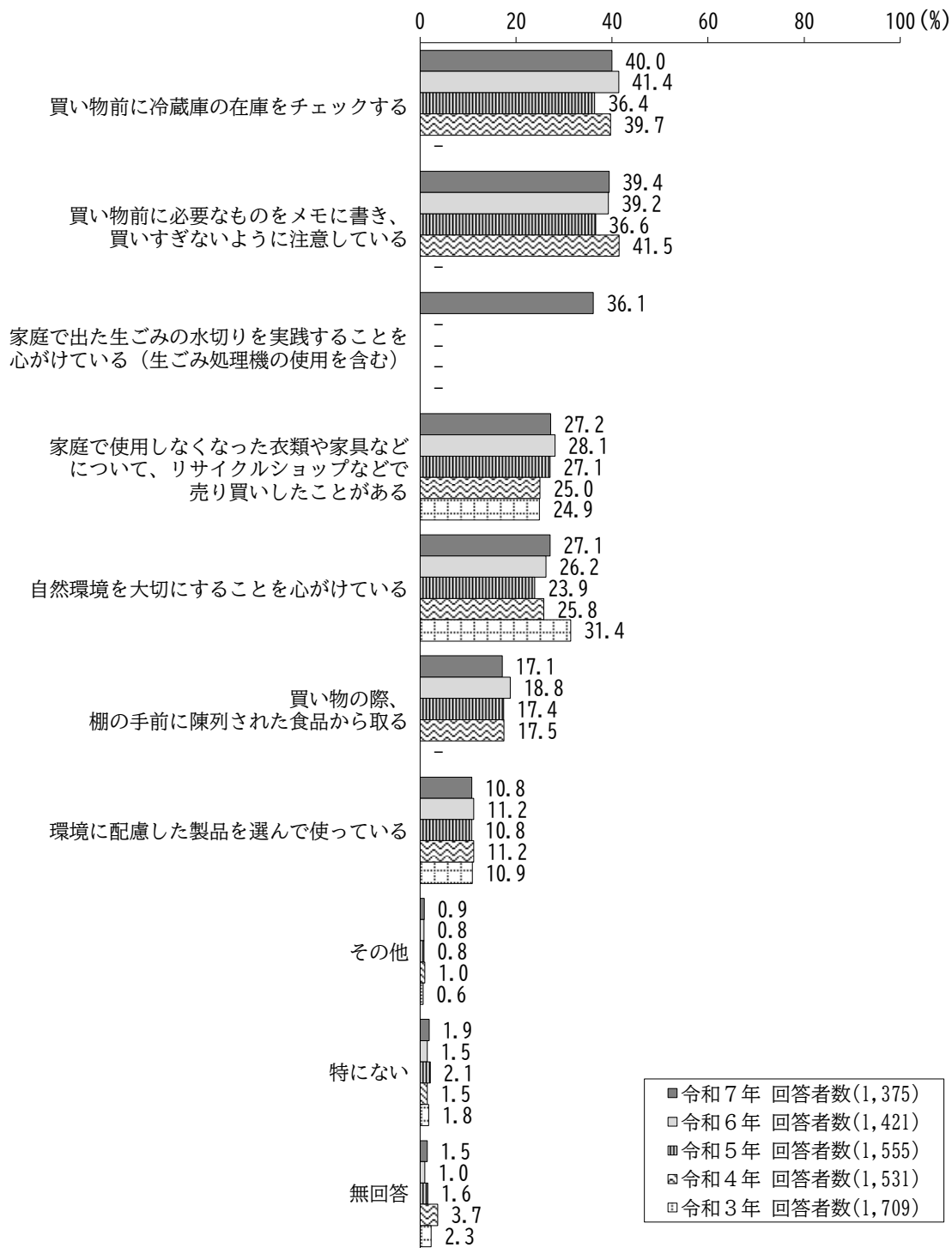


図8-1-1-② 経年比較／環境のために心がけていること



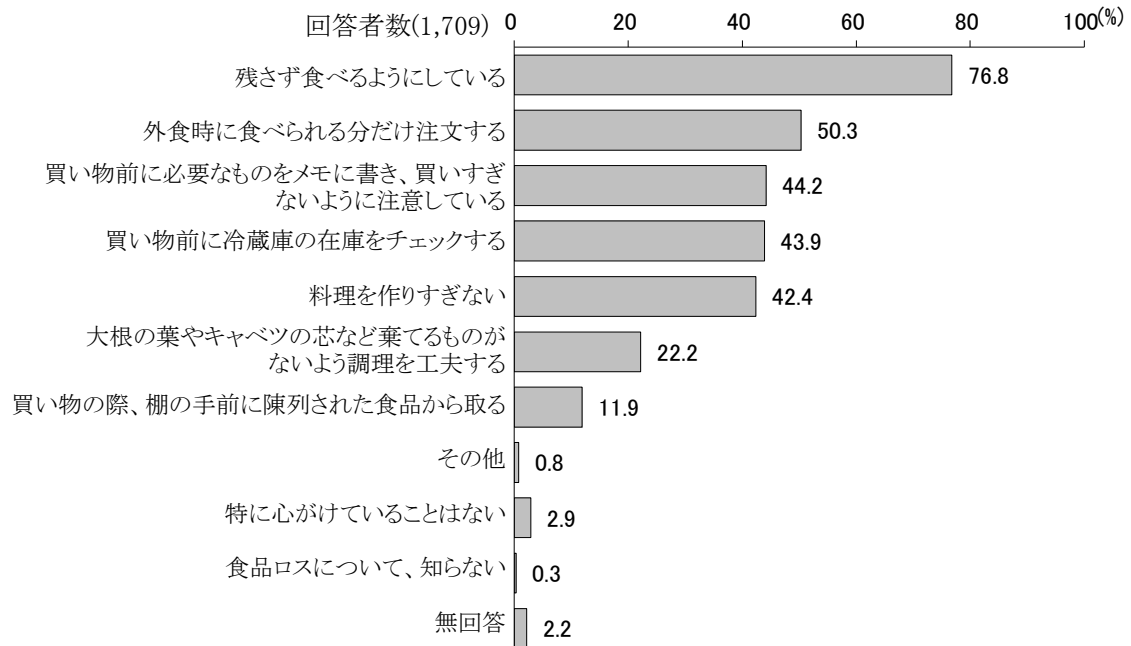
※「外食時に食べられる分だけ注文する」、「買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする」、「買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している」、「買い物の際、棚の手前に陳列された食品から取る」の4項目は令和3年度まで「食品ロス削減のために心がけていること」についての設問で聴いていたが、令和4年度から本設問に統合。

※「家庭で出た生ごみの水切りを実践することを心がけている（生ごみ処理機の使用を含む）」は今回調査からの新設項目。

参考／（令和3年度）食品ロス削減のために心がけていること

問 あなたが、食品ロス削減のために心がけていることは何ですか

（〇はあてはまるものすべて）。

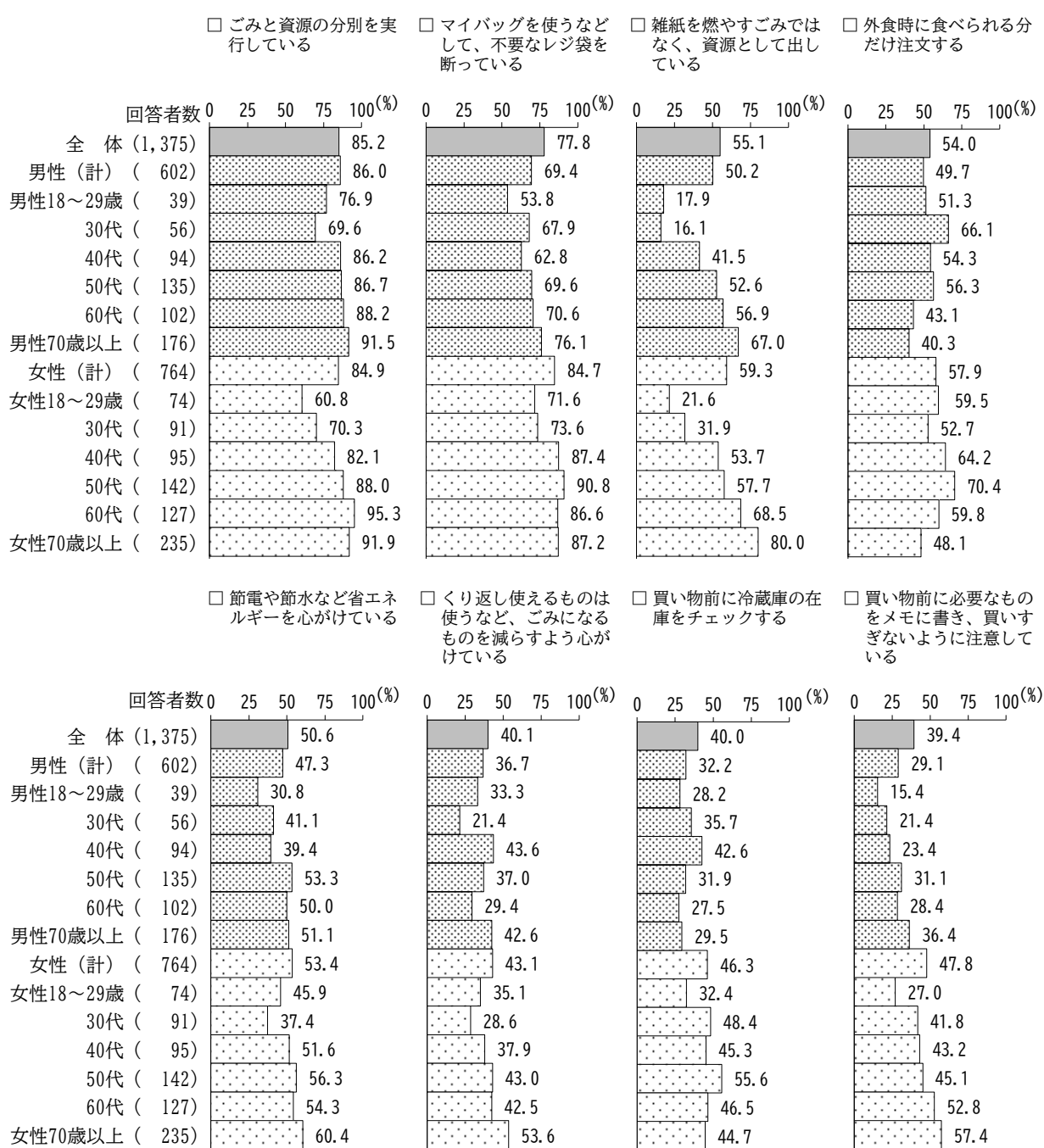


イ クロス集計・性別、性・年代別／環境のために心がけていること（上位8項目）

（ア）性別でみると、「ごみと資源の分別を実行している」以外のすべての項目で女性の方が男性より高くなっており、上位8項目では、「買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している」（+18.7ポイント）、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」（+15.3ポイント）、「買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする」（+14.1ポイント）で女性の方が10ポイント以上高くなっている。

（イ）性・年代別でみると、「ごみと資源の分別を実行している」は、女性の60代で9割台半ばと最も高く、男女ともに70歳以上で9割超と高くなっている。また、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」は女性の50代で9割と最も高く、「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」では、男女とも年代が上がるほど割合も高くなる傾向が見られる。

図8-1-2 性別、性・年代別／環境のために心がけていること／上位8項目

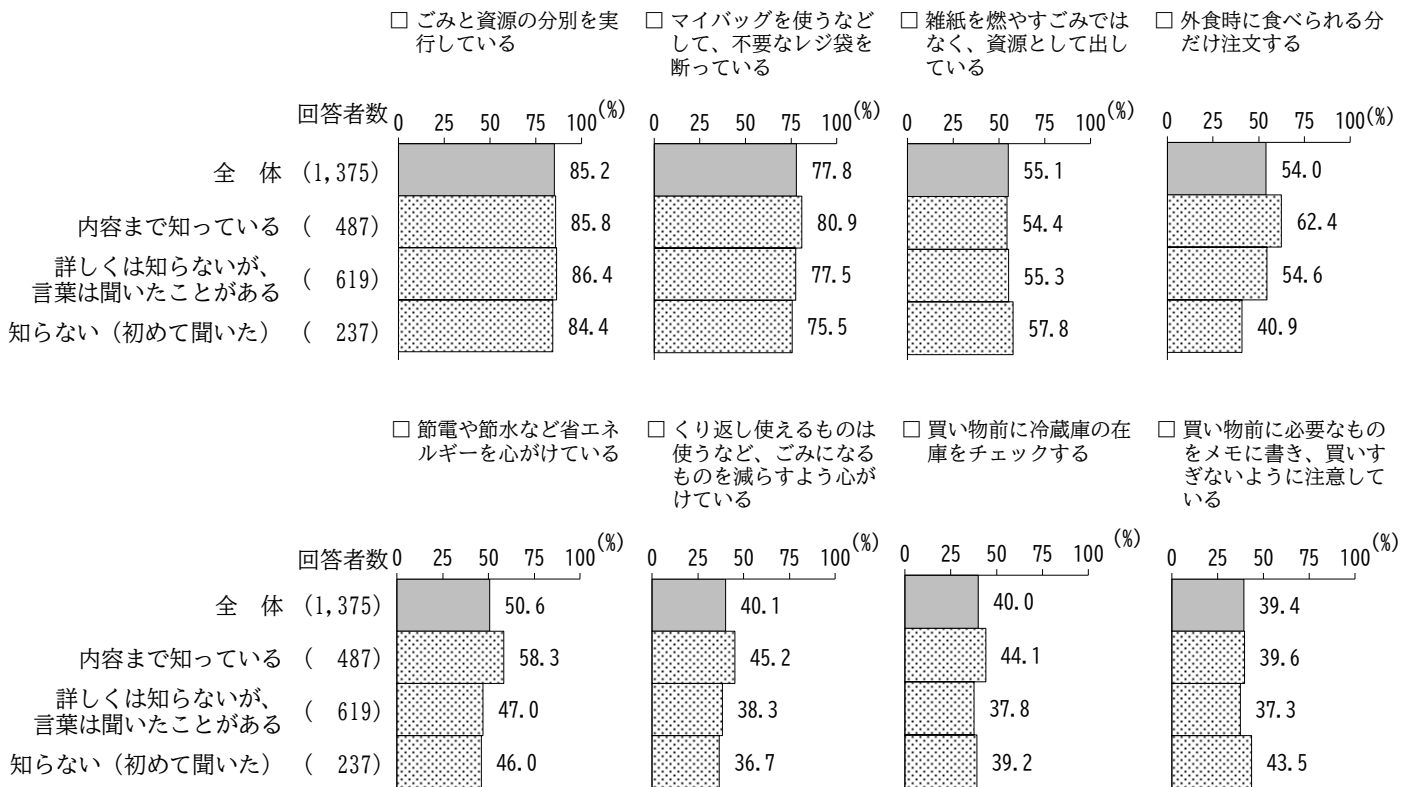


ウ クロス集計・SDGs認知度別／環境のために心がけていること（上位8項目）

（ア）「環境のために心がけていること」の上位8項目中4項目でSDGsの認知度が高いほど割合も高くなる傾向がうかがえた。SDGsについて「内容まで知っている」－「知らない（初めて聞いた）」のポイント差が大きい順に並べると以下のとおりとなっている。

- ①「外食時に食べられる分だけ注文する」（21.5ポイント）
- ②「節電や節水など省エネルギーを心がけている」（12.3ポイント）
- ③「くり返し使えるものは使うなど、ごみになるものを減らすよう心がけている」（8.5ポイント）
- ④「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」（5.4ポイント）

図8-1-3 SDGs認知度別／環境のために心がけていること／上位8項目



(2) 環境への影響を考えた日頃からの行動の有無

問29 あなたは、日頃から環境への影響を考えて具体的に行動(※)していますか
(○は1つだけ)。

※ 問28(1から13)で示された内容のことです。

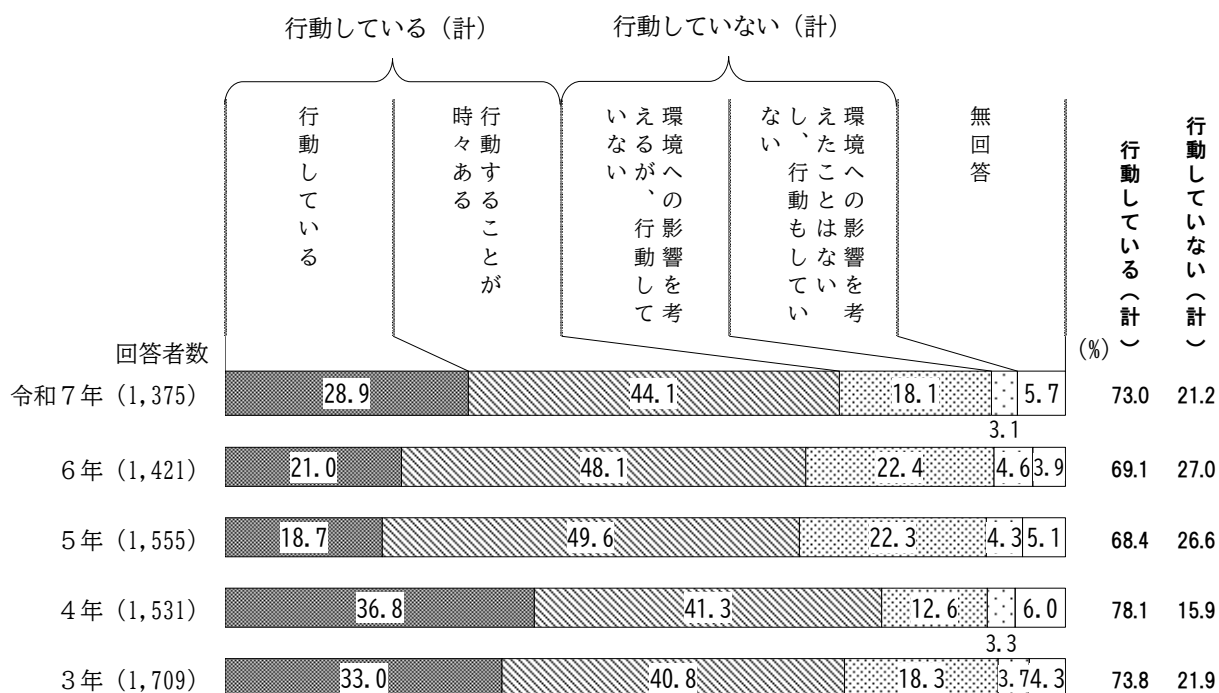
■【行動している】が7割台半ばで、【行動していない】が2割超

ア 単純集計・経年比較／環境への影響を考えた日頃からの行動の有無

(ア) 環境への影響を考えた日頃からの行動状況は、「行動することが時々ある」が44.1%で最も高く、これに「行動している」(28.9%)を合わせた【行動している】は73.0%となっている。一方、「環境への影響を考えるが、行動していない」(18.1%)と「環境への影響を考えたことはないし、行動もしていない」(3.1%)を合わせた【行動していない】は21.2%となっている。

(イ) 前回調査と比較すると、「行動している」が7.9ポイント増加し、【行動していない】が5.8ポイント減少した。

図8-2-1 経年比較／環境への影響を考えた日頃からの行動の有無

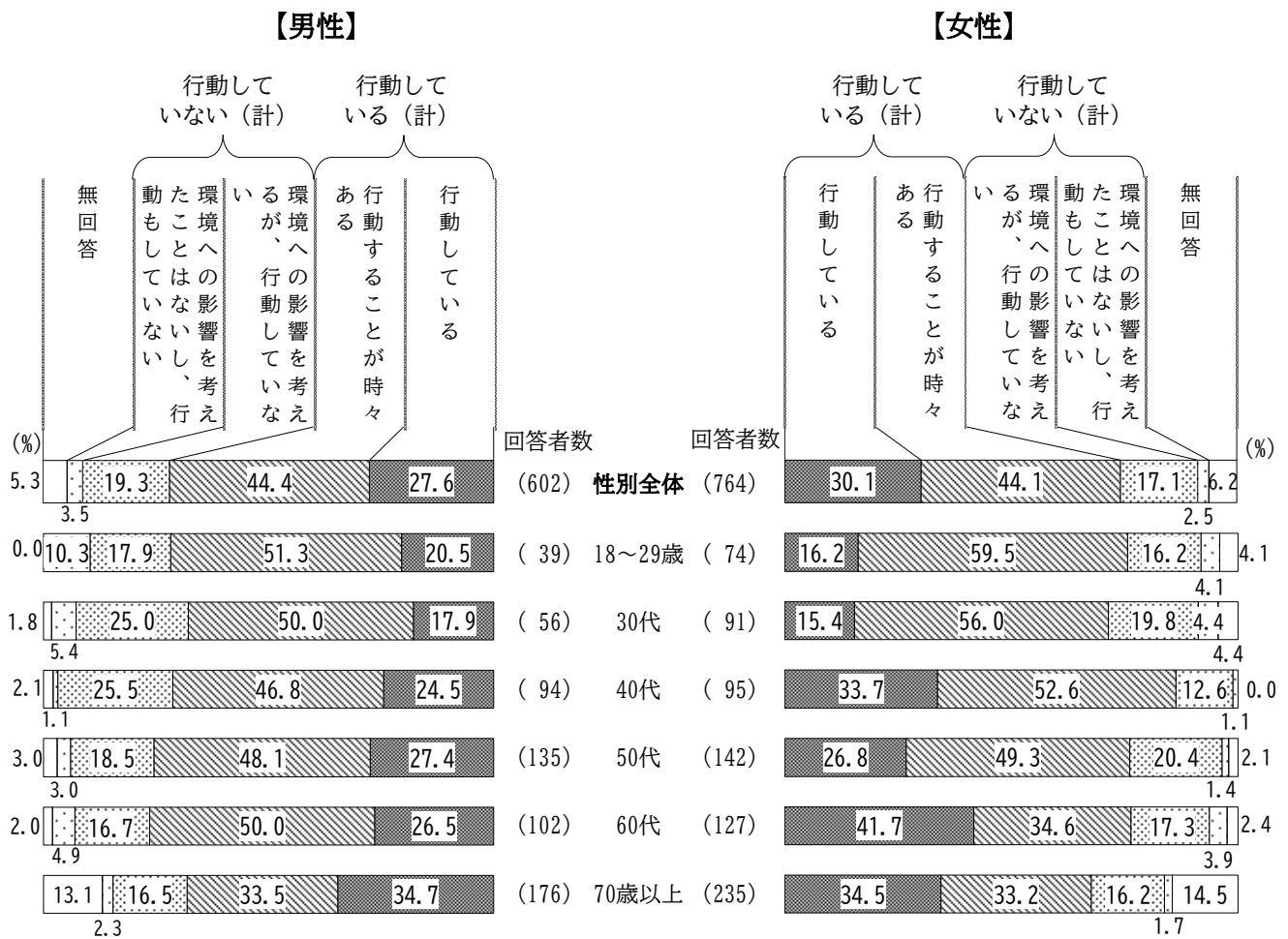


※令和5年度と6年度で「行動している」の割合が急落している理由は、令和4年度以前の設問文において、“・・・具体的に行動(※)していますか。”とし、質問文の後に“※前問の1～8で示された内容のことです。”と注釈を加えていたが、この注釈を除外したことに依るものと考えられる。今回の令和7年度では、調査票のとおり、“問28(1から13)で示された内容のことです。”という注釈を復活させた。

イ クロス集計・性別、性・年代別／環境への影響を考えた日頃からの行動の有無

- (ア) 性別では、【行動していない】は男性（22.8%）の方が女性（19.6%）より3.2ポイント高くなっている。
- (イ) 性・年代別でみると、【行動している】は女性の40代で86.3%と最も高く、次いで男性の60代（76.5%）、女性の60代（76.4%）が続いている。一方、女性の70歳以上で67.7%と最も低くなっている。

図8-2-2 性別、性・年代別／環境への影響を考えた日頃からの行動の有無



(3) 町会・自治会の加入や活動

問30 町会・自治会の加入や活動についてお答えください（〇はそれぞれ1つつつ）。

■「加入している」が5割半ば近く、「活動に参加したことがある」は約4割

ア 経年比較／町会・自治会の加入や活動

(ア) 自分の住所地に該当する町会・自治会の認知については、「はい（知っている）」が68.6%を占め、「いいえ（知らない）」が27.6%となっている。

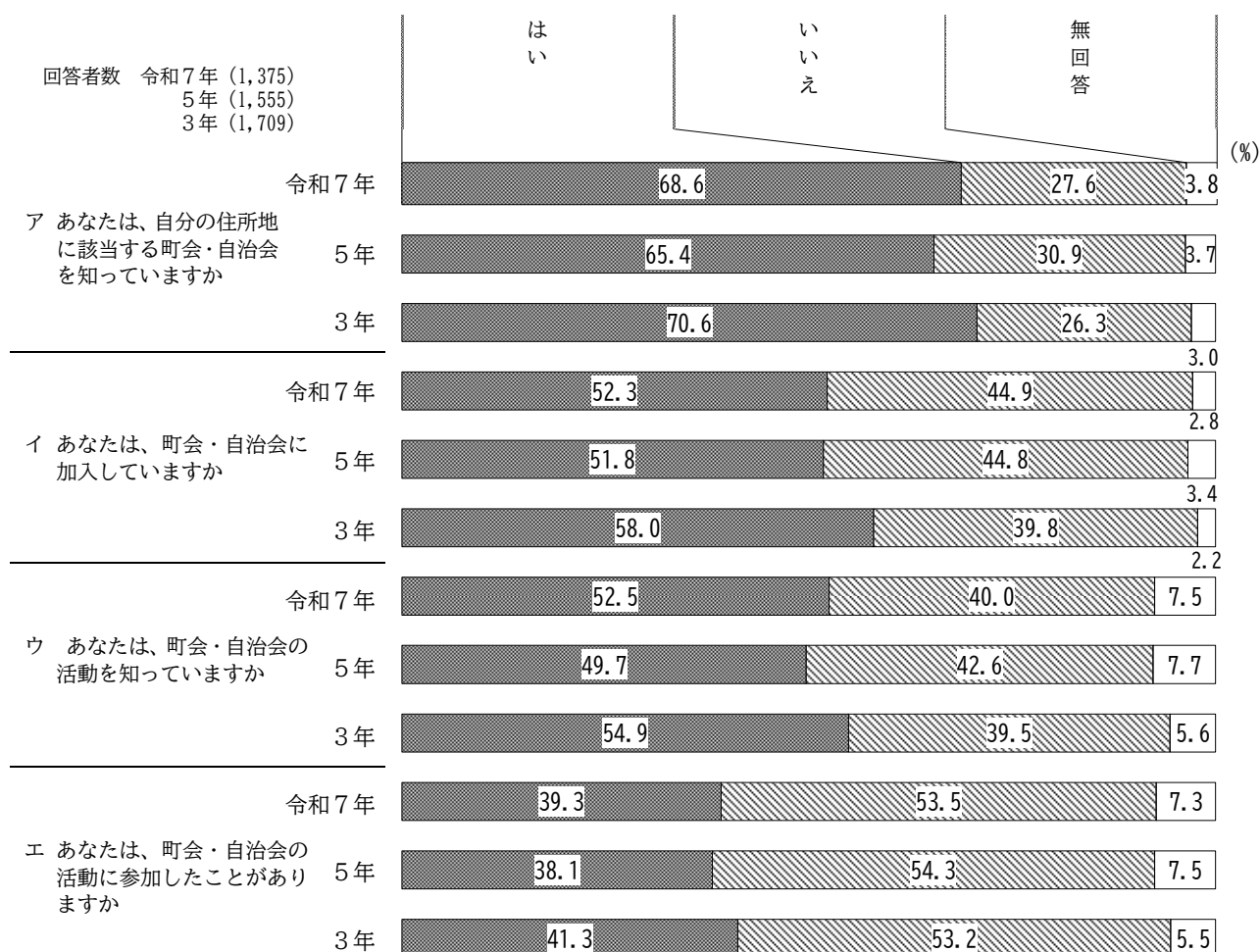
(イ) 町会・自治会への加入状況は、「はい（加入している）」が52.3%で、「いいえ（加入していない）」の44.9%を7.4ポイント上回っている。

(ウ) 町会・自治会の活動内容については、「はい（知っている）」が52.5%で、「いいえ（知らない）」の40.0%を12.5ポイント上回っている。

(エ) 町会・自治会の活動への参加状況は、「いいえ（参加したことはない）」が53.5%で、「はい（参加したことがある）」の39.3%を14.2ポイント上回っている。

(オ) 前回の令和5年度調査と比較すると、“自分の住所地に該当する町会・自治会の認知”が3.2ポイント増加し、“町会・自治会への活動内容の認知”も2.8ポイント増加している。

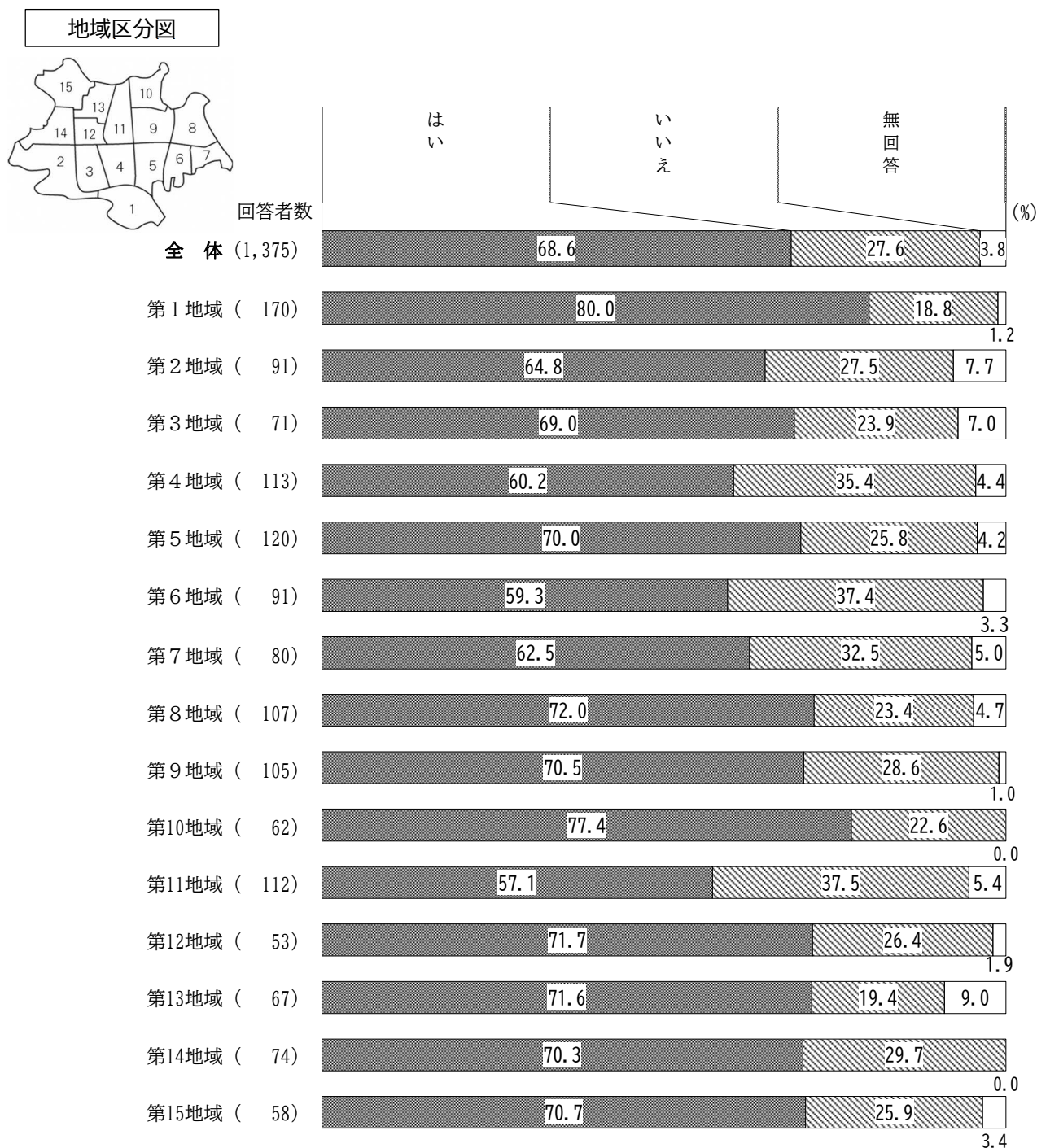
図8-3-1 経年比較／町会・自治会の加入や活動



イ クロス集計・地域別／自分の住所地に該当する町会・自治会の認知状況

(ア) 自分の住所地に該当する町会・自治会の認知状況を地域別にみると、「はい(知っている)」は第1地域が80.0%で最も高く、次いで、第10地域(77.4%)、第8地域(72.0%)が続いている。一方、「いいえ(知らない)」は第11地域が37.5%と最も高く、次いで、第6地域(37.4%)となっている。

図8-3-2-① 地域別／自分の住所地に該当する町会・自治会の認知状況



ウ クロス集計・地域別／町会・自治会の加入状況

(ア) 町会・自治会への加入状況を地域別にみると、「はい(加入している)」は第1地域が62.4%で最も高く、次いで、第12地域(60.4%)が6割で続いている。一方、「いいえ(加入していない)」は第6地域が64.8%と他の地域に比べ特に高く、次いで、第14地域(51.4%)、第15地域(50.0%)が5割台となっている。

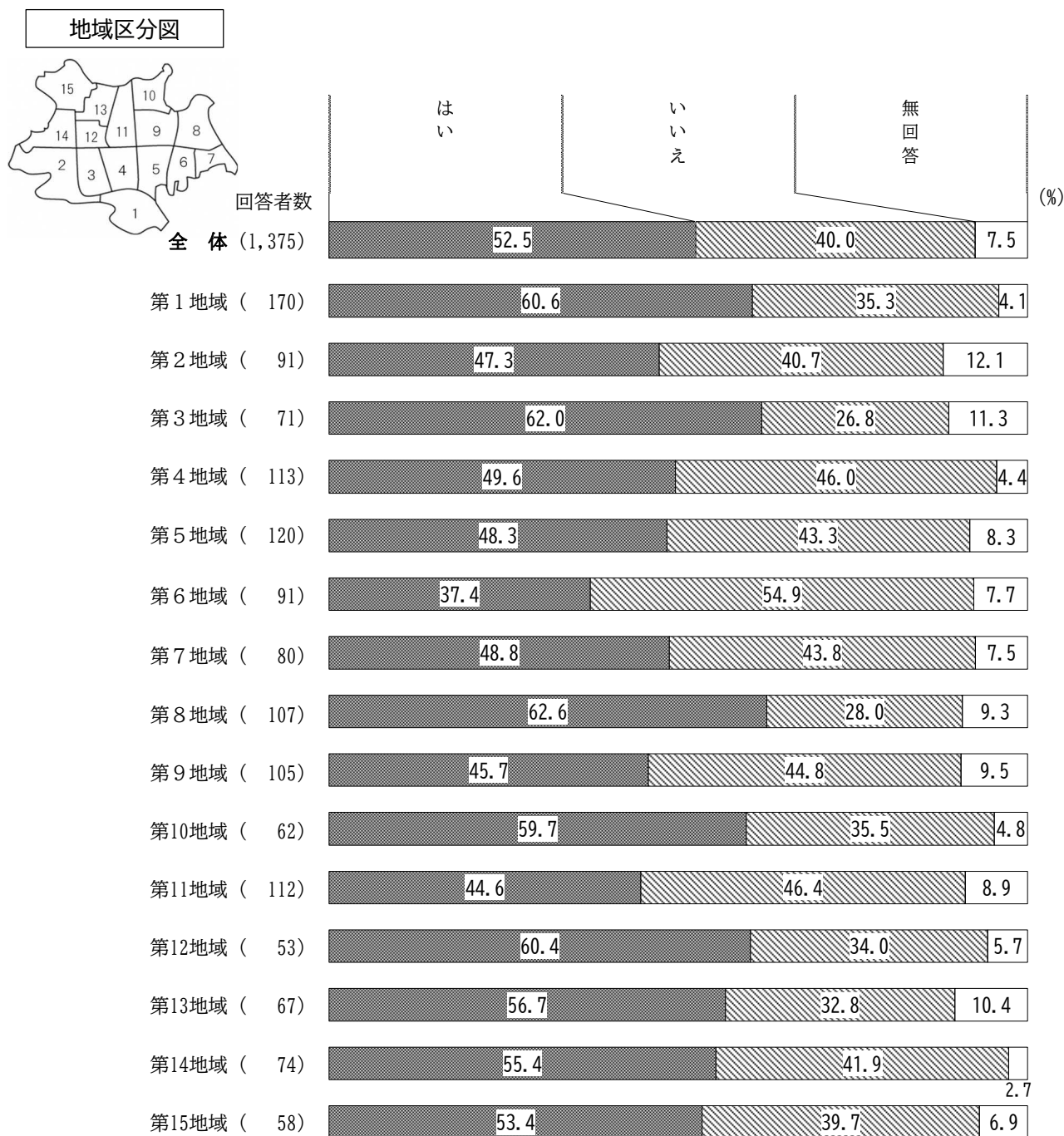
図8-3-2-② 地域別／町会・自治会の加入状況



エ クロス集計・地域別／町会・自治会活動の認知状況

(ア) 町会・自治会活動の認知状況を地域別にみると、「はい(知っている)」は第8地域が62.6%で最も高く、次いで、第3地域(62.0%)、第1地域(60.6%)、第12地域(60.4%)が6割台で続いている。一方、「いいえ(知らない)」は第6地域が54.9%で他の地域に比べ特に高く、次いで、第11地域(46.4%)と第4地域(46.0%)が4割台後半となっている。

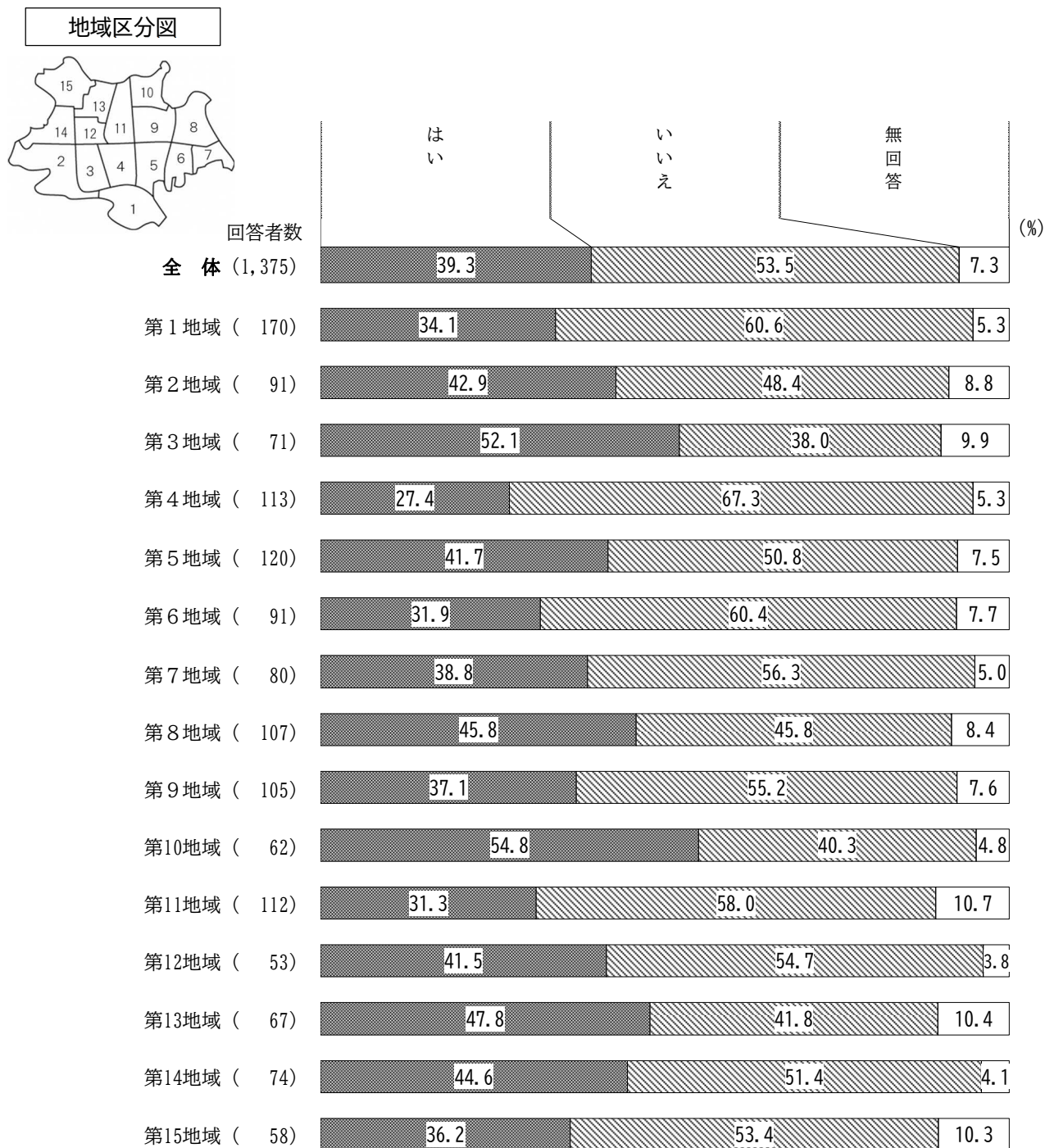
図8-3-2-③ 地域別／町会・自治会活動の認知状況



オ クロス集計・地域別／町会・自治会活動の参加状況

(ア) 町会・自治会活動への参加状況を地域別にみると、「はい（参加したことがある）」は第10地域が54.8%で最も高く、次いで、第3地域（52.1%）が5割台で続いている。一方、「いいえ（参加したことはない）」は第4地域が67.3%で最も高く、次いで、第1地域（60.6%）と第6地域（60.4%）が6割台となっている。

図8-3-2-④ 地域別／町会・自治会活動の参加状況

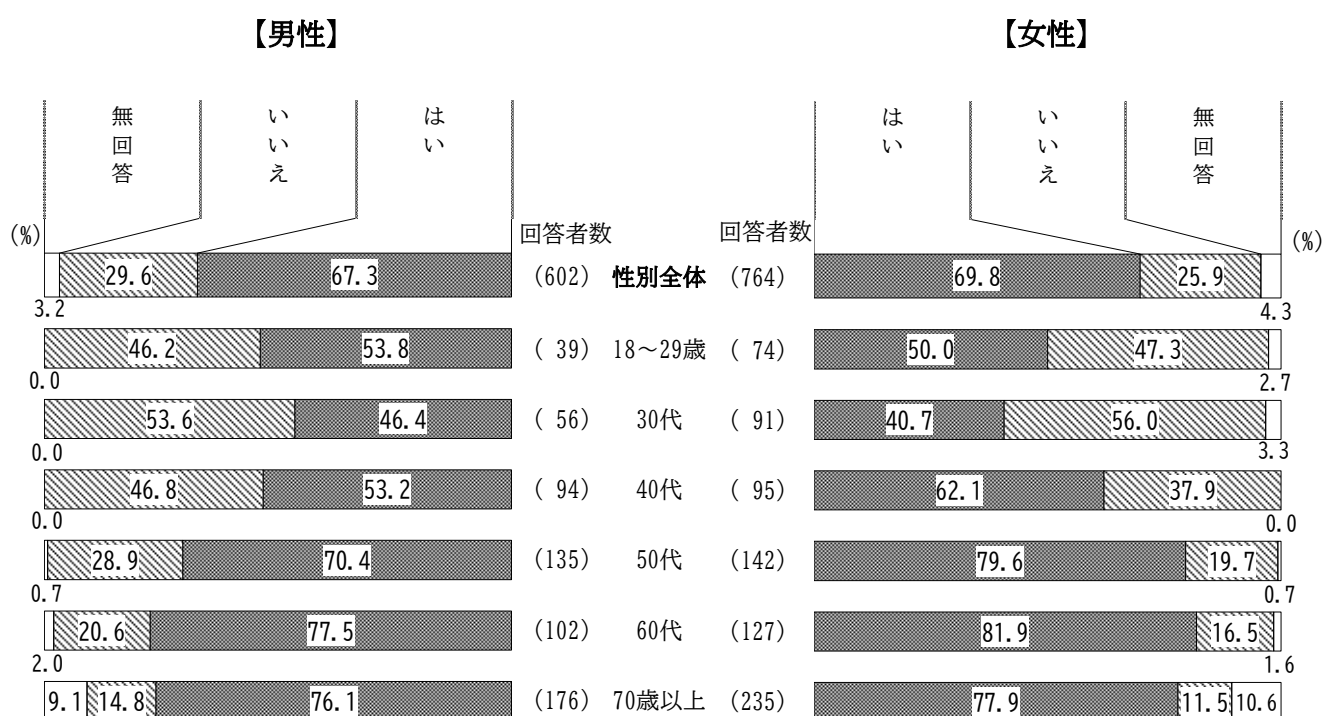


カ クロス集計・性別、性・年代別／自分の住所地に該当する町会・自治会の認知状況

(ア) 自分の住所地に該当する町会・自治会の認知状況を性別にみると、「いいえ（知らない）」は男性（29.6％）の方が女性（25.9％）より3.7ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、「はい（知っている）」は女性の60代で81.9％と最も高く、女性の50代でも約8割と高くなっている。一方、「いいえ（知らない）」は、男女とも30代で5割台と高くなっている。

図8-3-3-① 性別、性・年代別／自分の住所地に該当する町会・自治会の認知状況

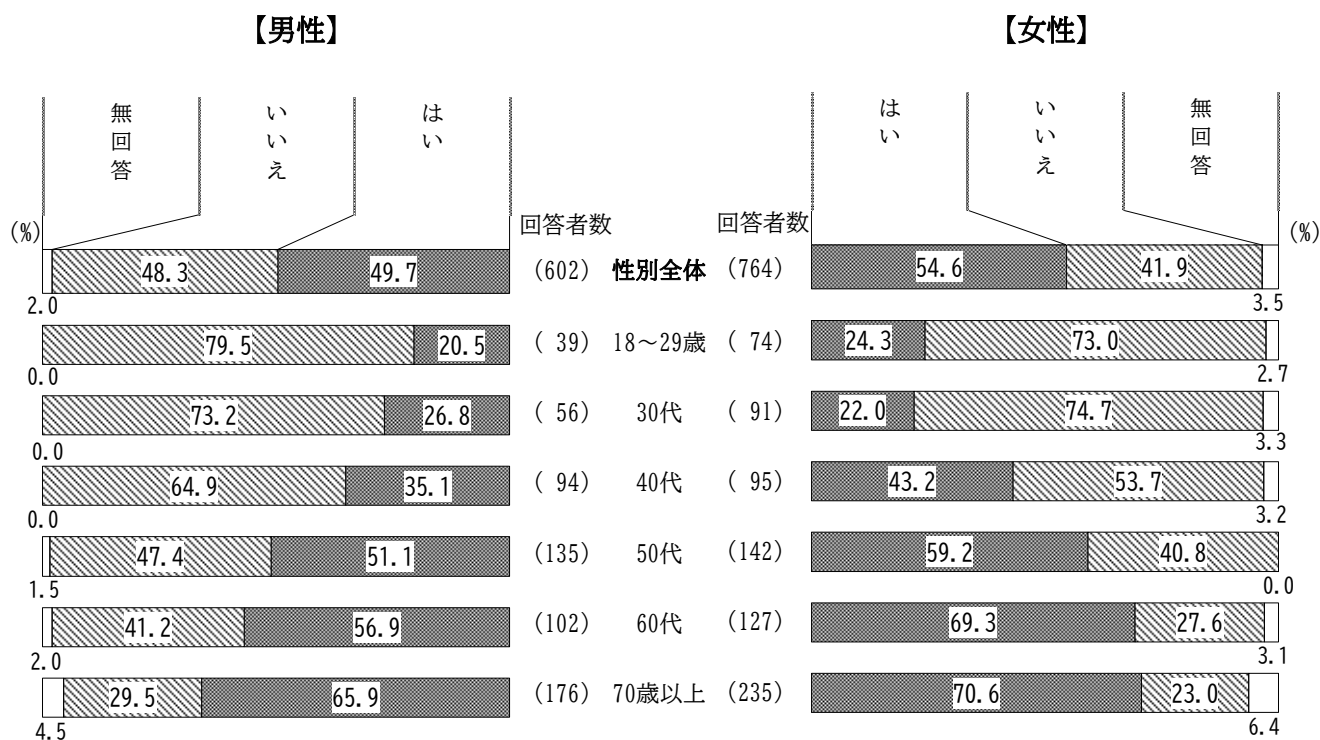


キ クロス集計・性別、性・年代別／町会・自治会の加入状況

(ア) 町会・自治会の加入状況を性別にみると、「はい（加入している）」は女性（54.6%）の方が男性（49.7%）より4.9ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、「はい（加入している）」は男女とも年齢が上がるほど割合も高くなり、女性の70歳以上で70.6%で最も高く、女性の60代（69.3%）も約7割と高くなっている。一方、「いいえ（加入していない）」は、男性の18～29歳で79.5%と最も高く、次いで、女性の30代（74.7%）となっている。

図8-3-3-② 性別、性・年代別／町会・自治会の加入状況

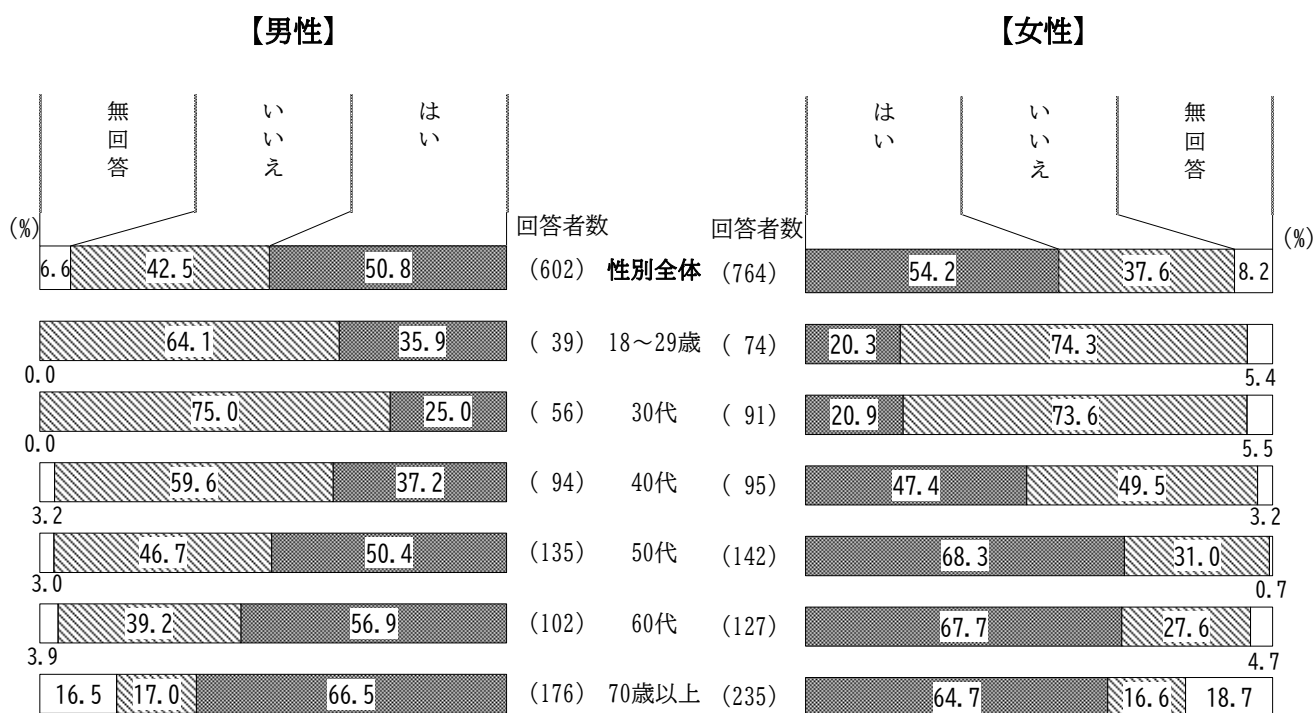


ク クロス集計・性別、性・年代別／町会・自治会活動の認知状況

(ア) 町会・自治会活動の認知状況を性別にみると、「はい（知っている）」は女性（54.2%）の方が男性（50.8%）より3.4ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、「はい（知っている）」は女性の50代が68.3%で最も高く、次いで女性の60代と男性の70歳以上が6割台後半と高くなっている。一方、「いいえ（知らない）」は、男性の30代が75.0%と最も高く、次いで、女性の18～29歳と30代で7割台となっている。

図8-3-3-③ 性別、性・年代別／町会・自治会活動の認知状況

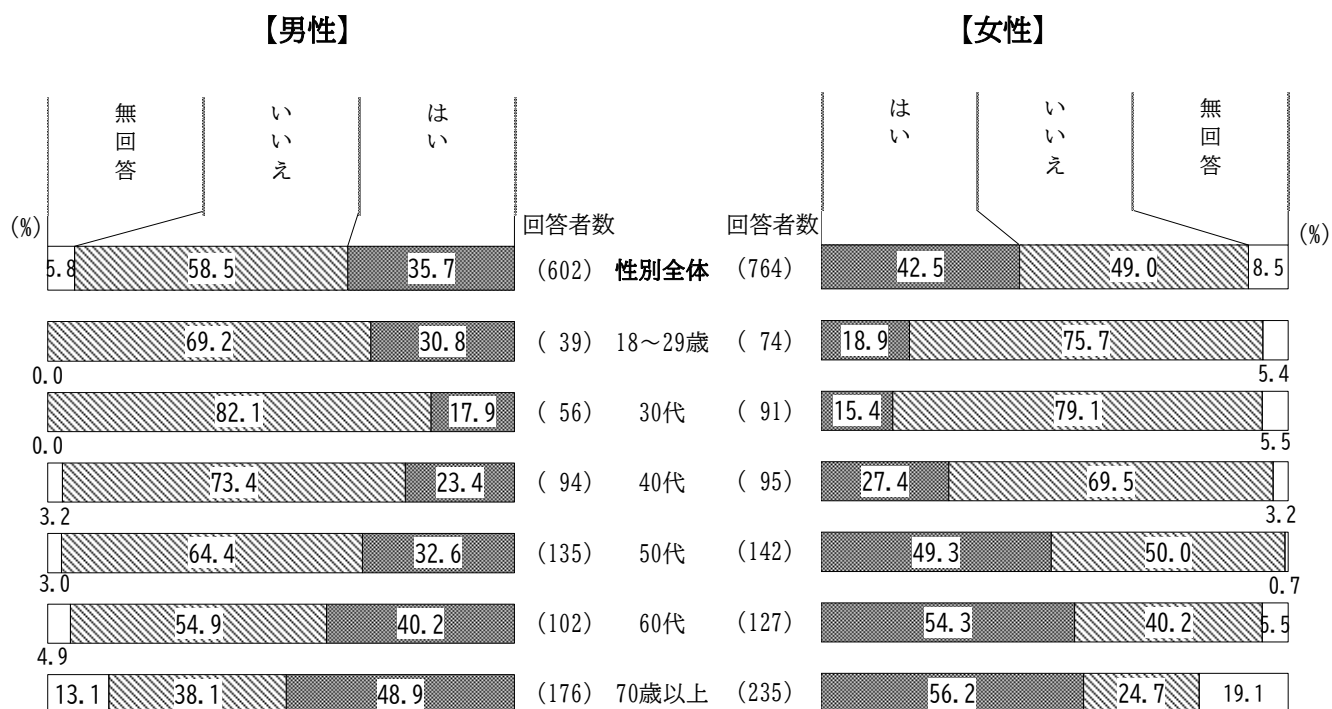


ケ クロス集計・性別、性・年代別／町会・自治会活動の参加状況

(ア) 町会・自治会の活動への参加状況を性別にみると、「はい（参加したことがある）」は女性（42.5%）の方が男性（35.7%）より6.8ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、「はい（参加したことがある）」は女性の70歳以上が56.2%で最も高く、次いで女性の60代も5割台と高くなっている。一方、「いいえ（参加したことはない）」は、男性の30代で82.1%と最も高く、次いで、女性の18～29歳と30代で7割台後半と高くなっている。

図8-3-3-④ 性別、性・年代別／町会・自治会活動の参加状況



(4) 町会・自治会に加入していない理由

問30の「イ あなたは、町会・自治会に加入していますか。」で「2 いいえ」とお答えの方に
問30-1 あなたが、町会・自治会に加入しない最も大きな理由は何ですか（○は1つだけ）。

■「加入する必要性を感じないから」が34.0%、次いで「誘われないから」が11.5%

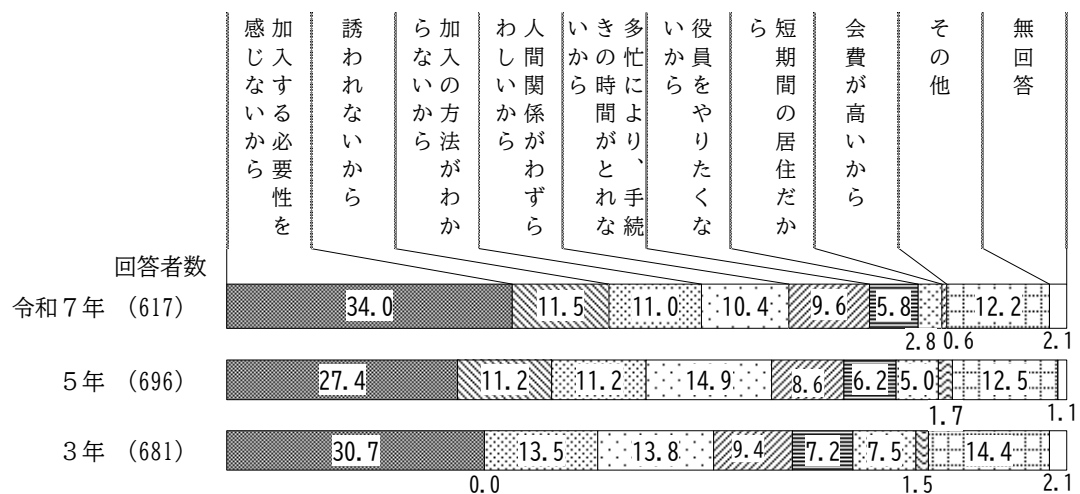
ア 単純集計・経年比較／町会・自治会に加入しない理由

（ア）町会・自治会に加入していない理由を聞いたところ、上位は以下のとおりとなった。

- ①「加入する必要性を感じないから」（34.0%）
- ②「誘われないから」（11.5%）
- ③「加入の方法がわからないから」（11.0%）
- ④「人間関係がわずらわしいから」（10.4%）

（イ）令和5年度調査との比較では、「加入する必要性を感じないから」が6.6ポイント増加し、「人間関係がわずらわしいから」が4.5ポイントの減少となっている。

図8-4-1 経年比較／町会・自治会に加入しない理由

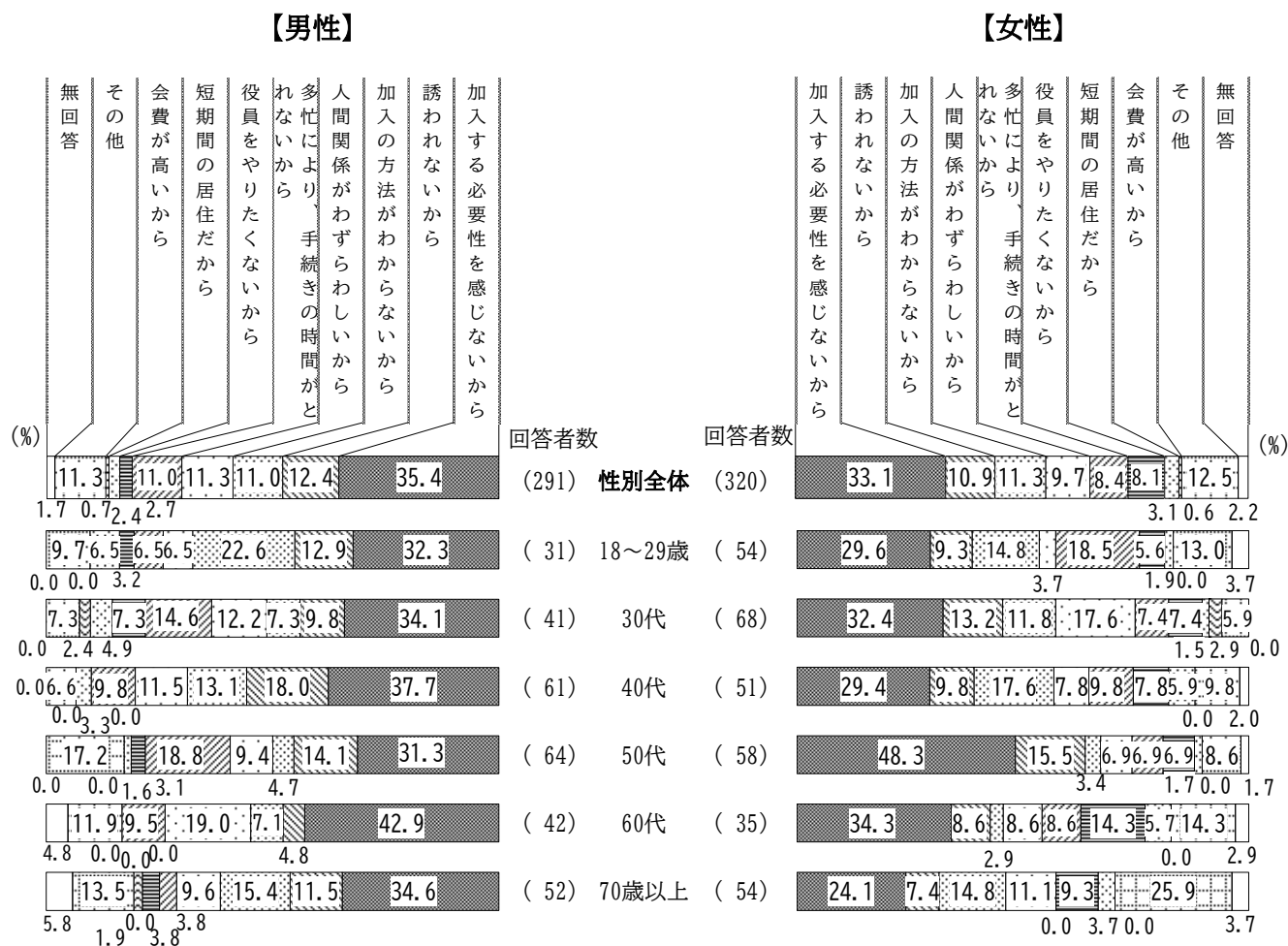


イ クロス集計・性別、性・年代別／町会・自治会に加入しない理由

(ア) 町会・自治会に加入していない理由を性別にみると、「役員をやりたくないから」は女性(8.1%)の方が男性(2.7%)より5.4ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、「加入する必要性を感じないから」は女性の50代で48.3%と最も高く、女性の70歳以上(24.1%)で最も低くなっている。また、「誘われないから」は男性の40代(18.0%)、「加入の方法がわからないから」は男性の18～29歳(22.6%)、「人間関係がわずらわしいから」は男性の60代(19.0%)でそれぞれ最も高くなっている。

図8-4-2 性別、性・年代別／町会・自治会に加入しない理由



(5) この1年間に参加した活動と、引き続き、または今後参加したい活動

問31 あなたがこの1年間に参加された活動と、引き続き、または今後あなたが参加したいと思う活動はどれですか（○はいずれも、あてはまるものすべて）。

■【参加した活動】と【引き続き、または今後参加したい活動】がともに減少

ア 単純集計・経年比較／この1年間に参加した活動

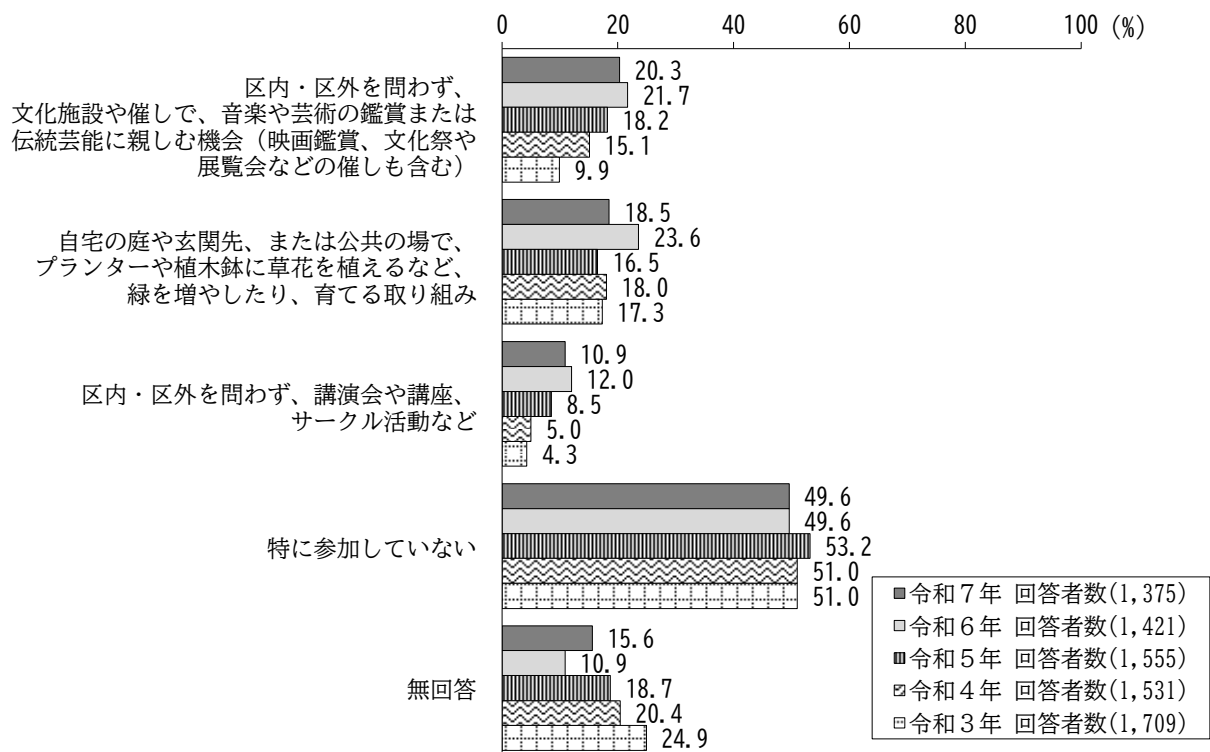
(ア) この1年間の参加状況は、「特に参加していない」が49.6%で最も高くなっている。

(イ) 【参加した活動】を高い順にみると、以下のとおりとなっている。

- ①「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」(20.3%)
- ②「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」(18.5%)
- ③「区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など」(10.9%)

(ウ) 前回調査との比較では、すべての活動で減少しており、特に「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」が5.1ポイント減少している。

図8-5-1 経年比較／この1年間に参加した活動



※「区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など」は、令和5年度から選択肢の冒頭に「区内・区外を問わず、」を加えた。

イ 単純集計・経年比較／引き続き、または今後参加したいと思う活動

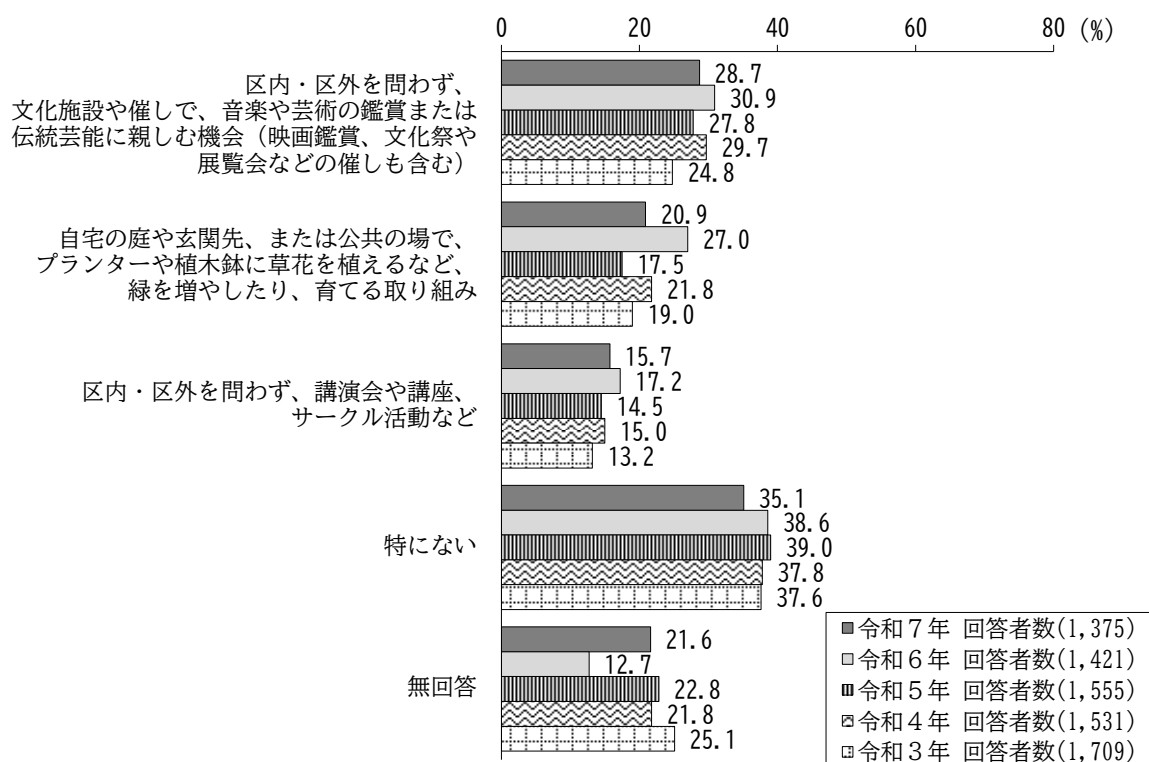
(ア) 今後の活動意向としては、「特にない」が35.1%で最も高くなっている。

(イ) 【引き続き、または今後参加したいと思う活動】を高い順にみると、以下のとおりとなっている。

- ①「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」(28.7%)
- ②「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」(20.9%)
- ③「区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など」(15.7%)

(ウ) 前回調査との比較では、すべての活動で減少しており、特に「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」で6.1ポイント減少している。

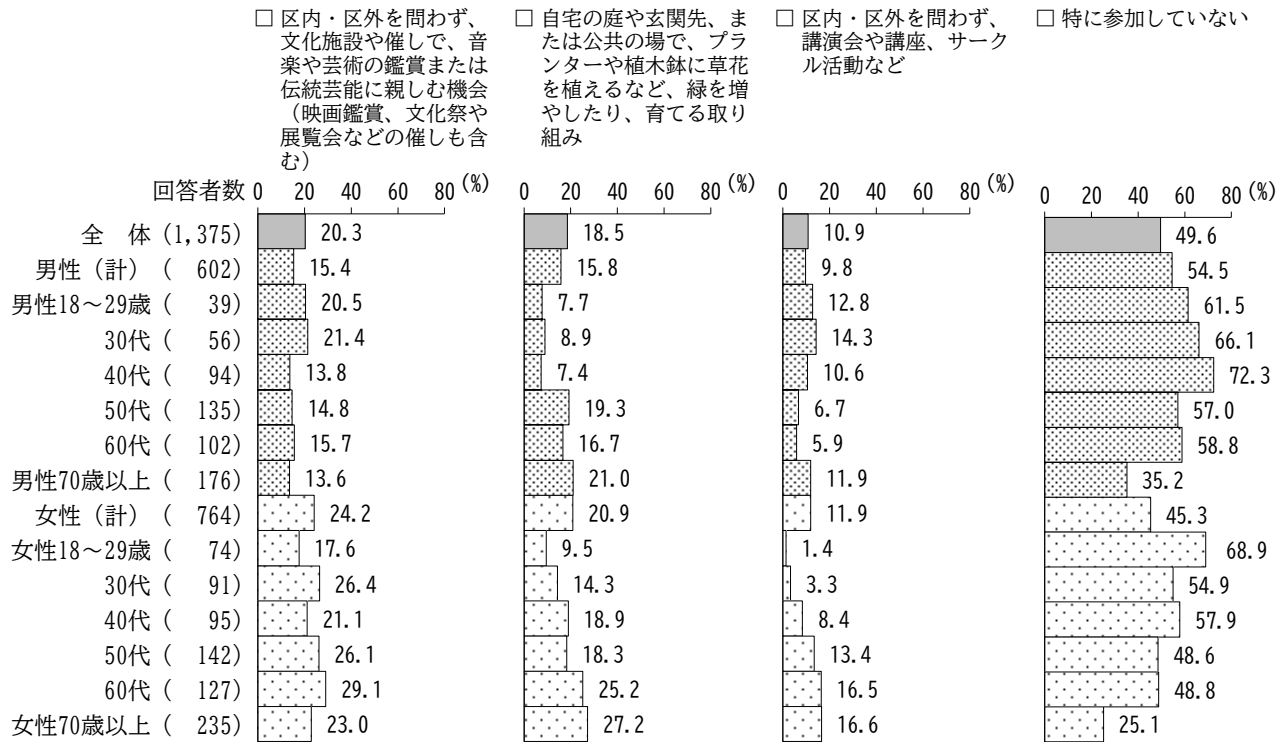
図8-5-2 経年比較／引き続き、または今後参加したいと思う活動



ウ クロス集計・性別、性・年代別／この1年間に参加した活動

- (ア) 性別で参加状況をみると、「特に参加していない」は男性（54.5%）の方が女性（45.3%）より9.2ポイント高くなっている。
- (イ) 【参加した活動】について性別でみると、全て女性の方が高くなっており、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は女性（24.2%）の方が男性（15.4%）より8.8ポイント高くなっている。
- (ウ) 性・年代別でみると、「特に参加していない」は男性の40代で7割台と高く、次いで、女性の18～29歳で7割弱となっている。「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は女性の60代で約3割と他の性年代層に比べて高く、逆に男性70歳以上で13.6%と最も低くなっている。

図8-5-3 性別、性・年代別／この1年間に参加した活動



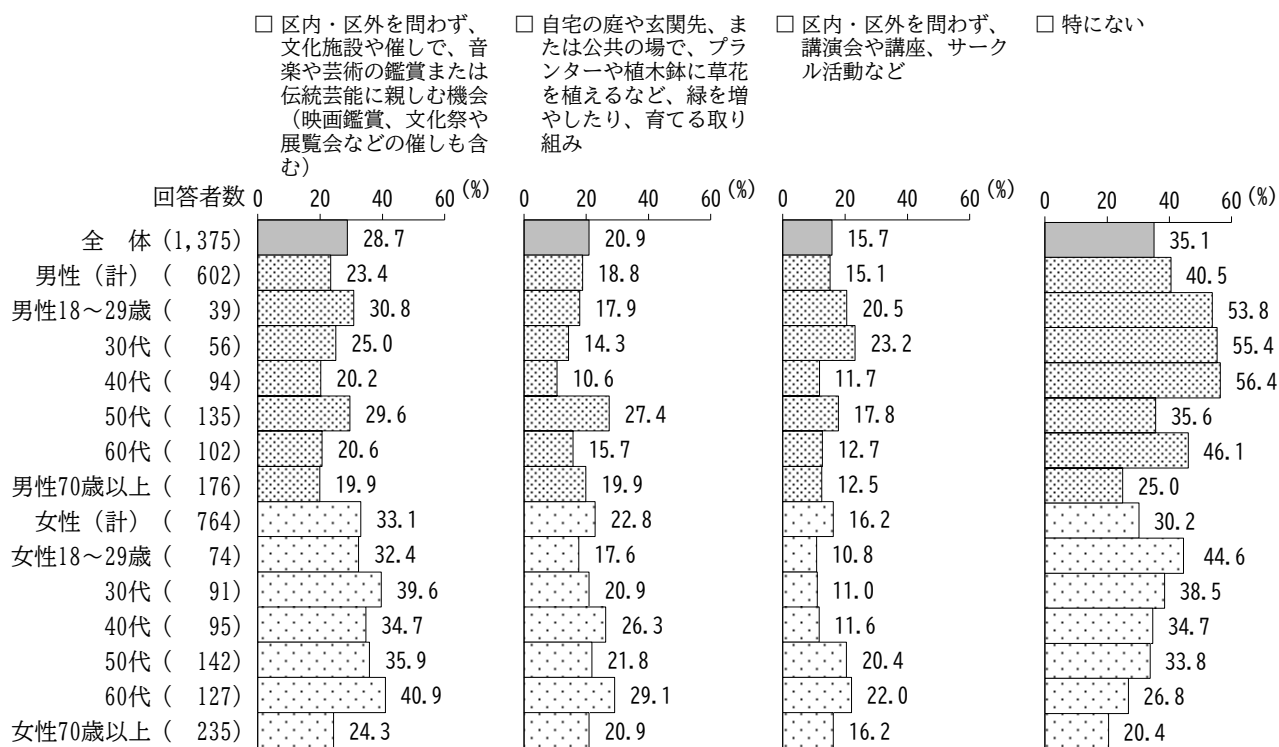
エ クロス集計・性別、性・年代別／引き続き、または今後参加したいと思う活動

(ア) 性別でみると、「特にない」は男性（40.5%）の方が女性（30.2%）より10.3ポイント高くなっている。

(イ) 【引き続き、または今後参加したいと思う活動】について性別でみると、全て女性の方が高くなっており、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は女性（33.1%）の方が男性（23.4%）より9.7ポイント高くなっている。

(ウ) 性・年代別でみると、「特にない」は男性の40代以下の年代で5割台半ばと高くなっている。「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は女性の60代が4割と最も高く、逆に男性の70歳以上が約2割と最も低くなっている。

図8-5-4 性別、性・年代別／引き続き、または今後参加したいと思う活動

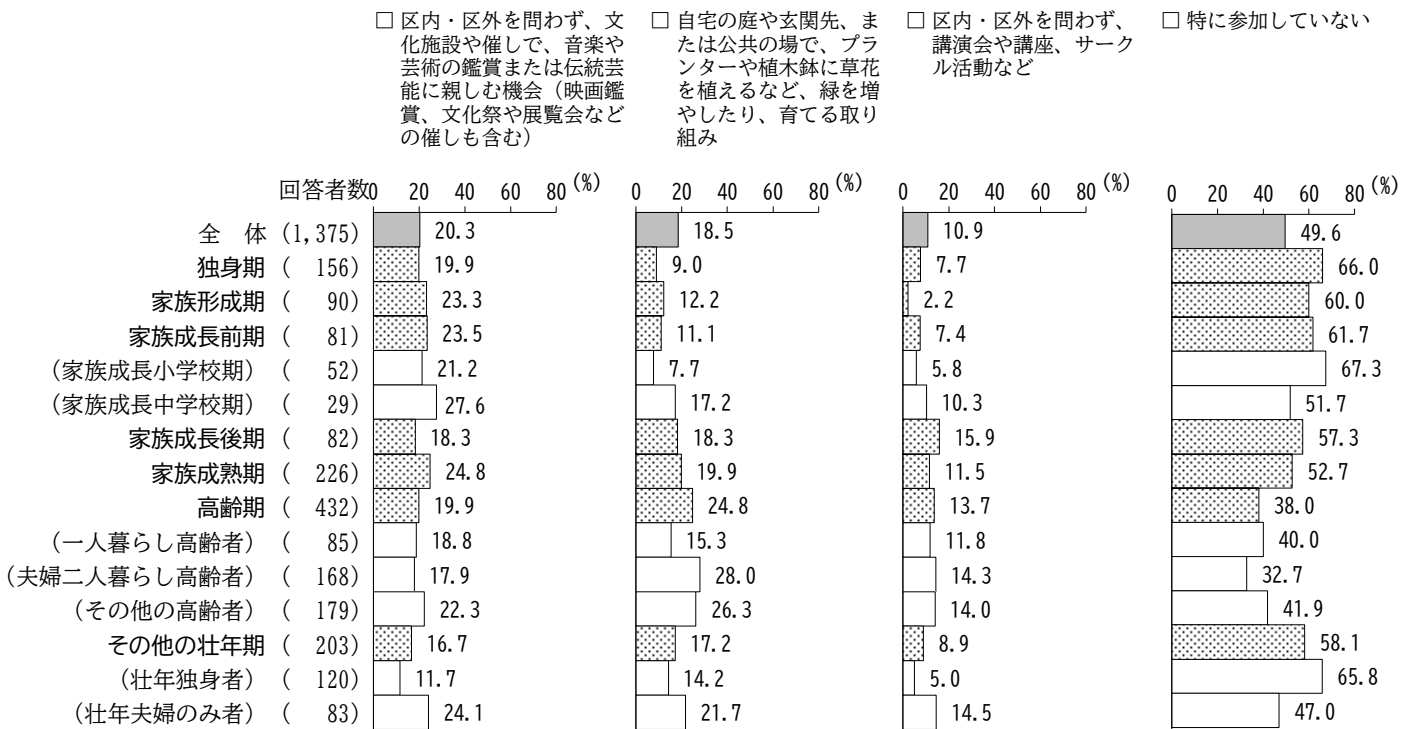


オ クロス集計・ライフステージ別／この1年間に参加した活動

(ア) ライフステージ別にみると、「特に参加していない」は〈独身期〉が66.0%で最も高く、〈高齢期〉が38.0%で最も低くなっている。

(イ) 【参加した活動】では、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は〈家族成熟期〉が24.8%で最も高く、〈その他の壮年期〉が16.7%で最も低くなっている。また、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は〈高齢期〉が24.8%で最も高く、〈独身期〉が9.0%で最も低くなっている。

図8-5-5 ライフステージ別／この1年間に参加した活動

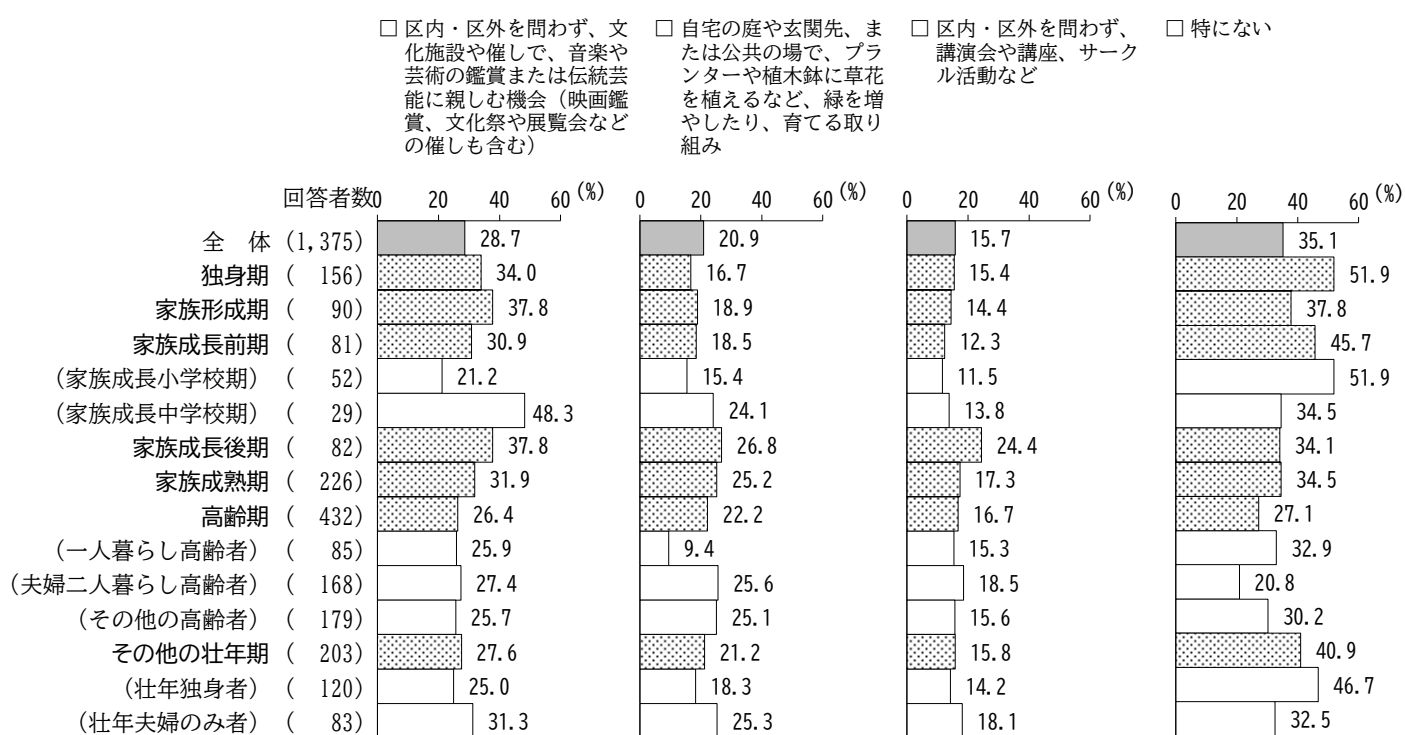


カ クロス集計・ライフステージ別／引き続き、または今後参加したいと思う活動

(ア) ライフステージ別にみると、「特にない」は〈独身期〉が51.9%で最も高く、〈高齢期〉が27.1%で最も低くなっている。

(イ) 【引き続き、または今後参加したいと思う活動】では、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は〈家族形成期〉と〈家族成長後期〉がそれぞれ37.8%で最も高く、〈高齢期〉が26.4%で最も低くなっている。また、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は〈家族成長後期〉が26.8%で最も高く、〈独身期〉が16.7%で最も低くなっている。

図8-5-6 ライフステージ別／引き続き、または今後参加したいと思う活動



(6) 居住地域のごみと資源の収集日の認知状況

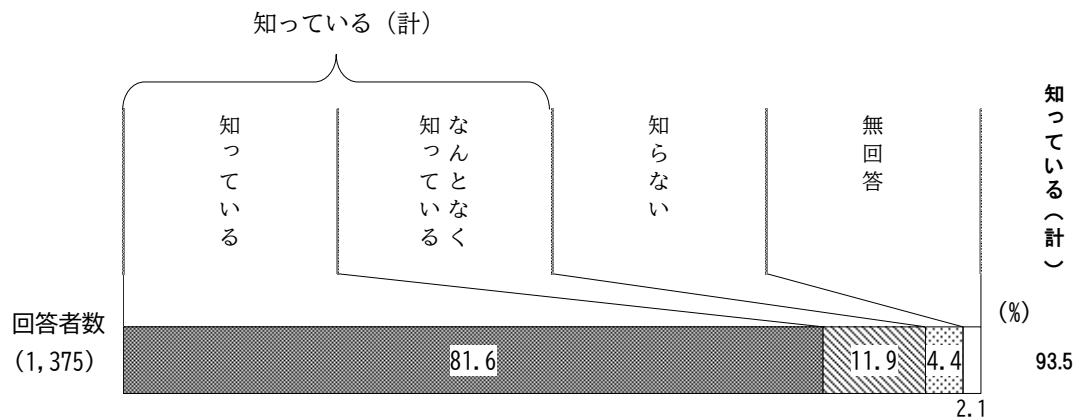
問32 あなたは、お住いの地域のごみと資源の収集日を知っていますか（○は1つだけ）。

■「知っている」は8割超で、【知っている】では9割台半ばを占める

ア 単純集計／居住地域のごみと資源の収集日の認知状況

居住地域のごみと資源の収集日の認知状況は、「知っている」（81.6％）が8割超で、「なんとなく知っている」（11.9％）を合わせた【知っている】では9割台半ばを占めている。なお、「知らない」は4.4％となっている。

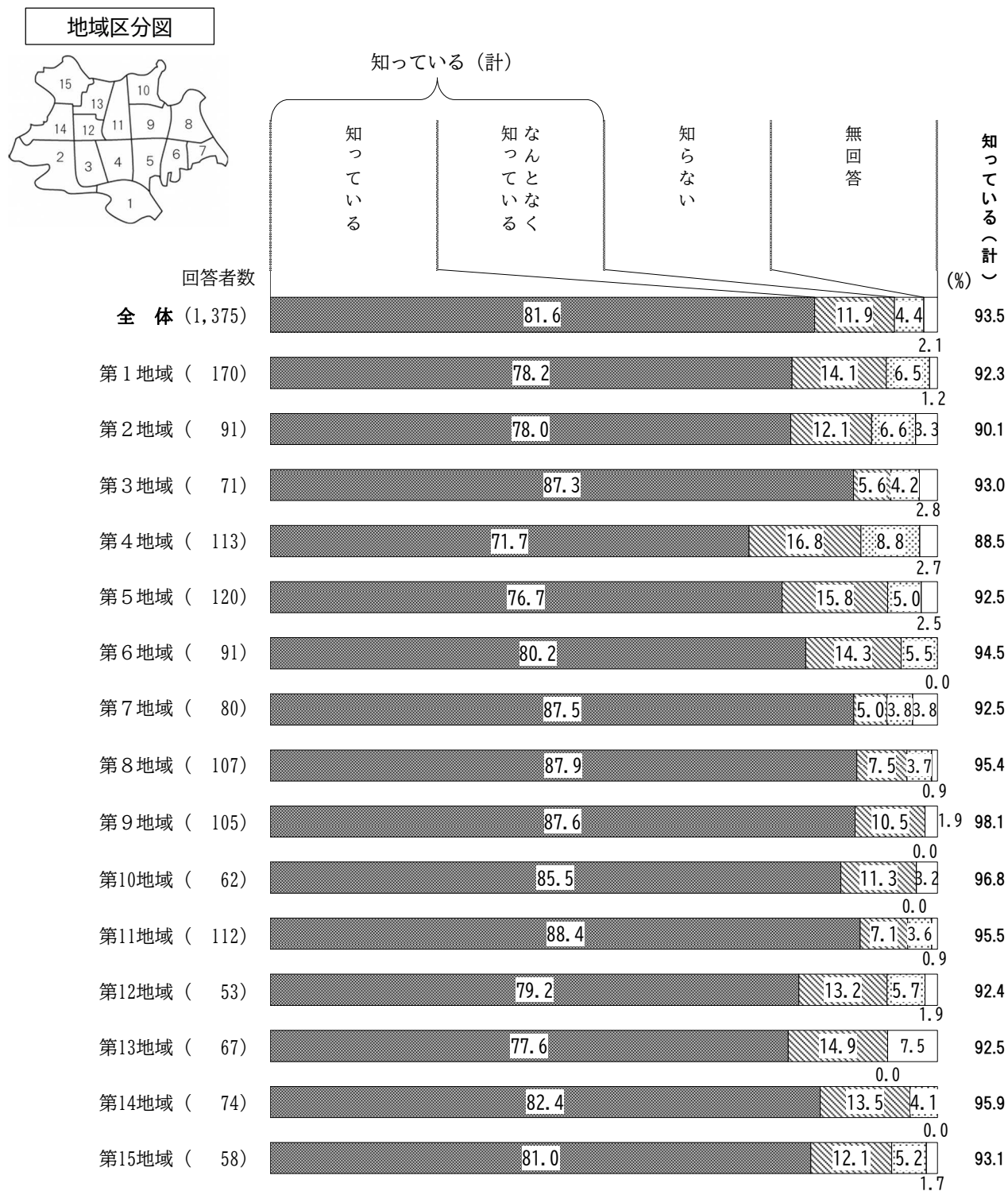
図8-6-1 単純集計／居住地域のごみと資源の収集日の認知状況



イ クロス集計・地域別／居住地域のごみと資源の収集日の認知状況

地域別でみると、【知っている】は第9地域が98.1%で最も高く、次いで、第10地域(96.8%)となっている。一方、「知らない」は第4地域(8.8%)が最も高くなっている。

図8-6-2 地区別／居住地域のごみと資源の収集日の認知状況



9 「孤立ゼロプロジェクト」など

-
- (1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況
 - (2) 地域包括支援センター、及び業務内容の認知
 - (3) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向
 - (4) 「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況
 - (5) 「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況
 - (6) 仕事と仕事以外の生活の調和
 - (7) 「福祉まるごと相談課」の認知
 - (8) 「身体的暴力以外のDV」「L G B T」の認知状況
-

(1)「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

問33 あなたは、足立区の「孤立ゼロプロジェクト（※）」という取り組みを知っていますか（○は1つだけ）。

※「孤立ゼロプロジェクト」とは、地域における見守り活動を支援するとともに、日常的な寄り添い支援活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動をいいます。

■【知っている】は3割台半ばで、「知らない（初めて聞いた）」が6割台半ば

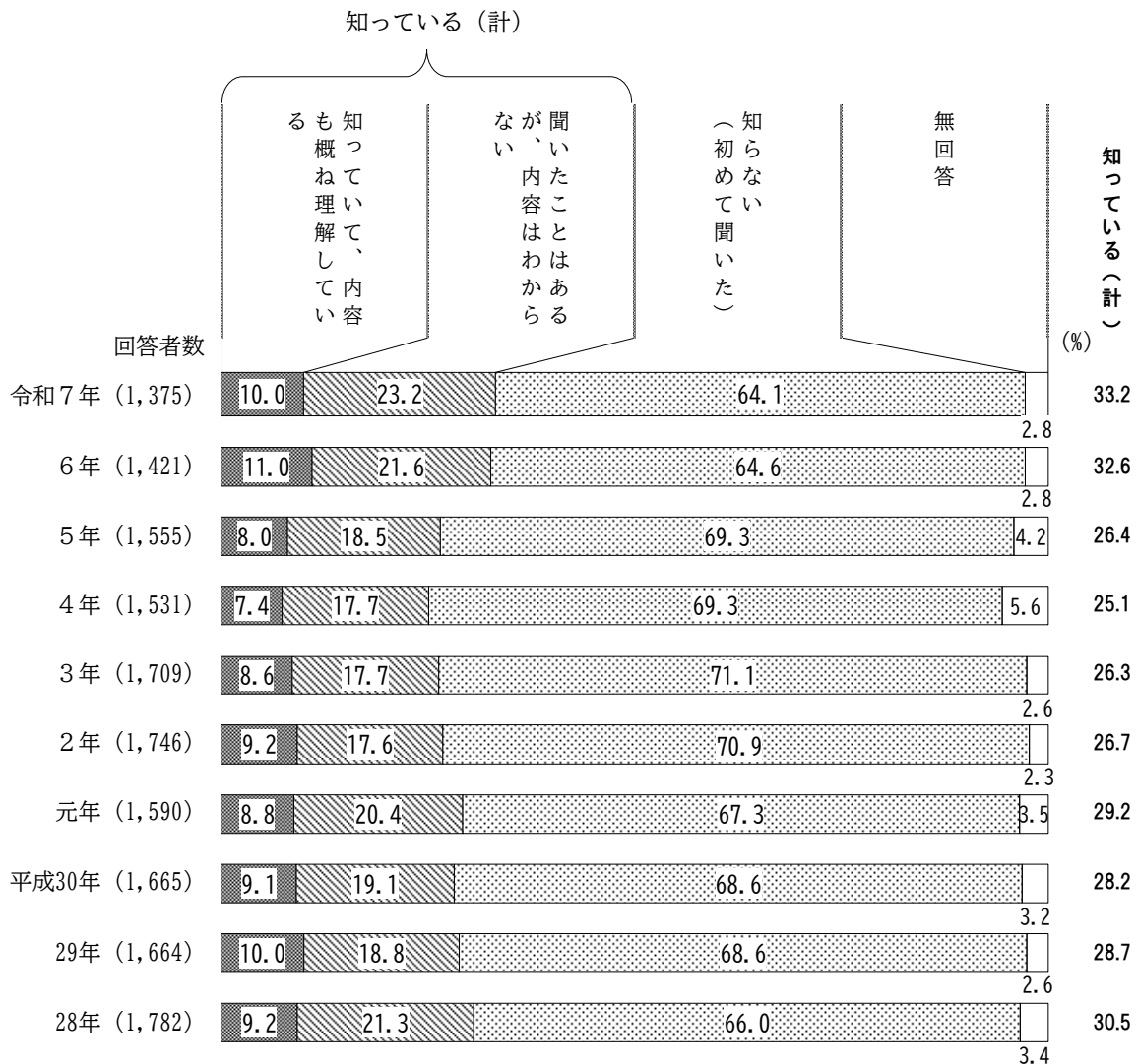
ア 単純集計・経年比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

(ア)「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況は、「知っていて、内容も概ね理解している」が10.0%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」の23.2%を合わせた【知っている】は33.2%となっている。

(イ)「孤立ゼロプロジェクト」を「知らない（初めて聞いた）」は64.1%を占めている。

(ウ) 前回調査との比較では、【知っている】は大きな違いは見られない。

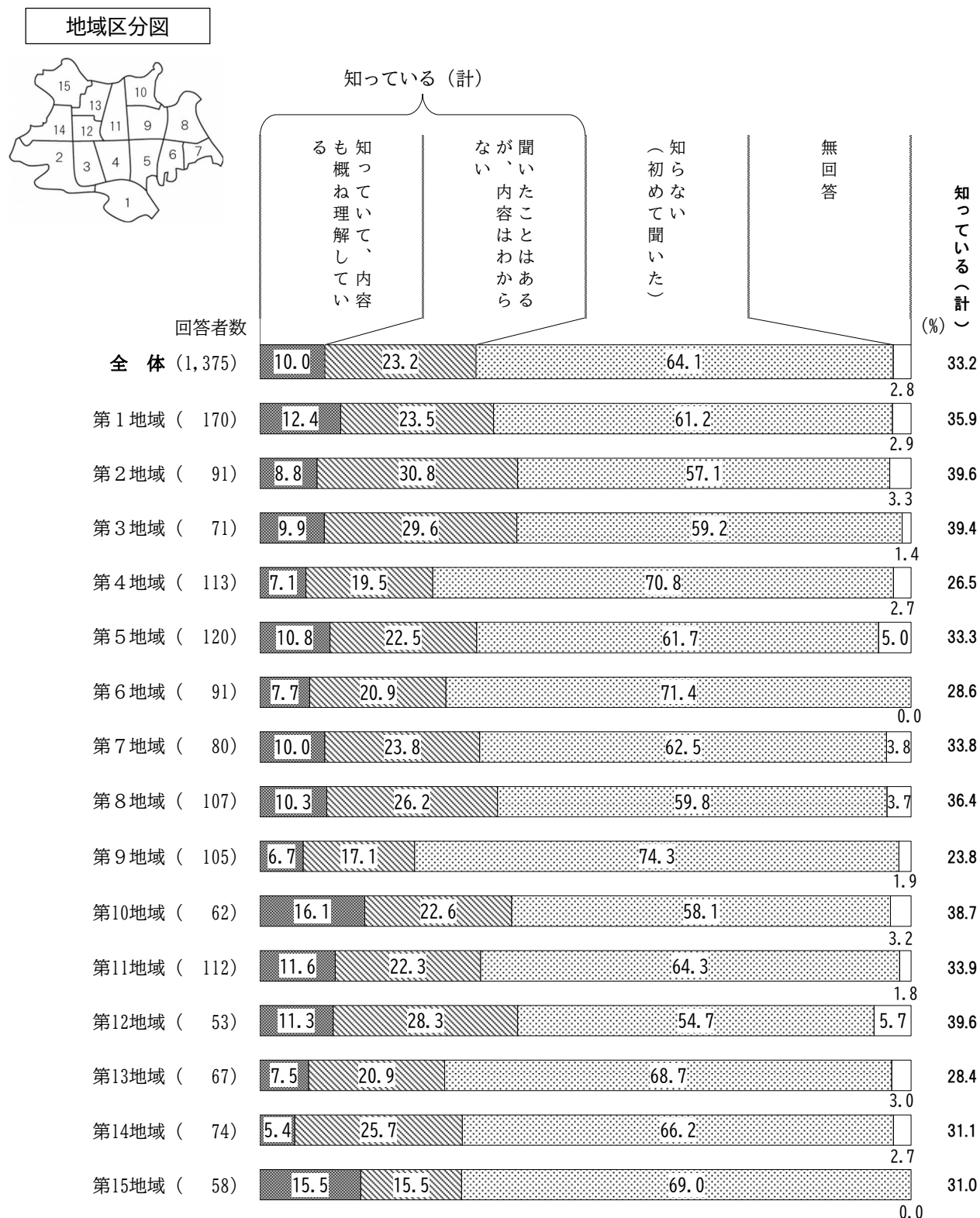
図9-1-1 経年比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



イ クロス集計・地域別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

地域別でみると、【知っている】は第2地域と第12地域が39.6%で最も高く、次いで第3地域（39.4%）となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は第9地域が74.3%で最も高く、次いで第6地域（71.4%）、第4地域（70.8%）が7割台となっている。

図9-1-2 地域別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

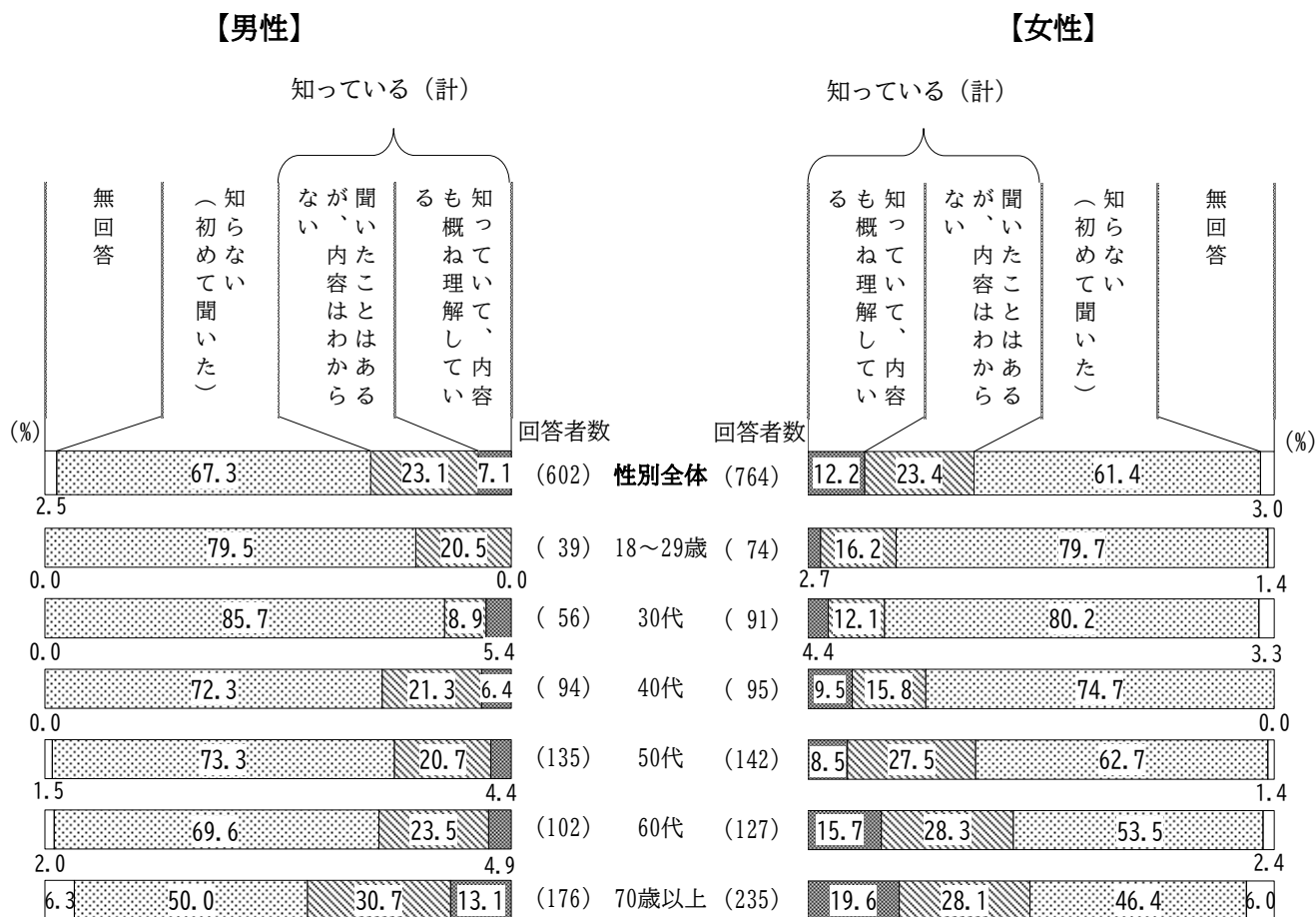


ウ クロス集計・性別、性・年代別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

(ア) 性別でみると、【知っている】は女性（35.6％）の方が男性（30.2％）より5.4ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【知っている】は女性の70歳以上が47.7％と最も高く、女性の60代（44.1％）、男性の70歳以上（43.8％）が4割台で続いている。一方、「知らない」は男性の30代（85.7％）と女性の30代（80.2％）で8割台と高くなっている。

図9－1－3 性別、性・年代別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



(2) 地域包括支援センター、及び業務内容の認知

問34 現在、区内には、高齢者の介護や生活上の相談等を受ける地域包括支援センターがあります。あなたは、地域包括支援センター（ホウカツ）の業務内容を知っていますか
（○はあてはまるものすべて）。

- 【業務内容を知っている】が5割を超え、「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」が2割台半ば超
- 知っている業務内容は、「高齢者の健康や介護の相談」、「介護保険サービスの相談」、「高齢者宅への訪問調査」の順

ア 単純集計／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

（ア）地域包括支援センターの認知については、【業務内容を知っている】が51.3%で、「地域包括支援センターは知っているが、業務内容は知らない」が17.3%、「地域包括支援センターを知らない」が27.6%となっている。

（イ）知っている業務内容の上位は以下のとおりとなっている。

- ①「高齢者の健康や介護の相談」（46.5%）
- ②「介護保険サービスの相談」（33.1%）
- ③「高齢者宅への訪問調査」（27.1%）

（ウ）前回調査と比較してみると、「地域包括支援センターを知らない」が2.9ポイント減少し、減少傾向となっている。

図9-2-1-① 経年比較／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

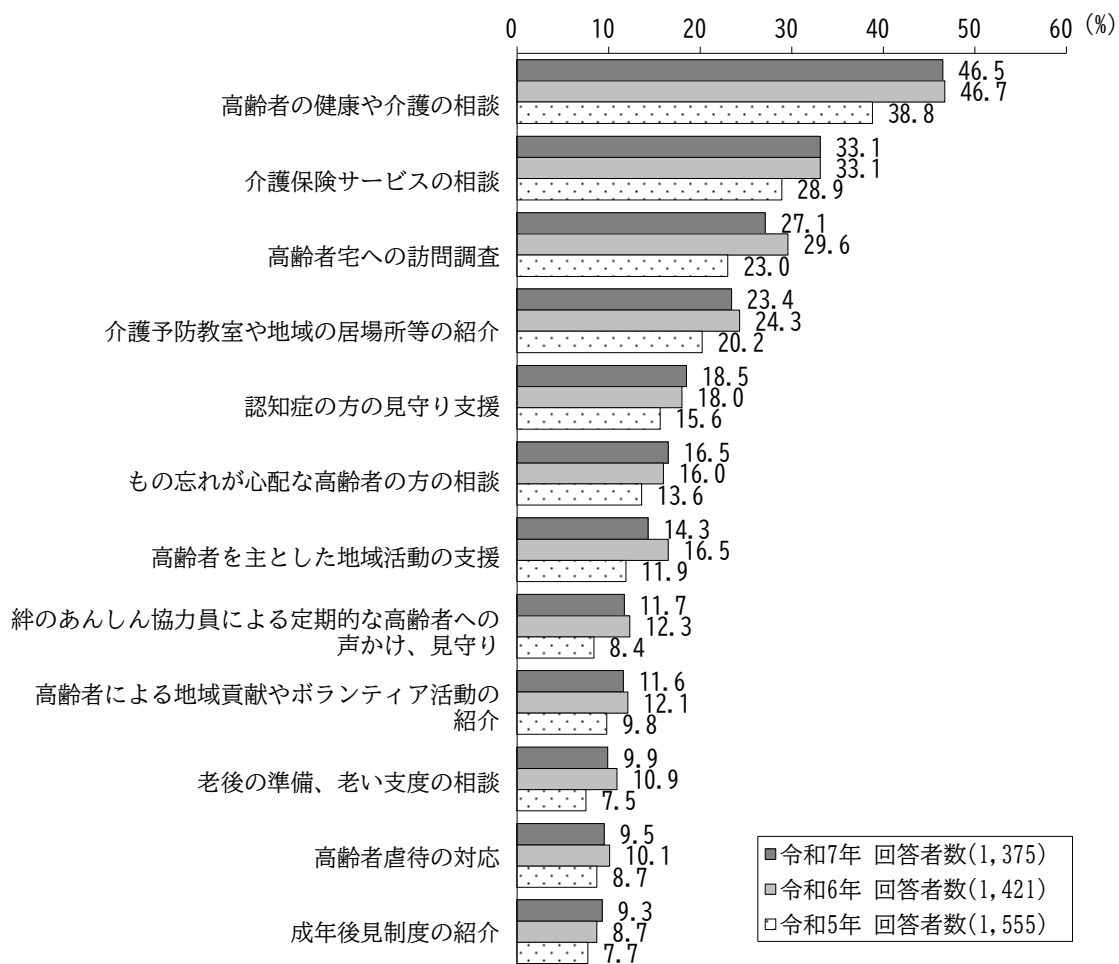
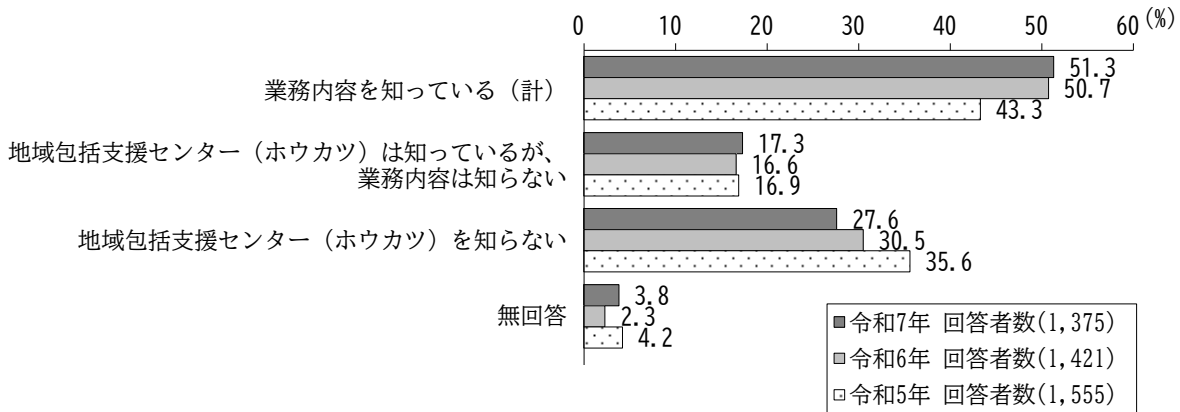


図9-2-1-② 経年比較／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

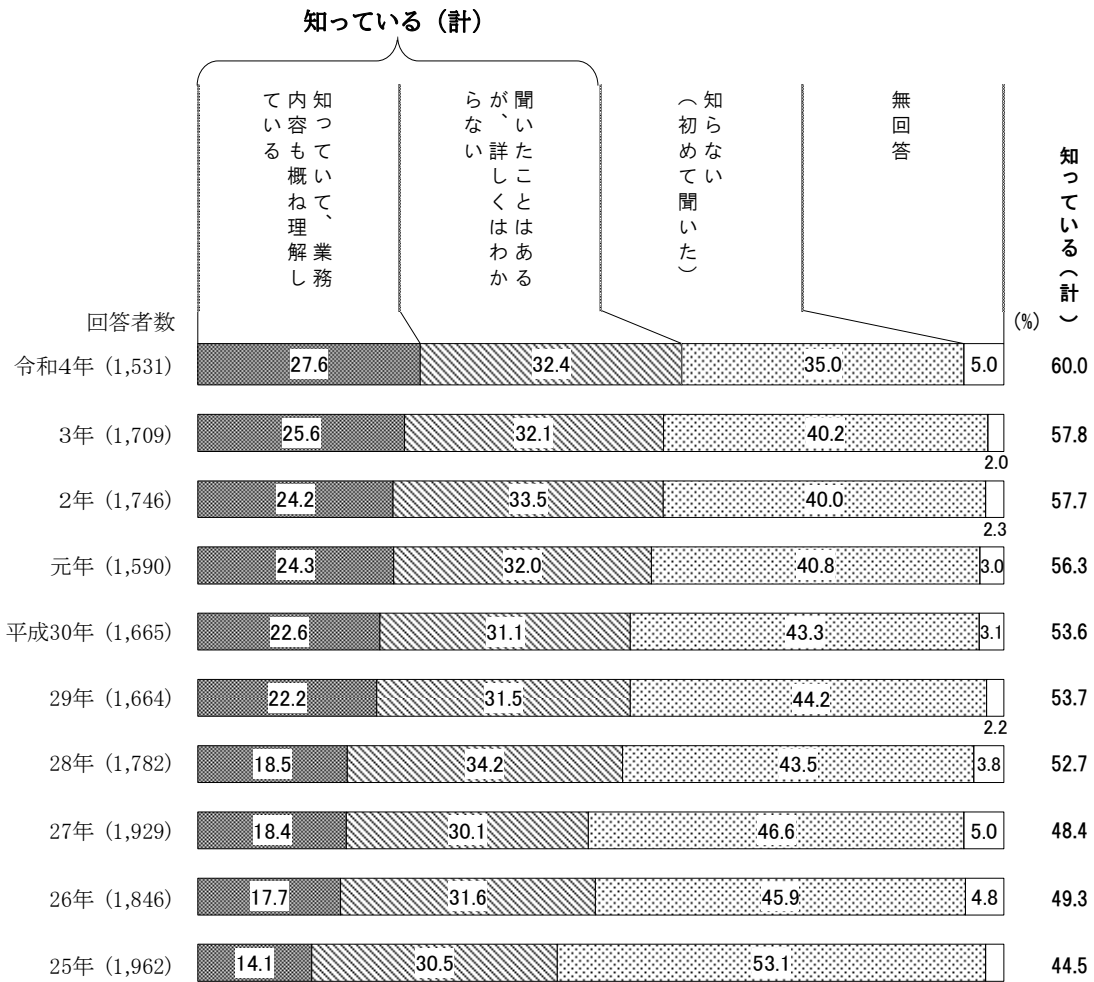


※《業務内容を知っている（計）》＝100％－「地域包括支援センター（ホウカツ）は知っているが、業務内容は知らない」－「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」－「無回答」

参考／地域包括支援センターの認知

問 あなたは、「地域包括支援センター（※）」を知っていますか（○は1つだけ）。

※「地域包括支援センター」は、足立区から委託を受けた公的な「高齢者の総合相談窓口」です。高齢者やご家族の方の健康や介護に関する様々なご相談に応じています。



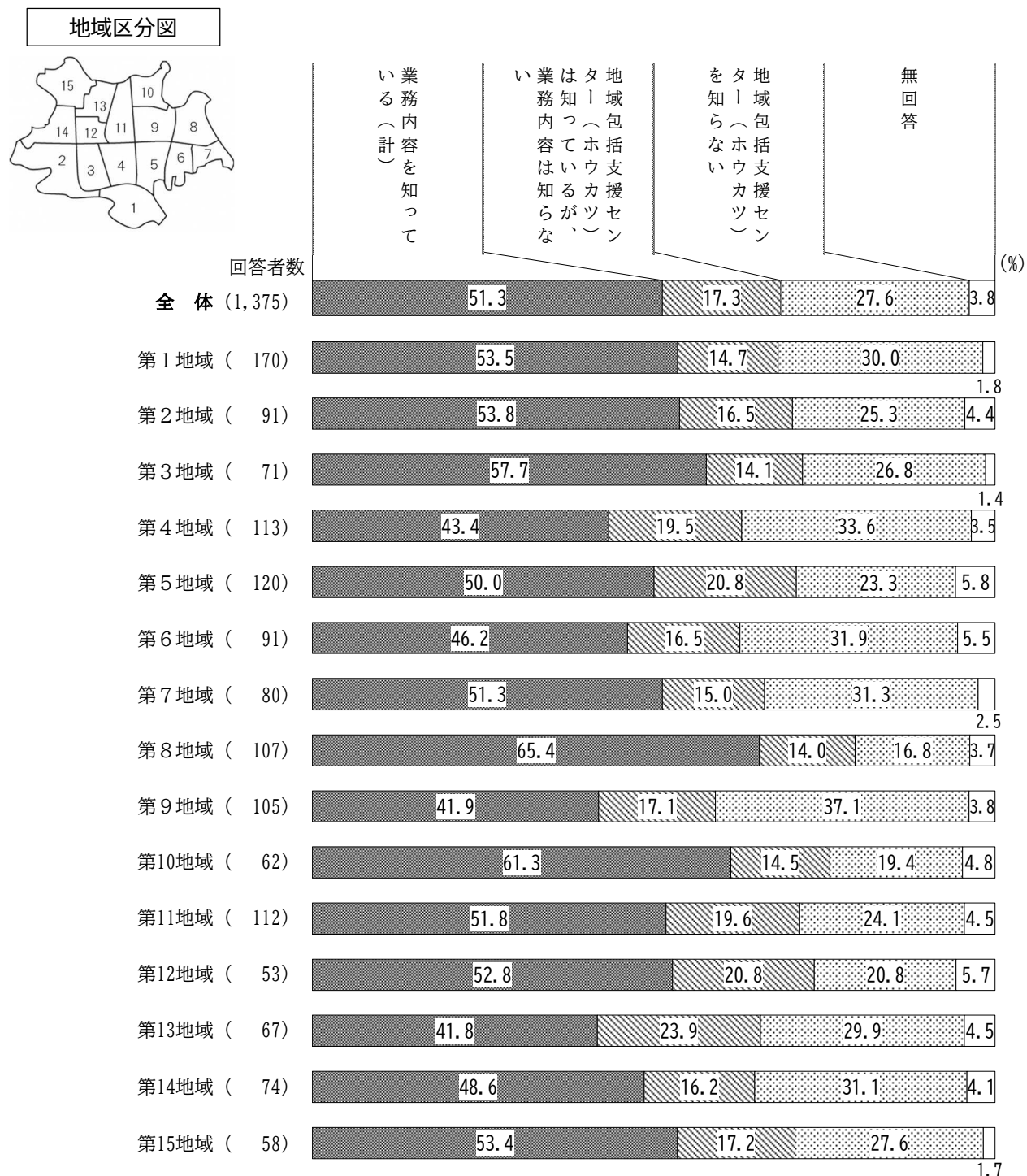
※ 令和4年度までは「地域包括支援センター」の認知のみを聴いていたが、令和5年度からは認知に併せて、業務内容を選択肢で提示して聴いたことから、認知状況に影響を与えたと考えられるため、単純に比較できない。

イ クロス集計・地域別／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

(ア) 地域別に認知状況をみると、《業務内容を知っている》は第8地域が65.4%で最も高く、次いで、第10地域(61.3%)が6割台で続いている。

(イ) 「地域包括支援センター(ホウカツ)を知らない」は第9地域が37.1%で最も高く、次いで、第4地域が33.6%となっている。

図9-2-2 地域別／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

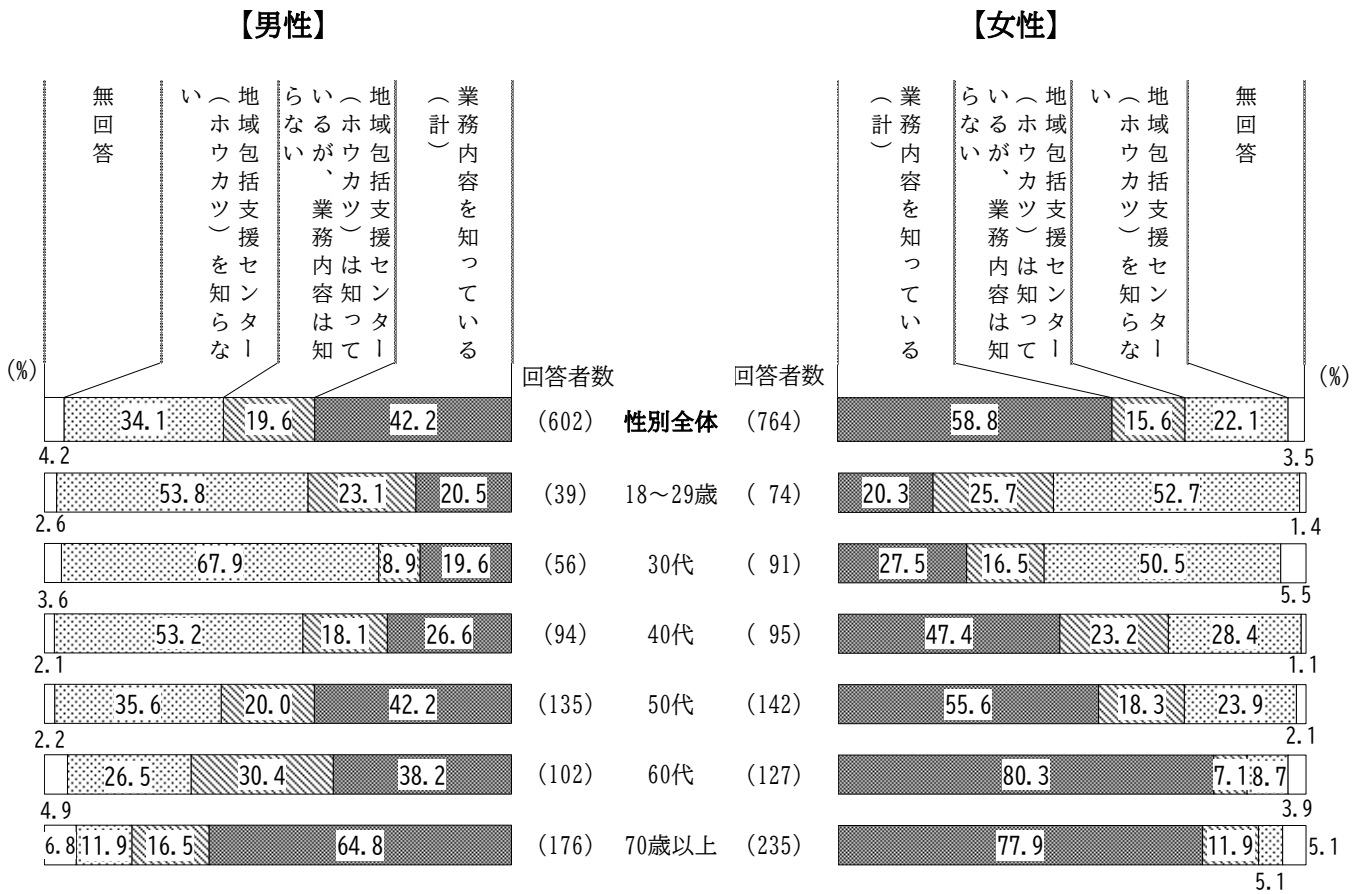


ウ クロス集計・性別、性・年代別／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

(ア) 性別にみると、《業務内容を知っている》は、女性（58.8%）の方が男性（42.2%）より16.6ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、《業務内容を知っている》は、女性の60代で80.3%と最も高く、次いで、女性の70歳以上（77.9%）、男性の70歳以上（64.8%）などとなっている。一方、「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」は男性の30代で67.9%と最も高く、男性の18～29歳と40代、女性の18～29歳、30代で5割台となっている。

図9-2-3 性別、性・年代別／地域包括支援センター、及び業務内容の認知



(3) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

問35 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動に協力してみたいですか（○は1つだけ）。

■【協力したい】は2割台半ば、【協力できない】は4割

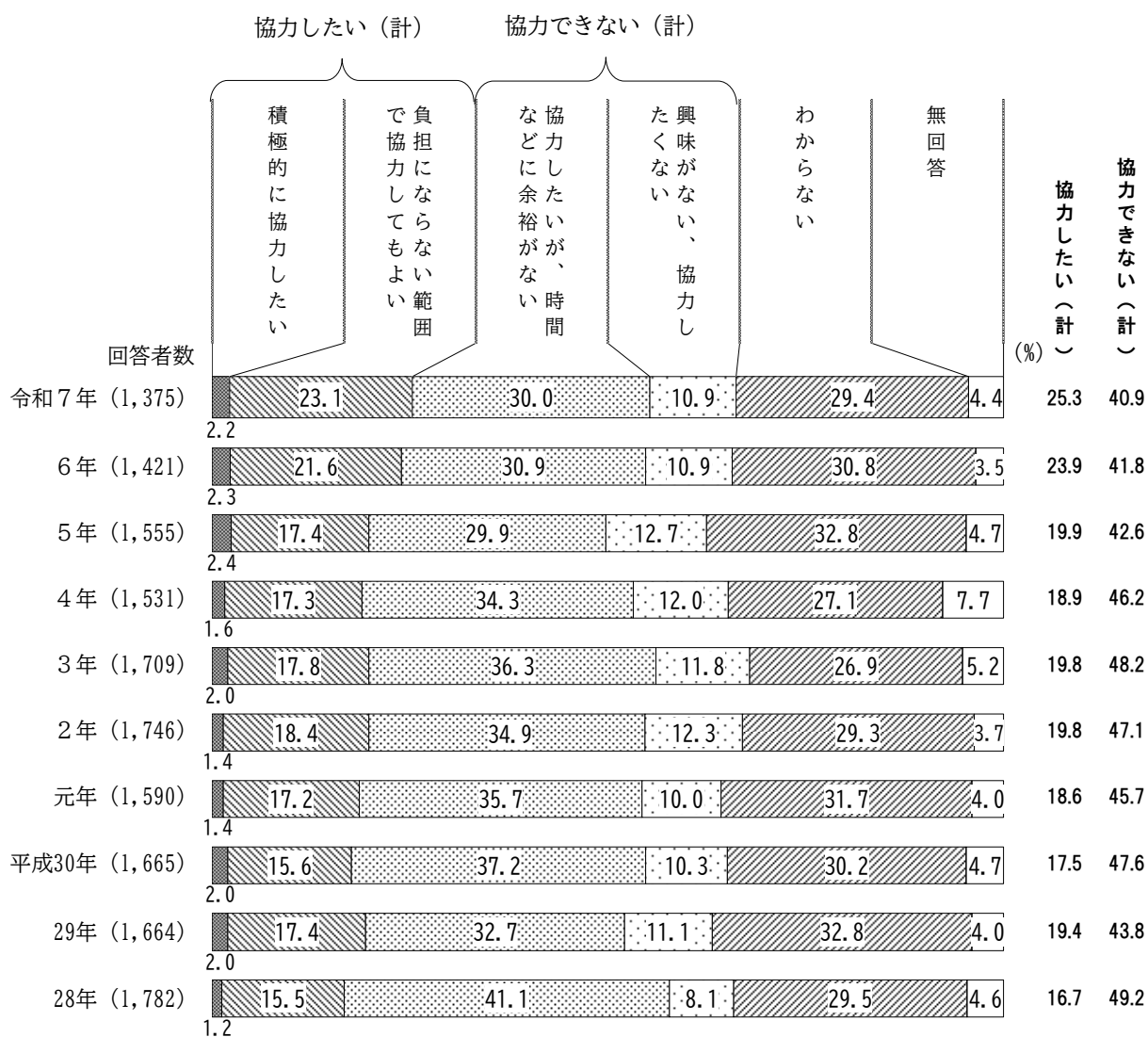
ア 単純集計・経年比較／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

（ア）高齢者の孤立防止や見守り活動に「積極的に協力したい」は2.2%で、これに「負担にならない範囲で協力してもよい」(23.1%)を合わせた【協力したい】は25.3%となっている。

（イ）活動に「協力したいが、時間などに余裕がない」は30.0%で最も高く、これに「興味がない、協力したくない」(10.9%)を合わせた【協力できない】は40.9%となっている。

（ウ）前回調査との比較では、特に大きな違いは見られない。

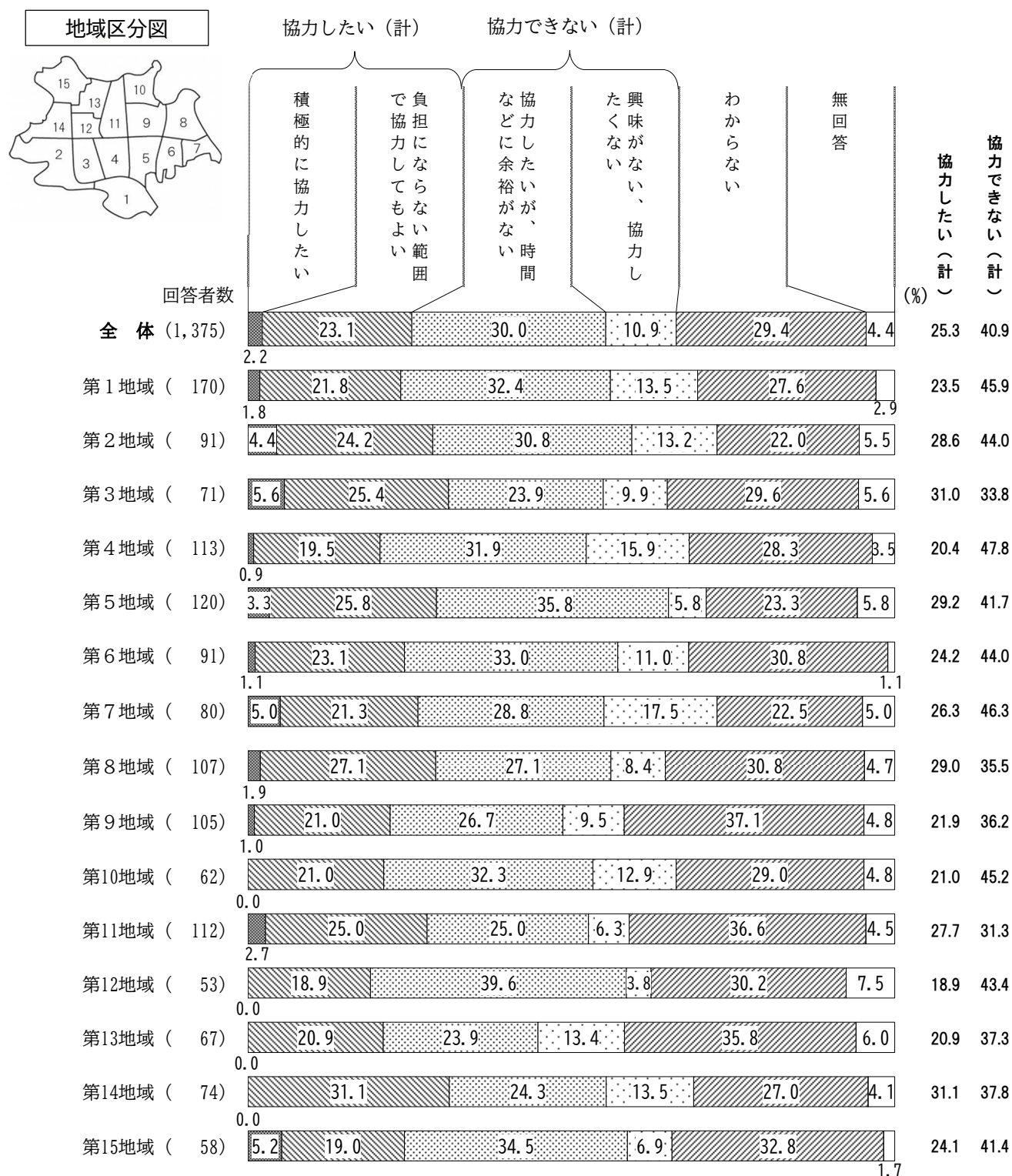
図9-3-1 経年比較／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



イ クロス集計・地域別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

地域別でみると、【協力したい】は第14地域が31.1%で最も高く、僅差で第3地域（31.0%）となっている。一方、【協力できない】は第4地域が47.8%と最も高く、次いで、第7地域（46.3%）となっている。

図9-3-2 地域別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

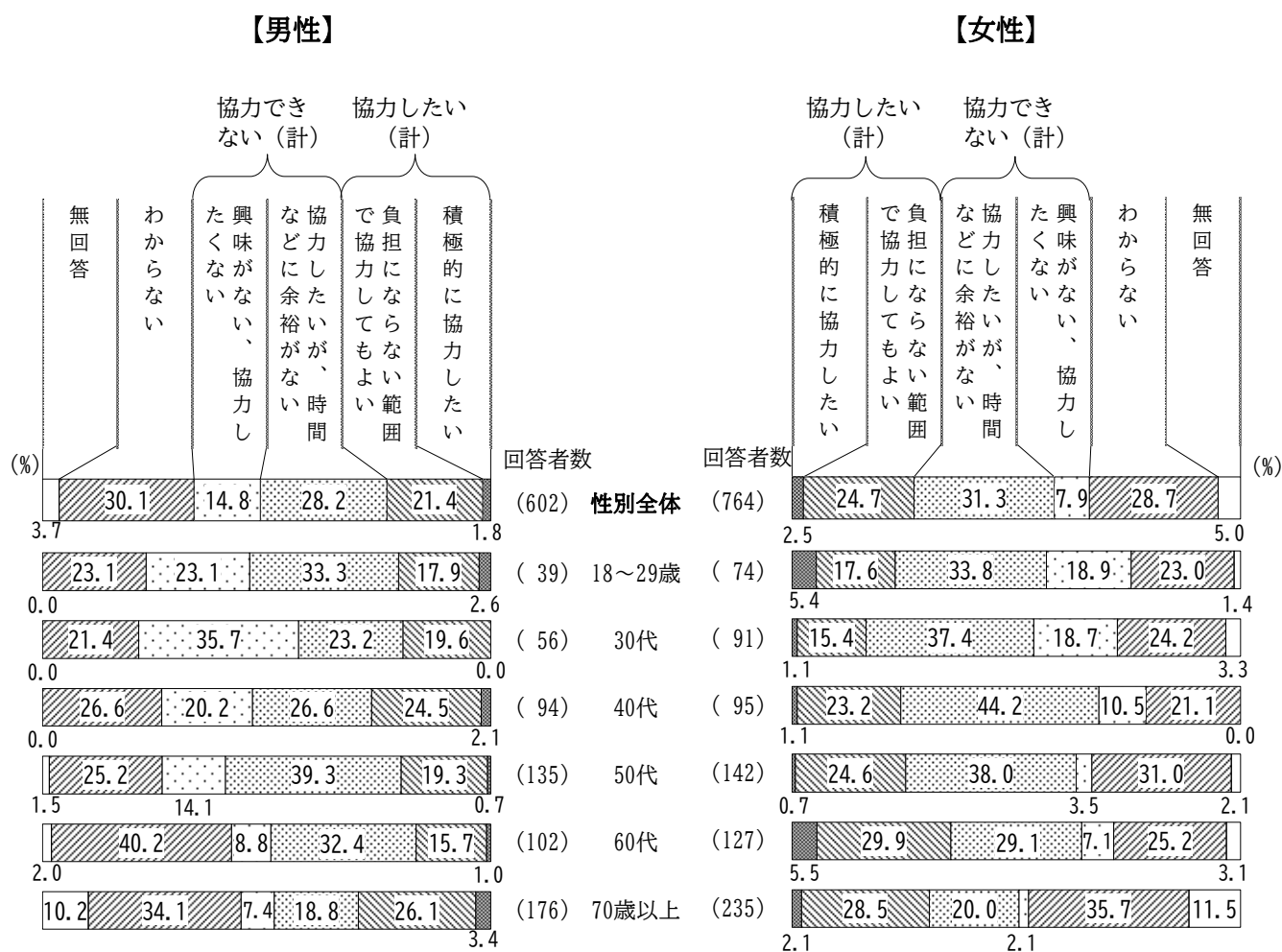


ウ クロス集計・性別・性・年代別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

(ア) 性別でみると、【協力したい】は女性（27.2％）の方が男性（23.3％）より3.9ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【協力したい】は女性の60代（35.4％）が3割台半ばと高く、次いで、女性の70歳以上（30.6％）となっている。一方、【協力できない】は、男性の18～29歳と30代、50代、女性の40代以下の年齢層で5割台と高くなっている。

図9-3-3 性別・性・年代別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



(4)「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

問36 あなたは、高齢期におこりやすい、筋力や心身の機能などが低下し、衰弱した状態「フレイル」にならないためには、「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」が大切なことを知っていますか（○は1つだけ）。

■【知っている】は5割台半ば超、「知らない（初めて聞いた）」は約4割

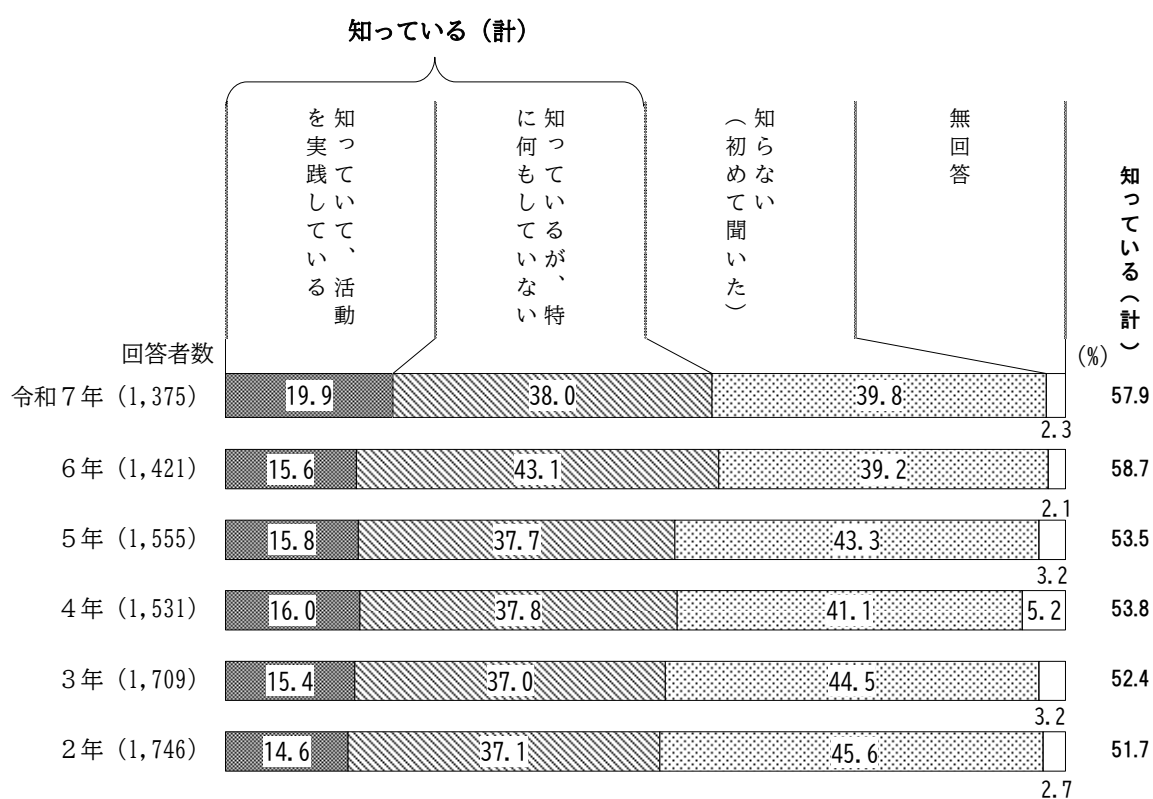
ア 単純集計・経年比較／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

（ア）「フレイル」にならないために「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」が大切なことの認知とその実践状況は、「知っていて、活動を実践している」は19.9%となっており、これに「知っているが、特に何もしていない」（38.0%）を合わせた【知っている】は57.9%となっている。

（イ）「フレイル」にならないための活動について「知らない（初めて聞いた）」は39.8%となっている。

（ウ）前回調査との比較では、「知っていて、活動を実践している」が4.3ポイント増加している。

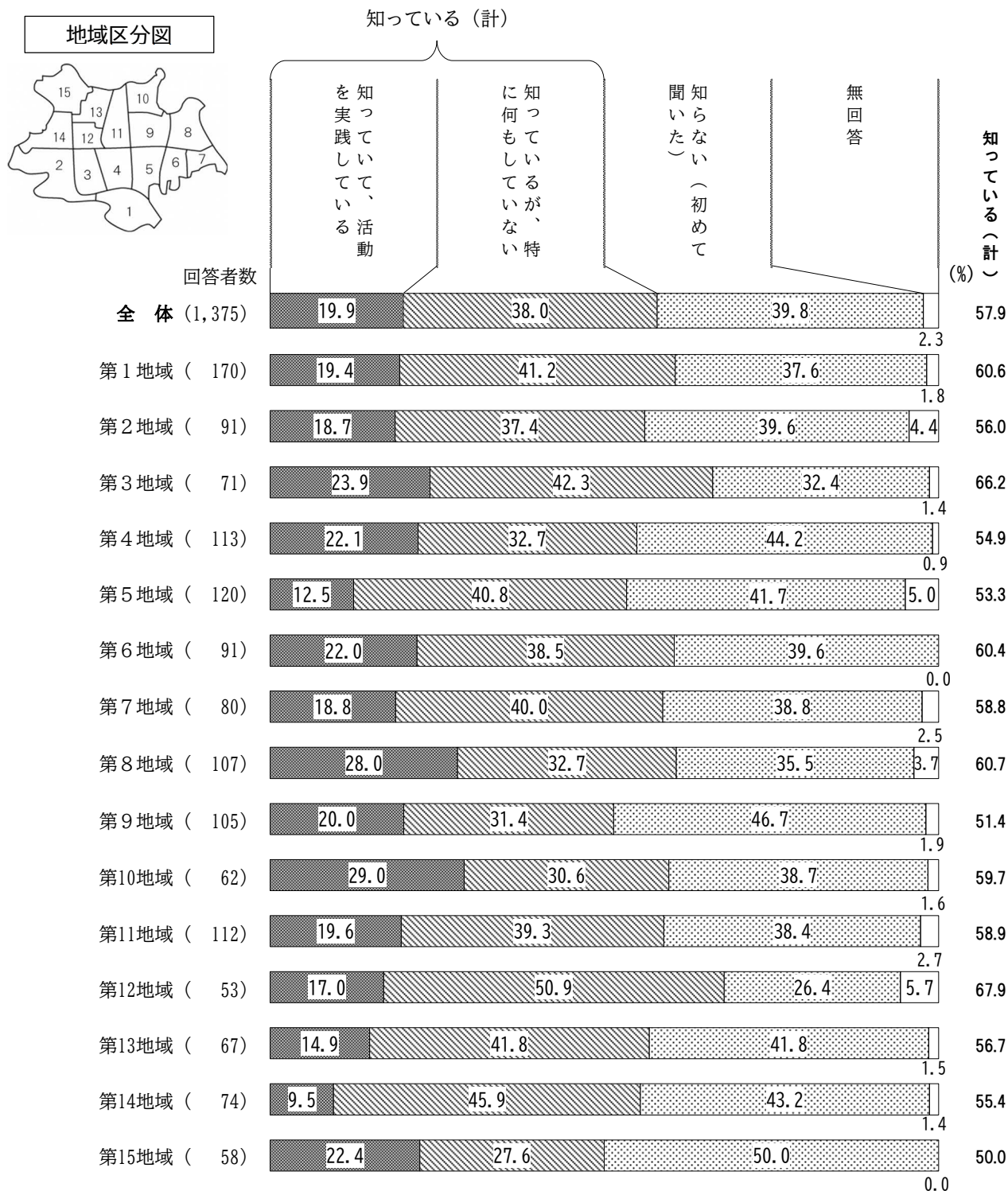
図9-4-1 経年比較／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況



イ クロス集計・地域別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

地域別でみると、「知っていて、活動を実践している」は第10地域が29.0%で最も高く、次いで第8地域（28.0%）となっている。【知っている】でみると、第12地域が67.9%で最も高く、次いで第3地域（66.2%）となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は第15地域が50.0%で最も高く、次いで第9地域（46.7%）となっている。

図9-4-2 地域別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

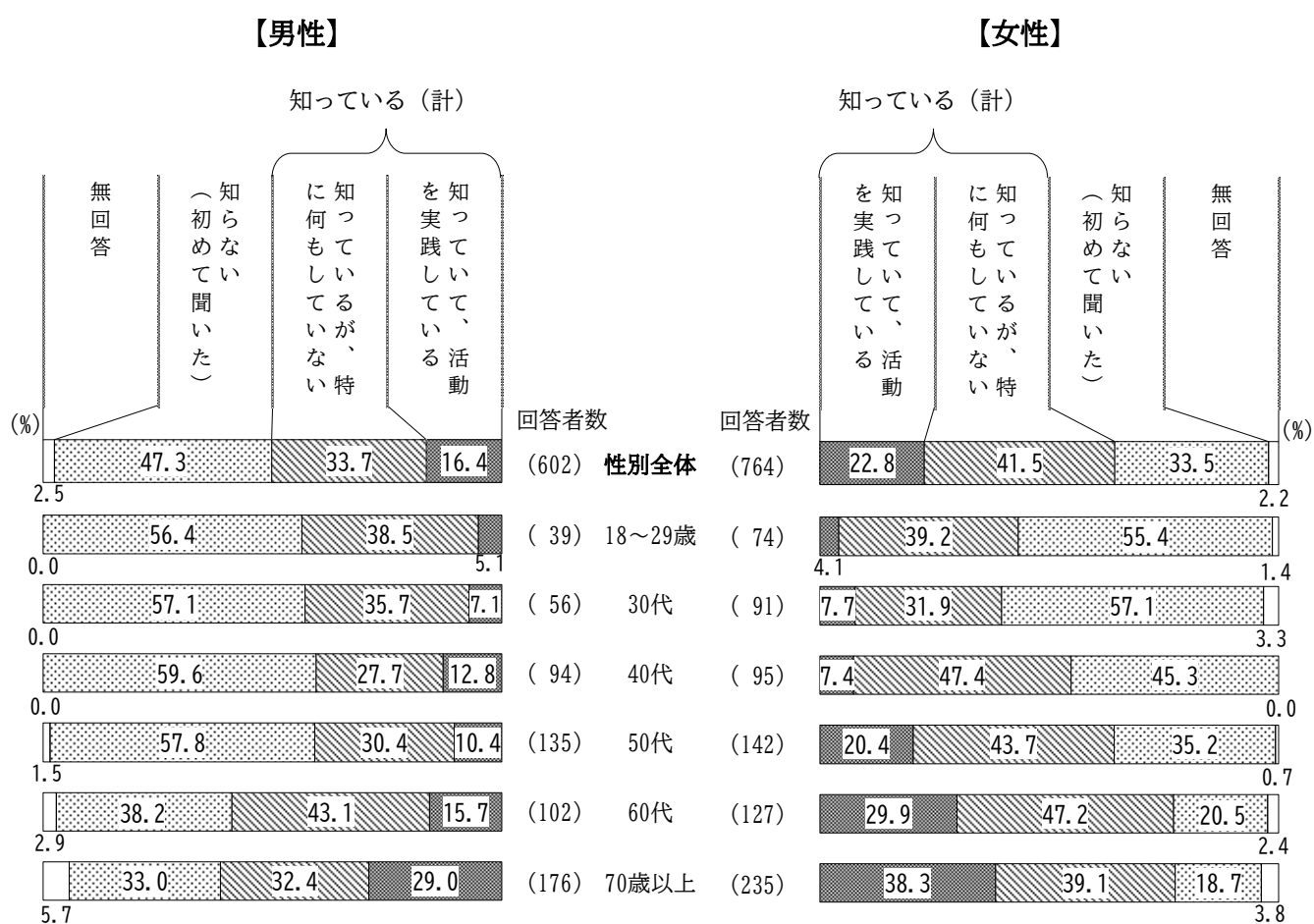


ウ クロス集計・性別、性・年代別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

(ア) 性別でみると、【知っている】は女性（64.3%）の方が男性（50.2%）より14.1ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【知っている】は、女性の60代、70歳以上で7割台半ば超と高く、女性の50代と男性の70歳以上が6割台となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は男性の50代以下と女性の30代以下で5割台後半と高くなっている。

図9-4-3 性別、性・年代別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況



(5)「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況

問37 あなたは、たんぱく質を多く含む食品（肉・魚・卵・大豆製品の1種類以上）をどれくらいの頻度で食べていますか（○は1つだけ）。

※「フレイル」になる要因の一つとして、たんぱく質の不足があげられます。

■「毎食（1日3回）食べている」が2割強、「1日2回位食べている」が3割台半ば近く

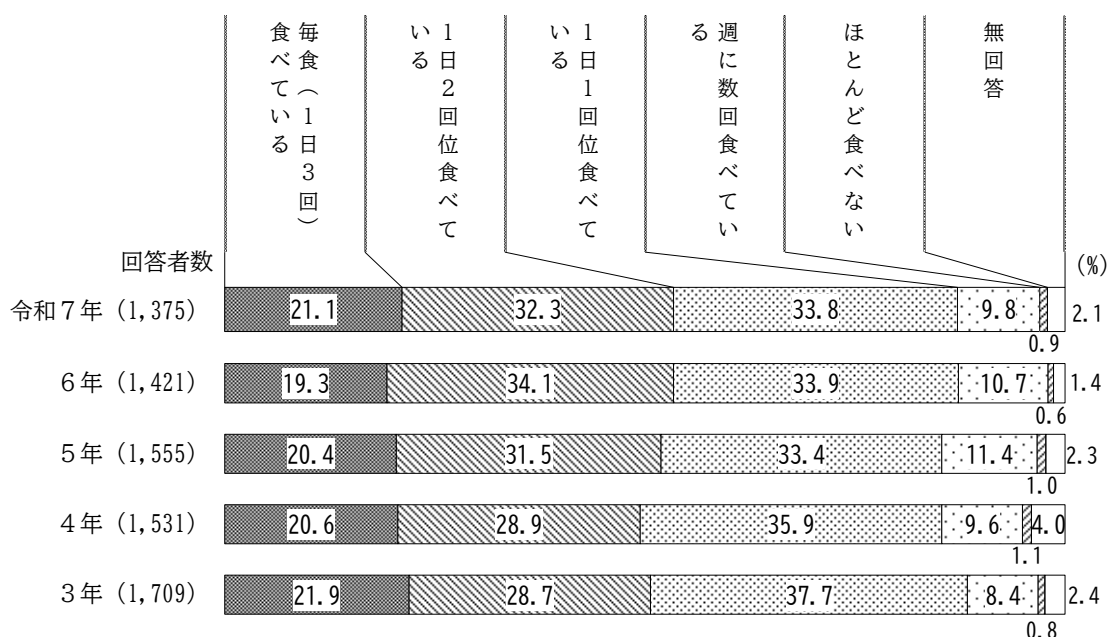
ア 単純集計・経年比較／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況

(ア)「たんぱく質を多く含む食品」の摂取頻度は、高い順にみると以下のとおりとなっている。

- ①「1日1回位食べている」（33.8%）
- ②「1日2回位食べている」（32.3%）
- ③「毎食（1日3回）食べている」（21.1%）
- ④「週に数回食べている」（9.8%）
- ⑤「ほとんど食べない」（0.9%）

(イ) 前回調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

図9-5-1 経年比較／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況

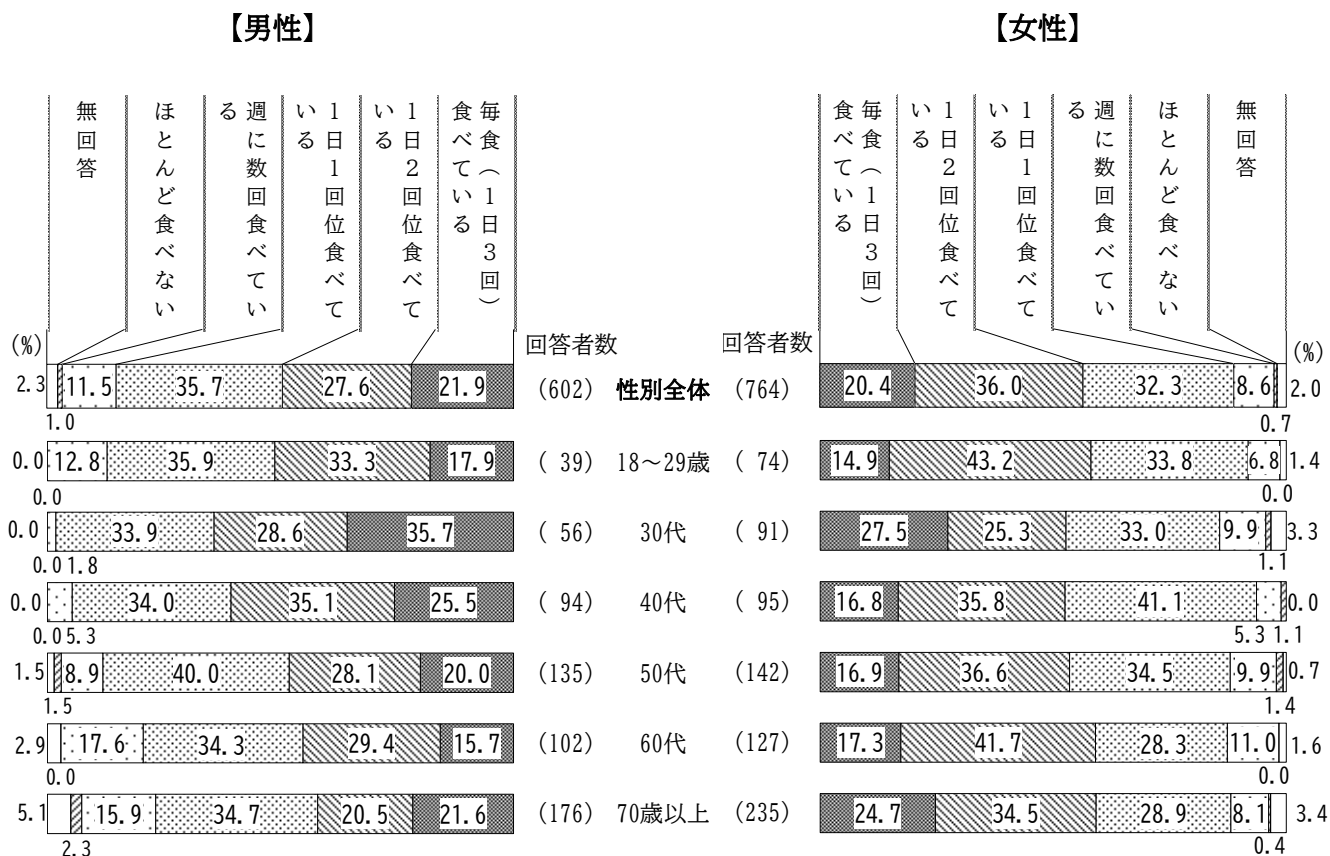


イ クロス集計・性別・性・年代別／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況

(ア) 性別でみると、「1日2回位食べている」は女性（36.0%）の方が男性（27.6%）より8.4ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、「毎食（1日3回）食べている」は男性の30代（35.7%）が他の性・年代層に比べて特に高く、次いで女性の30代（27.5%）となっている。逆に女性の18～29歳が14.9%で最も低く、次いで男性の60代（15.7%）となっている。

図9-5-2 性別・性・年代別／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況



(6) 仕事と仕事以外の生活の調和

問38 あなたは、仕事と仕事以外の生活の調和が取れていると思いますか（○は1つだけ）。

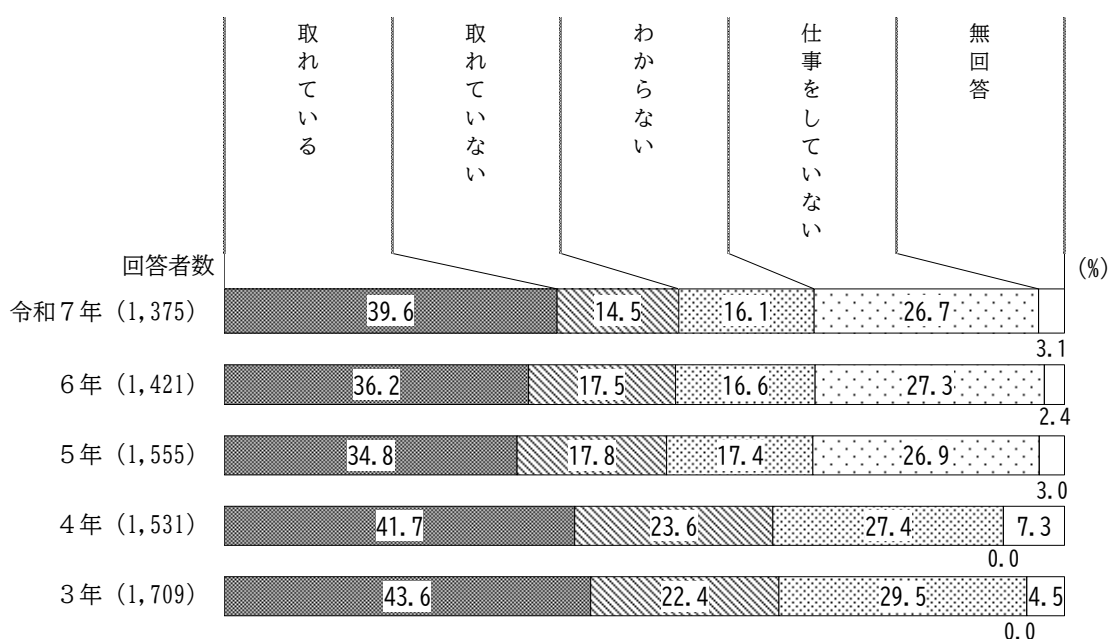
■「取れている」が約4割、「取れていない」と「わからない」が1割台半ば

ア 単純集計・経年比較／仕事と仕事以外の生活の調和

(ア) 仕事と仕事以外の生活の調和について、「取れている」が39.6%で、「取れていない」(14.5%)と「わからない」(16.1%)が1割台半ばとなっている。

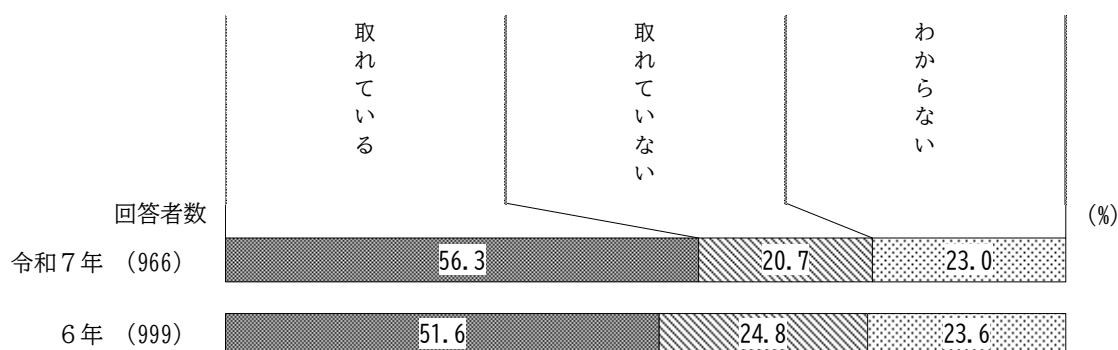
(イ) 前回調査との比較では、「取れている」が3.4ポイント増加し、漸増傾向となっている。

図9-6-1 経年比較／仕事と仕事以外の生活の調和



※「仕事をしていない」は、令和5年度からの新設項目。

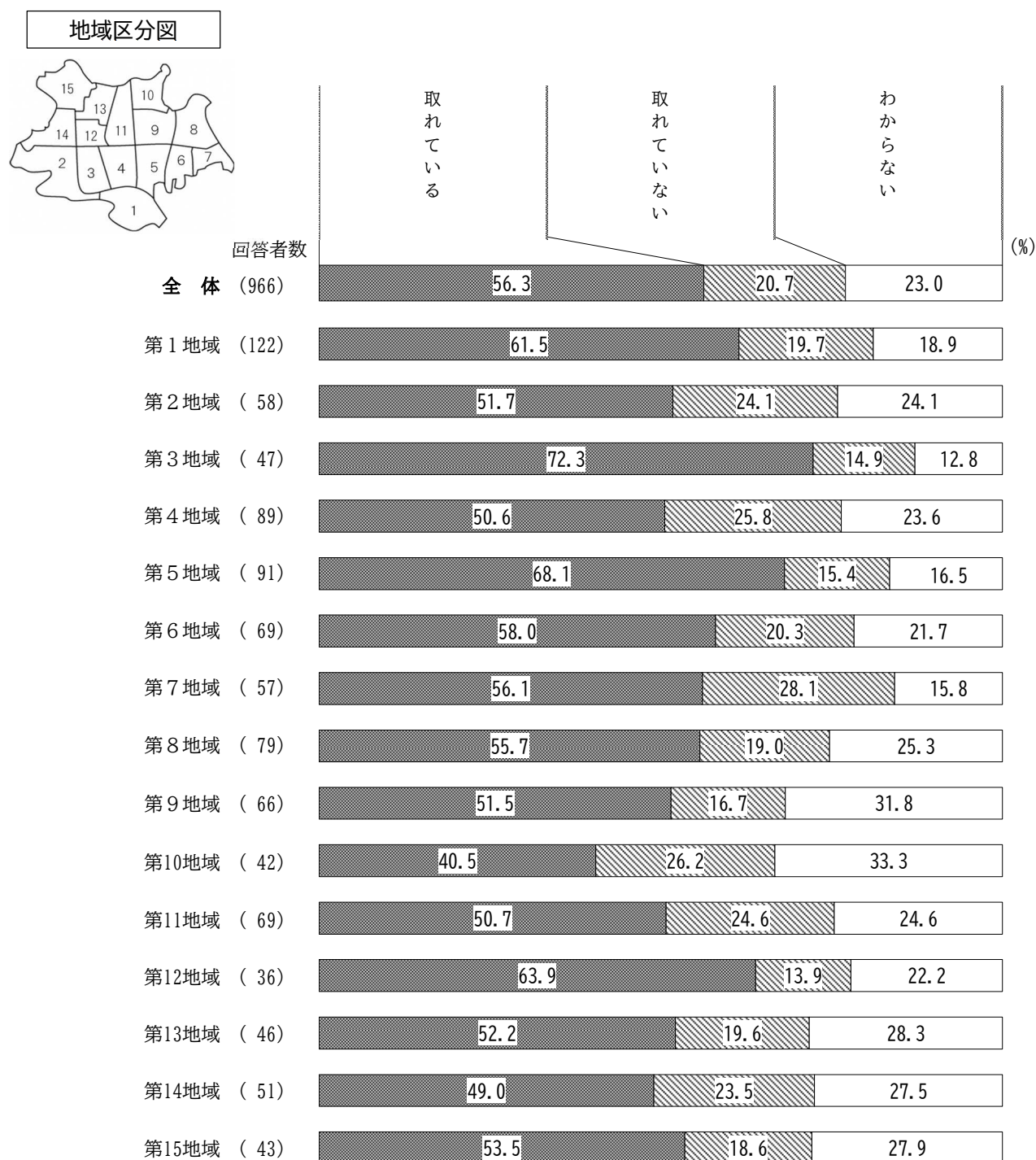
図9-6-2 前回調査比較／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和
(本図においては、就業者を母数として再計算している)



イ クロス集計・地域別／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和

就業者における仕事と仕事以外の生活の調和の状況を地域別でみると、「取れている」は第3地域が72.3%で最も高く、次いで第5地域（68.1%）となっている。一方、「取れていない」は第7地域が28.1%で最も高く、次いで第10地域（26.2%）となっている。

図9－6－3 地域別／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和
（本図においては、就業者を母数として再計算している）

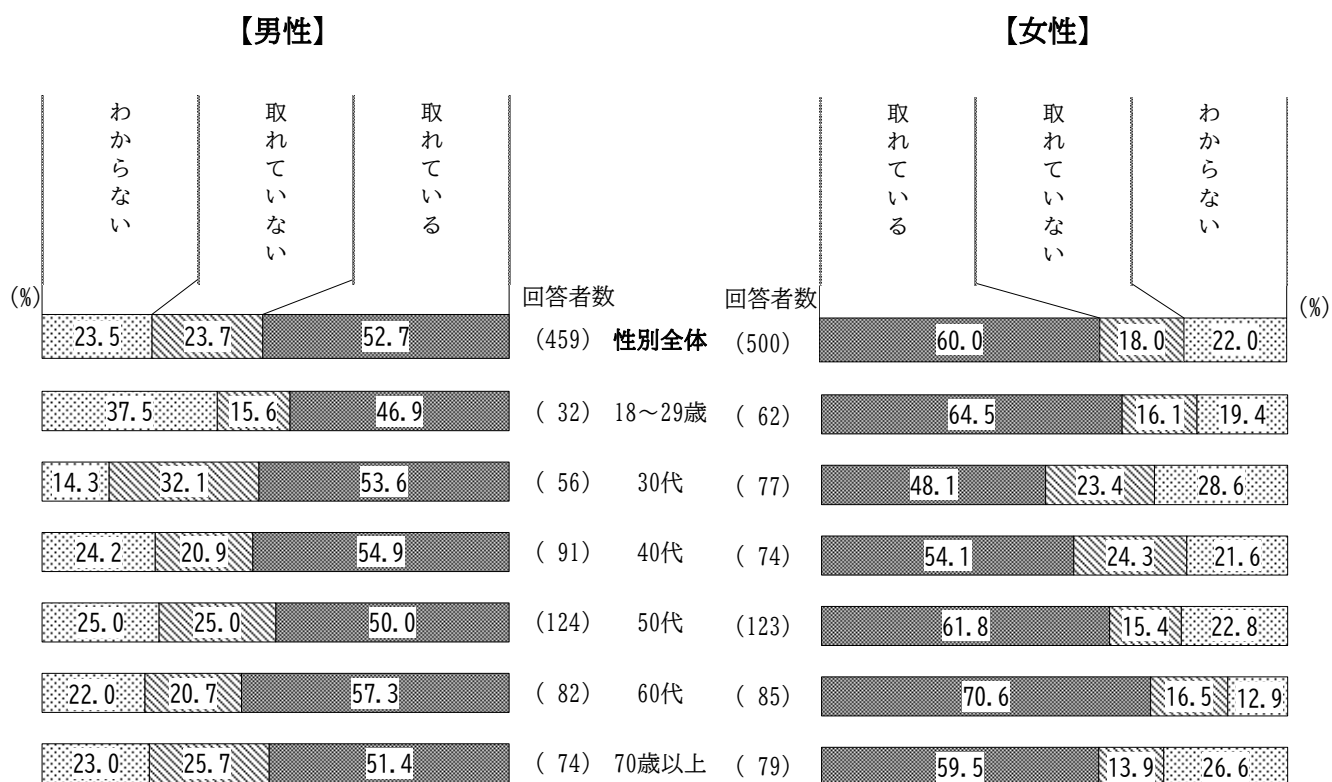


ウ クロス集計・性別、性・年代別／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和

(ア) 性別でみると、「取れている」は女性（60.0%）の方が男性（52.7%）より7.3ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、「取れている」は女性の60代（70.6%）が最も高く、次いで女性の18～29歳（64.5%）と50代（61.8%）が6割台で続いている。一方、「取れていない」は男性の30代が32.1%で最も高くなっている。

図9-6-4 性別、性・年代別／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和
(本図においては、就業者を母数として再計算している)



(7)「福祉まるごと相談課」の認知

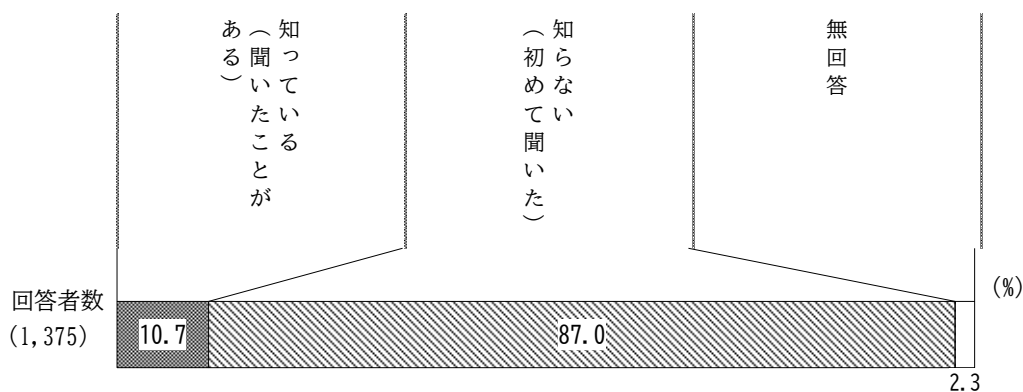
問39 あなたは、「福祉まるごと相談課」という区の相談窓口を知っていますか（○は1つだけ）。

■「知らない（初めて聞いた）」が8割台半ば超で、「知っている（聞いたことがある）」は1割

ア 単純集計／「福祉まるごと相談課」の認知

「福祉まるごと相談課」の認知について、「知らない（初めて聞いた）」が87.0%を占めており、「知っている（聞いたことがある）」は10.7%であった。

図9-7-1 単純集計／「福祉まるごと相談課」の認知

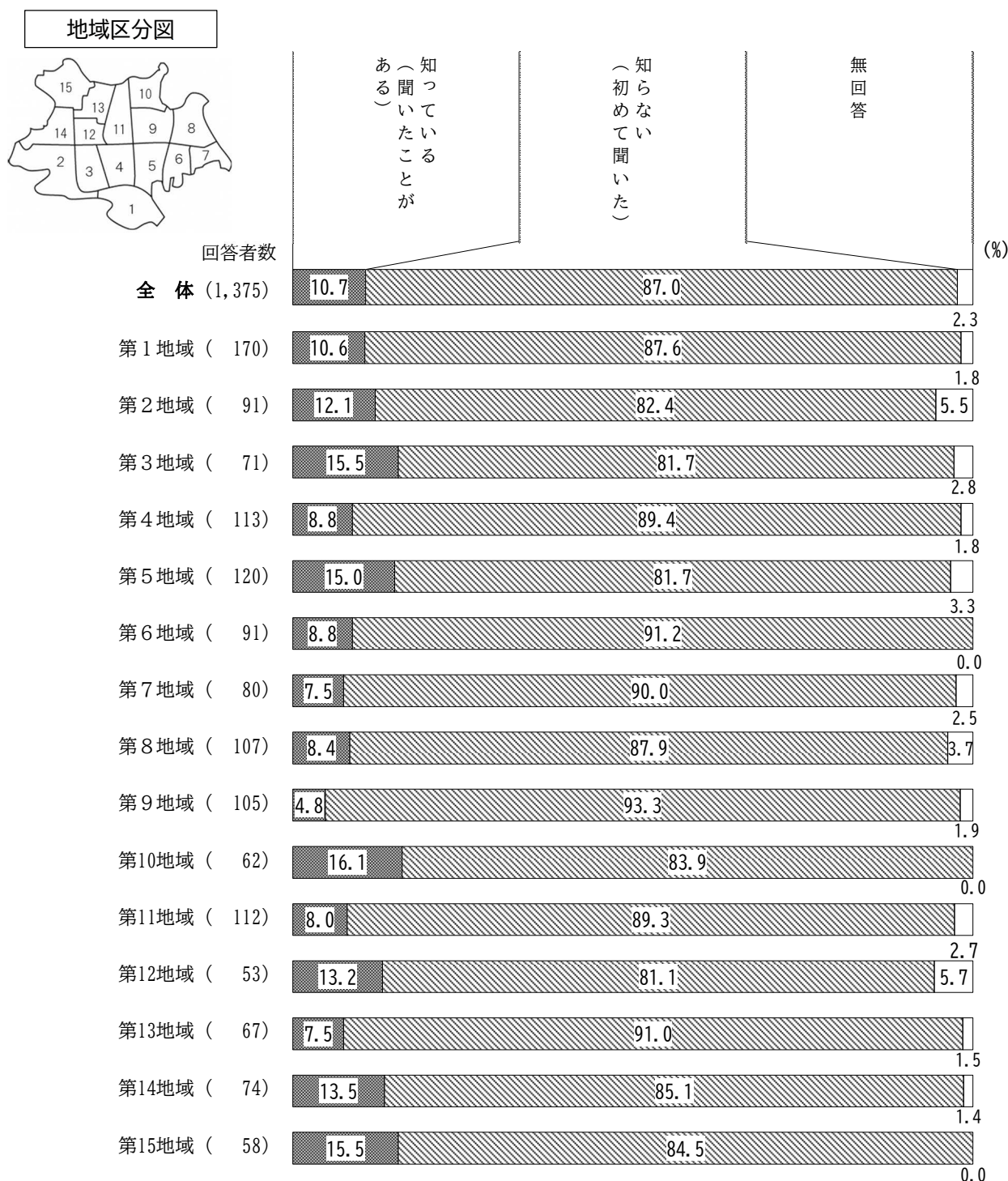


※「福祉まるごと相談課」は、高齢、介護、障がい、子ども・子育てなど既存の窓口に加えて、「だれでも・なんでも相談できる窓口」として、令和6年度に新たに創設した福祉窓口です。

イ クロス集計・地域別／「福祉まるごと相談課」の認知

「福祉まるごと相談課」の認知状況を地域別でみると、「知っている（聞いたことがある）」は、第10地域が16.1%で最も高く、次いで第3地域と第15地域がともに15.5%で続いている。逆に第9地域が4.8%で最も低く、次いで第7地域と第13地域がともに7.5%となっており、15地域中7地域で認知度が1桁となっている。

図9－7－2 地域別／「福祉まるごと相談課」の認知



(8)「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況

問40 あなたは、下記のア、イについて知っていますか（○はそれぞれ1つずつ）。

■【知っている】は〈身体的暴力以外のDV〉が8割台半ば、〈LGBT〉が7割台半ば

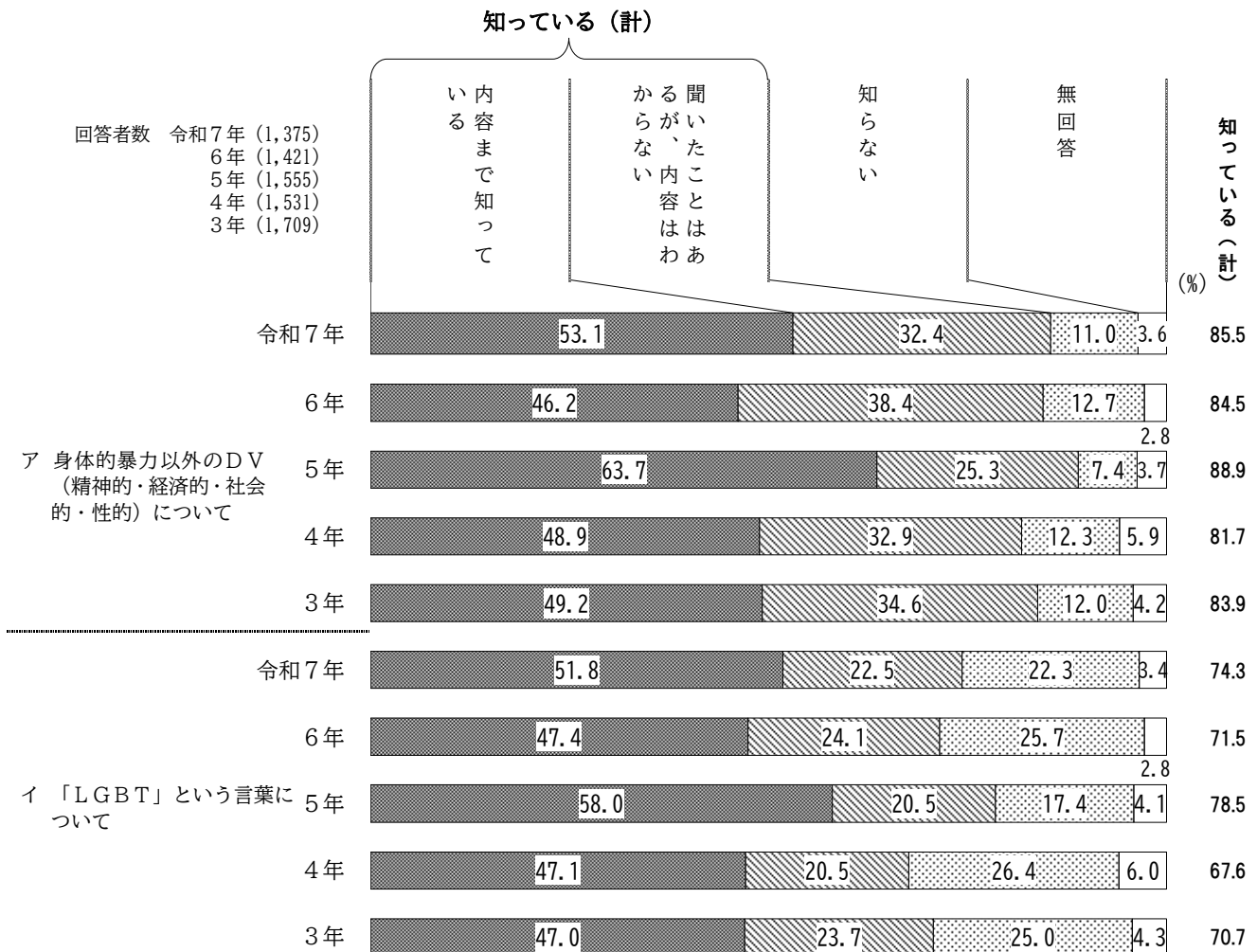
ア 単純集計・経年比較／「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況

(ア)〈身体的暴力以外のDV〉は、「内容まで知っている」が53.1%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」(32.4%)を合わせた【知っている】は85.5%となっている。

(イ)〈LGBT〉は、「内容まで知っている」が51.8%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」(22.5%)を合わせた【知っている】は74.3%となっている。

(ウ) 前回調査との比較では、「内容まで知っている」について、〈身体的暴力以外のDV〉では6.9ポイント、〈LGBT〉では4.4ポイントの増加となっている。

図9-8-1 経年比較／「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況



イ クロス集計・性別・性・年代別

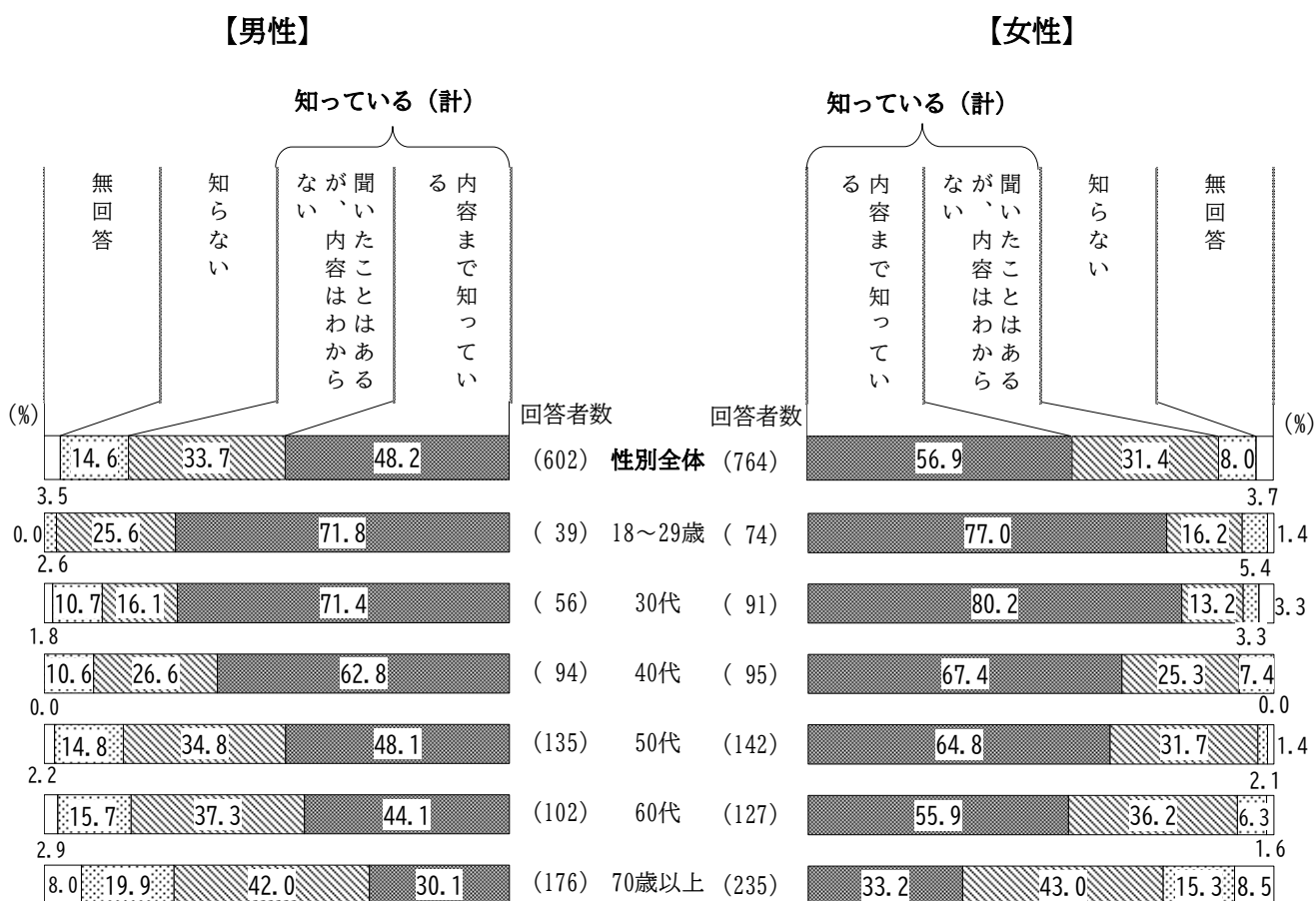
／身体的暴力以外のDV（精神的・経済的・社会的・性的）について

（ア）〈身体的暴力以外のDV〉の認知状況を性別でみると、【知っている】は女性（88.4%）の方が男性（81.9%）より6.5ポイント高くなっている。

（イ）性・年代別でみると、【知っている】は男性の18～29歳で97.4%と最も高く、次いで、女性の50代が96.5%となっている。一方、「知らない」は男性の70歳以上で19.9%と最も高く、次いで、男性の60代（15.7%）、女性の70歳以上（15.3%）が1割台後半で続いている。

図9-8-2-① 性別・性・年代別

／身体的暴力以外のDV（精神的・経済的・社会的・性的）について

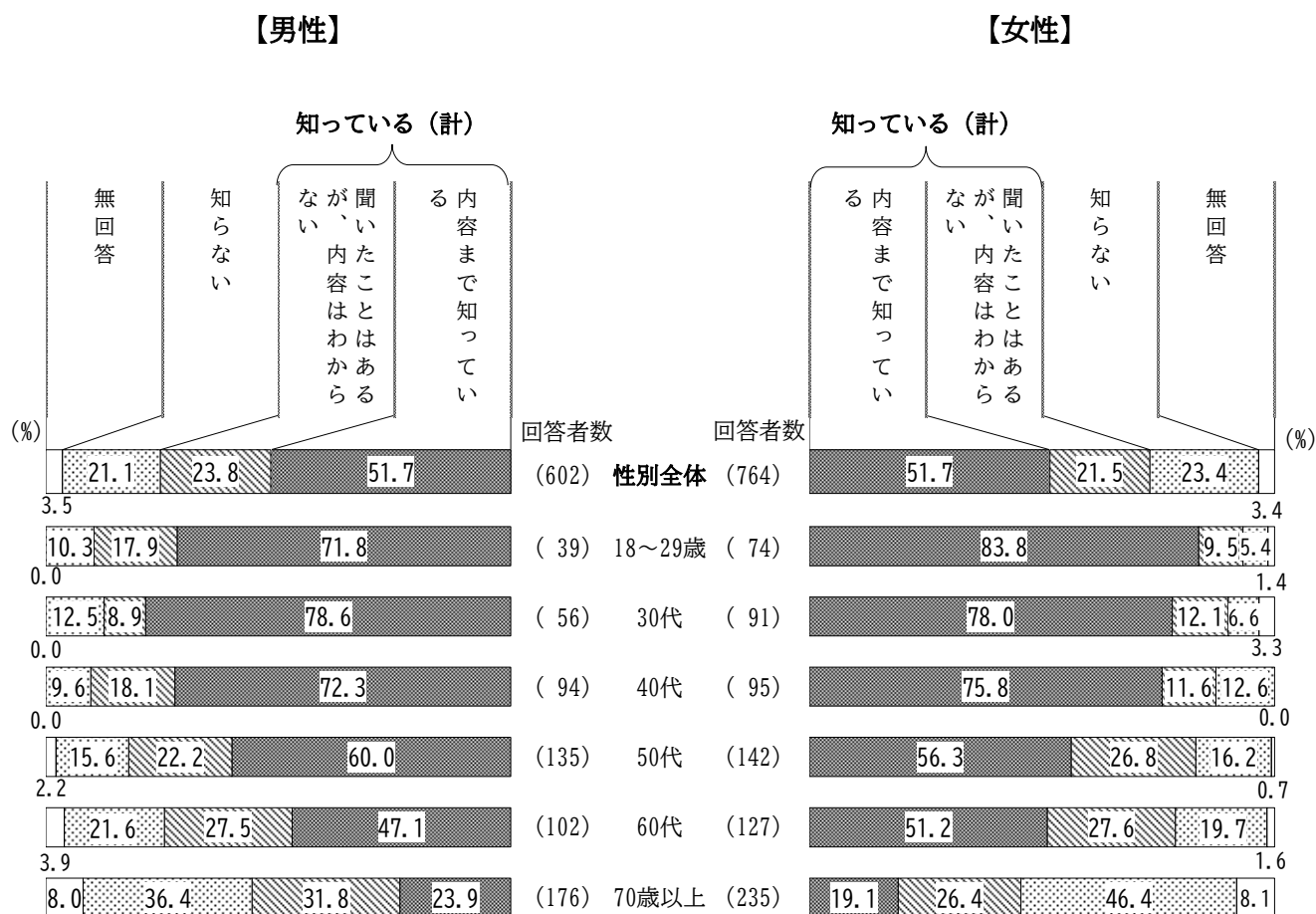


ウ クロス集計・性別、性・年代別／「LGBT」という言葉について

(ア)〈LGBT〉の認知状況を性別でみると、特に大きな違いは見られない。

(イ) 性・年代別でみると、【知っている】は男女ともに40代以下で9割前後と高く、女性の18～29歳で93.2%と最も高くなっている。一方、「知らない」は、女性の70歳以上で46.4%と最も高く、次いで男性の70歳以上（36.4%）となっている。

図9-8-2-② 性別、性・年代別／「LGBT」という言葉について



10 「SDGs」・「協働・協創」

(1) SDGs の認知状況

(2) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

(3) 家族以外の人や地域と関わる自主的な取り組み・活動意向

(1) SDGsの認知状況

問41 あなたは、SDGsについて知っていますか（○は1つだけ）。

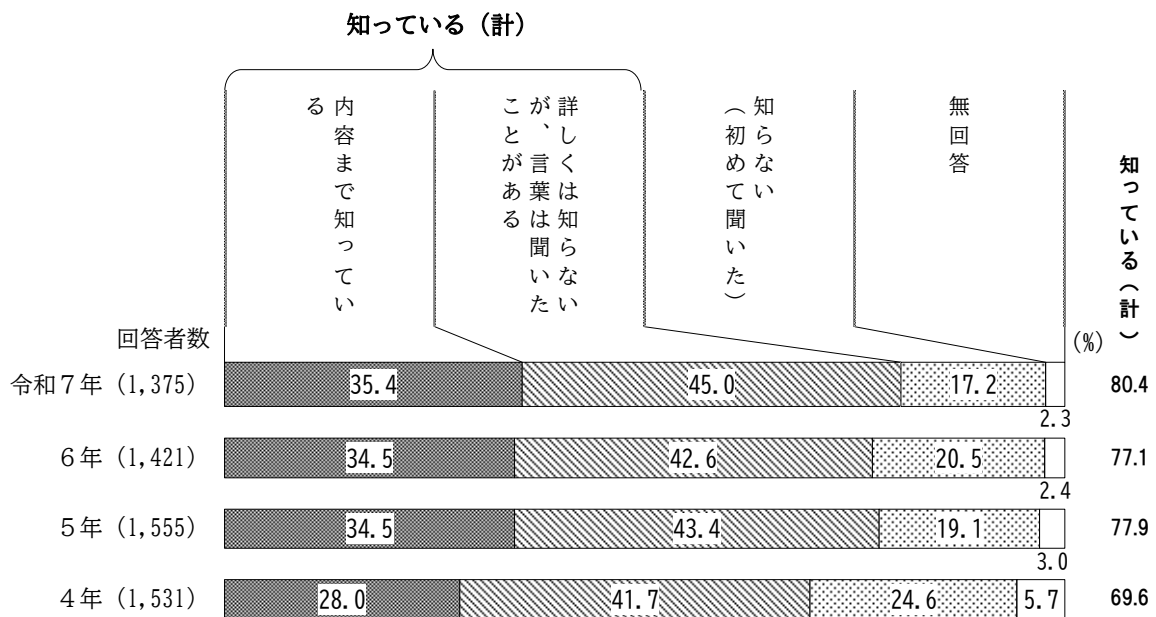
※ 持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

■【知っている】は前回から3.3ポイント増加し8割

ア 単純集計・経年比較／「SDGs」の認知状況

- (ア)「SDGs」について「内容まで知っている」が35.4%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」（45.0%）を合わせた【知っている】は80.4%となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は17.2%となっている。
- (イ) 前回調査との比較では、【知っている】が3.3ポイント増加し、「知らない（初めて聞いた）」が3.3ポイントの減少となっている。

図 10-1-1 経年比較／「SDGs」の認知状況

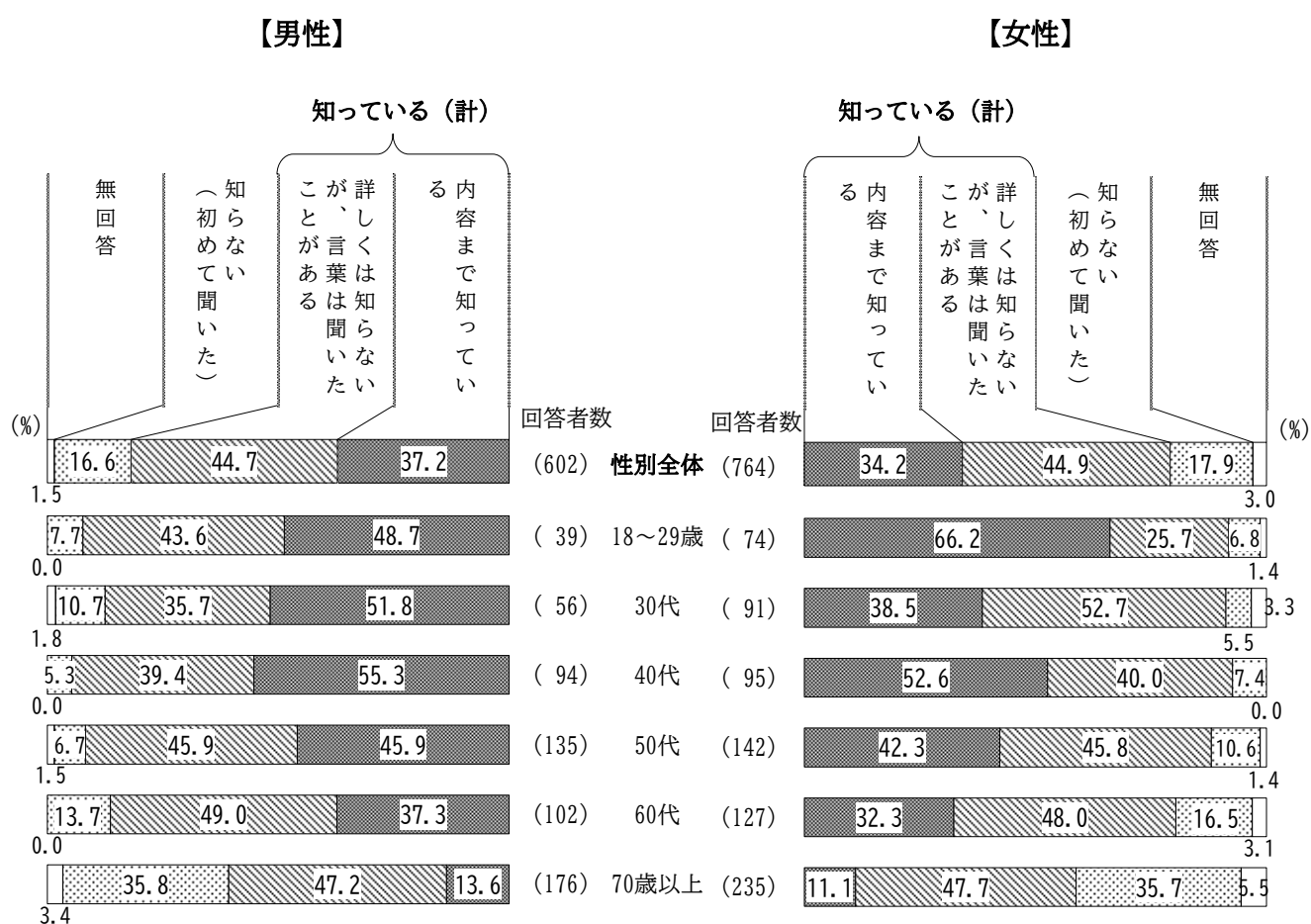


イ クロス集計・性別・性・年代別／「SDGs」の認知状況

(ア) 性別でみると、「内容まで知っている」は男性（37.2%）の方が女性（34.2%）より3.0ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【知っている】は、男性の40代で94.7%と最も高く、次いで女性の40代（92.6%）となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は男女とも70歳以上で3割台半ばと高くなっている。

図10-1-2 性別・性・年代別／「SDGs」の認知状況



(2) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

問42 あなたは、区役所・区民・団体（企業）の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）が進んでいると感じていますか（例 ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など）（○は1つだけ）。

■【そう思う】が3割台半ば超、【そう思わない】が2割強、「わからない」が4割弱

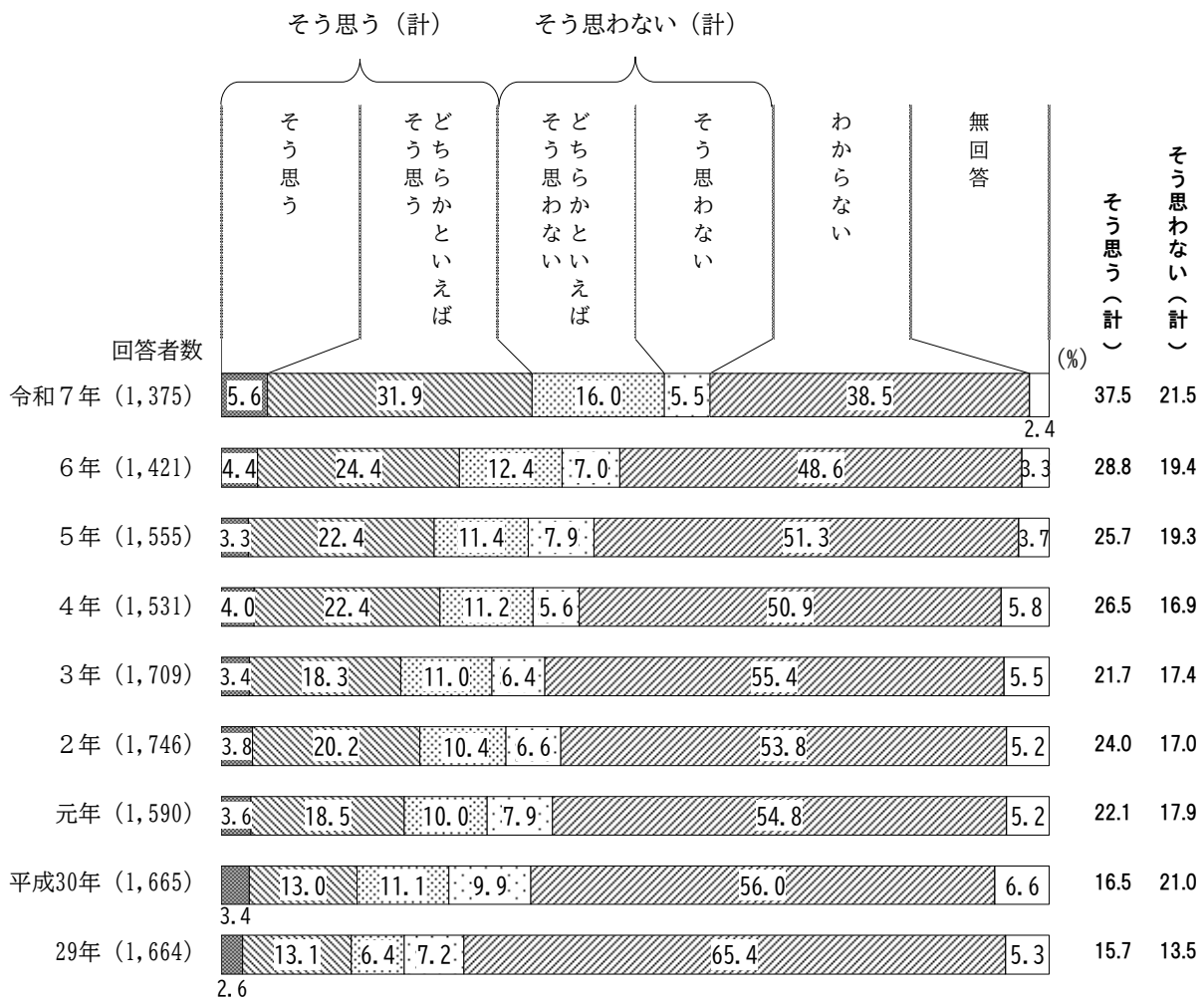
ア 単純集計・経年比較／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

（ア）協働や協創による事業が進んでいると感じるかについては、「そう思う」が5.6%で、これに「どちらかといえばそう思う」（31.9%）を合わせた【そう思う】は3割台半ば超となっている。

（イ）「どちらかといえばそう思わない」（16.0%）と「そう思わない」（5.5%）を合わせた【そう思わない】は2割強となっている。一方、「わからない」（38.5%）が最も高くなっている。

（ウ）前回調査との比較では、【そう思う】が8.7ポイント増加している。

図 10-2-1 経年比較／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価



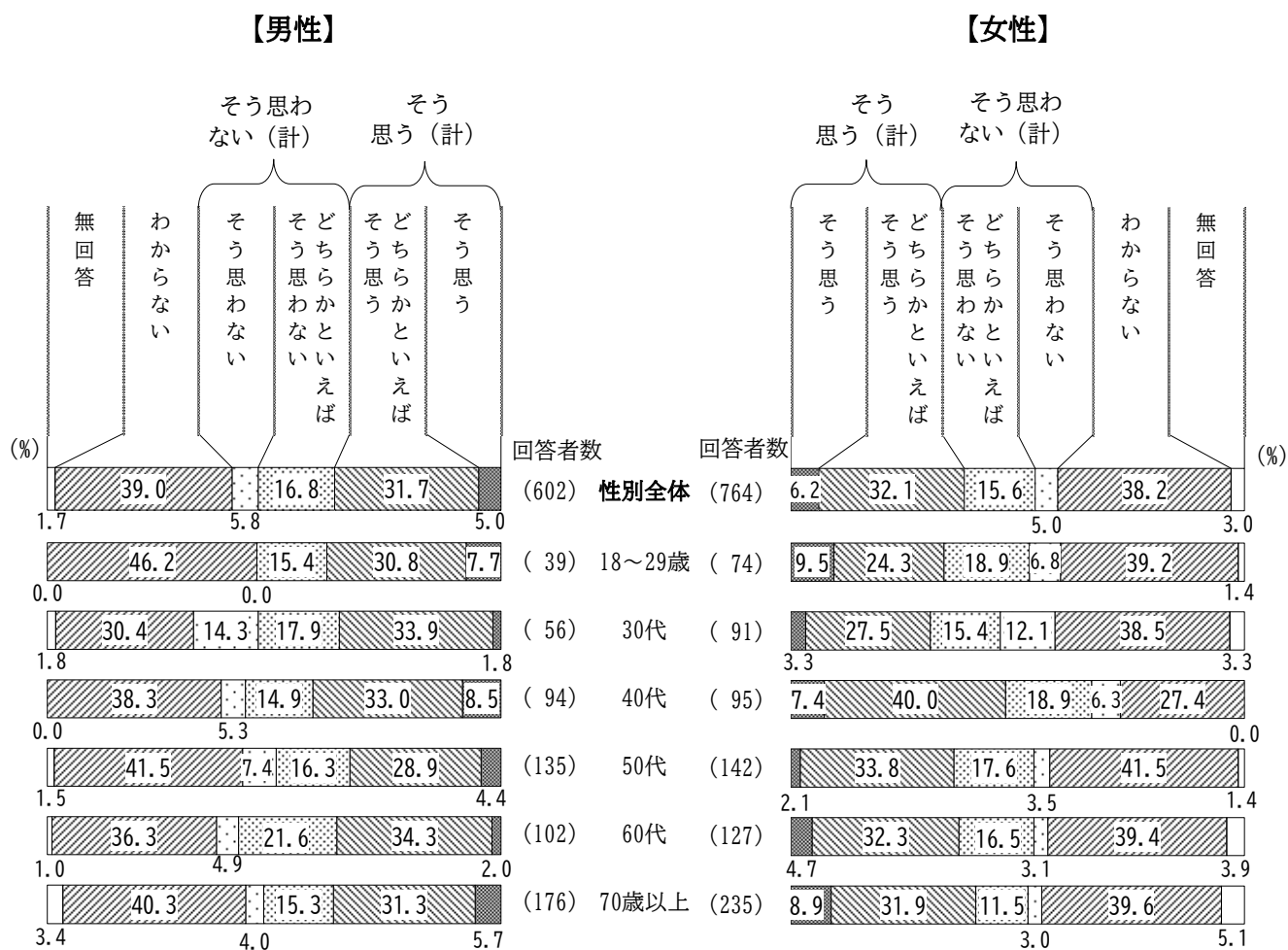
※ 平成30年度の設問文は「あなたは、ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフなど、区役所・区民・団体の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）による事業が進んでいると感じていますか。」で、令和元年度には設問文の一部表現が変更になるとともに「子どもの貧困対策」が追加された。さらに、令和2年度には設問文の一部が現在の設問文に変更された。

イ クロス集計・性別・性・年代別／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

(ア) 協働や協創による事業が進んでいると感じるかについて、性別では特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別でみると、【そう思う】は女性の40代で47.4%と最も高く、次いで、男性の40代(41.5%)と女性の70歳以上(40.9%)が4割台で続いている。一方、【そう思わない】は男性の30代が32.1%と最も高く、次いで、女性の30代が27.5%となっている。

図10-2-2 性別・性・年代別／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価



(3) 家族以外の人や地域と関わる自主的な取り組み・活動意向

問43 あなたは、家族以外の人や地域と関わる自主的な取り組み・活動を行ってみたいと思いますか（○は1つだけ）。

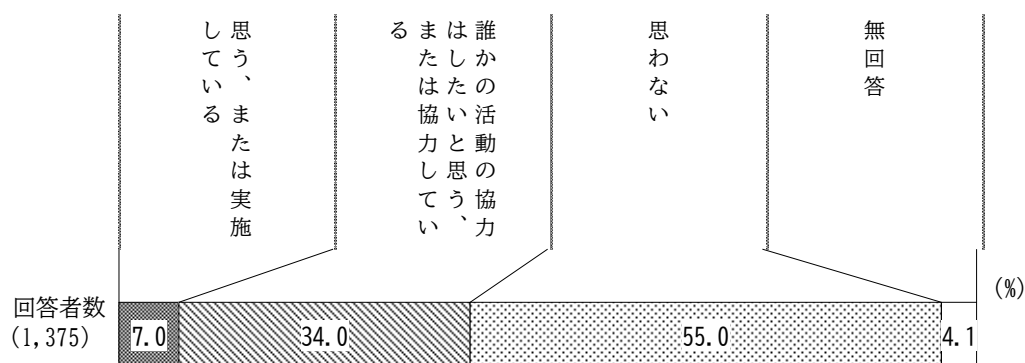
例：マルシェへの出店、子ども向け体験イベント、特技を生かした工作・体操・キャリアの指導など

■「思う、または実施している」が7.0%、「誰かの活動の協力はしたいと思う、または協力している」は34.0%

ア 単純集計／家族以外の人や地域と関わる自主的な取り組み・活動意向

家族以外の人や地域と関わる自主的な取り組み・活動意向について、「思う、または実施している」は7.0%、「誰かの活動の協力はしたいと思う、または協力している」は34.0%となっており、「思わない」が55.0%と過半数を占めている。

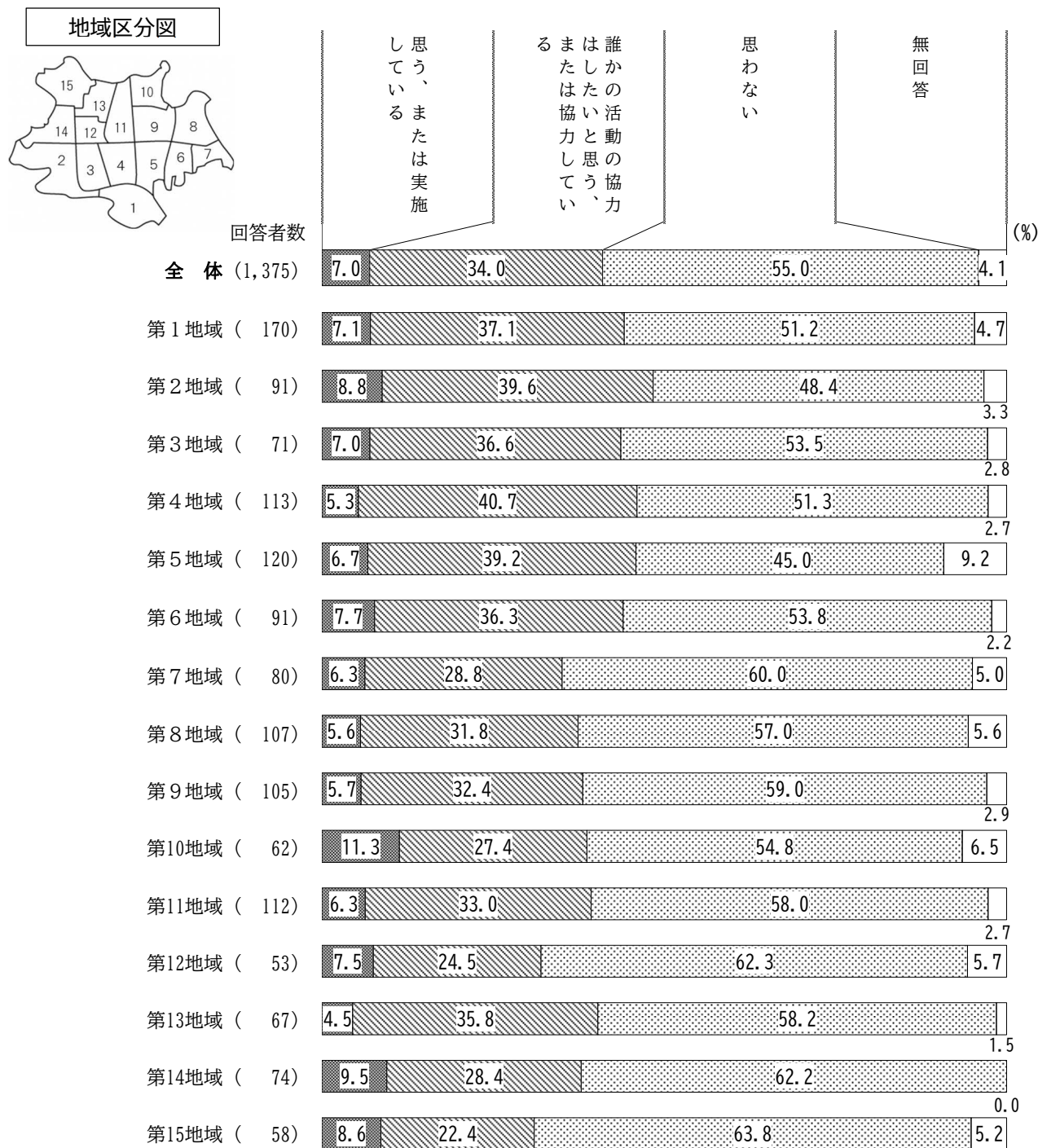
図 10-3-1 単純集計／家族以外の人や地域と関わる自主的な取り組み・活動意向



イ クロス集計・地域別／家族以外の人や地域と関わる自主的な取り組み・活動意向

家族以外の人や地域と関わる自主的な取り組み・活動意向を地域別でみると、「思う、または実施している」は、第10地域が11.3%で最も高く、次いで第14地域が9.5%となっている。また、「誰かの活動の協力はしたいと思う、または協力している」は第4地域が40.7%で最も高く、第2地域と第5地域が約4割で続いている。一方、「思わない」は第15地域が63.8%で最も高く、次いで、第12地域と第14地域が6割台半ば近くとなっている。

図 10-3-2 地域別／家族以外の人や地域と関わる自主的な取り組み・活動意向



11 区の取り組み

-
- (1) 区に対する気持ち
 - (2) 区に対する気持ち（愛着、誇り、人に勧める）の具体的な内容（自由回答）
 - (3) 区を良いまちにするための行動
 - (4) 区の取り組みで満足している分野
 - (5) 区の取り組みで不満の分野
 - (6) 区の取り組み（分野）に対する評価（【満足割合】－【不満割合】）
 - (7) 区政に対する満足度
 - (8) 今後特に力を入れてほしい取り組み分野
 - (9) 区政への区民意見の反映度
 - (10) 区政についてのご意見、ご要望
 - (11) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度
-

(1) 区に対する気持ち

問44 あなたの足立区に対する気持ちとして、以下の項目にそれぞれどの程度あてはまりますか（○はそれぞれ1つずつ）。

■「足立区を良いまちにする活動をする人に共感」が7割半ば近く、「足立区に愛着」が7割超

ア 単純集計・経年比較／区に対する気持ち

(ア) 区に対する気持ちについて計5項目にわたって聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】を高い順にみると、以下のとおりとなっている。

- ①〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉(76.2%)
- ②〈足立区に愛着をもっている〉(72.2%)
- ③〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉(52.2%)
- ④〈足立区を人に勧めたい〉(47.1%)
- ⑤〈足立区に誇りをもっている〉(44.7%)

(イ) 【そう思う】を前回調査と比較すると、5項目のすべてで増加しており、増加幅が大きい順にみると、以下のとおりとなっている。

- ①〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉(+3.2ポイント)
- ②〈足立区を人に勧めたい〉(+2.7ポイント)
- ③〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉(+2.3ポイント)
- ④〈足立区に誇りをもっている〉(+1.2ポイント)
- ⑤〈足立区に愛着をもっている〉(+0.4ポイント)

(ウ) 【そう思わない】を前回調査と比較すると、〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉のみ微増しているが、他の4項目は微減している。

図11-1-1-① 経年比較／区に対する気持ち

ア 足立区に愛着をもっている

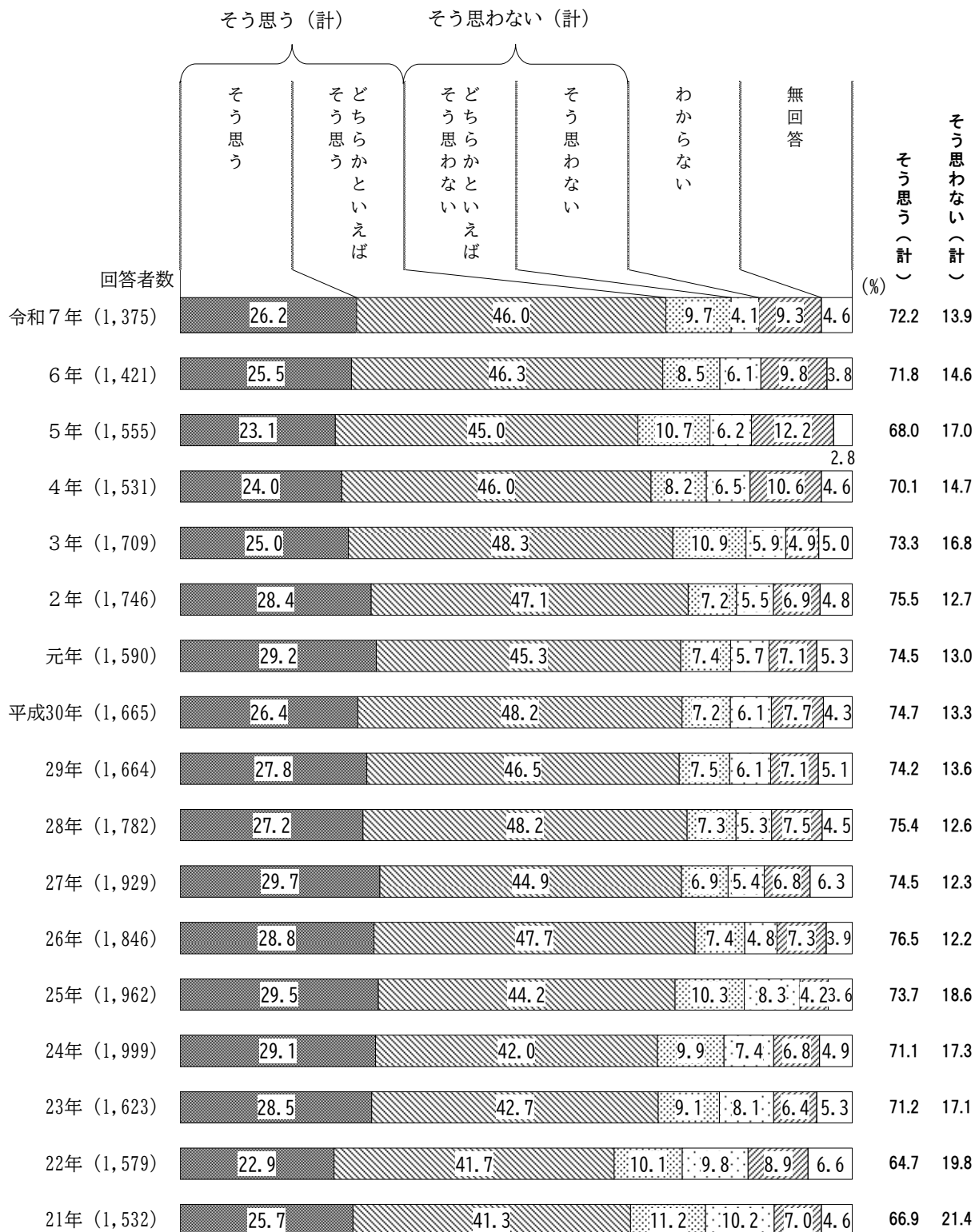


図11-1-1-② 経年比較／区に対する気持ち

イ 足立区に誇りをもっている

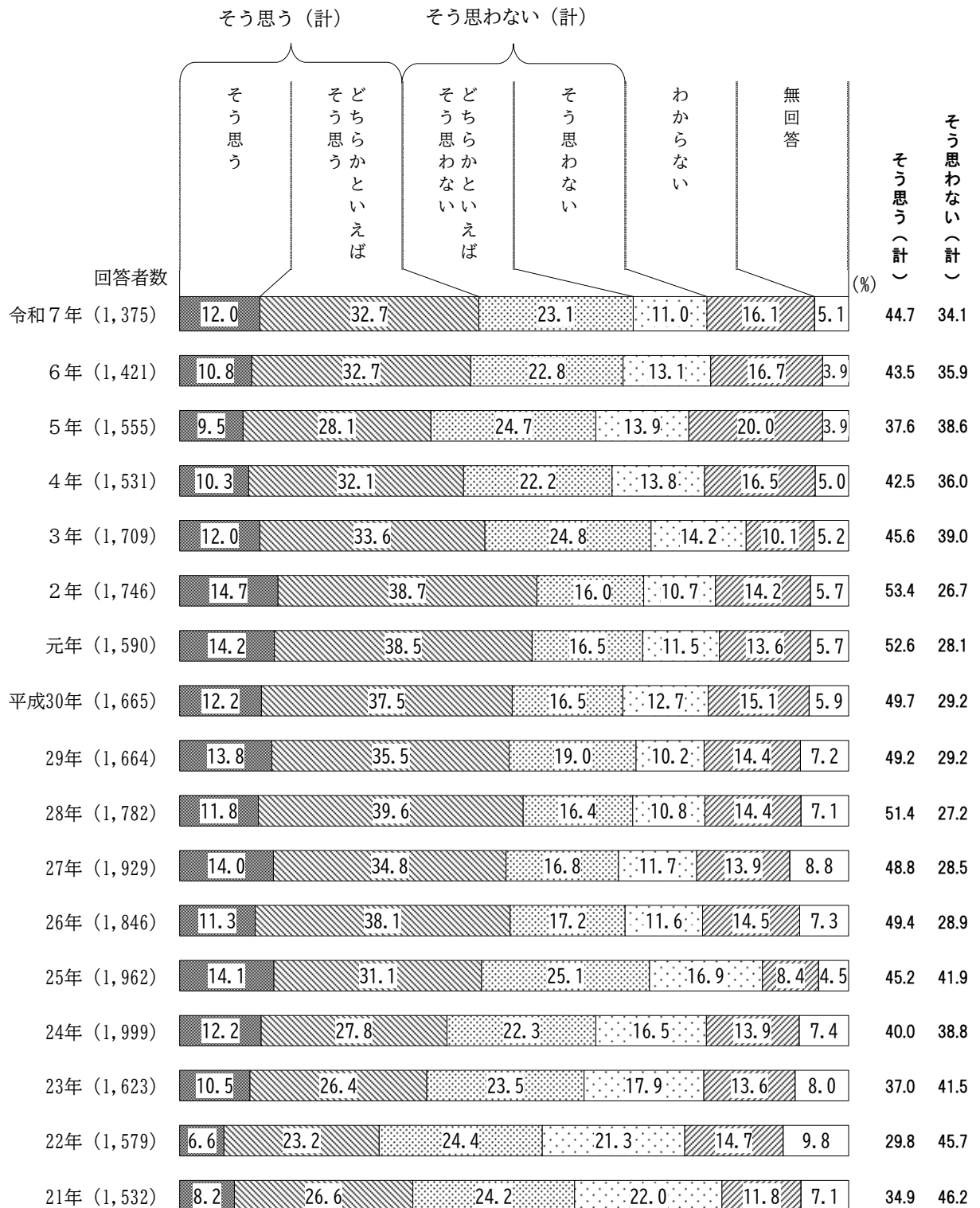


図11-1-1-③ 経年比較／区に対する気持ち

ウ 足立区を人に勧めたい

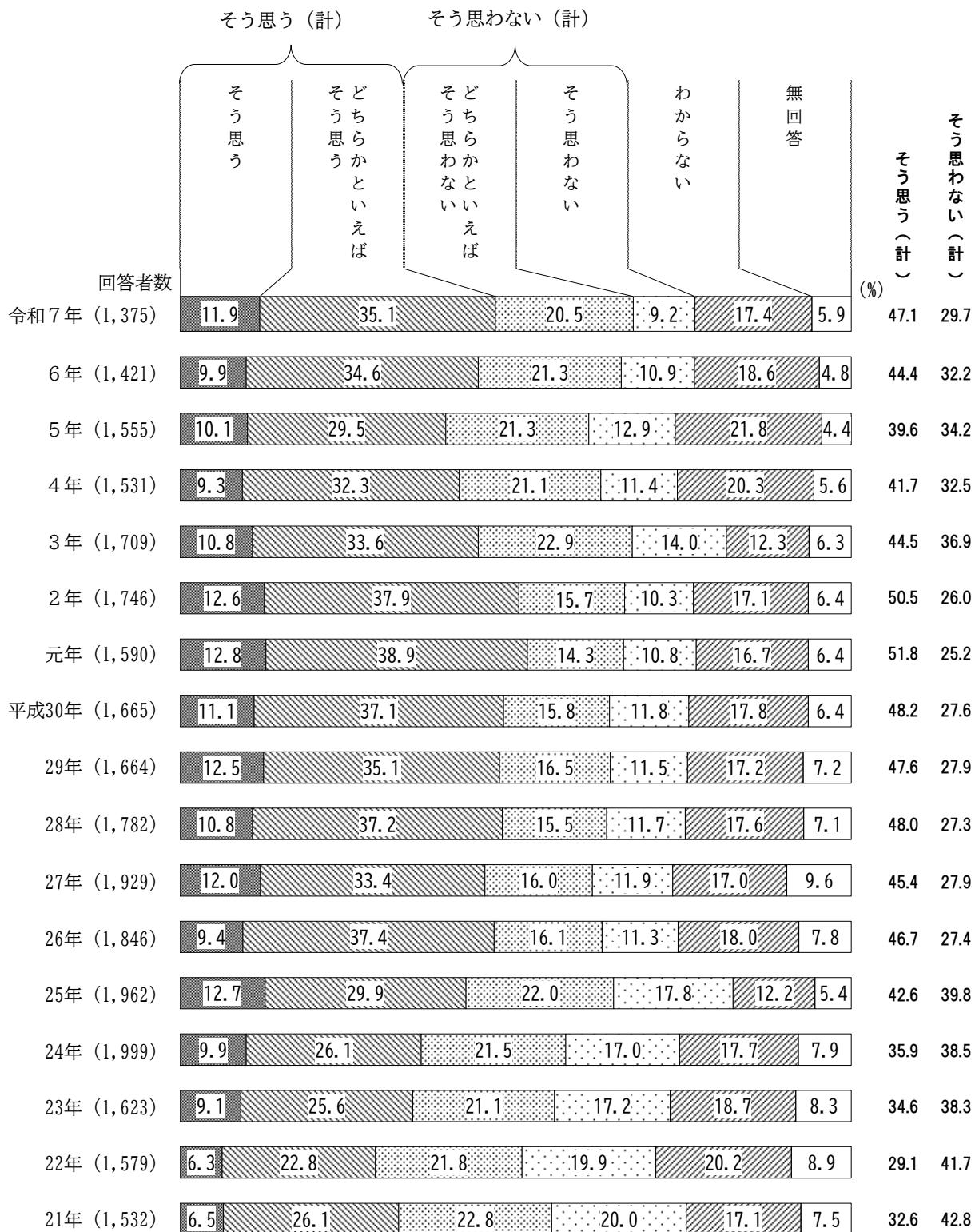


図11-1-1-④ 経年比較／区に対する気持ち

エ 足立区を良いまちにするために何かしたい

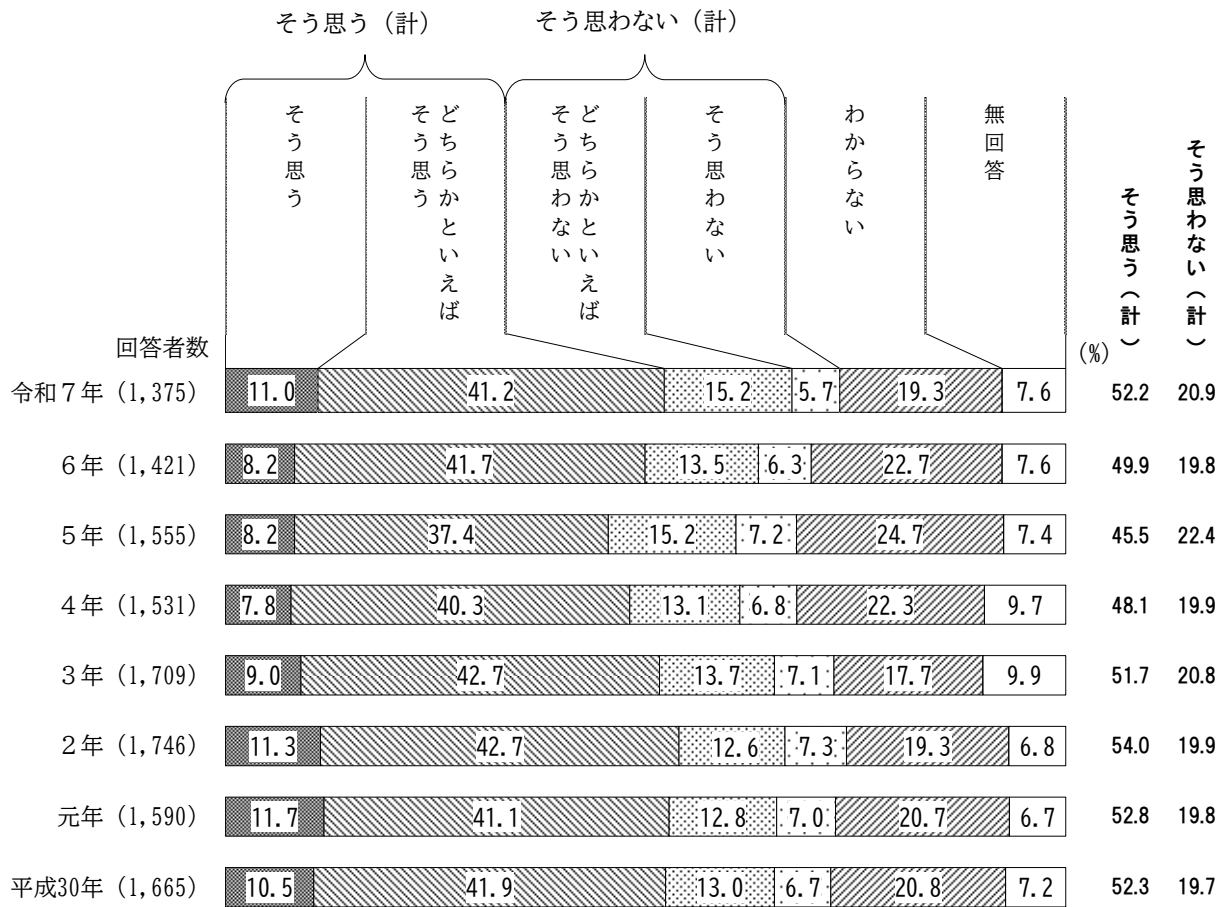
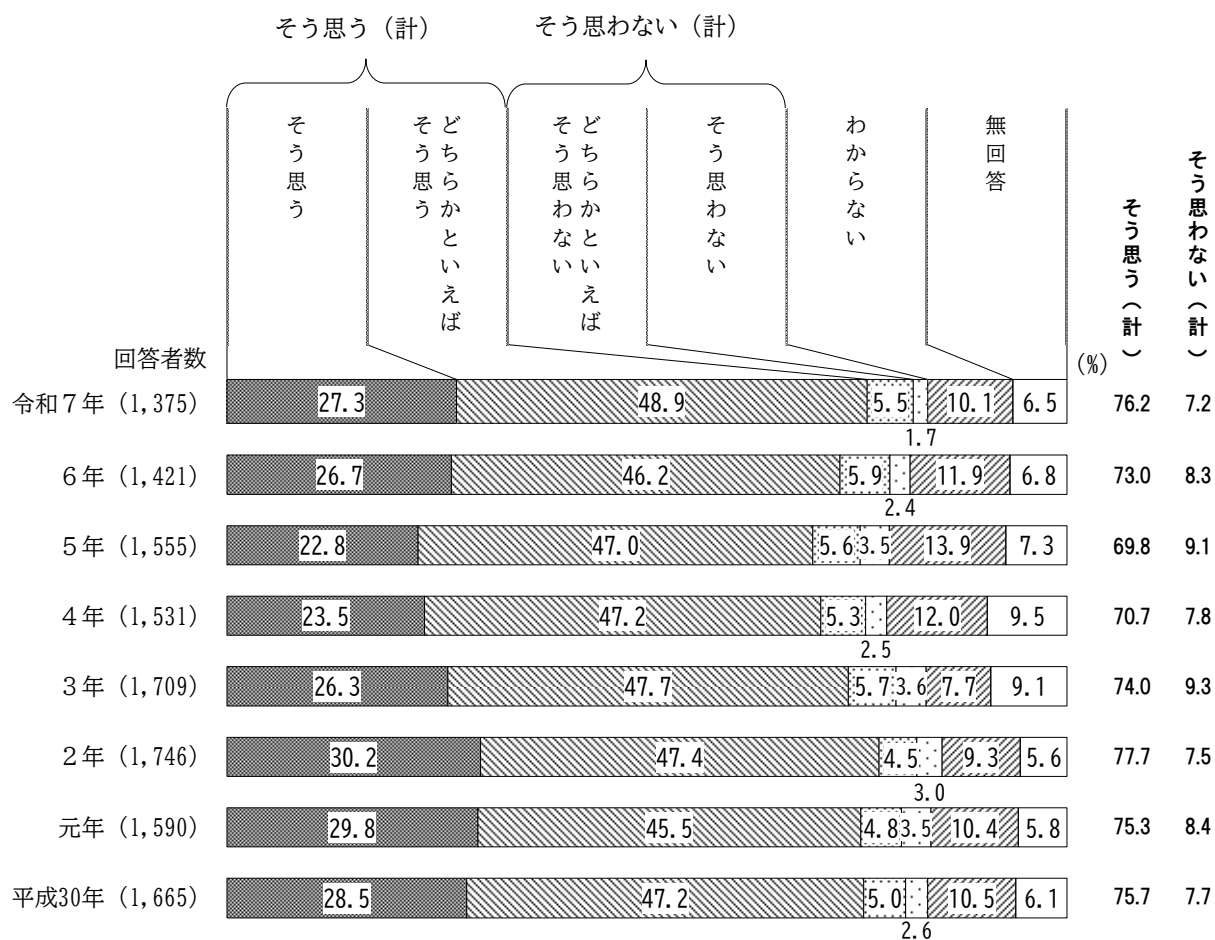


図11-1-1-⑤ 経年比較／区に対する気持ち

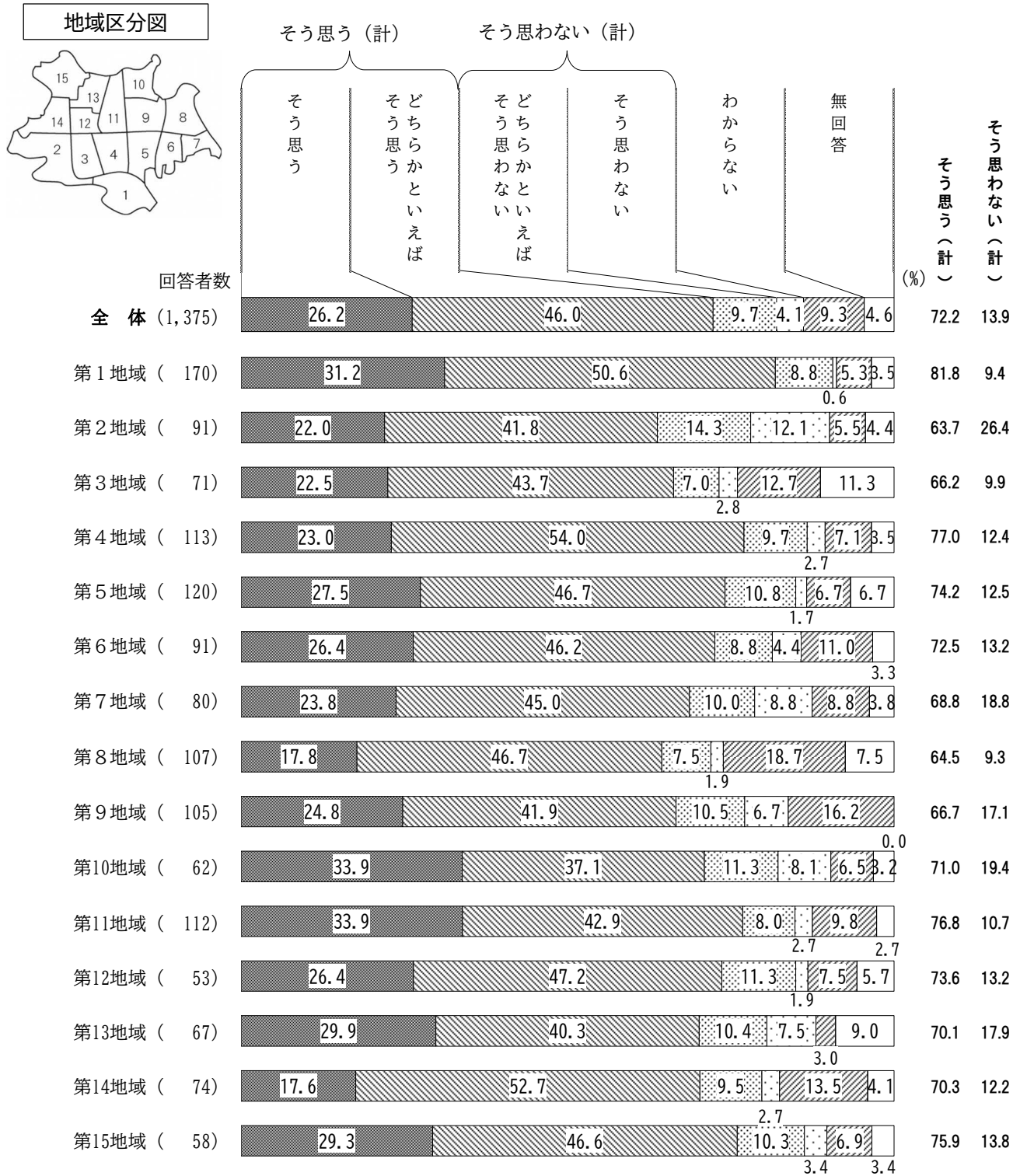
オ 足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する



イ クロス集計・地域別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている

〈足立区に愛着をもっている〉を地域別でみると、【そう思う】は第1地域が81.8%で最も高く、次いで第4地域、第11地域、第15地域が7割後半で続いている。一方、【そう思わない】は、第2地域が26.4%で最も高く、次いで第10地域が19.4%となっている。

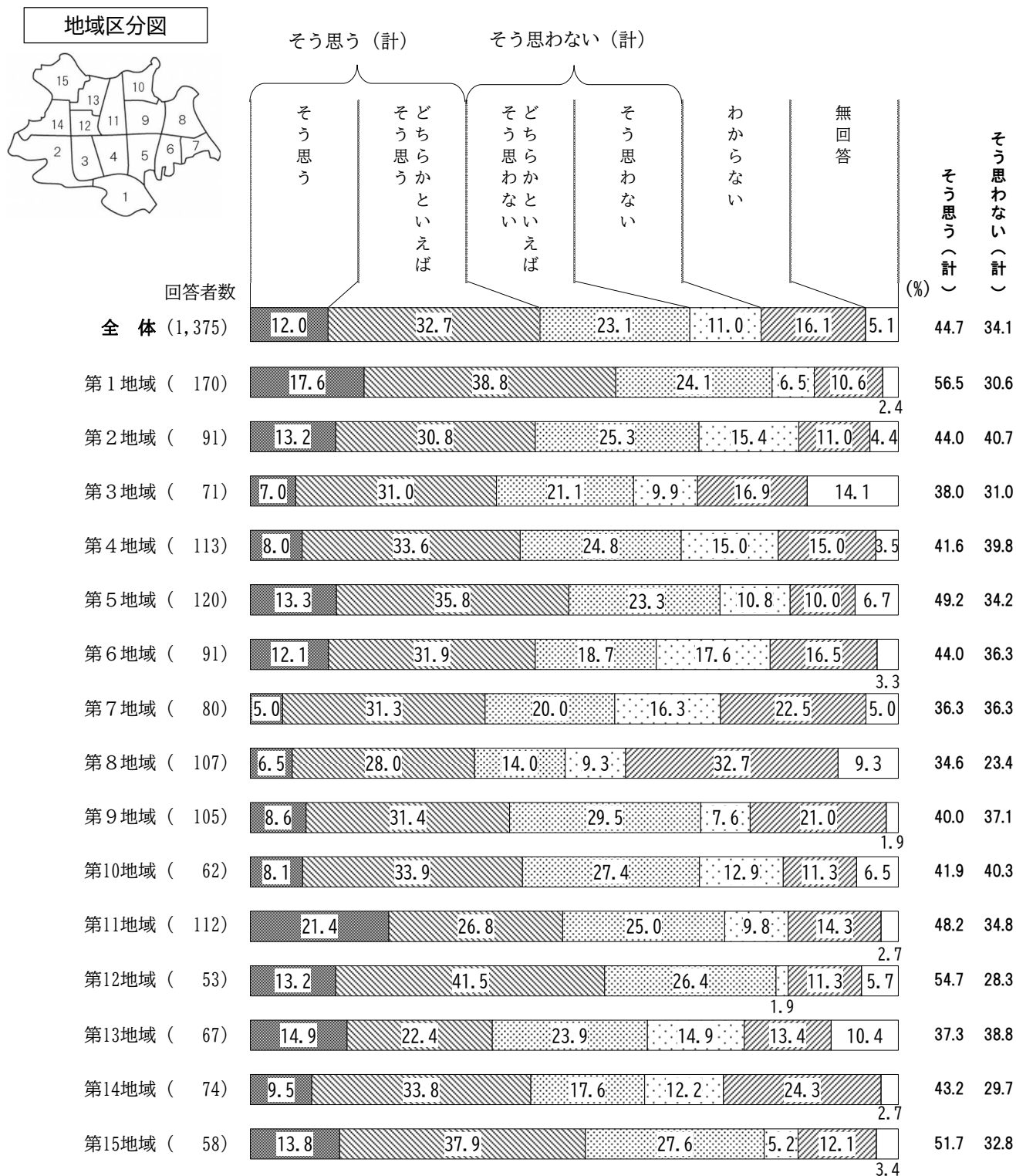
図11-1-2-① 地域別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている



ウ クロス集計・地域別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている

〈足立区に誇りをもっている〉を地域別でみると、【そう思う】は第1地域が56.5%で最も高く、次いで第12地域、第15地域が5割台で続いている。一方、【そう思わない】は、第2地域が40.7%で最も高く、次いで第10地域（40.3%）となっている。

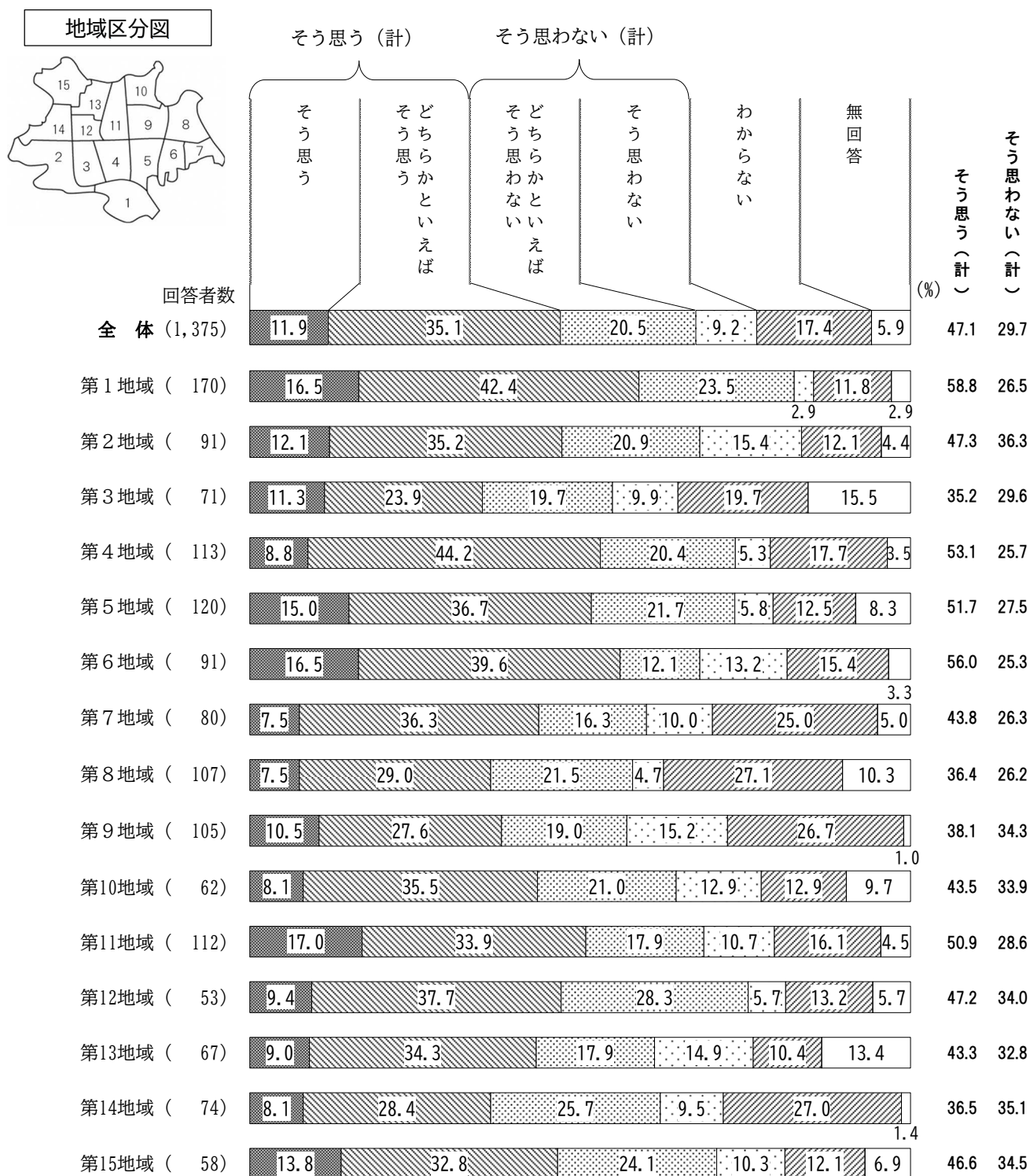
図11-1-2-② 地域別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



エ クロス集計・地域別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい

〈足立区を人に勧めたい〉を地域別でみると、【そう思う】は第1地域が58.8%で最も高く、次いで第6地域、第4地域が5割台半ばで続いている。一方、【そう思わない】は第2地域が36.3%で最も高く、次いで第14地域が3割台後半で続いている。

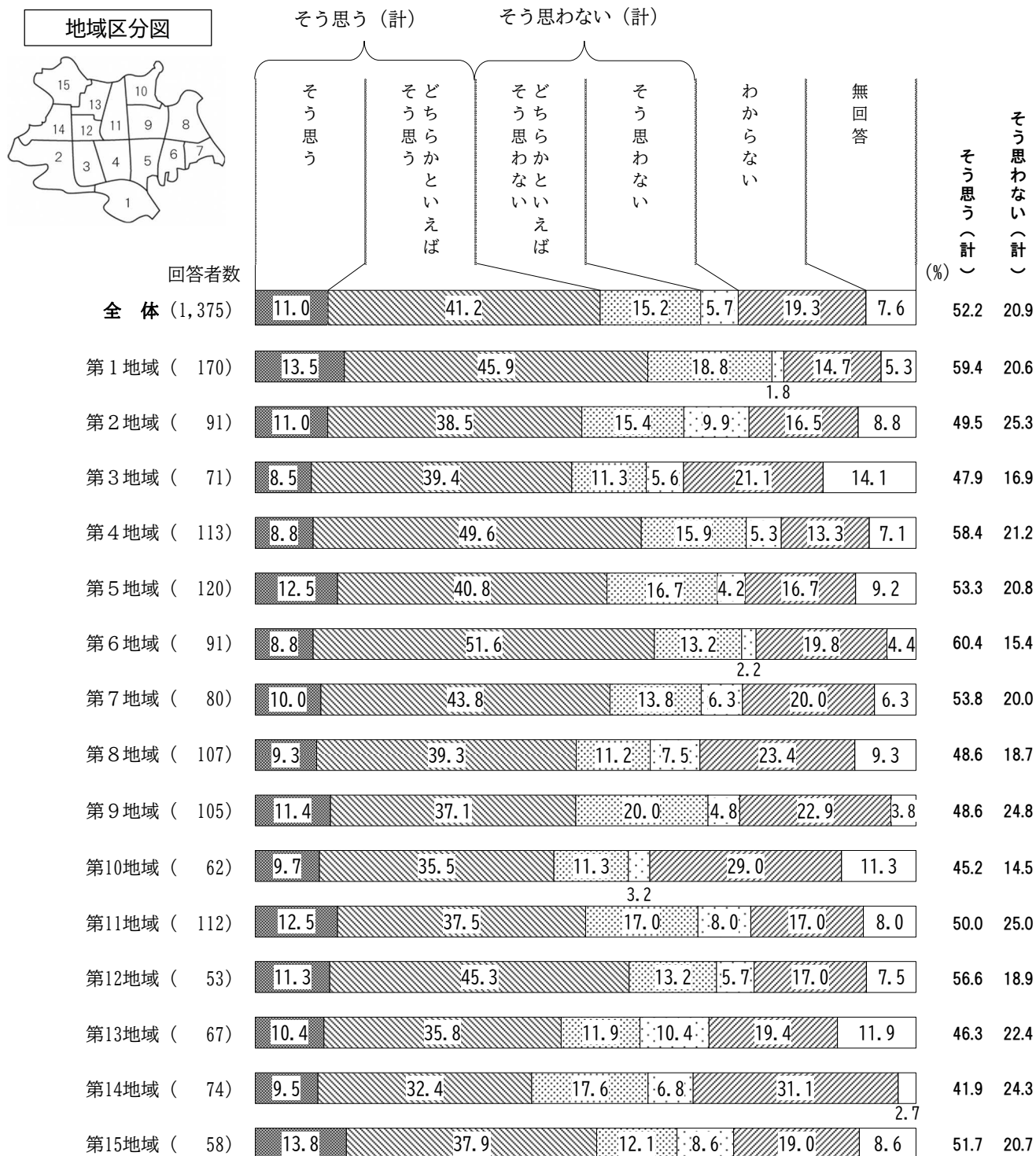
図11-1-2-③ 地域別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



オ クロス集計・地域別／区に対する気持ち／足立区を良いまちにするために何かしたい

〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉を地域別でみると、【そう思う】は第6地域が60.4%で最も高く、次いで第1地域、第4地域、第12地域が5割台後半が続いている。一方、【そう思わない】は第2地域が25.3%で最も高く、次いで第11地域が25.0%となっている。

図11-1-2-④ 地域別／区に対する気持ち／足立区を良いまちにするために何かしたい



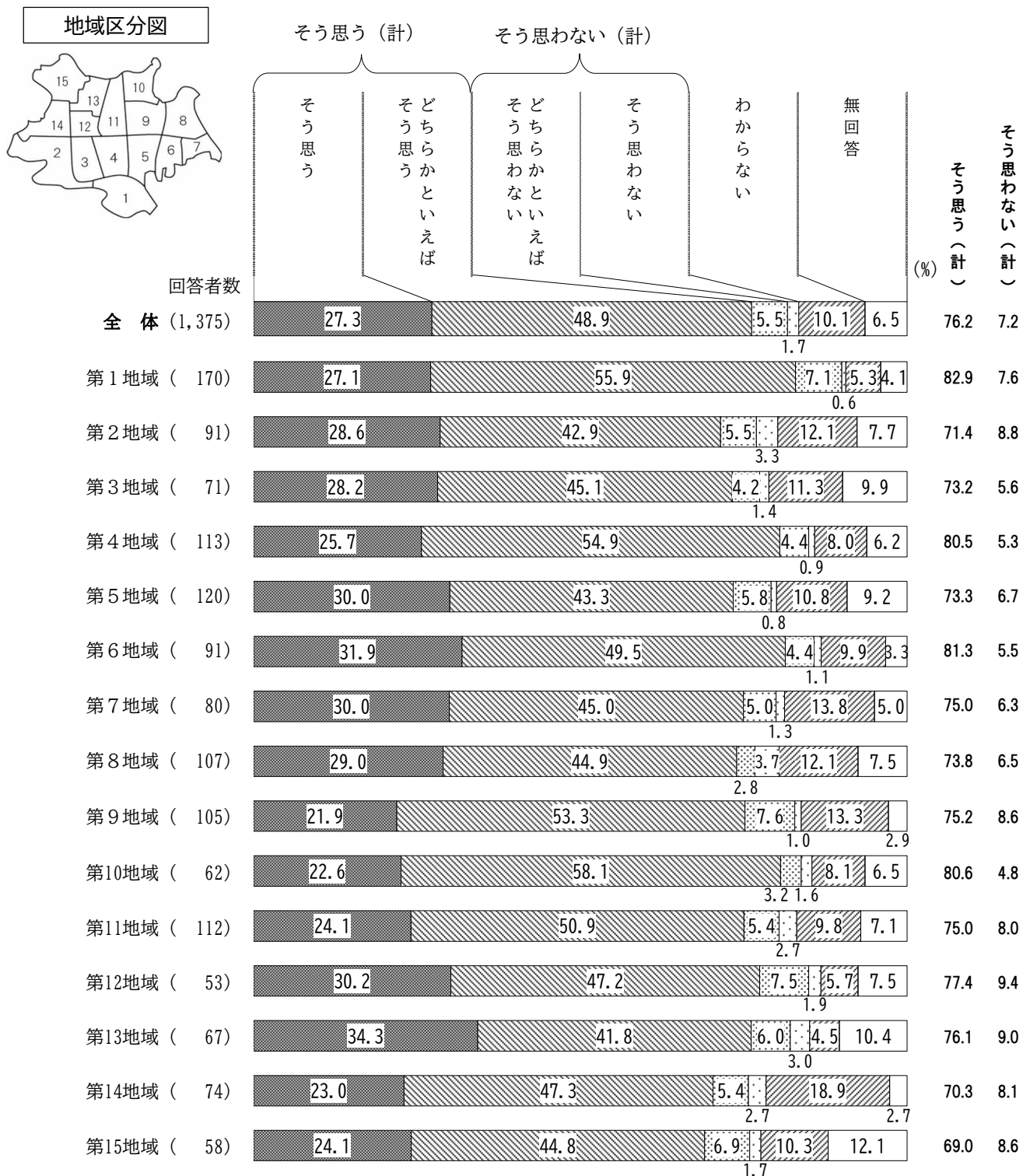
カ クロス集計・地域別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉を地域別でみると、【そう思う】は第1地域が82.9%で最も高く、次いで第6地域、第10地域、第4地域が8割台が続いている。一方、【そう思わない】は第12地域が9.4%で最も高く、次いで第13地域が9.0%となっている。

図11-1-2-⑤ 地域別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

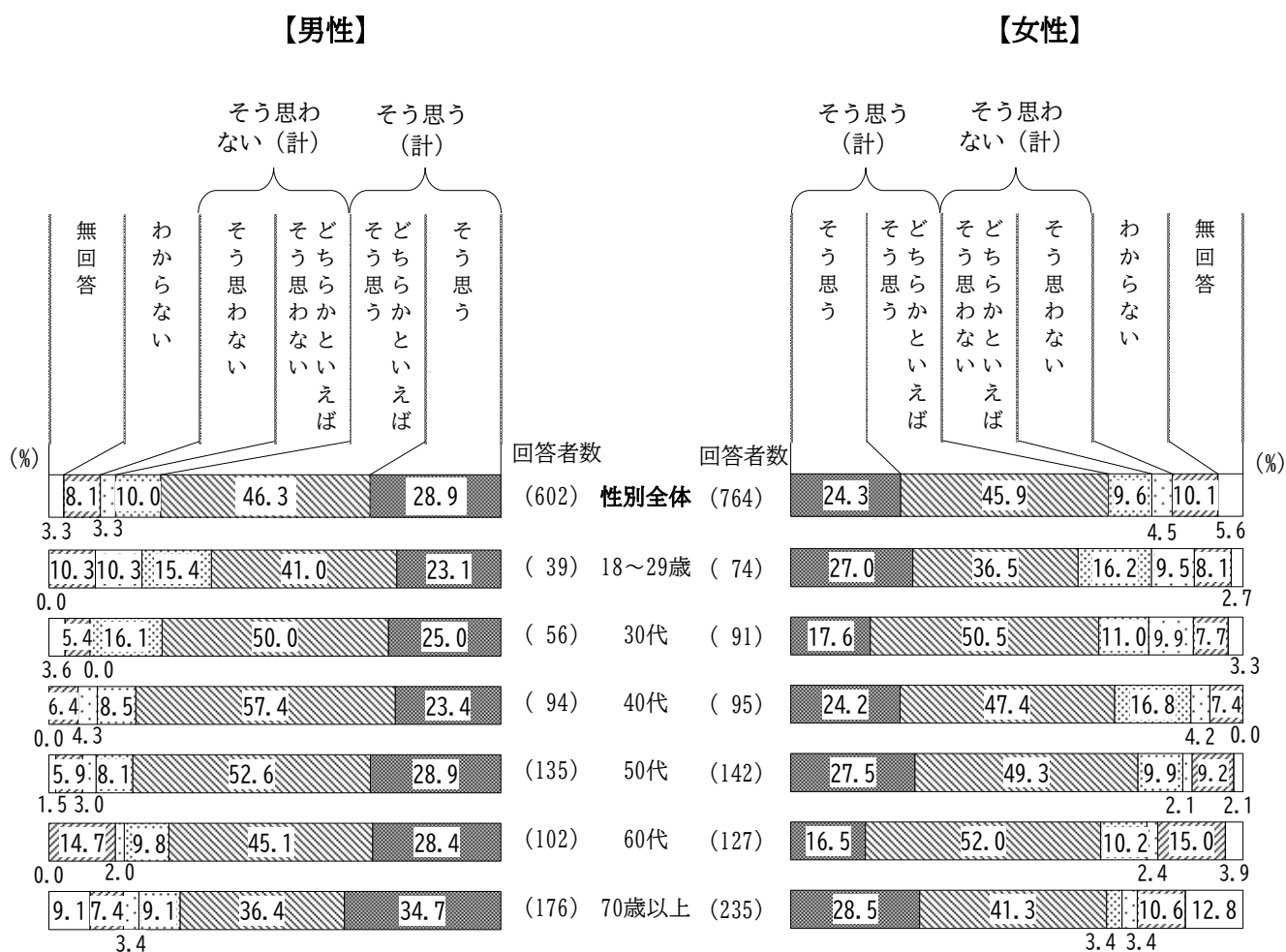


キ クロス集計・性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている

(ア) 〈足立区に愛着をもっている〉を性別でみると、【そう思う】は男性（75.2%）の方が女性（70.3%）より4.9ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【そう思う】は男性の50代が81.5%で最も高く、次いで男性の40代も8割となっている。一方、【そう思わない】は女性の18～29歳が25.7%で最も高く、僅差で男性の18～29歳（25.6%）となっている。

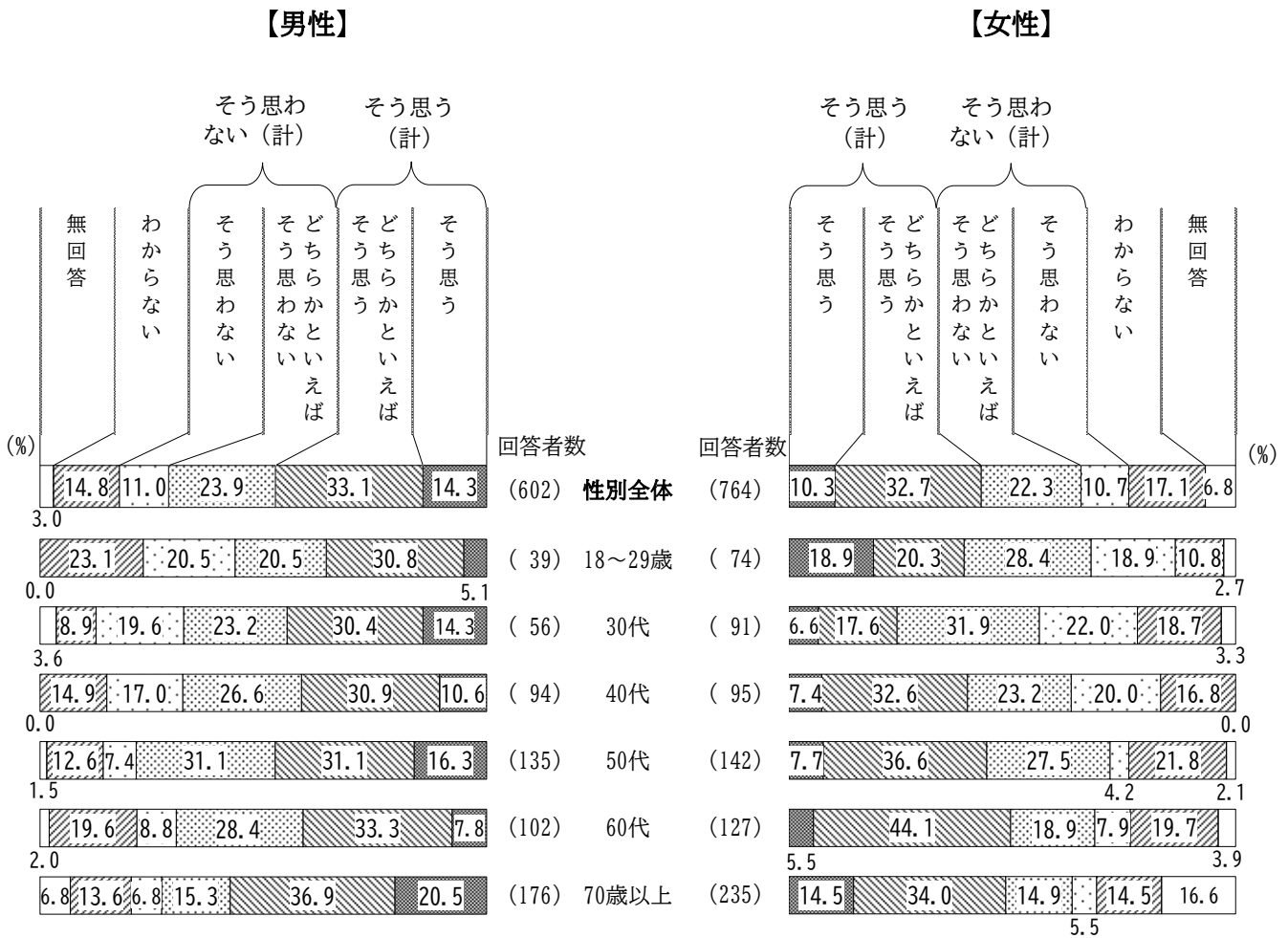
図11-1-3-① 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている



ク クロス集計・性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている

- (ア) 〈足立区に誇りをもっている〉を性別でみると、【そう思う】は男性（47.3％）の方が女性（43.1％）より4.2ポイント高くなっている。
- (イ) 性・年代別でみると、【そう思う】は男性の70歳以上が57.4％で特に高く、次いで女性の60代（49.6％）となっている。一方、【そう思わない】は女性の30代が53.8％で最も高く、次いで女性の18～29歳（47.3％）となっている。

図11-1-3-② 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている

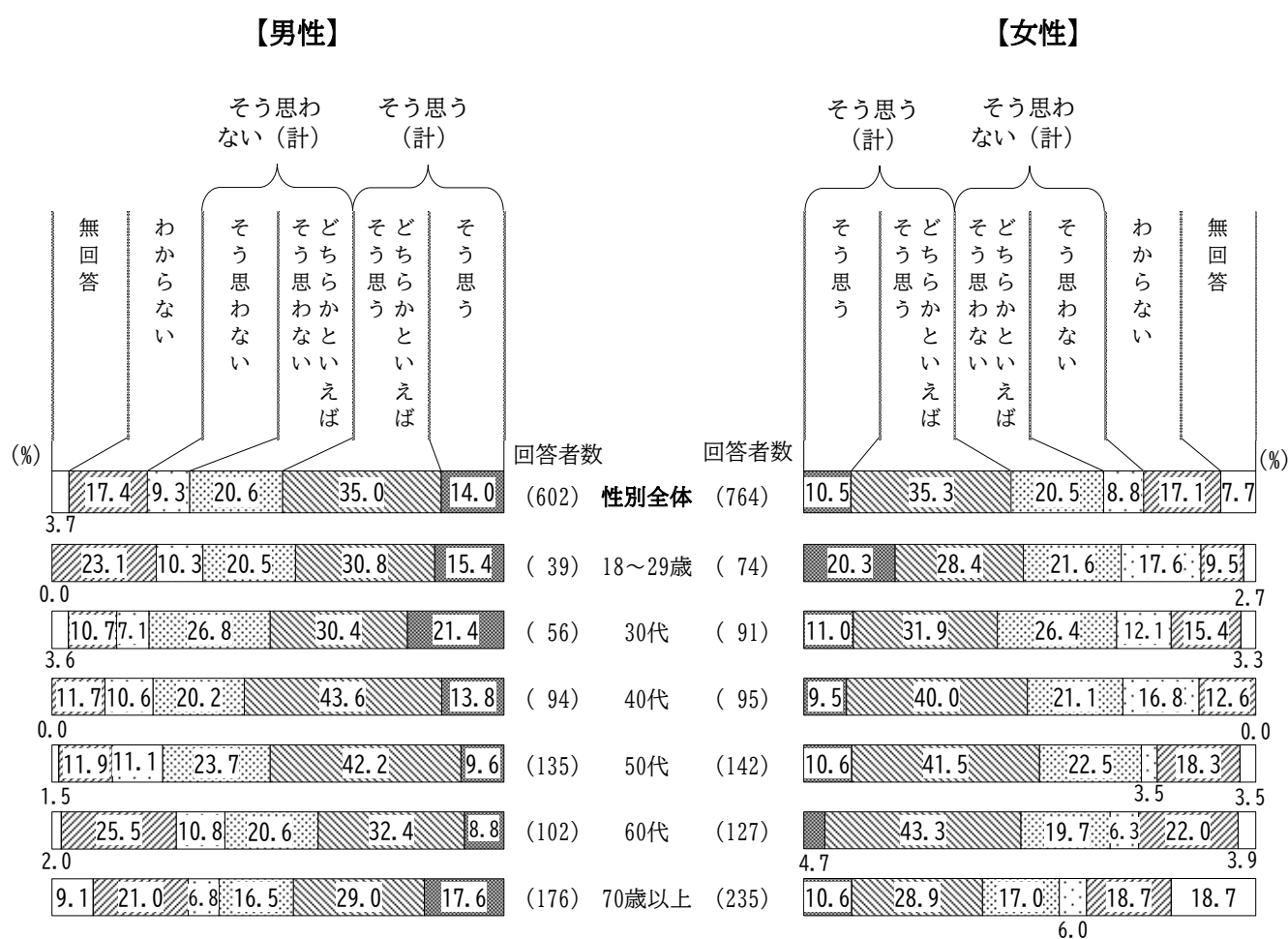


ケ クロス集計・性別・性・年代別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい

(ア)〈足立区を人に勧めたい〉を性別でみると、【そう思う】は男性(49.0%)の方が女性(45.8%)より3.2ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【そう思う】は男性の40代が57.4%で最も高く、次いで女性の50代と男性の50代、30代が5割台で続いている。一方、【そう思わない】は女性の18～29歳が39.2%と最も高く、次いで、女性の30代、40代が3割台後半となっている。

図11-1-3-③ 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



コ クロス集計・性別・性・年代別／区に対する気持ち

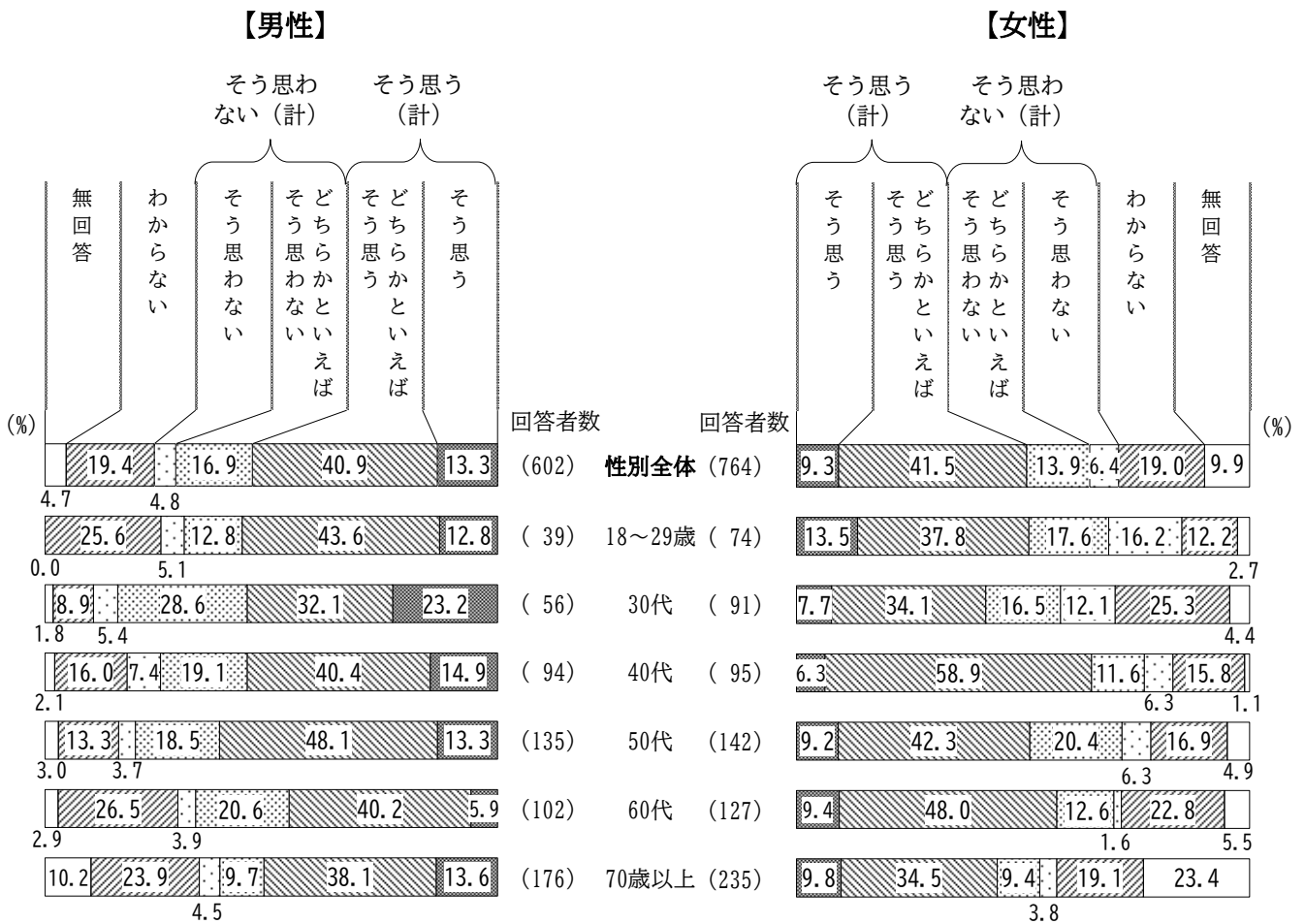
／足立区を良いまちにするために何かしたい

(ア)〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉を性別でみると、【そう思う】は男性(54.2%)の方が女性(50.8%)より3.4ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【そう思う】は女性の40代が65.3%で最も高く、次いで男性の50代が6割強で続いている。一方、【そう思わない】は男性の30代が33.9%で最も高く、次いで女性の18～29歳(33.8%)が僅差となっている。

図11-1-3-④ 性別・性・年代別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするために何かしたい



サ クロス集計・性別・性・年代別／区に対する気持ち

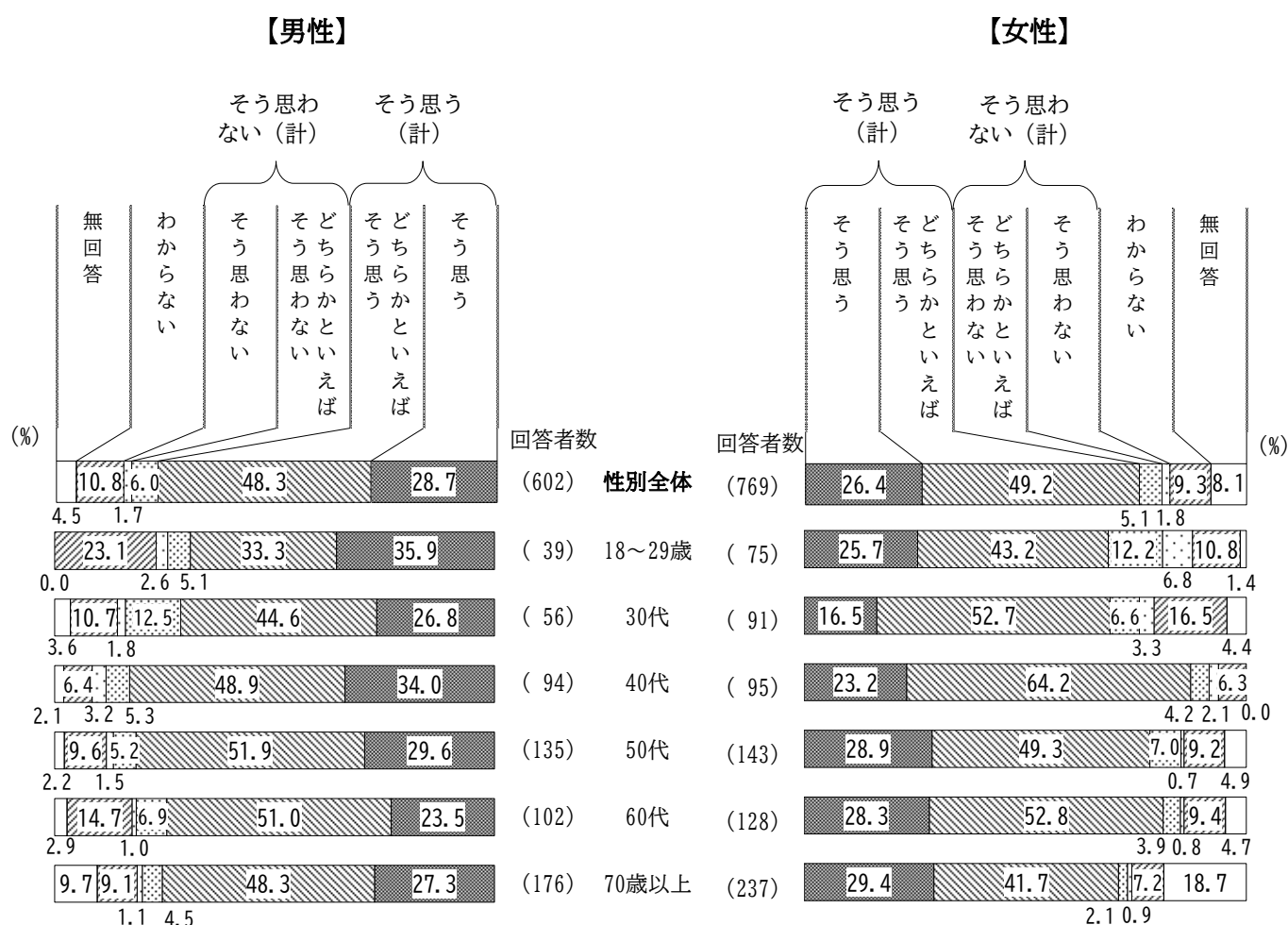
／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

(ア)〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉を性別で見ると、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別で見ると、【そう思う】は女性の40代で87.4%と最も高く、次いで男性の40代、50代、女性の60代が8割台で続いている。一方、【そう思わない】は女性の18～29歳が18.9%で最も高く、次いで男性の30代が14.3%となっている。

図11-1-3-⑤ 性別・性・年代別／区に対する気持ち

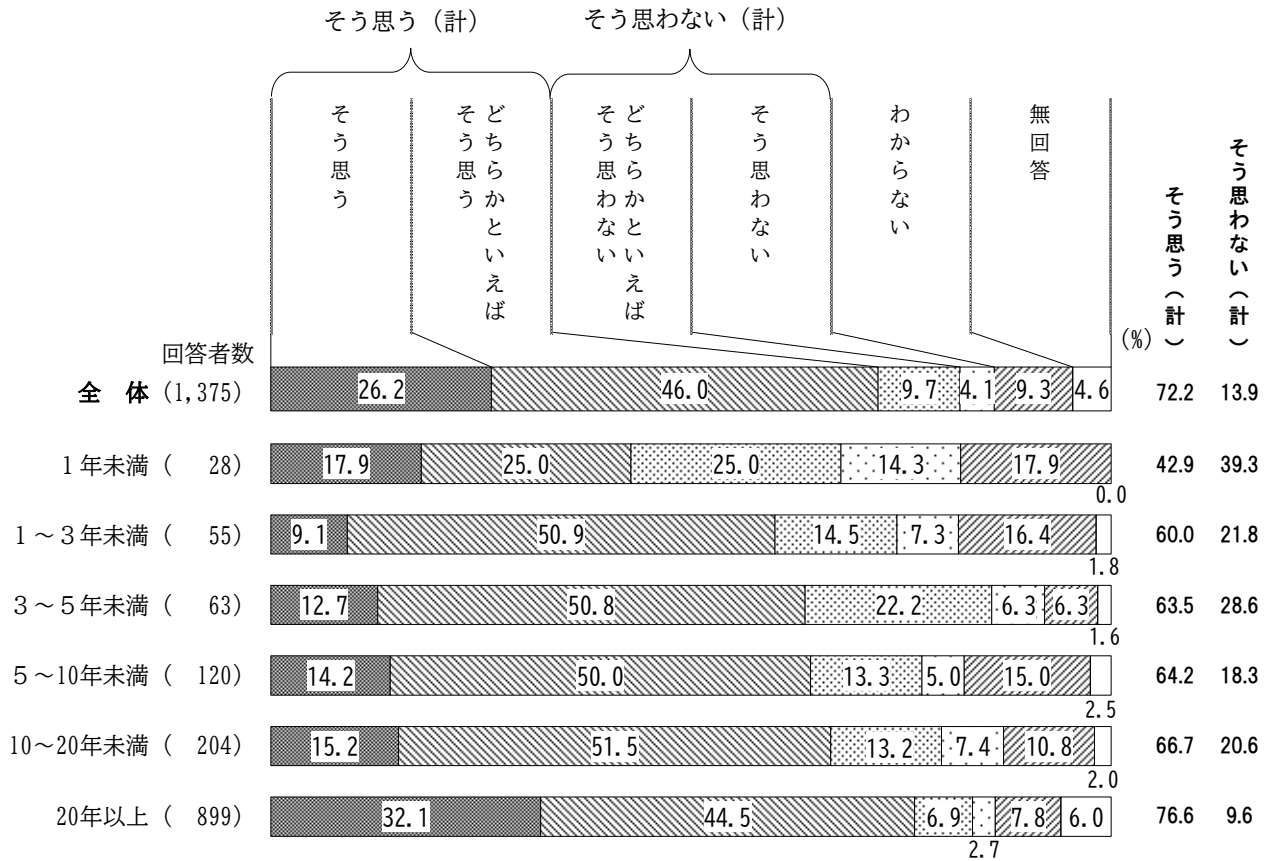
／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する



シ クロス集計・居住年数別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている

〈足立区に愛着をもっている〉を居住年数別でみると、【そう思う】は居住年数が長くなるほど割合が高くなり、1年未満で42.9%と最も低く、20年以上で76.6%と最も高くなっている。10～20年未満でも6割台後半と高くなっている。一方、【そう思わない】は、1年未満が39.3%と最も高く、次いで3～5年未満が28.6%となっている。

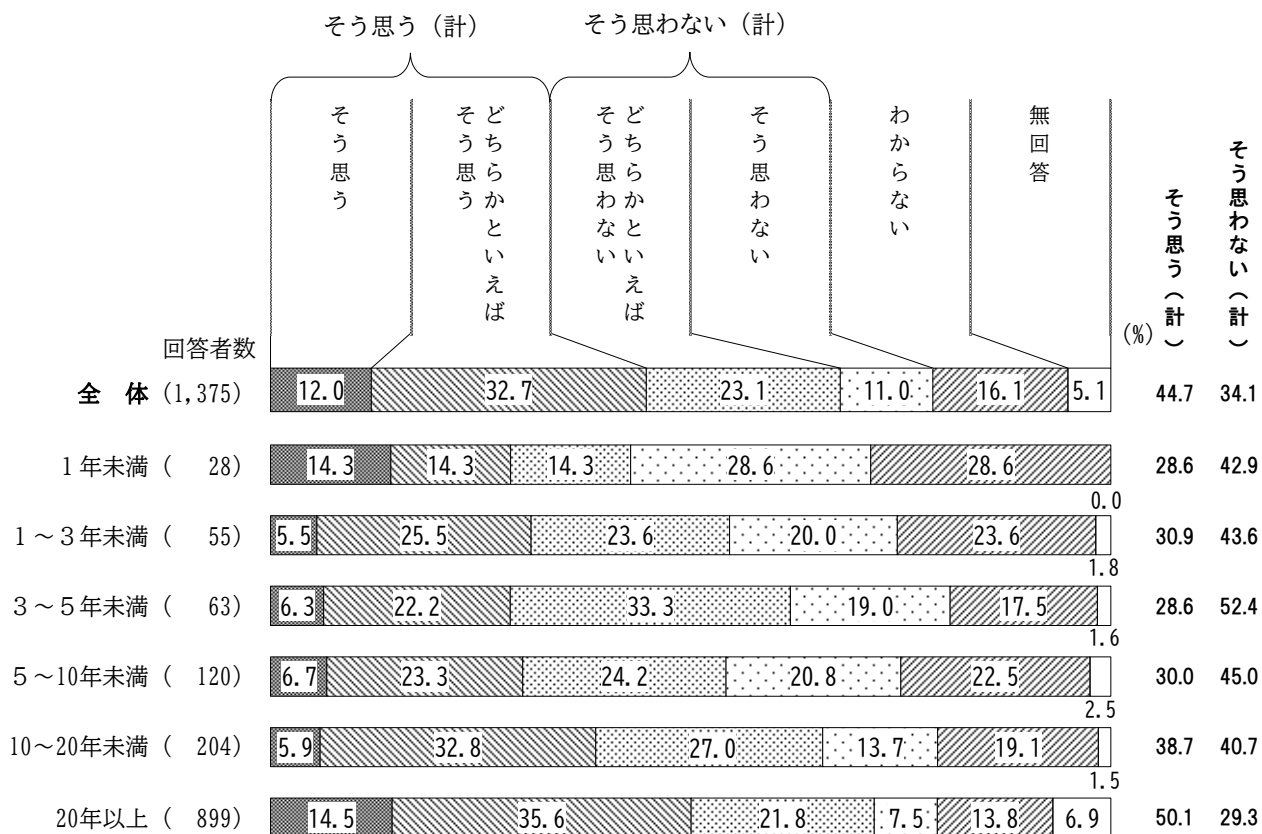
図11-1-4-① 居住年数別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている



ス クロス集計・居住年数別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている

〈足立区に誇りをもっている〉を居住年数別でみると、【そう思う】は5～10年未満までが3割前後であったが、10～20年未満で4割近くとなり、20年以上で5割と最も高くなっている。一方、【そう思わない】は、3～5年未満で52.4%と最も高く、20年以上で29.3%と最も低くなっている。

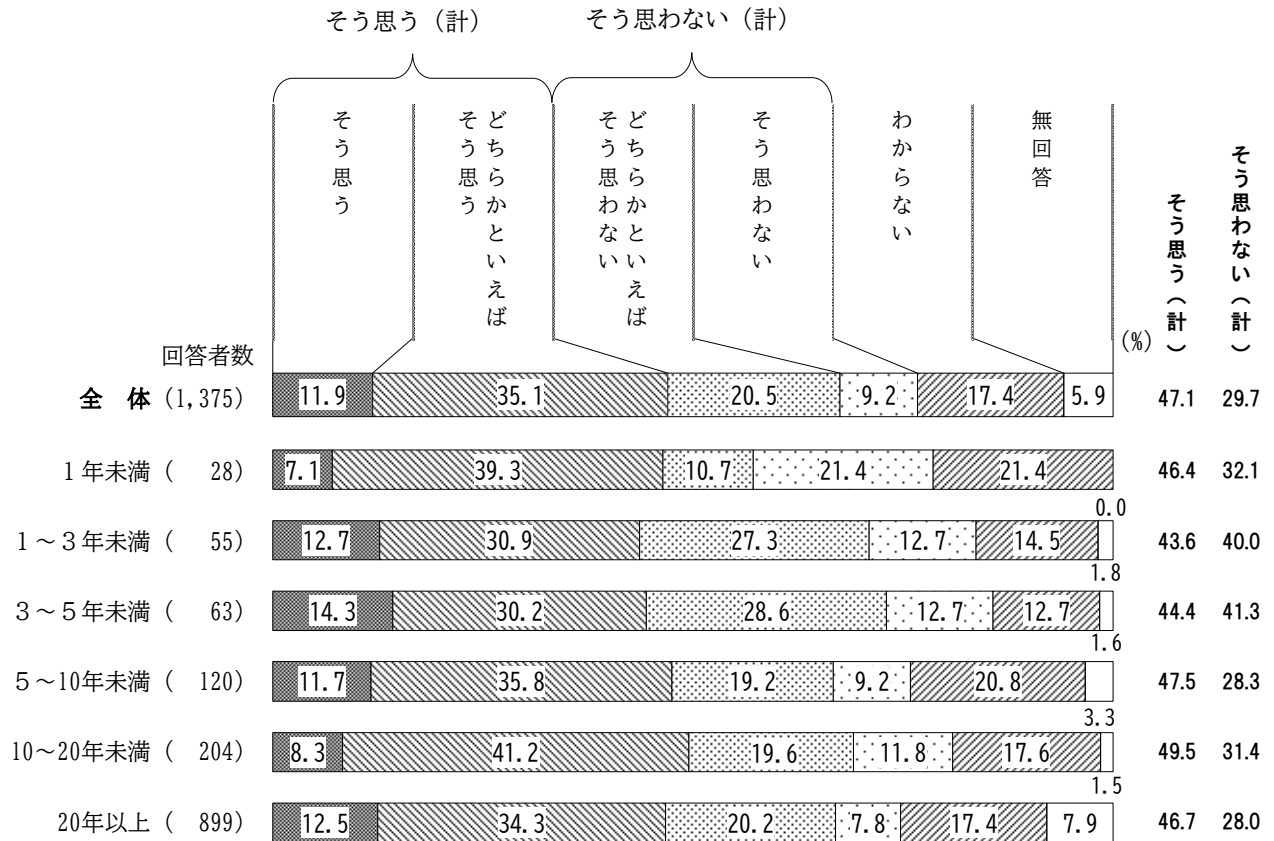
図11-1-4-② 居住年数別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



セ クロス集計・居住年数別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい

〈足立区を人に勧めたい〉を居住年数別でみると、【そう思う】は10～20年未満で49.5%と最も高いものの、それ以外の年数すべてで4割台と、居住年数による大きな違いは見られない。一方、【そう思わない】は1～5年未満で4割から4割強と高く、5～10年未満と20年以上で2割台と低くなっている。

図11-1-4-③ 居住年数別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



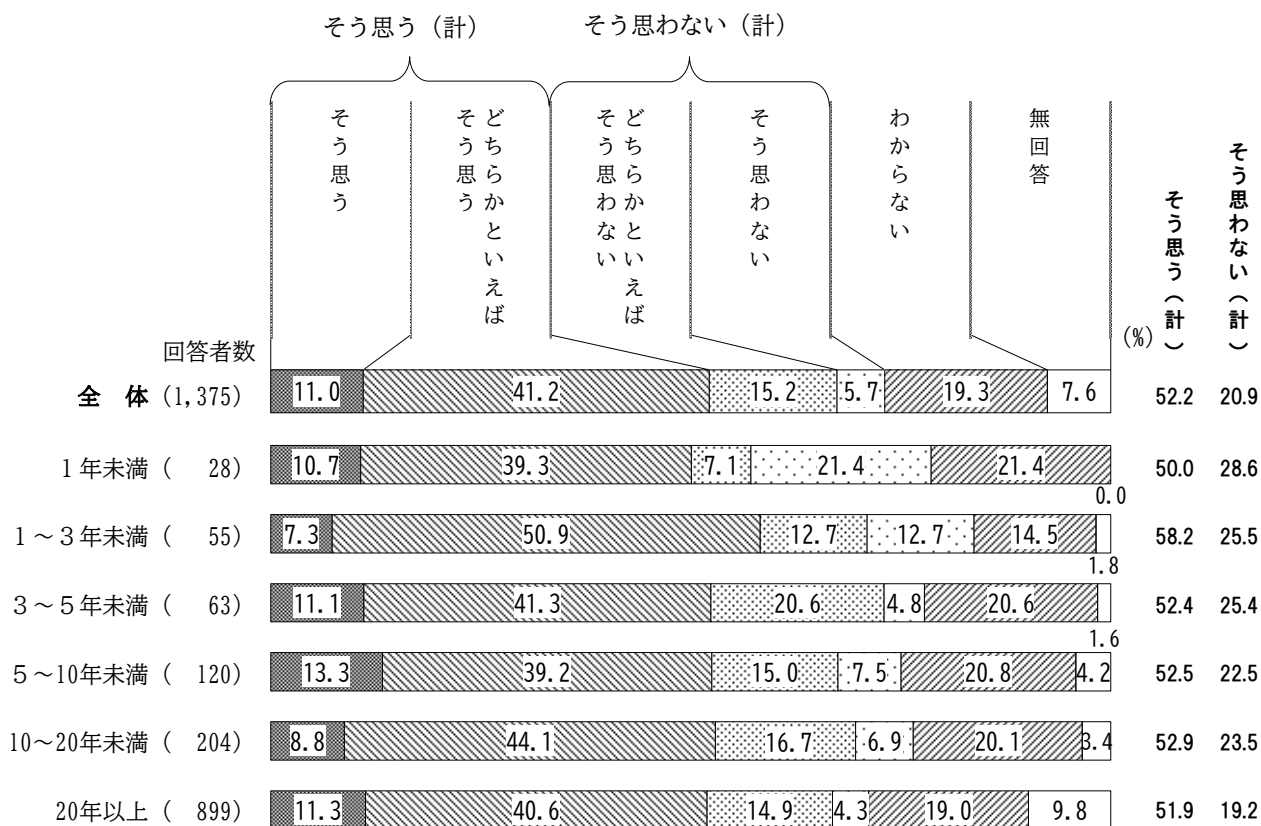
ソ クロス集計・居住年数別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするために何かしたい

〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉を居住年数別でみると、【そう思う】は1～3年未満で58.2%と最も高いものの、それ以外の年数すべてで5割台と、居住年数による大きな違いは見られない。一方、【そう思わない】も20年以上で約2割と最も低いものの、20年未満のすべての年数で2割台と、居住年数による大きな違いは見られない。

図11-1-4-④ 居住年数別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするために何かしたい



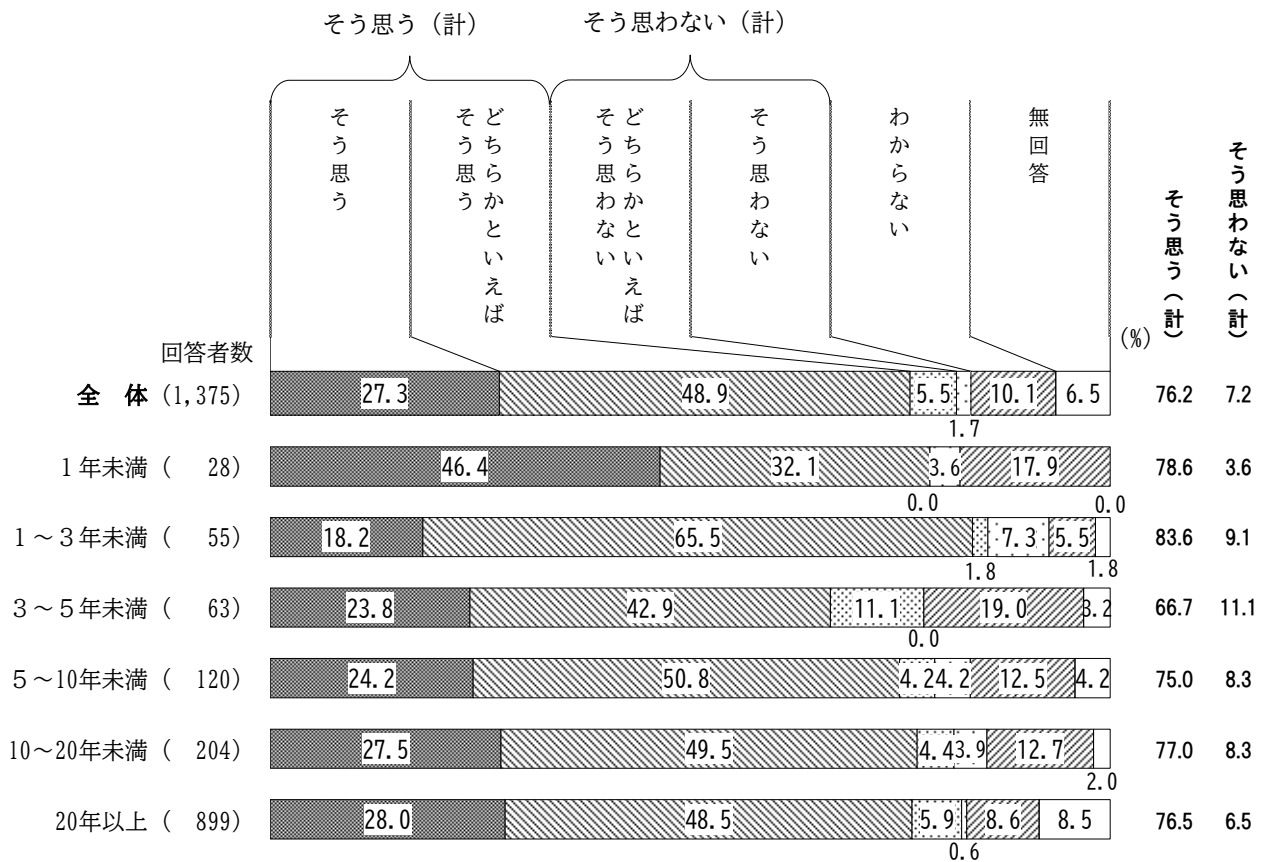
タ クロス集計・居住年数別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉を居住年数別でみると、【そう思う】は1～3年未満で83.6%と最も高く、3～5年未満で66.7%と最も低く、それ以外の年数では7割台後半となっている。一方、【そう思わない】は3～5年未満で11.1%となっているが、それ以外の年数はすべて1割未満と低くなっている。

図11-1-4-⑤ 居住年数別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する



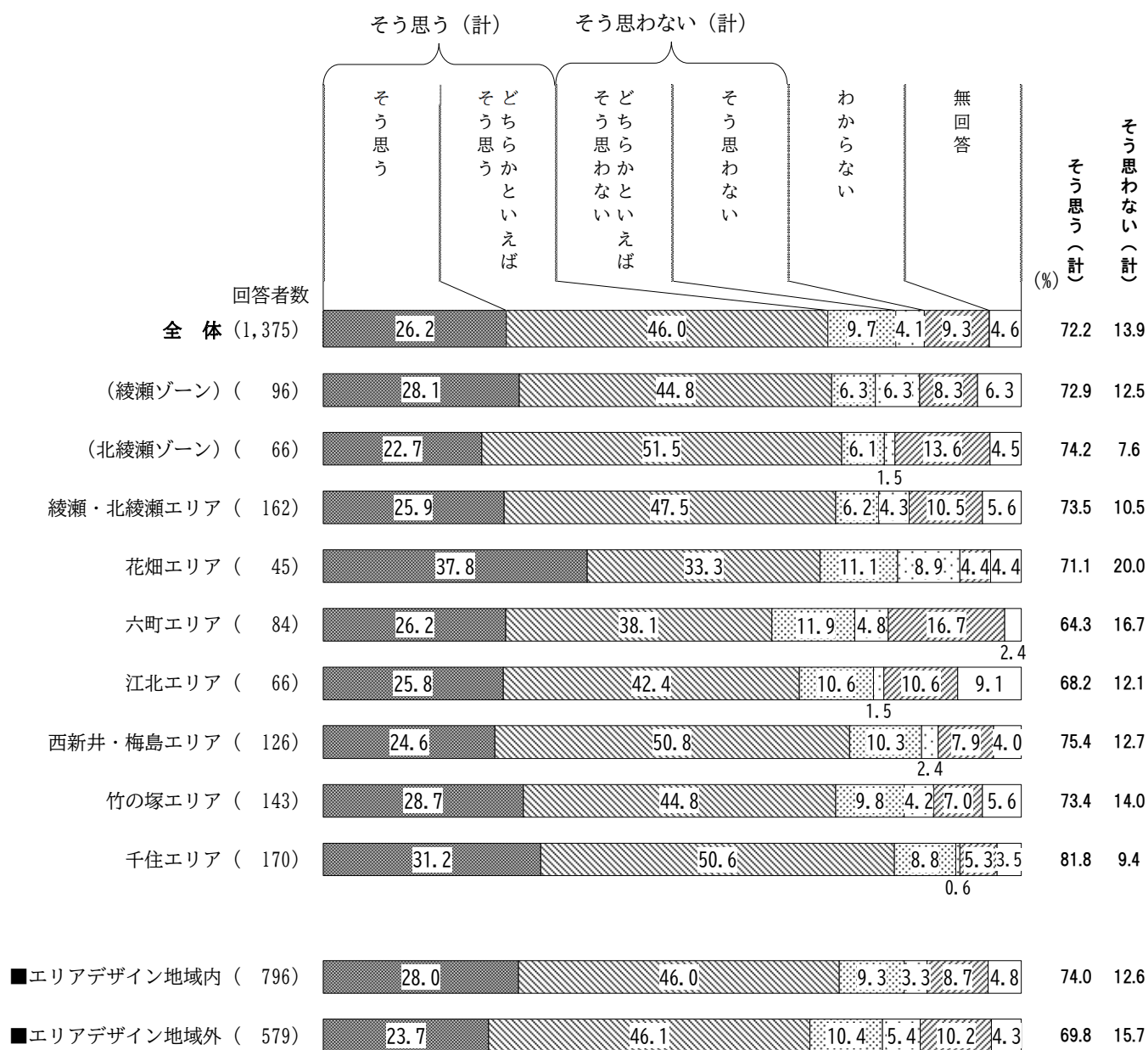
チ クロス集計・エリアデザイン別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている

(ア)〈足立区に愛着をもっている〉をエリアデザイン別でみると、【そう思う】は千住エリアが81.8%で最も高く、次いで西新井・梅島エリアが7割台後半で続いている。逆に、六町エリア(64.3%)と江北エリア(68.2%)が6割台と低くなっている。

(イ)エリアデザインの地域内外の比較では、【そう思う】は地域内(74.0%)が地域外(69.8%)より4.2ポイント高くなっている。

※(綾瀬ゾーン)と(北綾瀬ゾーン)は図示しているが、エリア別の分析では対象外としている

図11-1-5-① エリアデザイン別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている



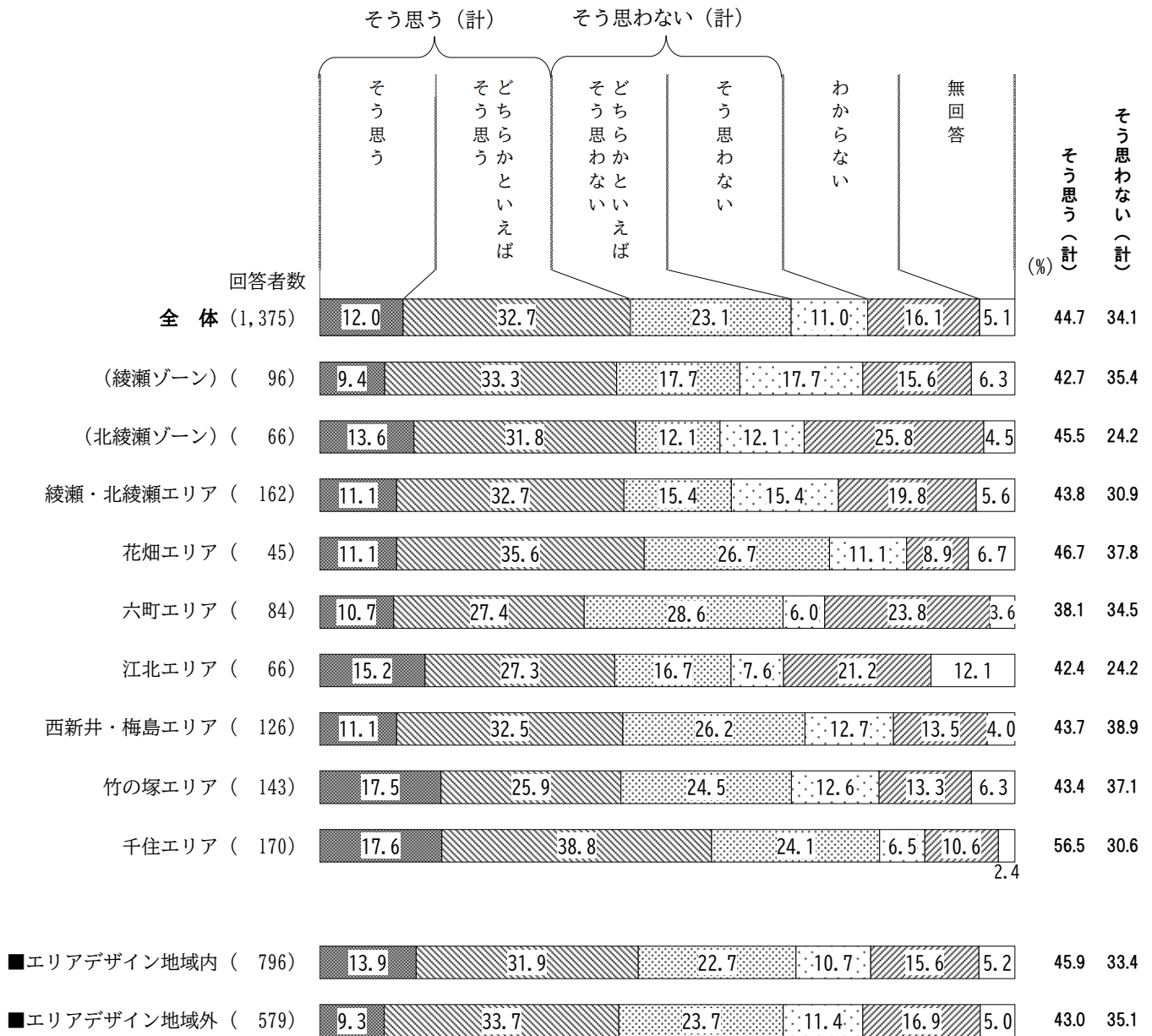
ツ クロス集計・エリアデザイン別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている

(ア)〈足立区に誇りをもっている〉をエリアデザイン別でみると、【そう思う】は、千住エリアが56.5%で最も高く、次いで花畑エリア(46.7%)となっている。逆に、六町エリア(38.1%)が3割台で最も低くなっている。

(イ) エリアデザインの地域内外の比較では、【そう思う】は地域内(45.9%)の方が地域外(43.0%)より2.9ポイント高くなっている。

※(綾瀬ゾーン)と(北綾瀬ゾーン)は図示しているが、エリア別の分析では対象外としている

図11-1-5-② エリアデザイン別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



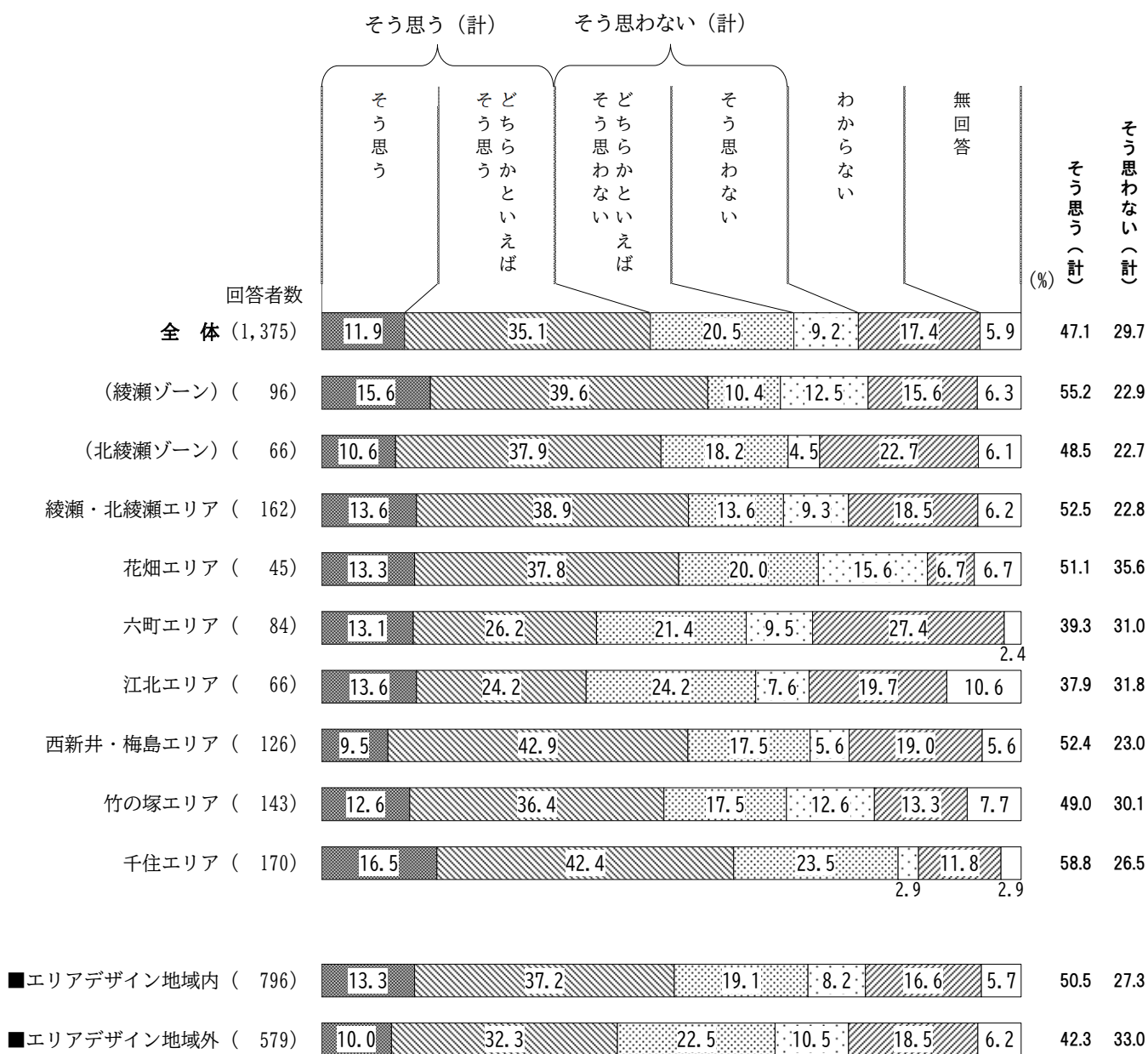
テ クロス集計・エリアデザイン別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい

(ア) 〈足立区を人に勧めたい〉をエリアデザイン別でみると、【そう思う】は、千住エリアが58.8%で最も高く、次いで、綾瀬・北綾瀬エリア(52.5%)が続いている。逆に、江北エリア(37.9%)と六町エリア(39.3%)が3割台で低くなっている。

(イ) エリアデザインの地域内外の比較では、【そう思う】は地域内(50.5%)の方が地域外(42.3%)より8.2ポイント高くなっている。

※(綾瀬ゾーン)と(北綾瀬ゾーン)は図示しているが、エリア別の分析では対象外としている

図11-1-5-③ エリアデザイン別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



ト クロス集計・エリアデザイン別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするために何かしたい

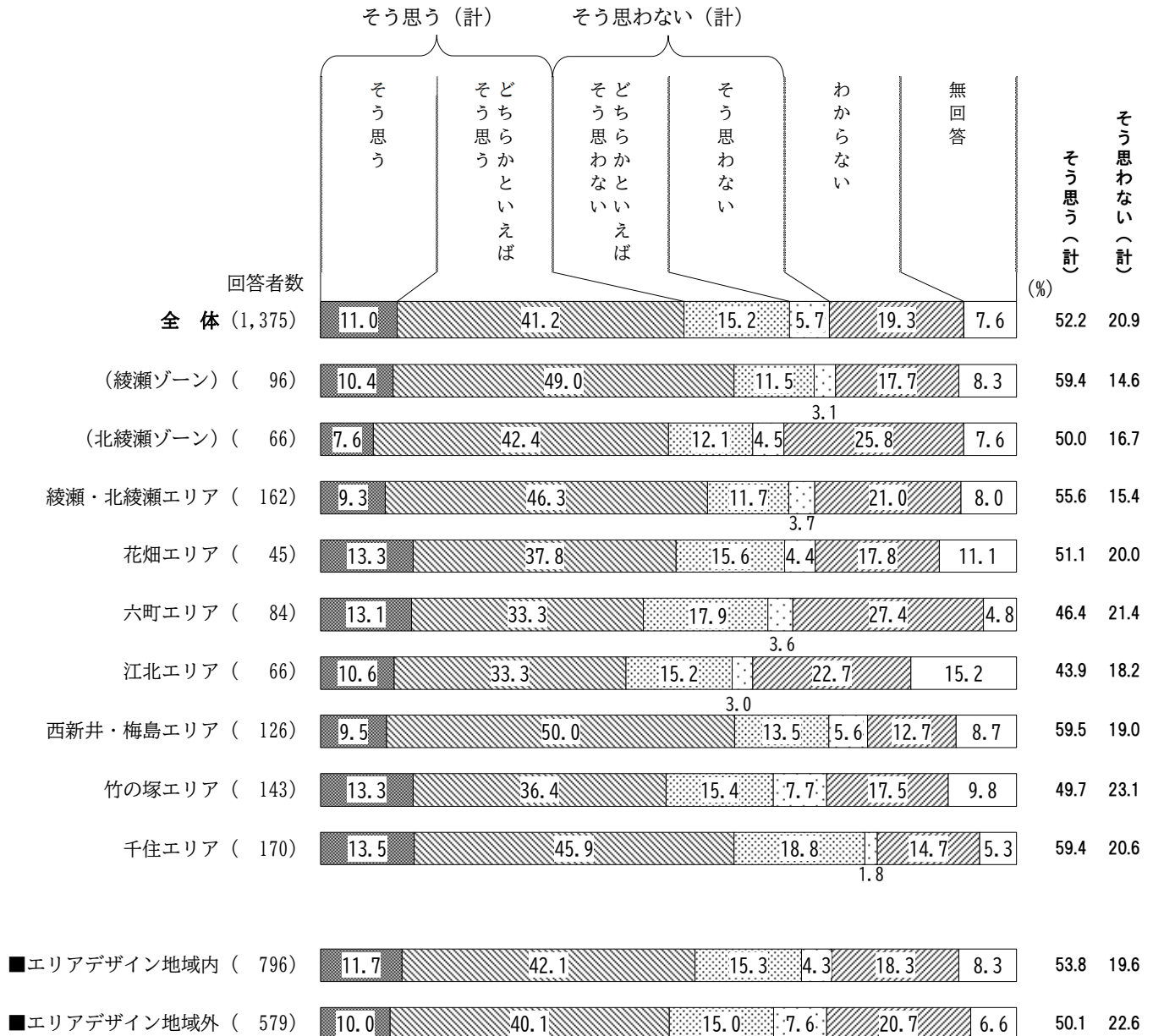
(ア)〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉をエリアデザイン別でみると、【そう思う】は、西新井・梅島エリアが59.5%で最も高く、僅差で千住エリアが59.4%が続いている。逆に、江北エリア（43.9%）が4割台前半と低くなっている。

(イ) エリアデザインの地域内外の比較では、【そう思う】は地域内（53.8%）の方が地域外（50.1%）より3.7ポイント高くなっている。

※（綾瀬ゾーン）と（北綾瀬ゾーン）は図示しているが、エリア別の分析では対象外としている

図11-1-5-④ エリアデザイン別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするために何かしたい



ナ クロス集計・エリアデザイン別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

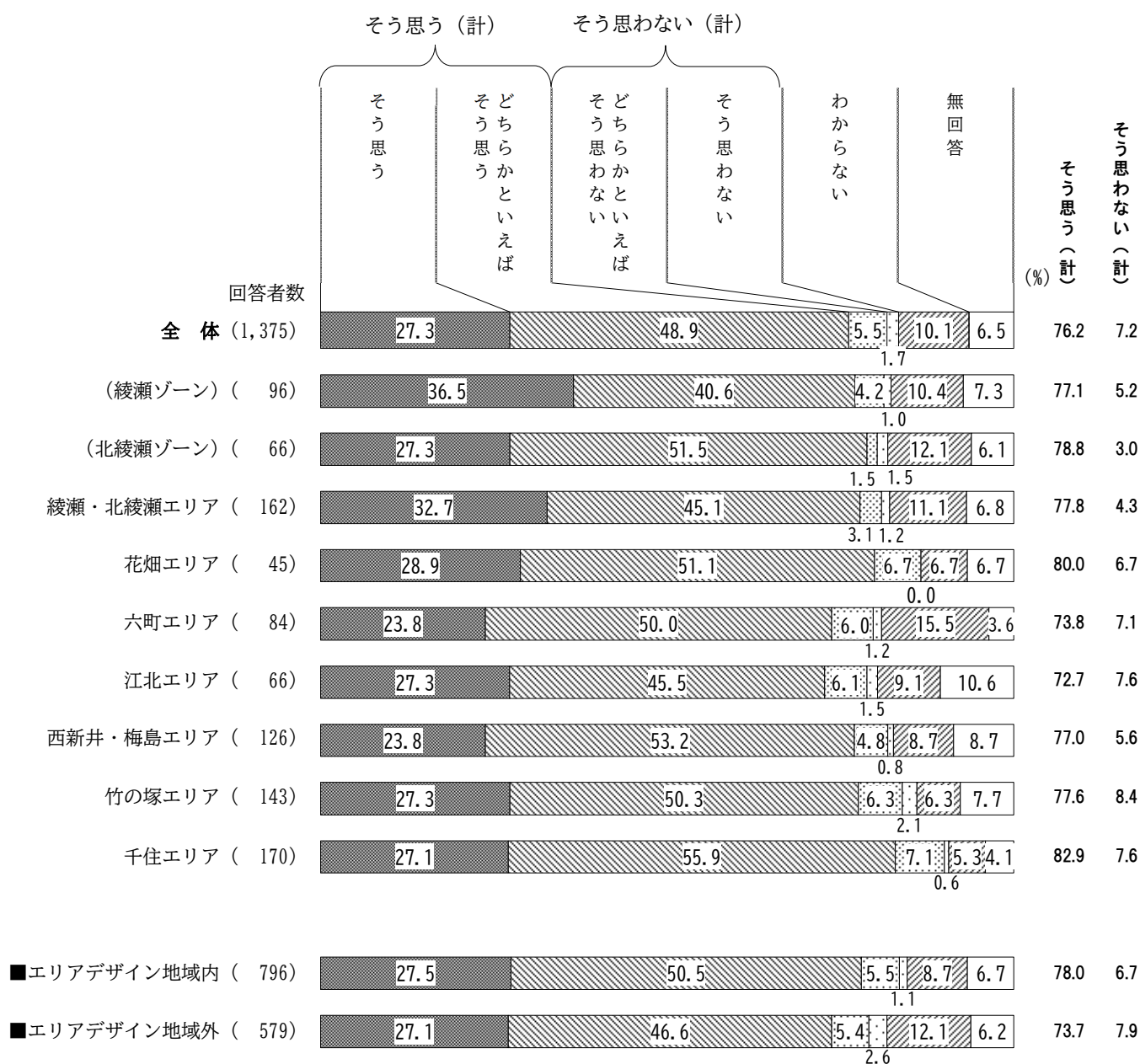
(ア)〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉をエリアデザイン別で見ると、【そう思う】は、千住エリアが82.9%で最も高く、次いで、花畑エリア（80.0%）となっている。逆に、江北エリア（72.7%）と六町エリア（73.8%）が7割台前半と低くなっている。

(イ) エリアデザインの地域内外の比較では、【そう思う】は地域内（78.0%）の方が地域外（73.7%）より4.3ポイント高くなっている。

※（綾瀬ゾーン）と（北綾瀬ゾーン）は図示しているが、エリア別の分析では対象外としている

図11-1-5-⑤ エリアデザイン別／区に対する気持ち

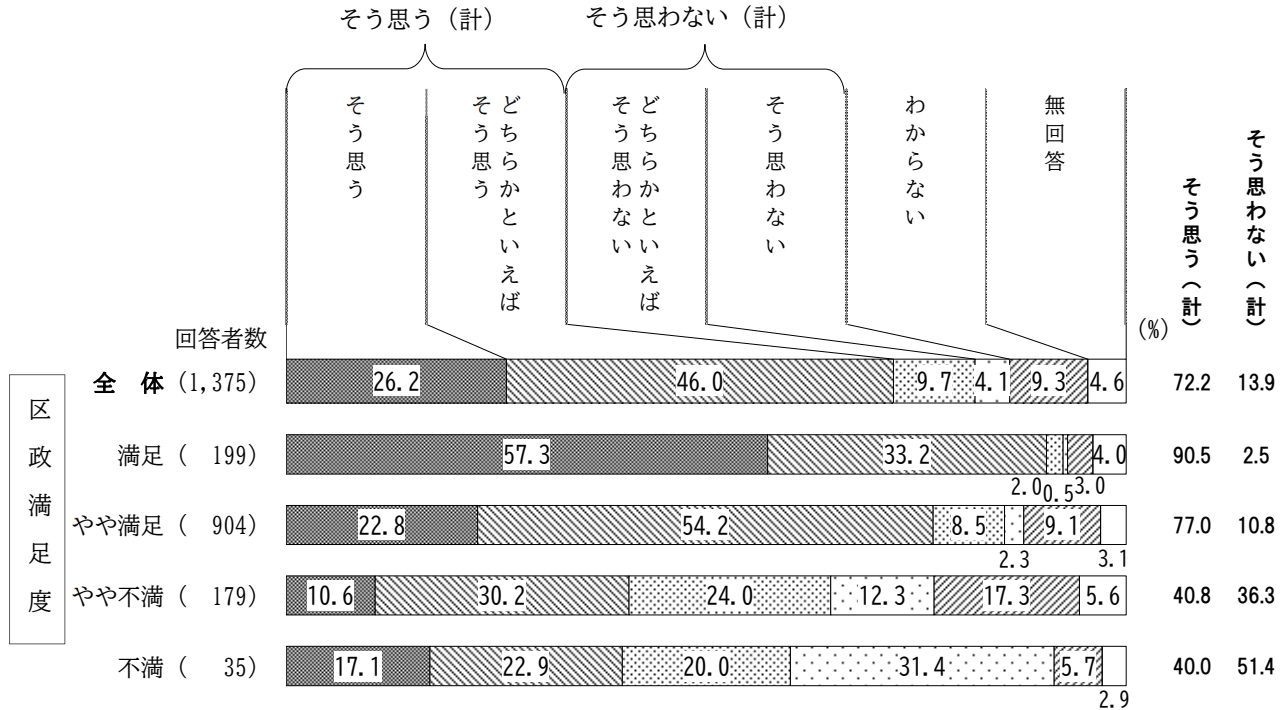
／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する



二 クロス集計・区政満足度別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている

〈足立区に愛着をもっている〉について、区政満足度別でみると、【そう思う】は区政への満足度が増すほど割合が高くなり、区政に満足している層で90.5%と最も高くなっている。

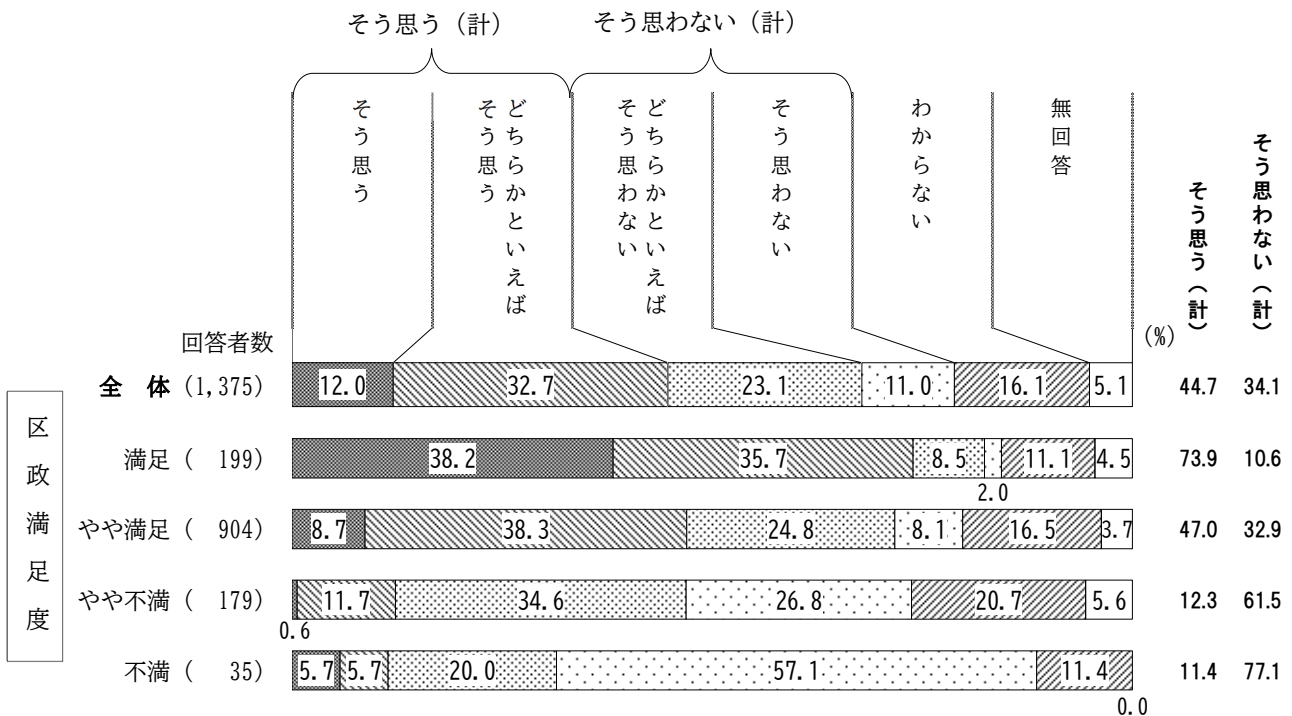
図11-1-6-① 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている



又 クロス集計・区政満足度別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている

〈足立区に誇りをもっている〉について、区政満足度別でみると、【そう思う】は区政への満足度が増すほど割合が高くなり、区政に満足している層で73.9%と最も高くなっている。

図11-1-6-② 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている

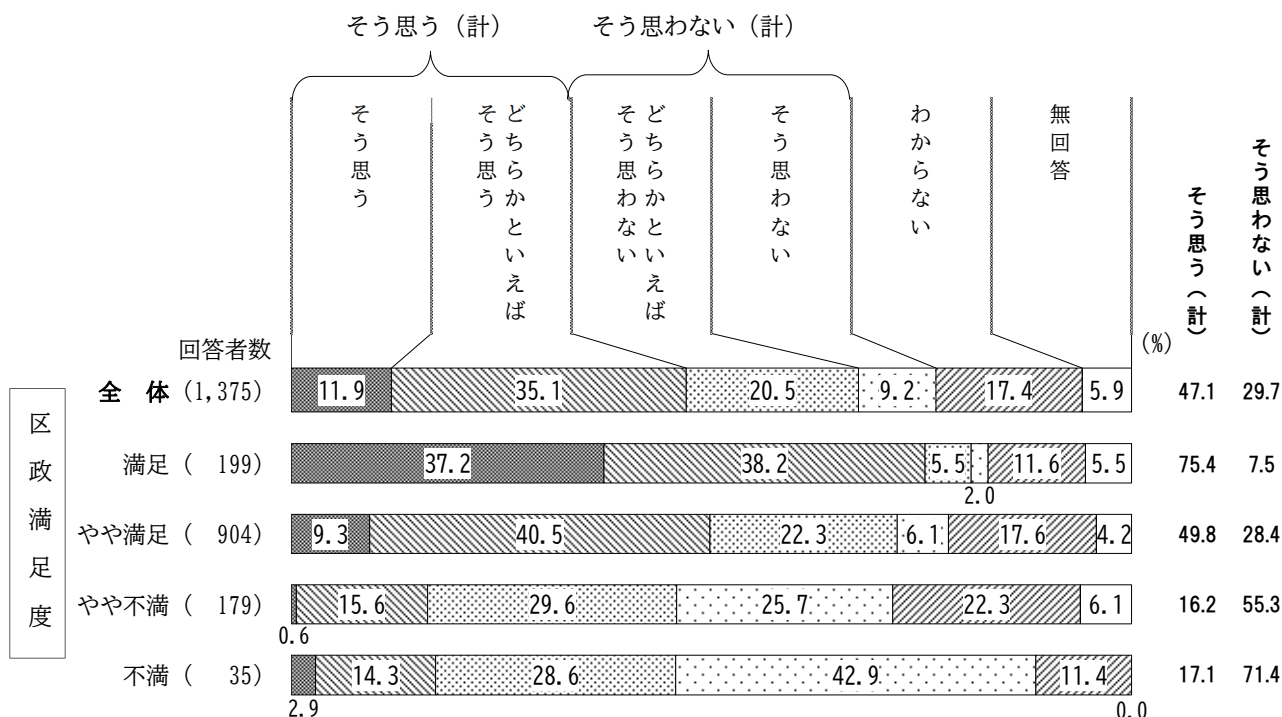


第3章 調査結果の分析〈区を取り組み〉

ネ クロス集計・区政満足度別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい

〈足立区を人に勧めたい〉について、区政満足度別でみると、【そう思う】は区政への満足度が増すほど割合が高くなり、区政に満足している層で75.4%と最も高くなっている。

図11-1-6-③ 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



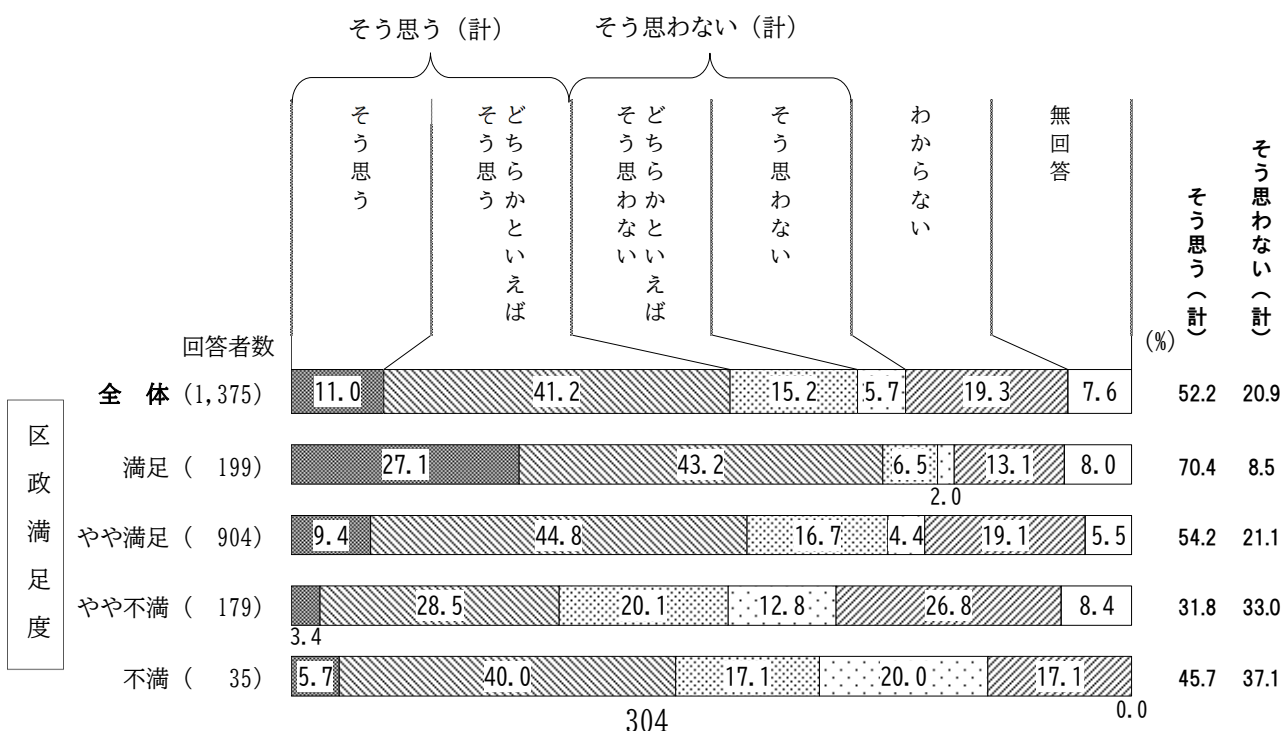
ノ クロス集計・区政満足度別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするために何かしたい

〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉について、区政満足度別でみると、【そう思う】は区政への満足度が増すほどおおむね割合が高くなり、区政に満足している層で70.4%と最も高くなっている。

図11-1-6-④ 区政満足度別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするために何かしたい



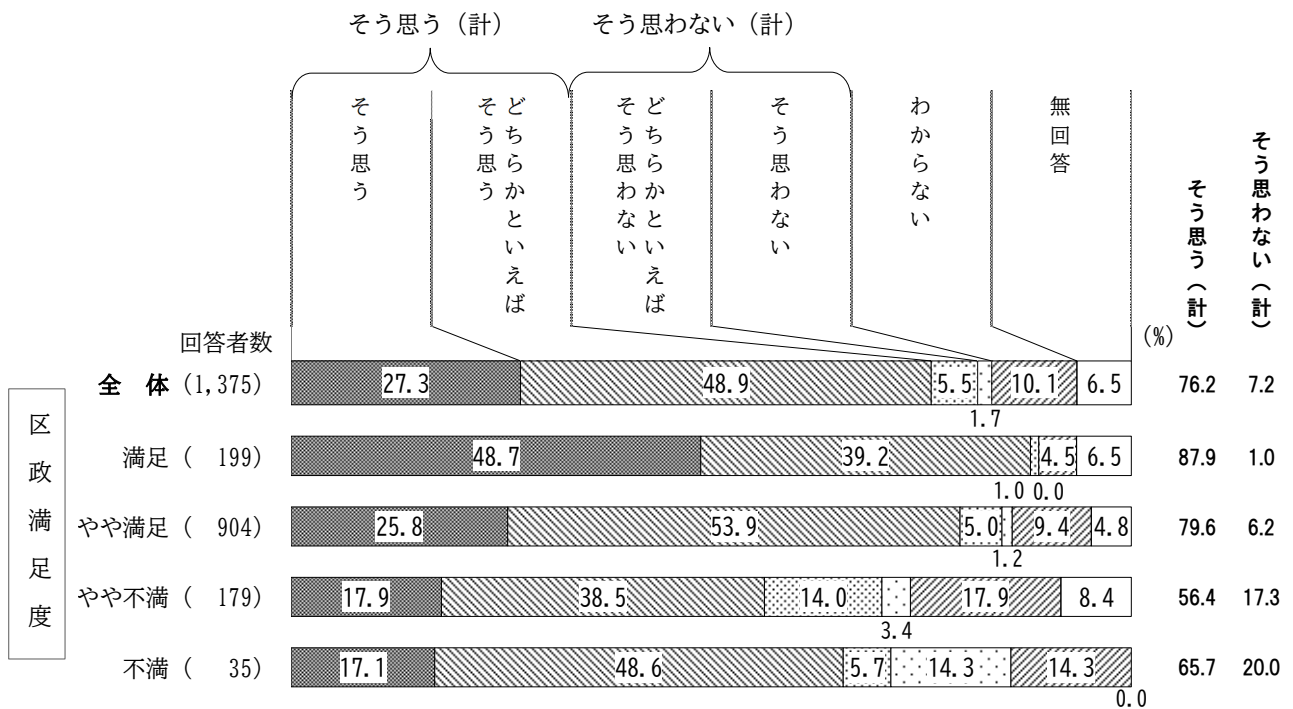
ハ クロス集計・区政満足度別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉について、区政満足度別でみると、【そう思う】は区政への満足度が増すほどおおむね割合が高くなり、区政に満足している層で87.9%と最も高くなっている。

図11-1-6-⑤ 区政満足度別／区に対する気持ち

／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する



ヒ クロス集計・区政満足度別／区に対する気持ち

／【区政「満足層」・「不満層」】と【気持ち「そう思う」・「そう思わない」】の相関

(ア) 区政満足層(計)においては、すべての〈気持ち〉で肯定層『そう思う(計)』の割合が否定層『そう思わない(計)』の割合を上回っている。

- ① 〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉(+75.8ポイント)
- ② 〈足立区に愛着をもっている〉(+70.1ポイント)
- ③ 〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉(+38.2ポイント)
- ④ 〈足立区を人に勧めたい〉(+29.7ポイント)
- ⑤ 〈足立区に誇りをもっている〉(+23.1ポイント)

(イ) 区政不満層(計)においては、〈気持ち〉の肯定層と否定層の割合に一定の相関は見られず、否定層の割合が肯定層の割合を上回っている〈気持ち〉は2つとなっている。

- ① 〈足立区に誇りをもっている〉(+51.9ポイント)
- ② 〈足立区を人に勧めたい〉(+41.5ポイント)
- － 〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉(－0.5ポイント)
- － 〈足立区に愛着をもっている〉(－1.9ポイント)
- － 〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉(－40.1ポイント)

(ウ) 区政満足度と各気持ちとの相関は、区政満足層で〈気持ち〉の肯定層の割合が高く、区政不満層で〈気持ち〉の否定層の割合が高いほど相関があるといえ、それぞれの割合の差がともに20ポイント以上ある〈足立区に誇りをもっている〉と〈足立区を人に勧めたい〉が区政満足度との相関関係が強いといえる。

図11-1-6-⑥ 区政満足度別／区に対する気持ち

／【区政「満足層」・「不満層」】と【気持ち「そう思う」・「そう思わない」】の相関

		ア 足立区に愛着をもっている		イ 足立区に誇りをもっている		ウ 足立区を人に勧めたい		エ 足立区を良いまちにするために何かしたい		オ 足立区を良いまちにするために活動する人に共感する	
		(計)そう思う	(計)そう思わない	(計)そう思う	(計)そう思わない	(計)そう思う	(計)そう思わない	(計)そう思う	(計)そう思わない	(計)そう思う	(計)そう思わない
区政満足度	全 体	72.2	13.9	44.7	34.1	47.1	29.7	52.2	20.9	76.2	7.2
	満足層(計)	79.4	9.3	51.9	28.8	54.4	24.7	57.1	18.9	81.1	5.3
	不満層(計)	40.7	38.8	12.1	64.0	16.4	57.9	34.1	33.6	57.9	17.8

肯定層が否定層より
20ポイント以上高い

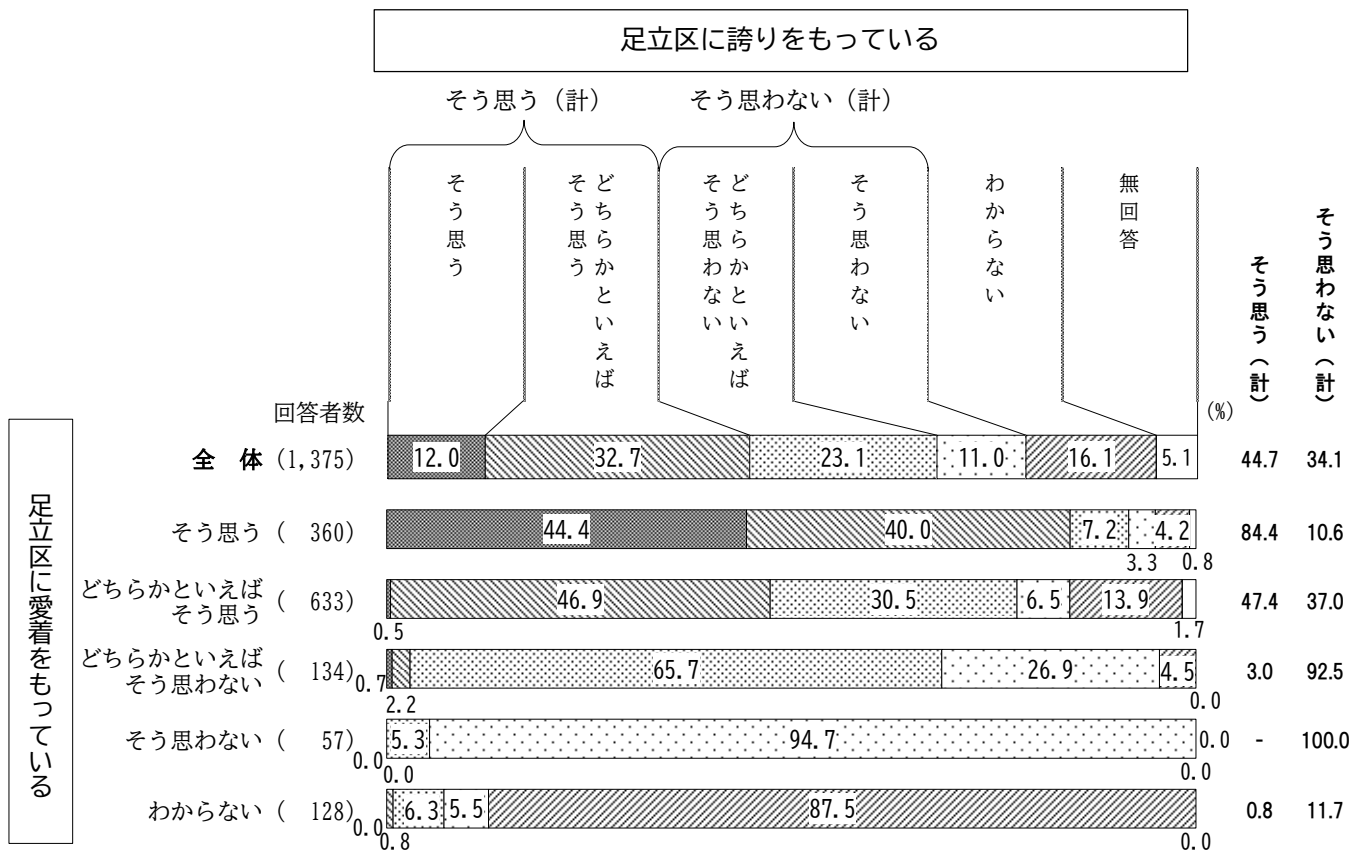
否定層が肯定層より
20ポイント以上高い

フ クロス集計・区への愛着度別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている

(ア) 区への愛着度別に『区に誇りをもっている』をみると、愛着度が強まるにつれて【『区に誇りをもっている』で〈そう思う〉】の割合は増加し、『区に愛着をもっている』で〈そう思う〉と回答した層は84.4%を占めており、【『区に誇りをもっている』で〈そう思わない〉】と回答した層は10.6%となっている。

(イ) 『区に愛着をもっている』で〈そう思わない〉と回答した層で【『区に誇りをもっている』で〈そう思う〉】と回答した層は0.0%で、【『区に誇りをもっている』で〈そう思わない〉】と回答した層が100.0%となっており、『区に愛着をもっている』と『区に誇りをもっている』が強い正の相関関係にあることがわかる。

図11-1-7 区への愛着度別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



(2) 区に対する気持ち(愛着、誇り、人に勧める)の具体的な内容(自由回答)

問44-1 問44の項目のア、イ、ウのいずれかで、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた理由をお書きください。

問44-2 問44の項目のア、イ、ウのいずれかで、「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」と答えた理由をお書きください。

■ “愛着をもっている”理由は「居住期間、地縁、住みやすさ」、「誇りをもっている」理由は「住みやすさ、人情味・人繋がり、地縁・地元感」、「人に勧めたい」理由は「住みやすさ、交通網・道路網、物価が安い」

前問の3項目(「ア 足立区に愛着をもっている」「イ 足立区に誇りをもっている」「ウ 足立区を人に勧めたい」)において、〈そう思う〉〈どちらかといえばそう思う〉と回答された方には【賛同の理由】を、また、〈どちらかといえばそう思わない〉〈そう思わない〉と回答された方には【反対の理由】をそれぞれ自由記述で聞いたところ、下表のとおり具体的な理由の記述をいただいた。

項目 気持ち	ア 愛 着		イ 誇 り		ウ お勧め	
	件数	%	件数	%	件数	%
そう思う (理由記述あり)	993 (844)	72.2 (61.4)	614 (461)	44.7 (33.5)	647 (530)	47.1 (38.5)
わからない	128	9.3	222	16.1	239	17.4
そう思わない (理由記述あり)	191 (129)	13.9 (9.4)	469 (294)	34.1 (21.4)	408 (256)	29.7 (18.6)

(n=1,375)(割合は対全体)

以下に、記述いただいたそれぞれの理由を分野別に分類し、それぞれの分野で「そう思う＝○」「そう思わない＝●」の中から一部を抜粋して記載する。(記載いただいた原文掲載を基本としているが、長文に及ぶ場合は一部の掲載としている場合もある)

愛 着

■ 永年住んでいるから／愛着を持てるほど永く住んでいない(○343件 ●27件)

- 60年以上住んでいるから。
- 64年間も足立区で生活しているので自然と愛着は湧きます。
- 88歳まで入谷に住んでいますが、一生足立区に住んでいたいと思う。
- 長く住んでいると、自然に愛着が湧いてくる感じです。
- 足立区に住んで日が浅いのでわかりません。
- 仕事のために転勤してきたので、まだそこまで思い入れはない。
- まだ日が浅いし行動範囲がそれほど広くない。

■ 地縁・地元感がある／地縁・地元感がない(○251件 ●38件)

- ずっと住み続けていて住みやすい。ご近所との関係も良好。
- 昔から住んでいて、地域の人とのつながりがあるから。
- 生まれも育ちも足立区！都心に比べどこかゆったりした、人の温かさが良い。

- 足立区で結婚し、子育てをした人生のピークを過ごしているから。
- 生まれてから今までずっと暮らしてきた町なので、大切に思っている。
- 小学校入学前に転校してきて街としてとても気に入ってるため。
- 地域に密着した生活を送ってこなかったため。
- 故郷の方に愛着があるから。
- 足立区の端に住んでおり、川口市が生活圈。足立区での用事が無い。
- 通勤の交通の便、住居含む物価の手ごろ感、など割り切って今住んでいるため、それ以上の思いはない。
- 転勤族だから。

■ 住みやすい・住み慣れている／（○121件）

- エリアによるとと思いますが、住んでみていわゆる昔の「足立区」とは違うことに気付きました。今住んでいるエリアは、ファミリー層も多く、暮らしやすいです。
- 住み慣れた町になったため。
- 長年にかけて住み慣れた街の変化と共に、暮らせる幸せを味わっている。

■ 人情味・人繋がりがある／人情味・人繋がりがない（○51件 ●11件）

- 地域の町会同士に団結力があり、住みやすい。
- 住みやすい、住民たちが声掛けしてくれる。
- 住みやすい。下町は人（親しみやすい）が良い。
- 長年住んでいるため、地域の人間関係がとれている。
- 近隣住民に親切な人が多いのでこのまま住み続けたいと思っているので
- 東京だけど、23区の中でも気取ったり上から目線で鼻につく印象が無く、地方出身者にも親しみ易い
- 住んでいる地域に愛着はあるが、足立区自体にはあまり感じられない。地域住民との交流がなく、30年以上住んでいるが、「足立区ならではの」というのを感じた事がない。
- マンションばかり増えて、人間関係がない。
- 特に何かに参加したりしていないから。

■ 生活環境が良い、公園・自然が多い／悪い、少ない（○48件 ●3件）

- 緑も多く暮らしやすい。
- 舎人公園やライナーがあり、静かで緑が多い。車がなくても生活できて安全なところ。
- 川そして水、緑地が多いから。
- 結婚から住むようになり、少しずつ変化、私の周りは安心できる環境。
- ここの生活環境がとても良く、安心して暮らせています。
- 商店街が残っていたり、荒川の河川敷がよく整備されているところ。
- バランス（住環境、公園等）が良い。
- 引越しの機会があればもっと子育てや治安がいい所に住むと思う。

■ 落ち着き感がある、町のイメージ・雰囲気が良い／ない、悪い（○30件 ●9件）

- 住みやすい下町が好き。
- 町がきれいで、とても住みやすいです。
- 都心でありながら、昔の部分もあり、保存していきたい。
- 街中に花がいっぱいあり、住民も街づくりに参加していて素晴らしい。

第3章 調査結果の分析〈区を取り組み〉

- 街並みも気に入っており、生活は便利に感じている。
- 適度に栄えて、適度に静かなところ。
- 便利な街だけど下町感もあるから。
- 駅が近くになく、活気もなくつまらない。
- ディープな町のイメージが強くてバカにされやすい。
- 街が雑然としていて清潔感がないと感じる。
- 都会と田舎の間な感じ。

■ 買い物等の利便性（○22件）

- 駅近に住んでいることもあり、生活に便利な環境。
- お店が多くて暮らしやすい。
- ルミネ、丸井など生活用品、食品がある。
- 私の住んでいるエリアは、スーパー、区役所、図書館等が多いところ。
- 私の住んでいる所は、病院、郵便局、スーパーが近くにあり、駅が近いから。

■ 交通網・道路網が良い／交通網・道路網が悪い（○20件 ●5件）

- 住みやすい、交通の便もいい。
- 公園、緑が多く、交通網も整っている。
- 都心に近い、交通の便が良い。
- 愛着はあるが、交通の便が良くないので、どちらかというとな北区の方に行くことが多い。電車バスが多いので。
- 交通の面で舍人ライナーの混雑が凄いからです。
- 歩行者が歩きにくい歩道を沢山作っている。車道にもレンガが敷かれていて、道がデコボコしている。ハイヒールが履けないからおしゃれが出来ない。何故わざと歩きづらい変な形のレンガを道路に敷き詰めているのかわからない。

■ 福祉・子育て環境が良い・充実している（○15件）

- 子供にとっての環境や支援が比較的充実していると思う。
- 障害者福祉制度で援助を受け、感謝しています。
- 子育てに対してサポートが手厚く感じるため、子供にも足立区で育ててほしいから。
- 子供が生まれてから引っ越してきて、子供の成長を共に見守っている土地なので。

■ 文化・歴史・芸術がある（○10件）

- 長年住んでいるのと、毎年区を挙げての大きなイベントを開催しているから。
- 足立区に住んで10年以上が経過しましたが、昭和の文化が残っていてとても良いです。
- 交通の便が良い。歴史的な街並みがある。
- 北千住は昔からある町、商店街を大事にしたい。
- 住み始めて区の歴史や文化を感じることができたから。

■ 治安・防犯が良い／治安・防犯が悪い（○9件 ●5件）

- 生まれた時から住んでいて、生活に特に不便はなく、世間が言うほど治安が悪いとも思わない。
- 昔よりも治安が良く、緑が多い。
- 現在住んでいる地域はあまり変な人がいなくて、子どもが安全に生活できるため。

- 住んでいる場所は治安も良くなっているのですが、足立区全体はそんなに…。
- 治安が悪い。世間的に評価が悪い。

■ 物価が安い（○8件）

- 便利さと物価のバランスが良いと思う。
- 物価は安いと思います。

■ 区政・職員の対応が良い（○4件）

- 生まれ育ったところであり、区政も努力していると思うため。
- 保護猫対策をしているところ。
- 区の給食費無償化等あるため。
- 文京区、墨田区、江東区、板橋区より充実したサービスと施設の豊富さを感じるから。

■ 発展性がある（○2件）

- 祖父の代からの千住育ち。千住の町の発展を見てきました。
- 緑が多く、まだ開発中である。

■ 愛着を持たない（●17件）

- 考えたことがない。そこまでの繋がりが無い。
- 長く住んでいて慣れているだけ。
- 持ち家があるので“住んで” いるだけである。

■ その他（○13件 ●18件）

- TVなどに取り上げられると愛着を感じる。
- 仕事柄あちこち出掛けるが、比較して足立区民の良い特徴は見える。
- ファミリー層が多く安心感がある。
- 仕事関係で住んでいるだけなので
- 千住地域に愛着や誇りはあるけれど、足立区全体としては持てない。
- 特色がないから。

誇 り

■ 住みやすい・住み慣れている（○60件）

- ずっと住み続けていて住みやすい。ご近所との関係も良好。
- 以前に比べ暮らしやすく、民度が向上している。
- 近所の住人も何年も変わらず、問題も起きていなく、住みやすいため。
- 地元の人が足立区から離れずに住み続けているのは住みやすいから。
- 住みたい町、穴場の町として取り上げられることが多い。
- 蔑まれる区ではあるが、住んでいるととても住みやすく、素晴らしいと思う住民の方がたくさんいるため。

■ 人情味・人繋がりがある／人情味・人繋がりがない（○48件 ●3件）

- 地域住民、近隣の方も良い方ばかり。とても住みやすい良い街だと思うから。
- 環境が良い。町会・自治会活動が良く、区とコミュニケーションが取れている。
- 治安が悪いイメージがあるけど、困っている人がいたら助け合える心があると思う。先日も暑さで倒れてしまった老人の方を介抱し、救急車を手配してくれていました。
- 人がおせっかいなくらい優しく、世話焼きなので子育てしやすいと思う。
- 他の地域では希薄になりつつある町内会の結束があるから。
- 地域の方々が街を愛している。
- たまに人が冷たい時がある。
- 親切さがない。

■ 地縁・地元感がある／地縁・地元感がない（○43件 ●15件）

- 生まれも育ちも、子育ても足立区だったから。
- 住めば都で過去に事件などに接触していない。
- 小さい頃から周りの多くの大人達に支えられて今があるため。
- 自分の地域や区が様々な問題点を抱えているのは確かだが、この町と人に育ててもらったから。
- 地域に密着した生活を送ってこなかったため。
- 仕事関係で住んでいるだけなので。
- 自分自身が育った環境ではないため。
- 東京の普通の下町という印象です。ここに生まれていたら誇りはもちろんあると思いますが、あくまでも外部から住まわせていただいているという感覚です。

■ 区政・職員の対応が良い（○41件 ●1件）

- イメージアップしようとする姿勢を感じる。
- 区の政策を新聞、テレビ等で見るのが他の区より多い様に思う。花火は誇りです。
- 広報紙も近年かなり充実したと思う。保健、子育て、区の施設を使用しての教育の充実。
- 暗い・悪いイメージや現状を改善しようとしている区政に誇りを感じるから。
- 治安が悪いと言われることはあるがそれを払拭する努力がなされて居ると感じる。
- 若い年代のことを考えてくれているイメージがあるから。
- 誇りある施策をやっていない。

■ 文化・歴史・芸術がある（○36件 ●2件）

- 大上々国といわれたり、宿場町、問屋等、江戸時代から重要な町だった。
- 大学の誘致や若者にも住みやすい地域となっている。
- 特に千住地区には歴史も残されており、かつ発展もし続けている。
- 花火大会は足立が1番。（なかなかできないけれど…それもまた良い）
- 住居がある千住地域は歴史的文化的にも趣があり、また最近ではテレビ等で何かと取り上げられている。
- 西新井大師をはじめ、歴史ある立派な建物があるから。
- 犯罪が多い、店が少ない、道が悪い、文化の質・量が低いから。
- 近隣の区と比較すると文化、芸術の取り組みが劣っているように思えることなど。

■ 永年住んでいるから／住んで間もないから（○35件 ●17件）

- 10年以上住んで、誇りが芽生えている。
- 人生の半分以上を暮らしているから。
- 長年住み慣れた街で安心感がある。
- まだ1～2年位しか住んでおらず、区の事をあまりわかっていない。
- まだ居住して3年ほどであり、生まれ育った場所ではないので、誇りに思うほど足立区のことを知らないため。

■ 生活環境が良い・公園・自然が多い（○35件）

- 環境が良い。町会・自治会活動が良く、区とコミュニケーションが取れている。
- 足立区存在を高く評価し、この町の誇りは美しい自然だと思う。
- 舎人公園など、野鳥、自然を保った場所。
- 舎人公園は、私の憩いの場。

■ 落ち着き感がある、下町のイメージ・雰囲気が良い／ない、悪い（○32件 ●1件）

- ビューティフル・ウィンドウズで街が明るく、キレイに変化してきたことを感じる。
- 区民が明るく、たくましく生きている気がする。
- 歩道なども雑草もあまりなく、街並みがきれいだと感じる。
- 下町ならではの雰囲気が良いから。
- 千住はいい街という評価がある。
- 駅が近くになく、活気もなくなつまらない。

■ 治安・防犯が良い／治安・防犯が悪い（イメージ）（○32件 ●54件）

- 治安が良く、街がきれいになってきたと思う。
- 犯罪のおこらない街づくりが成果をあげている。
- ビューティフル・ウィンドウズ運動により、犯罪件数が減ったという事実は、素晴らしいと思うから。
- 治安の悪さをイメージされることが多いが在住してる者からするとそんなことは全く無いと感じているため。
- 少し治安が悪いことや、交通ルールを守れない車両を見ることがあるから。
- 治安の悪いイメージを払拭しきれいていないように思うから。
- 昔の足立区での事件などが記憶にあり、危険な区のイメージが強い。それを払拭するような事や物がない。
- 足立区に来てから不審者やストーカー被害にあったから。
- 犯罪件数は減少し続けているが、まだ都内としては多く思えるので。

■ 福祉が良い・充実している（○26件 ●2件）

- 福祉の充実、役所の対応が早いと感じる。
- 病院や食料品が近所に充実、公園や高齢者施設や学校も多く住みやすいと感じる。
- お年寄りや子どもなどへの政策がしっかりしている。
- 弱者救済支援に力を注いでいる。
- 子供が難病にかかったが、他区の病院に通院している。そういう面でも思えない。
- 他の区と比べて、支援等があまり良くない。

第3章 調査結果の分析〈区取り組み〉

■ 交通網・道路網が良い／交通網・道路網が悪い（○24件 ●4件）

- 公共交通機関が5線通っている（北千住）のは誇れます。
- 交通手段が便利。
- ライナーの開通で陸の孤島が解消されたこと。
- 新田が足立区から遠いから。
- バスの便が不便になった。

■ 発展性がある（○20件）

- 足立区として進歩してきているところ。
- 少しずつですが地域に明るい兆しが見えてきた。
- ららテラスが出来ると、街が発展している。
- 悪いイメージの足立区が段々と良くなってきているから。

■ 買い物等の利便性が良い（○9件）

- 公園、団地、スーパー、住みやすい。
- 生活や買い物など便利、住みやすい町だから。
- 駅周辺には買い物ができる施設が充実しているから。

■ 物価が安い（○5件）

- 交通が便利、生活費が安い、花火が綺麗です。
- 比較的静かで、家賃も安い。

■ 誇れるものがない（●98件）

- 誇りに思えるほどのブランド力はあまり感じないため。東京23区というのは地方出身者にとって誇りにはなっていると思う。
- 誇れる何かがあるかと問われるとパツと思いつくことがない。
- 住んでいる区に対して誇りがあるかどうか考えたことがないため。
- 昔よりは良くなってきているが、勧めたいほど良いとは言えないため。
- 他の区と比較するとシンボルのようなエリアや観光地などが無い。
- 目玉となるようなアピールポイントがない。

■ 単にイメージが良くない（●38件）

- 23区の中では昔からあまり良いイメージが無いが、最近はかなり改善はされて来ていると思います。
- 社会の評価が低いのに住み始めてびっくり。犯罪などが多いためか？どこに住んでいるか問われて足立と言うと、あ～犯罪の多い所ねなどと言われた。
- 区外の人々からのイメージがあまり良くないから。
- 足立区を知らない人が悪いイメージを持っているため。
- 良くない印象が未だに根強いと感ずるため。

■ 民度（交通・ゴミマナー・生活水準等）が低い（●30件）

- 自転車のマナーや子供・若いママの言葉使いが悪いので誇りは持てない。
- ルールを守らない人間ばかり。外国人も含めて若い人ほど酷い。

- 周りの声やメディアの声を聞くと治安や住人モラルの面で印象は良くない。
- 低所得者が多いという印象が先立つ。
- 歩きたばこ、モペット、この2つを根絶したら誇りに思えるかもしれないが今はそう思えない。

■ その他（○68件 ●32件）

- 足立区には学校等、とても多い。
- 近年、全体的に良くなってきている。
- 自分でサービス業を営んでいるので、お客様の意見などから誇りを感じる。
- 悪いイメージを持っている人も多いが、今まで住んでいて悪かった事より良い事の多い街だと思うから
- 足立区独自の利点が見えない。
- 気取らない感じがいいが、センスに欠ける地域が多い。
- 千住地域に愛着や誇りはあるけれど、足立区全体としては持てない。

勧める

■ 住みやすい・住み慣れている／住みにくい・住み慣れてない（○147件 ●4件）

- 住みやすいと地方に住んでいる知り合いに伝えたい。子供（孫）達を大切にしてくれてありがたいです。給食もおいしいと。
- 住みやすい町。下町の良さたっぷり。
- 肩肘張らずに過ごせると思うから（都心と比べて）。
- 最近住みやすくなったと思うから。
- 地区の取り決めなどが良くて住みやすい。私の娘と今年埼玉から引っ越して来ました。
- 家賃高騰、なかなか住みづらい。
- 住み慣れていないと、不安な部分もある。

■ 交通網・道路網が良い／悪い（○99件 ●40件）

- 千住は鉄道の便が非常に良い、住みやすい町です。
- 始発駅なども多く交通の便と家賃のバランスを考えるとおすすめできる。
- 北千住というターミナル駅があるので、交通の便が良い。物価も安い。
- 都心に近く交通の便が良い。緑が多い。
- 都市部の喧騒を避けつつ、生活には不自由せず便利であるため。都心部への交通の便も良い。東京都であるという財政的な安心感。
- 交通の便も良く、都内を楽しめること。
- 都心へのアクセスが良く、住みやすいと思う。
- 都心へのアクセスは良いが、区内のアクセスが悪い。青井→鹿浜、どうやって行きますか。六町駅から足立区役所はバス乗り換えなど考えられない。
- 交通アクセス的に北千住より北はすすめづらいかなと。
- 都会へのアクセスは便利だが細かな道に限って曲がりくねった道が多く、行き止まりや一方通行と不便な道が多いから。曲がり角の視界も住宅地は悪いし、駅まで行く道のりでもベビーカーや自転車には段差が多く滑らかなスロープ式の歩道と道路の継ぎ目の段差がはっきりし過ぎている。
- 暮らしにくいわけではないが、電車の交通の便が悪いのは大きな問題に感じる。

第3章 調査結果の分析〈区を取り組み〉

●北千住は勧めてもいいが、足立区全体としては、少し不便だと思う。

■ 物価が安い／高い（○93件 ●2件）

- 足立区は下町で物価が安いので、住み良いのではないかなと思う。
- 23区の中では家賃も手頃であるのに、交通の便も良く、お得感のある街だと思うから。
- 地価が安い。都心まで短時間で行ける。
- 土地が他区と比べて安い、物価が安い。
- 物価は安く、家賃も安くて経済的に生活しやすい。
- 北千住はスーパーもあまりなく、マンションが多い。物価が高い。
- 家賃高騰でなかなか住みづらい

■ 買い物等の利便性が良い／悪い（○75件 ●10件）

- 交通、スーパーなど、生活が便利になった。
- 食品・日用品の買い物や病院など生活に必要な施設が揃っており、北千住や日本橋・銀座といったショッピングエリアへのアクセスも良く、コストパフォーマンスの高い居住エリアだと思うので。
- 足立区は利便性が良く、安価なスーパーが多数あり、自然が豊かなので勧めたい。
- 歩ける範囲に全て揃っている。年を重ねても不自由がない。
- 商業施設が多く、買い物が便利である。
- スーパーも多く、病院やスポーツジムも多くて利用しやすく、勤めるのに都心に近い。
- 電車が通らず、近隣にスーパーがないため生活しにくい。
- 北千住はスーパーもあまりなく、マンションが多い。物価が高い。
- 日常に必要な買物が出来る店が少ない。

■ 生活環境が良い、公園・自然が多い／悪い、少ない（○49件 ●1件）

- 公園や緑が多く、住みやすく、環境が良い。
- 公園多いし、イベントも多い。
- 都心程喧騒感がなく、静かで落ち着ける。
- 遊歩道や公園など、緑豊かでウォーキングが楽しい。
- 自然が少ない。

■ 福祉が良い・充実している／不十分（○42件 ●1件）

- 子供と一緒に住みやすい町なので、色々な人に勧めて、もっと子供をつくり、育てて欲しいです。なので、特に若い人に勧めたいです。
- 子育て支援が充実しているので、子育て世代には大変良い。
- 子育て支援が充実しているので、子育てしやすい。
- 子育てに優しいまちなので、特に若い世代に勧めたい。
- 子育てもしやすく安心して住めるため。
- 老後参加してみたいサークルが千住地区では少ない。介護保険料が高い。日用品の買い物が不便。

■ 治安・防犯が良い／悪い（イメージ）（○32件 ●56件）

- 思われている程治安は悪くない。
- 治安が良くないというイメージがあるが、そんなことはないので勧めたい。

- ビューティフル・ウィンドウズ作戦、色濃く出してもらいたい。
- 犯罪件数が23区一だったが、改善されているから。
- 高齢者や外国人、若者のマナーが悪く、治安がよくないと感じることが多いから。
- 深夜帯など多少の騒々しさに慣れていない限りは勧めにくい。
- 治安の悪いイメージを払拭しきれていないように思うから。
- 駅周辺に風俗店や夜の店や客引きが多いため。
- 不審者や自転車いたずらが多い。

■ 落ち着き感がある、町のイメージ・雰囲気が良い／ない、悪い（○30件 ●3件）

- 栄えてるエリアと居住エリアのバランス、都市部へのアクセスの良さ、下町ならではの雰囲気がある。
- 物価が安い。下町の良さがある。
- ジャージで街を歩いても平気なくらい、飾らなくても過ごしやすいから。
- 竹ノ塚駅をはじめ、町全体が整備されて過ごしやすいため。
- 駅が近くになく、活気もなくなつまらない。
- 古びてる点も多いから。

■ 人情味・人繋がりがある／ない（○20件 ●1件）

- 親しみがあって、近所付き合いがある。
- 親しみやすい地域と人柄の良さがあるから。
- 人情に厚い人が多い。気を使わないで良い。
- 対人関係で嫌な思いを何回かしたため。

■ 発展性がある／発展してない（○9件 ●1件）

- 最近やっと少しずつ開発が進んで、若い人も住みやすくなりつつあるから。
- これからもっと発展すると思う。
- 広くてどんどん開発も進んで楽しい街になってきているから。
- 新築戸建てやマンションなども多く街として活気がある。
- 地元の駅および駅周辺の開発が非常に遅い。

■ 学校教育環境が良い／悪い（○8件 ●5件）

- 家賃が安い。学校が新しくきれい。
- 小・中・高、スーパーなど充実している。バス、電車が便利だともっといい。
- 学校給食がおいしいです。
- 教育の制度がいまいちだと思っているから。
- 当時通っていた小学校や中学校ではいじめが多く、教育委員会などに相談しても対応してもらえなかったことがありました。その後いじめが原因で亡くなってしまった子がいたりしたことから、子供は安心して教育を受けることができず親目線でも安心して子育てができない環境だと感じているため、人には勧められないです。

■ 永年住んでいるから／住んで間もないから（○8件 ●2件）

- ずっと住み続けていて住みやすい。ご近所との関係も良好。
- 長年住んでいていい街だと思うから
- 足立区に住んでまだ6年位しか経っていないため。

第3章 調査結果の分析〈区取り組み〉

●住んでる年数が少なく、詳しくないため。

■ 地縁・地元感がある／地縁・地元感がない（○7件 ●4件）

○生まれも育ちも、子育ても足立区だったから。

○本木で生まれ、現在も生活している。

●地域に密着した生活を送ってこなかったため。

●江戸川・葛飾区の友人が多い。

■ 文化・歴史・芸術がある／ない（○6件 ●2件）

○交通の便が良い。祭りなど伝統を大切にしている。

○安いスーパーが多い。意外と名所・史跡がある。

○映画館や温泉など娯楽もある。

●文化的建築の保護利用が進んでいない。

●犯罪が多い、店が少ない、道が悪い、文化の質・量が低いから。

■ 区政・職員の対応が良い／悪い（○5件 ●3件）

○色々な支援が沢山用意されています。

○孤立ゼロプロジェクトに参加している。

○区長の考え、行動にすばらしさを感じるから。

●サービスに偏りがあるから。

●福祉には恵まれていると思うが、医療費などの支援が足りない。

●行政の初回窓口の対応が本当に悪い。もちろんちゃんとされてる方もたくさんおられるのは存じてます。しかし区役所だけでなく、労働基準監督署や税務署の相談所などは少なくとも足立区の管轄では上から目線の対応をほぼ100%の確率で受けています。そんな対応をする区を人に勧めることが出来ますか。

■ 勧められるものがない（●40件）

●愛着はあるが、特別人に勧めるほどの魅力は感じない。

●足立区には人々を呼び込む人気ある物が何もない。葛飾区には柴又があり、荒川区には荒川遊園地がある。家族達はいつも他地区へ出掛けている。

●他区と比べて、特に良いと思うことも悪いと思うこともないから。

●他人に勧める必要性を感じないため。

■ 全般的なイメージの悪さ（●40件）

●悪いイメージの先行と、何か起きた時に、足立区だからと一括りにされるから。都県境に面しているため交通手段が悪い。

●良くないイメージが先行してしまっているため。

●悪いイメージを持っている人が今だに多いので、あまり…。

■ 外国人が多い（●17件）

●外国人の居住問題、ルールを守って欲しい（ごみ出し、駐車など）。

●特定の地域で外国人が増えていたり、都営住宅にかなり多くの外国人が住んでいるので勧めたくない。

●近年生活マナーの悪い外国の人が増えてしまったため。

■ 民度（交通・ゴミマナー・生活水準等）が低い（●14件）

- タバコのポイ捨てや治安など、誇りとは言えない。
- 道路の通行マナーが悪い。特に自転車。買い食いのごみを捨てていく。
- マナーが悪い人が多いため。
- 民度が低いと感じるところがある。

■ 災害リスクが高い（●6件）

- 道路が狭い、洪水が心配。
- 昔のイメージが強過ぎて勧めづらい。浸水被害が起こる可能性がもっと低いと勧めやすい。又は対策がしっかりしていると勧めやすい。
- 川に挟まれていて危険だと思うから。

■ その他（○50件 ●44件）

- 高層ビルが無く、住居とお店は沢山ある
- 今までは大水害、竜巻などの災害を無事に免れていること。
- 高いビルが少ないからいい。圧迫感がないからいい。
- 若い人に勧めたいと思います。
- 私はここに住むように多くの友人を紹介しました。
- 10年前とくらべ、治安は非常に良くなったと感じるが、区外から移住あるいは引越して来た人には馴染みづらい町だと思う。
- 足立区の良さは転入者が増えれば確実に失われる。
- 人口が多いので、増え過ぎると家の周りがうるさくなる。
- 端の方には住まない方がいい。何も良くない。
- 地域の繋がりが密過ぎて入りづらいと思う。

(3) 区を良いまちにするための行動

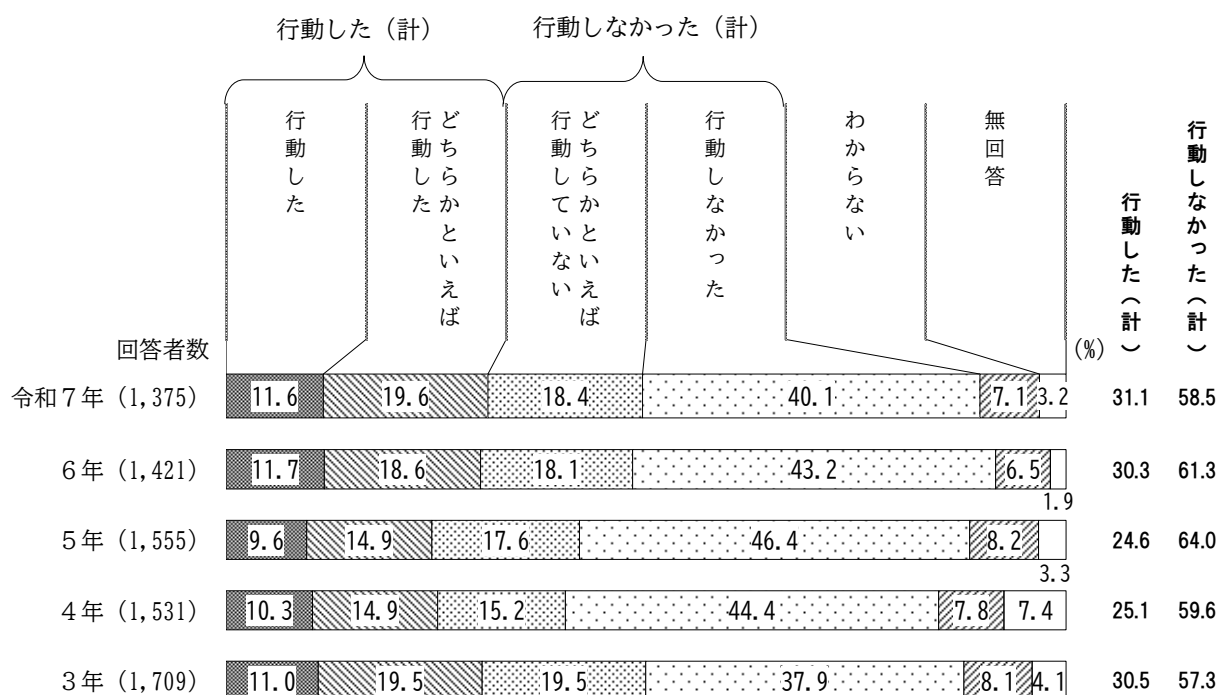
問45 あなたはこの1年間に足立区を良いまちにするために行動をしましたか（〇は1つだけ）。
 ※ 町会・自治会活動、ボランティア活動、防犯活動、地域イベントの手伝いのほか、家の前の清掃をしている、道案内など困っている人を助けた、足立区内の魅力的な情報を伝えた（発信した）などの個人的な行動も含まれます。

■【行動しなかった】が約6割で、【行動した】の3割強を大きく上回る

ア 単純集計・経年比較／区を良いまちにするための行動

- (ア) この1年間に足立区を良いまちにするための行動をしたか聞いたところ、「行動しなかった」が40.1%と最も高く、「どちらかといえば行動していない」(18.4%)を合わせた【行動しなかった】は58.5%となっている。
- (イ) 「行動した」は11.6%に留まり、「どちらかといえば行動した」(19.6%)を合わせた【行動した】は31.1%となっている。
- (ウ) 前回調査と比較すると、【行動しなかった】は2.8ポイントの減少となっている。

図 11-3-1 経年比較／区を良いまちにするための行動

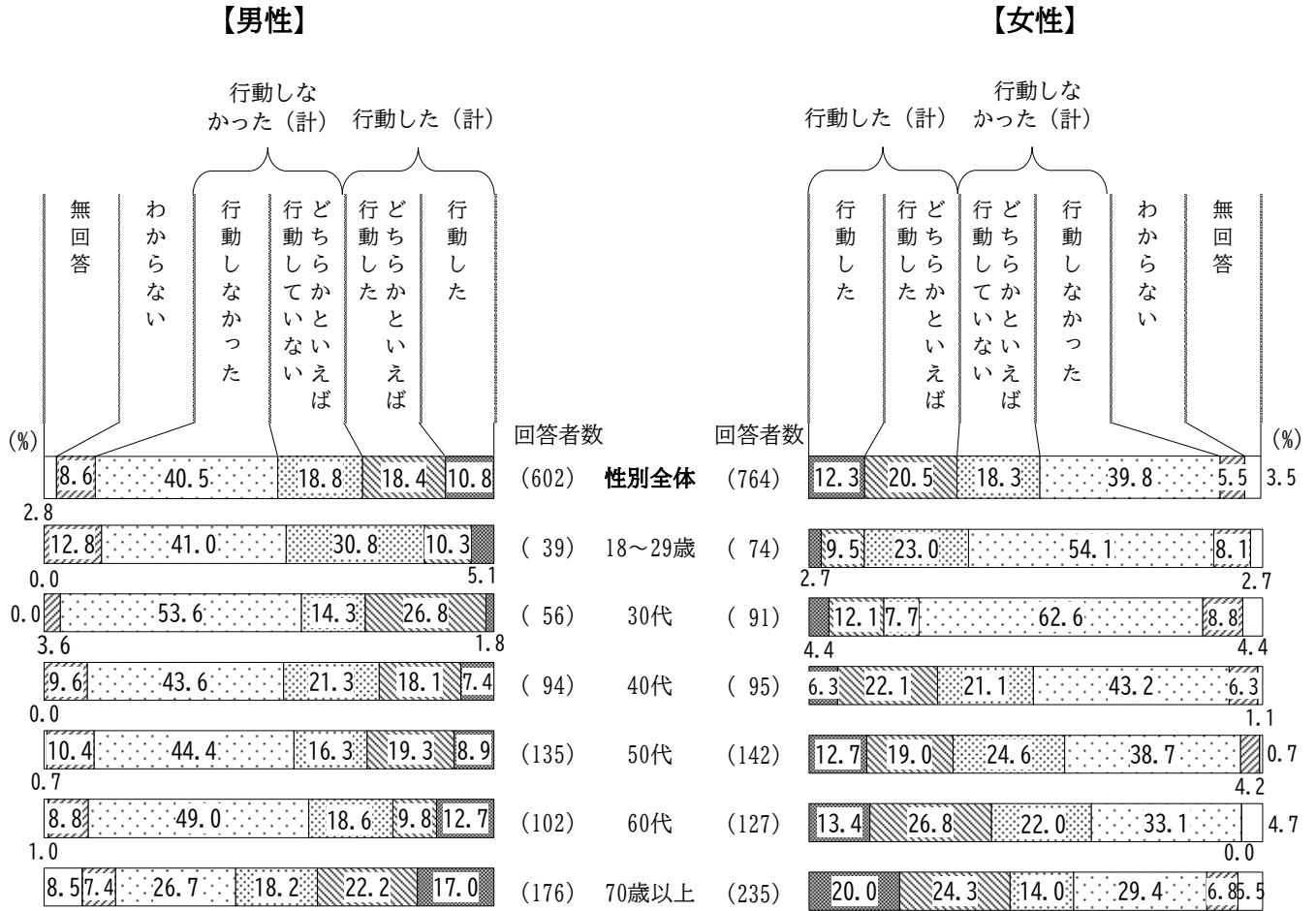


イ クロス集計・性別・性・年代別／区を良いまちにするための行動

(ア) 性別にみると、【行動した】は女性（32.9%）の方が男性（29.2%）より3.7ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、【行動した】は、女性の70歳以上が44.3%と最も高く、60代でも4割と高くなっており、男性では70歳以上で約4割となっている。一方、【行動しなかった】は女性の18～29歳で77.0%と最も高く、次いで男性の18～29歳（71.8%）となっている。

図11-3-2 性別・性・年代別／区を良いまちにするための行動



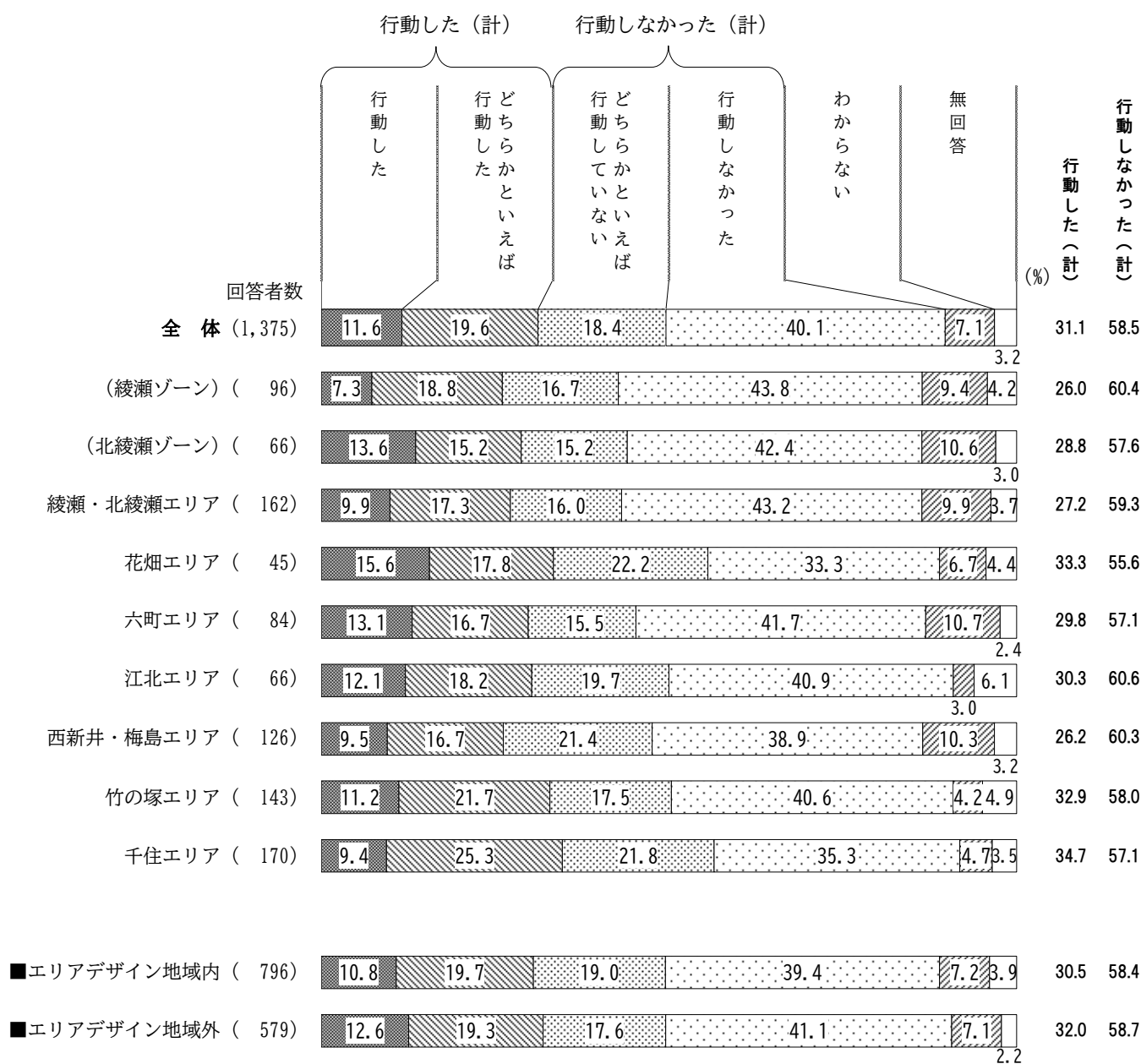
ウ クロス集計・エリアデザイン別／区を良いまちにするための行動

(ア)『区を良いまちにするための行動』をエリアデザイン別にみると、【行動した】は、千住エリアが34.7%で最も高く、次いで花畑エリアが33.3%となっている。一方、【行動しなかった】は、江北エリアが60.6%で最も高く、次いで西新井・梅島エリア（60.3%）となっている。

(イ) エリアデザインの地域内外の比較では、特に大きな違いはみられない。

※（綾瀬ゾーン）と（北綾瀬ゾーン）は図示しているが、エリア別の分析では対象外としている

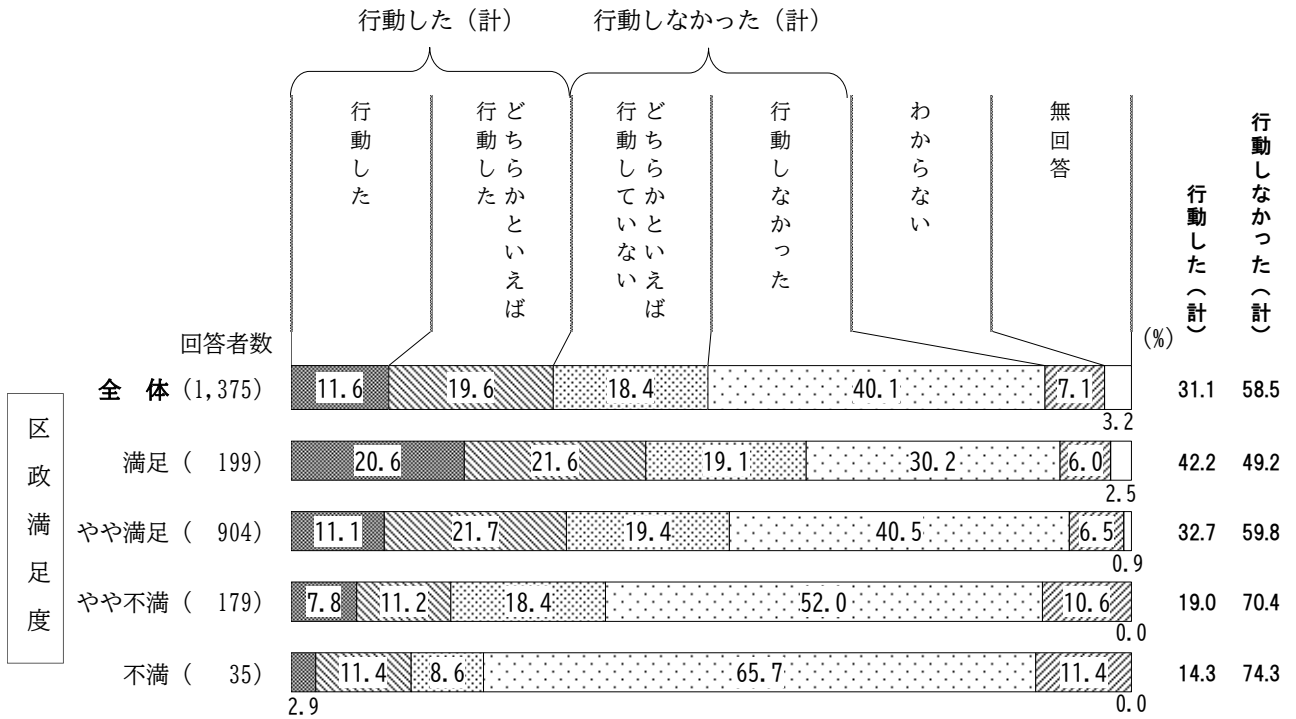
図11-3-3 エリアデザイン別／区を良いまちにするための行動



エ クロス集計・区政満足度別／区を良いまちにするための行動

『区を良いまちにするための行動』を区政満足度別にみると、満足度が高まるにつれて【行動した】の割合は増加し、『区政満足度』で〈満足〉と回答した層では【行動した】は42.2％となっている。『区政満足度』で〈不満〉と回答した層では【行動した】は14.3％に留まり、【行動しなかった】は74.3％を占めている。

図 11－3－4 区政満足度別／区を良いまちにするための行動



(4) 区の取り組みで満足している分野

問46 次の足立区の取り組みのうち、あなたが満足、やや満足と感じている分野を選んでください（○はあてはまるものすべて）。

■「情報提供」が4割台半ばで最上位、次いで「自然・緑化対策」が3割台半ば

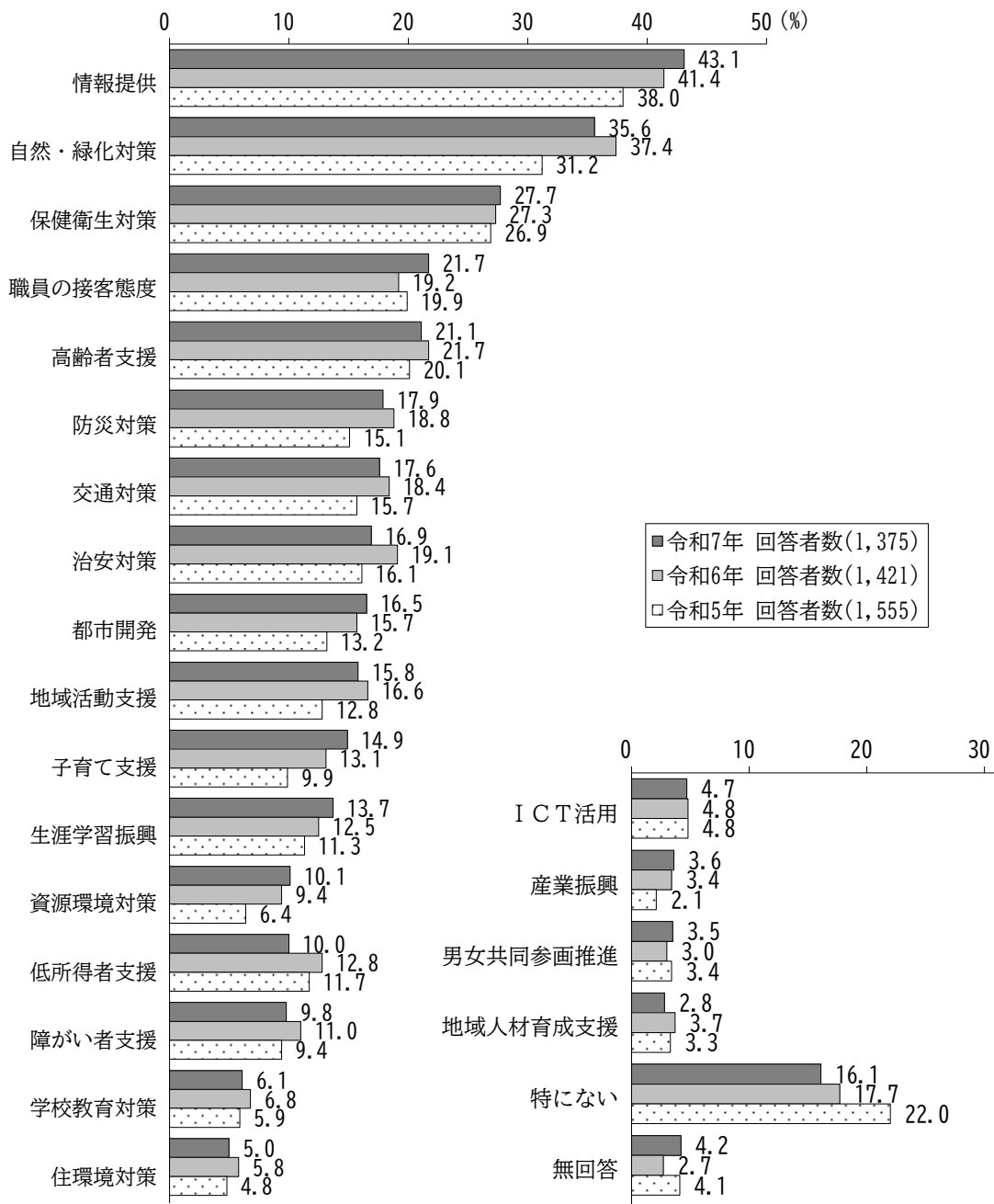
【区の取り組み（分野）】

分 野 名		取り組み内容（選択肢）
1	情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供
2	職員の接客態度	職員の接客態度
3	I C T活用	I C T（情報技術）を活用した区民サービスの向上
4	防災対策	防災対策
5	治安対策	ビューティフル・ウィンドウズ運動や防犯パトロールなど治安対策
6	地域活動支援	町会・自治会など地域活動支援
7	男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりの推進
8	地域人材育成支援	N P Oやボランティアの育成や支援
9	高齢者支援	高齢者の生活や介護などの支援
10	障がい者支援	障がい者の生活や介護などの支援
11	低所得者支援	低所得者の生活援助や就労支援
12	保健衛生対策	健康づくりやがん検診など保健衛生対策
13	子育て支援	保育サービスや子育て相談の充実など子育て支援
14	学校教育対策	教育内容の充実など学校教育対策
15	生涯学習振興	文化・芸術・図書館・スポーツ活動支援など生涯学習振興
16	資源環境対策	省エネルギーやリサイクルなど資源環境対策
17	産業振興	商工業や起業支援など産業振興
18	自然・緑化対策	公園や緑地などの整備
19	都市開発	美しい街並みや景観づくりなど都市開発
20	住環境対策	空き家利活用、公共住宅の再生など住環境対策
21	交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策

ア 単純集計／区を取り組みで満足している分野

- (ア) 区を取り組みで、満足・やや満足と感じている分野について、数を制限しないで選んでいただいた。その結果、「情報提供」が43.1%と最も高く、次いで、「自然・緑化対策」(35.6%)、「保健衛生対策」(27.7%)、「職員の接客態度」(21.7%)、「高齢者支援」(21.1%) などとなっている。
- (イ) 前回調査と比較すると、21項目のうち割合の増加が9項目、減少が12項目であったが、3ポイント以上増減した項目はなかった。
- (ウ) 増加ポイントが大きい上位3位は、「職員の接客態度」(+2.5pt)、「子育て支援」(+1.8pt)、「情報提供」(+1.7pt) となっている。一方、減少ポイントが大きい上位3位は、「低所得者支援」(-2.8pt)、「治安対策」(-2.2pt)、「自然・緑化対策」(-1.8pt) となっている。

図 11-4-1 経年比較／区を取り組みで満足している分野



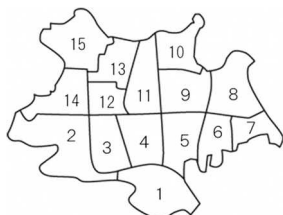
第3章 調査結果の分析〈区を取り組み〉

イ クロス集計・地域別／区を取り組みで満足している分野

(ア) 地域別でみると、第1地域は「防災対策」「産業振興」「男女共同参画推進」の3分野で最も高く、また、第2地域は「子育て支援」「低所得者支援」「学校教育対策」、第3地域は「職員の接客態度」「障がい者支援」「住環境対策」、第6地域は「自然・緑化対策」「都市開発」「子育て支援」、第15地域は「治安対策」「資源環境対策」「地域人材育成支援」の3分野でそれぞれ最も高い割合となっている。

図11-4-2 地域別／区を取り組みで満足している分野

地域区分図



順位	取り組み分野	区全体	第1地域	第2地域	第3地域	第4地域	第5地域	第6地域	第7地域	第8地域	第9地域	第10地域	第11地域	第12地域	第13地域	第14地域	第15地域
1	情報提供	43.1	47.1	48.4	43.7	35.4	44.2	45.1	42.5	39.3	40.0	45.2	49.1	47.2	37.3	35.1	46.6
2	自然・緑化対策	35.6	27.1	38.5	21.1	37.2	32.5	52.7	42.5	36.4	32.4	41.9	30.4	41.5	34.3	39.2	41.4
3	保健衛生対策	27.7	30.0	33.0	29.6	26.5	30.8	26.4	28.8	25.2	24.8	24.2	24.1	28.3	34.3	20.3	29.3
4	職員の接客態度	21.7	25.9	23.1	29.6	12.4	28.3	16.5	18.8	24.3	21.9	22.6	19.6	22.6	13.4	20.3	22.4
5	高齢者支援	21.1	25.3	20.9	26.8	20.4	23.3	14.3	12.5	22.4	14.3	25.8	21.4	30.2	20.9	16.2	24.1
6	防災対策	17.9	26.5	14.3	19.7	16.8	15.8	15.4	21.3	20.6	12.4	19.4	16.1	18.9	22.4	8.1	15.5
7	交通対策	17.6	21.2	19.8	14.1	29.2	20.0	18.7	16.3	19.6	15.2	11.3	12.5	9.4	11.9	10.8	20.7
8	治安対策	16.9	20.0	22.0	15.5	17.7	10.0	15.4	18.8	16.8	14.3	22.6	18.8	11.3	14.9	10.8	24.1
9	都市開発	16.5	17.6	22.0	16.9	17.7	11.7	24.2	15.0	15.9	17.1	11.3	15.2	13.2	14.9	10.8	22.4
10	地域活動支援	15.8	20.6	13.2	22.5	16.8	15.8	6.6	8.8	23.4	12.4	14.5	12.5	13.2	19.4	16.2	17.2
11	子育て支援	14.9	17.6	18.7	9.9	15.0	8.3	18.7	16.3	16.8	16.2	11.3	17.0	9.4	11.9	17.6	12.1
12	生涯学習振興	13.7	17.1	17.6	18.3	18.6	14.2	7.7	16.3	14.0	8.6	12.9	17.9	9.4	10.4	2.7	12.1
13	資源環境対策	10.1	12.9	13.2	11.3	9.7	8.3	12.1	3.8	10.3	6.7	6.5	13.4	9.4	9.0	2.7	20.7
14	低所得者支援	10.0	9.4	17.6	14.1	8.0	11.7	4.4	7.5	6.5	7.6	9.7	13.4	13.2	7.5	10.8	10.3
15	障がい者支援	9.8	11.2	14.3	15.5	6.2	10.8	5.5	7.5	5.6	5.7	11.3	14.3	7.5	9.0	10.8	13.8
16	学校教育対策	6.1	7.6	14.3	7.0	4.4	3.3	6.6	6.3	4.7	5.7	3.2	5.4	9.4	3.0	2.7	8.6
17	住環境対策	5.0	9.4	3.3	9.9	4.4	4.2	4.4	3.8	3.7	6.7	1.6	4.5	3.8	0.0	5.4	5.2
18	I C T活用	4.7	5.3	7.7	7.0	4.4	5.0	4.4	2.5	3.7	1.9	12.9	2.7	1.9	6.0	1.4	5.2
19	産業振興	3.6	6.5	5.5	4.2	2.7	3.3	3.3	3.8	3.7	3.8	3.2	1.8	1.9	3.0	0.0	5.2
20	男女共同参画推進	3.5	7.1	2.2	4.2	2.7	1.7	4.4	2.5	1.9	2.9	3.2	3.6	5.7	0.0	2.7	6.9
21	地域人材育成支援	2.8	2.9	3.3	4.2	0.9	4.2	2.2	5.0	1.9	0.0	3.2	2.7	0.0	4.5	1.4	8.6
-	特になし	16.1	10.6	18.7	11.3	16.8	19.2	12.1	13.8	15.9	22.9	14.5	22.3	4.5	17.9	20.3	12.1

区全体より高い

最も高い

ウ クロス集計・性別、年代別／区の取り組みで満足している分野

(ア) 性別でみたときに、男女で3ポイント以上差がある取り組み

a 女性の方が男性より3ポイント以上高い取り組み

「保健衛生対策」(+10.6pt)、「子育て支援」(+5.7pt)、「情報提供」(+5.5pt)、「治安対策」(+3.3pt)

b 男性の方が女性より3ポイント以上高い取り組み

「職員の接客態度」(+3.3pt)

(イ) 年代別でみたときに、区全体より5ポイント以上高くなっている取り組み

a 70歳以上では、21項目中最多の8項目で区全体より5ポイント以上高く、特に「高齢者支援」(+17.3pt)と「地域活動支援」(+11.9pt)で10ポイント以上高くなっている。

b 40代では、「子育て支援」(+8.4pt)、「自然・緑化対策」(+5.9pt)、「ICT活用」(+5.1pt)の3項目で区全体より5ポイント以上高くなっている。

c 60代では、「情報提供」(+8.0pt)と「保健衛生対策」(+5.5pt)、30代では、「子育て支援」(+15.5pt)で区全体より5.0ポイント以上高くなっている。

d 「特にない」は18～29歳で区全体より10.2ポイント高くなっている。

図11-4-3 性別、年代別／区の取り組みで満足している分野

順位	取り組み分野	区全体	性別		年代別					
			男性	女性	18～29歳	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1	情報提供	43.1	40.2	45.7	21.9	24.3	41.5	43.2	51.1	52.1
2	自然・緑化対策	35.6	36.0	35.6	28.9	30.4	41.5	35.4	31.0	39.4
3	保健衛生対策	27.7	21.9	32.5	14.0	13.5	23.3	28.2	33.2	35.3
4	職員の接客態度	21.7	23.6	20.3	18.4	19.6	16.1	17.9	23.1	27.7
5	高齢者支援	21.1	19.8	22.4	9.6	2.0	10.9	17.1	21.4	38.4
6	防災対策	17.9	17.6	18.2	14.9	7.4	18.1	17.5	17.5	22.9
7	交通対策	17.6	19.1	16.5	21.1	12.8	17.1	20.0	16.2	17.8
8	治安対策	16.9	15.0	18.3	17.5	10.1	18.7	17.1	15.7	18.7
9	都市開発	16.5	17.1	16.2	15.8	16.2	16.6	18.9	10.9	18.2
10	地域活動支援	15.8	14.6	16.8	7.0	5.4	10.4	12.1	14.4	27.7
11	子育て支援	14.9	11.8	17.5	15.8	30.4	23.3	12.1	10.9	9.2
12	生涯学習振興	13.7	13.8	13.9	11.4	10.1	11.9	11.4	10.9	19.7
13	資源環境対策	10.1	9.1	11.0	5.3	3.4	4.1	7.9	13.5	16.3
14	低所得者支援	10.0	9.8	10.2	7.9	4.1	6.7	10.0	9.6	14.4
15	障がい者支援	9.8	9.8	9.9	6.1	2.7	7.8	10.0	10.9	13.6
16	学校教育対策	6.1	6.1	6.2	6.1	6.8	7.8	6.4	3.9	6.1
17	住環境対策	5.0	5.6	4.6	6.1	3.4	4.7	3.6	2.6	7.8
18	ICT活用	4.7	5.8	3.7	6.1	2.7	9.8	2.5	2.6	5.1
19	産業振興	3.6	5.0	2.5	4.4	2.7	5.2	4.6	1.3	3.6
20	男女共同参画推進	3.5	3.7	3.4	3.5	2.7	3.1	2.5	2.2	5.4
21	地域人材育成支援	2.8	3.0	2.7	1.8	1.4	1.6	2.5	3.5	4.1
-	特にない	16.1	17.3	14.8	26.3	22.3	15.5	17.9	17.9	9.0
性差3pt以上					区全体より5pt以上高い					

(5) 区の取り組みで不満の分野

問47 次の足立区の取り組みのうち、あなたが不満、やや不満と感じている分野を選んでください（〇はあてはまるものすべて）。

■「交通対策」が2割強で最上位、次いで「都市開発」が1割台半ば近く

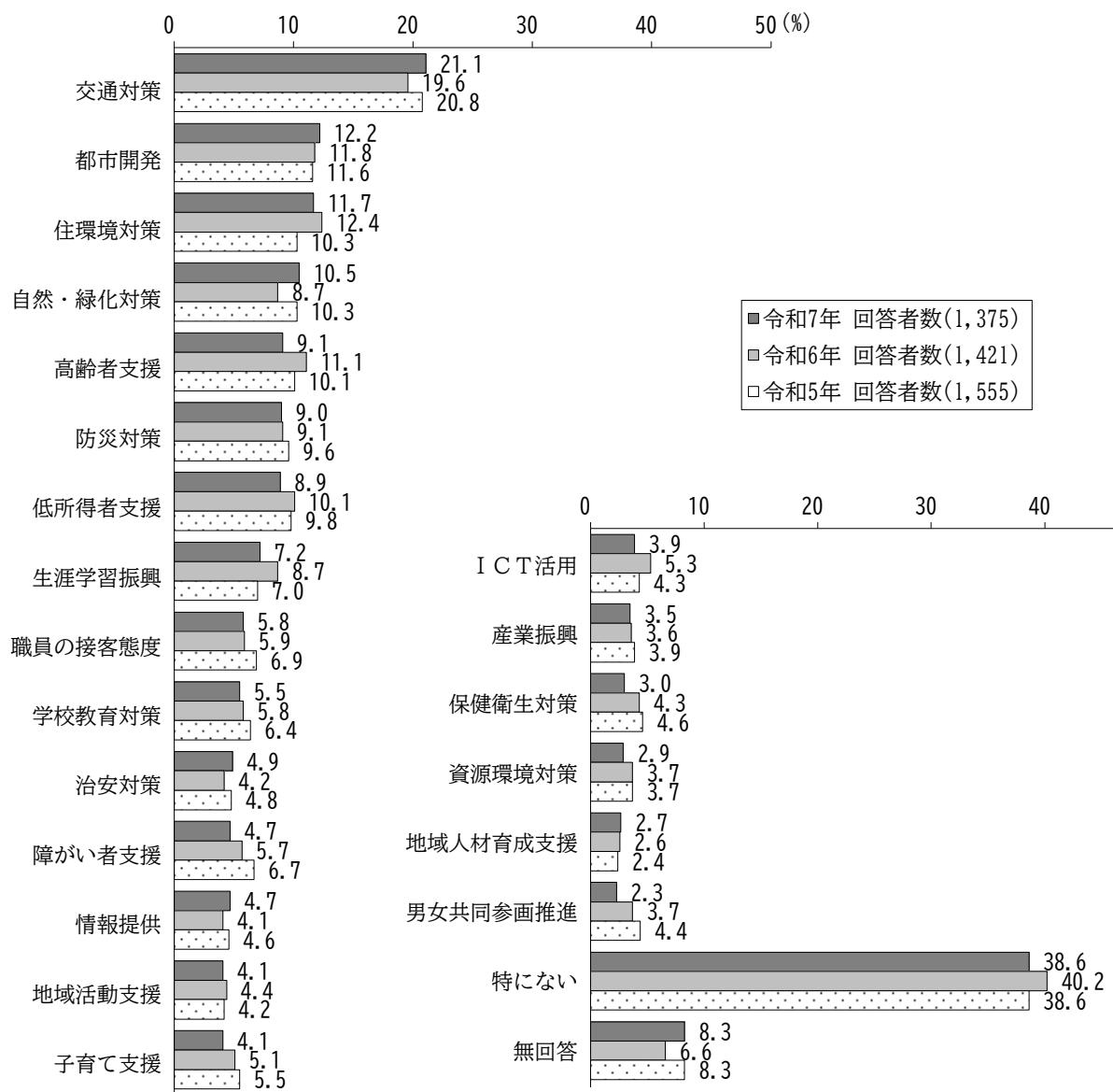
ア 単純集計／区の取り組みで不満の分野

(ア) 区の取り組みで、不満・やや不満と感じている分野について、数を制限しないで選んでいただいた。その結果、「交通対策」が21.1%で最も高く、次いで、「都市開発」(12.2%)、「住環境対策」(11.7%)、「自然・緑化対策」(10.5%) などとなっている。

(イ) 前回調査と比較すると、順位では、「都市開発」が前回の3位から2位に上がり、「自然・緑化対策」も前回の8位から4位に上がった。逆に、「住環境対策」が前回の2位から3位に下がり、「高齢者支援」も前回の4位から5位に下がった。

(ウ) ポイントの増減でみると、「高齢者支援」が2.0ポイント減少している以外は2ポイント以上の増減分野はなかった。

図 11-5-1 経年比較／区の取り組みで不満の分野

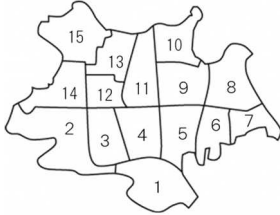


イ クロス集計・地域別／区の取り組みで不満の分野

(ア) 地域別でみると、第2地域は「生涯学習振興」「産業振興」「地域人材育成支援」の3分野で最も高くなっている。また、第3地域は「障がい者支援」と「地域活動支援」、第7地域は「都市開発」と「高齢者支援」、第8地域は「低所得者支援」と「男女共同参画推進」、第9地域は「学校教育対策」と「子育て支援」、第12地域は「治安対策」と「保健衛生対策」、第13地域は「自然・緑化対策」と「防災対策」の2分野で最も高い割合となっている。

図11-5-2 地域別／区の取り組みで不満の分野

地域区分図



順位	取り組み分野	区全体	第1地域	第2地域	第3地域	第4地域	第5地域	第6地域	第7地域	第8地域	第9地域	第10地域	第11地域	第12地域	第13地域	第14地域	第15地域
1	交通対策	21.1	19.4	26.4	25.4	19.5	20.0	18.7	20.0	22.4	20.0	25.8	16.1	15.1	22.4	28.4	22.4
2	都市開発	12.2	14.7	12.1	9.9	13.3	11.7	15.4	18.8	6.5	10.5	9.7	11.6	7.5	14.9	9.5	15.5
3	住環境対策	11.7	12.4	11.0	11.3	16.8	11.7	11.0	7.5	7.5	6.7	14.5	11.6	7.5	14.9	14.9	19.0
4	自然・緑化対策	10.5	15.9	6.6	14.1	13.3	3.3	9.9	6.3	8.4	14.3	14.5	8.9	13.2	16.4	2.7	10.3
5	高齢者支援	9.1	8.2	8.8	9.9	4.4	5.8	3.3	15.0	11.2	11.4	6.5	10.7	11.3	11.9	12.2	10.3
6	防災対策	9.0	9.4	5.5	5.6	12.4	7.5	7.7	8.8	6.5	13.3	3.2	10.7	9.4	14.9	9.5	8.6
7	低所得者支援	8.9	7.1	11.0	8.5	9.7	9.2	7.7	8.8	14.0	6.7	9.7	9.8	11.3	1.5	10.8	6.9
8	生涯学習振興	7.2	8.2	12.1	4.2	5.3	8.3	9.9	8.8	7.5	8.6	4.8	5.4	5.7	7.5	5.4	1.7
9	職員の接客態度	5.8	8.2	7.7	5.6	6.2	4.2	5.5	6.3	2.8	3.8	9.7	7.1	3.8	6.0	6.8	1.7
10	学校教育対策	5.5	7.1	3.3	4.2	6.2	4.2	5.5	6.3	3.7	9.5	8.1	5.4	7.5	1.5	2.7	6.9
11	治安対策	4.9	2.9	4.4	0.0	3.5	6.7	8.8	3.8	3.7	5.7	4.8	8.0	9.4	4.5	6.8	1.7
12	情報提供	4.7	3.5	5.5	1.4	4.4	5.8	8.8	5.0	2.8	3.8	6.5	7.1	5.7	4.5	1.4	3.4
13	障がい者支援	4.7	3.5	2.2	9.9	2.7	1.7	3.3	5.0	6.5	8.6	6.5	3.6	9.4	3.0	4.1	6.9
14	地域活動支援	4.1	4.7	4.4	8.5	2.7	4.2	2.2	3.8	5.6	4.8	1.6	4.5	3.8	3.0	4.1	3.4
15	子育て支援	4.1	4.1	4.4	5.6	2.7	4.2	6.6	5.0	2.8	6.7	1.6	6.3	1.9	1.5	1.4	5.2
16	ICT活用	3.9	7.1	1.1	4.2	2.7	4.2	2.2	6.3	0.9	4.8	6.5	2.7	5.7	3.0	4.1	1.7
17	産業振興	3.5	0.6	8.8	1.4	5.3	3.3	4.4	5.0	1.9	4.8	3.2	5.4	1.9	1.5	2.7	1.7
18	保健衛生対策	3.0	4.1	5.5	2.8	2.7	0.8	3.3	3.8	1.9	2.9	1.6	2.7	5.7	3.0	1.4	3.4
19	資源環境対策	2.9	4.1	3.3	1.4	5.3	0.8	3.3	5.0	1.9	2.9	4.8	3.6	1.9	1.5	1.4	0.0
20	地域人材育成支援	2.7	3.5	4.4	1.4	1.8	2.5	2.2	2.5	1.9	2.9	3.2	1.8	3.8	3.0	4.1	1.7
21	男女共同参画推進	2.3	3.5	1.1	0.0	2.7	1.7	1.1	3.8	4.7	1.9	1.6	2.7	1.9	3.0	2.7	0.0
-	特になし	38.6	39.4	39.6	31.0	38.9	43.3	38.5	33.8	34.6	44.8	38.7	38.4	43.4	43.3	24.3	46.6

区全体より高い

最も高い

ウ クロス集計・性別、年代別／区の取り組みで不満の分野

(ア) 性別でみると、不満の分野は満足の分野に比べて、男女の差が3ポイント以上ある分野は「ICT活用」のみとなっている。

a 男性の方が女性より2ポイント以上高い取り組み

「ICT活用」(+3.9pt)、「学校教育対策」と「地域人材育成支援」(各+2.8pt)、「保健衛生対策」(+2.5pt)、「障がい者支援」(+2.2pt)、「高齢者支援」(+2.1pt)

b 女性の方が男性より2ポイント以上高い取り組みは「職員の接客態度」(+2.0pt)の1分野のみとなっている。

(イ) 年代別にみて区全体より4ポイント以上高くなっている取り組み

a 30代では、「交通対策」「都市開発」「職員の接客態度」「治安対策」「子育て支援」の5分野で4ポイント以上高くなっている。

b 70歳以上で「高齢者支援」と「低所得者支援」の2分野、18～29歳では「都市開発」と「子育て支援」がそれぞれ区全体より4ポイント以上高くなっている。

c 「特にない」は、18～29歳、50代、60代で全体より4ポイント以上高くなっている。

図11-5-3 性別、年代別／区の取り組みで不満の分野

順位	取り組み分野	区全体	性別		年代別					
			男性	女性	18～29歳	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1	交通対策	21.1	21.3	21.1	22.8	31.1	22.3	19.6	20.5	17.8
2	都市開発	12.2	12.6	11.9	16.7	16.2	13.5	13.6	10.9	8.8
3	住環境対策	11.7	12.6	11.1	7.0	10.1	15.0	13.6	8.7	12.4
4	自然・緑化対策	10.5	11.1	9.8	14.0	14.2	9.8	10.0	9.6	9.5
5	高齢者支援	9.1	10.3	8.2	3.5	1.4	6.2	7.9	8.7	15.8
6	防災対策	9.0	9.8	8.2	7.0	9.5	7.3	8.9	7.0	11.4
7	低所得者支援	8.9	10.0	8.1	6.1	6.1	4.7	9.3	7.4	13.1
8	生涯学習振興	7.2	8.1	6.2	9.6	5.4	9.3	9.3	4.8	6.1
9	職員の接客態度	5.8	4.5	6.5	3.5	11.5	5.7	5.4	4.8	5.4
10	学校教育対策	5.5	7.1	4.3	4.4	8.1	8.8	3.6	4.4	5.4
11	治安対策	4.9	5.6	4.5	4.4	10.1	6.7	4.6	3.5	3.4
12	情報提供	4.7	5.0	4.3	6.1	8.1	6.2	5.0	1.3	3.9
13	障がい者支援	4.7	6.0	3.8	4.4	1.4	3.1	5.7	4.8	6.1
14	地域活動支援	4.1	4.7	3.7	1.8	4.7	4.1	4.3	3.1	5.1
15	子育て支援	4.1	4.3	3.9	8.8	12.2	4.1	2.5	2.6	1.9
16	ICT活用	3.9	6.0	2.1	0.9	4.7	6.2	3.2	3.9	3.6
17	産業振興	3.5	4.0	3.1	2.6	2.7	5.2	2.5	3.5	3.9
18	保健衛生対策	3.0	4.3	1.8	2.6	4.7	1.6	2.9	2.6	3.4
19	資源環境対策	2.9	2.7	2.9	2.6	4.1	3.1	3.6	3.1	1.9
20	地域人材育成支援	2.7	4.2	1.4	3.5	1.4	0.5	3.9	2.2	3.4
21	男女共同参画推進	2.3	3.2	1.6	2.6	1.4	1.6	3.2	1.3	2.9
-	特にない	38.6	37.5	39.4	46.5	30.4	38.9	43.6	49.3	29.9
			性差2pt以上		区全体より4pt以上高い					

(6) 区の取り組み(分野)に対する評価(【満足割合】－【不満割合】)

満足している取り組み(問46)と不満な取り組み(問47)をそれぞれ単独で質問したが、それぞれの評価値の差異(【満足評価割合】－【不満評価割合】)をみることで、各取り組み(分野)の現状評価を試みた。

ア クロス集計／【満足評価割合】－【不満評価割合】《足立区全体》

(ア)【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み(上位5位)

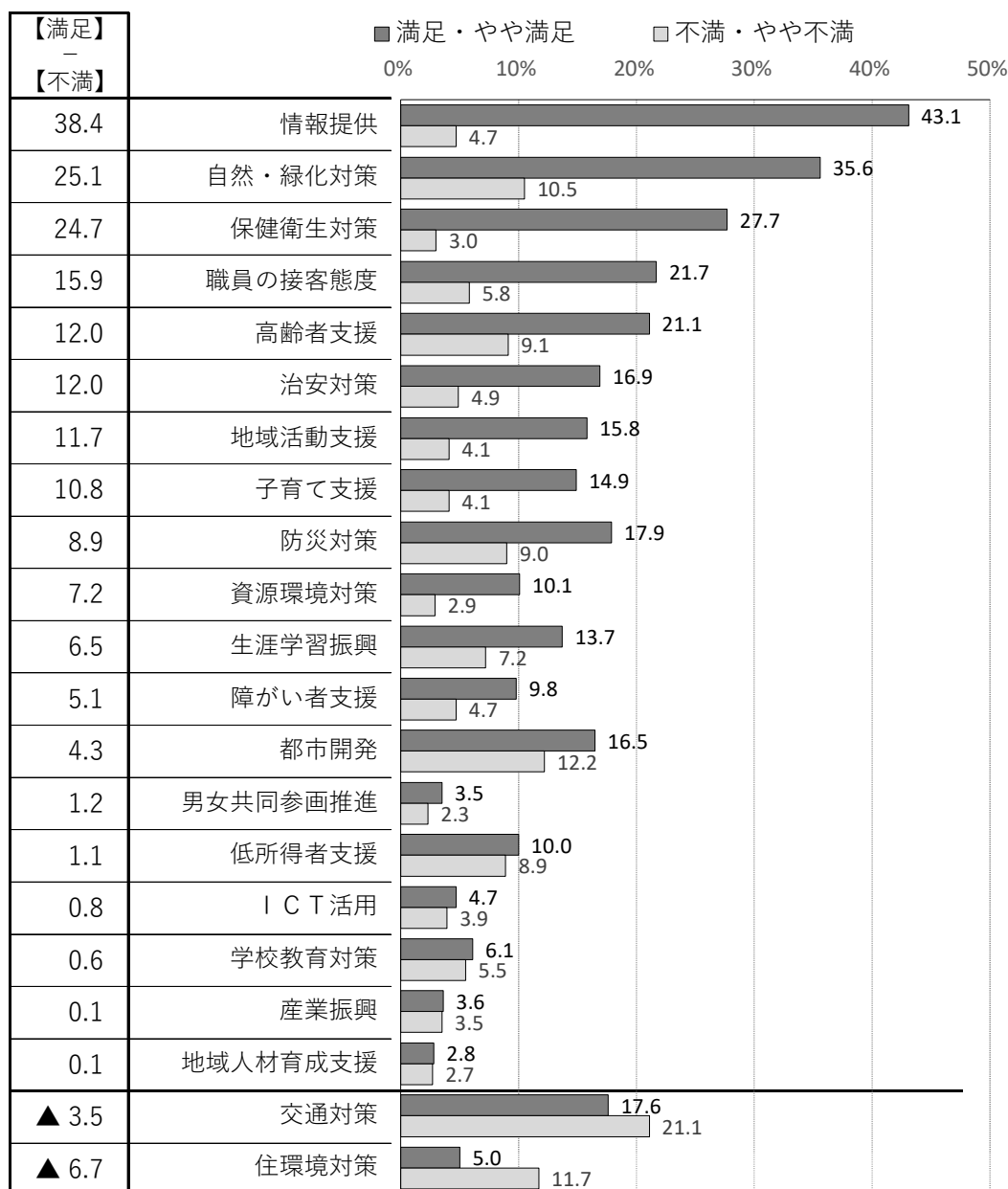
「情報提供」(+38.4pt)、「自然・緑化対策」(+25.1pt)、「保健衛生対策」(+24.7pt)、「職員の接客態度」(+15.9pt)、「高齢者支援」と「治安対策」(各+12.0pt)

(イ)【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み

「住環境対策」(-6.7pt)、「交通対策」(-3.5pt)

(ウ)「交通対策」については、【満足評価割合】が21項目中7番目に高いが、【不満評価割合】が最も高いため、評価としては、《不満割合が高い取り組み》となっている。

図11-6-1 各取り組みの現状評価《足立区全体》(【満足評価】－【不満評価】)



イ クロス集計・地域別《第1地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）

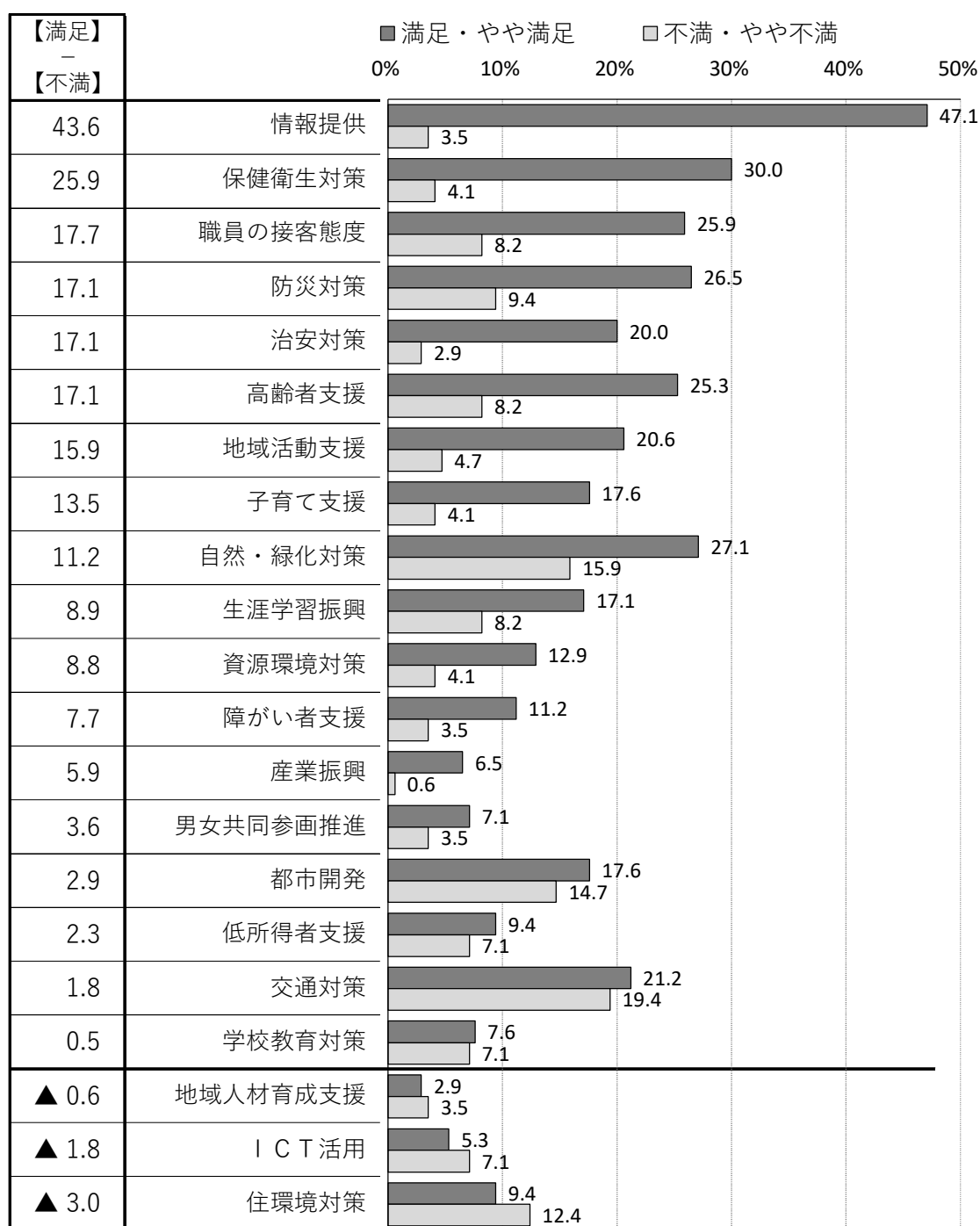
「情報提供」（+43.6pt）、「保健衛生対策」（+25.9pt）、「職員の接客態度」（+17.7pt）、「防災対策」「治安対策」「高齢者支援」（各17.1pt）

(イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み

「住環境対策」（-3.0pt）、「ICT活用」（-1.8pt）、「地域人材育成支援」（-0.6pt）

(ウ) 第1地域の特徴として、【満足評価割合】で「防災対策」（26.5%）、「男女共同参画推進」（7.1%）、「産業振興」（6.5%）の3分野が15地域中最も高い割合となっているが、【不満評価割合】で「ICT活用」（7.1%）が15地域中で最も高い割合となっている。

図11-6-2 各取り組みの現状評価《第1地域》（【満足評価】－【不満評価】）



ウ クロス集計・地域別《第2地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）

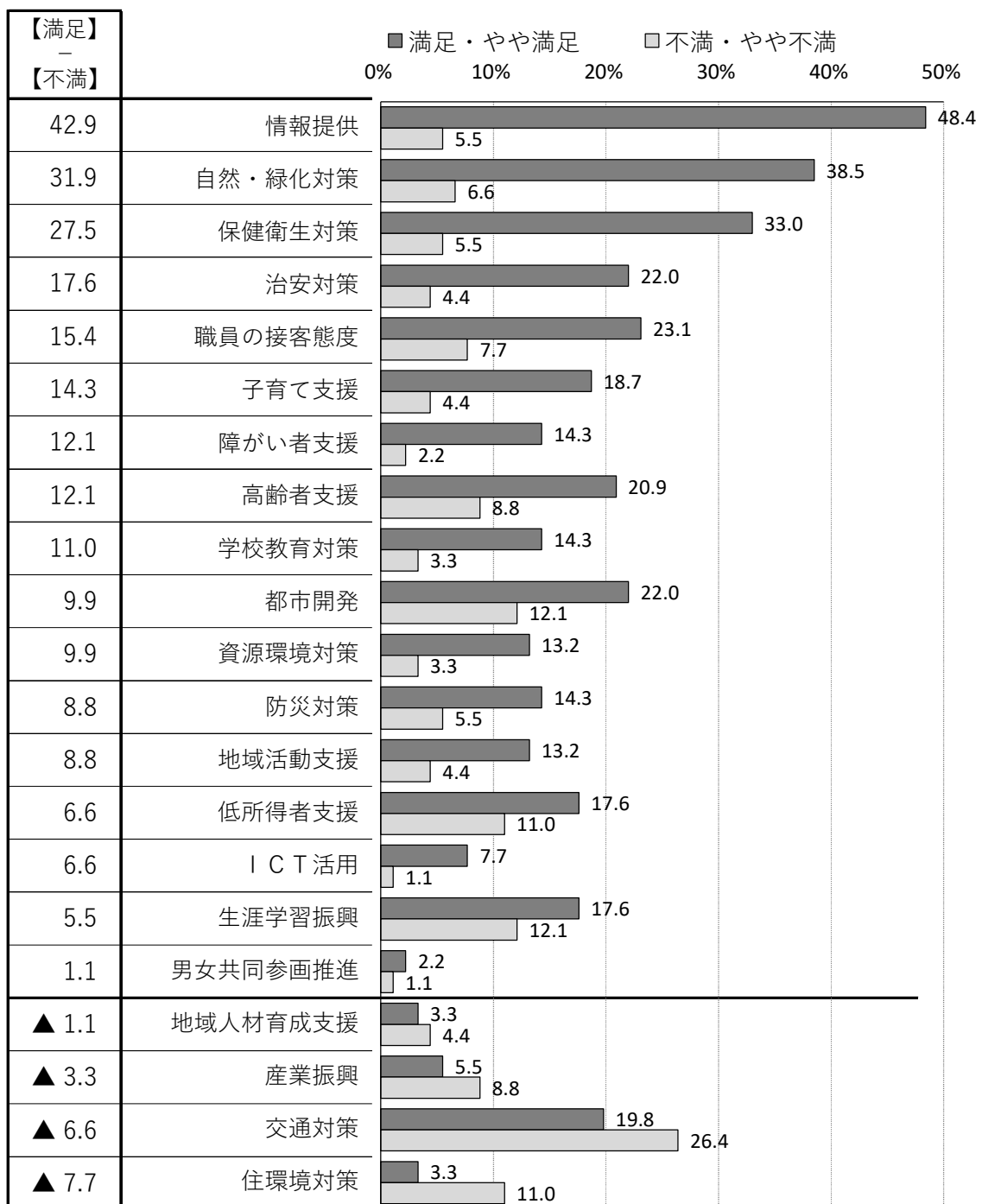
「情報提供」（+42.9pt）、「自然・緑化対策」（+31.9pt）、「保健衛生対策」（+27.5pt）、「治安対策」（+17.6pt）、「職員の接客態度」（+15.4pt）

(イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位3位）

「住環境対策」（-7.7pt）、「交通対策」（-6.6pt）、「産業振興」（-3.3pt）

(ウ) 第2地域の特徴として、【満足評価割合】で「子育て支援」（18.7%）、「低所得者支援」（17.6%）、「学校教育対策」（14.3%）が15地域中最も高い割合となっている。一方、【不満評価割合】で「生涯学習振興」（12.1%）、「産業振興」（8.8%）、「地域人材育成支援」（4.4%）が15地域中で最も高い割合となっている。

図11-6-3 各取り組みの現状評価《第2地域》（【満足評価】－【不満評価】）



エ クロス集計・地域別《第3地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）

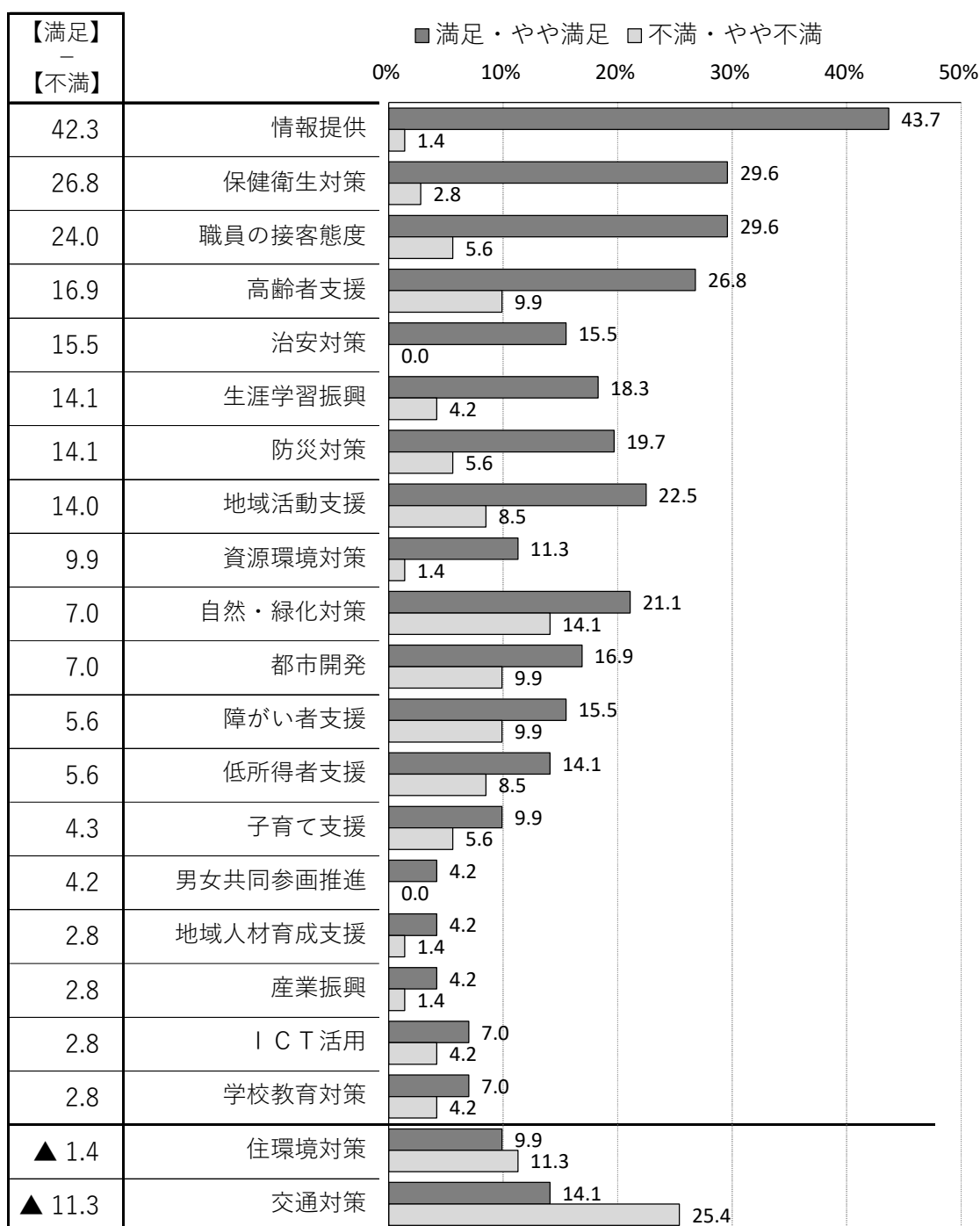
「情報提供」（+42.3pt）、「保健衛生対策」（+26.8pt）、「職員の接客態度」（+24.0pt）、「高齢者支援」（16.9pt）、「治安対策」（+15.5pt）

(イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み

「交通対策」（-11.3pt）、「住環境対策」（-1.4pt）

(ウ) 第3地域の特徴として、【満足評価割合】で「職員の接客態度」（29.6%）、「障がい者支援」（15.5%）、「住環境対策」（9.9%）が15地域中で最も高い割合となっているが、【不満評価割合】で「障がい者支援」（9.9%）と「地域活動支援」（8.5%）が15地域中で最も高い割合となっている。

図11-6-4 各取り組みの現状評価《第3地域》（【満足評価】－【不満評価】）



オ クロス集計・地域別《第4地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）

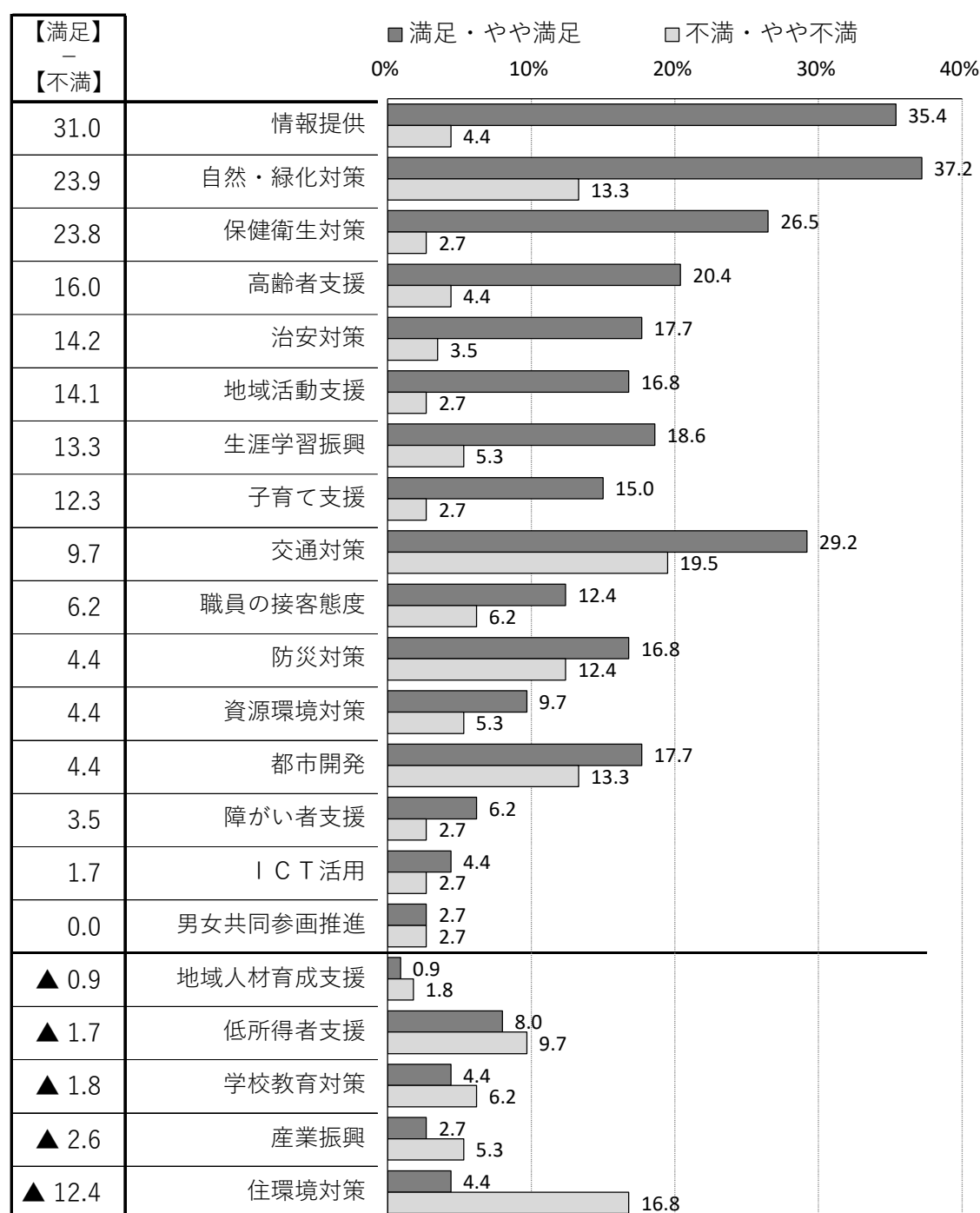
「情報提供」（+31.0pt）、「自然・緑化対策」（+23.9pt）、「保健衛生対策」（+23.8pt）、「高齢者支援」（+16.0pt）、「治安対策」（+14.2pt）

(イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位3位）

「住環境対策」（-12.4pt）、「産業振興」（-2.6pt）、「学校教育対策」（-1.8pt）

(ウ) 第4地域の特徴として、【満足評価割合】で「交通対策」（29.2%）と「生涯学習振興」（18.6%）が15地域中で最も高い割合となっているが、【不満評価割合】で「資源環境対策」（5.3%）が15地域中で最も高い割合となっている。

図11-6-5 各取り組みの現状評価《第4地域》（【満足評価】－【不満評価】）



カ クロス集計・地域別《第5地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）

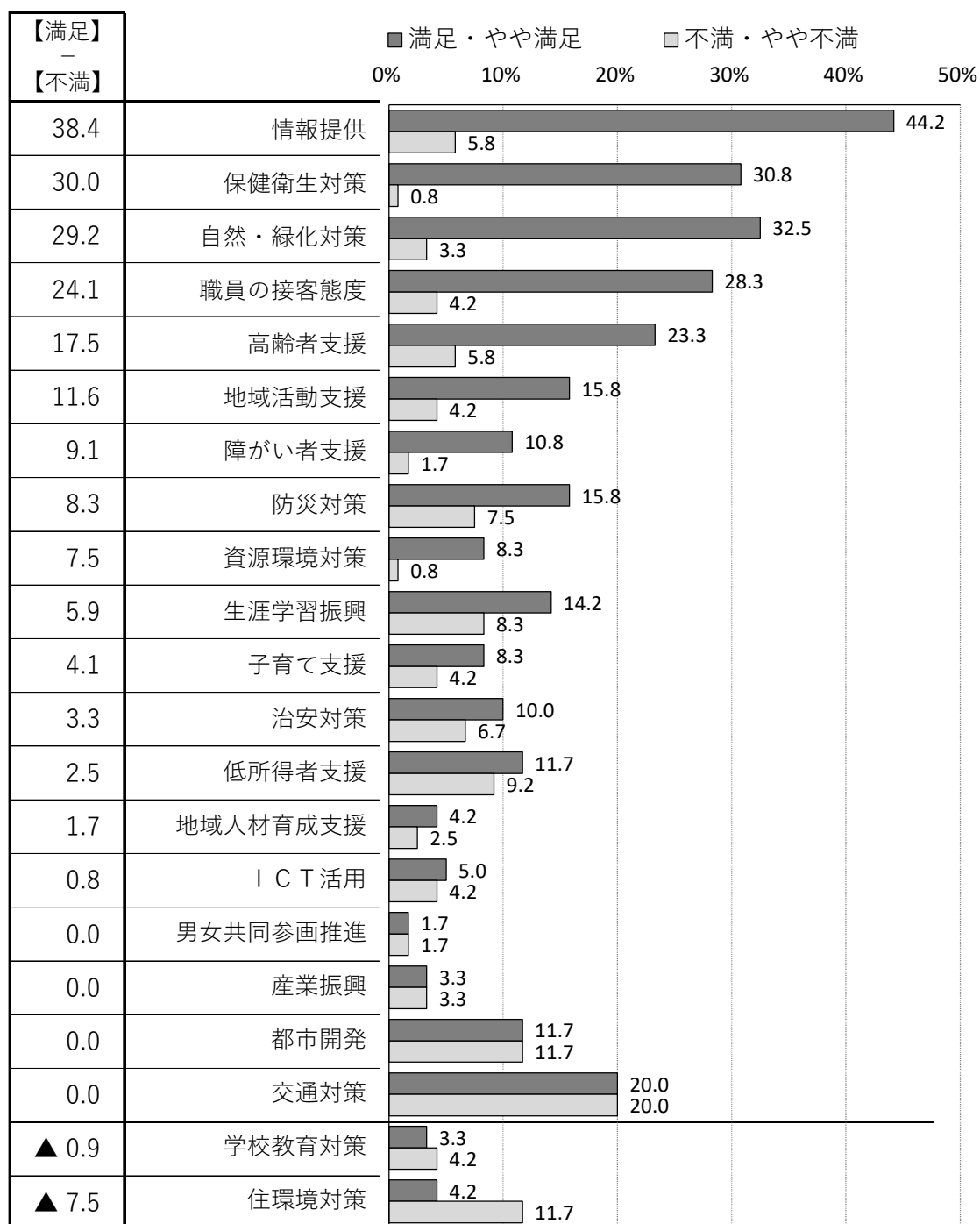
「情報提供」（+38.4pt）、「保健衛生対策」（+30.0pt）、「自然・緑化対策」（+29.2pt）、「職員の接客態度」（+24.1pt）、「高齢者支援」（+17.5pt）

(イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み

「住環境対策」（-7.5pt）、「学校教育対策」（-0.9pt）

(ウ) 第5地域の特徴として、【満足評価割合】で「職員の接客態度」（28.3％）が15地域中2番目に高い割合となっている。

図11-6-6 各取り組みの現状評価《第5地域》（【満足評価】－【不満評価】）



キ クロス集計・地域別《第6地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）

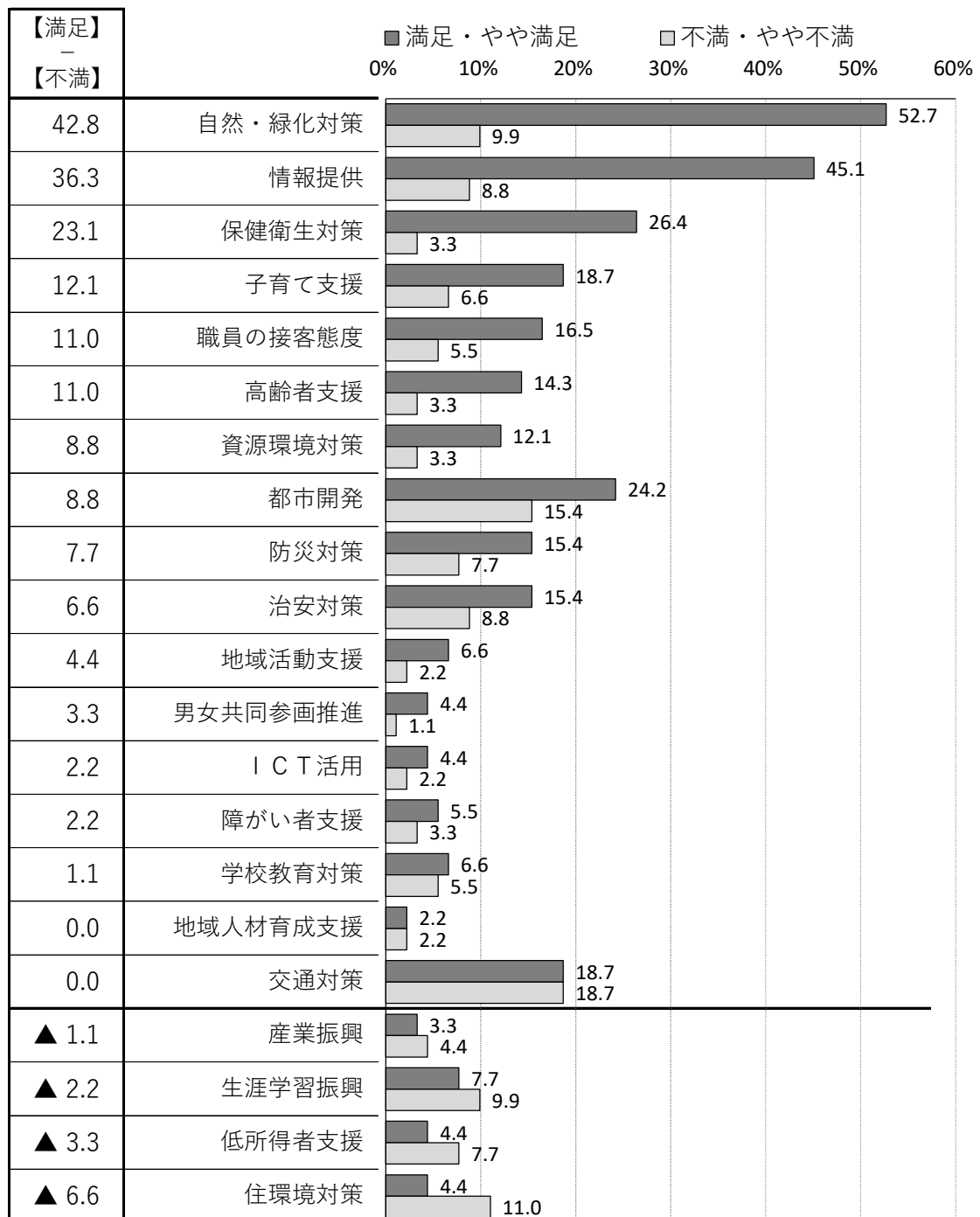
「自然・緑化対策」（+42.8pt）、「情報提供」（+36.3pt）、「保健衛生対策」（+23.1pt）、「子育て支援」（+12.1pt）、「職員の接客態度」と「高齢者支援」（各+11.0pt）

(イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位3位）

「住環境対策」（-6.6pt）、「低所得者支援」（-3.3pt）、「生涯学習振興」（-2.2pt）

(ウ) 第6地域の特徴として、【満足評価割合】で「自然・緑化対策」（52.7%）、「都市開発」（24.2%）、「子育て支援」（18.7%）の3分野が15地域中で最も高い割合となっているが、【不満評価割合】で「情報提供」（8.8%）が15地域中で最も高い割合となっている。

図11-6-7 各取り組みの現状評価《第6地域》（【満足評価】－【不満評価】）



ク クロス集計・地域別《第7地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）

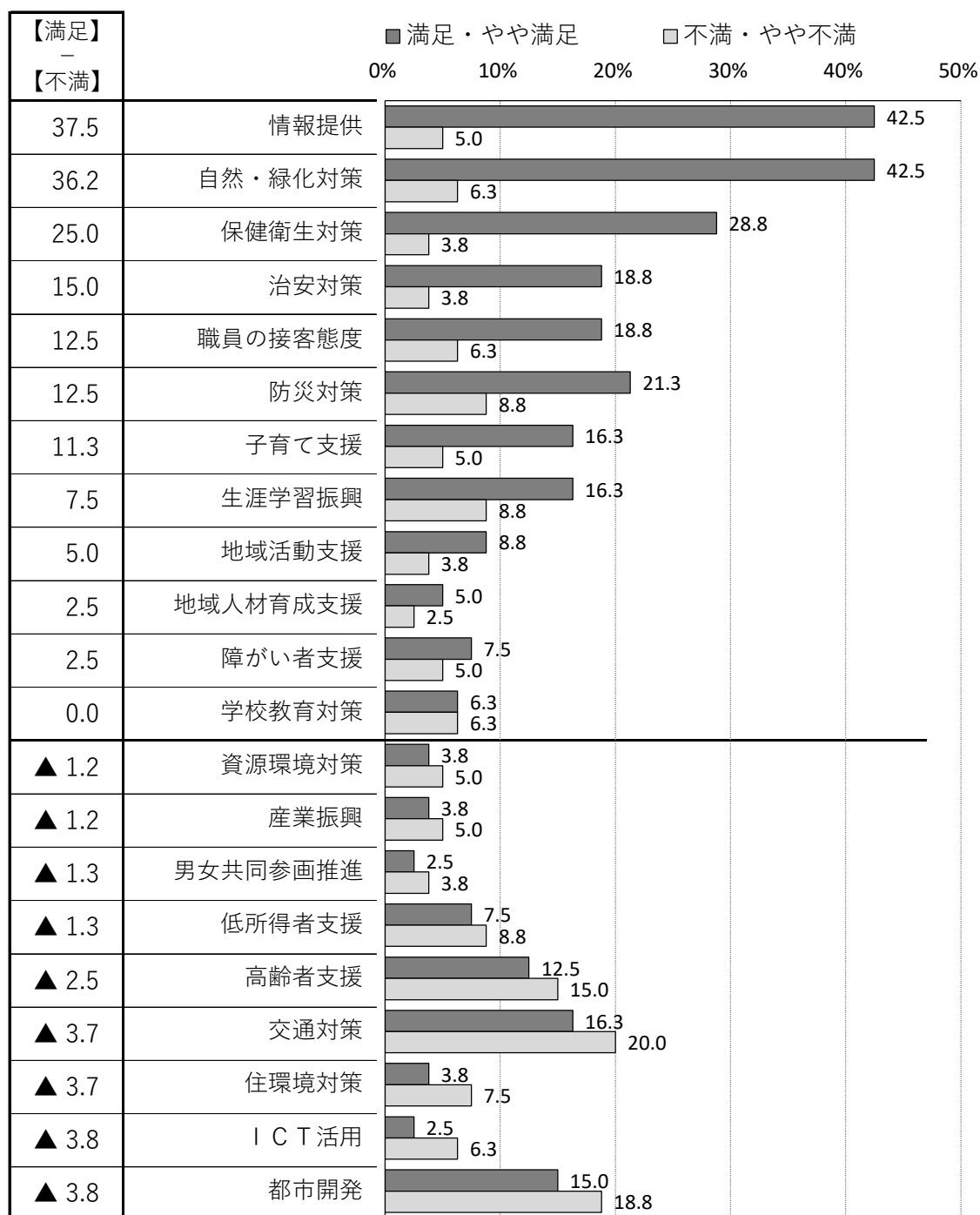
「情報提供」（+37.5pt）、「自然・緑化対策」（+36.2pt）、「保健衛生対策」（+25.0pt）、「治安対策」（+15.0pt）、「職員の接客態度」と「防災対策」（各+12.5pt）

(イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位4位）

「都市開発」と「ICT活用」（各－3.8pt）、「住環境対策」と「交通対策」（各－3.7pt）

(ウ) 第7地域の特徴として、【満足評価割合】で「自然・緑化対策」（42.5％）が15地域中2番目に高い割合となっているが、【不満評価割合】で「都市開発」（18.8％）と「高齢者支援」（15.0％）が15地域中で最も高い割合となっている。

図11－6－8 各取り組みの現状評価《第7地域》（【満足評価】－【不満評価】）



ケ クロス集計・地域別《第8地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）

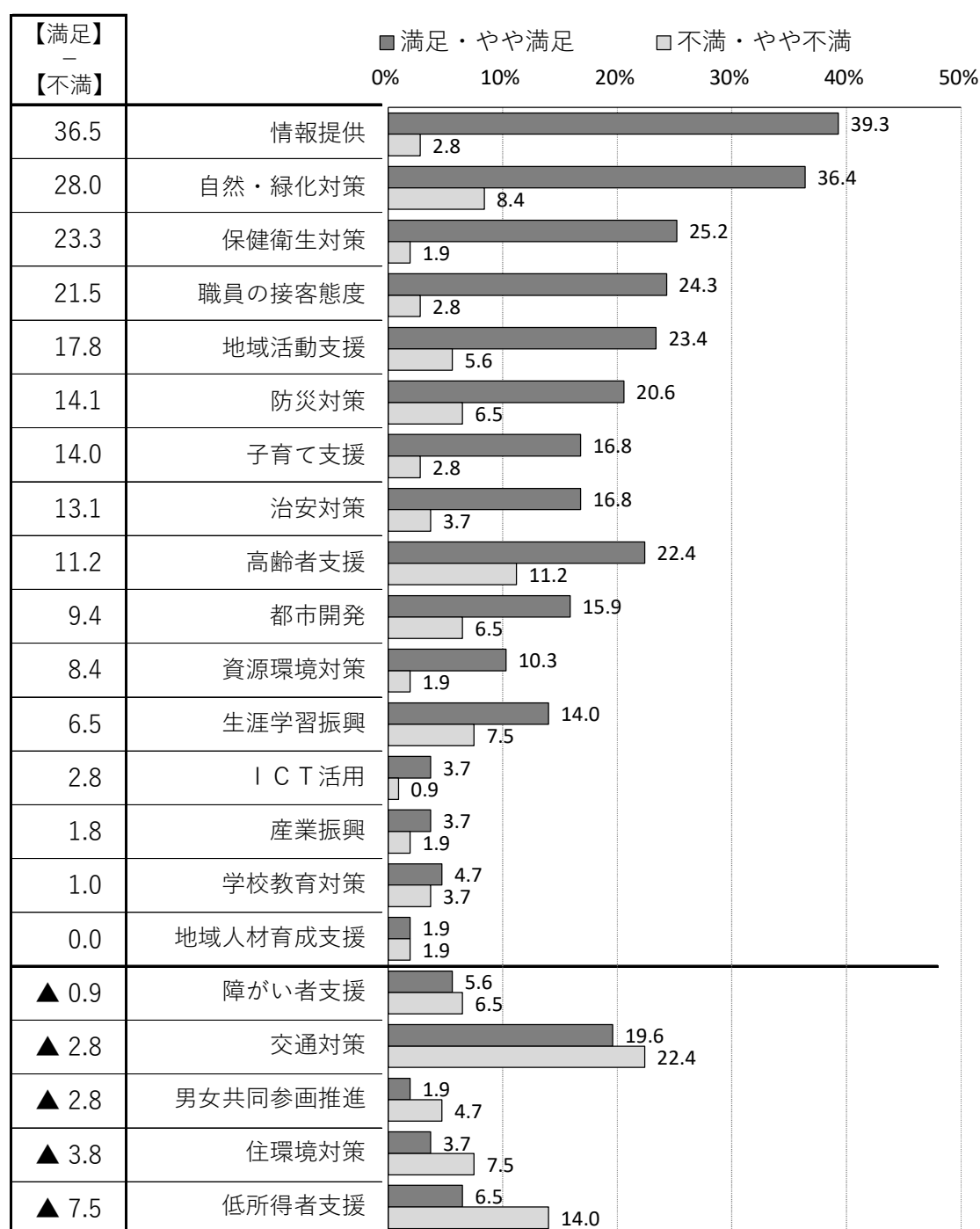
「情報提供」（+36.5pt）、「自然・緑化対策」（+28.0pt）、「保健衛生対策」（+23.3pt）、「職員の接客態度」（+21.5pt）、「地域活動支援」（+17.8pt）

(イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位4位）

「低所得者支援」（-7.5pt）、「住環境対策」（-3.8pt）、「男女共同参画推進」と「交通対策」（各-2.8pt）

(ウ) 第8地域の特徴として、【満足評価割合】で「地域活動支援」（23.4%）が15地域中で最も高い割合となっているが、【不満評価割合】で「低所得者支援」（14.0%）と「男女共同参画推進」（4.7%）が15地域中で最も高い割合となっている。

図11-6-9 各取り組みの現状評価《第8地域》（【満足評価】－【不満評価】）



コ クロス集計・地域別《第9地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）

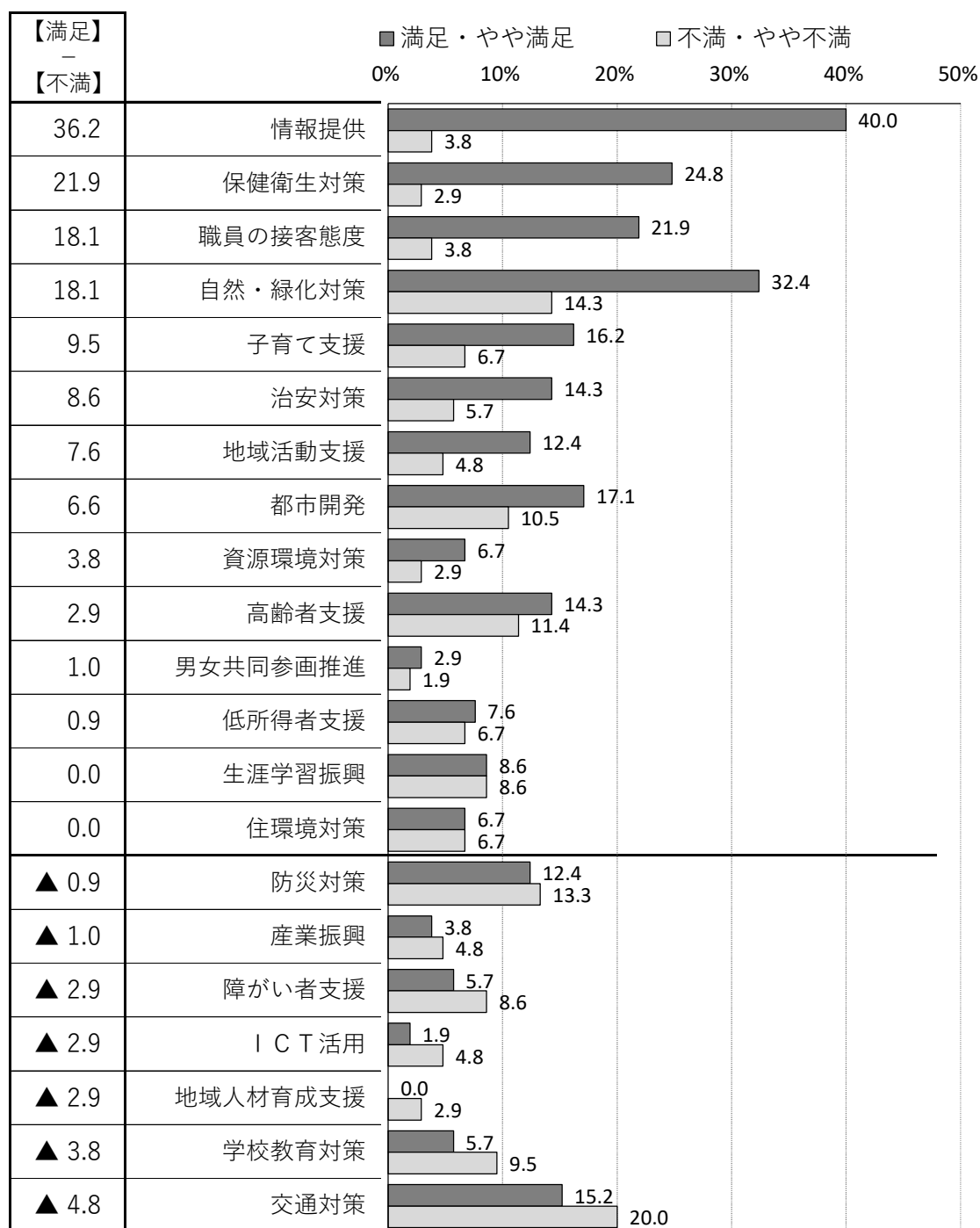
「情報提供」（+36.2pt）、「保健衛生対策」（+21.9pt）、「職員の接客態度」と「自然・緑化対策」（各+18.1pt）、「子育て支援」（+9.5pt）

(イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位5位）

「交通対策」（-4.8pt）、「学校教育対策」（-3.8pt）、「地域人材育成支援」「I C T活用」「障がい者支援」（各-2.9pt）

(ウ) 第9地域の特徴として、【不満評価割合】で「学校教育対策」（9.5％）と「子育て支援」（6.7％）が15地域中で最も高い割合となっている。なお、「特にない」が【満足評価割合】で15地域中で最も高く、【不満評価割合】で15地域中2番目に高い割合となっている。

図11－6－10 各取り組みの現状評価《第9地域》（【満足評価】－【不満評価】）



サ クロス集計・地域別《第10地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）

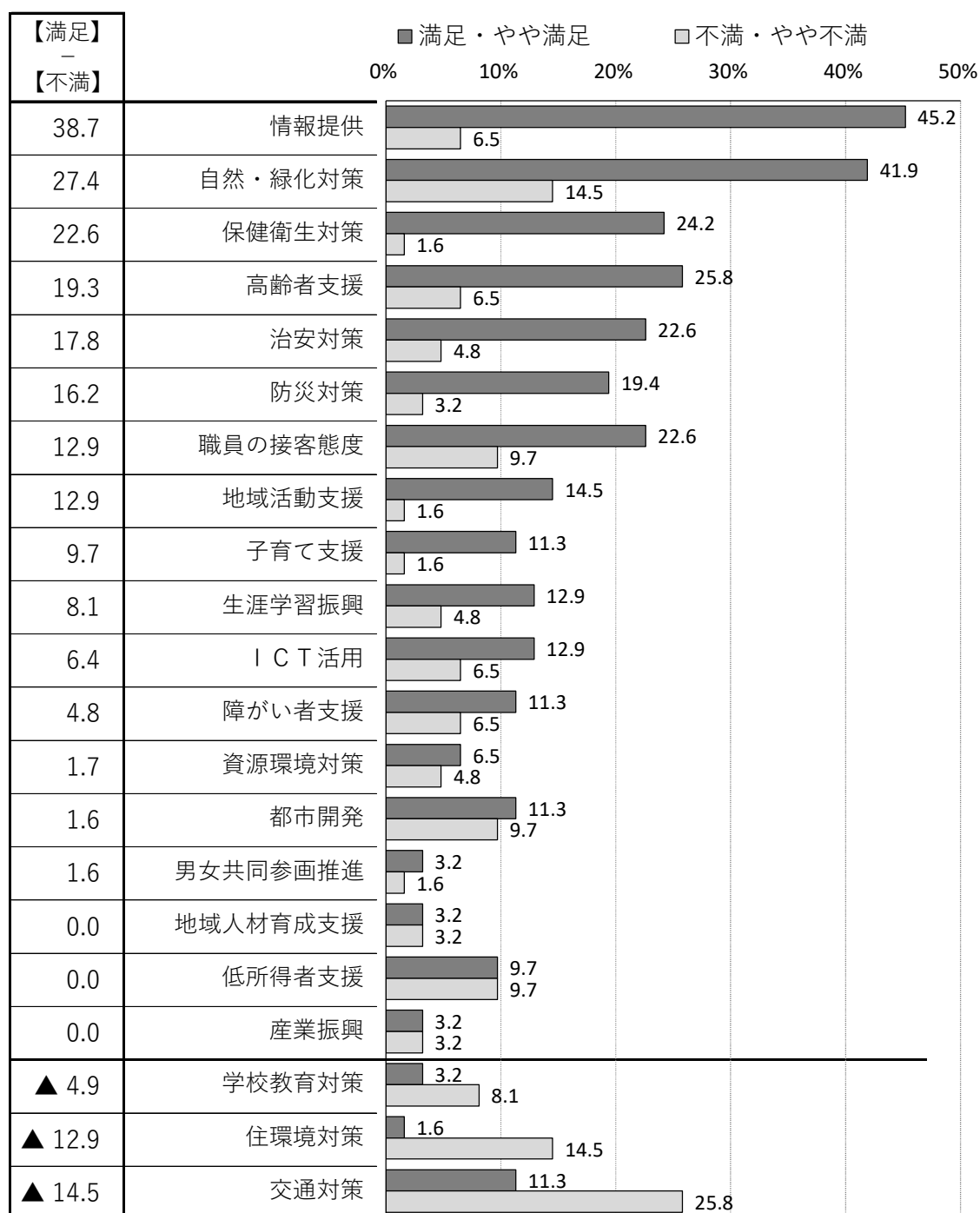
「情報提供」(+38.7pt)、「自然・緑化対策」(+27.4pt)、「保健衛生対策」(+22.6pt)、「高齢者支援」(+19.3pt)、「治安対策」(+17.8pt)

(イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み

「交通対策」(-14.5pt)、「住環境対策」(-12.9pt)、「学校教育対策」(-4.9pt)

(ウ) 第10地域の特徴として、【満足評価割合】で「ICT活用」(12.9%)が15地域中で最も高い割合となっている。一方、【不満評価割合】で「職員の接客態度」(9.7%)が15地域中で最も高い割合となっている。

図11-6-11 各取り組みの現状評価《第10地域》(【満足評価】－【不満評価】)



シ クロス集計・地域別《第11地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）

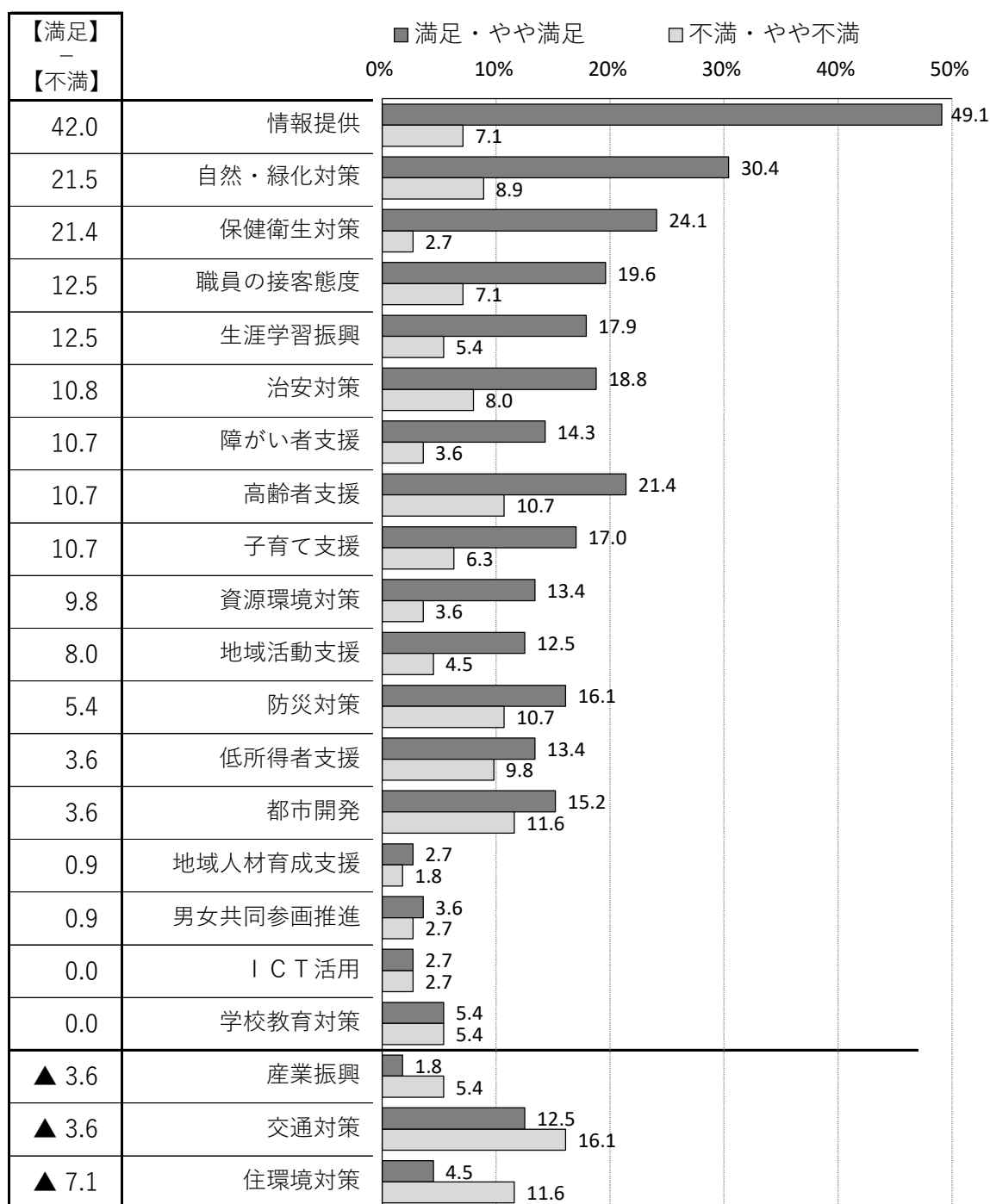
「情報提供」（+42.0pt）、「自然・緑化対策」（+21.5pt）、「保健衛生対策」（+21.4pt）、「職員の接客態度」と「生涯学習振興」（各+12.5pt）

(イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み

「住環境対策」（-7.1pt）、「交通対策」と「産業振興」（各-3.6pt）

(ウ) 第11地域の特徴として、【満足評価割合】で「情報提供」（49.1％）が15地域中で最も高く、「障がい者支援」（14.3％）と「資源環境対策」（13.4％）が15地域中で2番目に高い割合となっている。

図11-6-12 各取り組みの現状評価《第11地域》（【満足評価】－【不満評価】）



ス クロス集計・地域別《第12地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）

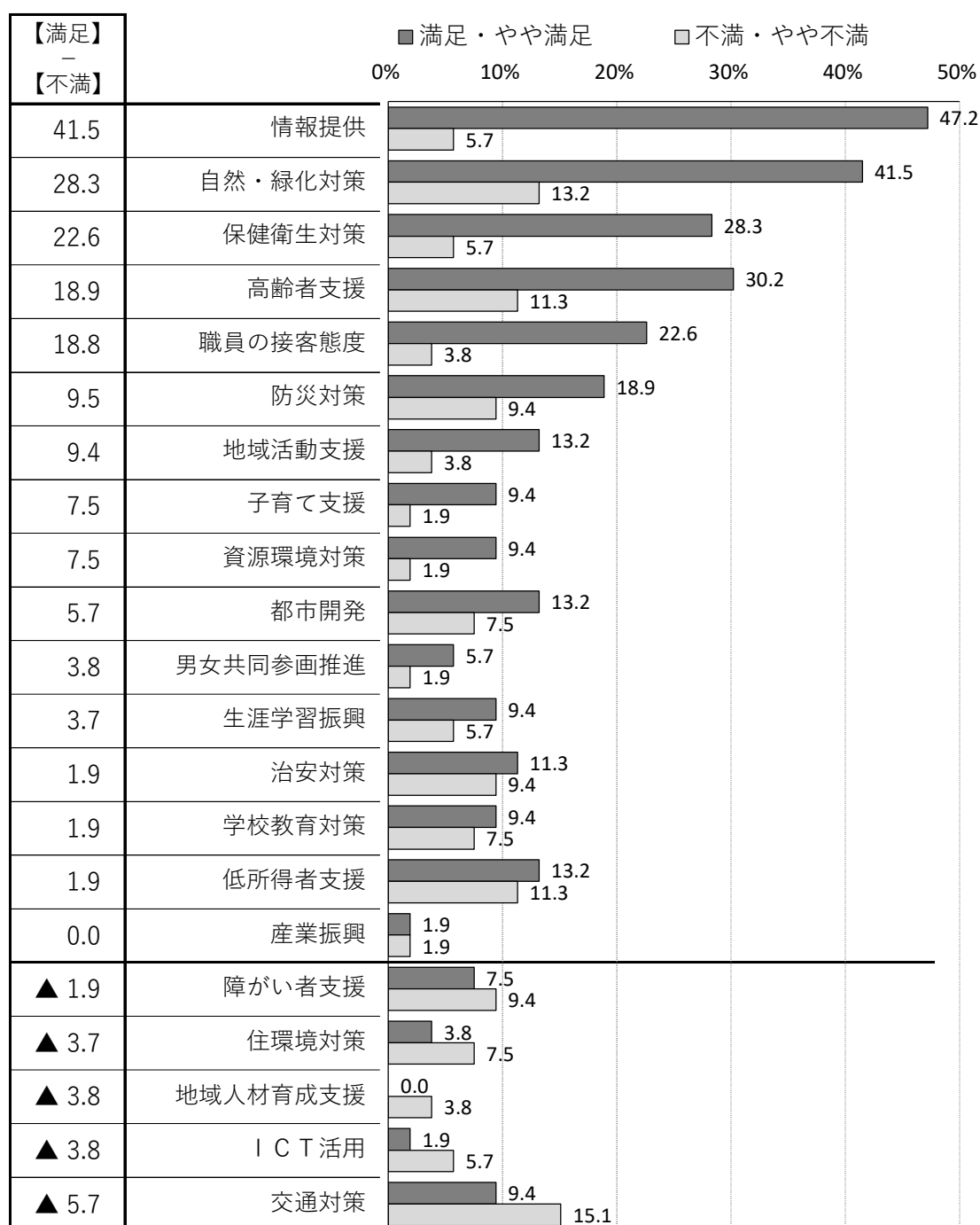
「情報提供」（+41.5pt）、「自然・緑化対策」（+28.3pt）、「保健衛生対策」（+22.6pt）、「高齢者支援」（+18.9pt）、「職員の接客態度」（+18.8pt）

(イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位3位）

「交通対策」（-5.7pt）、「ICT活用」と「地域人材育成支援」（各-3.8pt）

(ウ) 第12地域の特徴として、【満足評価割合】で「高齢者支援」（30.2%）が15地域中で最も高い割合となっている。一方、【不満評価割合】で「治安対策」（9.4%）と「保健衛生対策」（5.7%）が15地域中で最も高い割合となっている。

図11-6-13 各取り組みの現状評価《第12地域》（【満足評価】－【不満評価】）



セ クロス集計・地域別《第13地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）

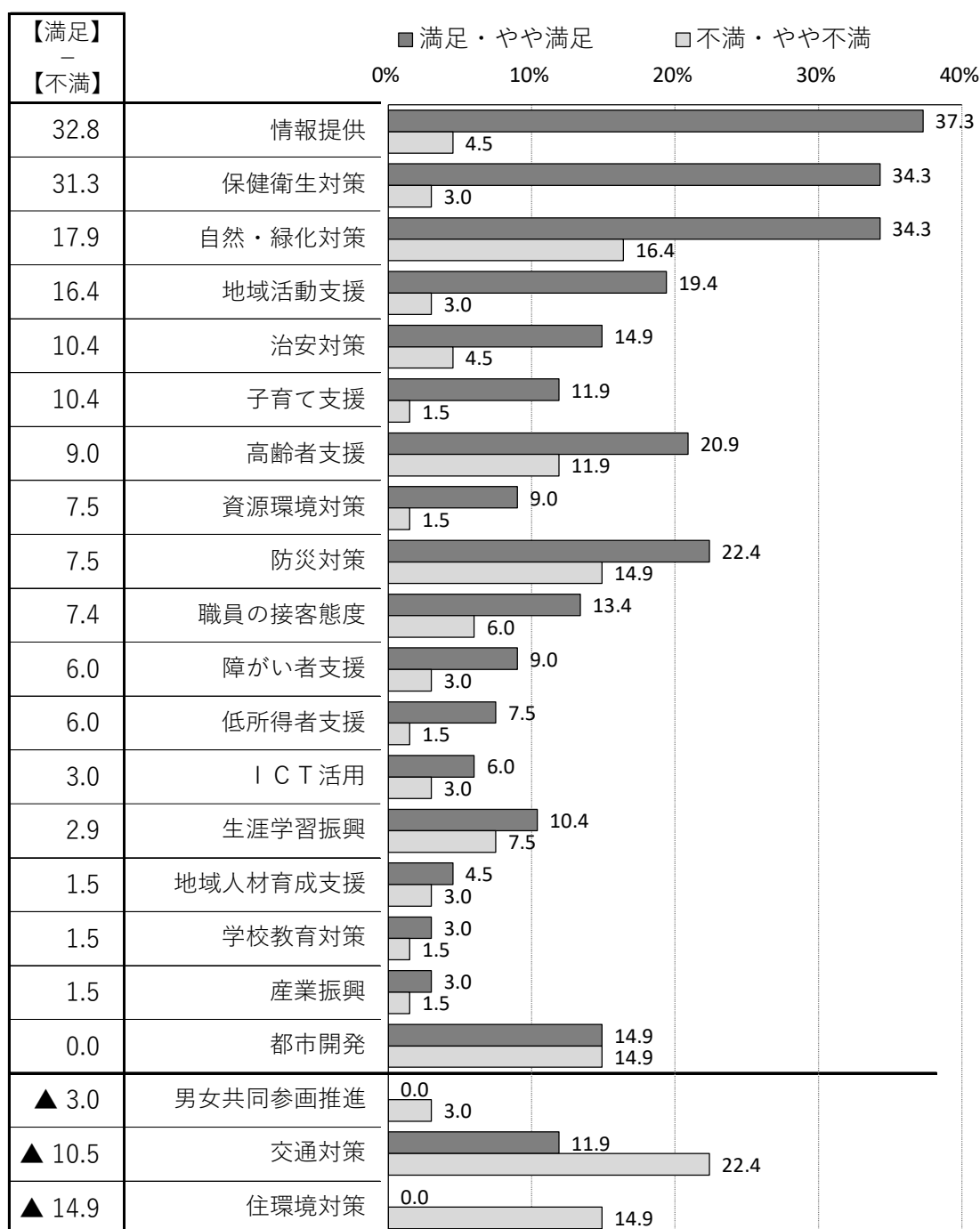
「情報提供」（+32.8pt）、「保健衛生対策」（+31.3pt）、「自然・緑化対策」（+17.9pt）、「地域活動支援」（+16.4pt）、「治安対策」と「子育て支援」（各+10.4pt）

(イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み

「住環境対策」（-14.9pt）、「交通対策」（-10.5pt）、「男女共同参画推進」（-3.0pt）

(ウ) 第13地域の特徴として、【満足評価割合】で「保健衛生対策」（34.3％）が15地域中最も高い割合となっているが、【不満評価割合】で「自然・緑化対策」（16.4％）と「防災対策」（14.9％）が15地域中最も高い割合となっている。

図11-6-14 各取り組みの現状評価《第13地域》（【満足評価】－【不満評価】）



ソ クロス集計・地域別《第14地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア) 【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）

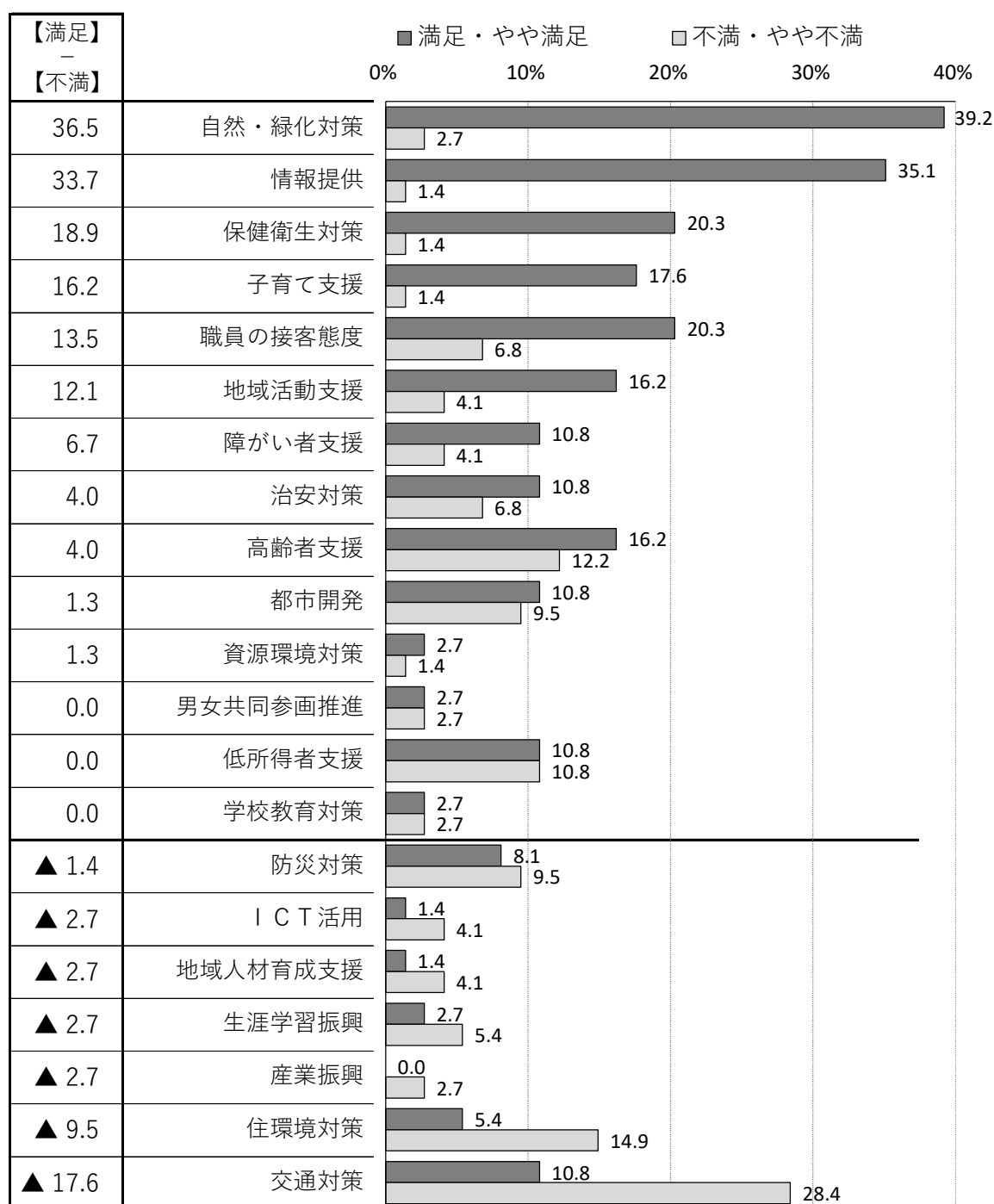
「自然・緑化対策」（+36.5pt）、「情報提供」（+33.7pt）、「保健衛生対策」（+18.9pt）、「子育て支援」（+16.2pt）、「職員の接客態度」（+13.5pt）

(イ) 【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み（上位2位）

「交通対策」（-17.6pt）、「住環境対策」（-9.5pt）

(ウ) 第14地域の特徴として、【不満評価割合】で「交通対策」（28.4%）が15地域中で最も高く、「高齢者支援」（12.2%）と「地域人材育成支援」（4.1%）でも15地域中で2番目に高い割合となっている。

図11-6-15 各取り組みの現状評価《第14地域》（【満足評価】－【不満評価】）



タ クロス集計・地域別《第15地域》／【満足評価割合】－【不満評価割合】

(ア)【満足評価割合】の方が【不満評価割合】より大きい取り組み（上位5位）

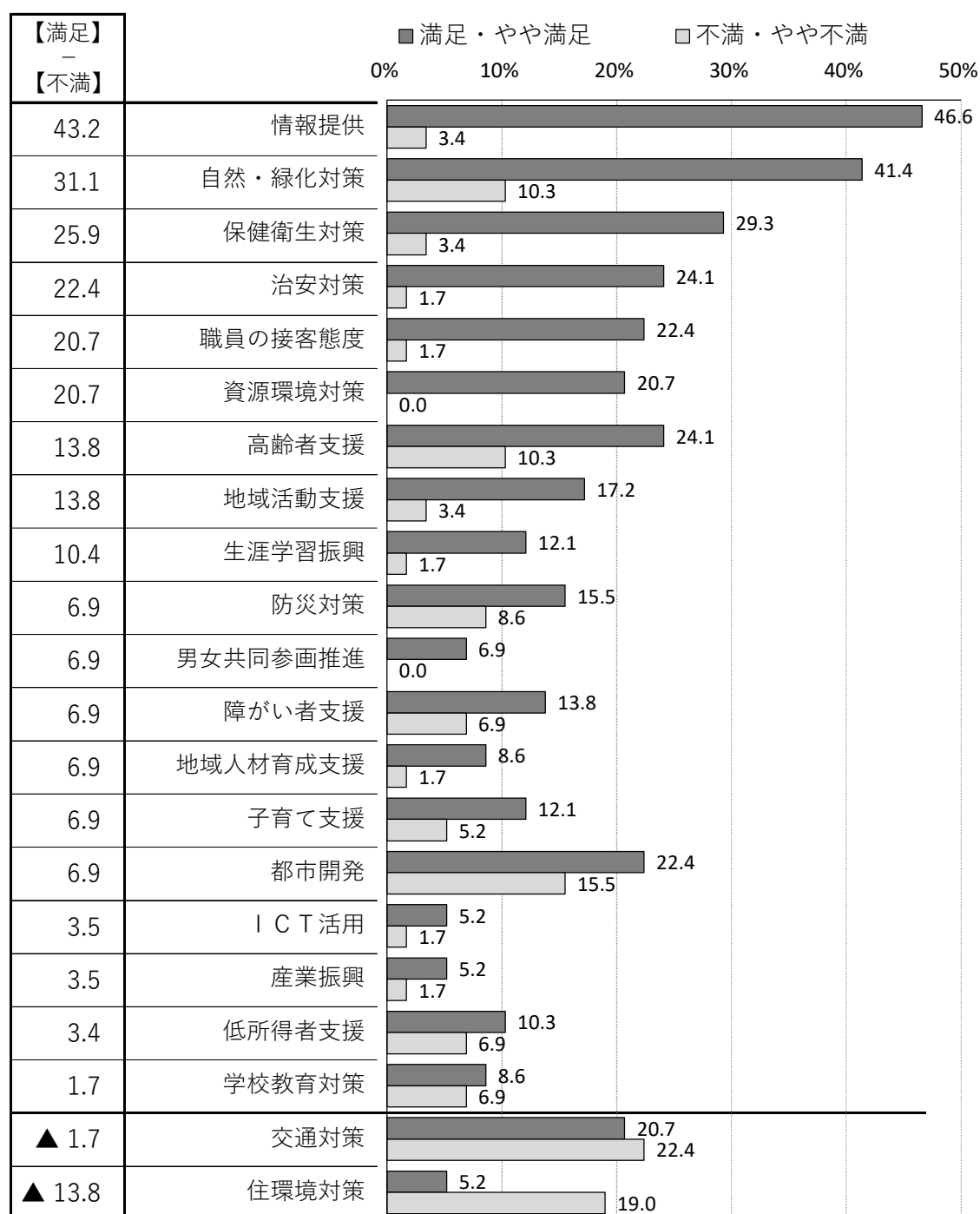
「情報提供」（+43.2pt）、「自然・緑化対策」（+31.1pt）、「保健衛生対策」（+25.9pt）、「治安対策」（+22.4pt）、「職員の接客態度」と「資源環境対策」（各+20.7pt）

(イ)【不満評価割合】の方が【満足評価割合】より大きい取り組み

「住環境対策」（-13.8pt）、「交通対策」（-1.7pt）

(ウ)第15地域の特徴として、【満足評価割合】で「治安対策」（24.1%）、「資源環境対策」（20.7%）、「地域人材育成支援」（8.6%）が15地域中で最も高い割合となっている。一方、【不満評価割合】で「住環境対策」（19.0%）が15地域中で最も高い割合となっている。

図11-6-16 各取り組みの現状評価《第15地域》（【満足評価】－【不満評価】）



(7) 区政に対する満足度

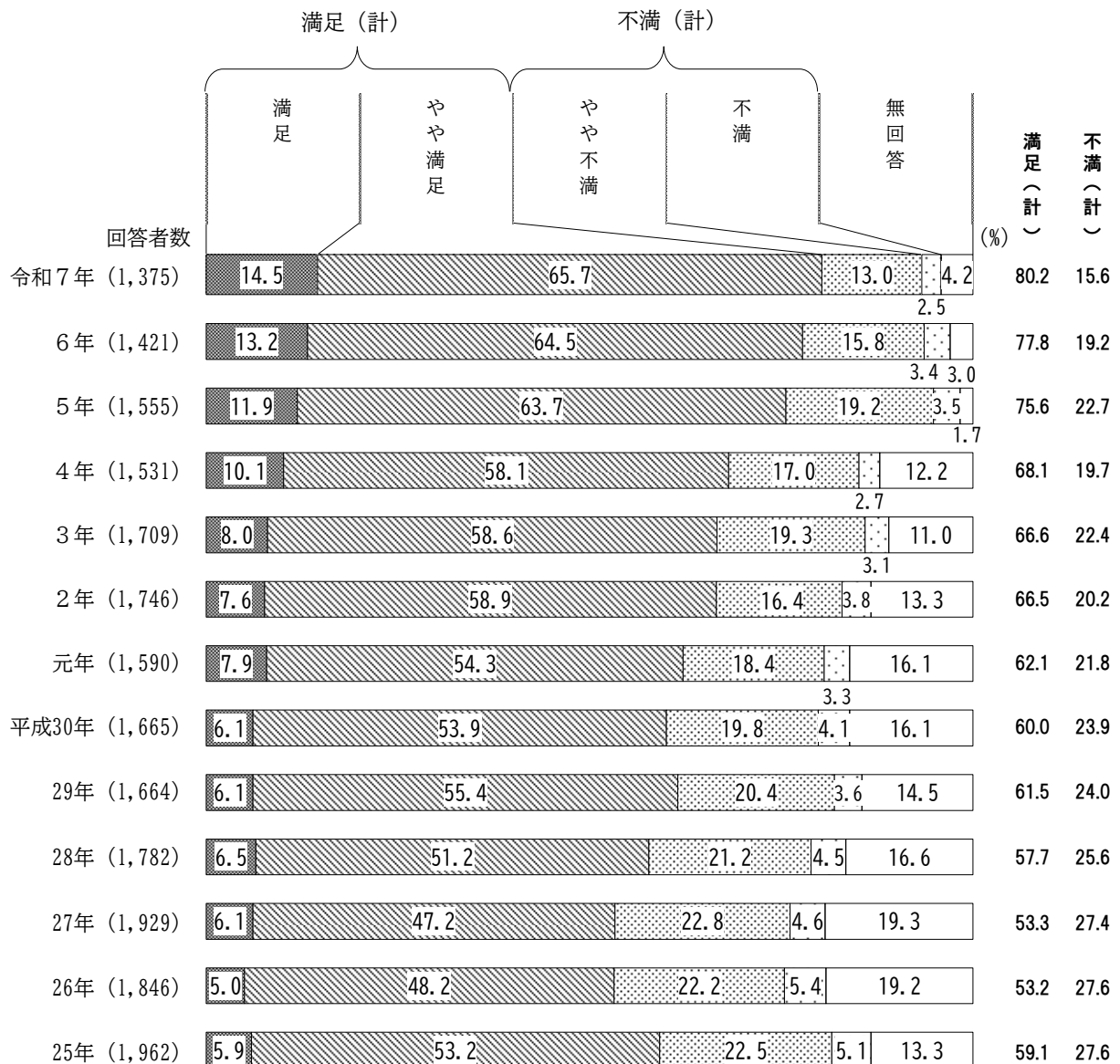
問48 あなたは足立区の区政全体について、満足に感じていますか（○は1つだけ）。

■【満足】は8割で、平成25年の設問開始以降で最も高い割合

ア 単純集計・経年比較／区政に対する満足度

- (ア) 足立区の区政全体について、満足に感じているか聞いたところ、「やや満足」が65.7%で最も高く、これに「満足」(14.5%)を合わせた【満足】(80.2%)は8割となった。一方、「やや不満」(13.0%)と「不満」(2.5%)を合わせた【不満】は15.6%となっている。
- (イ) 前回調査と比較すると、【満足】は本設問を開始した平成25年以降で最も高い割合となった。

図11-7-1 経年比較／区政に対する満足度

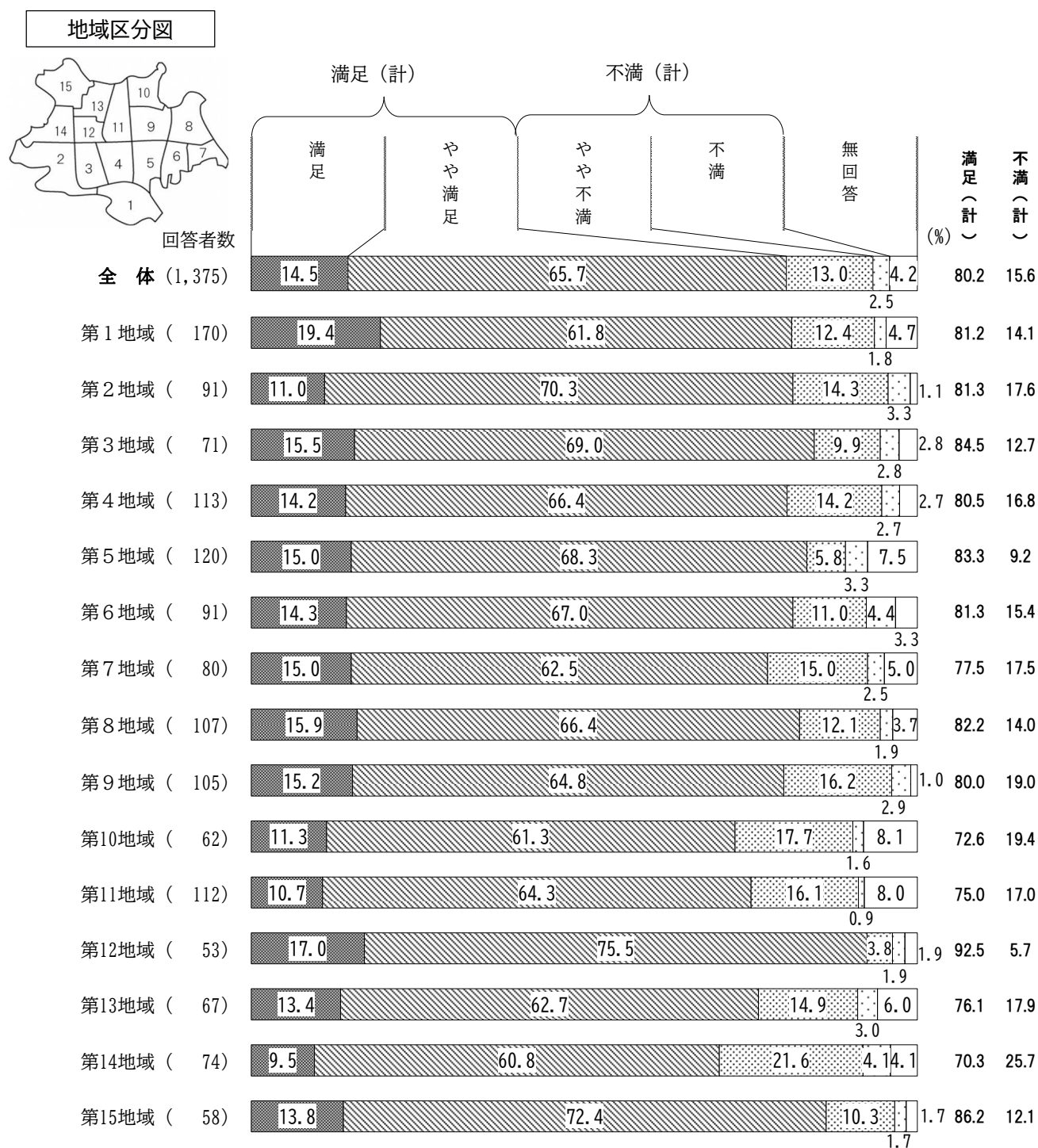


※ 令和4年度までは問46で挙げた21の取り組みと併せて質問する形式であったが、令和5年度調査からは本設問を単独で聞いたことから、無回答の割合が低くなったと考えられる。

イ クロス集計・地域別／区政に対する満足度

（ア）地域別でみると、【満足】は第12地域で92.5%と特に高く、次いで、第15地域（86.2%）、第3地域（84.5%）などとなっている。一方、【不満】は第14地域で25.7%と特に高く、次いで、第10地域（19.4%）、第9地域（19.0%）などとなっている。

図11－7－2 地域別／区政に対する満足度

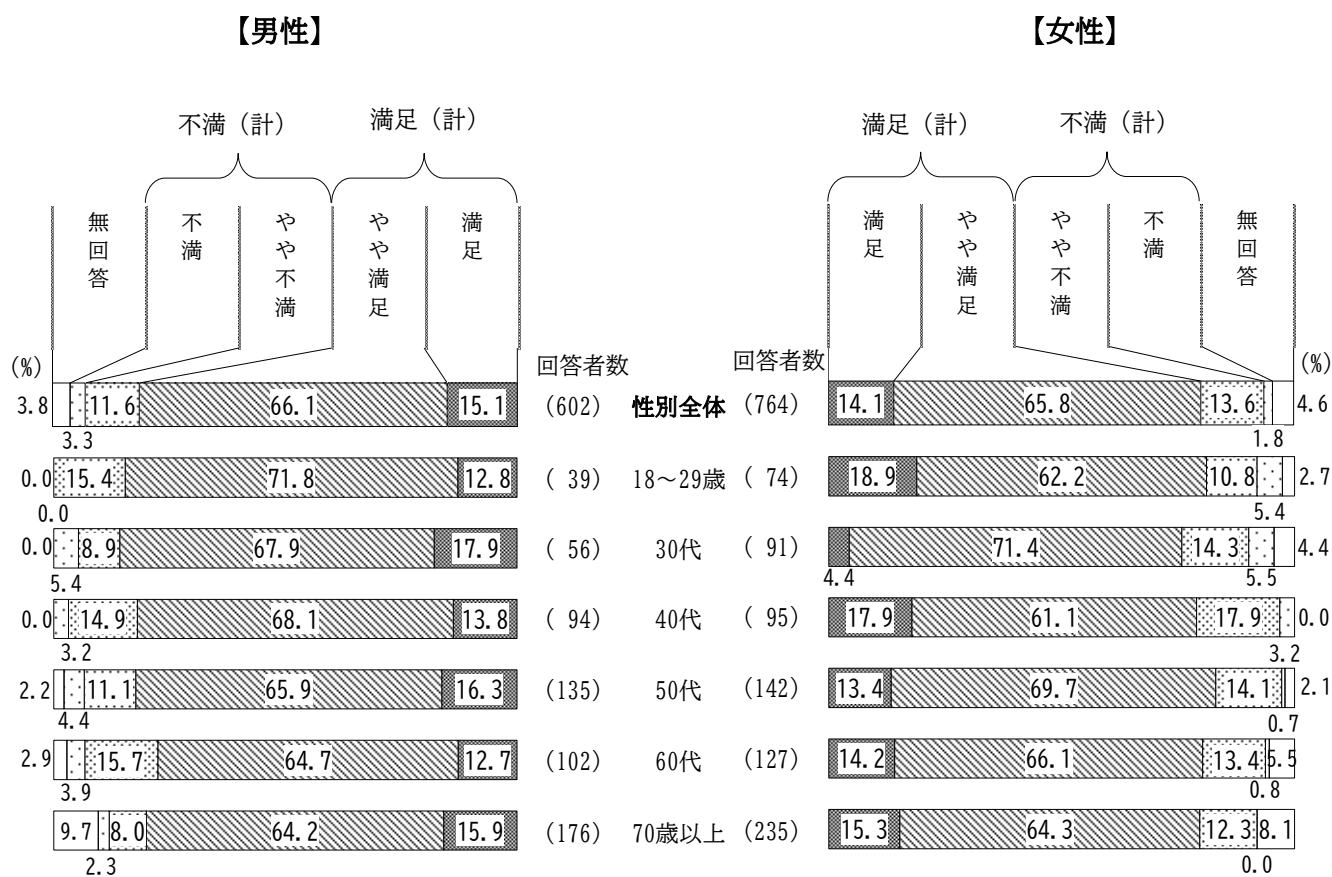


ウ クロス集計・性別、性・年代別／区政に対する満足度

(ア) 性別では特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別にみると、【満足】は、男性の30代で85.7%と最も高く、次いで、男性の18～29歳（84.6%）、女性の50代（83.1%）と8割台半ばで続いている。一方、【不満】は女性の40代で21.1%と最も高く、次いで、女性の30代（19.8%）と男性の60代（19.6%）が約2割となっている。

図11-7-3 性別、性・年代別／区政に対する満足度



(8) 今後特に力を入れてほしい取り組み分野

問49 次の足立区の取り組みのうち、あなたが今後特に力を入れてほしい分野を選んでください（〇はあてはまるものすべて）。

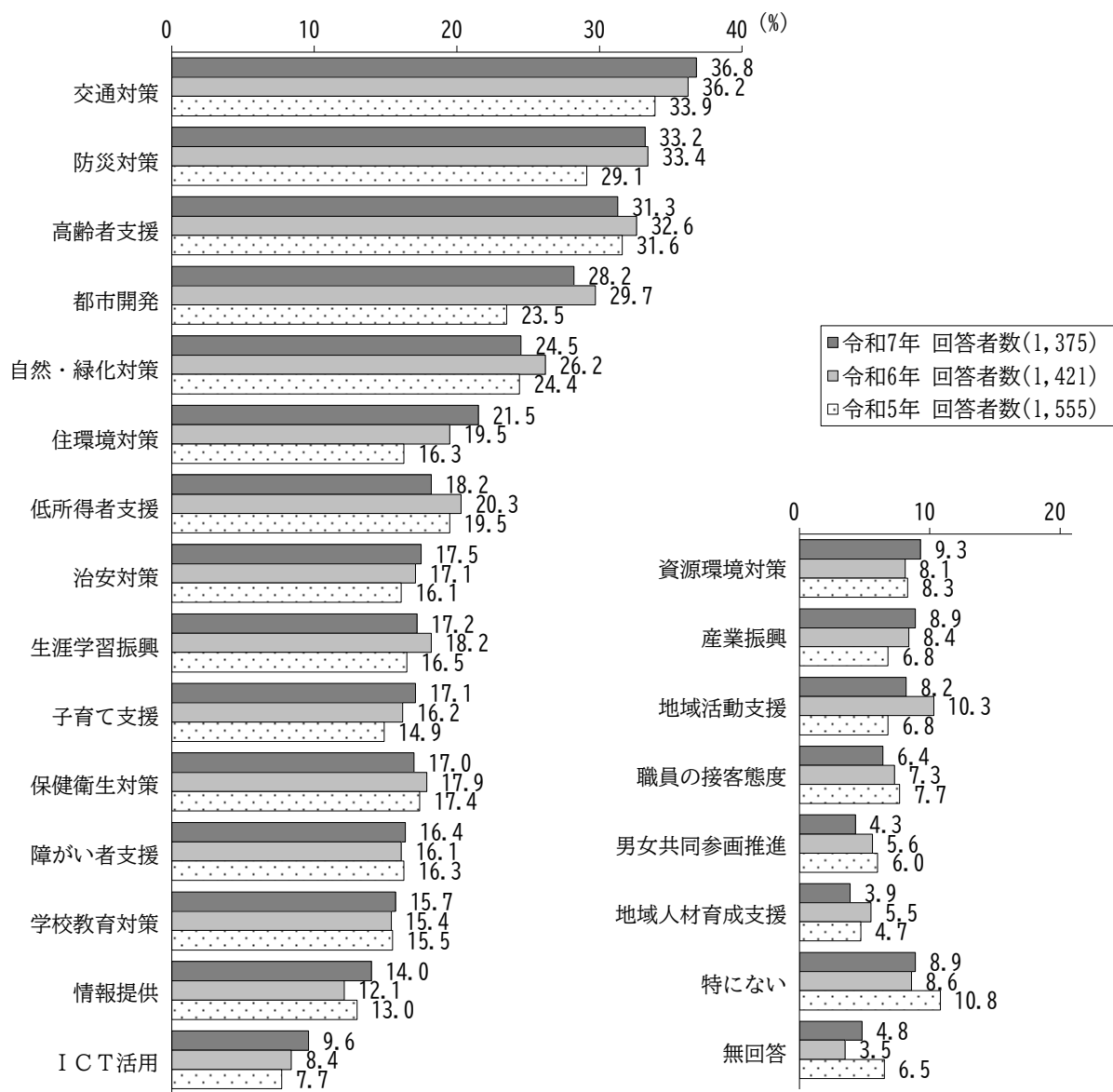
■「交通対策」が3割半ばで最上位、次いで「防災対策」「高齢者支援」が3割台で続く

ア 単純集計／今後特に力を入れてほしい取り組み分野

(ア) 区の取り組みのうち、今後特に力を入れてほしい分野について、数を制限しないで選んでいただいた。その結果「交通対策」が36.8%と最も高く、次いで、「防災対策」(33.2%)、「高齢者支援」(31.3%)、「都市開発」(28.2%)、「自然・緑化対策」(24.5%) などとなっている。

(イ) 前回調査と比較すると、順位では、上位5位に変化はないが、「住環境対策」が「低所得者支援」と入れ替わって第6位となった。割合の増減で見ると、特に大きな違いはないものの、わずかに「低所得者支援」と「地域活動支援」がそれぞれ2.1ポイント減少し、「住環境対策」が2.0ポイントの増加となった。

図11-8-1 経年比較／今後特に力を入れてほしい取り組み分野

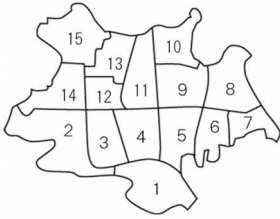


イ クロス集計・地域別／今後特に力を入れてほしい取り組み分野

(ア) 地域別でみると、第6地域は「都市開発」「子育て支援」「学校教育対策」「産業振興」「男女共同参画推進」の5分野で最も高くなっている。また、第2地域では「保健衛生対策」と「資源環境対策」、第12地域では「高齢者支援」と「治安対策」、第13地域では「防災対策」と「自然・緑化対策」、第14地域では「交通対策」と「職員の接客態度」、第15地域では「障がい者支援」と「地域人材育成支援」のそれぞれの2分野で最も高い割合となっている。

図11-8-2 地域別／今後特に力を入れてほしい取り組み分野

地域区分図



順位	取り組み分野	区全体	第1地域	第2地域	第3地域	第4地域	第5地域	第6地域	第7地域	第8地域	第9地域	第10地域	第11地域	第12地域	第13地域	第14地域	第15地域
1	交通対策	36.8	30.6	39.6	38.0	42.5	39.2	39.6	42.5	36.4	35.2	38.7	24.1	24.5	44.8	51.4	31.0
2	防災対策	33.2	38.2	30.8	26.8	36.3	35.8	29.7	40.0	29.9	34.3	37.1	25.0	26.4	47.8	33.8	20.7
3	高齢者支援	31.3	34.7	28.6	35.2	25.7	29.2	17.6	37.5	31.8	29.5	37.1	31.3	41.5	34.3	31.1	34.5
4	都市開発	28.2	35.9	25.3	25.4	23.0	25.8	42.9	32.5	27.1	24.8	25.8	23.2	20.8	29.9	24.3	31.0
5	自然・緑化対策	24.5	28.2	17.6	19.7	31.0	20.8	31.9	28.8	27.1	24.8	21.0	17.0	17.0	32.8	18.9	25.9
6	住環境対策	21.5	24.7	18.7	21.1	30.1	20.0	25.3	23.8	15.0	16.2	21.0	20.5	20.8	19.4	24.3	19.0
7	低所得者支援	18.2	18.8	18.7	23.9	13.3	20.0	12.1	20.0	19.6	13.3	27.4	15.2	18.9	17.9	21.6	19.0
8	治安対策	17.5	22.4	20.9	14.1	21.2	15.8	19.8	18.8	12.1	12.4	8.1	20.5	26.4	19.4	12.2	13.8
9	生涯学習振興	17.2	26.5	17.6	16.9	22.1	16.7	24.2	25.0	15.0	14.3	12.9	16.1	9.4	11.9	8.1	1.7
10	子育て支援	17.1	17.1	19.8	14.1	18.6	20.8	26.4	15.0	21.5	19.0	16.1	15.2	7.5	10.4	12.2	10.3
11	保健衛生対策	17.0	21.8	22.0	12.7	15.9	15.0	15.4	18.8	11.2	12.4	14.5	20.5	20.8	17.9	16.2	19.0
12	障がい者支援	16.4	16.5	15.4	15.5	8.8	16.7	8.8	17.5	18.7	17.1	19.4	20.5	22.6	20.9	10.8	24.1
13	学校教育対策	15.7	20.0	17.6	11.3	15.0	14.2	24.2	20.0	15.0	17.1	17.7	14.3	5.7	9.0	10.8	13.8
14	情報提供	14.0	15.9	12.1	12.7	8.0	22.5	18.7	12.5	12.1	12.4	14.5	12.5	15.1	9.0	14.9	13.8
15	I C T活用	9.6	10.0	12.1	7.0	12.4	10.8	13.2	13.8	5.6	4.8	9.7	8.0	9.4	13.4	6.8	6.9
16	資源環境対策	9.3	10.6	15.4	11.3	12.4	7.5	4.4	11.3	9.3	9.5	11.3	8.9	7.5	3.0	6.8	6.9
17	産業振興	8.9	9.4	9.9	4.2	12.4	14.2	14.3	7.5	7.5	4.8	9.7	5.4	5.7	7.5	10.8	5.2
18	地域活動支援	8.2	13.5	6.6	14.1	4.4	12.5	3.3	3.8	5.6	5.7	8.1	7.1	9.4	7.5	10.8	8.6
19	職員の接客態度	6.4	5.3	7.7	5.6	7.1	7.5	7.7	3.8	4.7	4.8	4.8	6.3	7.5	6.0	10.8	8.6
20	男女共同参画推進	4.3	3.5	3.3	2.8	3.5	4.2	7.7	5.0	6.5	2.9	3.2	2.7	5.7	3.0	5.4	6.9
21	地域人材育成支援	3.9	4.7	6.6	4.2	2.7	5.0	3.3	5.0	3.7	1.9	1.6	3.6	5.7	1.5	2.7	6.9
-	特にない	8.9	7.6	8.8	12.7	9.7	12.5	5.5	7.5	7.5	10.5	6.5	8.9	11.3	7.5	6.8	10.3

区全体より高い

最も高い

ウ クロス集計・性別、年代別／今後特に力を入れてほしい取り組み分野

(ア) 性別でみたときに、男女で3ポイント以上差がある取り組み

a 男性の方が女性より3ポイント以上高い取り組み

「ICT活用」(+4.5pt)、「地域活動支援」(+4.1pt)、「産業振興」(+3.5pt)、「自然・緑化対策」(+3.0pt)

b 女性の方が男性より3ポイント以上高い取り組み

「子育て支援」(+3.7pt)、「保健衛生対策」(+3.2pt)

(イ) 年代別にみて区全体より5ポイント以上高くなっている取り組み

a 40代は21項目中最多の7項目で区全体より5ポイント以上高くなっており、特に「自然・緑化対策」「学校教育対策」「都市開発」の3項目で7ポイント以上高くなっている。

b 60代では4項目で区全体より5ポイント以上高くなっており、特に「高齢者支援」で15.0ポイント、「障がい者支援」で8.1ポイント高くなっている。

c また、30代では、「子育て支援」(24.1ポイント)と「学校教育対策」(15.4ポイント)の2項目で区全体より5ポイント以上高くなっている。

図11-8-3 性別、年代別／今後特に力を入れてほしい取り組み分野

順位	取り組み分野	区全体	性別		年代別					
			男性	女性	18～29歳	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1	交通対策	36.8	37.7	36.1	43.9	39.2	42.0	44.6	38.4	25.3
2	防災対策	33.2	34.2	32.5	28.1	27.7	32.6	35.7	35.8	33.8
3	高齢者支援	31.3	31.1	31.8	6.1	10.1	16.1	30.4	46.3	45.5
4	都市開発	28.2	28.2	28.1	28.9	28.4	35.2	31.4	30.1	21.4
5	自然・緑化対策	24.5	26.2	23.2	22.8	27.7	33.7	23.6	27.1	18.7
6	住環境対策	21.5	21.1	21.9	16.7	16.9	22.3	26.1	23.6	20.0
7	低所得者支援	18.2	18.9	17.8	11.4	6.1	10.9	20.4	24.9	22.6
8	治安対策	17.5	16.3	18.6	15.8	25.0	22.8	17.1	18.3	12.7
9	生涯学習振興	17.2	18.4	16.4	15.8	19.6	22.3	15.4	20.1	14.1
10	子育て支援	17.1	15.0	18.7	21.1	41.2	20.7	12.5	13.1	10.9
11	保健衛生対策	17.0	15.1	18.3	11.4	16.2	14.0	20.4	22.7	14.8
12	障がい者支援	16.4	17.9	15.3	8.8	7.4	12.4	17.5	24.5	18.5
13	学校教育対策	15.7	15.3	15.7	19.3	31.1	23.8	11.8	14.0	9.0
14	情報提供	14.0	15.0	13.2	11.4	9.5	9.3	11.1	16.2	19.2
15	ICT活用	9.6	12.0	7.5	8.8	12.2	13.5	11.8	8.7	6.1
16	資源環境対策	9.3	9.0	9.7	2.6	6.8	8.8	11.4	12.2	9.2
17	産業振興	8.9	10.8	7.3	5.3	10.1	14.0	12.1	6.6	6.1
18	地域活動支援	8.2	10.5	6.4	0.9	5.4	5.2	7.5	8.7	12.9
19	職員の接客態度	6.4	7.0	5.8	5.3	7.4	6.2	6.1	8.7	5.4
20	男女共同参画推進	4.3	4.2	4.2	5.3	6.1	4.1	1.8	3.9	5.4
21	地域人材育成支援	3.9	3.7	4.2	0.9	1.4	3.1	4.3	5.7	4.9
-	特にない	8.9	8.8	8.9	12.3	8.1	9.3	7.5	8.3	9.2
			性差3pt以上		区全体より5pt以上高い					

(9) 区政への区民意見の反映度

問50 あなたは、区政に区民の意見が反映されていると感じていますか（○は1つだけ）。

■【そう思う】は2.0ポイント増加し3割台半ば、【そう思わない】は2割強

ア 単純集計・経年比較／区政への区民意見の反映度

（ア）区政に区民の意見が反映されていると感じているか聞いたところ、「そう思う」（3.3%）と「どちらかといえばそう思う」（32.5%）を合わせた【そう思う】は35.8%となり、「どちらかといえばそう思わない」（15.4%）と「そう思わない」（6.0%）を合わせた【そう思わない】（21.4%）を14.4ポイント上回っている。

（イ）前回調査と比較してみると、【そう思う】はわずかに増加し、平成21年の本設問開始以降令和4年の36.8%に次いで高い割合となった。

図11-9-1-① 経年比較／区政への区民意見の反映度

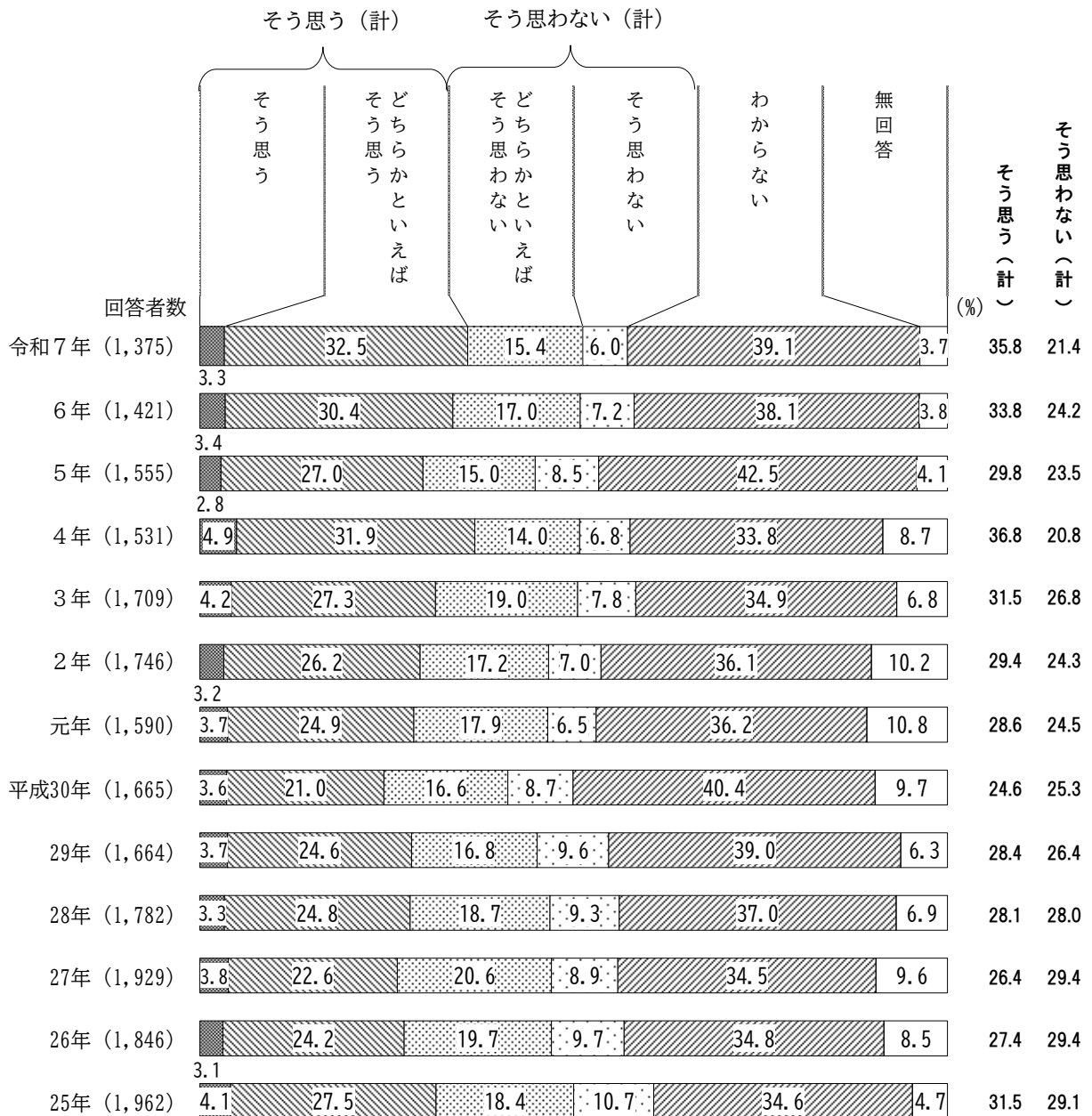
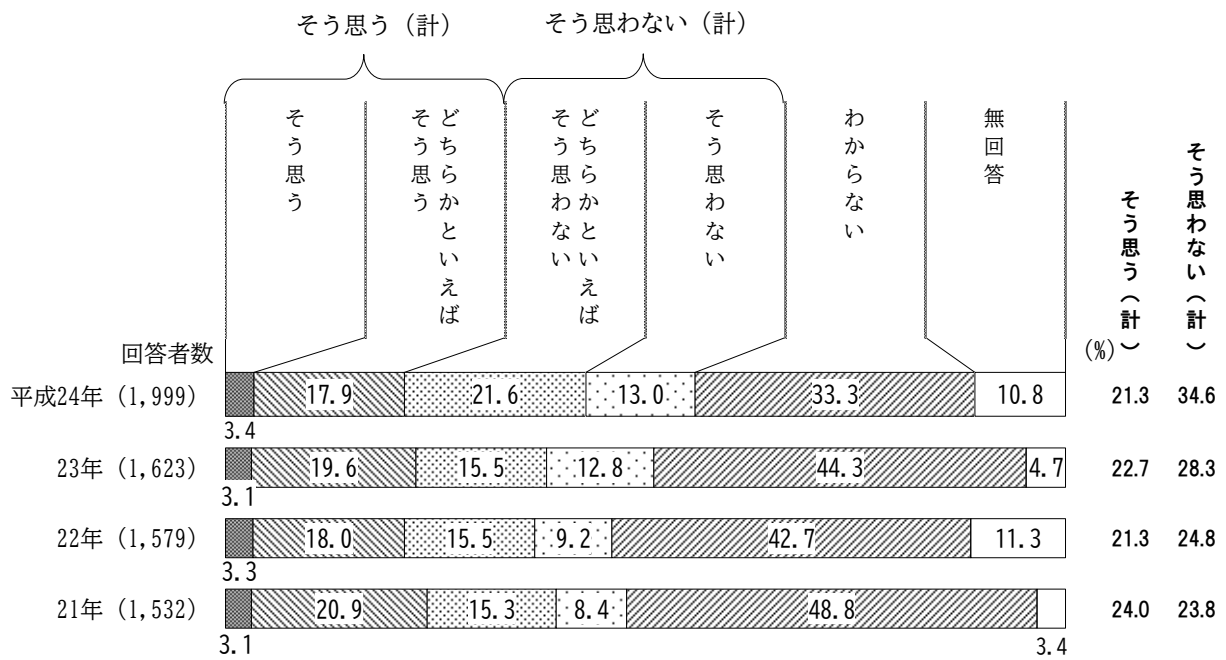


図11-9-1-② 経年比較／区政への区民意見の反映度

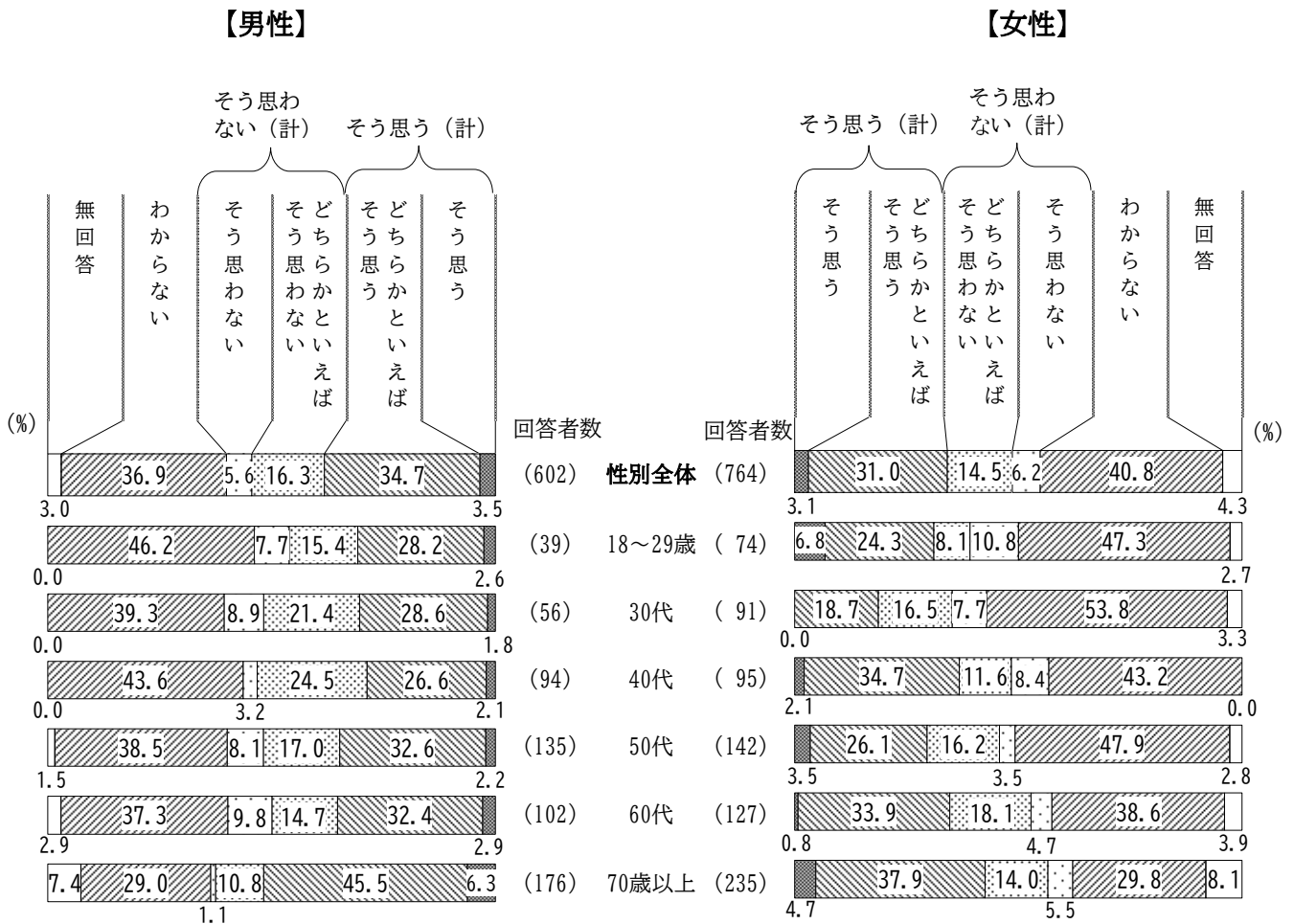


イ クロス集計・性別、性・年代別／区政への区民意見の反映度

(ア) 性別でみると、【そう思う】は男性（38.2%）の方が女性（34.2%）より4.0ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【そう思う】は、男性の70歳以上で51.7%と最も高く、次いで女性の70歳以上が42.6%となっている。一方、【そう思わない】は男性の30代が30.4%と最も高く、次いで男性の40代が27.7%となっている。

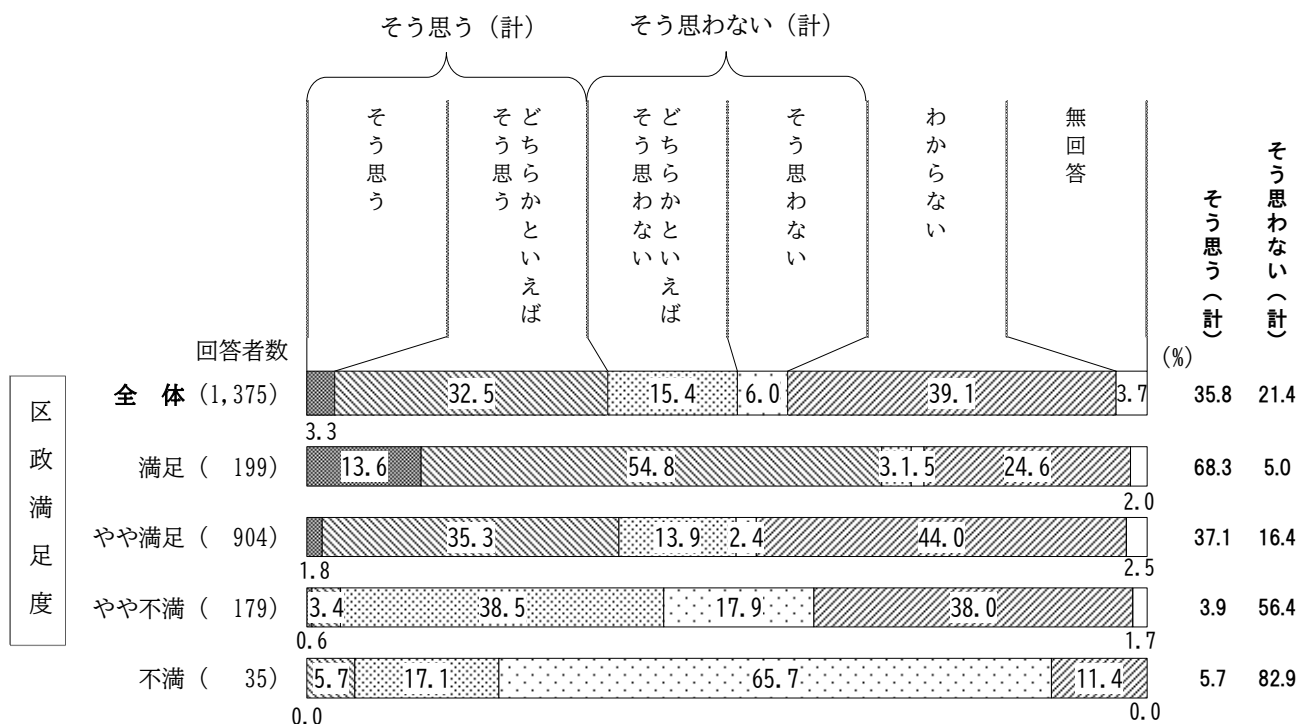
図11-9-2 性別、性・年代別／区政への区民意見の反映度



ウ クロス集計・区政満足度別／区政への区民意見の反映度

区民意見が区政に反映されているかについて、区政満足度別でみると、【そう思う】は、区政への満足度が増すほど割合が高くなり、区政に満足している層で7割弱と高くなっている。

図11-9-3 区政満足度別／区政への区民意見の反映度



(10) 区政についてのご意見、ご要望

問51 区政についてのご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

区政への意見、要望を自由に記述していただいたところ、460名から延べ538件のご意見やご要望をいただいたので、その一部を抜粋して掲載する。

■ 道路や交通網の整備、交通安全対策（73件）

- 車道を走らなければならない自転車について。自転車が車道を走るのは、自転車側も車側も大変危険です。足立区では車道の自転車、車の走行区分が曖昧です。荒川区は色で区分され、高齢者でも足立区よりずっと走りやすいです。ご検討お願いします。自転車、車の走行区分の割合も荒川区と比較してください。
- これからもますます、未来に希望の持てる区づくりに尽力して欲しい。自転車専用道路を作るなど、人・自転車・車が安全に通行できる街づくりを進めて欲しい。
- 街路樹が植えてある所にたくさん植木鉢を置いたり、植樹している方がいるので、通行の邪魔になっています。そのような案件に対して、広報か何かで告知するなど、対策を発信していただきたい。
- 自転車のルールが変わりましたが、ルールを知らない方もいると思います。罰するだけでなく、正しい知識の告知が必要だと思います（高齢者、車の免許を持っていない方でもわかるように）。
- 道路について、車と自転車の共有部分はあまりにも危険過ぎる。ましてや電動キックボードのような乗り物も共有道路を使用。車を運転する人はあまりにも負担が多過ぎる。
- 日暮里舎人ライナーの混雑が朝・夕の時間帯酷いので、改善をお願いしたい。
- 舎人ライナーの混雑をどうにかして欲しいと思います。あまりにも混みすぎてベビーカーなどでの乗り入れが難しい時があります。
- 足立区も新しい道路を造って利便性はあるが信号の設置の遅れが目にあふ。又、小中学生の通学路に喫煙所区承認の灰皿があるのが嫌です。足立区は古い街で道路が狭く、危険な箇所が多い。道路の拡張、歩道の整備、自転車道の整備を行ってほしい。買い物困難者の救済のためにも公共のバス（はるかぜ）路線の拡大。

■ 区政全般（69件）

- 足立区は特に低所得者や保育サービスばかり優遇されているように思います。自分は当てはまらないかもしれませんが、50代、60代の今の時代を頑張っている私達にも何かして頂けたら、もっとみんなが足立区を好きになると思います。
- 行政と区民の距離間が大切だと思います。様々な取り組みを実施していただき、それを発信し、効果をチェックしながら、より良い町づくりを進めてください。20～30年前よりも著しく良くなっていると思います。
- 子供や高齢者向けの対策ばかりで、プレッシャー世代が何の恩恵も受けないことに不満です。税金ばかりがつつり取られてるし。
- それなりに生活しやすい仕組みは整っていると思いますが、何かもう一つ魅力的な事はない。全てが平均点ラインで満足なのか。例えば、公園・緑地は多いけれど、楽しく、もう一度行こうと思うのは、隣り近所区の公園です。足立区さんセンスアップを頑張ってください。
- どんなプロジェクトでも人件費や手数料はしっかり管理して欲しい。ケチれば良いというわけでも、ガバガバでも良くないので。本来、やりたい事にしっかりお金が使えるように、見張りや比較、洗い直しをお願いしたい。特に何がというわけではないが、ムダはもったいない。
- 犯罪情報、危険な流行病の罹患地域の情報などもっと詳しい発信を希望。区の財源と用途の報告

第3章 調査結果の分析〈区取り組み〉

などをもっと細かく具体的な発信を希望。悪路が多過ぎて高齢者・障害者以外でも難があり、道路の整備を熱烈に希望する。農業の推進・支援。遊興場、駅前・周辺の飲み屋の減少を希望。

■ ビューティフル・ウィンドウズ運動や防犯パトロールなど治安対策（29件）

- 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」は今回初めて知ったので、これからも是非活動を続けて頂いて、安心・安全な足立区にして欲しいと願っています。
- 六町駅付近は居酒屋や夜遅くまでの飲食店が増え、夜中でも大声で騒ぎながら歩いている若い人や、酔って吐いたもの、食べ歩きのごみなど、週末は特に目にします。痰やツバを家の前に飛ばされるのも（マナーの問題ですが）嫌な気分です。この様な行為もビューティフル・ウィンドウズの目的として取り締まって欲しい。
- 安心して暮らせる街か、と言われると正直そうではないと感じています。犯罪や交通事故を完全になくすことは出来ないかもしれませんが、監視カメラの設置を増やしたり交通量が多い場所には信号を増やしたり、道路の幅を整備したりと犯罪や事故を少なくする努力が必要なのかなと思います。
- 街灯をもっと明るいものにかえてほしい。

■ 多文化共生（27件）

- 10数年の間、外国人が増えた。竹の塚は中国の店が多くなり、異様な感じがする。又マナーが悪く、驚くことも多い。ごみの分別なども守って欲しい。資源ごみの持ち去りが当たり前になり、高齢者や外国人が普通に持って帰るが、何とかならないのかと思う。
- 最近外国人が増加し、竹ノ塚を夜歩くとほぼ外国人である。ごみの出し方や交通ルールなど、日本の慣習を遵守するように支援して欲しい。今後、治安が悪くならないか不安だ。特に反日の感情を持つ外国人など。
- ゴミ出しのルールを知らない外国人にレクチャーする場を設けてほしい。
- 最近、外国人特に中国人の方が多く見られますが、やはりマナーの悪いのが身近に感じ、特に銭湯のマナー、ごみの捨て方。外国の人もビューティフル・ウィンドウズに参加できるように取り組みしてください。
- 区内には多くの外国人の方が居住・就労されています。足立区が多文化共生社会の実現に向けて、外国にルーツを持つ人の民族性を育む教育にも力を入れてほしいと思います。

■ 高齢者の生活や介護などの支援（24件）

- シルバーパスの所得制限について、荒川区は所得制限がない。足立区も可能であるなら制限をなくしてもいいのではないかと。ゆーゆー湯入浴証は日曜も利用できるようにした方が、高齢者の交流も増えるのではないかと。
- 高齢者が多くなっていますが、バス等の活用がうまくいってないと思います。
- 高齢者がますます増えてくると思われるので、この問題に対して、介護事業者に対して足立区では廃業が出ないよう支援して頂けたらと思います。施設など増えればと思うし、働く方の向上につながるよう、何か良い方向に行けばと思います。足立区が良い街に変わってきているのも区役所、区長様のお蔭です。これからもよろしくお願いします。ありがとうございました。
- 高齢者支援について、一番助かっているのは「シルバーパス」です。区施設の使用無料化（スポーツセンターなど）は、なかなか思うようには使えないと聞きます。お風呂券も近くにないのでせっかくの制度が利用できません。
- シルバーによくわかる様にアルファベットの標語をなくして欲しい。何でもかんでも英語の頭文字で混乱してしまう。文字を読むのも面倒になってきているのに、日本語でないと理解出来ない。

■ 広報やホームページなどによる区政情報の提供（24件）

- HPが見にくいので改善して欲しい。両親が高齢なので、HPで見やすい特集ページがあると助かります。日頃仕事しかしておらず、区政や取り組みなど、注視していなかったもので、このアンケートで知ることが出来ました。
- 足立区のホームページのリンクや言葉などがわからなかったり、繋がりにくかったりするので、もっと簡潔にして欲しい。
- いつも区民のためにありがとうございます。私自身、区のホームページをよく拝見しますが、他自治体のホームページに比べるとTOPページの情報量が少なく、検索を使ってもなかなか調べたいものにたどり着かないことがあるので、そこを改善していただけると嬉しいです。
- 区政の取り組みについて、もっと目に見える形で教えて頂けるともっと興味が持てます。ポスター等であれば、特別区報を開くこともなく、とてもわかりやすいと思います。面倒臭がりです。申し訳ありません。

■ 文化・芸術・図書館・スポーツ活動支援など生涯学習振興（23件）

- 公園が多く、子供の頃はとても楽しかった。もっとスポーツや体を動かしたいので、野外にバスケットゴールやスケボーが出来る無料の場所が出来ると大人も子供もメタボ対策にも、将来的にも良いと思う。バスケしたくても出来ない、スケボーしたくても出来ない子が周りに沢山いる。あと、バッティングセンターやコートなども欲しい。高速下とかに作ってくれたら、日陰だし、雨も関係なくてすばらしいのに。バスケットゴールやスケボーのランプなど、本当にすぐできるからお願いします。
- 自習できる図書館を増やして欲しい。現在ある図書館で自習ができるようになってありがたい。駅前など人目の多い場所にある図書館が少なく、街灯も少ないので夜間利用する時は怖い。
- 花火大会が2回も中止になっていて、色々な事情があるとは思いますが、時期をずらすとか、予備日を確保するとかして、どうにか開催して欲しいです。足立区民が誇りに思う一番のイベントです。
- 区が行っている講習会(語学を学ぼう、プログラミングを学ぼう など)をもっと充実させてほしいです。フルタイムで働いている一般の社会人でも参加しやすく、また仕事に活かせるような講習(AIなどのIT知識、外国語など)を行っていただけたらいいなと思います。
- 区民が安価で利用できる展示ロビーを北千住駅近辺に作って欲しい。写真クラブの作品展示や絵画などの美術作品展示など区の表玄関の北千住駅に欲しいです。丸井の上の展示場は使用料が高くて使えません。昔西新井のギャラクシティーに有ったが今は無いようです。50年以上足立区に住んでいますが、文化面の施設が乏しいですね。大学誘致の次は文化施設の拡大をお願いします。

■ 保育サービスや子育て相談の充実など子育て支援（18件）

- 学童が足りていないので増やして欲しいです。
- 子どもへの支援が充実していて助かっています。今後ともよろしくお願いします。
- 子育てにおいて、制度に所得制限をもうけるのはやめていただきたい。
- 足立区は23区内でも特に子育て世代が多いと感じます。子供を育てやすい環境にして行って欲しいですし、せっかくいろんな補助があり、子供がいる家庭は助かっていると思いますから、もっと補助や助成金に関してPRすべきだと思います。

■ 美しい街並みや景観づくりなど都市開発（18件）

- 駅前（六町駅）の開発を早く進めて欲しい。他の駅の開発と比較して遅れが生じていると思う。
- 北綾瀬駅前開発とても良かった（環七北側、南側共に）。改札口の増設、バスの乗り入れ、商業施設等。ただ駐輪場が少な過ぎて、定期利用、一時利用難民がいるため、改善して欲しい。
- 北千住駅東口を迅速に開発して欲しい。大学生が多くなり、駅に行く時に電車から降りて来る人が多数で通れなく、困っています。東口の通りを広くして欲しいです。いずれ、事故が起こりそうです。
- マンションの木々が敷地からはみ出し、歩道の半分を塞いでしまって、歩行者の妨げになっている箇所をよく見かけます。危険なので伐採を促して欲しいです。
- 街中に花がいっぱいあり、防犯も減っているときいた。街中にもゴミも少なく、自分たちの周りは割とキレイな町内になっている。少しずつですが、心掛けと活動で環境を整え、犯罪のない・キレイな街づくりを目指しています。

■ マナーの向上（18件）

- 歩きスマホを罰則化して欲しいです。
- 犬の糞、猫の庭園への糞、私道等の庭木のはみ出し、困っています。区の広報で注意を呼び掛けて欲しい。
- 一時期、歩行禁煙防止運動をしている方をよく見かけたのですが、最近見かけず、時々、喫煙している人と遭遇すると、煙や臭いが本当にイヤで、強化して欲しいです。家の前にもよくポイ捨てしてあります。
- 店内分煙を義務づけて以来、路上を喫煙所になっている飲食店が増えていると感じます。店に対し自己責任の対応を指導していただきたい。また、路上喫煙もよく見かけますので、禁煙パトロールの強化をお願いします。

■ 教育内容の充実など学校教育対策（17件）

- 子どもへの教育について、いじめは人生を狂わせます。是非なくす工夫をしてほしい、特に学校に。
- 学校の先生が不足していると思います。先生の働き方等を見直して、先生が増えたら良いと思います。
- 学校や子供の通う所に夏など持って行く水筒に、冷えた水を提供してくれる場所を学校内に作って欲しい。小さい水筒は暑い夏などは帰りまでに中身がなくなってしまうので、孫達のためをお願いします。
- 区として共通の教育方針や基準を持ち、校長が変わっても大きく揺るがない仕組みを整えて欲しいと思います。
- 子どもの勉強の落ちこぼれがなくなるように一学級の人数を減らし、先生達の目を行き届くようにしていただきたい。

■ 本調査（足立区政に関する世論調査）について（17件）

- 意見、要望ではないのですが、このアンケートを答える上で、初めて知る取り組みや防災についてなど考えさせられることが多く、はじめは正直、面倒かなと思ってしまいましたが、結果、良い機会となりました。自分でも出来る事から始めていこうと思います。
- 今まであまり区政などについて正直特に関心がなかったのですが、今後、広報やホームページなどで情報を見て、もう少し関心を持っていこうと思いました。

- お米プレゼントの企画は大変嬉しいです。夢があります。私も頑張りたいです。今後もよろしくお願いします。
- アンケートに回答していてこんなものがあるんだと知ることもありました。ありがとうございます。足立区がより良い街になりますように。
- このようなアンケートはたくさんの人の声が届くので、非常に意義があると思います。個人的には区外から来られる方がアンケートを受けた方がいいと思います。

■ 防災対策（16件）

- 「防災対策の強化願い」足立区は荒川、隅田川、綾瀬川など川が多くあります。台風などによる水害がいつ発生するのかとても心配です。なので、生活の基盤である災害時の避難所やインフラ（ライフライン）の強化対策を引き続きお願い申し上げます。
- 2019年の台風の時、避難所の情報が遅すぎて暴風雨になってはじめて案内がでる始末。近くの小学校に避難しようと考えて赴いたが、「まだ避難所に決まったわけではない」と門前払い、避難する希望はあったがとうとう避難不可能だった。荒川氾濫で洪水が起こったら命はなかったと思う。避難所の情報は早く連絡いただきたい。
- 自然災害が多いので、今も防災アプリやA-F e s t aなどで防災を学ぶことができ良いですが、避難場所の開放・体験など実際事前に確認ができれば更に助かります。又、道路整備も老朽化が増えているので確認してもらえると安心できます。
- 避難場所等、区のホームページで探しても見つけることができないので困っている、雨が降る度に不安です。
- 新田2丁目に住んでいますが、町内に拡声される放送が聞き取れず、災害時不安です。聞こえるように配備をお願いします。

■ 公園や緑地などの整備（14件）

- 神領堀親水緑道に手すりがあれば良い、踏み外してしまうと尖った石がある。まちなかに座る所が欲しい。
- 秋の紅葉を楽しみにしているのに、並木や公園のイチョウの木等の枝を夏の間にも不格好に切り落とすのは絶対に止めてもらいたい。美しい街並みにはなりません。
- 公園が少ないと感じているので子どもを連れて行ける安全、広め、緑多めの公園アスレチックが増えたら嬉しいです（千住河原町付近）。
- 公園はたくさんあり、それぞれ特徴もあって、木や草花の手入れが行き届いている。これからもきれいな公園・緑地整備を続けて欲しいです。
- 舎人公園をもっと素敵な公園にして欲しいです。民間のカフェとか欲しいです。区外からも人がたくさん集まり盛り上がると思います。

■ 省エネルギーやリサイクルなど資源環境対策（12件）

- 廃棄物処理業者が悪臭を出すので何とかして欲しい。土手やテニスコートの公園まで臭ってくる。
- 資源ごみ（アルミ缶）を出すと、すぐ老人が持ち去ってしまいます。足立区の資源なのに、どうか対策を考えて頂けないでしょうか。
- 資源ごみを週1回・土曜日に出していますが、持ち去りが多く、地域の公園等にゴミステーションを作って欲しいです。回収は業者の方をお願いをして、いつでも出せる様にして欲しいです。
- 燃えるゴミの日が1日プラスチックの日が変わったので、燃えるゴミの日を1日増やして欲しい。

■ 職員の接客態度（10件）

- 以前、ホームページから質問をさせていただいた時、丁寧にお電話を頂き、諦めていた内容も改善して頂きました。母と二人の生活ですが、社会と繋がっている感じがして、とても心強かったです。
- 直接関係ないかもしれませんが、以前住んでいた都内の別の区に比べて窓口の対応が総じてとてもいいのに驚いた。ワガママで話のわからない区民も多い中徹底されるのは素晴らしいことと同時に頭が下がります。大変ですが今後もその姿勢でお願いしたいです。
- 行政の対応に少し難があるのでもう少し改善していただけないか。区役所に関しては初回の窓口で理不尽な対応があれば、申し立てればちゃんとご対応いただけるちゃんとした方を案内していただけるのですが、最初からその必要が無いように職員の皆様全員が丁寧に聞く姿勢が大事だと思うのです。
- 保育園の件で何回かお伺いしましたが、毎回、区役所職員の態度が悪かったり知識がなかったりで悶々とします。わからないから足を運んで対面で相談したいのに頼りにならない。

■ 区のイメージ（9件）

- 足立区は住んでいてとても良いところなのに、他区都民から下に見られるところが悔しい。自分は足立区の良さを個人的に周囲には伝えるようにしている。悪いイメージの払拭をして欲しい。
- 区長をはじめ区の職員の方々の努力を感じます。足立区のイメージがアップするような環境整備に更に取り組んでいただきたい。
- 北千住などの繁華街があったり、綾瀬等地名とセットで扱われる凄惨な事件があったりするネガティブな印象とは切り離せない部分はあるかなと思います。一方、日本有数のターミナル駅である北千住を擁していたり、再開発でマンションが建ったりして人が流入したことによって治安がよくなったなどのポジティブな面もあると思いますので、上手く発信できると良さそうですね。西新井駅前の開発など、期待は大きいと思います。

■ 低所得者の生活援助や就労支援（8件）

- 低所得者の夏のエアコンを使うための電気代をもっと何とかして欲しい。
- 低所得者への住宅、又は近くに少しでも働く所があれば良い。

■ 商工業や起業支援など産業振興（8件）

- 足立区といって、これといった産業が思い浮かばない。企業誘致の必要はないが、起業支援は必要。
- 事業者向けの補助金や助成金の制度を利用しようとしても、書類や手続きなどが多過ぎて諦めてしまう（省エネ対策など）。相談窓口だけではなく、手続きの代行などもして欲しい（忙しくて手が回らないから）。
- ショッピングモールが欲しい。

■ 障がい者の生活や介護などの支援（6件）

- 難病の主人がいるのですが、悩みの改善など、詳しく教えてくれる部署があると嬉しいです。
- 昔に比べたら治安も良くなり、住みやすくなったとは思いますが、ただ、他の区に比べて支援等が少なく、本当に支援を必要としている人が支援されていないと感じます。障がいのある方から支援が少なく困っていると実際に話を聞く。

■ 健康づくりやがん検診など保健衛生対策（5件）

- 足立区は子供が小さい頃からベジファーストなどの食の教育を積極的にしていたり、むし歯ゼロの活動だったり、知らず知らずに植え付けられて習慣化になっていると思います。
- フレイル予防のひとつ、一人で散歩や体操はつまらない。近くのセンター等で要支援者でも外出が出来る様に体操など、週一回でも行いたいです。若い方達や高齢の方達が交わる場があるのはどうでしょうか。これからも住み良い足立区でありますように。

■ 空き家利活用、公共住宅の再生など住環境対策（5件）

- 区に愛着のある人々が流出することが無いよう、区営のアパート・団地を増やす事が出来るのであれば、それを望みます。
- 錆びた古い住宅があり、地震などで壊れそうで怖い。改築を進められるよう支援をお願いしたい。

■ 町会・自治会など地域活動支援（2件）

- 自治会・町会へもう少し若い世代（50代後半から70歳位）の人が参加できるような仕組みづくりや声掛け等をして頂いて、自治活動がもう少し活発になる方法を考えて頂きたい。
- 町会役員のみとは別に地域住民との対話等、行政職員と区民の繋がりが重要です。

■ 感謝・激励（43件）

- 今の区長になってから事業の名前はわかりませんが、色々と良い方向に変わってきている事は実感しています。更に足立区の評価が上がるようお願い致します。又、私の地元の舎人公園ですが、更に話題性が上がり、人気となるよう希望します。ネモフィラも良い企画ですが、来て見たら貧弱だったとの意見が多く、更に大々的に企画を広げていってもらいたいと考えます。
- 正直なところ2年に満たない住んでからの期間と足が不自由になってからという事もあり、たまに娘とあちこち区内をめぐる足立区の様々の良さを感じて、もっと早く長く住めたら楽しめたのと思います。
- 区外から転居して参りましたが、聞いていた話よりずっと住み心地が良く毎日快適に過ごせており、行政の皆様には感謝申し上げます。
- 住んで1年も経っていないので、他の区と比べた時に生活で感じたものをベースに回答しました。継続して頑張られているのだらうと思いますが、引き続き頑張ってください。

■ その他（43件）

- ICTを進めるが、高齢者に優しくない。80歳過ぎて、働いて、納税しているが、特に何も区からしてもらえない。低所得者ばかりに援助（補助金）を出すのではなく、若い方に働く意欲を持たせて欲しい。
- 区民農園を今年からやっているのですが、とても楽しいですし、地域の方との交流も出来て楽しいです。子供がジョウロで水やりをしたり、採れたての野菜を食べてくれるので、やって良かったなと思いました。値段も安く、良い事づくしなのでもっと広めて欲しいです。夏の畑仕事は大変だけれど、スーパーでは野菜が高いので需要があるのではないのでしょうか。
- 私はフリーマーケットを都市農業公園などで出店させて頂いています。今の時代、物価が高くなっていますので、公園（区内）や住区センターなどで、どんどんフリーマーケットを行っても良いのと思っています。又、開催する時は情報をわかりやすくして欲しいです。
- 休憩のための公設ベンチ、ごみ箱、夏の猛暑を避ける日よけが街中にほとんどないことに困っている。駅ロータリーなどの人通りが多い場所はもちろん、一般の道路脇にベンチ、信号付

第3章 調査結果の分析〈区取り組み〉

近に日よけ、公共性の高い建物の内外などにゴミ箱を多数設置してほしい。これらが無いと暮らしにくさを感じているし、気軽に街に出歩きにくくなり、社会・経済活動を抑制する遠因になると思う。

- 区役所庁舎内の携帯の電波が悪い（docomo）。マイナポータルなどを利用するのに繋がらないので、Wi-Fiを設置して欲しい
- 中学校でPTAをやっていることで、知り合いの足立区議会議員さんもいるので色々と相談にのってもらえるが、区民みんながみんな思いがあっても、言うことができない環境はあると思う。
- 保護猫や犬の譲渡施設が近場にあったらいいです。小さな命を子どもでも協力しやすい環境や情報、求人があればと思います

(11) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度

問52 多数の質問にお答えいただき、ありがとうございました。最後におうかがいします。今回の質問内容は、区民のニーズや意識を把握するうえで有効な内容だと思いますか
(○は1つだけ)。

■本調査を【有効な内容だと思う】は7割台半ば、【そう思わない】は1割

ア 単純集計・経年比較／本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度

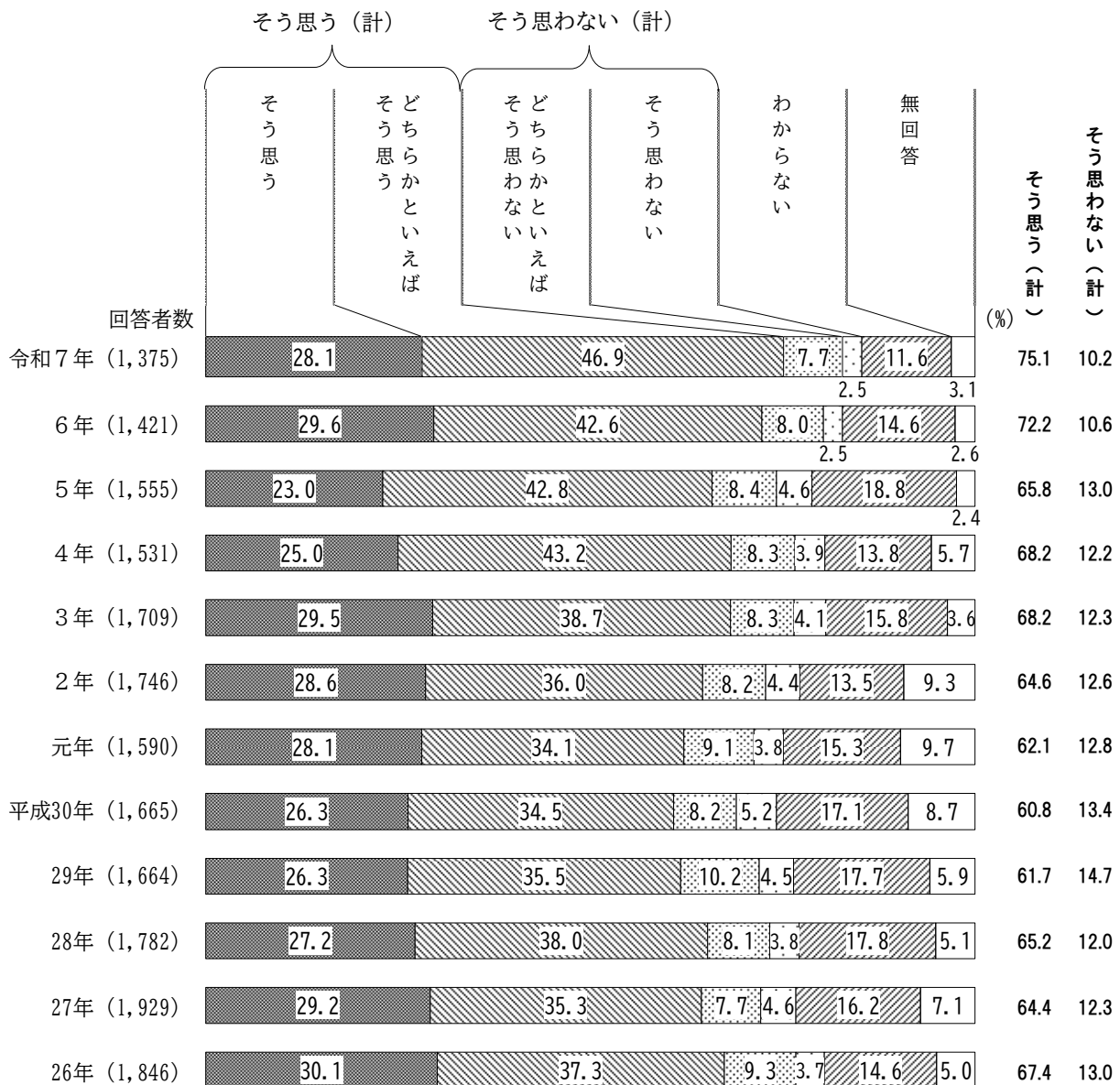
(ア) 本調査の質問内容が、区民ニーズや意識を把握するうえで有効かを聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」が46.9%で最も高く、次いで、「そう思う」が28.1%となっている。

これらを合わせた【そう思う】は7割台半ばとなっている。

(イ) 「どちらかといえばそう思わない」(7.7%)と「そう思わない」(2.5%)を合わせた【そう思わない】は1割となっている。

(ウ) 前回調査と比較してみると、【そう思う】が2.9ポイント増加し、前回調査の最高値を更に更新した。

図11-11-1 経年比較／本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度



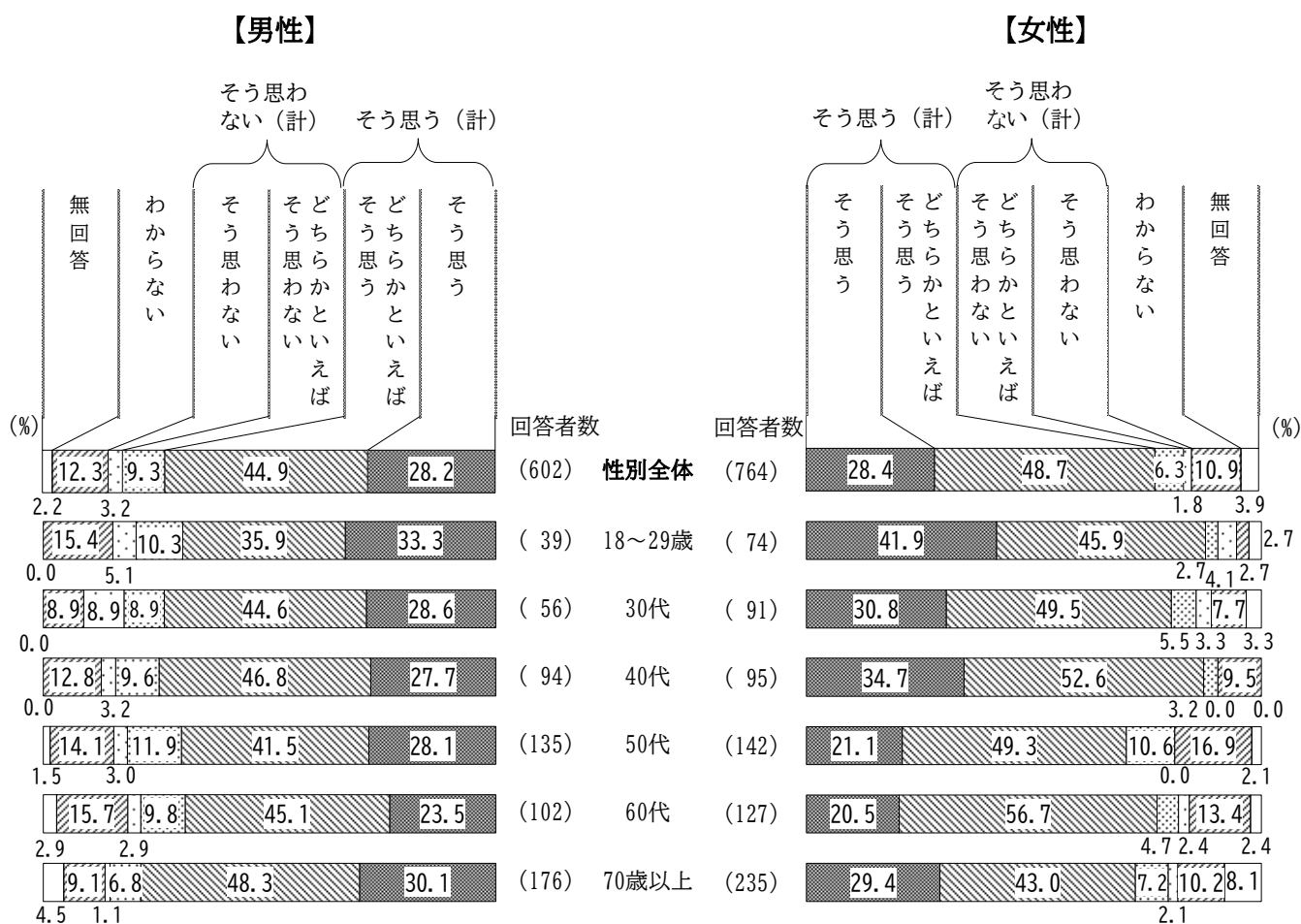
第3章 調査結果の分析〈区取り組み〉

イ クロス集計・性別、性・年代別／本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度

(ア) 性別でみると、【そう思う】は、女性（77.1%）の方が男性（73.1%）より4.0ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【そう思う】は、女性の18～29歳（87.8%）と40代（87.4%）で8割台後半と高くなっている。一方、【そう思わない】は、男性の30代で17.9%と最も高くなっている。

図11-11-2 性別、性・年代別／本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度



第4章 使用した調査票

令和7年度（第54回）足立区政に関する世論調査

ご回答にあたってのお願い

- 1 調査の回答は、あて名のご本人がご記入くださるようお願いいたします。
- 2 ご本人がひとりで回答することが難しい場合は、ご家族など、身近な方に代理で回答していただいても構いません。その場合は、ご本人の意思を確認しながら、ご回答ください。
- 3 ご不明な点がございましたら、下記【お問合せ先】までお問い合わせください。

【調査主体】 足立区 政策経営部 区政情報課 区政情報係
足立区中央本町1-17-1

【お問合せ先】 お問い合わせコール あだち
03-3880-0039

（受付時間：午前8時～午後8時／1月1日から3日を除く毎日）

【調査受託機関】 株式会社 サーベイ リサーチ センター



この調査は、《インターネットによる回答》と《郵送による回答》の2通りの回答ができます。
どちらかの方法により令和7年9月5日（金）までにご回答ください。

1 インターネットによる回答

① 調査回答サイトにアクセスする

下記のURL又は右記のQRコードにより、調査回答サイトにアクセスします。

<https://en.surece.co.jp/2025adachi>



※ URLはブラウザのアドレスバーに入力してください（詳しくは裏面へ）。

② ログイン・回答する

調査回答サイトのログイン画面で、下記の回答用「ID」と「パスワード」を入力し、回答を開始してください。

あなたの回答用

「ID」・「パスワード」

ID : ●●●●●●●●
パスワード : ●●●●●●●●

ID、パスワードをご入力ください。

ID:

パスワード:

回答に関するご注意

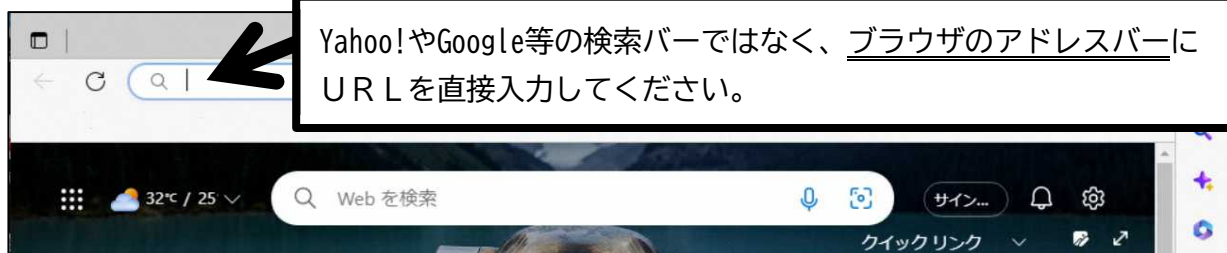
- 回答は途中保存が可能です。中断される場合はそのまま画面を閉じてください。最後に「次へ」ボタンを押したページまでの回答が保存されています。再開する場合は回答用ページへ再度アクセスし、ログインしてください。
- 前の設問に戻るには各ページに設置されている「戻る」ボタンを押してください（※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください）。
- 60分以内に「戻る」ボタン又は「次へ」ボタンを最低1回は押すようにしてください（※時間内にボタンを押さないと、自動的にログアウトされます）。
- JavaScriptおよびCookieを有効にしてください。
- 回答は1回限りです。回答を送信されるとその後の修正はできませんのでご注意ください。

調査回答サイトへのアクセス方法（QRコードが読み込めない場合）

● パソコンからURLを入力し、調査回答サイトへアクセスする方法

ブラウザのアドレスバーに下記URLを直接入力し、調査回答サイトへアクセスしてください。キーワード検索では調査回答サイトにアクセスできません。

<https://en.surece.co.jp/2025adachi>



● 足立区ホームページのリンクから調査回答サイトへアクセスする方法

足立区ホームページの「令和7年度（第54回）足立区政に関する世論調査にご協力を」（<https://www.city.adachi.tokyo.jp/kuse/54yoron.html>）のページにあるリンク（「調査回答サイトはこちら」の文字をクリック）から調査回答サイトへアクセスしてください。

2 郵送による回答

- ① 調査票にご記入の際は、黒のボールペンまたは鉛筆をお願いします。
- ② お答えは、あてはまる番号に○印をつけてください。
- ③ 質問によっては、回答していただく方や○をつける数を指定しておりますので、（ ）内のことわり書きをよくお読みください。
- ④ 「その他」にあてはまる場合は、（ ）内にできるだけ具体的にその内容をご記入ください。
- ⑤ 調査票と返信用封筒には、ご住所・お名前をご記入いただく必要はありませんので、記入なさらないようお願いします。

ご記入が終わりましたら

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒にて、ご投函ください（切手を貼る必要はありません）。

お聞かせいただいたご意見は、すべて個人が特定できないよう統計的に処理します。お名前や個別のご意見の内容などがそのまま公表されることは決してありませんので、ぜひとも率直なご意見をお聞かせください。

※ 調査票内の集計母数について

特にサンプル数表記のない設問は、全数ベース（回答者数1,375）で集計しており、母数の記載を割愛した。一部の該当設問については、設問ごとに回答者数を表記した。

これからお聞きすることは、お答えいただく内容を統計的に分類するための質問です

F 1 あなたの性別は、次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

1 男 性	43.8%	3 どちらでもない	-
2 女 性	55.6	4 答えたくない	0.7

F 2 あなたは、何歳ですか（○は1つだけ）。

1 20歳未満	1.0%	6 40～44歳	5.9	10 60～64歳	9.1
2 20～24歳	2.8	7 45～49歳	8.1	11 65～69歳	7.6
3 25～29歳	4.5	8 50～54歳	10.0	12 70～79歳	16.9
4 30～34歳	5.7	9 55～59歳	10.4	13 80歳以上	13.0
5 35～39歳	5.0				

F 3 あなたは、足立区に住んで何年になりますか（○は1つだけ）。

1 1年未満	2.0%	3 3～5年未満	4.6	5 10～20年未満	14.8
2 1～3年未満	4.0	4 5～10年未満	8.7	6 20年以上	65.4
				無回答	0.4

F 4 あなたのお住まい（住居）は、次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

1 一戸建て持家	43.6%	6 社宅・公務員住宅・寮	0.7
2 一戸建て借家	1.5	7 間借り・住み込み	0.2
3 分譲マンション	22.3	8 その他	0.9
4 賃貸マンション・アパート	20.4	無回答	0.4
5 都市再生機構（旧公団）・公社 ・都営住宅・区営住宅	10.0		

F 5 あなたの職業は、次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

1 自営業・事業主	7.9%	5 主に家事に従事（専業主婦など）	9.8
2 自由業 （開業医、弁護士、芸術家など）	0.7	6 学 生	2.2
3 会社員・公務員	37.2	7 無 職（年金生活を含む）	23.3
4 パート・アルバイト	15.9	8 その他	1.7
		無回答	1.1

第4章 使用した調査票

(F5で「1」～「4」または「6」か「8」とお答えの方に)

F5-1 あなたの就労場所(就学場所)は、次のどれにあたりますか(○は1つだけ)。

回答者数904

1 自宅	7.5%	4 23区以外の東京	2.9
2 足立区内	31.1	5 茨城、神奈川、埼玉、千葉	9.6
3 足立区外の東京22区	45.7	6 その他	2.1
		無回答	1.1

F6 現在、あなたと一緒に暮らしている方はどなたですか(○はあてはまるものすべて)。

1 ひとり暮らし	17.7%	4 祖父・祖母	1.0	7 兄弟・姉妹	7.1
2 配偶者	57.6	5 子ども	38.5	8 その他	3.8
3 父・母	14.1	6 孫	1.7	無回答	1.0

F7 あなたご自身は、次の1から12のどれにあたりますか(○は1つだけ)。

※「子ども」は同居・別居を問いません。

◎ 独身で子どもがいない	1	24.8%
◎ 離別・死別などにより配偶者はいないが子どもがいる		
一番上の子どもが小学校入学前	2	0.1
一番上の子どもが小学生	3	0.4
一番上の子どもが中学生	4	0.1
一番上の子どもが高校・大学生	5	0.4
一番上の子どもが学校卒業	6	10.9
◎ 配偶者がいて子どもがいない	7	11.9
◎ 配偶者がいて子どもがいる		
一番上の子どもが小学校入学前	8	4.4
一番上の子どもが小学生	9	3.6
一番上の子どもが中学生	10	2.0
一番上の子どもが高校・大学生	11	5.9
一番上の子どもが学校卒業	12	27.9
無回答		7.6

F 8 足立区では、「綾瀬」「北綾瀬」「花畑」「六町」「江北」「西新井・梅島」「竹の塚」「千住」のゾーン・エリアで新しいまちづくりを進めています。あなたのお住まいは、下段枠内の1～9の選択肢のうち、どの範囲に入っていますか（○は1つだけ）。

1	綾瀬ゾーン（綾瀬1～7、東和1・3、東綾瀬1～3）	7.0%
2	北綾瀬ゾーン（加平1～3、谷中1～4、大谷田4、東和5）	4.8
3	花畑エリア（花畑1～7、保木間4～5）	3.3
4	六町エリア（西加平1～2、一ツ家2～4、六町1～4、保塚町、 南花畑1～3、北加平町、神明南1）	6.1
5	江北エリア（江北1～7、椿1～2、堀之内1～2、西新井7、 西新井本町2、扇3）	4.8
6	西新井・梅島エリア （梅島1～3、梅田5～8、西新井栄町1～2、関原3、島根3、 栗原1・3）	9.2
7	竹の塚エリア（竹の塚1～7、西竹の塚1～2、六月1～3、栗原2・4、 西保木間1～4、伊興1～5、伊興本町1～2、東伊興1～4）	10.4
8	千住エリア（千住関屋町、千住曙町、千住東1～2、千住旭町、柳原1～2、 日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町1～3、 千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木1～2、 千住1～5、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町）	12.4
9	その他（お住まいの町丁が1～8のゾーン・エリア以外の場合）	42.1

※ 町丁名の後の数字は丁目を表しています。

お住まいの地域について、おうかがいします

問1 あなたは、お住まいの地域について、どのように感じていますか

(○はそれぞれ1つずつ)。

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	わから ない	無回答
ア 自転車利用者の交通ルール、 走行マナーが良いと感じる	5.5%	26.1	30.1	32.2	3.4	2.6
イ 快適で安全なまちである	11.4	52.2	20.7	10.4	2.6	2.6
ウ 景観・街並みが良好である	11.0	45.8	24.9	11.7	3.5	3.1
エ まちなかの花や緑が多い	17.6	45.2	22.1	10.5	1.8	2.8
オ ごみがなく地域がきれいになったと 感じる	14.4	44.4	22.8	12.5	3.9	2.0
カ 不法投棄が減少したと感じる	13.7	42.5	18.2	11.4	11.9	2.3
キ 落書きが減少したと感じる	24.1	49.0	7.9	2.8	14.0	2.0
ク 普段の買い物が便利である	42.8	36.6	10.1	8.1	0.4	2.0
ケ 通勤や通学などの交通の便が良い	34.8	37.6	12.1	10.5	2.0	3.0
コ よく行く、または行きたい公園がある	19.4	33.7	19.6	15.9	9.2	2.2
サ 地域の施設（建物や道路など）は、高 齢者や障がいのある方なども利用し やすいよう配慮されている	9.2	39.5	23.8	10.3	15.3	2.0
シ 子育て環境（保育所、学童クラブなど） が整っている	12.7	40.7	11.5	3.3	29.1	2.7
ス 文化芸術に親しめるまちである	5.0	22.1	31.2	17.8	21.3	2.5
セ 地域の人々が、日常生活で高齢者や 障がいのある方などに配慮している	5.2	36.0	23.6	10.5	22.9	1.9
ソ 男女が対等な立場で意思表示や活動 ができ、また責任も分かちあっている	4.8	30.8	19.0	7.0	35.6	2.8
タ 国籍、文化などが異なる人々がともに 暮らしやすいまちである	5.6	36.1	20.4	11.6	23.6	2.6
チ 「障がい者」「子ども」「女性」「イン ターネットによる人権侵害」につい て、偏見や差別がない	5.1	29.0	17.4	8.7	37.1	2.7
ツ 日常の中で人権が守られていると感じ る	9.1	44.5	13.9	6.3	24.1	2.1

問2 問1を踏まえてお聞きします。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じていますか（○は1つだけ）。

1 暮らしやすい	29.2%	3 どちらかといえば暮らしにくい	9.6
2 どちらかといえば暮らしやすい	57.7	4 暮らしにくい	1.7
		無回答	1.8

（問2で「3 どちらかといえば暮らしにくい」または「4 暮らしにくい」とお答えの方に）

問2-1 特に暮らしにくいと感じることは何ですか（○は3つまで）。

回答者数155

1 住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと	47.7%
2 地域の人間関係が希薄なこと	21.3
3 治安が良くないこと	31.0
4 災害対策が不十分なこと	12.3
5 行政のサービスが良くないこと	14.8
6 自然が少ないこと	7.1
7 交通の便が悪いこと	45.2
8 買い物がしにくいこと	38.1
9 子育て環境が悪いこと	5.2
10 教育環境が整っていないこと	1.3
11 公共施設や介護・医療施設が不十分なこと	12.9
12 家の広さなどの居住環境が悪いこと	7.1
13 職場や学校から遠いこと	6.5
14 その他	8.4
無回答	1.3

問3 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか（○は1つだけ）。

1 ずっと住み続けたい	38.6%	3 区外に転出したい	5.1
2 当分は住み続けたい	45.7	4 わからない	9.5
		無回答	1.1

大震災などの災害に備えていることについて、おうかがいします

問4 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（○は1つだけ）。

1 災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している	28.0%
2 特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある	44.6
3 特に用意していない ⇒次ページの問5へお進みください	23.3
無回答	4.1

（問4で「1 災害に備えて～」または「2 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に）

問4-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください

（○はあてはまるものすべて）。回答者数998

1 水	92.4%	10 消火器	22.3
2 食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）	87.5	11 ペット対策用品（ケージ、エサなど）	12.2
3 簡易トイレ	58.5	12 水の確保用品（ポリタンク、水袋など）	30.2
4 あかり（ろうそく、懐中電灯など）	72.2	13 救助用工具（バール、ハンマーなど）	10.1
5 情報収集手段（携帯ラジオなど）	47.5	14 ヘルメット	19.2
6 医薬品（常備薬を含む）	47.9	15 救急セット	27.2
7 衣類	34.3	16 避難ロープ	5.3
8 生理用品	24.2	17 防災袋（非常用持出袋）	30.3
9 電池・予備バッテリー	56.2	18 その他	2.8
		無回答	0.8

（問4-1で「1 水」、「2 食料」または「3 簡易トイレ」とお答えの方に）

問4-1-1 あなたのご家庭では、「水」、「食料」、「簡易トイレ」の備蓄の量はどれくらいありますか。いずれかの備蓄がない場合は、その項目についての回答は不要です（○はそれぞれ1つずつ）。

※ 水は大人1人1日3リットル、簡易トイレは1人1日5回分で計算。水、食料は日常の買い置きなどを含みます。

ア 水 回答者数922／イ 食料 回答者数873／ウ 簡易トイレ 回答者数584

	1週間分以上	3日分以上 1週間分未満	1日以上 3日分未満	1日分程度	1日分未満	無回答
ア 水	17.7%	32.2	37.5	10.3	1.4	0.9
イ 食料	12.0	33.3	41.1	11.8	0.8	0.9
ウ 簡易トイレ	16.1	26.7	34.2	12.2	9.8	1.0

ここから再び、すべての方におうかがいします

問5 大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、以下のア～ウのあなたの地域の避難場所とその意味を知っていますか（○はそれぞれ1つずつ）。

		知っている	なんとなく見当がつく	知らない	無回答
ア いっときしゅうごうばしよ 一時集合場所	あなたの地域の場所	35.2%	36.1	25.0	3.7
	意 味	22.5	34.0	29.7	13.8
イ 避難場所	あなたの地域の場所	36.7	38.2	21.2	3.9
	意 味	25.7	34.6	26.3	13.5
ウ 第一次避難所	あなたの地域の場所	24.3	32.2	37.5	6.0
	意 味	17.3	29.8	38.0	14.8

問6 大規模な災害が発生し家屋の倒壊などにより自宅で生活できない場合、どこで生活しようと考えていますか（○は1つだけ）。

1 避難所	51.8%	4 車や公園など	7.1
2 別居している家族や親戚の家	24.1	5 その他	1.2
3 友人・知人などの家	2.2	6 考えていない	12.1
		無回答	1.5

洪水対策について、おうかがいします

足立区は低地で平らな土地であるため、台風などの大雨により河川がはん濫すると、最大で5mの浸水被害が起こる可能性があります。

問7 あなたは、足立区が発行（区のホームページにも掲載）している「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」を見たことがありますか（○は1つだけ）。

1 見て、自宅の浸水深を確認した	30.7%	3 見たが、内容までは覚えていない	39.3
2 見て、内容は確認した	21.2	4 存在を知らない	6.9
		無回答	1.9

問8 河川がはん濫する恐れがある場合、あなたはどこに避難しますか（○は1つだけ）。

1 自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）	53.5%
2 区内の親戚や知人の家	2.9
3 区外の親戚や知人の家	3.3
4 近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所	22.8
5 車や公共交通機関で浸水しない地域へ行く	3.3
6 近くにある高い建物	8.1
7 その他	0.2
8 決めていない	4.0
無回答	1.9

（問8で「8 決めていない」とお答えの方に）

問8-1 避難する場所を決めていない理由は何ですか（○は1つだけ）。

回答者数55

1 避難する場所がわからないから	30.9%
2 近くに避難できる場所がないから	16.4
3 自分や家族だけで避難することができないから	10.9
4 河川のはん濫は起こらないと思っているから	14.5
5 その他	23.6
無回答	3.6

区の情報発信のあり方について、すべての方におうかがいします

足立区では、あだち広報やホームページ、メール配信システム（A-メール）のほか、公式LINEやX、フェイスブックなど、様々な方法で区の情報を発信しています。

問9 あなたは、足立区に関する情報をどのような手段で入手していますか

（〇はあてはまるものすべて）。

1 あだち広報	71.7%	11 区民事務所などの窓口	6.3
2 トキメキ	35.9	12 町会・自治会の掲示板・回覧板	25.7
3 区のホームページ	24.4	13 新聞（区内紙、一般紙）	10.6
4 A-メール	15.9	14 テレビ、ラジオ	14.5
5 X（旧Twitter）	4.5	15 J:COM足立（ケーブルテレビ）	5.5
6 フェイスブック	0.7	16 人から聞く	12.7
7 Instagram	1.0	17 防災無線	11.9
8 足立区LINE公式アカウント	12.1	18 その他	0.9
9 ポスター、チラシ	13.0	19 特に入手していない	9.1
10 あだちはじめてガイド	1.8	無回答	1.6

問10 あなたは、必要なときに必要とする区の情報を得られていますか（〇は1つだけ）。

1 十分に得られている	5.2%	5 必要と思ったことがない	7.4
2 ある程度得られている	66.8	6 区の情報に関心がない	3.1
3 得られないことが多い	12.7	無回答	2.5
4 まったく得られない	2.4		

↓
問10-1へお進みください

※ 問10で、選択肢の「1」「2」「5」「6」のいずれかに〇のついた方は、

次ページの「健康について」にお進みください。

（問10で「3 得られないことが多い」または「4 まったく得られない」とお答えの方に）

問10-1 主にどのような理由からですか（〇は1つだけ）。

回答者数207

1 情報が探しにくい	28.0%	4 情報の内容がわかりにくい	12.1
2 情報の探し方がわからない	37.2	5 情報量が少ない	10.6
3 情報伝達が遅い	4.8	6 その他	4.3
		無回答	2.9

健康について、おうかがいします

足立区では、患者数が多く、重症になると生活の質が低下してしまう糖尿病対策に、重点的に取り組んでいます。

問11 あなたは、「あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～（※）」を知っていますか（○は1つだけ）。



※ 糖尿病予防や糖尿病の悪化防止のために「野菜から食べる」「野菜をよくかんで食べる」ことを推進する足立区のキャッチフレーズです。

1 内容まで知っている	11.9%
2 詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある	32.7
3 知らない（初めて聞いた）	53.0
無回答	2.4

問12 あなたは、食事の際、野菜から食べていますか（○は1つだけ）。

※ 糖尿病が進行して起こる様々な合併症は、食後に血糖値が急上昇し、血管を傷つけることが主な原因となります。このような血糖値の急上昇を抑えるためには、食事の最初に食物せんいを多く含む野菜類をよくかんで食べることが効果的です。

1 食べている	66.6%	3 わからない	7.1
2 食べていない	23.8	無回答	2.5

問13 1日の野菜摂取量の目標は350g以上（調理前の生の状態で）です。あなたは、毎日350g以上の野菜が摂取できていますか（○は1つだけ）。

※ 野菜350gとは、1例をあげると、レタス1枚、きゅうり1本、プチトマト2個、にんじん1/2本、たまねぎ1/2個の合計に相当する量です。

1 できている	11.3%	4 できていない	13.8
2 だいたいできている	32.4	5 わからない	4.0
3 あまりできていない	36.4	無回答	2.1

問14 あなたは普段、ご自分のことを健康だと感じていますか（○は1つだけ）。

1 非常に健康だと思う	6.1%	3 あまり健康ではない	25.8
2 健康な方だと思う	60.7	4 健康ではない	5.2
		無回答	2.2

問15 あなたの体調や習慣について、あてはまるものをお答えください

(○はあてはまるものすべて)。

1	疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまう ことが2週間以上続くことがある	23.3%
2	習慣的にタバコを吸っている	13.7
3	どちらもあてはまらない	61.8
	無回答	4.0

問16 医療が必要なときに、あなたがかかりたいと思う医療機関は身近にありますか

(○は1つだけ)。

1	ある	77.9%	2	ない	19.6	無回答	2.5

問17 あなた自身が健康維持のために実行している、または心がけているものをお答えください

(○はあてはまるものすべて)。

1	毎年健康診断を受けている	68.1%
2	がん検診を定期的に受けている	21.7
3	毎日朝ごはんを食べている	63.2
4	毎食、野菜料理（サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具だくさん味噌汁など） を食べるようにしている	39.0
5	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べている	40.7
6	食品の表示（栄養成分表示など）を見て購入している	19.4
7	日ごろ、健康のために適度な運動（スポーツを含む）をするか身体を動かしている	38.7
8	その他	2.6
9	特にない	4.8
	無回答	2.2

問18 あなたがこの一年間で受けたがん検診は以下のどれですか

(○はあてはまるものすべて)。

1	胃がん検診	19.1%	6	前立腺がん検診	3.4
2	肺がん検診	10.6	7	その他	2.9
3	大腸がん検診	22.4	8	がん検診は受けていない	47.0
4	子宮頸がん検診	15.6	9	わからない	2.9
5	乳がん検診	14.8		無回答	5.5

第4章 使用した調査票

問19 あなたは、かかりつけの歯科医院で、むし歯・歯周病の治療や入れ歯の作製・修理などのほかに受けているものはありますか（○はあてはまるものすべて）。

1	定期健診（年1回以上）	36.0%	4	その他	1.3
2	歯石除去・歯面清掃	39.9	5	特になし	30.9
3	歯みがき指導	9.7	6	かかりつけの歯科医院を決めていない	12.1
				無回答	3.7

問20 あなたは、帰宅時に感染症予防として手洗いを実践していますか（○は1つだけ）。

1	毎日（毎回）行っている	79.6%	3	あまり行っていない	4.7
2	ときどき行っている	11.9	4	行っていない	1.7
				無回答	2.1

問21 あなたは、「ゲートキーパー（※）」という言葉を知っていますか（○は1つだけ）。

※「ゲートキーパー」とは、自殺のサインに気づき、適切な相談機関へつなぐ「いのちの門番」のことです。

1	内容まで知っている	3.6%
2	詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある	12.9
3	知らない（初めて聞いた）	81.0
	無回答	2.5

スポーツ・読書について、おうかがいします

問22 あなたは日常的に、どの程度運動・スポーツを行っていますか（○は1つだけ）。

※ ルールにもとづいて勝敗や記録を競うスポーツだけでなく、健康づくりのためのウォーキングや気分転換に行う軽い体操、自然に親しむハイキング、介護予防のためのトレーニングなど、目的をもった身体活動の全てを含みます。

1	30分以上の運動を週2回以上	23.3%	6	運動・スポーツはしていない	36.1
2	週2回以上（時間は問わない）	12.7	⇒ 次ページの問22-3へ お進みください		
3	週1回程度（時間は問わない）	12.1	無回答		
4	月1回～3回程度（時間は問わない）	7.1	3.1		
5	年に数回（時間は問わない）	5.6			

（問22で1～5のいずれかをお答えの方に）

問22-1 あなたが最近、継続的に行っている運動・スポーツは何ですか

（○はあてはまるものすべて）。回答者数835

1	野球・ソフトボール	2.0%	14	健康体操（エアロビクス・	
2	サッカー・フットサル	1.4		リズム体操・ストレッチなど）	20.2
3	バスケットボール	0.5	15	ラジオ体操	11.3
4	バレーボール	1.2	16	武道（柔道・剣道・空手など）	1.0
5	ビーチボールバレー	0.7	17	ダンス	2.6
6	テニス	2.0	18	水泳・水中運動（ウォーキングなど）	5.1
7	ファミリーテニス	0.2	19	登山・ハイキング	3.4
8	バドミントン	0.8	20	陸上競技	0.4
9	卓球	1.1	21	ウォーキング	49.5
10	ゴルフ	7.3	22	ジョギング・マラソン	8.7
11	ゲートボール・		23	サイクリング	6.8
	グラウンドゴルフ	0.2	24	太極拳、ヨーガ	3.7
12	ボウリング	1.3	25	パラスポーツ	0.2
13	筋力トレーニング	21.2		（パラリンピック種目に限らない）	
			26	その他	7.3
				無回答	0.7

▶（同様に、問22で1～5のいずれかをお答えの方に）

問22-2 あなたは、どこで運動・スポーツを行うことが最も多いですか（○は1つだけ）。

回答者数835

1	自宅	13.7%	4	職場及び職場周辺（区外）	4.4
2	自宅周辺	43.2	5	その他の場所（区内）	13.2
3	職場及び職場周辺（区内）	4.6	6	その他の場所（区外）	9.3
				無回答	11.6

(問22で「6 運動・スポーツはしていない」とお答えの方に)

問22-3 あなたは、どのようなきっかけがあれば、運動・スポーツを行いたいと思いますか

(○はあてはまるものすべて)。回答者数497

1	手頃な価格で施設を利用できる	29.8%
2	身近な場所で運動・スポーツができる	34.6
3	早朝や夜間にも施設が利用できる	11.1
4	一緒に運動・スポーツできる仲間と出会える	13.5
5	レベルを気にせず参加できる機会がある	18.9
6	運動・スポーツの楽しみ方・やり方を教えてもらえる	9.7
7	運動・スポーツできる場所や機会についての情報が得やすい	6.0
8	プロの試合や国際大会を観戦する機会がある	1.6
9	トップアスリートと交流する機会がある	1.2
10	託児サービスなど子どもの面倒を見てもらえる	4.2
11	その他	8.9
12	どのようなきっかけがあっても運動・スポーツを行う気はない	13.5
13	わからない	22.3
	無回答	3.8

ここから再び、すべての方におうかがいします

問23 次の活動のうち、過去1年間にあなたが関わった運動・スポーツを支える活動はありますか
(○はあてはまるものすべて)。

1	運動・スポーツの指導	3.6%
2	スポーツの審判	1.2
3	教室・大会・イベントの運営や世話	2.5
4	自身やあなたのお子さんが所属するクラブ・団体の運営や世話	2.4
5	大会やイベント会場での選手やチームの応援	4.2
6	クラブ・団体や大会・イベントへの寄附	0.7
7	スポーツの指導や審判などに関わる講習会・研修会への参加	0.7
8	パラスポーツ競技者のサポート（移動介助を含む）	0.4
9	その他	1.1
10	活動したかったが、する機会がなかった	6.8
11	活動しなかった	74.0
	無回答	7.3

次ページの間23-1へお進みください

(問23で「10 活動したかったが～」または「11 活動しなかった」とお答えの方に)

問23-1 あなたが運動・スポーツを支える活動をしなかった理由は何ですか

(○はあてはまるものすべて)。回答者数1,111

1	仲間や一緒に参加する人がいないから	18.9%
2	一人でも活動できる場がないから	10.3
3	子どもに手がかかるから	4.6
4	病気やけがをしているから	9.9
5	年をとったから	17.6
6	興味のある競技がないから	8.3
7	お金に余裕がないから	12.9
8	技術や資格がないとできないと思うから	5.4
9	運動・スポーツが嫌いだから	5.3
10	謝礼がもらえる活動が少ないから	0.7
11	面倒くさいから	15.9
12	運動・スポーツ以上に大切なことがあるから	6.0
13	その他	8.6
14	特に理由はない	31.3
	無回答	0.7

問24 あなたは、最近1か月間において、次のことをしたことはありますか。あなたの行動にあてはまるものを選んでください (○はあてはまるものすべて)。

※ ここでいう「本」「漫画」「雑誌」には、スマートフォンやパソコンなどで読む電子書籍も含まれます。いずれも最後まで読み切っていなくてもかまいません。

※ 「新聞」には、電子版、オンライン上の新聞記事を読むことも含まれます。

※ ただし、学校の課題図書、授業で読んだ本や教科書は含みません。

1	本を読む	44.6%	
2	漫画を読む	29.4	
3	雑誌を読む	32.1	
4	新聞を読む	39.6	
5	図書館に行く	13.5	
6	書店・古書店に行く	30.8	
7	本などの紹介動画や通販サイトをみる	16.4	
8	1～7のことをしたかったが、できなかった	1.6	⇒ 理由を問24-1でお答えください
9	1～7のことはいずれもしなかった	14.0	⇒ 理由を問24-1でお答えください
	無回答	2.8	

(問24で「8 1～7のことをしたかったが、できなかった」または「9 1～7のことはいずれもしなかった」とお答えの方に)

問24-1 あなたが「できなかった」または「しなかった」理由はなんですか

(○はあてはまるものすべて)。回答者数215

1 読書よりも時間をかけたいことや趣味があるから	19.5%
2 仕事・学校・家事・育児・介護など読書よりも時間をかけなければならないことがあるから	37.2
3 本などを読むことが嫌いだから	21.9
4 加齢など身体的な理由で読書が難しくなったから	19.5
5 どんな本を読めばいいかわからないから	8.4
6 その他	9.8
無回答	2.3

「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、すべての方におうかがいします

問25 あなたは、足立区が取り組んでいる「ビューティフル・ウィンドウズ運動（※）」という取り組みを知っていますか（○は1つだけ）。

※「ビューティフル・ウィンドウズ運動」とは、「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようという足立区独自の運動です。区は、警視庁や区民のみなさんと協働して、まちの美化活動や防犯パトロールなどの取り組みを推進し、犯罪のない住みよいまちの実現をめざしています。



イメージキャラクター「ビュー坊」

1 知っていて、活動を実践している	4.9%
2 知っているが、特に何も行っていない	18.4
3 名前は聞いたことはあるが、内容はわからない	17.7
4 知らない（初めて聞いた）	56.9
無回答	2.1

問26 あなたは、お住まいの地域の治安（※）について、どのように感じていますか

（○は1つだけ）。

※ 犯罪が少なく、世の中の秩序が保たれている状態のことです。

1 良 い	11.1%	3 どちらかといえば悪い	21.1	5 わからない	8.5
2 どちらかといえば良い	52.9	4 悪 い	3.1	無回答	3.3



問26-2へ

（問26で「1 良い」または「2 どちらかといえば良い」とお答えの方に）

問26-1 どのような点で治安が良いと感じますか（○は2つまで）。

回答者数880

1 防犯カメラが増えたことで、安心感があるから	33.0%
2 テレビや新聞などで、お住まいの地域における犯罪発生のニュースが少ないから	24.7
3 犯罪の発生件数が減っているということを聞いたから	9.2
4 自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから	55.1
5 安全・安心パトロールカー（青パト車）など自主防犯パトロールの活動が活発で、安心感があるから	22.2
6 道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくくなったと感じられるから	22.4
7 防犯に取り組む意識が高まり、活動が活発になってきていると感じられるから	3.1
8 その他	1.1
無回答	0.8

（問26で「3 どちらかといえば悪い」または「4 悪い」とお答えの方に）

問26-2 どのような点で治安が悪いと感じますか（○は2つまで）。

回答者数333

1 治安が悪いイメージがあるから	26.4%
2 殺人、強盗、放火などの凶悪犯罪の発生が多いから	7.2
3 街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから	13.2
4 自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから	38.1
5 歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから	33.0
6 区内主要駅周辺での客引き行為等を見かけることが多いから	2.7
7 深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから	12.3
8 隣近所の連帯感がなくなり、相互に安全を守る意識が欠けているから	9.3
9 自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから	19.8
10 子どもに対する「不審な声かけ事案など」の発生が多いと聞いたことがあるから	7.5
11 その他	12.6
無回答	2.1

ここから再び、すべての方におうかがいします

問27 あなたが、治安対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか
(〇は2つまで)。

1	犯罪の発生や検挙情報など生活安全に関する情報の提供	23.1%
2	街路灯など安全に配慮した道路、公園の整備	47.3
3	防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援	52.1
4	安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール	31.0
5	防犯講習会の開催	1.2
6	地域住民による防犯パトロール活動への支援（防犯用品の貸与など）	6.0
7	街頭キャンペーンやイベントの実施	2.8
8	その他	4.0
9	特にない	4.9
	無回答	2.5

環境・地域活動について、おうかがいします

問28 あなたが、環境のために心がけていることは何ですか（〇はあてはまるものすべて）。

1	ごみと資源の分別を実行している	85.2%
2	節電や節水など省エネルギーを心がけている	50.6
3	くり返し使えるものは使うなど、ごみになるものを減らすよう心がけている	40.1
4	マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている	77.8
5	環境に配慮した製品を選んで使っている	10.8
6	家庭で使用しなくなった衣類や家具などについて、リサイクルショップなどで売り買いしたことがある	27.2
7	雑紙（※）を燃やすごみではなく、資源として出している	55.1
8	自然環境を大切にすることを心がけている	27.1
9	外食時に食べられる分だけ注文する	54.0
10	買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする	40.0
11	買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している	39.4
12	買い物の際、棚の手前に陳列された食品から取る	17.1
13	家庭で出た生ごみの水切りを実践することを心がけている (生ごみ処理機の使用を含む)	36.1
14	その他	0.9
15	特にない	1.9
	無回答	1.5

※ 雑紙（ざつがみ）…家庭から排出される古紙のうち、新聞、雑誌、段ボール、紙パックのいずれの区分にも入らないもの（パンフレット、コピー用紙、お菓子の包装紙など）

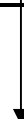
問29 あなたは、日頃から環境への影響を考えて具体的に行動（※）していますか
（○は1つだけ）。

※ 問28（1から13）で示された内容のことです。

1 行動している	28.9%
2 行動することが時々ある	44.1
3 環境への影響を考えるが、行動していない	18.1
4 環境への影響を考えたことはないし、行動もしていない	3.1
無回答	5.7

問30 町会・自治会の加入や活動についてお答えください（○はそれぞれ1つずつ）。

	はい	いいえ	無回答
ア あなたは、自分の住所地に該当する町会・自治会を知っていますか。	68.6%	27.6	3.8
イ あなたは、町会・自治会に加入していますか。	52.3	44.9	2.8
ウ あなたは、町会・自治会の活動を知っていますか。	52.5	40.0	7.5
エ あなたは、町会・自治会の活動に参加したことがありますか。	39.3	53.5	7.3



（問30の「イ あなたは、町会・自治会に加入していますか。」で「2 いいえ」とお答えの方に）

問30-1 あなたが、町会・自治会に加入しない最も大きな理由は何ですか

（○は1つだけ）。回答者数617

1 加入の方法がわからないから	11.0%
2 誘われないから	11.5
3 多忙により、手続きの時間がとれないから	9.6
4 加入する必要性を感じないから	34.0
5 会費が高いから	0.6
6 人間関係がわずらわしいから	10.4
7 役員をやりたくないから	5.8
8 短期間の居住だから	2.8
9 その他	12.2
無回答	2.1

第4章 使用した調査票

問31 あなたがこの1年間に参加された活動と、引き続き、または今後あなたが参加したいと思う活動はどれですか（○はいずれも、あてはまるものすべて）。

内 容	この1年間に 参加された活動	引き続き、または 今後参加したい と思う活動
1 自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み	18.5%	20.9
2 区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞 または伝統芸能に親しむ機会 （映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）	20.3	28.7
3 区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など	10.9	15.7
4 特に参加していない・特にない	49.6	35.1
無回答	15.6	21.6

問32 あなたは、お住いの地域のごみと資源の収集日を知っていますか（○は1つだけ）。

1 知っている	81.6%	3 知らない	4.4
2 なんとなく知っている	11.9	無回答	2.1

「孤立ゼロプロジェクト」などについて、おうかがいします

問33 あなたは、足立区の「孤立ゼロプロジェクト（※）」という取り組みを知っていますか（○は1つだけ）。

※「孤立ゼロプロジェクト」とは、地域における見守り活動を支援するとともに、日常的な寄り添い支援活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動をいいます。

1	知っていて、内容も概ね理解している	10.0%	3	知らない（初めて聞いた）	64.1
2	聞いたことはあるが、内容はわからない	23.2		無回答	2.8

問34 現在、区内には、高齢者の介護や生活上の相談等を受ける地域包括支援センターがあります。あなたは、地域包括支援センター（ホウカツ）の業務内容を知っていますか（○はあてはまるものすべて）。

1	高齢者の健康や介護の相談	46.5%
2	介護予防教室や地域の居場所等の紹介	23.4
3	介護保険サービスの相談	33.1
4	もの忘れが心配な高齢者の方の相談	16.5
5	認知症の方の見守り支援	18.5
6	高齢者虐待の対応	9.5
7	成年後見制度の紹介	9.3
8	高齢者による地域貢献やボランティア活動の紹介	11.6
9	老後の準備、老い支度の相談	9.9
10	高齢者宅への訪問調査	27.1
11	高齢者を主とした地域活動の支援	14.3
12	絆のあんしん協力員による定期的な高齢者への声かけ、見守り	11.7
13	地域包括支援センター（ホウカツ）は知っているが、業務内容は知らない	17.3
14	地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない	27.6
	無回答	3.8

問35 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動に協力してみたいですか（○は1つだけ）。

1	積極的に協力したい	2.2%
2	負担にならない範囲で協力してもよい	23.1
3	協力したいが、時間などに余裕がない	30.0
4	興味がない、協力したくない	10.9
5	わからない	29.4
	無回答	4.4

第4章 使用した調査票

問36 あなたは、高齢期におこりやすい、筋力や心身の機能などが低下し、衰弱した状態「フレイル」にならないためには、「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」が大切なことを知っていますか（〇は1つだけ）。

1 知っていて、活動を実践している	19.9%	3 知らない（初めて聞いた）	39.8
2 知っているが、特に何もしていない	38.0	無回答	2.3

問37 あなたは、たんぱく質を多く含む食品（肉・魚・卵・大豆製品の1種類以上）をどれくらいの頻度で食べていますか（〇は1つだけ）。

※「フレイル」になる要因の一つとして、たんぱく質の不足があげられます。

1 毎食（1日3回）食べている	21.1%	4 週に数回食べている	9.8
2 1日2回位食べている	32.3	5 ほとんど食べない	0.9
3 1日1回位食べている	33.8	無回答	2.1

問38 あなたは、仕事と仕事以外の生活の調和が取れていると思いますか（〇は1つだけ）。

1 取れている	39.6%	3 わからない	16.1
2 取れていない	14.5	4 仕事をしていない	26.7
		無回答	3.1

問39 あなたは、「福祉まるごと相談課」という区の相談窓口を知っていますか（〇は1つだけ）。

1 知っている（聞いたことがある）	10.7%
2 知らない（初めて聞いた）	87.0
無回答	2.3

問40 あなたは、下記のア、イについて知っていますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

	内容まで 知っている	聞いたこと はあるが、 内容はわか らない	知らない	無回答
ア 身体的暴力以外のDV（精神的・経済的・社会的・性的）について	53.1%	32.4	11.0	3.6
イ「LGBT」という言葉について	51.8	22.5	22.3	3.4

「SDGs」・「^{きょうどう}協働・^{きょうそう}協創」について、おうかがいします

問41 あなたは、SDGsについて知っていますか（○は1つだけ）。

※ 持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

1 内容まで知っている	35.4%
2 詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある	45.0
3 知らない（初めて聞いた）	17.2
無回答	2.3

問42 あなたは、区役所・区民・団体（企業）の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）が進んでいると感じていますか（例 ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など）（○は1つだけ）。

1 そう思う	5.6%	4 そう思わない	5.5
2 どちらかといえばそう思う	31.9	5 わからない	38.5
3 どちらかといえばそう思わない	16.0	無回答	2.4

問43 あなたは、家族以外の人や地域と関わる自主的な取り組み・活動を行ってみたいと思いますか（○は1つだけ）。

例：マルシェへの出店、子ども向け体験イベント、特技を生かした工作・体操・キャリアの指導など

1 思う、または実施している	7.0%
2 誰かの活動の協力はしたいと思う、または協力している	34.0
3 思わない	55.0
無回答	4.1

足立区の取り組みについて、おうかがいします

問44 あなたの足立区に対する気持ちとして、以下の項目にそれぞれどの程度あてはまりますか
(○はそれぞれ1つずつ)。

	そう思う	どちらか といえ ばそう 思う	どちらか といえ ばそう 思わ ない	そう思 わな い	わか らな い	無回 答
ア 足立区に愛着をもっている	26.2%	46.0	9.7	4.1	9.3	4.6
イ 足立区に誇りをもっている	12.0	32.7	23.1	11.0	16.1	5.1
ウ 足立区を人に勧めたい	11.9	35.1	20.5	9.2	17.4	5.9
エ 足立区を良いまちにするために 何かしたい	11.0	41.2	15.2	5.7	19.3	7.6
オ 足立区を良いまちにするための 活動をしている人に共感する	27.3	48.9	5.5	1.7	10.1	6.5

問44-1 問44の項目のア、イ、ウのいずれかで、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた理由をお書きください。

(ア 愛着)
(イ 誇り)
(ウ 勧めたい)

問44-2 問44の項目のア、イ、ウのいずれかで、「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」と答えた理由をお書きください。

(ア 愛着)
(イ 誇り)
(ウ 勧めたい)

問45 あなたはこの1年間に足立区を良いまちにするために行動をしましたか

(○は1つだけ)。

※ 町会・自治会活動、ボランティア活動、防犯活動、地域イベントの手伝いのほか、家の前の清掃をしている、道案内など困っている人を助けた、足立区内の魅力的な情報を伝えた（発信した）などの個人的な行動も含まれます。

1 行動した	11.6%	4 行動しなかった	40.1
2 どちらかといえば行動した	19.6	5 わからない	7.1
3 どちらかといえば行動していない	18.4	無回答	3.2

問46 次の足立区の取り組みのうち、あなたが満足、やや満足と感じている分野を選んでください
(○はあてはまるものすべて)。

1 広報やホームページなどによる区政情報の提供	43.1%
2 職員の接客態度	21.7
3 I C T（情報技術）を活用した区民サービスの向上	4.7
4 防災対策	17.9
5 ビューティフル・ウィンドウズ運動や防犯パトロールなど治安対策	16.9
6 町会・自治会など地域活動支援	15.8
7 男女が平等に社会参加できるしくみづくりの推進	3.5
8 N P Oやボランティアの育成や支援	2.8
9 高齢者の生活や介護などの支援	21.1
10 障がい者の生活や介護などの支援	9.8
11 低所得者の生活援助や就労支援	10.0
12 健康づくりやがん検診など保健衛生対策	27.7
13 保育サービスや子育て相談の充実など子育て支援	14.9
14 教育内容の充実など学校教育対策	6.1
15 文化・芸術・図書館・スポーツ活動支援など生涯学習振興	13.7
16 省エネルギーやリサイクルなど資源環境対策	10.1
17 商工業や起業支援など産業振興	3.6
18 公園や緑地などの整備	35.6
19 美しい街並みや景観づくりなど都市開発	16.5
20 空き家利活用、公共住宅の再生など住環境対策	5.0
21 道路や交通網の整備、交通安全対策	17.6
22 特にない	16.1
無回答	4.2

第4章 使用した調査票

問47 次の足立区の取り組みのうち、あなたが不満、やや不満と感じている分野を選んでください（○はあてはまるものすべて）。

1	広報やホームページなどによる区政情報の提供	4.7%
2	職員の接客態度	5.8
3	I C T（情報技術）を活用した区民サービスの向上	3.9
4	防災対策	9.0
5	ビューティフル・ウィンドウズ運動や防犯パトロールなど治安対策	4.9
6	町会・自治会など地域活動支援	4.1
7	男女が平等に社会参加できるしくみづくりの推進	2.3
8	N P Oやボランティアの育成や支援	2.7
9	高齢者の生活や介護などの支援	9.1
10	障がい者の生活や介護などの支援	4.7
11	低所得者の生活援助や就労支援	8.9
12	健康づくりやがん検診など保健衛生対策	3.0
13	保育サービスや子育て相談の充実など子育て支援	4.1
14	教育内容の充実など学校教育対策	5.5
15	文化・芸術・図書館・スポーツ活動支援など生涯学習振興	7.2
16	省エネルギーやリサイクルなど資源環境対策	2.9
17	商工業や起業支援など産業振興	3.5
18	公園や緑地などの整備	10.5
19	美しい街並みや景観づくりなど都市開発	12.2
20	空き家利活用、公共住宅の再生など住環境対策	11.7
21	道路や交通網の整備、交通安全対策	21.1
22	特にない	38.6
	無回答	8.3

問48 あなたは足立区の区政全体について、満足に感じていますか（○は1つだけ）。

1	満足	14.5%	3	やや不満	13.0
2	やや満足	65.7	4	不満	2.5
				無回答	4.2

問49 次の足立区の取り組みのうち、あなたが今後特に力を入れてほしい分野を選んでください
(○はあてはまるものすべて)。

1	広報やホームページなどによる区政情報の提供	14.0%
2	職員の接客態度	6.4
3	I C T（情報技術）を活用した区民サービスの向上	9.6
4	防災対策	33.2
5	ビューティフル・ウィンドウズ運動や防犯パトロールなど治安対策	17.5
6	町会・自治会など地域活動支援	8.2
7	男女が平等に社会参加できるしくみづくりの推進	4.3
8	N P Oやボランティアの育成や支援	3.9
9	高齢者の生活や介護などの支援	31.3
10	障がい者の生活や介護などの支援	16.4
11	低所得者の生活援助や就労支援	18.2
12	健康づくりやがん検診など保健衛生対策	17.0
13	保育サービスや子育て相談の充実など子育て支援	17.1
14	教育内容の充実など学校教育対策	15.7
15	文化・芸術・図書館・スポーツ活動支援など生涯学習振興	17.2
16	省エネルギーやリサイクルなど資源環境対策	9.3
17	商工業や起業支援など産業振興	8.9
18	公園や緑地などの整備	24.5
19	美しい街並みや景観づくりなど都市開発	28.2
20	空き家利活用、公共住宅の再生など住環境対策	21.5
21	道路や交通網の整備、交通安全対策	36.8
22	特にない	8.9
	無回答	4.8

問50 あなたは、区政に区民の意見が反映されていると感じていますか（○は1つだけ）。

1	そう思う	3.3%	4	そう思わない	6.0
2	どちらかといえばそう思う	32.5	5	わからない	39.1
3	どちらかといえばそう思わない	15.4		無回答	3.7

問51 区政についてのご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

第4章 使用した調査票

問52 多数の質問にお答えいただき、ありがとうございました。最後におうかがいします。今回の質問内容は、区民のニーズや意識を把握するうえで有効な内容だと思いますか
(○は1つだけ)。

1	そう思う	28.1%	4	そう思わない	2.5
2	どちらかといえばそう思う	46.9	5	わからない	11.6
3	どちらかといえばそう思わない	7.7		無回答	3.1

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
ご記入がお済みになりましたら、まことにお手数ですが、
返信用封筒に入れて **9月5日(金)** までにご投函ください。



本調査にご協力いただいた方には、抽選でのプレゼントをご用意しておりますので、最終ページの【謝礼（抽選）のご案内】をご覧ください。

第54回 足立区政に関する世論調査

2026年3月発行

発 行 足立区

編 集 足立区 政策経営部 区政情報課
東京都足立区中央本町1-17-1
電話 03-3880-5111（代表）

実 施 （株）サーベイリサーチセンター
東京都文京区後楽1-1-3
電話 03-5990-9011（代表）



世論調査報告書の《概要版》、本編、《集計表》は足立区ホームページでもご覧いただけます。

ホームページアドレス<https://www.city.adachi.tokyo.jp> 足立区 政策経営部 区政情報課

知ると分かる。すると変わる。



SDGs MODEL ADACHI

